

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0001	周易二巻	後藤芝山定本	2			天保10刊	1839	和紙袋綴刊本 55・33丁 25.1×18.0	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する尚、宋代には易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	句送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H29-01
明倫・0002	周易		1					和紙袋綴刊本 92丁 25.1×17.5	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する尚、宋代には易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	白 柱に松梅軒蔵 「明倫堂蔵書印」あり。	H29-01
明倫・0003	周易二四巻	程朱伝義 (京・今村八兵衛)	12			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 26.0×19.0	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する尚、宋代には易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	句送返 丁数(枝番順)43・46・44・43・44・44・51・47・47・54・62・40	H29-01
明倫・0004	易经		2					和紙袋綴刊本 92・87丁 25.0×18.0	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、古くは周王朝の易で周易と称し、宋代に易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	送返 表紙見返し「ミノエ 武藤氏」の墨書あり。	H29-01
明倫・0005	周易一〇巻	魏王弼註 (京・丸屋市兵衛等)	5			宝暦9刊	1759	和紙袋綴刊本 34・33・32・28・25丁 26.7×18.5	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する尚、宋代には易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	句送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H29-01
明倫・0006	周易	雲川弘毅改訂	2					和紙袋綴刊本 41・50丁 26.4×19.0	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する尚、宋代には易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	送返 「城氏」「榕武藤蔵書記」の印あり。 2～表紙見返し「武藤氏」の墨書あり。 1～城氏 2～武藤氏	H29-01
明倫・0007	周易		5					和紙袋綴刊本 68・62・67・86・112丁 25.0×15.8	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する尚、宋代には易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	白 「牧斉蔵書」印あり。	H29-01
明倫・0008	周易		1					和紙袋綴刊本 92丁 25.5×18.2	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する尚、宋代には易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	送返 「河辺」印あり。	H29-01
明倫・0009	周易経伝		1					和紙袋綴刊本 70丁 25.3×17.5	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する尚、宋代には易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	送返 「泥谷蔵書」印あり。	H29-01
明倫・0010	周易	雲川弘毅改訂	1					和紙袋綴刊本 40丁 25.5×18.3	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する尚、宋代には易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	送返	H29-01
明倫・0011	周易下経	大塚静写	1			文化14写	1817	和紙袋綴写本 57丁 25×16.5	江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親周)の書写本。周易とは儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、[経]は上経(30卦)、下経(34卦)で構成される//易经(新釈漢文大系)	(表紙改装)原装の外題「易本義/村学資講 下経」内題「周易下経」 巻頭に「文化十一年甲戌孟秋 大塚氏」とある 巻末「自文化十四年乙丑二月■易■■■斎至文政三年庚辰九月終上下経/大塚静 子儉記」 蔵書印「大塚」	H29-01
明倫・0012	周易集註二四巻首一卷	宋朱熹編 (京・今村八兵衛)	13			享保9刊	1759	和紙袋綴刊本 41・43・46・44・43・44・44・51・47・47・54・62・40丁 26.3×18.9	周易とは儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書//	句送返 「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-01
明倫・0013	周易附録纂註	胡一桂纂註	3					和紙袋綴刊本 66・69・55丁 28.0×17.0	周易とは儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書//	白	H29-01
明倫・0014	(御纂)周易折中二二巻首一卷		17					和紙袋綴刊本 25.2×17.2 74丁	周易とは儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書//	句 23年度電子化0014-14(巻16～18)のみ解体後に修復(0014-14 表紙直書「周易折中欽定易経十六十七十八」巻首題「御纂周易折中」蔵書印朱印「明倫堂蔵書印」刊本だが、6丁は書写したもので補われている「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-01
明倫・0015	周易叢訓四巻	小筱敬撰 男 紀晴 (京・堺屋嘉七等)	3			文化6刊	1809	和紙袋綴刊本 69・77・64丁 25.6×18.0	周易を解釈したもの 4巻 小筱敬撰//大辭典(平凡社)	句返 巻三欠 「田邨氏蔵書印」あり。	H29-01
明倫・0016	周易本義	宋朱熹	1					和紙袋綴刊本 50丁 26.5×18.5	易经の注釈書 12巻(経2巻/10翼10巻) 中国、南宋代の思想家朱子(諱は朱熹)(1130～1200)の著作 漢以前の易の姿を再現。易の経文を重んじ、易が卜筮の書であることを強調している/国史大辞典/大辭典(平凡社)	送返 「財津蔵書」印あり。	H29-01
明倫・0017	周易本義	宋朱熹	1					和紙袋綴刊本 50丁 26.2×18.5	易经の注釈書 12巻(経2巻/10翼10巻) 中国、南宋代の思想家朱子(諱は朱熹)(1130～1200)の著作 漢以前の易の姿を再現。易の経文を重んじ、易が卜筮の書であることを強調している/国史大辞典/大辭典(平凡社)	送返 「生埜氏蔵書記」印あり	H29-01
明倫・0018	周易本義	宋朱熹 山崎嘉点 (東都・須原慶茂兵衛)	5					和紙袋綴刊本 31・47・50・63・58丁 26.5×18.7	山崎間斎点。易经の注釈書 12巻(経2巻/10翼10巻) 中国、南宋代の思想家朱子(諱は朱熹)(1130～1200)の著作 漢以前の易の姿を再現。易の経文を重んじ、易が卜筮の書であることを強調している/国史大辞典/大辭典(平凡社)	送返 「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-01
明倫・0019	周易本義	宋朱熹 山崎嘉点 (京・壽文堂)	2			延宝3刊	1675	和紙袋綴刊本 93・115丁 25.7×18.4	山崎間斎点。易经の注釈書 12巻(経2巻/10翼10巻) 中国、南宋代の思想家朱子(諱は朱熹)(1130～1200)の著作 漢以前の易の姿を再現。易の経文を重んじ、易が卜筮の書であることを強調している/国史大辞典/大辭典(平凡社)	送返	H29-01
明倫・0020	周易本義通釈一〇巻	雲峰胡 炳文 成徳校訂	7					和紙袋綴刊本 62・73・70・56・64・60・55丁 26.4×18.0	周易本義は易经の注釈書 朱子(諱は朱熹)(1130～1200)の著作 //大辭典(平凡社)	白 「財津蔵書」印あり。	H29-01
明倫・0021	周易兼義	魏王弼・晋韓康伯註 唐孔頴達等正義	1					和紙袋綴刊本 60丁 23.7×15.5	周易とは儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書//	白 巻二(明倫22をみよ) 蔵書印「高鍋図書館蔵書」 * 27年3月慶応高橋教授調査	H29-01
明倫・0022	周易兼義九巻	魏王弼・晋韓康伯註 韓孔頴達等正義	4					和紙袋綴刊本 65・102・102・66丁 24.0×15.5	周易とは儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書//	白 全九巻のうち四が欠(明倫21が*巻二) 枝番の順に巻一・七・九・五・六・三 蔵書印「高鍋図書館蔵書」 * 明崇禎四年刊(古虞處・毛氏汲古閣)後修 * 27年3月慶応高橋教授調査	H29-01
明倫・0023	周易兼義	魏王弼・晋韓康伯注 唐孔頴達等正義	1					和紙袋綴刊本 57丁 24.6×15.5	周易とは儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書//	白 巻八・九	H29-01
明倫・0024	(倭板)周易	宋朱熹本義 (京・壽文堂)	1			延宝3刊	1675	和紙袋綴刊本 115丁 28.0×19.0	周易とは儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書//	送返 「大塚」印あり。	H29-01
明倫・0025	易经		1					和紙袋綴刊本 56丁 26.0×18.5	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、古くは周王朝の易で周易と称し、宋代に易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	句送返 表紙見返し「高鍋藩 水筑氏」、裏表紙見返し「高鍋藩士 佐 水筑氏」の墨書あり。	H29-01
明倫・0026	易经	後藤芝山定本 男師同、孫師部校 (大塚屋五郎兵衛等)	1			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 33丁 26.0×19.0	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、古くは周王朝の易で周易と称し、宋代に易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	句送返 裏表紙見返し「高鍋藩 水筑氏」の墨書あり。	H29-01
明倫・0027	易经	山崎嘉点	1					和紙袋綴刊本 50丁 26.0×19.0	山崎間斎点。儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書、古くは周王朝の易で周易と称し、宋代に易経とよばれた/国史大辞典/易经(新釈漢文大系)	送返	H29-01
明倫・0028	易经発蒙(朱熹本義)	宋朱熹 ■二峰編輯 (釈思堂)	10					和紙袋綴刊本 65・60・49・65・48・59・57・52・69・65丁 25.0×16.0	*周易本義は易经の注釈書で朱子(諱は朱熹)(1130～1200)の著作//	句	H29-01
明倫・0029	易经蒙引	明蔡清著 敦艮重訂	1					和紙袋綴刊本 129丁 26.6×17.7	周易とは儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書//	句送返(朱点加) 表紙見返し「大塚」の墨書あり。	H29-01
明倫・0030	易经本義一二巻	宋朱熹	6					和紙袋綴刊本 26・24・47・50・31・41丁 27.7×19.4	(*周易本義は)易经の注釈書 12巻(経2巻/10翼10巻) 中国、南宋代の思想家朱子(諱は朱熹)(1130～1200)の著作 漢以前の易の姿を再現。易の経文を重んじ、易が卜筮の書であることを強調している//	送返 「橋河辺蔵書印」「河辺」印あり。	H29-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫-0031	易経本義	宋朱熹 山崎嘉点	9					和紙袋綴刊本 56・63・74・31・51・41・28・26・38丁 27.3×19.0	山崎間斎点。(※周易本義は)易経の注釈書 12巻(経2巻/10翼10巻) 中国、南宋代の思想家朱子(諱は朱熹)(1130～1200)の著作。漢以前の易の姿を再現。易の経文を重んじ、易が卜筮の書であることを強調している。//	送返 1～4「生楚氏蔵書記」印あり。 4～裏表紙見返し「明倫堂蔵書記」印あり。 5・6・7・8・9～「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-01
明倫-0032	易経大全二四巻	周会魁校正(京・吉田四良右衛門)	16					和紙袋綴刊本 62.75×19.5	中国成祖の永楽年間(1403～24)につくられた易経の書「易経程伝」「易経本義」が元となる、科挙の試験にも用いられた//易経(新釈漢文大系)	句返送 66・61・71・91・90・91・94・89・111・105・95・108・108・110・67・68丁 「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-01
明倫-0033	易経本義筆記		1					和紙袋綴 111丁 24.2×16.8	宇井繁斎 著 成立 寛政元～7年(1849～1855)/国書総目録/	句(朱点加) 「大塚」印あり。	H29-01
明倫-0034	易学啓蒙	宋朱熹 山崎嘉点 (村上平楽寺)	3			延宝5刊	1677	和紙袋綴刊本 40・40・56丁 26.1×18.6	宋の朱熹撰。易の本義を明らかにして初学を啓蒙するために著した。主に邵雍の先天圖に基礎を置く(首書易学啓蒙・頭註易学啓蒙)四巻四冊 延宝2年(1734)刊/国書総目録/大辭典(平凡社)	送返 1～「小田氏蔵書」印あり。 2・3～「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-01
明倫-0035	易学啓蒙四巻	宋朱熹 (大・大坂書林)	2			宝暦2刊	1752	和紙袋綴刊本 54・65丁 26.5×19.5	宋の朱熹撰。易の本義を明らかにして初学を啓蒙するために著した。主に邵雍の先天圖に基礎を置く(首書易学啓蒙・頭註易学啓蒙)四巻四冊 延宝2年(1734)刊/国書総目録/大辭典(平凡社)	送返 「城氏」印あり。 裏表紙見返し「文政九丙戌天九月下旬買下之 慎独舎 城里明」の墨書あり。	H29-01
明倫-0036	易学啓蒙四巻	宋朱熹 (村上平楽寺)	2			延宝5刊	1677	和紙袋綴刊本 40・55丁 26.0×18.5	宋の朱熹撰。易の本義を明らかにして初学を啓蒙するために著した。主に邵雍の先天圖に基礎を置く(首書易学啓蒙・頭註易学啓蒙)四巻四冊 延宝2年(1734)刊/国書総目録/大辭典(平凡社)	送返 「橋河辺蔵書印」「河辺」印あり。	H29-01
明倫-0037	易学啓蒙(写)		1					和紙袋綴 67丁 26.2×18.8	宋の朱熹撰。易の本義を明らかにして初学を啓蒙するために著した。主に邵雍の先天圖に基礎を置く(首書易学啓蒙・頭註易学啓蒙)四巻四冊 延宝2年(1734)刊/国書総目録/大辭典(平凡社)	はさんである小綴の表紙に「湯 島田大塚氏」の墨書あり。	H29-01
明倫-0038	易学啓蒙諺解大成	榊原望洲(玄輔)著	1					和紙袋綴刊本 59丁 26.2×19.3	紀州候の儒官、榊原望洲(玄輔)の著。朱子の易学啓蒙を国語で平易に解釈したもの、天明4年刊。7巻 /国書解題/大辭典(平凡社)	「大塚」の印あり。「大塚氏」の墨書あり。	H29-01
明倫-0039	易学啓蒙再攷筆記		1					和紙袋綴 140丁 24.5×16.7	朱子の易学啓蒙の解釈をあつめたもの、3巻、編者不詳(江戸中期京版朱子学派ら編とされる)//大辭典(平凡社)	白 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-01
明倫-0040	易学啓蒙諺解大成	榊原望洲著	1					和紙袋綴刊本 52丁 26.2×19.0	紀州候の儒官、榊原望洲(玄輔)の著。朱子の易学啓蒙を国語で平易に解釈したもの、天明4年刊。7巻 /国書解題/大辭典(平凡社)	「大塚」の印あり。裏表紙見返し「水嶋田 大塚家蔵」の墨書あり。	H29-01
明倫-0041	易文言伝		1			享保12写	1727	和紙袋綴 107丁 23.7×16.3		白(一部送・返)	H29-01
明倫-0042	上繫辞伝		1			寛政12写	1800	和紙袋綴 25丁 24.5×17.1	繫辞とは易の卦の象を説明すること、易経の「経」は上経(30卦)・下経(35卦)で構成される//大辭典(平凡社)	句 「大塚」の印あり。	H29-01
明倫-0043	上繫辞伝統筆記		1			享保12写	1727	和紙袋綴 90丁 23.7×15.8	繫辞とは易の卦の象を説明すること、易経の「経」は上経(30卦)・下経(35卦)で構成される//大辭典(平凡社)	句	H29-01
明倫-0044	易上経(写)		1					和紙袋綴 86丁 24.0×16.0	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書。「経」は上経(30卦)・下経(34卦)で構成される//	句	H29-01
明倫-0045	易下経(写)		1					和紙袋綴 85丁 23.7×16.0	儒教の基本的文献五経の一つ、本来占筮の書。「経」は上経(30卦)・下経(34卦)で構成される//	送返	H29-01
明倫-0046	易上下象伝統筆記		1			享保18写	1733	和紙袋綴 114丁 23.6×16.0	象(たん)伝は易の卦を説明する十翼の一つ、易経の「経」は上経(30卦)・下経(34卦)で構成されることから、象伝も上・下からなる//易経(新釈漢文大系)	句返送	H29-01
明倫-0047	上象伝(写)		1					和紙袋綴 54丁 23.7×16.2	象(たん)伝は易の卦を説明する十翼の一つ、易経の「経」は上経(30卦)・下経(34卦)で構成されることから、象伝も上・下からなる//易経(新釈漢文大系)	句	H29-01
明倫-0048	上繫辞伝	宋朱熹 山崎嘉点	1					和紙袋綴刊本 54丁 26.4×18.6	山崎間斎点。繫辞とは易の卦を説明する十翼の一つ 易経の「経」は上経(30卦)・下経(34卦)で構成されることから、繫辞も上・下からなる//大辭典(平凡社)	送返 「財津蔵書」の印あり。	H29-01
明倫-0049	上繫辞伝	宋朱熹本義	1					和紙袋綴刊本 36丁 27.6×19.6	繫辞とは易の卦の象を説明すること、易経の「経」は上経(30卦)・下経(35卦)で構成される//大辭典(平凡社)	送返 「河辺」印あり。	H29-01
明倫-0050	繫辞上伝	栗斎	1			寛政4写	1792	和紙袋綴 61丁 24.0×17.0	繫辞とは易の卦の象を説明すること、易経の「経」は上経(30卦)・下経(36卦)で構成される//大辭典(平凡社)	「大塚」印あり。	H29-01
明倫-0051	尚書		1					和紙袋綴刊本 39丁 25.3×18.2	尚書とは尚(とうと)ぶべき書の意から書経(しょきょう)の異称。漢以降、宋代まで用いられた呼称。//大辭典(平凡社)	白 柱に松梅軒蔵蔵書印あり。	H29-02
明倫-0052	尚書		1					和紙袋綴刊本 87丁 25.0×17.3	尚書とは尚(とうと)ぶべき書の意から書経(しょきょう)の異称。漢以降、宋代まで用いられた呼称。//大辭典(平凡社)	句返送 「明倫堂蔵書印」あり。	H29-02
明倫-0053	尚書一三巻	孔氏伝 (京・田中市兵衛等)	5			天明3刊	1783	和紙袋綴刊本 36・32・46・30・34丁 26.0×18.0	尚書とは尚(とうと)ぶべき書の意から書経(しょきょう)の異称。漢以降、宋代まで用いられた呼称。//大辭典(平凡社)	句返送	H29-02
明倫-0054	尚書	孔氏伝	3		0			和紙袋綴刊本 40・70・57丁 26.5×17.9	尚書とは尚(とうと)ぶべき書の意から書経(しょきょう)の異称。漢以降、宋代まで用いられた呼称。//大辭典(平凡社)	句返送 「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-02
明倫-0056	尚書二巻	後藤芝山定本	2			天保10刊	1839	和紙袋綴刊本 39・58丁 25.5×18.0	尚書とは尚(とうと)ぶべき書の意から書経(しょきょう)の異称。漢以降、宋代まで用いられた呼称。//大辭典(平凡社)	句返送 「田邨氏蔵書印」あり。	H29-02
明倫-0057	尚書後案三〇巻	東吳王鳴盛学	10					和紙袋綴刊本 89・63・65・60・60・46・64・53・88・59丁 28.0×18.0	尚書は書経の異称//大辭典(平凡社)	白 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-02
明倫-0058	尚書註疏	漢孔安国伝 唐孔穎達等疏	2					和紙袋綴刊本 73・81丁 24.0×15.6	書経の注釈書(尚書は書経の異称) 唐の陸徳明が音義をくわえている/日本古典文学大辭典/大辭典(平凡社)	白	H29-02
明倫-0059	尚書註疏二〇巻	漢孔氏註 唐孔穎達疏	6					和紙袋綴刊本 54・76・75・85・82・72丁 24.0×15.5	書経の注釈書(尚書は書経の異称) 唐の陸徳明が音義をくわえている/日本古典文学大辭典/大辭典(平凡社)	白 巻5～10、13、14欠	H29-02
明倫-0060	尚書註疏二〇巻	漢孔氏伝 唐孔穎達疏	1					和紙袋綴刊本 55丁 24.0×15.5	書経の注釈書(尚書は書経の異称) 唐の陸徳明が音義をくわえている/日本古典文学大辭典/大辭典(平凡社)	白 巻9・10のみ在 柱に漢古閣とある	H29-02
明倫-0061	尚書大伝	鄭玄注	1					和紙袋綴刊本 49丁 21.0×14.7	尚書は書経の異称//大辭典(平凡社)	白	H29-02
明倫-0062	尚書後辨附	東吳王鳴盛学	2					和紙袋綴刊本 59・67丁 28.0×18.5	尚書は書経の異称//大辭典(平凡社)	白 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-02
明倫-0063	尚書通考一〇巻	元黄鎮成 元鎮父編輯	5					和紙袋綴刊本 55・78・86・70・65丁 26.3×17.2	尚書は書経の異称//大辭典(平凡社)	句返送 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-02
明倫-0064	書伝輯録纂注六巻首一巻	元董鼎撰	2			文化11刊	1814	和紙袋綴刊本 53・48丁 26.9×18.6	書集伝輯録纂注の「輯録」部分は、蔡沈の書集注に朱熹の語録を付しており、「纂注」部分は、諸家の学説の関連部分を編めている。//	「財津蔵書」の印あり。	H29-02
明倫-0065	書経	山崎嘉点	1					和紙袋綴刊本 47丁 25.4×17.8	山崎間斎点。書経とは中国の経書。儒教の基本的文献五経の一つ。先秦では単に《書》といい、漢代からは《尚書》と呼ばれる。宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文献//大辭典(平凡社)	送返	H29-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0066	書経	雲川弘毅改訂	2					和紙袋綴刊本 51・34丁 26.0×19.0	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。先秦では単に《書》といひ、漢代からは《尚書》と呼ばれ、宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文獻//大辭典(平凡社)	送返 「城氏」「梓武藤藏書記」の印あり。	H29-02
明倫・0067	書経六卷	宋蔡沈集伝 (京・今村八兵衛)	6			享和1刊	1801	和紙袋綴刊本 62・54・ 58・76・66・53丁 26.3× 18.8	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。先秦では単に《書》といひ、漢代からは《尚書》と呼ばれ、宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文獻//大辭典(平凡社)	句送返 「明倫堂藏書記」の印あり。	H29-02
明倫・0068	書経 全		1					和紙袋綴刊本 87丁 26.3×19.1	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。先秦では単に《書》といひ、漢代からは《尚書》と呼ばれ、宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文獻//大辭典(平凡社)	送返	H29-02
明倫・0069	書経上下	後藤点	2					和紙袋綴刊本 39・58丁 25.3×18.5	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。先秦では単に《書》といひ、漢代からは《尚書》と呼ばれ、宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文獻//大辭典(平凡社)	句送返 1～裏表紙見返し「泥谷藏書」の墨書あり。 2～裏表紙見返し「泥谷」の墨書あり。	H29-02
明倫・0070	書経六卷	宋蔡沈集伝 (京・今村八兵衛)	6			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 64・54・ 58・76・67・54丁 26.0× 18.5	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。先秦では単に《書》といひ、漢代からは《尚書》と呼ばれ、宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文獻//大辭典(平凡社)	句送返 2・3・4・5表紙見返し「中村藏書」の墨書あり。	H29-02
明倫・0071	書経上下	後藤点	1					和紙袋綴刊本 39丁 25.0×17.8	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。先秦では単に《書》といひ、漢代からは《尚書》と呼ばれ、宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文獻//大辭典(平凡社)	句送返 下巻欠 裏表紙見返し「維時文久壬子戊歳極月吉祥辰旦於 江都調志 諸県郡木脇邑 小山氏」の墨書あり。	H29-02
明倫・0072	書経六卷	宋蔡沈集伝 (京・今村八兵衛)	5			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 64・53・ 58・76・54丁 26.5×18.8	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。先秦では単に《書》といひ、漢代からは《尚書》と呼ばれ、宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文獻//大辭典(平凡社)	句送返 巻5欠 「田部氏藏書印」あり。	H29-02
明倫・0073	書経集伝一〇巻	宋蔡沈 (京・ 今村八兵衛)	9			享保9印	1724	和紙袋綴刊本 48・33・ 58・37・43・50・55・52・34 丁 22.8×15.8	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。//	句 巻4欠 「城氏」印あり。	H29-02
明倫・0074	書集伝六巻首一卷	董鼎輯	2					和紙袋綴刊本 98・87丁	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。//	白 巻4・5・6欠 1～裏表紙見返し「高月 泥谷氏」の墨書あり。 2～「附津藏書」の印あり。	H29-02
明倫・0075	書経集伝		1					和紙袋綴刊本 39丁 23.0×16.5	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。//	句送返 「明倫堂藏書記」の印あり。	H29-02
明倫・0076	書経六卷	宋蔡沈集伝 (京・今村八兵衛)	6			寛文4刊	1664	和紙袋綴刊本 26.3× 19.0	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。先秦では単に《書》といひ、漢代からは《尚書》と呼ばれ、宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文獻//大辭典(平凡社)	句送返 全0巻 1～題題裏「新刻頭書/書経集註」 巻末刊年 寛文4年 藏書印「明倫堂藏書記」	H27-01
明倫・0077	書経六卷	宋蔡沈集伝 野田庄右衛門	4			寛文4刊	1664	和紙袋綴刊本 54・58・ 67・54丁 28×19.9	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。先秦では単に《書》といひ、漢代からは《尚書》と呼ばれ、宋以後《書経》と称される。《書》は史官の記録に由来する中国最古の文獻//大辭典(平凡社)	句送返 「大塚」の印あり。	H29-02
明倫・0078	筆記書集伝一二巻	写(中村楊斎)	1					和紙袋綴刊本 96丁 23.0×16.3		白 「大塚」の墨書あり。	H29-02
明倫・0079	(欽定)書経伝説彙纂二一巻	清王旗齡等奉 勅撰	24			雍正8(享 保15)刊	1730	和紙袋綴刊本 25.2× 18.5	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。//	句 68・37・42・40・62・39・41・43・44・46・31・63・46・ 48・60・59・48・56・81・49・88・43・45・61丁 「明倫堂藏書記」の印あり。(7・9・11にはなし)	H29-02
明倫・0080	(新 綫)書経講義会編一二巻	申時行著 甥 季鴻編輯	6			延宝2刊	1674	和紙袋綴刊本 108・79・ 84・136・105・124丁 25.4 ×18.4	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。//	送返 2・3・4・5・6～「明倫堂藏書記」の印あり。	H29-02
明倫・0081	書経集註	宋蔡沈集伝 (大・横玉園宋 栄堂)	1			元治刊	1861 ～ 1864	和紙袋綴刊本	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。//	句送返 「堤氏文庫」の印あり。	H23-01
明倫・0082	書経集註	宋蔡沈集伝	1			慶応2刊	1866	和紙袋綴刊本	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。//	句送返 「堤氏文庫」の印あり。	H23-01
明倫・0083	書経集註一〇巻	(京・今村八兵 衛)	9			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 56・31・ 37・41・48・53・51・34・33 丁 23.0×15.9	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。//	句送返 「明倫堂藏書記」の印あり。	H29-02
明倫・0084	(申学士校正官板)書経全一〇巻	申時行校正 (京・吉田四良 右衛門)	11			承応2刊	1653	和紙袋綴刊本 73・84・ 77・114・67・72・98・97・ 103・110・101丁 27.2× 19.1	書経とは中国の経書。儒教の基本的文獻五経の一つ。//	句送返 「明倫堂藏書記」の印あり。 3～裏表紙見返し「学校御用 極て秘藏/■■■」の 墨書あり。	H29-02
明倫・0085	書巻第四(朱子訂定蔡氏集伝)	董鼎輯録纂註	1					和紙袋綴刊本 74丁 27.1×18.9	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大 成者。//	句 「財津藏書」の印あり。	H29-02
明倫・0086	書蔡氏伝旁通一〇巻	元陳師凱撰・朱 方初校正 (京・上村次郎 右衛門)	5			寛文5刊	1665	和紙袋綴刊本 73・40・ 49・101・63丁 26.3×17.3	*『書集伝』の解説書、『書蔡氏伝旁通 (ほうつう)』(至元元年(1321)序)//	句送返 「明倫堂藏書記」の印あり。	H29-02
明倫・0087	詩経	宋朱熹集伝	1					和紙袋綴刊本 45丁 26.5×19.0	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子 以来、儒家の經典とされた。305篇の古 詩おさめられており、諸国の民謡を集め た《風》、宮廷の音楽《雅》、宗廟の祭祀 の楽歌《頌》の三部分から成る。//大辭 典(平凡社)	句送返 「武藤氏藏書記」の印あり。	H29-02
明倫・0088	詩経	宋朱熹集伝	1					和紙袋綴刊本 81丁 26.5×19.0	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子 以来、儒家の經典とされた。305篇の古 詩おさめられており、諸国の民謡を集め た《風》、宮廷の音楽《雅》、宗廟の祭祀 の楽歌《頌》の三部分から成る。//大辭 典(平凡社)	句送返 「武藤氏藏書記」の印あり。	H29-02
明倫・0089	詩経八巻	(大・河内屋喜 兵衛等)	1					和紙袋綴刊本	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子 以来、儒家の經典とされた。305篇の古 詩おさめられており、諸国の民謡を集め た《風》、宮廷の音楽《雅》、宗廟の祭祀 の楽歌《頌》の三部分から成る。//大辭 典(平凡社)	巻1-4欠	H23-01
明倫・0090	詩経	雲川弘毅改定	1					和紙袋綴刊本 48丁 25.4×18.1	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子 以来、儒家の經典とされた。305篇の古 詩おさめられており、諸国の民謡を集め た《風》、宮廷の音楽《雅》、宗廟の祭祀 の楽歌《頌》の三部分から成る。//大辭 典(平凡社)	送返	H29-02
明倫・0091	詩経	宋朱熹集伝	1					和紙袋綴刊本 57丁 26.3×18.7	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子 以来、儒家の經典とされた。305篇の古 詩おさめられており、諸国の民謡を集め た《風》、宮廷の音楽《雅》、宗廟の祭祀 の楽歌《頌》の三部分から成る。//大辭 典(平凡社)	句送返	H29-02
明倫・0092	詩経	宋朱熹集伝	1					和紙袋綴刊本 49丁 26.7×19.2	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子 以来、儒家の經典とされた。305篇の古 詩おさめられており、諸国の民謡を集め た《風》、宮廷の音楽《雅》、宗廟の祭祀 の楽歌《頌》の三部分から成る。//大辭 典(平凡社)	句送返 「城氏」の印あり。	H29-02
明倫・0093	詩経	写(綾部氏)	1					和紙袋綴 61丁 12.4× 8.2	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子 以来、儒家の經典とされた。305篇の古 詩おさめられており、諸国の民謡を集め た《風》、宮廷の音楽《雅》、宗廟の祭祀 の楽歌《頌》の三部分から成る。//大辭 典(平凡社)		H29-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫-0094	詩経	宋朱熹集伝	1					和紙袋綴刊本	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//大辭典(平凡社)	句送返 *修復済・作業年度不明(27年度確認)	H29-02
明倫-0095	詩経	後藤芝山定本	1			享保10刊	1725	和紙袋綴刊本 56丁 25.8×18.0	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//大辭典(平凡社)	句送返 「田邨氏蔵書印」あり。表紙見返し「日州高鍋梓邑田村氏蔵書」の墨書あり。	H29-02
明倫-0096	詩経八巻	宋朱熹集伝 (京・今村八兵衛)	8			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 43・55・ 79・48・194・94・68・80丁 28.0×19.5	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//大辭典(平凡社)	句送返 卷六欠 「泥谷」の印あり。	H29-02
明倫-0097	詩経		1					和紙袋綴刊本 81丁 25.0×18.5	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//大辭典(平凡社)	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。 裏表紙見返し「高鍋学校御用書」の墨書あり。	H29-02
明倫-0098	詩経		1					和紙袋綴刊本 135丁 25.7×19.0	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//大辭典(平凡社)	送返 表紙見返し「筏小路 河辺堂太郎」の墨書あり。「橘河辺文庫印」あり。	H29-02
明倫-0099	詩経八巻	宋朱熹集伝 (京・今村八兵衛)	7			寛政3刊	1791	和紙袋綴刊本 57・81・ 28・102・51・39・45丁 26.3×19.1	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//大辭典(平凡社)	句送返 卷一欠 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-02
明倫-0100	詩経		1					和紙袋綴刊本 81丁 25.5×18.7	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//大辭典(平凡社)	句送返 表紙見返し「秋月蔵書 高鍋藩水筑姓改め秋月」の墨書あり。	H29-02
明倫-0101	詩経	雲川弘毅改定	1					和紙袋綴刊本 50丁 25.0×18.6	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//大辭典(平凡社)	送返	H29-02
明倫-0102	詩経八巻	(京・今村八兵衛)	7			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 37・57・ 81・28・102・38・44丁 26.5×19.7	中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//大辭典(平凡社)	送返 卷6欠 「城氏」の印あり。	H29-02
明倫-0103	詩(集伝)二〇巻	宋朱熹 写(丸子弘篤の巻首)	10					和紙袋綴 43・53・47・ 60・74・47・30・57・41・48丁 25.8×19.9	詩集伝は朱熹の著 それまでの古注(歐陽修「詩本義」)からの道徳的解釈に対して、人情のあるがままに基づいて詩経本来の心を探った書。//	送返 5〜裏表紙見返し「御学校御用蔵」の墨書あり。	H29-02
明倫-0104	詩経集伝二〇巻	宋朱熹集伝 写	9					和紙袋綴 50・44・34・ 70・46・29・54・40・47丁 25.8×18.7	詩集伝は朱熹の著 それまでの古注(歐陽修「詩本義」)からの道徳的解釈に対して、人情のあるがままに基づいて詩経本来の心を探った書。//	白 卷一欠	H29-02
明倫-0105	詩経(集伝)	宋朱熹	2					和紙袋綴刊本 57・103丁 25.4×18.7	詩集伝は朱熹の著 それまでの古注(歐陽修「詩本義」)からの道徳的解釈に対して、人情のあるがままに基づいて詩経本来の心を探った書。//	送返 卷2・5のみ在 「財津蔵書」の印あり。	H29-02
明倫-0106	詩伝		1					和紙袋綴刊本 53丁 25.5×19.0	*詩集伝(詩伝)は朱熹の著 それまでの古注(歐陽修「詩本義」)からの道徳的解釈に対して、人情のあるがままに基づいて詩経本来の心を探った書。//	句送返 表紙見返し「高鍋藩 水筑氏」の墨書あり。裏表紙見返し「高鍋藩 水筑氏蔵」の墨書あり。	H29-02
明倫-0107	詩輯伝(詩経集註)八巻	宋朱熹 (江・播磨屋勝五郎)	5			嘉永5刊	1852	和紙袋綴刊本 84・99・ 97・49・77丁 22.5×15.2	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	句送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H29-02
明倫-0108	詩伝綱領	写	1					和紙袋綴 19丁 23.9× 16.8	*詩集伝(詩伝)は朱熹の著 それまでの古注(歐陽修「詩本義」)からの道徳的解釈に対して、人情のあるがままに基づいて詩経本来の心を探った書。//	送返 「高月鈴木文庫之印」あり。	H29-02
明倫-0109	詩経集註八巻	宋朱熹集伝 (大・宋栄堂)	1			元治 刊	1864 1865	和紙袋綴刊本 37丁 26.0×19.0	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	句送返	H29-02
明倫-0110	詩経集註	(大・柳原喜平衛)	9			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 26.2×19	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	句送返 平成23年度電子化後110-6・9のみ修復 110-6 47丁題箋「再刻頭書詩経集註 六」/110-9 42丁題箋「再刻頭書詩経集註 内題」詩経 「水筑氏蔵記」の印あり。	H23-01
明倫-0111	詩経集註八巻	宋朱熹編 (京・今村八兵衛)	8			寛文4刊	1661	和紙袋綴刊本	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	句送返 未修復 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-01
明倫-0112	詩経集註八巻	中西忠蔵校合 (東・柳屋喜兵衛)	5			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	句返 未修復 「日向高鍋城氏国籍」の印あり。	H23-01
明倫-0113	詩経摘要		1					和紙袋綴刊本	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	白 未修復	R6-03
明倫-0114	詩経正解三三巻	清美文燦・呉奎撰	33			安政5刊	1858	和紙袋綴刊本 26.4× 18.2	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	句 木活 23年度電子化後114-33のみ修復 「114-33 30丁 外題無、内題「詩経正解」巻之三十三 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-01
明倫-0115	詩経古伝一〇巻	紀徳民輯	3			宝暦9刊	1759	和紙袋綴刊本 51・60・53丁 27.3×18.0	詩経を子貢詩伝などによって伝注した物。江戸時代の細井徳民(平洲)の著。10巻 宝暦7年の自序がある/日本漢文学大辞典/大辭典(平凡社)	句 卷1・2欠	H29-02
明倫-0116	詩経説約二八巻	明節夢麟撰 楊門校	12			寛文9刊	1669	和紙袋綴刊本	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	句送返 後印 卷21〜24欠 「財津蔵書」の印あり。	H23-01
明倫-0117	詩経名物弁解六巻	松岡玄達鑑定 江村如圭集述 (京・中井平治郎)	3			享保16刊	1731	和紙袋綴刊本	江戸時代江村如圭の著 享保16年(1731)刊 3巻詩経中の動植物を抽出して解説し、また朱註の誤りを弁正している /日本漢文学大辞典/圖書解題	未修復 「田邨氏蔵書印」あり。	H23-02
明倫-0118	(欽定)詩経伝説彙纂二一巻	清王鴻緒等奉勅撰	33			雍正5(享保12)	1727	和紙袋綴刊本 25.0× 17.8	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	句 未修復 平成23年度118-7(1巻)/118-12(4巻)のみ修復 56・43丁 外題直書 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-02
明倫-0119	申学士校正詩経大全二〇巻	申時行校正 (京・吉田四良右衛門)	14					和紙袋綴刊本 68・107・ 107・84・79・105・96・87・ 52・79・60・87・63・56丁 27.4×19.3	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ//	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-02
明倫-0120	毛詩註疏	漢鄭玄箋 唐孔穎達疏	1					和紙袋綴刊本 89丁 24.2×15.7	毛詩は詩経の異称。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H29-02
明倫-0121	毛詩品物図攷	岡元鳳編輯 (京・北村四郎兵衛等)	1			天明5刊	1785	和紙袋綴刊本 36丁 25×18.3	(「毛詩品物図攷(攷)」か?)毛詩中の品物を図解し和名を付している 7巻 大阪の岡元鳳著 天明5年刊/日本漢文学大辞典/圖書解題	送返 表紙見返し「水筑氏蔵」の墨書あり。	H29-02
明倫-0122	毛詩(詩経正文)		1					和紙袋綴刊本 135丁 25.0×18.0	毛詩は詩経の異称。毛亨・毛萇が伝を付したものが残っているところからこうよばれる(毛詩と称された時には、他に斎・韓の2家の詩経があったが、現在には伝わっていないため毛詩は詩経をさす)//	白 松梅軒蔵	H29-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫-0123	毛詩補義一二卷	毛公 日本岡白駒補義(京・風月堂荏左衛門)	10			延享3刊	1746	和紙袋綴刊本 32・43・42・57・38・44・52・51・41・50丁 26.1×18.3	毛詩は詩経の異称。毛亨・毛萇が伝を付したものが残っているところからこうよばれる(毛詩と称された時には、他に、齊・韓の2家の詩経があったが、現在には伝わっていないため毛詩は詩経をさす)///	句返送 96・107・80・82・89・111・91・72・49・93・85・78・86・95・71丁	H29-03
明倫-0124	毛詩正文三卷	田珊 松伸胤校 久保康重訂 片山兼山点 (京・勝村治右衛門)	3			文政4刊	1821	和紙袋綴刊本 70・46・45丁 25.0×17.9	毛詩は詩経の異称。毛亨・毛萇が伝を付したものが残っているところからこうよばれる(毛詩と称された時には、他に、齊・韓の2家の詩経があったが、現在には伝わっていないため毛詩は詩経をさす)///	送返	H29-03
明倫-0125	毛詩註疏	鄭玄箋 孔頴達疏	15					和紙袋綴刊本 24.5×15.9	毛詩は詩経の異称。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H29-03
明倫-0126	毛詩註疏	鄭玄註 孔頴達疏	3					和紙袋綴刊本 138・41・46丁 25.1×15.8	毛詩は詩経の異称。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白 田村義勝の文書込「田邨氏蔵書印」あり。	H29-03
明倫-0127	詩伝大全	宋朱熹集伝	1					和紙袋綴刊本 54丁 23.5×17.3	* 詩集伝(詩伝)は朱熹の著 それまでの古注(歐陽修「詩本義」)からの道徳的解釈に対して、人情のあるがままに基づいて詩経本来の心を探った書。///	送返 五経大全の一書「大塚」印あり。	H29-03
明倫-0128	詩伝大全	宋朱熹集伝	1					和紙袋綴刊本 63丁 23.5×17.4	* 詩集伝(詩伝)は朱熹の著 それまでの古注(歐陽修「詩本義」)からの道徳的解釈に対して、人情のあるがままに基づいて詩経本来の心を探った書。///	送返 五経大全の一書「大塚」印あり。	H29-03
明倫-0129	詩伝大全	宋朱熹集伝	2					和紙袋綴刊本 52・84丁 23.5×17.3	* 詩集伝(詩伝)は朱熹の著 それまでの古注(歐陽修「詩本義」)からの道徳的解釈に対して、人情のあるがままに基づいて詩経本来の心を探った書。///	送返 五経大全の一書「大塚」印あり。	H29-03
明倫-0130	詩序弁説一卷	宋朱熹 写	1					和紙袋綴 95丁 25.9×18.8		白	H29-03
明倫-0131	韓詩外伝一〇卷	漢燕人韓嬰撰 周宋成校 (大・浅野弥兵衛等)星文堂	5			宝暦9刊	1759	和紙袋綴刊本 48・38・32・36・35丁 25.6×18.1	中国の古代説話集。10巻。前漢の韓嬰著。古い故事・逸話を、「詩経」の詩句と関連づけて解説したもの。「韓詩内伝」は現存しない。//大辭典(平凡社)	句返送 「田邨氏蔵書印」あり。	H29-03
明倫-0132	韓詩外伝一〇卷	漢韓嬰撰 明程来校 (京・勝村治右衛門)	2					和紙袋綴刊本 108・67丁 26.3×18.3	中国の古代説話集。10巻。前漢の韓嬰著。古い故事・逸話を、「詩経」の詩句と関連づけて解説したもの。「韓詩内伝」は現存しない。//大辭典(平凡社)	句蔵書印「明倫堂蔵書記」「日高明實」「■■■■」	H29-03
明倫-0133	小雅	雲川弘毅改定	1					和紙袋綴刊本 77丁 26.3×19.1		送返 「城氏」印あり。「樗武藤蔵書記」印あり。	H29-03
明倫-0134	周礼	漢鄭玄註 明金縢・葛鼎訂	2					和紙袋綴刊本 34・36丁 26.2×18.0	中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。古くは「周官」ともいった。理想の官制をしるした行政法典で西周王朝の行政組織を記述したものとされる//大辭典(平凡社)	句「高鍋城氏」丸印あり。	H29-03
明倫-0135	周礼	漢鄭玄註 明金縢・葛鼎訂	1					和紙袋綴刊本 39丁 26.0×18.0	中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。古くは「周官」ともいった。理想の官制をしるした行政法典で西周王朝の行政組織を記述したものとされる//大辭典(平凡社)	句「高鍋城氏」丸印あり。	H29-03
明倫-0136	周礼	漢鄭玄註 明金縢・葛鼎訂	9					和紙袋綴刊本 34・38・33・36・39・34・41・41・31丁 26.0×18.0	中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。古くは「周官」ともいった。理想の官制をしるした行政法典で西周王朝の行政組織を記述したものとされる//大辭典(平凡社)	句「高鍋城氏」丸印あり。	H29-03
明倫-0137	周礼四二卷	漢鄭玄註 明金縢・葛鼎訂 (京・河内屋茂兵衛等)	7			寛延2刊	1749	和紙袋綴刊本 74・77・79・73・72・72・74丁 25.8×18.0	中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。古くは「周官」ともいった。理想の官制をしるした行政法典で西周王朝の行政組織を記述したものとされる//大辭典(平凡社)	句	H29-03
明倫-0138	周礼四二卷	漢鄭玄註 明金縢・葛鼎訂 (京・永懷堂)	1			寛延2刊	1749	和紙袋綴刊本 58丁 26.4×17.7	中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。古くは「周官」ともいった。理想の官制をしるした行政法典で西周王朝の行政組織を記述したものとされる//大辭典(平凡社)	句返 「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-03
明倫-0139	周礼		3					和紙袋綴刊本 44・34・41丁 26.2×18.0	中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。古くは「周官」ともいった。理想の官制をしるした行政法典で西周王朝の行政組織を記述したものとされる//大辭典(平凡社)	句「高鍋城氏」丸印あり。	H29-03
明倫-0140	周礼四二卷	漢鄭玄註 明金縢・葛鼎訂 (大・河内屋茂兵衛等)	4			寛延2刊	1749	和紙袋綴刊本 85・65・61・58丁 24.7×17.8	中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。古くは「周官」ともいった。理想の官制をしるした行政法典で西周王朝の行政組織を記述したものとされる//大辭典(平凡社)	句 巻7〜30欠 表紙見返し「元治元甲子夏六月在浪華求之」の墨書あり。「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-03
明倫-0141	周礼四二卷	漢鄭玄註 明金縢・葛鼎訂 (江・前川六左衛門等)	6			寛延2刊	1749	和紙袋綴刊本 72・65・62・69・79・103丁 26.3×17.4	中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。古くは「周官」ともいった。理想の官制をしるした行政法典で西周王朝の行政組織を記述したものとされる//大辭典(平凡社)	句 巻7〜12欠 「明倫堂蔵書記」印あり。 3〜表紙見返し「明倫堂」の墨書あり。	H29-03
明倫-0142	周礼四二卷	漢鄭玄註 明金縢・葛鼎訂 (京・勝村治右衛門等)	8			寛延2刊	1749	和紙袋綴刊本 55・65・75・70・66・66・60・75丁 26.0×17.7	中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。古くは「周官」ともいった。理想の官制をしるした行政法典で西周王朝の行政組織を記述したものとされる//大辭典(平凡社)	句「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-03
明倫-0143	周礼	漢鄭玄註 明金縢・葛鼎訂	3					和紙袋綴刊本 99・77・60丁 24.5×17.8	礼記とは儒教の基本的文献五經の一つであり、中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を確記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	句「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-03
明倫-0144	周礼註疏四二卷	漢鄭玄註 唐賈公彦疏	2					和紙袋綴刊本 81・82丁 23.8×15.6	周礼は中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白 「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-03
明倫-0145	周礼註疏	漢鄭玄註 唐賈公彦疏	17					和紙袋綴刊本	周礼は中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	句(朱書)虫損大修復不可	H29-03
明倫-0146	周礼註疏	漢鄭玄註 唐賈公彦疏	19					和紙袋綴刊本 24.6×15.8	周礼は中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白 柱に波古蘭 64・66・69・72・68・93・74・58・81・68・69・70・75・90・56・61・72・84・79丁	H29-03
明倫-0147	周礼註疏四二卷	漢鄭玄註 唐賈公彦疏	18					和紙袋綴刊本 24.1×15.6	周礼は中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白 巻18・19・30〜32・35・36欠 69・65・69・71・67・92・74・58・68・70・76・75・56・61・71・84・79・81丁	H29-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0148	儀礼	菅原在家撰	1					和紙袋綴刊本 30丁 26.7×18.3	中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。17篇からなる。三礼の他の二つ、周礼が仮構された国家組織を述べ、礼記が断片的な礼の規範を取り上げて(礼の精神)を説こうとするのに対し、儀礼の本文は純粹に儀式の次第のみを記述しようとする。三礼の中でも最も早く成立したとされる。//大辭典(平凡社)	送返	H29-03
明倫・0149	儀礼一七卷	漢鄭玄註 河(野)子龍(如齋)校 京山田三良兵衛等	5			宝暦13刊	1763	和紙袋綴刊本 62・49・65・75・65丁 26.3×18.3	中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。17篇からなる。三礼の他の二つ、周礼が仮構された国家組織を述べ、礼記が断片的な礼の規範を取り上げて(礼の精神)を説こうとするのに対し、儀礼の本文は純粹に儀式の次第のみを記述しようとする。三礼の中でも最も早く成立したとされる。//大辭典(平凡社)	句送返 「田邨氏所蔵印」あり。	H29-03
明倫・0150	儀礼一七卷		6					和紙袋綴刊本 36・33・50・52・43・48丁 27.0×18.0	中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。17篇からなる。三礼の他の二つ、周礼が仮構された国家組織を述べ、礼記が断片的な礼の規範を取り上げて(礼の精神)を説こうとするのに対し、儀礼の本文は純粹に儀式の次第のみを記述しようとする。三礼の中でも最も早く成立したとされる。//大辭典(平凡社)	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-03
明倫・0151	儀礼一七卷	漢鄭玄註 河(野)子龍(如齋) 京山田三良兵衛等	5			宝暦13刊	1763	和紙袋綴刊本 60・49・65・75・65丁 26.0×18.0	中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。17篇からなる。三礼の他の二つ、周礼が仮構された国家組織を述べ、礼記が断片的な礼の規範を取り上げて(礼の精神)を説こうとするのに対し、儀礼の本文は純粹に儀式の次第のみを記述しようとする。三礼の中でも最も早く成立したとされる。//大辭典(平凡社)	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-04
明倫・0152	儀礼註疏		14					和紙袋綴刊本 65・59・74・91・60・77・63・74・71・127・77・79・109・92丁 24.1×15.0	儀礼は中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は陸註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H29-04
明倫・0153	儀礼註疏	漢鄭玄註 唐賈公彦疏	7					和紙袋綴刊本 66・59・75・91・134・71・63丁 23.8×15.2	儀礼は中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は陸註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H29-04
明倫・0154	儀礼註疏一七卷	漢鄭玄註 唐賈公彦疏	7					和紙袋綴刊本 95・109・79・77・68・78・60丁 24.2×15.6	儀礼は中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は陸註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H29-04
明倫・0155	儀礼註疏	漢鄭玄註 唐賈公彦疏	8					和紙袋綴刊本 55・127・57・79・66・78・77丁 24.5×15.6	儀礼は中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は陸註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白 155-6は虫損未修復 「田邨氏蔵書印」あり。	H29-04
明倫・0156	儀礼集伝集註	山本平左衛門	4			寛文9刊	1669	和紙袋綴刊本 81・87・103・89丁 27.5×18.6	中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。17篇からなる。三礼の他の二つ、周礼が仮構された国家組織を述べ、礼記が断片的な礼の規範を取り上げて(礼の精神)を説こうとするのに対し、儀礼の本文は純粹に儀式の次第のみを記述しようとする。三礼の中でも最も早く成立したとされる。//	送返	H29-04
明倫・0157	儀礼経伝通解 儀礼集伝集註	宋朱熹	6					和紙袋綴刊本 125・106・120・110・110・122丁 25.0×17.3	儀礼経伝通解は儀礼の本文と鄭玄の注を通解したもの、朱熹撰 37巻 内容は、社会的、国家的規模における礼をあつかい、かつまた漢代以来の礼学の集大成を企図している//大辭典(平凡社)	白 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-04
明倫・0158	儀礼経伝通解三七巻続二九巻	宋朱熹	13					和紙袋綴刊本 61・56・68・64・47・68・80・57・69・76・62・93・46丁 26.9×19.1	儀礼経伝通解は儀礼の本文と鄭玄の注を通解したもの、朱熹撰 37巻 内容は、社会的、国家的規模における礼をあつかい、かつまた漢代以来の礼学の集大成を企図している//大辭典(平凡社)	送返	H29-04
明倫・0159	儀礼経伝通解続二九巻	宋黃幹(京・林権兵衛等)	19			天明2刊	1782	和紙袋綴刊本 27.6×19.1	儀礼経伝通解は儀礼の本文と鄭玄の注を通解したもの、朱熹撰 37巻 内容は、社会的、国家的規模における礼をあつかい、かつまた漢代以来の礼学の集大成を企図している//	白 105・78・76・44・46・50・52・82・74・88・72・65・76・87・156・133・104・132・67丁	H29-04
明倫・0160	儀礼経伝通解続二九巻	宋黃幹	11					和紙袋綴刊本 136・110・120・123・121・99・65・114・98・78・143丁 25.0×17.0	儀礼経伝通解は儀礼の本文と鄭玄の注を通解したもの、朱熹撰 37巻 内容は、社会的、国家的規模における礼をあつかい、かつまた漢代以来の礼学の集大成を企図している//	白 「明倫堂蔵書記」印あり。	H29-04
明倫・0161	儀礼経伝通解続二九巻	宋黃幹	1					和紙袋綴刊本 76丁 27.3×19.7	儀礼経伝通解は儀礼の本文と鄭玄の注を通解したもの、朱熹撰 37巻 内容は、社会的、国家的規模における礼をあつかい、かつまた漢代以来の礼学の集大成を企図している//	白	H29-04
明倫・0162	礼記二巻	(大・近江屋平助等)	2			嘉永4刊	1851	和紙袋綴刊本 131・131丁 24.8×18.3	儒教の基本的文獻五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を権記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	白 上巻欠 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-04
明倫・0163	礼記	(京・小林庄兵衛等)	1			安永8刊	1779	和紙袋綴刊本 134丁 25.5×18.4	儒教の基本的文獻五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を権記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	送返 「水坑氏蔵書記」の印あり。	H29-04
明倫・0164	礼記	後藤芝山定本 男師周孫師邵校 (大・虎屋五郎兵衛等)	2			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 73・82丁 25.5×18.7	儒教の基本的文獻五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を権記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	句送返	H29-04
明倫・0165	礼記	山崎闇斎	2					和紙袋綴刊本 63・63丁 25.5×18.4	儒教の基本的文獻五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を権記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	送返 表紙見返し「高鍋澤水坑氏」の墨書あり。	H29-04
明倫・0166	礼記	(京・小林庄兵衛等)	2			安永8刊	1779	和紙袋綴刊本 129・129丁 24.8×17.8	儒教の基本的文獻五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を権記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	送返 「橘河辺文庫印」「河辺」の印あり。 2～裏表紙見返し「河辺氏」の墨書あり。	H29-04
明倫・0167	礼記	(大・伊丹屋善兵衛等)	4			安永8刊	1779	和紙袋綴刊本 133・130・132・130丁 24.6×18.2	儒教の基本的文獻五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を権記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	送返 表紙見返し「ミノエ 武藤氏」の墨書あり。 4～表紙見返し「小丸下 森幸太郎」の墨書あり。	H29-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0168	礼記	雲川弘毅改定	4					和紙袋綴刊本 58・74・66・16丁 26.3×19.1	儒教の基本的文献五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を裡記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	句送返 「城氏」「梓武藤藏書記」の印あり。	H29-04
明倫・0169	礼記四卷	後藤芝山定本 (大・山内五郎兵衛等)	4			天保10刊	1839	和紙袋綴刊本 75・92・82・82丁 25.6×18.4	儒教の基本的文献五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を裡記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	句送返 「田邨氏藏書印」あり。	H29-04
明倫・0170	礼記	(京・小林庄兵衛等)	1			安永8刊	1779	和紙袋綴刊本 129丁 24.7×18.1	儒教の基本的文献五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を裡記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	送返	H29-04
明倫・0171	礼記	漢鄭玄註	2					和紙袋綴刊本 67・86丁 25.4×18.6	儒教の基本的文献五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を裡記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	句送返 裏表紙見返し「高鍋藩 水筑氏蔵」の墨書あり。	H29-04
明倫・0172	礼記三〇卷	元陳〇 (大・河内屋喜兵衛等)	15			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 78・100・96・53・57・63・47・50・122・131・84・89・115・63・52・68・49・41・52・57丁 26.2×19.1	儒教の基本的文献五経の一つであり、中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を裡記した書物。漢の戴聖編//大辭典(平凡社)	句送返 「明倫堂藏書記」の印あり。 7〜裏表紙見返し「学校御用」の墨書あり。	H29-04
明倫・0173	礼記集説三〇卷	元陳〇 松永昌易注	1					和紙袋綴刊本 105丁 25.3×15.9	中国古代の礼書、「礼記」の注釈書。10巻 元の陳?撰//大辭典(平凡社)	白 巻4〜30欠 印あり(不明)。	H29-04
明倫・0174	(官板)礼記集説大全三〇卷	明胡広等奉勅編 (京・吉田四良右衛門)	17					和紙袋綴刊本 108・145・88・103・101・96・122・131・84・89・115・67・120・91・78・95・106丁 27.5×18.1	礼記集説は中国古代の礼書、「礼記」の注釈書。//	句送返 「明倫堂藏書記」の印あり。	H29-04
明倫・0175	礼記集説三〇卷	元陳〇 松永昌易注	7					和紙袋綴刊本 116・90・86・92・97・75・92丁 25.4×15.7	中国古代の礼書、「礼記」の注釈書。10巻 元の陳?撰//大辭典(平凡社)	白 巻1〜3欠 「城氏」の印あり。	H29-04
明倫・0176	礼記集説三〇卷	元陳〇 (大・秋田屋源兵衛等)	15			文政13刊	1830	和紙袋綴刊本 79・100・96・53・57・63・47・50・63・52・68・49・41・52・58丁 26.2×19.0	中国古代の礼書、「礼記」の注釈書。10巻 元の陳?撰//大辭典(平凡社)	句送返 「明倫堂藏書記」の印あり。	H29-04
明倫・0177	礼記註疏六三卷	漢鄭玄註 唐孔穎達疏	4					和紙袋綴刊本 70・69・75・77丁 24.3×15.8	中国古代の礼書、「礼記」は儒教の基本的文献五経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H30-01
明倫・0178	礼記註疏	漢鄭玄註 唐孔穎達疏	1					和紙袋綴刊本 76丁 24.2×15.8	儀礼は中国古代の礼書、三礼の一つ。十三経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H30-01
明倫・0179	礼記註疏七〇卷	漢鄭玄註 唐孔穎達疏	13					和紙袋綴刊本 77・90・74・63・59・57・71・80・54・91・74・59・50丁 24.2×16.0	中国古代の礼書、「礼記」は儒教の基本的文献五経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H30-01
明倫・0180	礼記註疏	漢鄭玄註 唐孔穎達疏	7					和紙袋綴刊本 88・55・59・69・73・47・61丁 24.8×15.8	中国古代の礼書、「礼記」は儒教の基本的文献五経の一つ。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白 「田邨氏藏書印」あり。	H30-01
明倫・0181	礼記掲要		1					和紙袋綴刊本 126丁 12.6×8.9	中国古代の礼書、「礼記」は儒教の基本的文献五経の一つ。//	白	H30-01
明倫・0182	(新定)三礼図二〇卷	宋晁兼善著 菊池武慎校 (江・前川六左衛門)	2			宝暦11刊	1761	和紙袋綴刊本 76・71丁 27.2×18.3	三礼(周礼・儀礼・礼記)の注解書。//大辭典(平凡社)	句	H30-01
明倫・0183	大戴礼一三卷	漢戴德著 明沈泰閑 浅見綱斎点 京風月堂社左衛門	2			正徳6刊	1716	和紙袋綴刊本 75・79丁 26.5×18.8	中国の経書。85編。そのうち39編が現存。前漢の戴德撰。漢代以前の諸儒學者の礼説を集成したもの。大戴記。//	句送返 「明倫堂藏書印」あり。表紙裏に「御学校御用書物」と朱書あり。	H30-01
明倫・0184	家礼五卷図一卷	浅見綱斎点 (大・河内屋喜兵衛等)	3			元禄10刊	1697	和紙袋綴刊本 23・36・56丁 25.1×18.4	(文公)家礼とは中国、南宋時代に成立した礼儀作法の書。朱熹撰。5巻。附録1巻。官僚・庶民の家庭的規模における礼の実践の細則を定める。朱子家礼ともいう。遺礼。冠礼。昏(婚)礼。喪礼。祭礼の5章より成る。文公とは朱熹のこと//大辭典(平凡社)	送返 「梓武藤藏書記」の印あり。	H30-01
明倫・0185	家礼	宋朱熹編 丘〇輔	4					和紙袋綴刊本 108・87・46丁 25.5×18.6	(文公)家礼とは中国、南宋時代に成立した礼儀作法の書。朱熹撰。5巻。附録1巻。官僚・庶民の家庭的規模における礼の実践の細則を定める。朱子家礼ともいう。遺礼。冠礼。昏(婚)礼。喪礼。祭礼の5章より成る。文公とは朱熹のこと//大辭典(平凡社)	送返 185-3は虫損大で修復不可	R5-01
明倫・0186	春秋左伝三〇卷	晋杜預註 (京・越後屋清太郎等)	14			安永6刊	1777	和紙袋綴刊本 25.9×18.3	「春秋」の注釈書。30巻。魯の左丘明著と伝えられる。春秋三伝の一。歴史的記事に富み、説話や逸話を多く集め、また、礼制に詳しく国家興亡の理を説く。左伝。左氏伝。//	句送返 巻1・2欠 47・65・54・47・60・67・60・56・60・61・63・55・59・75丁 「明倫堂藏書印」あり。	H30-01
明倫・0187	春秋左伝三〇卷	晋杜預註 (大・河内屋茂兵衛等)	15			寛政12刊	1800	和紙袋綴刊本 50・47・65・54・49・62・69・60・60・50・61・63・55・49・78丁 25.4×18.0	「春秋」の注釈書。30巻。魯の左丘明著と伝えられる。春秋三伝の一。歴史的記事に富み、説話や逸話を多く集め、また、礼制に詳しく国家興亡の理を説く。左伝。左氏伝。//	送返 「明倫堂藏書印」あり。187-2表紙裏に「日向高鍋藩学館御用書籍」の墨書あり。187-4「学校御用書物」の墨書あり。187-13「財部高鍋藩七番小学御用書物」の墨書あり。187-14「明倫堂御藏書」の墨書あり。	H30-01
明倫・0188	春秋左氏伝三〇卷	晋杜預集解 唐陸氏音義 尾張奏鼎校 (京・風月庄左衛門)	15			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 69・53・73・63・55・71・80・70・70・69・70・73・65・55・86丁 25.8×18.5	「春秋」の注釈書。30巻。魯の左丘明著と伝えられる。春秋三伝の一。歴史的記事に富み、説話や逸話を多く集め、また、礼制に詳しく国家興亡の理を説く。左伝。左氏伝。//	句送返 「日向高鍋城氏図経」藏書印あり。	H30-01
明倫・0189	春秋左氏伝		3					和紙袋綴刊本 85・101・74丁 25.6×15.6	「春秋」の注釈書。30巻。魯の左丘明著と伝えられる。春秋三伝の一。歴史的記事に富み、説話や逸話を多く集め、また、礼制に詳しく国家興亡の理を説く。左伝。左氏伝。//	句(朱点) 「楽山珍玩」朱印あり。	H30-01
明倫・0190	春秋左氏伝	小畑行間訳 相沢良節等校	3					和紙袋綴刊本 49・42・56丁 26.0×18.0	「春秋」の注釈書。30巻。魯の左丘明著と伝えられる。春秋三伝の一。歴史的記事に富み、説話や逸話を多く集め、また、礼制に詳しく国家興亡の理を説く。左伝。左氏伝。//	送返	H30-01
明倫・0191	春秋左氏伝集解三〇卷	晋杜預撰 那波師会魯堂点 (京・中江久四郎)	15			宝暦5刊	1755	和紙袋綴刊本 68・47・65・54・48・59・69・60・60・51・61・63・65・49・75丁 27.4×17.5	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	送返 「城氏」所蔵印あり。	H30-01
明倫・0192	春秋左伝註疏	晋杜預註 唐孔穎達疏	1					和紙袋綴刊本 66丁 24.2×15.6	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H30-01
明倫・0193	春秋左伝註疏	晋杜氏註 唐孔穎達疏	4					和紙袋綴刊本 73・72・60・70丁 24.5×15.7	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白 「田邨氏藏書印」あり。	H30-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0194	春秋左伝註疏六〇巻	晋杜氏註 唐孔穎達疏	26					和紙袋綴刊本 23.8×15.5	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。注疏（註疏）は注と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白 79・73・75・59・73・79・61・72・60・61・64・74・78・61・68・94・63・44・69・111・64・69・78・71・97・72丁 表紙見返しに「黒谷 財津」朱書あり。	H30-01
明倫・0195	春秋左伝註疏六〇巻	晋杜氏註 唐孔穎達疏	30					和紙袋綴刊本 22.6×15.0	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。注疏（註疏）は注と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白 80・78・66・73・75・59・73・78・61・71・61・71・61・60・64・78・67・81・59・92・70・63・90・69・54・61・64・69・79・99・72・72丁 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-01
明倫・0196	春秋左伝註疏	晋杜氏註 唐孔穎達疏	1					和紙袋綴刊本 75丁 24.6×15.4	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。注疏（註疏）は注と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H30-01
明倫・0197	春秋左伝註疏	晋杜氏註 唐孔穎達宋	7					和紙袋綴刊本 69・72・62・74・77・61・74丁 24.7×15.6	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。注疏（註疏）は注と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H30-01
明倫・0198	春秋左伝註疏	晋杜氏註 唐孔穎達疏	1					和紙袋綴刊本 82丁 24.5×15.5	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。注疏（註疏）は注と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H30-01
明倫・0199	春秋左伝註疏	晋杜氏註 唐孔穎達疏	4					和紙袋綴刊本 69・63・69・90丁 24.6×15.6	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。注疏（註疏）は注と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	白	H30-01
明倫・0200	春秋左氏伝校本三〇巻	晋杜氏集解 唐陸氏音義 尾張衆冊校（大・秋田屋太右衛門等）	11			嘉永3刊	1850	和紙袋綴刊本 63・55・71・80・68・68・69・71・73・55・87丁 25.7×18.2	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	送返 巻1〜6欠 「田邨氏蔵書印」あり。	H30-01
明倫・0201	春秋左氏伝校本	晋杜氏集解 唐陸氏音義 尾張衆冊校本	3					和紙袋綴刊本 80・67・67丁 25.0×18.0	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	送返	H30-01
明倫・0202	春秋左氏伝校本	晋杜氏集解 唐陸氏音義 尾張衆冊校	11					和紙袋綴刊本 76・49・69・59・51・67・76・67・69・61・51丁 25.6×18.0	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	句送返 2〜表表紙見返し「杵秋月氏蔵書」墨書あり。 3〜裏表紙見返し「笹秋月氏蔵書」墨書あり。 8〜表紙見返し「杵秋月氏蔵書」墨書あり。	H30-02
明倫・0204	春秋左氏伝校本	晋杜氏集解 唐陸氏音義 尾張衆冊校本	3					和紙袋綴刊本 71・63・55丁 25.3×18.0	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	句送返	H30-02
明倫・0205	春秋左氏伝校本三〇巻	晋杜氏集解 唐陸氏音義 尾張衆冊校本 大秋田屋太右衛門	15			文化15刊	1818	和紙袋綴刊本 85・53・73・63・55・71・80・68・68・69・61・73・65・55・94丁 25.7×18.6	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	句送返 「堤氏文庫」蔵書印あり。	H30-02
明倫・0206	春秋左氏伝校本	晋杜氏集解 唐陸氏音義 尾張衆冊校本	2					和紙袋綴刊本 71・69丁 25.2×18.0	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	送返	H30-02
明倫・0207	春秋左氏伝講義	晋杜氏元凱集解 石川鴻斎口述	2					和紙袋綴刊本 108・104丁 18.5×12.7	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	句送返	H30-02
明倫・0208	春秋左氏伝序講義	晋杜氏元凱集解 石川鴻斎口述 東金聲堂	2					和紙袋綴刊本 177・91丁 18.3×12.6	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	句送返	H30-02
明倫・0209	春秋左氏伝口	岡白駒輯	2					和紙袋綴刊本 54・72丁 26.0×18.7	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	送返 「如淵日高氏蔵書之印章」あり。（如淵は信実の母）裏表紙見返し「安政庚申三月 大経氏蔵」の墨書あり。	H30-02
明倫・0210	春秋左氏伝口	岡白駒輯	1					和紙袋綴刊本 61丁 26.4×18.6	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	句送返 「如淵日高氏蔵書之印章」あり。（如淵は信実の母）裏表紙見返し「安政庚申三月 大経氏蔵」の墨書あり。	H30-02
明倫・0211	左伝雑説	津田♥等補輯 津田♥再校	4					和紙袋綴写本 78・138・77・62・69丁 23.7×17.0	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	白	H30-02
明倫・0212	（音註全文）春秋括例治末左伝句詠直解	宋林堯叟撰 明凌稚隆校 奥田元繼点（大・志多善善兵衛）	13			寛政5刊	1793	和紙袋綴刊本 56・85・81・68・78・80・68・73・77・98・75・75・71丁 25.5×18.7	春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	句送返 巻1〜9欠 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-02
明倫・0213	東萊博議四巻	宋呂祖謙撰（大・河内屋喜兵衛）	3			寛政2刊	1790	和紙袋綴刊本 60・48・47丁 18.4×12.3	東萊博議は「春秋左氏伝」の論評的注釈書。25巻。南宋の呂祖謙（号、東萊）撰。1168年成立とされ、文官試験の規範とされた。//大辭典（平凡社）	送返 巻2欠 「堤氏」蔵書印あり。「大蔵■圖書印」あり。 裏表紙見返し「尚完舎蔵書」墨書あり。	H30-02
明倫・0214	東萊博議四巻 写		1					和紙袋綴 136丁 23.5×16.2	東萊博議は「春秋左氏伝」の論評的注釈書。25巻。南宋の呂祖謙（号、東萊）撰。1168年成立とされ、文官試験の規範とされた。//大辭典（平凡社）	白 「田邨氏蔵書印」「好古堂蔵書印」あり。	H30-02
明倫・0215	（標註）東萊博議	宋呂祖謙撰 清瞿世瑛校 阪谷素評註訓点	1					和紙袋綴刊本 64丁 23.2×15.3	東萊博議は「春秋左氏伝」の論評的注釈書。25巻。南宋の呂祖謙（号、東萊）撰。1168年成立とされ、文官試験の規範とされた。//大辭典（平凡社）	句送返 「泥谷直養」蔵書印あり。	H30-02
明倫・0216	（標註）東萊博議	宋呂祖謙撰 清瞿世瑛校 阪谷素評註訓点 凡愛堂	1			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 54丁 23.2×15.3	東萊博議は「春秋左氏伝」の論評的注釈書。25巻。南宋の呂祖謙（号、東萊）撰。1168年成立とされ、文官試験の規範とされた。//大辭典（平凡社）	句送返 「泥谷直養」蔵書印あり。	H30-02
明倫・0217	（標註）東萊博議六巻	宋呂祖謙撰 清瞿世瑛校 阪谷素評註訓点 東吉川半七	1			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 59丁 23.0×15.3	東萊博議は「春秋左氏伝」の論評的注釈書。25巻。南宋の呂祖謙（号、東萊）撰。1168年成立とされ、文官試験の規範とされた。//大辭典（平凡社）	句送返 「泥谷直養」蔵書印あり。	H30-02
明倫・0218	（評註）東萊博議六巻	宋呂祖謙撰 清瞿世瑛校 阪谷祖標註訓点 東吉川半七	2			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 56・74丁 23.2×15.2	東萊博議は「春秋左氏伝」の論評的注釈書。25巻。南宋の呂祖謙（号、東萊）撰。1168年成立とされ、文官試験の規範とされた。//大辭典（平凡社）	句送返 巻1〜3・5欠 「泥谷直養」蔵書印あり。	H30-02
明倫・0219	春秋穀梁註疏	晋范甯集解 唐楊士勛疏	1					和紙袋綴刊本 97丁 24.6×15.2	春秋穀梁伝は「春秋」の注釈書。12巻。魯の穀梁赤の着と伝えられる。春秋三伝の一。形式は「公羊伝」に近いが、思想的には法家的色彩が濃い。穀梁伝。注疏（註疏）は注と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集・大辭典（平凡社）	句	H30-02
明倫・0220	春秋穀梁註疏	晋范甯集解 唐楊士勛疏	1					和紙袋綴刊本 76丁 24.7×15.4	春秋穀梁伝は「春秋」の注釈書。12巻。魯の穀梁赤の着と伝えられる。春秋三伝の一。形式は「公羊伝」に近いが、思想的には法家的色彩が濃い。穀梁伝。注疏（註疏）は注と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集・大辭典（平凡社）	句	H30-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫-0221	春秋穀梁註疏(昭鴻)	晋范甯集解 唐楊士助疏	1					和紙袋綴刊本 97丁 24.6×15.0	春秋穀梁伝は「春秋」の注釈書。12巻。魯の穀梁赤の著と伝えられる。春秋三伝の一。形式は「公羊伝」に近いが、思想的には法家的色彩が濃い。穀梁伝。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学塾の便を図るため一つにまとめたもの。/長澤規矩也著作集/大辭典(平凡社)	句	H30-02
明倫-0222	春秋穀梁伝註疏二〇巻	晋范甯集解 唐楊士助疏	5					和紙袋綴刊本 59・80・84・84・98丁 24.7×15.4	春秋穀梁伝は「春秋」の注釈書。12巻。魯の穀梁赤の著と伝えられる。春秋三伝の一。形式は「公羊伝」に近いが、思想的には法家的色彩が濃い。穀梁伝。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学塾の便を図るため一つにまとめたもの。/長澤規矩也著作集/大辭典(平凡社)	句 巻3〜5欠	H30-02
明倫-0223	春秋公羊伝註疏		10					和紙袋綴刊本 62・59・91・85・91・87・88・89・104・75丁 24.9×15.5	春秋公羊伝は「春秋」の注釈書。11巻。公羊高の著と伝えられる。春秋三伝の。儒教的政治や倫理を「春秋」の表現に即して解釈している。公羊伝。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学塾の便を図るため一つにまとめたもの。/長澤規矩也著作集/大辭典(平凡社)	句(朱点) 「牧齋藏書」印あり。	H30-02
明倫-0224	春秋公羊註疏		9					和紙袋綴刊本 88・61・57・100・91・88・104・87・79丁 14.0×15.7	春秋公羊伝は「春秋」の注釈書。11巻。公羊高の著と伝えられる。春秋三伝の。儒教的政治や倫理を「春秋」の表現に即して解釈している。公羊伝。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学塾の便を図るため一つにまとめたもの。/長澤規矩也著作集/大辭典(平凡社)	白 「財津藏書」印あり。	H30-02
明倫-0225	春秋胡氏伝集解三〇巻首一卷	明陳留撰 松永尺五点 (野田庄右衛門)	17			寛文9刊	1669	和紙袋綴刊本 27.7×19.3	春秋胡氏伝は「春秋」の注釈書。宋の胡安國著。春秋三伝の外に伝えたためのもので、議論を主としている。三伝と合わせて四伝と評される。//大辭典(平凡社)	送返 52・69・57・56・63・56・50・45・41・68・66・68・63・52・73・55・60丁 「明倫堂藏書印」あり。	H30-02
明倫-0226	春秋(胡氏伝)	(松梅軒蔵)	1					和紙袋綴刊本 92丁 24.7×17.8	春秋胡氏伝は「春秋」の注釈書。宋の胡安國著。春秋三伝の外に伝えたためのもので、議論を主としている。三伝と合わせて四伝と評される。//大辭典(平凡社)	送返 「明倫堂藏書印」あり。	H30-02
明倫-0227	春秋胡氏伝	宋胡安国撰	2					和紙袋綴刊本 92・92丁 25.0×18.0	春秋胡氏伝は「春秋」の注釈書。宋の胡安國著。春秋三伝の外に伝えたためのもので、議論を主としている。三伝と合わせて四伝と評される。//大辭典(平凡社)	送返 「学校御用」の墨書あり。	H30-02
明倫-0228	春秋(胡氏伝)	後藤芝山定本	1		天保10刊	1839		和紙袋綴刊本 74丁 25.4×18.0	春秋胡氏伝は「春秋」の注釈書。宋の胡安國著。春秋三伝の外に伝えたためのもので、議論を主としている。三伝と合わせて四伝と評される。//大辭典(平凡社)	句送返 「田邨氏藏書印」あり。	H30-02
明倫-0229	春秋五論 写	宋呂大圭	1					和紙袋綴 60丁 27.5×19.6	春秋学の綱要をあますところなく説いたもの。呂大圭著。	白 大塚」藏書印あり。	H30-02
明倫-0230	春秋経伝集解		3					和紙袋綴刊本 74・57・80丁 27.0×19.3	『春秋』経文と『左伝』とを一つにして注釈を施したもの。左丘明の作と云われる左氏伝に、晋の杜預(222-85)が注をつけて集解とした。//	送返	H30-02
明倫-0231	春秋経伝集解	杜氏	5					和紙袋綴刊本 60・75・87・75・68丁 27.2×19.4	『春秋』経文と『左伝』とを一つにして注釈を施したもの。左丘明の作と云われる左氏伝に、晋の杜預(222-85)が注をつけて集解とした。//	送返	H30-02
明倫-0232	春秋経伝集解	杜氏	2					和紙袋綴刊本 91・59丁 27.8×19.5	『春秋』経文と『左伝』とを一つにして注釈を施したもの。左丘明の作と云われる左氏伝に、晋の杜預(222-85)が注をつけて集解とした。//	送返	H30-02
明倫-0233	春秋経伝集解	杜氏	3					和紙袋綴刊本 67・74・74丁 27.5×19.0	『春秋』経文と『左伝』とを一つにして注釈を施したもの。左丘明の作と云われる左氏伝に、晋の杜預(222-85)が注をつけて集解とした。//	送返	H30-02
明倫-0234	春秋経伝集解三〇巻	晋杜預注	10					和紙袋綴刊本 79・67・77・87・74・73・76・78・69・59丁 26.0×19.0	30巻。晋杜預撰、堀正意點寛永8年跋刊本。『春秋』経文と『左伝』とを一つにして注釈を施したもの。左丘明の作と云われる左氏伝に、晋の杜預(222-85)が注をつけて集解とした。//長澤規矩也著作集	送返 「財津藏書」印あり。	H30-02
明倫-0235	春秋集伝大全三七巻	宋胡安国 (京・吉田四良右衛門)	18					和紙袋綴刊本 27.5×19.8	春秋とは中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮廷年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立//	送返 巻1欠 110・93・103・92・85・111・103・107・71(上)・50(下)・98・88・111・110・106・114・82・102・87丁 「明倫堂藏書印」あり。	H30-02
明倫-0236	春秋三待提要		1					和紙袋綴刊本 86丁 12.8×9.0	春秋とは中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮廷年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立//	白	H30-02
明倫-0237	春秋四伝三八巻	明吉澄校 (京・今村八兵衛)	15			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 60・55・37・69・59・59・59・66・68・52・67・71・74・45・57丁 26.2×19.3	春秋の四伝とは「春秋」についての3種の注釈書。左氏伝・穀梁伝・公羊伝に、胡氏伝を加えたものをさす//	句送返 「明倫堂藏書印」あり。	H30-02
明倫-0238	春秋四伝三八巻首一卷	松永昌易首書 (京・今村八兵衛)	15			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 60・55・52・70・59・59・57・66・68・52・67・70・54・45・57丁 26.4×19.0	春秋の四伝とは「春秋」についての3種の注釈書。左氏伝・穀梁伝・公羊伝に、胡氏伝を加えたものをさす//	句送返 「明倫堂藏書印」あり。	H30-02
明倫-0239	春秋	山崎闇斎点 雲川弘毅改定	1					和紙袋綴刊本 88丁 25.6×18.0	中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮廷年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立。隠公1年(前722)から哀公14年(前481)にいたる。12公、242年間の年代記。儒家の重要な教科書となる。孟子は、春秋には孔子の精神が寓されており、大義名分の書であるの見方を示している。//大辭典(平凡社)	送返	H30-02
明倫-0240	春秋	後藤芝山定本 男師周 孫師邵校(大・炭屋五郎兵衛等)	1			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 74丁 26.0×18.5	中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮廷年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立。隠公1年(前722)から哀公14年(前481)にいたる。12公、242年間の年代記。儒家の重要な教科書となる。孟子は、春秋には孔子の精神が寓されており、大義名分の書であるの見方を示している。//大辭典(平凡社)	句送返 「梓秋月藏書印」あり。表紙見返し「高鍋藩士 水筑氏」墨書あり。	H30-02
明倫-0241	春秋		1					和紙袋綴刊本 92丁 25.3×18.0	中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮廷年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立。隠公1年(前722)から哀公14年(前481)にいたる。12公、242年間の年代記。儒家の重要な教科書となる。孟子は、春秋には孔子の精神が寓されており、大義名分の書であるの見方を示している。//大辭典(平凡社)	句送返 「橘河辺文庫印」あり。	H30-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0242	春秋	雲川弘毅改定	1					和紙袋綴刊本 89丁 26.0×18.5	中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮延年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立。隠公1年(前722)から哀公14年(前481)にいたる。12公、242年間の年代記。儒家の重要な教科書となる。孟子は、春秋には孔子の精神が寓されてあり、大義名分の書であるの見方を示している。//大辭典(平凡社)	送返 「城氏」印あり。	H30-02
明倫・0243	春秋	(松梅軒蔵)	1					和紙袋綴刊本 88丁 25.2×17.8	中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮延年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立。隠公1年(前722)から哀公14年(前481)にいたる。12公、242年間の年代記。儒家の重要な教科書となる。孟子は、春秋には孔子の精神が寓されてあり、大義名分の書であるの見方を示している。//大辭典(平凡社)	白 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-02
明倫・0244	(欽定)春秋伝説彙纂三八巻首二	清王挾等奉勅撰	23					和紙袋綴刊本 26.0×17.8	春秋とは中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮延年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立。//	句 47・103・79・84・105・50・96・84・110・59・81・70・120・99・70・63・106.66・95・59・83・87・95丁 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-02
明倫・0245	古文孝経	(都城県小学館蔵板)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 32丁 24.2×17.4	孔子の旧宅から見つかったとされる孝経のこと。漢の武帝の末魯の供王が得たと云われる。22章。//大辭典(平凡社)	句送返 「橋河辺文庫印」あり。	H30-03
明倫・0246	古文孝経校本	関徳士順集注(大・中村芳松)	1			明治16刊	1883	和紙袋綴刊本 26丁 26.3×17.8	古文孝経とは孔子の旧宅から見つかったとされる孝経のこと。漢の武帝の末魯の供王が得たと云われる。22章。//大辭典(平凡社)	「高鍋中学校印」あり。	H30-03
明倫・0247	孝経	(京・四方賛一)	1			明治2刊	1869	和紙袋綴刊本 20丁 26.3×17.8	孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//大辭典(平凡社)	句送返 外題「古文孝経」内題「孝経」 巻末「皇和明治第二龍次己巳復陽月下洗」 蔵書印「榕秋月蔵書印」 表紙に「秋月氏」書入	H30-03
明倫・0248	孝経	朱熹鑑定(大・塩屋弥七)	2			天保8印	1837	和紙袋綴刊本 14・39丁 25.2×17.7	孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0249	孝経全	孔安国伝 太華純点 (小林新兵衛)	1			宝暦11刊	1761	和紙袋綴刊本 39丁 26.8×18.1	孝経とは孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	句 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0250	孝経刊誤一卷	宋朱熹(京・武村市兵衛)	1			明暦2刊	1656	和紙袋綴刊本 26丁 27.2×19.0	孝経刊誤は朱子の著。1巻。//大辭典(平凡社)	送返 「城氏」印あり。	H30-03
明倫・0251	孝経刊誤全	宋朱熹(京・川上野)	4			寛政2刊	1790	和紙袋綴刊本 26・26丁 26・26丁 25.0×18.5	孝経刊誤は朱子の著。1巻。//大辭典(平凡社)	送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0252	(龍頭評注)孝経大義上下	宋朱熹刊誤 元董鼎註(大坂書林)	1			嘉永4刊	1851	和紙袋綴刊本 51丁 25.8×19.1	孝経とは孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0253	孝経大義	元董鼎註(平安書林)	1					和紙袋綴刊本 67丁 26.2×18.8	孝経とは孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0254	孝経大義全	元董鼎註(大・河内厘茂兵衛)	2					和紙袋綴刊本 49・49丁 25.0×18.7	孝経とは孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0255	孝経大義	宋朱熹刊誤 元董鼎註	1			寛文10刊	1670	和紙袋綴刊本 52丁 25.8×18.2	孝経とは孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	送返	H30-03
明倫・0256	孝経註疏	唐玄宗註 宗那 疏	1					和紙袋綴刊本 82丁 24.0×15.5	孝経とは孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半までは経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを生徒の便を図るため一つにまとめたもの。/長澤規矩也著作集/	白	H30-03
明倫・0257	孝経集覽	漢孔安国伝 宋朱熹刊誤 山本信輔	1			安永4刊	1775	和紙袋綴刊本 75丁 26.8×18.1	孝経とは孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	返	H30-03
明倫・0258	孝経外伝	(京・武村市兵衛)	1			明暦2刊	1656	和紙袋綴刊本 30丁 27.5×18.8	孝経とは孔子の弟子の曾子の作といえられれる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	送返	H30-03
明倫・0259	(改正音訓五経)易経		5			文化9序刊	1812	和紙袋綴刊本 33・56丁 31・33・56丁 25.8×18.6	易経とは儒教の基本的文献五経の一つ。本来占筮の書。古くは周王易の易で周易と称し、宋代に易経とよばれた。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0260	(改正音訓五経)尚書二巻	後藤点	2					和紙袋綴刊本 28・58丁 25.5×18.2	尚書とは尚(とう)とぶべき書の意から書経(しょきょう)の異称。漢以降、宋代まで用いられた呼称。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0261	(改正音訓五経)詩経	宗朱熹 後藤点	1					和紙袋綴刊本 53丁 25.8×18.4	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おさめられており、諸國の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//	句送返	H30-03
明倫・0262	(改正音訓五経)詩経	宗朱熹 後藤点	2					和紙袋綴刊本 53・81丁 25.4×18.2	詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。306篇の古詩おさめられており、諸國の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0263	(改正音訓五経)礼記		1					和紙袋綴刊本 92丁 25.8×18.6	礼記とは儒教の基本的文献五経の一つであり、中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を雄記した書物。漢の戴聖編。//	句送返	H30-03
明倫・0264	(改正音訓五経)礼記(集説)四九篇	(京・北村四郎兵衛等)	4			文久3刊	1863	和紙袋綴刊本 75・92・82・82丁 25.4×18.4	礼記とは儒教の基本的文献五経の一つであり、中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を雄記した書物。漢の戴聖編。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0265	(改正音訓五経)礼記(集説)四九篇	元陳皓撰 後藤世鈞点(京・北村四郎兵衛等)	4			文久3刊	1863	和紙袋綴刊本 72・92・82・82丁 25.6×18.5	礼記とは儒教の基本的文献五経の一つであり、中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を雄記した書物。漢の戴聖編。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0266	(改正音訓五経)礼記(集説)四九篇	元陳皓撰 後藤世鈞点(京・北村四郎兵衛等)	3			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 72・82・92丁 26.0×18.6	礼記とは儒教の基本的文献五経の一つであり、中国古代の礼書。三礼の一つ。十三経の一つ。49編。中国古代の礼の規定およびその精神を雄記した書物。漢の戴聖編。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0267	(改正音訓五経)春秋		3					和紙袋綴刊本 72・72・72丁 25.3×18.2	春秋とは中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮延年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立。隠公1年(前722)から哀公14年(前481)にいたる。12公、242年間の年代記。儒家の重要な教科書となる。孟子は、春秋には孔子の精神が寓されてあり、大義名分の書であるの見方を示している。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0268	春秋正文	(松梅軒)	1					和紙袋綴刊本 92丁 26.8×19.2	春秋は中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮廷年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立。隠公1年(前722)から哀公14年(前481)にいたる、12公、242年間の年代記。儒家の重要な教科書となる。孟子は、春秋には孔子の精神が寓されており、大義名分の書であるの見方を示している。//	送返	H30-03
明倫・0269	五経集註	(京・今村八兵衛)	58			享保9印	1724	和紙袋綴刊本 22.2×15.5	五経とは儒教の五つの基本的な経典、すなわち《易经》《書経》《詩経》《礼記》《春秋》のこと。//	句 75・92・82・82・72・72・72・70・69・65・66・47・55・71・56・52・81・39・34・60・33・39・43・50・55・53・36・36・50・66・59・71・73・55・49・60・34・63・60・57・63・62・66・74・42・43・49・57・60・39・45・58・48・62・67・53・40・52・49・56・47・51・47・47・45丁 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-03
明倫・0270	五経全文匯参掲要		1					和紙袋綴刊本 130丁 7.9×8.8	五経とは儒教の五つの基本的な経典、すなわち《易经》《書経》《詩経》《礼記》《春秋》のこと。//	白	H30-03
明倫・0271	七経離題略		18					和紙袋綴写本 23.8×15.8	七経とは中国古代の7種の経書。詩経・書経・易经・礼記・春秋・論語・孝経、あるいは、詩経・書経・易经・儀礼・周礼・礼記・春秋など。//	句 78・72・74・114・120・82・98・122・104・97・86・74・94・117・93・66・79・60丁 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・0272	十三経註疏		132					和紙袋綴刊本 22.5×14.6	儒教の基本的な古典である経書の注釈を集めた叢書。416巻。十三経とは儒教の基本的な経典。『易经』、『書経』、『詩経』、『周礼』、『儀礼』、『礼記』、『春秋左氏伝』、『春秋公羊伝』、『春秋穀梁伝』、『論語』、『孝経』、『爾雅』、『孟子』のこと。前2世紀前漢武帝等のとき、儒教が国教化されると、易・書・詩・礼・春秋の五経に博士官(五経博士)が置かれた。以来経書の研究解釈が盛んに行われ、ことに後漢から魏晉南北朝時代にかけて多くの注およびその注を詳しくした疏が作られ(注疏)、経書解釈の多様化がもたらされた//	80・62・67・56・60・90・58・86・43・68・74・67・47・70・59・77・87・70・81・65・60・61・83・74・70・66・69・77・75・73・80・83・72・72・70・46・48・64・59・75・91・60・78・134・71・67・64・77・79・47・66・42・43・35・99・94・73・99・73・102・66・71・105・116・62・97・83・79・81・47・72・54・57・55・89・90・97・81・70・102・91・96・71・1	H30-03
明倫・0273	(項仲昭先生篇註)五経奇英	項仲昭篇註 姜○○患較関 劉教若訂梓	1					和紙袋綴刊本 95丁 25.0×14.3	五経とは儒教の五つの基本的な経典、すなわち《易经》《書経》《詩経》《礼記》《春秋》のこと。//	句	H30-04
明倫・0274	爾雅註疏	晉放珪註 宋○○疏	6			万暦21(文禄2)刊	1592	和紙袋綴刊本 54・71・62・38・60・52丁 27.7×17.7	爾雅とは中国の字書で十三経の一つ。3巻、19篇。撰者未詳。周代から漢代の諸経書の伝注を採録したものといわれる。東晋の郭璞の注がある。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの疏原本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//長澤規矩也著作集	送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0275	大学経		1					和紙袋綴 54丁 25.3×17.0	大学とは四書の一つ。もともと礼記の一編であり、儒家にとって必要な自己修養を説く/国史大辞典/大辭典(平凡社)	句 「大塚」印あり。	H30-04
明倫・0276	大学大全(四書大全)		1					和紙袋綴刊本 96・83丁 27.8×20.2	四書大全は36巻。明永楽12年胡廣撰。大学とは四書の一つ。もともと礼記の一編であり、儒家にとって必要な自己修養を説く/国史大辞典/大辭典(平凡社)	句送返 枚数多く2分冊にする	H30-04
明倫・0277	大学(朱子章句)	趙順孫纂疏	1					和紙袋綴刊本 110丁 26.2×17.6	大学とは四書の一つ。もともと礼記の一編であり、儒家にとって必要な自己修養を説く/国史大辞典/	白	H30-04
明倫・0278	大学紀聞略説		1					和紙袋綴刊本 44丁 26.8×18.6	大学とは四書の一つ。もともと礼記の一編であり、儒家にとって必要な自己修養を説く/国史大辞典/	送返 「大塚」印あり。	H30-04
明倫・0279	大学諺解大成五巻	(西村市郎右衛門)	5			延宝3刊	1675	和紙袋綴刊本 40・25・18・17・18丁 26.0×19.7	大学とは四書の一つ。もともと礼記の一編であり、儒家にとって必要な自己修養を説く/国史大辞典/	送返 「高鍋中学校印」あり。	H30-04
明倫・0280	大学問答		1					和紙袋綴 105丁 18.5×15.1	大学とは四書の一つ。もともと礼記の一編であり、儒家にとって必要な自己修養を説く/国史大辞典/	白	H30-04
明倫・0281	中庸	朱熹章句	1					和紙袋綴刊本 39丁 25.4×17.7	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第31篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句送返 内題「中庸」 外題無 序文「…淳熙己酉春三月戊申新安朱熹序」 「明倫堂蔵書印」	H30-04
明倫・0282	中庸	朱熹章句	1					和紙袋綴刊本 48丁 25.6×19.3	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第31篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	白 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0283	中庸	朱熹章句	2					和紙袋綴刊本 58・46丁 25.2×17.8	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第31篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句送返 「樗武藤蔵書記」の印あり。	H30-04
明倫・0284	中庸		1					和紙袋綴刊本 61丁 26.7×18.3	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第31篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句(加點)	H30-04
明倫・0285	中庸集略		1					和紙袋綴刊本 61丁 26.0×18.6	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第31篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句送返 「大塚」印あり。	H30-04
明倫・0286	中庸集略上下	宋石○編	2					和紙袋綴刊本 59・57丁 26.0×18.8	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第32篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0287	中庸集略上下巻	宋朱熹	12					和紙袋綴刊本 70・61・61・61・61・67・57・59・57・57・57丁 25.0×17.8	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第33篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句送返 1・4・5・6・7・8・10・12「明倫堂蔵書印」あり。 2・3・11「泥谷」印あり。	H30-04
明倫・0288	中庸集略二巻	宋朱熹 山崎闇斎訓点	2					和紙袋綴刊本 61・57丁 25.7×17.8	山崎闇斎訓点。中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第34篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句送返	H30-04
明倫・0289	中庸集略		1					和紙袋綴刊本 62丁 25.8×19.0	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第35篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句送返 「大塚」印あり。	H30-04
明倫・0290	中庸集略		1					和紙袋綴刊本 61丁 26.2×18.4	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第36篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句送返	H30-04
明倫・0291	中庸集略		2					和紙袋綴刊本 61・57丁 26.0×18.6	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第37篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	句送返 1「水筑氏」朱書あり。 2「大塚」印あり。	H30-04
明倫・0292	中庸集略	宋石○編	1					和紙袋綴 38丁 24.0×17.3	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編(今の第38篇にあたる)であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	「大塚七郎治氏慎求之於京■」と記載あり。	H30-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0293	中庸集略二巻	宋石○編	3					和紙袋綴刊本 61・61・57 丁 27.4×18.3	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一選（今の第39篇にあたる）であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったとされるが、定かではない。／国史大辞典／	送返 「城氏」印あり。	H30-04
明倫・0294	中庸集略二巻	宋石○編 山崎闇斎点	1					和紙袋綴刊本 57丁 26.3×18.7	山崎闇斎点。中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一選（今の第40篇にあたる）であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったとされるが、定かではない。／国史大辞典／	句送返 「泥谷」印あり。	H30-04
明倫・0295	中庸問答		6					和紙袋綴 34・56・45・ 40・34・49丁 24.5×17.2	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一選（今の第41篇にあたる）であり、『中和』と『誠』を説く。孔子の孫の子思が作ったとされるが、定かではない。／国史大辞典／	白	H30-04
明倫・0296	論語一〇巻	朱熹集註	3					和紙袋綴刊本 43・61・42 丁 25.5×18.0	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。／国史大辞典／	句送返 巻1・2欠 296-2は4頁欠 1～表紙見返し「高鍋 高鍋学校」墨書あり。本文1丁目「明倫堂蔵書印」あり。表紙見返し「日向高鍋藩御蔵書 明治元年旧十二月十五日」墨書あり。 2・3～「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0297	論語一〇巻	朱熹集註	3					和紙袋綴刊本 74・57・61 丁 25.3×18.7	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。／国史大辞典／	白 巻1・2欠 2・3「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0298	論語	朱熹集註	13					和紙袋綴刊本 55・84・ 69・65・70・49・83・69・ 66・55・69・66・65・83丁 25.5×18.0	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。／国史大辞典／	句送返 1～表紙見返し「高鍋学校御蔵書 高鍋藩明倫堂蔵書」墨書あり。本文1丁目「明倫堂蔵書印」あり。表紙見返し「高鍋秋月藩明倫堂蔵書」墨書あり。 2・3・4・9・10・12～「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0299	論語	朱熹集註	1					和紙袋綴刊本 53丁 25.6×18.2	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。／国史大辞典／	句送 裏表紙見返し「樗武藤蔵書記」の印あり。	H30-04
明倫・0300	論語		1			寛政5	1793	和紙袋綴 33丁 22.2× 17.2	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。／国史大辞典／	「大塚」印あり。	H30-04
明倫・0301	論語	朱熹集註	1					和紙袋綴刊本 95丁 22.2×15.3	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。／国史大辞典／	句送返 題籤「四書集註 論語 三」版心題「四書／論語」論語巻之六～十まで 書入れ多数有	H30-04
明倫・0302	論語		1					和紙袋綴刊本 62丁 22.7×15.5	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。／国史大辞典／	句 「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0303	論語		4					和紙袋綴刊本 81・84・79・65丁 24.8×15.6	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。/国史大辞典/	句表紙見返し「苾(梓) 秋月氏藏書」墨書あり。	H30-04
明倫・0304	論語		1			文化6	1809	和紙袋綴 105丁 24.6×17.3	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。/国史大辞典/	秋扇子寿写「大塚」の印あり。	H30-04
明倫・0305	論語		1					和紙袋綴刊本 57丁 22.6×15.7	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。/国史大辞典/	句「堤氏文庫」の印あり。	H30-04
明倫・0306	論語	朱熹集註	3					和紙袋綴刊本 69・85・84丁 26.2×18.7	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。/国史大辞典/	句送返2「大塚馬三郎藏書」の墨書あり。3「大塚」の印あり。	H30-04
明倫・0307	論語		1					和紙袋綴刊本 61丁 22.0×15.7	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。/国史大辞典/	白 柱に論語白文 題箋はあるが印字は不明 外題直書「論語」(内題も同) 版心題「論語白文」 蔵書印「明倫堂蔵書印」 巻末に書入れ「御学校」	H30-04
明倫・0308	論語	朱熹集註	1					和紙袋綴刊本 70丁 27.0×18.5	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。/国史大辞典/	句送返表紙見返し「京都書林 大塚太三郎」の墨書あり。	H30-04
明倫・0309	論語		1					和紙袋綴 28丁 24.3×17.2	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道徳思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。/国史大辞典/	「大塚」の印あり。	H30-04
明倫・0310	論語集註	朱熹集註	4					和紙袋綴刊本 55・84・79・65丁 26.2×19.0	四書の第一である論語に朱子が新しい哲学的解釈を加えたもの。元以後朱子学の盛行と共に科擧と結びついて広く読まれた。「論語集解」が古註と呼ばれるのに対して、新註と呼ばれる。/国史大辞典/	句送返	H30-04
明倫・0311	論語集註五巻	朱熹撰	1					和紙袋綴刊本 100丁 21.6×15.4	四書の第一である論語に朱子が新しい哲学的解釈を加えたもの。元以後朱子学の盛行と共に科擧と結びついて広く読まれた。「論語集解」が古註と呼ばれるのに対して、新註と呼ばれる。/国史大辞典/	表紙から2丁目「後 神代所蔵」墨書あり。	H30-04
明倫・0312	論語集註一〇巻	朱熹撰	4					和紙袋綴刊本 65・69・83・55丁 26.5×18.5	四書の第一である論語に朱子が新しい哲学的解釈を加えたもの。元以後朱子学の盛行と共に科擧と結びついて広く読まれた。「論語集解」が古註と呼ばれるのに対して、新註と呼ばれる。/国史大辞典/	句送返1～裏表紙見返し「水筑氏蔵」の墨書あり。2～表紙見返し「水筑氏」の墨書あり。3～表・裏表紙見返し「水筑氏」の墨書あり。4～表紙見返し「水筑氏」の墨書あり。	H30-04
明倫・0313	論語集註一〇巻	宋朱熹	1					和紙袋綴刊本 100丁 22.0×15.3	四書の第一である論語に朱子が新しい哲学的解釈を加えたもの。元以後朱子学の盛行と共に科擧と結びついて広く読まれた。「論語集解」が古註と呼ばれるのに対して、新註と呼ばれる。/国史大辞典/	句送返表紙見返し「此論語初巻巻冊 河邊貞氏より借用 大正三年四月 日向國宮崎町旭通 堤長發」の付箋貼付あり。	H30-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0314	論語集註	朱熹	1					和紙袋綴刊本 95丁 22.2×15.2	四書の第一である論語に朱子 新しい 哲学的解釈を加えたもの。元以後朱子 学の盛行と共に科学と結びついて広く読 まれた。「論語集註」が古註と呼ばれる のに対して、新註と呼ばれる。/国史大 辞典/	句送返 「財津蔵書」の印あり。	H30-04
明倫・0315	論語集註大全二〇巻	長州汪 武曹 手輯 秀水陳 鑑其言（等） 同訂	10					和紙袋綴刊本 79・101・ 95・134・99・102・107・ 71・80・125丁 26.0× 15.6	論語集註は四書の第一である論語に朱 子 新しい哲学的解釈を加えたもの。元 以後朱子学の盛行と共に科学と結びつ いて広く読まれた。/国史大辞典/	白 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0316	論語集註大全二〇巻	明胡広等奉勅 編	4					和紙袋綴刊本 83・103・ 78・92丁 27.6×19.7	論語集註は四書の第一である論語に朱 子 新しい哲学的解釈を加えたもの。元 以後朱子学の盛行と共に科学と結びつ いて広く読まれた。/国史大辞典/	句送返	H30-04
明倫・0317	論語集註鈔説	仲欽敬甫著	1					和紙袋綴刊本 64丁 26.0×18.5	論語集註は四書の第一である論語に朱 子 新しい哲学的解釈を加えたもの。元 以後朱子学の盛行と共に科学と結びつ いて広く読まれた。/国史大辞典/	送返 「大塚」の印あり。	H30-04
明倫・0318	（重改）論語集註徑鈔説	（神洛毛利虚白 堂）	5					和紙袋綴刊本 44・28・ 40・26・40丁 26.2×18.7	論語集註は四書の第一である論語に朱 子 新しい哲学的解釈を加えたもの。元 以後朱子学の盛行と共に科学と結びつ いて広く読まれた。/国史大辞典/	句送返 「大塚」の印あり。 3～表紙見返し「外嶋田 大塚氏」の墨書あり。	H30-04
明倫・0319	論語集註大全二〇巻（四書大全）	明胡広等奉勅 編	4					和紙袋綴刊本 104・ 100・112・89丁 28.4× 20.2	四書大全は36巻。明永楽12年胡廣撰。 論語集註は四書の第一である論語に朱 子 新しい哲学的解釈を加えたもの。元 以後朱子学の盛行と共に科学と結びつ いて広く読まれた。/国史大辞典/	句送返	H30-04
明倫・0320	論語註疏解二〇巻	魏何晏集解 宋〇疏（江・北 圃茂兵衛等）	6			享和1刊	1801	和紙袋綴刊本 57・60・ 49・52・59・48丁 23.0× 16.5	論語註疏は論語の注釈書。論語集解の 再註とされ、宋の??著。注疏（註疏）は注 疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで 注は経註本と、疏のみの單疏本とが 別々に流伝していた。これを生徒の便を 図るため一つにまとめたもの。/国史大 辞典/長澤規矩也著作集	句 1～表紙見返し「此書安政年間 七兄敬勝君所購 入 明治三十年九月廿一日 実弟義勝儀」の墨書 あり。「田邨氏蔵書印」あり。 2～「田邨氏蔵書印」「好古堂蔵書印」あり。 3・4・5・6～「田邨氏蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0321	論語註疏解経	何晏集解 〇 〇疏	2					和紙袋綴刊本 82・69丁 24.0×15.6	論語註疏は論語の注釈書。論語集解の 再註とされ、宋の??著。注疏（註疏）は注 と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで 注は経註本と、疏のみの單疏本とが 別々に流伝していた。これを生徒の便を 図るため一つにまとめたもの。/国史大 辞典/長澤規矩也著作集	白	H30-04
明倫・0322	論語註疏解	魏何晏集解 宋〇〇疏	1					和紙袋綴刊本 132丁 24.0×15.6	論語註疏は論語の注釈書。論語集解の 再註とされ、宋の??著。注疏（註疏）は注 と疏（詳しい注釈）のこと、北宋前半まで 注は経註本と、疏のみの單疏本とが 別々に流伝していた。これを生徒の便を 図るため一つにまとめたもの。/国史大 辞典/長澤規矩也著作集	白	H30-04
明倫・0323	論語問答		1					和紙袋綴 61丁 23.5× 16.5	論語は儒教の代表的な經典で四書の第 一。孔子の言論を主として、門人その他 の人々との問答などを集めた語録で、10 巻20編。/国史大辞典	白	H30-04
明倫・0324	論語集解義疏一〇巻	何晏集解 皇 侃義疏 根連 志校正	5			寛延3刊	1750	和紙袋綴刊本 78・80・ 80・72・58丁 26.0×17.6	論語集解義疏は梁の皇侃著による論語 の注釈書。なお、論語集解とは漢代の 諸注釈を採録し、魏の何晏がまとめたもの。 「論語集註」を新註と呼ぶののに対し 古註と呼ばれる。/国史大辞典/岩波哲 学・思想辞典	句送返 本文1丁目「秋月小牧」「高鍋大蔵秋月蔵印」「税田 家蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0325	論語精求編	蕭山毛奇齡稿 陳元竜 張布 良較	1			嘉永6	1853	和紙袋綴 74丁 22.5× 16.0	論語は儒教の代表的な經典で四書の第 一。孔子の言論を主として、門人その他 の人々との問答などを集めた語録で、10 巻20編。//	句（朱字点） 梅口子写 「田邨氏蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0326	孟子	（大・加賀屋善 蔵）	1			天保12刊	1841	和紙袋綴刊本 69丁 21.8×15.4	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	句 「財津蔵書」印あり。	H30-04
明倫・0327	孟子	朱熹集註（京・ 寿文堂・山崎安 斎嘉点）	4					和紙袋綴刊本 61・99・ 103・109丁 25.5×17.5	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0328	孟子七巻	朱熹集註 （大・近江屋平 助等）	3			文政8刊	1825	和紙袋綴刊本 66・67・ 70丁 25.0×17.4	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	句送返 卷1欠 328-1について 題箋「孟子集註 再刻 二」巻之二 32丁・31丁 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0329	孟子一四巻	朱熹集註（佐 土原学習館）	4			安政5刊	1822	和紙袋綴刊本 61・99・ 98・109丁 25.5×17.8	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	句送返 佐土原藩の藩校「佐土原学習館」（文政8設立・島 津氏）の出版物 * 成立年は「近世藩校における出 版書の研究」（吉川公文館）によると「四書集註」が 天保年間成立となっている。 1・2・3・4～「明倫堂蔵書印」あり。 2～表紙見返し「学校御用書物」の墨書あり。 3～「口御用書物」の墨書あり。	H30-04
明倫・0330	孟子	（大・加賀屋善 蔵）	1			天保12刊	1841	和紙袋綴刊本 68丁 22.0×16.0	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	句 「橘河辺蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0331	孟子		0			寛政9写	1797	和紙袋綴	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	萱島諸温写	H30-04
明倫・0332	孟子	朱熹集註	2					和紙袋綴刊本 107・98 丁 25.0×18.0	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	句 「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-04
明倫・0333	孟子		2					和紙袋綴刊本 57・68丁 22.5×15.6	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	句 「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-04
明倫・0334	孟子	朱熹集註	1					和紙袋綴刊本 98丁 26.0×18.5	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	送返	H30-04
明倫・0335	孟子	朱熹集註	1			文化8写	1811	和紙袋綴 53丁 25.0× 17.0	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟 子（名は軻、前372頃～289）が自説を述 べたもの。7編。性善説を唱え、人がお のずから備えている良能・良知を発揮す る仁政を本源とすべきと強調している。/ 国史大辞典/	千手興哉30才・坂田文年29才写 表紙見返し「黒水蔵書」の墨書あり。	H30-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0336	孟子	朱熹集註	1					和紙袋綴刊本 107丁 26.0×19.0	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句送返 「大塚」の印あり。	H30-04
明倫・0337	孟子	朱熹集註	8					和紙袋綴刊本 99・63・99・108・99・112・99・61丁 26.2×18.6	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句送返	H30-04
明倫・0338	孟子	朱熹集註	2					和紙袋綴刊本 61・99丁 25.0×18.4	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句送返 「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-04
明倫・0339	孟子		2					和紙袋綴刊本 57・57丁 21.5×15.5	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0340	孟子	(大・加賀屋善蔵)	4			天保12刊	1811	和紙袋綴刊本57・58・58丁 22.0×15.5	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0341	孟子上下巻	(大坂書林)	2			寛政5刊	1793	和紙袋綴刊本 57・58丁 21.7×15.5	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句	H30-04
明倫・0342	孟子		1					和紙袋綴刊本 99丁 25.0×18.0	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句 「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H30-04
明倫・0343	孟子二巻		1					和紙袋綴刊本 57丁 21.9×15.7	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句白(一部) 下巻欠 「財津蔵書」の印あり。	H30-04
明倫・0344	(槐版四書)孟子	朱熹集註	1					和紙袋綴刊本 103丁 27.5×19.4	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句送返 「黒水家蔵■」の印あり。	H30-04
明倫・0345	孟子(首書四書集註)		1					和紙袋綴刊本 109丁 27.2×20.0	四書集註は朱子のまとめた四書の注釈書。孟子集註は後漢の趙岐の古註に対して新註と呼ばれる。//国史大辞典/	句送返	H30-04
明倫・0346	孟子(集註)一四巻	朱熹集註 趙順孫纂疏	5					和紙袋綴刊本 75・83・80・70丁 26.2×18.2	孟子集註は孟子の注釈書。朱子がまとめたもので、後漢の趙岐の古註に対して新註と呼ばれる。//国史大辞典/	白	H30-04
明倫・0347	孟子一四巻	漢趙岐註 金鑄訂(江・須原屋茂兵衛)	4			延享4刊	1747	和紙袋綴刊本 60・52・64・68丁 26.0×18.0	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句 「明倫堂蔵書印」あり。	H30-04
明倫・0348	孟子一四巻	朱熹集註(弗文堂・井上清兵衛)	7			明和5刊	1768	和紙袋綴刊本 61・78・97・108・78・97・115丁 26.0×18.0	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句送返 表紙見返しに「明倫堂御用書物」、裏表紙見返しに「明倫堂御用」の記載あり。	R1-01
明倫・0349	孟子	朱熹集註	1					和紙袋綴刊本 99丁 26.0×19.2	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句送返	R1-01
明倫・0350	孟子	朱熹集註	1					和紙袋綴刊本 100丁 25.8×18.0	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句送返	R1-01
明倫・0351	孟子		1					和紙袋綴刊本 56丁 21.5×16.0	儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//国史大辞典/	句 令和元年電子化時、39丁目なし確認 裏表紙見返しに「役小路 河邊豊太郎」の記載あり。	R1-01
明倫・0352	孟子註疏		6					和紙袋綴刊本 24.5×15.5 94・80・109・106・73・80	孟子とは儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流传していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。//国史大辞典・岩波哲学・思想辞典	白	R1-01
明倫・0353	孟子集註大全一四巻	長州汪口武曹手輯 集水陳鑑其言(等)同訂	7					和紙袋綴刊本 26.0×17.0 79・124・108・132・90・115・90・71(7冊目が2冊分)	孟子集註は孟子の注釈書。朱子がまとめたもので、後漢の趙岐の古註に対して新註と呼ばれる。//岩波哲学・思想辞典	白	R1-01
明倫・0354	孟子集註 明胡広等勅編	孟子集註 明胡広等勅編	3					和紙袋綴刊本 77・90・73・63丁 28.2×20.3	孟子集註は孟子の注釈書。朱子がまとめたもので、後漢の趙岐の古註に対して新註と呼ばれる。//岩波哲学・思想辞典	句返送 354-3は修復で2分冊	R1-01
明倫・0355	孟子集註大全		3					和紙袋綴刊本 63・114・93丁 28.5×20.2	孟子集註は孟子の注釈書。朱子がまとめたもので、後漢の趙岐の古註に対して新註と呼ばれる。//岩波哲学・思想辞典	句返送 表紙見返しに「天保十二年閏四月 財津吉一主」の記載あり。	R1-01
明倫・0356	(増補)蘇批孟子	藤沢南岳校疏(大・岡島真七)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 35丁 25.8×18.6	孟子は儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//岩波哲学・思想辞典	返 表紙見返しに「高鍋学校」蔵書印あり。	R1-01
明倫・0357	(増補)蘇批孟子	宋蘇洵老原本 清趙大流増補 藤沢南岳校蘇(大・泊園書院)	3			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 37・35・39丁 25.8×18.5	孟子は儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのずから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。//岩波哲学・思想辞典	句返 表紙見返しに「高鍋学校」蔵書印あり。	R1-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0358	孟子要略五卷	宋朱熹撰 山崎闇斎点 (京・奔文堂)	1					和紙袋綴刊本 23丁 27.4×19.2	1巻。宋の朱熹撰/山崎闇斎(嘉)著。著者自跋あり。* 著者自跋「孟子要略は朱子紹熙三年、六十三歳にして著す所、先に嘉、この書を捜求するに、見ることを得ず、その書たるをいふかりしに、眞西山集を問するに及びて、徳秀此の書の序を撰するものあり、その書の体例編集の次序略備れり、ここに於いて、其の目次に因み?むるに本文を以てし、又朱子の語、これに及ぶものを採捨して編末に附し、眞徳秀の序を巻端に掲げて他原本を獲るを待つ旨を記す」(國書解題)/國書解題/岩波哲学・思想辞典	送返 表紙見返しに「大塚」氏蔵書印あり。	R1-01
明倫・0359	孟子註疏解経		6					和紙袋綴刊本 24.2× 15.4 73・80・90・87・73・ 99	孟子は儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。8編。性善説を唱え、人のおのづから備えている良能・良知を発揮するに政を本源とすべきと強調している。/長澤規矩也著作集/岩波哲学・思想辞典	白	R1-01
明倫・0360	孟子字義疏証	清戴震	1					和紙袋綴 45丁 19.2× 15.6	清朝考証学者による朱子学批判の書。秦斗・戴震の著、1777年。//岩波哲学・思想辞典	白	R1-01
明倫・0361	(重改)孟子集註僊諺鈔	(大・秋田屋太右衛門等)	5					和紙袋綴刊本 50・58・ 56・73・61丁 26.3×18.8	孟子集註は孟子の注釈書。朱子がまとめたもので、後漢の趙岐の古註に対して新註と呼ばれる。//岩波哲学・思想辞典	表紙見返しに「大塚」氏蔵書印あり。	R1-01
明倫・0362	大学章句	朱熹	3					和紙袋綴刊本 54・30・ 30丁 26.0×18.4	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0363	大学章句		1					和紙袋綴刊本 25丁 26.0×18.2	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	句送返 令和元年電子化時、11丁目なし確認。	R1-01
明倫・0364	大学章句		1					和紙袋綴刊本 34丁 22.0×15.2	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	句 「高月鈴木文庫之印」あり。	R1-01
明倫・0365	大学章句		1					和紙袋綴刊本 65丁 22.0×15.8	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	句返送	R1-01
明倫・0366	大学章句		1					和紙袋綴刊本 31丁 27.3×19.5	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	句返送 表紙見返しに「大塚」氏蔵書印あり。	R1-01
明倫・0367	大学章句		1					和紙袋綴刊本 31丁 22.0×15.3	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	句 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0368	大学章句	長洲汪口武曹増訂	2					和紙袋綴刊本 71・100 丁 26.4×17.0	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	白 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0369	大学章句大全(四書大全)	除九一太史訂正	1					和紙袋綴刊本 44・120 丁 28.5×20.0	四書大全は36巻、明永楽12年胡廣撰。大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。//	句返送 修復で2冊に分冊	R1-01
明倫・0370	大学章句鈔説	仲欽敬甫	1					和紙袋綴刊本 55丁 26.5×18.4	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。//	送返 「粹武藤蔵書記」の印あり。	R1-01
明倫・0371	大学或問(四書大全)		1					和紙袋綴刊本 105丁 28.7×20.2	四書大全は36巻、明永楽12年胡廣撰。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの、四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問:文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//大辞典(平凡社)	句返送	R1-01
明倫・0372	大学或問	朱熹	5					和紙袋綴刊本 41・41・ 41・41・41丁 26.0×18.0	宋の朱熹著。大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの、四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問:文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//	句返送 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0373	大学或問	朱熹	1					和紙袋綴刊本 73丁 25.3×18.4	宋の朱熹著。大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの、四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問:文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//	白 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0374	大学或問	宋朱熹	1					和紙袋綴刊本 41丁 26.0×18.2	宋の朱熹著。大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの、四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問:文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//	句返送 表紙見返しに「河邊氏家蔵」の記載あり。	R1-01
明倫・0375	大学或問		1					和紙袋綴刊本 105丁 28.0×20.0	大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの、四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問:文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//	句返送 「粹武藤蔵書記」の印あり。	R1-01
明倫・0377	大学或問	朱熹	1					和紙袋綴刊本 49丁 27.5×18.6	宋の朱熹著。大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの、四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問:文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//	句返送 「城氏」蔵書印あり。	R1-01
明倫・0378	大学或問	朱熹	1					和紙袋綴刊本 41丁 25.5×18.3	宋の朱熹著。大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの、四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問:文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//	句返送 「高月鈴木文庫之印」あり。	R1-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0379	大学或問	朱熹	1					和紙袋綴刊本 41丁 26.8×18.8	宋の朱熹著。大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//	句返送 「泥谷」印あり。	R1-01
明倫・0380	大学或問		1		0			和紙袋綴刊本 41丁26.8 ×18.8	大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//		R5-03
明倫・0381	大学或問	長洲汪 〇武 曹増訂	1					和紙袋綴刊本 135丁 26.2×17.0	大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//	白 令和元年電子化時、韓序六・表四なし確認。	R1-01
明倫・0382	大学或問	宋朱熹	1					和紙袋綴刊本 41丁 26.6×18.8	宋の朱熹著。大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。大学は四書の一つ//	句返送 「大塚」印あり。	R1-01
明倫・0383	中庸章句		1					和紙袋綴刊本 56丁 25.5×18.2	中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。33章からなる中庸の注釈書。//岩波哲学・思想辞典	句返送 「高月鈴木文庫之印」あり。	R1-01
明倫・0384	中庸章句	朱熹 山崎闇 斎点	2					和紙袋綴刊本 56・58丁 25.8×17.8	山崎闇斎点。中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。33章からなる中庸の注釈書。//岩波哲学・思想辞典	句返送 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0385	中庸章句	長洲汪 〇武 曹増訂	3					和紙袋綴刊本 79・107・ 94丁 26.4×16.7	中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。33章からなる中庸の注釈書。//岩波哲学・思想辞典	白 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0386	中庸章句		1					和紙袋綴刊本 58丁 26.0×18.2	中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。33章からなる中庸の注釈書。//岩波哲学・思想辞典	句返送 裏表紙見返しに「水城氏蔵」「水城小一郎」の記載あり。	R1-01
明倫・0387	中庸章句大全		2					和紙袋綴刊本 69・89・ 73丁 28.0×20.5	中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。33章からなる中庸の注釈書。//国史大辞典・岩波哲学・思想辞典	句返送 387-2は修復で2分冊	R1-01
明倫・0388	中庸章句大全		2					和紙袋綴刊本 85・70・ 74丁 27.4×20.6	中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。33章からなる中庸の注釈書。//国史大辞典・岩波哲学・思想辞典	句返送 「梓武藤蔵書記」の印あり。	R1-01
明倫・0389	中庸章句筆記		1					和紙袋綴刊本 77丁 24.0×17.3	中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。33章からなる中庸の注釈書。//国史大辞典・岩波哲学・思想辞典	白 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0390	中庸	朱子章句 宋 趙順孫纂疏	1					和紙袋綴刊本 87丁 26.4×18.6	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一編（今の第36篇にあたる）であり、「[中和]と[誠]」を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。/国史大辞典/	白	R1-01
明倫・0391	中庸或問（四書大全）		1					和紙袋綴刊本 74・76丁 28.5×20.5	四書大全は36巻、明永樂12年胡廣撰。中庸或問とは四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。//国史大辞典（平凡社）	句返送 2冊に分冊	R1-01
明倫・0392	中庸或問	朱熹	1					和紙袋綴刊本 101丁 25.5×19.3	四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。//大辞典（平凡社）	白 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0393	中庸或問	朱熹	5					和紙袋綴刊本 57・57・ 57・57・57丁 26.0×18.2	四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。//大辞典（平凡社）	句返送 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0394	中庸或問一卷	宋朱熹	1					和紙袋綴刊本 57丁 25.7×18.0	四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。//大辞典（平凡社）	句返送 表紙見返し「河辺」印あり。裏表紙見返し「河邊氏家蔵」記載あり。	R1-01
明倫・0395	中庸或問	朱熹	1					和紙袋綴刊本 57丁 25.7×18.0	四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。//大辞典（平凡社）	句返送 「高月鈴木文庫之印」あり。	R1-01
明倫・0396	中庸或問	長洲汪 〇武 曹増訂	1					和紙袋綴刊本 128丁 26.3×18.6	四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。//大辞典（平凡社）	白 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0397	中庸或問	宋朱熹 山崎 闇斎点	1					和紙袋綴刊本 57丁 25.5×18.6	山崎闇斎点。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの或問・文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの。//大辞典（平凡社）	句返送	R1-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0398	中庸或問	朱熹	1					和紙袋綴刊本 57丁 26.1×19.1	四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したもの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見述べるもの或問。文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの//大辞典(平凡社)	句送返 「大塚」印あり。	R1-01
明倫・0399	中庸或問大全		1					和紙袋綴刊本 74・78丁 28.5×20.2	四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したもの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見述べるもの或問。文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの//大辞典(平凡社)	句送返 2分冊にする 「粹武藤蔵書記」の印あり。	R1-01
明倫・0400	大学・中庸	(古義堂蔵)	1			正徳3刊	1713	和紙袋綴刊本 33丁 25.3×18.5	大学・中庸とはそれぞれ四書の一つ。もともと礼記の一編であり南宋の朱熹がこれを抜出して独立させた。//岩波哲学・思想辞典	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0401	大学白文・中庸白文	伊藤長胤序	1			正徳3序	1713	和紙袋綴刊本 34丁 22.3×15.8	大学・中庸とはそれぞれ四書の一つ。もともと礼記の一編であり南宋の朱熹がこれを抜出して独立させた。//岩波哲学・思想辞典	句 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0402	大学・中庸	(大・吉田松根堂)	1			文政刊	1818 ～ 1830	和紙袋綴刊本 34丁 22.0×16.0	大学・中庸とはそれぞれ四書の一つ。もともと礼記の一編であり南宋の朱熹がこれを抜出して独立させた。//岩波哲学・思想辞典	句 表紙見返し「筏河辺文庫印」あり。 裏表紙「筏村 河邊豊太郎主」記載あり。	R1-01
明倫・0403	論語	(大・吉田松根堂)	1			文政刊	1818 ～ 1830	和紙袋綴刊本 61丁 22.0×16.0	儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。儒教の開祖孔子(前551-前479)の思想をみる第一の資料で、また儒教思想の真髄を伝えるものとして後世に大きな影響を与えてきた。内容は、社会的人間としての個人のあり方と国家の政治にかかわる道德思想を主としているが、中心の主張は忠(まごころ)にもとづく人間愛としての仁の強調であって、親への孝行、年長者への悌順などとともに、利欲を離れて自己を完成させる学の喜びなども述べられている。/国史大辞典/	句 裏表紙見返し「筏小路 河邊豊太郎」記載あり。	R1-01
明倫・0404	読論孟集註綱領	趙順孫纂録	4					和紙袋綴刊本 60・91・ 82・84丁 26.5×18.2	*論孟集議は朱熹の著作/大辞典(平凡社)/	句(加点)	R1-01
明倫・0405	読論語孟子法		1					和紙袋綴刊本 51丁 26.4×18.5	*論語孟子集注は朱熹の著作/大辞典(平凡社)/	句送返 表紙見返し「(朱書)島田 大塚蔵書」「児湯郡上江村字島田 大塚馬三郎蔵書」記載あり。	R1-01
明倫・0406	論孟読法詩綱領全		1					和紙袋綴刊本・写(合本) 61丁 27.2×18.6	*論語孟子集注は朱熹の著作/大辞典(平凡社)/	句送返 「大塚」の印あり。裏表紙見返し「右此書借て黒谷 森氏借写之。于時文政四年己歳十月六日 大塚氏義謹記」の墨書あり。	H29-05
明倫・0407	国朝諸老先生論語精義一〇巻	宋朱熹	10					和紙袋綴刊本 27.7× 19.0 67・55・69・59・55・ 57・63・42・42・32	論語は儒教の代表的な経典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。//	送返 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0408	国朝諸老先生孟子精義一四巻	宋朱熹(京・風月荘左衛門)	4			享保14刊	1729	和紙袋綴刊本 41・40・ 36・54丁 27.2×18.6	孟子とは儒教の経典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻、前372頃-289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人がおのずから備えている良能・良知を発揮する仁政を本源とすべきと強調している。/岩波哲学・思想辞典/	送返 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0409	論語或問二〇巻	朱熹(田原仁左衛門)	6			慶安2刊	1649	和紙袋綴刊本 26.0× 18.0 65・49・62・53・106・ 100・66・24/5・6冊目が各 2冊分)	四書或問の一つ。論語或問には論語集註への取捨の事情が書かれている。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したもの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見述べるもの或問。文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの/岩波哲学・思想辞典/大辞典(平凡社)	送返 409-3 令和元年電子化時、巻14 15丁目なし確認 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0410	論語或問二〇巻	宋朱熹(田原仁左衛門)	2			慶安2刊	1650	和紙袋綴刊本 68・61丁 26.0×18.6	四書或問の一つ。論語或問には論語集註への取捨の事情が書かれている。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したもの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見述べるもの或問。文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの/岩波哲学・思想辞典/大辞典(平凡社)	送返 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-01
明倫・0411	論語或問二〇巻	宋朱熹(田原仁左衛門)	2			慶安3刊	1650	和紙袋綴刊本 117・83丁 26.4×18.5	四書或問の一つ。論語或問には論語集註への取捨の事情が書かれている。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したもの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見述べるもの或問。文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの/岩波哲学・思想辞典/大辞典(平凡社)	送返 巻1～6欠 「大塚」蔵書印あり。	R1-02
明倫・0412	論語或問	朱熹(田原仁左衛門)	1			正保4刊	1647	和紙袋綴刊本 81	四書或問の一つ。論語或問には論語集註への取捨の事情が書かれている。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したもの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見述べるもの或問。文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの/岩波哲学・思想辞典/大辞典(平凡社)	送返 「大塚」蔵書印あり。	R1-02
明倫・0413	孟子或問一四巻		2			正保4刊	1647	和紙袋綴刊本 57・68丁 26.4×18.5	孟子或問とは四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したもの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見述べるもの或問。文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの//大辞典(平凡社)	送返 「明倫堂蔵書印」あり。	R1-02
明倫・0414	孟子或問	(田原仁左衛門)	1			正保4刊	1647	和紙袋綴刊本 110丁 27.8×19.2	孟子或問とは四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したもの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見述べるもの或問。文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの/岩波哲学・思想辞典/大辞典(平凡社)	送返 「大塚」蔵書印あり。	R1-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0415	(白痴趙鳴陽先生)四書狐白解上孟	趙鳴陽伯雍甫著・周之標君建甫聞	1					和紙袋綴刊本 128丁 24.0×14.4	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	白 「秋月家蔵書記(印)」あり。	R1-02
明倫・0416	四書大全説約合参せいかい	呉○孫右魯輯 毛王虎聖羽等校	1					和紙袋綴刊本 49丁 26.5×19.8	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	句送返 「武藤家蔵書記」あり。	R1-02
明倫・0417	四書集註	宋朱熹(京・吉野屋仁兵衛等)	4			天保8刊	1837	和紙袋綴刊本 66・112・75・80丁 22.5×15.6	四書の注釈書。宋の朱熹が最も力を傾け著した。大学章句1巻・論語集註10巻・孟子集註7巻・中庸章句1巻。朱子学の哲学理論に基づいた注釈が施され、宋代四書が尊重・普及されるのに貢献した。/国史大辞典/	句送返 「日向高鍋城氏図籍」「高鍋城氏」蔵書印あり。	R1-02
明倫・0418	四書集註	宋朱熹	4					和紙袋綴刊本 96・95・84・92丁 25.4×17.2	四書の注釈書。宋の朱熹が最も力を傾け著した。大学章句1巻・論語集註10巻・孟子集註7巻・中庸章句1巻。朱子学の哲学理論に基づいた注釈が施され、宋代四書が尊重・普及されるのに貢献した。/国史大辞典/大辞典(平凡社)	句 418-01 令和元年電子化時、巻1 6丁目なし確認 「田邸氏浄書印」あり。	R1-02
明倫・0419	四書緒言四四巻	清孫瑀○仲著	12			清康熙25(貞享3)刊	1686	和紙袋綴刊本 23.6×16.3 77・66・56・57・82・84・92・91・71・50・62・65	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	白句 「明倫堂蔵書記」の印あり。	R1-02
明倫・0420	四書緒言	卿○仲著	1					和紙袋綴 44丁 23.6×16.3	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	句 「明倫堂蔵書記」の印あり。	R1-02
明倫・0421	四書緒言	卿口仲著	1					和紙袋綴 53丁 23.6×16.4	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	白	R1-02
明倫・0422	四書輯疏(中)		1					和紙袋綴刊本 46丁 26.3×18.0	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	送返 表紙見返しに「水筑氏蔵書」の墨書あり。	R1-02
明倫・0423	四書序考(大学章句序考)		1					和紙袋綴刊本 37丁 26.6×19.0	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。//	送返 表紙見開きに「大塚氏」の墨書あり。	R1-02
明倫・0424	四書蒙引一五巻	明蔡清著 敖觥重訂	16			寛永13刊	1636	和紙袋綴刊本 27.3×19.2 69・99・73・79・111・68・114・62・71・65・89・62・76・62・58・66	四書蒙引は明の蔡清撰、15巻。宋の儒家の說を羽翼(助ける)するもの。//大辞典(平凡社)	句送返 巻1・6・14欠	R1-02
明倫・0425	四書蒙引一五巻	明蔡清著 敖觥校	2					和紙袋綴刊本 104・85丁 27.4×19.5	四書蒙引は明の蔡清撰、15巻。宋の儒家の說を羽翼(助ける)するもの。//大辞典(平凡社)	句送返	R1-02
明倫・0426	(新鐫音釈圈点提章提節魁)四書正文四巻		4					和紙袋綴刊本 56・40・53・68丁 25.0×14.3	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	白 「秋月家蔵書印」あり。	R1-02
明倫・0427	四書白文		1					和紙袋綴刊本 91丁 25.4×18.0	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	白 「水筑氏蔵書記」の印あり。巻頭に「水筑氏」、巻末に「筏 水筑氏」「水筑小一郎」等の墨書あり。	R1-02
明倫・0428	四書正解三〇巻	呉孫右魯輯 (京・天王寺屋市郎兵衛)	28			元禄10刊	1697	和紙袋綴刊本 26.0×18.7 52・42・41・46・51・56・51・60・59・52・66・75・55・46・33・57・37・48・43・53・49・43・42・51・45・33・34・58	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	送返 「田邸氏蔵書印」あり。	R1-02
明倫・0429	四書正解	(京・天王寺屋市郎兵衛)	30			元禄10刊	1697	和紙袋綴刊本 25.0×18.6 52・42・41・46・51・59・55・52・66・75・54・46・33・43・57・37・48・43・53・53・43・42・51・33・34・58・53・56・51・51	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	送返 27～表紙見返しに「榕 秋月氏蔵書」の墨書あり。 裏表紙見返しに「水筑氏蔵書記」の印あり。	R1-02
明倫・0430	四書淺節一四巻	明陳探撰 劉奎英訂	12					和紙袋綴刊本 27.2×17.6 34・55・51・62・50・46・35・37・30・30・35・43	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	R1-02
明倫・0431	四書朱子異動条辨	清李沛霖 弟楨訂	28			康熙41(元禄15)	1702	和紙袋綴刊本 25.9×17.3 128・114・107・175・150・114・103・97・86・83・100・111・170・140・103・186・98・146・79・150・126・146・157・104・126・165・137・102	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	句	R1-02
明倫・0432	四書翼註六巻	明王納諫 呉明典校正 蔣方器重訂	3					和紙袋綴刊本 42・49・47丁 24.7×18.2	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	送返 「財津蔵書」の印あり。	R1-02
明倫・0433	四書翼註六巻	篠崎朝撰文(江・山城屋佐兵衛等)	7			嘉永1刊	1848	和紙袋綴刊本 24.5×18.2 41・36・48・41・41・48・50	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//大辞典(平凡社)	句返 「財津蔵書」の印あり。	R1-02
明倫・0434	四書章句附攷巻	呉志忠	1			文化11刊	1814	和紙袋綴刊本 51丁 24.8×18.0	四書章句は朱熹の「四書集註」のなかの「大学章句」「中庸章句」をさす//	「城氏」の印あり。	R1-02
明倫・0436	爾雅註疏	晋郭璞註 宋邢昺疏	2					和紙袋綴刊本 88・69・76丁 24.3×15.4	爾雅とは中国の字彙で十三経の一つ。3巻、19編。撰者未詳。周代から漢代の諸経書の伝注を採録したものといわれる。東晋の郭璞の注がある。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。/長澤規矩也著作集/	句(朱字点)	R1-02
明倫・0437	爾雅註疏	晋郭璞註 宋邢昺疏	2					和紙袋綴刊本 112・97丁 23.6×15.6	爾雅とは中国の字彙で十三経の一つ。3巻、19編。撰者未詳。周代から漢代の諸経書の伝注を採録したものといわれる。東晋の郭璞の注がある。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。/長澤規矩也著作集/	白	R1-02
明倫・0438	爾雅疏		1					和紙袋綴刊本 45丁 24.2×15.5	爾雅とは中国の字彙で十三経の一つ。3巻、19編。撰者未詳。周代から漢代の諸経書の伝注を採録したものといわれる。東晋の郭璞の注がある。疏とは詳しい注釈のこと。北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。/長澤規矩也著作集/	白 「田邸氏蔵書印」あり。	R1-02
明倫・0439	爾雅註疏一一巻	晋郭璞註 宋疏	1					和紙袋綴刊本 109丁 23.3×15.4	爾雅とは中国の字彙で十三経の一つ。3巻、19編。撰者未詳。周代から漢代の諸経書の伝注を採録したものといわれる。東晋の郭璞の注がある。注疏(註疏)は注と疏(詳しい注釈)のこと、北宋前半まで注は経註本と、疏のみの単疏本とが別々に流伝していた。これを学徒の便を図るため一つにまとめたもの。/長澤規矩也著作集/	白	R1-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0440	(新刻)助語辞	明蘆允武著 明文煥校（梅村弥右衛門）	1			天和3刊	1683	和紙袋綴刊本 39丁 24.8×18.4	1巻。明の直以緯撰。助辞100余りを集め、その意義・用法を説明したもの。//大辞典(平凡社)/漢語解題	送返 「城氏」の印あり。	R1-03
明倫・0441	(増続)大広益会玉編大全	梁願野王撰 (?)	5					和紙袋綴刊本 61・51・ 91・70・62丁 22.6×16.3	「大広益会玉編」中国の字書「玉編」を北宋の陳彭年らが勅命により撰したものの(1013年)。玉編に比べて、収録字を増したかわり、注解は大幅に簡略化された。玉編は現実的な優れた字書であったが、中国では散逸し現存するのはこの大広益会玉編である。//大辞典(平凡社)	送返	R1-03
明倫・0442	(増続)大広益会玉編		3					和紙袋綴刊本 69・81・54丁 22.6×16.1	「大広益会玉編」中国の字書「玉編」を北宋の陳彭年らが勅命により撰したものの(1013年)。玉編に比べて、収録字を増したかわり、注解は大幅に簡略化された。玉編は現実的な優れた字書であったが、中国では散逸し現存するのはこの大広益会玉編である。//大辞典(平凡社)	送返	R1-03
明倫・0443	(増続)大広益会玉編		1					和紙袋綴刊本 71丁 22.7×16.4	「大広益会玉編」中国の字書「玉編」を北宋の陳彭年らが勅命により撰したものの(1013年)。玉編に比べて、収録字を増したかわり、注解は大幅に簡略化された。玉編は現実的な優れた字書であったが、中国では散逸し現存するのはこの大広益会玉編である。//大辞典(平凡社)	送返	R1-03
明倫・0444	干禄字書	唐顔元孫公原撰 顔公書 (東・柳心堂)	1					和紙袋綴刊本 52丁 18.6×12.6	中国の字書。1冊。初唐の顔元孫の著。干禄とは禄を干もとめる意で、官吏登用試験受験者のために作った実用的字体字書。約八百字を四声韻によって分類し、字ごとに正・通・俗の三体をあげる。顔真卿が正書して碑に刻した。//大辞典(平凡社)	糸替だけ 「白眉堂印」あり。	R1-03
明倫・0445	草字彙	清石梁集（文永堂）	1					和紙袋綴刊本 95丁 22.0×12.3	中国の字書。12巻。清の石梁撰。漢代から明朝までの名家の草書を字彙の篇・旁によって収録したもの。//大辞典(平凡社)	白 「昭和31年5月31日 小崎不二夫氏寄贈」の記載あり。	R1-03
明倫・0446	康熙字典		7					和紙袋綴刊本 16.7× 11.2 97・131・120・ 131・61・61・133・146(5冊 目を2冊分)	中国の代表的辞典。1716年清の張玉書(1642～1711)らが康熙帝の勅を奉じて編纂。1716年完成。42巻119部。「説文解字」「玉篇」を底本とし、諸書を校合したもの。12集に分け、毎集を3子巻(上・中・下)に細分している。//大辞典(平凡社)	白 1～4・6・7「かきはら」の丸印あり。	R1-03
明倫・0447	康熙字典		7					和紙袋綴刊本 17.0× 11.4 133・126・103・138・ 131・76・125	康熙字典(辞)典は中国の代表的辞典。1716年清の張玉書(1642～1711)らが康熙帝の勅を奉じて編纂。1716年完成。42巻119部。「説文解字」「玉篇」を底本とし、諸書を校合したもの。12集に分け、毎集を3子巻(上・中・下)に細分している。//大辞典(平凡社)	白 「かきはら」の丸印あり。	R1-03
明倫・0449	康熙字典		8					和紙袋綴刊本 16.7× 11.0 150・68・114・ 114・120・124・147・158	康熙字典(辞)典は中国の代表的辞典。1716年清の張玉書(1642～1711)らが康熙帝の勅を奉じて編纂。1716年完成。42巻119部。「説文解字」「玉篇」を底本とし、諸書を校合したもの。12集に分け、毎集を5子巻(上・中・下)に細分している。//大辞典(平凡社)	白 「堤氏文庫」の印あり。 449-3 本文1丁目(五十四)は別の本のものと思われる。449-4(八・十二・三十三・四十七・六十六・九十一・九十二・九十四・九十五)なし。449-5(五十一・五十二)なし。	R1-03
明倫・0450	康熙字典	清康熙中勅撰	12					和紙袋綴刊本 16.8× 11.3 112・113・128・ 144・112・106・120・131・ 90・76・83・112	康熙字典(辞)典は中国の代表的辞典。1716年清の張玉書(1642～1711)らが康熙帝の勅を奉じて編纂。1716年完成。42巻119部。「説文解字」「玉篇」を底本とし、諸書を校合したもの。12集に分け、毎集を6子巻(上・中・下)に細分している。//大辞典(平凡社)	白 「かきはら」の丸印あり。	R1-03
明倫・0451	康熙字典	清康熙中勅撰	32			道光7(文政10)重刊	1827	和紙袋綴刊本 17.6× 11.7 150・113・115・ 120・125・147・83・128・ 129・137・131・144・133・ 106・136・113・90・138・ 103・131・132・131・76・ 130・115・128・76・120・ 97・84・70・101	中国の代表的辞典。1716年清の張玉書(1642～1711)らが康熙帝の勅を奉じて編纂。1716年完成。42巻119部。「説文解字」「玉篇」を底本とし、諸書を校合したもの。12集に分け、毎集を3子巻(上・中・下)に細分している。//大辞典(平凡社)	白 日向高鍋城氏図籍」の印あり。 451-11(木部六画 三十三のはずが二十三)になっている。	R1-03
明倫・0452	康熙字典		17			道光7(文政10)重版	1827	和紙袋綴刊本 16.9× 11.7 150・120・126・ 83・168・129・137・131・ 144・134・138・106・120・ 130・121・76・102	中国の代表的辞典。1716年清の張玉書(1642～1711)らが康熙帝の勅を奉じて編纂。1716年完成。42巻119部。「説文解字」「玉篇」を底本とし、諸書を校合したもの。12集に分け、毎集を3子巻(上・中・下)に細分している。//大辞典(平凡社)	白 2巻末に「宮崎県児湯郡高鍋尋常高等小学校印」あり。	R1-03
明倫・0454	千字文	西廬孫丕顔編輯	1					和紙袋綴刊本 62丁 26.8×18.4	*千字文は中国の字書の名。南朝梁の武帝が周興嗣(？-520)に命じ、王羲之の書の中から1000字を選び、すべて4字1句の重複のない押韻対偶の文に仕立てさせたものという。//大辞典(平凡社)	(*文書名入力間違いのため27年3月目録に合わせ訂正 千字文→千字文) (二十二～三十一)までなし。	R1-04
明倫・0455	略解千字文		1					和紙袋綴刊本 27丁 23.0×16.2	*千字文は中国の字書の名。南朝梁の武帝が周興嗣(？-520)に命じ、王羲之の書の中から1000字を選び、すべて4字1句の重複のない押韻対偶の文に仕立てさせたものという。//	(*文書名入力間違いのため27年3月目録に合わせ訂正 千字文→千字文) 「梨木氏蔵書」の印あり。	R1-04
明倫・0456	三体千字文		1			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 136丁 25.6×17.0	*千字文は中国の字書の名。南朝梁の武帝が周興嗣(？-520)に命じ、王羲之の書の中から1000字を選び、すべて4字1句の重複のない押韻対偶の文に仕立てさせたものという。//	(*文書名入力間違いのため27年3月目録に合わせ訂正 千字文→千字文)	R1-04
明倫・0457	四体千字文		2					和紙袋綴刊本 45・45丁 26.8×20.1	*千字文は中国の字書の名。南朝梁の武帝が周興嗣(？-520)に命じ、王羲之の書の中から1000字を選び、すべて4字1句の重複のない押韻対偶の文に仕立てさせたものという。//	(*文書名入力間違いのため27年3月目録に合わせ訂正 千字文→千字文)	R1-04
明倫・0458	四体千字文		1					和紙袋綴刊本 68丁 15.6×11.2	*千字文は中国の字書の名。南朝梁の武帝が周興嗣(？-520)に命じ、王羲之の書の中から1000字を選び、すべて4字1句の重複のない押韻対偶の文に仕立てさせたものという。//	(*文書名入力間違いのため27年3月目録に合わせ訂正 千字文→千字文) 「高月鈴木文庫之印」あり。	R1-04
明倫・0459	趙松雪正草千字	(上海望平街有正書局)	1					和紙袋綴刊本 22丁 26.4×15.4	趙松雪とは南宋末・元の文人画家、趙子昂(ちようしこう)のこと。浙江省生。名は孟?、松雪道人と号する。(※趙松雪のいかいた千字文か?)//	白	R1-04
明倫・0460	(新版)正字面引十体千字文	(京・水玉堂)	1			宝永1刊	1704	和紙袋綴刊本 63丁 21.7×15.5	*千字文は中国の字書の名。南朝梁の武帝が周興嗣(？-520)に命じ、王羲之の書の中から1000字を選び、すべて4字1句の重複のない押韻対偶の文に仕立てさせたものという。//	(*文書名入力間違いのため27年3月目録に合わせ訂正 千字文→千字文) 「高月鈴木文庫之印」あり。裏表紙見返しに「鈴木家蔵」の墨書あり。	R1-04
明倫・0461	(校正)三字経 全	宋王応麟	1					和紙袋綴刊本 22丁 22.0×15.0	中国の児童用の識字教科書。南宋の王応麟の編と伝えられる字書。〈人・生・性本善(人の生まるや、性もと善なり)〉にはじまる3字句で通してある。毎句三字で韻を踏み、通編310数句。《千字文》とともに広く行われた。字に重複があり、文辞も《千字文》に劣るといわれるが、いわゆる〈俗耳に入りやすく〉、中国では、《千字文》より明らかに大きい影響を民衆に及ぼした。//	「田部氏蔵書印」「好古堂蔵書印」あり。裏表紙見返しに「高鍋氏 田部塙郎蔵」の墨書あり。	R1-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫-0462	三字経	宋王应麟(鹿児島藩)	1			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 27丁 25.0×18.4	中国の児童用の識字教科書。南宋の王应麟の編と伝えられる字書。〈人・生・性本善(人の生まるるや、性もと善なり)〉にはじまる3字句で通してある。毎句三字で韻を踏み、通編310数句。《千字文》とともに広行われた。字に重複があり、文辞も《千字文》に劣るといわれながら、いわゆる〈俗耳に入りやすく〉、中国では、《千字文》より明らかに大きい影響を民衆に及ぼした。//	「橘河辺文庫印」あり。	R1-04
明倫-0463	正字通一二巻	清廖文英(弘文書院)	24					和紙袋綴刊本 24.8×16.4 116・134・131・112・147・136・136・141・49・138・53・111・92・160・146・176・153・128・185・125・89・156・154・69	正字通は中国の漢字字典。12巻。明末の張自烈によって編纂された。題には廖文英撰とあるが、廖文英が張自烈の原稿を貰って自分のものとして刊行したと言われる。33871字を収録している。配列は『字彙』の部首別画数順の形式に従っている//大辞典(平凡社)	白 12…(百)なし。17…(三十)なし。	R1-04
明倫-0464	古今韻会举要小補三〇巻	明方日升撰	1					和紙袋綴刊本 117丁 25.8×17.8	中国、元の熊忠が「古今韻会」を簡略化した韻書。30巻。1297年(大徳1)成立。韻分分けは劉淵の「壬子新刊礼部韻略」による。通用韻を併せ107韻としたが、各韻に収める字は三十六字母により配列され、伝統的な韻書の枠組みをもとにしながらも、時代による語音の変化を反映する等韻学的工夫がなされており、重要な宋・元間の語音研究資料である。//大辞典(平凡社)	送返	R1-04
明倫-0465	古今韻会举要小補三〇巻	明方日升撰	1					和紙袋綴刊本 93丁 26.2×18.1	中国、元の熊忠が「古今韻会」を簡略化した韻書。30巻。1297年(大徳1)成立。韻分分けは劉淵の「壬子新刊礼部韻略」による。通用韻を併せ107韻としたが、各韻に収める字は三十六字母により配列され、伝統的な韻書の枠組みをもとにしながらも、時代による語音の変化を反映する等韻学的工夫がなされており、重要な宋・元間の語音研究資料である。//大辞典(平凡社)	送返 巻2～30欠	R1-04
明倫-0466	史記評林一三〇巻首一卷	明凌稚隆編 李光縉増補 (大松村九兵衛)	25			寛政4刊	1792	和紙袋綴刊本 25.6×18.5 119・71・83・69・96・137・99・109・113・112・96・89・84・70・90・95・82・81・65・74・81・81・90・96・76	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に叙述したもの。//大辞典(平凡社)	送返 「明倫堂蔵書印」あり。 3～巻末に「安政五年己亥求之 高鍋学校書 高鍋学校御用書」の墨書あり。8・9～「新小路小田氏蔵」の印あり。25～「高鍋学校印章」の印あり。	R1-04
明倫-0467	史記評林	明凌稚隆輯校	1					和紙袋綴刊本 82丁 25.7×19.3	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に叙述したもの。//大辞典(平凡社)	送返	R1-04
明倫-0468	史記評林一三〇巻首一卷	明凌稚隆編 李光縉補	3					和紙袋綴刊本 100・73・92丁 25.7×19.0	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に叙述したもの。//大辞典(平凡社)	句送返	R1-04
明倫-0469	史記評林・補史記	呉興凌稚隆輯校、溫陵李光縉増補唐司馬貞補注	1					和紙袋綴刊本 63丁 27.2×19.8	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に叙述したもの。//大辞典(平凡社)	送返	R1-04
明倫-0470	史記評林	明凌稚隆輯校 李光縉増補	1					和紙袋綴刊本 79丁 25.6×18.9	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に叙述したもの。//大辞典(平凡社)	送返 巻100のみ在	R1-04
明倫-0471	史記評林一三〇巻	明凌稚隆編	8					和紙袋綴刊本 26.0×19.3 81・86・84・72・110・83・93・78	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に叙述したもの。//大辞典(平凡社)	句送返	R1-04
明倫-0472	史記評林一三〇巻首一卷	明凌稚隆編	4					和紙袋綴刊本 46・79・83・46丁 25.8×18.6	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に叙述したもの。//大辞典(平凡社)	句送返 4～表紙見開きに「御用書物 明倫堂学校」の墨書あり。	R1-04
明倫-0473	史記評林	明凌稚隆輯 李光縉増補	2					和紙袋綴刊本 55・95丁 26.6×19.8	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に叙述したもの。//大辞典(平凡社)	句送返 「明倫堂蔵書■」の印あり。 2～表紙見開きに「明倫堂蔵書」の墨書あり。	R1-04
明倫-0474	史記十伝纂評一〇巻	司馬遷著 芳本統三郎纂評 (東・大島勝海)	5			明治18刊	1885	和紙袋綴刊本 54・21・33・28・19丁 25.8×18.0	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に叙述したもの。//大辞典(平凡社)	句返 修復の必要なし 「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H23-02
明倫-0475	漢書	唐顔師古注	1					和紙袋綴刊本 101丁 25.4×16.5	中国の歴史を記した四史の一つ。漢の高祖から王莽の時代にいたる前漢の歴史をあつかう正史。「前漢書」ともいう。後漢の班固の著。太古から秦までの人物はその姓名を「古今人表」にまとめ、九等に評価づけている。本紀12巻、表8巻、志10巻、列伝70巻、合わせて100巻。本紀と列伝の一部には父の班彪が「史記」の続編として書きついでいた「後伝」を用い、体例と史観も父を襲うところが多い。表と「天文志」は妹の班昭と弟子の馬融が執筆したという//	白 「秋月家蔵書印」あり。	R1-04
明倫-0476	漢書評林一〇〇巻首一卷	明凌稚隆編 (松柏堂)	46			明暦3刊	1657	和紙袋綴刊本 27.0×20.0 58・57・55・30・41・38・50・56・49・47・38・48・50・50・49・37・34・46・61・45・37・46・37・35・51・53・55・52・49・39・54・55・41・34・47・39・42・47・41・44・44・39・47・51・57・44	中国の歴史を記した四史の一つ。漢の高祖から王莽の時代にいたる前漢の歴史をあつかう正史。「前漢書」ともいう。後漢の班固の著。太古から秦までの人物はその姓名を「古今人表」にまとめ、九等に評価づけている。本紀12巻、表8巻、志10巻、列伝70巻、合わせて100巻。本紀と列伝の一部には父の班彪が「史記」の続編として書きついでいた「後伝」を用い、体例と史観も父を襲うところが多い。表と「天文志」は妹の班昭と弟子の馬融が執筆したという//	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。 「学校御用書物」「御用本明倫堂」「明倫堂御用書物」等の墨書のほか、書入れ多数あり。12～表紙見開きに「明倫堂蔵書 明倫堂御蔵本 欲借用此書候者可届取綿方事」の墨書あり。	R1-04
明倫-0477	漢書評林	明凌稚隆校	1					和紙袋綴刊本 59丁 27.2×19.6	中国の歴史を記した四史の一つ。漢の高祖から王莽の時代にいたる前漢の歴史をあつかう正史。「前漢書」ともいう。後漢の班固の著。太古から秦までの人物はその姓名を「古今人表」にまとめ、九等に評価づけている。本紀12巻、表8巻、志10巻、列伝70巻、合わせて100巻。本紀と列伝の一部には父の班彪が「史記」の続編として書きついでいた「後伝」を用い、体例と史観も父を襲うところが多い。表と「天文志」は妹の班昭と弟子の馬融が執筆したという//	送返 「明倫堂蔵書■」の印あり。表紙見返しに「明倫堂蔵書」の墨書あり。	R1-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0479	後漢書	宋范曄撰	8					和紙袋綴刊本 27.0×19.0 37・47・66・47・54・55・56・57	中国の歴史を記した四史の一つ。後漢王朝一代に関する紀伝体の史書。正史の一つ。漢書が前漢の事をさすのに対して本書は後漢20帝の時を記す。南朝宋の范曄撰。先行の後漢時代史を参考にしつつ、432年(元嘉9)に完成。120巻(本紀10巻、列伝80巻、志30巻)尚、志はのち宋代に東晋の司馬彪の《続漢書》のそれをもって補ったもの。//大辭典(平凡社)	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。「学校御用書物」「明倫堂」等の墨書あり。	R1-04
明倫・0480	後漢書	宋范曄撰 梁劉昭注補	1					和紙袋綴刊本 44丁 26.5×19.2	中国の歴史を記した四史の一つ。後漢王朝一代に関する紀伝体の史書。正史の一つ。漢書が前漢の事をさすのに対して本書は後漢20帝の時を記す。南朝宋の范曄撰。先行の後漢時代史を参考にしつつ、432年(元嘉9)に完成。120巻(本紀10巻、列伝80巻、志30巻)尚、志はのち宋代に東晋の司馬彪の《続漢書》のそれをもって補ったもの。//大辭典(平凡社)	送返	R1-04
明倫・0481	後漢書	宋范曄撰	1					和紙袋綴刊本 36丁 26.7×19.5	中国の歴史を記した四史の一つ。後漢王朝一代に関する紀伝体の史書。正史の一つ。漢書が前漢の事をさすのに対して本書は後漢20帝の時を記す。南朝宋の范曄撰。先行の後漢時代史を参考にしつつ、432年(元嘉9)に完成。120巻(本紀10巻、列伝80巻、志30巻)尚、志はのち宋代に東晋の司馬彪の《続漢書》のそれをもって補ったもの。//大辭典(平凡社)	送返	R1-05
明倫・0482	後漢書八〇巻	宋范曄撰 唐李賢注	50					和紙袋綴刊本 26.8×19.6 104・62・64・56・46・67・47・41・61・57・61・59・77・47・56・80・63・64・57・55・61・51・52・44・60・46・59・60・41・70・71・82・50・39・51・60・40・52・59・76・62・93・49・51・41・61・43・47・69・39	中国の歴史を記した四史の一つ。後漢王朝一代に関する紀伝体の史書。正史の一つ。漢書が前漢の事をさすのに対して本書は後漢20帝の時を記す。南朝宋の范曄撰。先行の後漢時代史を参考にしつつ、432年(元嘉9)に完成。120巻(本紀10巻、列伝80巻、志30巻)尚、志はのち宋代に東晋の司馬彪の《続漢書》のそれをもって補ったもの。//大辭典(平凡社)	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。「明倫堂御用書物」「学校御用書物」「日州日向高鍋 明倫堂書物」等の墨書あり。	R1-05
明倫・0483	三国志六五巻	晋陳寿撰 宋裴松之注(京・山本平左衛門等)	40			寛文10刊	1670	和紙袋綴刊本 26.7×18.5 99・57・39・75・73・30・47・58・41・53・35・50・54・38・40・51・59・53・62・57・46・60・50・47・39・53・50・44・54・56・54・50・44・54・63・44・62・53・51・49	中国の歴史を記した四史の一つ。魏、蜀、呉の3国が鼎立した3世紀の歴史をあつかう正史。《魏志》30巻、《蜀志》15巻、《呉志》20巻。西晋の陳寿(233-297)の著。//	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。「学校御用」「明倫堂御用書物」「明倫堂御蔵本」「明倫堂」等の墨書、その他書入多数あり。	R1-05
明倫・0484	晋書一三〇巻	唐太宗撰 荻生徂徠等点(京・横江若之助等)	26			元禄15刊	1702	和紙袋綴刊本 26.4×19.2	晋王朝一代の歴史をあつかう正史。本紀10巻、志20巻、列伝70巻のほか、五胡十六国の歴史である載記30巻を含む。唐の太宗の648年、それまでに存在した18種の晋代史を参考にしつつ完成された勅撰の書。//	句送返 巻1〜58欠 72・66・68・76・63・86・73・72・68・74・72・66・57・65・58・63・68・76・68・65・71・61・59・69・58・58	R1-05
明倫・0485	晋書一三〇巻	唐太宗文皇帝御撰 志村三左衛門榊幹句読	27					和紙袋綴刊本 25.8×19.1	晋王朝一代の歴史をあつかう正史。本紀10巻、志20巻、列伝70巻のほか、五胡十六国の歴史である載記30巻を含む。唐の太宗の648年、それまでに存在した18種の晋代史を参考にしつつ完成された勅撰の書。//	送返 巻59〜130欠 37・76・68・80・42・46・52・62・61・42・40・68・51・82・75・46・36・42・73・67・67・68・72・76・73・74・63	R1-05
明倫・0486	北史八八巻	唐李延寿撰(大・伊丹屋善兵衛等)	60					和紙袋綴刊本 26.2×18.6	中国の二十四史の一つ。唐の李延寿撰。659年成立。北朝の魏・齐・周・隋の歴史を一つにまとめたもので、公正・詳密な記述で史料価値が高い。本紀12巻、列伝88巻の全100巻。南史は《宋書》《齊書》《梁書》《陳書》を、北史は《魏書》《北齊書》《周書》《隋書》をそれぞれ簡略にまとめるとともに、いくらか他の材料も用いている。//	句 42・86・75・80・74・88・95・65・50・50・44・61・52・44・44・72・77・75・73・53・50・47・58・44・45・59・80・54・65・69・76・74・65・70・46・51・67・48・79・69・66・77・70・77・60・59・46・63・86・56・50・64・58・60・56・57・44・61・86・76	R1-05
明倫・0487	南史七〇巻	唐李延寿撰(伊丹屋善兵衛)	40					和紙袋綴刊本 25.6×18.0	中国の二十四史の一つ。南朝の歴史をあつかう正史。本紀10巻、列伝70巻。北朝の歴史をあつかう北史とともに初唐の李延寿が父の李大寿(570-628)の遺志をついで完成した。南史は《宋書》《齊書》《梁書》《陳書》を、北史は《魏書》《北齊書》《周書》《隋書》をそれぞれ簡略にまとめるとともに、いくらか他の材料も用いている。//	句 37・79・60・77・59・62・76・47・60・58・58・56・64・58・62・51・62・61・56・47・47・44・56・45・56・60・63・50・77・56・52・46・54・55・60・73・59・64・69・69	R1-05
明倫・0488	唐書二二五巻	宋曾亮編集(京・木村吉兵衛等)	82			寛延1刊	1748	和紙袋綴刊本 25.4×18.3	中国の二十四史の一つ。唐王朝(618〜907)の正史で旧・新の二種ある。旧唐書は後晋の劉昫らの奉勅撰。200巻で、本紀20巻、志30巻、列伝150巻から成る。新唐書は、宋の歐陽修らの奉勅撰。225巻で本紀10巻・志50巻・表15巻は歐陽修が、列伝150巻は宋祁が撰述した。//	送返 70・70・67・63・59・53・65・65・62・57・54・80・62・81・62・66・57・60・53・70・70・55・46・46・67・78・55・63・52・58・43・63・79・34・70・45・44・52・43・59・47・70・62・74・78・73・68・82・70・70・71・84・75・76・77・67・73・76・72・80・69・82・73・76・69・72・73・71・72・69・69・86・73・69・69・86・84・65・54・68・79・76	R1-06
明倫・0489	五代史七四巻	宋歐陽修撰 徐無党注(大・河内屋喜兵衛等)	14			安永2刊	1773	和紙袋綴刊本 24.9×17.9	中国の二十四史の一つ。後梁・後唐・後晋・後漢・後周の五代(907〜960)の正史で、旧・新の2種がある。旧五代史は150巻・目録1巻。宋の薛居正ら奉勅撰。各王朝ごとに本紀と列伝があり、合計本紀61巻・列伝77巻・ほかに志12巻があり、南方の十国については僭偽列伝として叙述している。新五代史は旧五代史改編したもの、もともと五代史記と称し、74巻で宋の歐陽修撰。新五代史が広く流伝したため、通常、五代史は新五代史をさす。//	送返 巻15〜21欠 53・56・47・60・53・47・58・59・56・58・64・60・50・56	R1-06
明倫・0492	資治通鑑二九四巻	宋司馬光等奉勅撰 三嶋中洲校閱 山名善謙訓点	30					和紙袋綴刊本 22.5×15.0	中国、北宋の司馬光が編んだ歴史書。全294巻。戦国時代から五代に至る。前後16王朝、1362年間にわたる治乱のあとを記した編年体の通史。//	句返 在巻1〜125 40・90・87・70・72・87・85・94・69・76・72・68・75・84・90・64・70・77・73・68・90・82・77・76・72・70・68・90・72・71	R1-06
明倫・0493	資治通鑑二九四巻	宋司馬光等奉勅撰 三嶋中洲校 関 山名善謙訓点	30					和紙袋綴刊本 22.5×14.8	中国、北宋の司馬光が編んだ歴史書。全294巻。戦国時代から五代に至る。前後16王朝、1362年間にわたる治乱のあとを記した編年体の通史。//	句返 在巻126〜252在巻 81・73・66・80・74・73・70・63・72・76・75・91・95・79・80・80・76・82・79・81・84・80・84・84・71・93・77・76・82・80	R1-06
明倫・0494	資治通鑑二九四巻	宋司馬光等勅撰 胡三省音註 土井有格等校(津山形屋伝右衛門等)	50			天保7刊	1836	和紙袋綴刊本 26.3×18.0	中国、北宋の司馬光が編んだ歴史書。全294巻。戦国時代から五代に至る。前後16王朝、1362年間にわたる治乱のあとを記した編年体の通史。//	句 在目錄・巻6〜102 87・71・68・56・68・63・65・66・93・67・61・59・59・68・62・61・64・70・71・66・69・60・61・68・70・63・62・60・66・67・57・62・54・68・67・65・67・63・70・64・56・65・70・62・57・65・68・67・69・64	R1-06
明倫・0495	資治通鑑二九四巻	宋司馬光等奉勅撰 胡三省音註 土井有格校(津山形屋伝右衛門等)	43			天保7刊	1836	和紙袋綴刊本 26.5×18.3	中国、北宋の司馬光が編んだ歴史書。全294巻。戦国時代から五代に至る。前後16王朝、1362年間にわたる治乱のあとを記した編年体の通史。//	句 在巻209〜294 76・76・75・75・81・69・78・80・76・71・69・70・68・65・72・66・63・71・76・73・76・71・79・79・75・73・69・67・70・75・74・64・66・65・65・68・66・63・64・61・66・66・63	R1-06
明倫・0496	資治通鑑二九四巻	宋司馬光等奉勅撰 胡三省音註 土井有格校(津山形屋伝右衛門等)	53			天保7刊	1836	和紙袋綴刊本 26.7×18.0	中国、北宋の司馬光が編んだ歴史書。全294巻。戦国時代から五代に至る。前後16王朝、1362年間にわたる治乱のあとを記した編年体の通史。//	句 在巻103〜208 64・68・65・53・65・63・67・62・68・62・70・57・70・51・63・67・70・53・64・55・58・66・69・72・48・47・65・66・48・63・64・68・70・66・62・69・70・70・68・74・69・71・77・73・73・66・65・75・73・71・72・71	R2-01
明倫・0497	資治通鑑二九四巻	司馬光編 天台胡三省音註 山名留三郎訓点(東前田園)	10			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 22.8×15.0	中国、北宋の司馬光が編んだ歴史書。全294巻。戦国時代から五代に至る。前後16王朝、1362年間にわたる治乱のあとを記した編年体の通史。//	句返 在巻253〜294 65・82・77・75・79・90・72・87・79・146	R2-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0498	資治通鑑・総要通論		1					和紙袋綴刊本 63丁 24.8×19.0	中国、北宋の司馬光が編んだ歴史書。全294巻。戦国時代から五代に至る、前後16王朝、1362年間にわたる治乱のあとを記した編年体の通史。//	白	R2-01
明倫・0499	資治通鑑綱目五九巻	宋朱熹 明陳仁錫評閱 三宅道乙点（京神楽岡）	23					和紙袋綴刊本 26.0×18.0	中国の歴史書。59巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	送返 在巻1～14 499-1・12・20・21・22・23は分冊 79・68・92・102・76・111・86・91・93・90・94・68・66・67・115・71・79・92・104・69・79・70・64・59・63・60・71・63・66(1-1, 1-2, 12-1, 12-2, 20-1.20-2が分けてある)	R2-01
明倫・0500	資治通鑑綱目五代統編	宋朱熹 明陳仁錫評閱 （京・神楽岡）	1					和紙袋綴刊本 72丁 26.4×18.2	中国の歴史書。59巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	送返	R2-01
明倫・0501	資治通鑑綱目（前編）五九巻	宋朱熹 明陳仁錫評閱	10					和紙袋綴刊本 26.0×18.0 87・78・79・88・43・94・81・104・67・75	中国の歴史書。59巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	句送返	R2-01
明倫・0502	資治通鑑綱目	宋朱熹 明陳仁錫評閱	23					和紙袋綴刊本 26.2×17.8 96・74・84・68・64・74・80・73・74・84・94・73・77・78・64・67・61・65・67・71・72・74・72・64・72・98・58・64・88・104・63・61・63・111・57・63・99・106(2,3,4,5,8,9,10,11,12,13,14,16,18,19,21,冊目が各2冊分)	中国の歴史書。59巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	送返 在巻38～59 502-1・6・7・15・17・20・22・23以外は分冊	R2-01
明倫・0503	資治通鑑綱目	宋朱熹 明陳仁錫評閱	23					和紙袋綴刊本 26.5×18.4 78・50・118・106・63・64・106・61・56・62・53・89・107・55・68・69・69・98・112・90・86・69・64・78・96・58・64・109・112・73・71・74・69	中国の歴史書。59巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	送返 在巻15～37 503-1・4・6・7・10・11・16・19・22・23は分冊	R2-01
明倫・0504	資治通鑑綱目	宋朱熹 明陳仁錫評閱	12					和紙袋綴刊本 26.5×18.4 71・72・73・70・70・69・101・100・89・110・64・60・110・58・61・99・106(1,2,3,8,10,冊目が各2冊分)	中国の歴史書。59巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	句送返 在巻48～59 504-1・2・3・8・10は分冊	R2-01
明倫・0505	資治通鑑綱目二四巻	宋朱熹 明陳仁錫評閱 （京・山本平左衛門）	13			寛文7刊	1667	和紙袋綴刊本 26.2×18.2 93・55・66・52・53・89・66・66・57・83・59・68・84	中国の歴史書。59巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	送返	R2-01
明倫・0506	資治通鑑綱目五九巻首巻	宋朱熹 明陳仁錫校	29					和紙袋綴刊本 26.6×18.2 79・72・92・102・76・55・60・61・64・93・90・94・70・60・61・112・70・75・92・56・51・69・79・63・71・77・66・71・60・70・59・62・66・67・55・54・58・63・63・106・52・66(1,5,12,17,20,21,22,23,24,25,26,27,29冊目が各2冊分)	中国の歴史書。59巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	句送返 在巻1～20 506-1・5・12・17・20・21・22・23・24・25・26・27・29は分冊	R2-02
明倫・0507	続資治通鑑綱目二七巻	宋朱熹 明陳仁錫評閱 （京・山本平左衛門）	27			寛文8刊	1668	和紙袋綴刊本 26.4×18.3 67・69・50・59・60・51・93・90・95・92・103・106・71・76・68・62・103・88・87・92・54・56・94・87・97・56・52・99・88・83・78・78・103・101(1,2,3,10,11,16,20,冊目が各2冊分)	中国の歴史書。59巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	送返 507-1・2・3・10・11・16・20は分冊	R2-02
明倫・0508	続資治通鑑綱目二七巻	宋朱熹 明陳仁錫評閱	27					和紙袋綴刊本 26.1×18.4 76・67・117・108・93・90・95・99・103・106・73・74・65・65・101・103・89・87・92・106・94・86・97・78・116・81・78・88・99・105	中国の歴史書。60巻。朱熹らの編。成立年未詳。「資治通鑑」を、綱（大要）と目（詳注）に分類して編集したもの。綱で朱熹が史実を要約し、目で門人の趙師淵が批評を加えている。//	送返 508-1・10・11は分冊	R2-02
明倫・0509	歴史大方綱鑑補三九巻	明袁黃撰 鶴銅唐之点 （大・河内屋太助）	10			寛文3刊	1663	和紙袋綴刊本 25.4×18.0 70・65・121・108・70・77・76・92・75・75・108・79・52・65・63・77・59(1,4,5,6,8,9,10冊目が各2冊分)	*歴史綱鑑補は39巻、17篇。明の袁黄撰。資治通鑑以下の諸本を合併して補ったもの。袁黄は中国、明末の思想家。字は坤儀、号は了凡。袁了凡と呼ばれ知られる。//大辭典(平凡社)	送返 在巻20～39 509-1・4・5・6・8・9・10は分冊	R2-02
明倫・0510	歴史大方綱鑑補三九巻首一巻	明袁黄撰 （大・河内屋太助）	20			寛文3刊	1663	和紙袋綴刊本 25.9×18.0 112・96・68・100・58・75・112・62・76・60・71・62・68・113・101・70・65・77・50・108・70・77・76・92・75・75・108・79・52・65・57・77・58(2,4,6,7,8,11,12,14,15,16,18,19,20冊目が各2冊分)	*歴史綱鑑補は39巻、17篇。明の袁黄撰。資治通鑑以下の諸本を合併して補ったもの。袁黄は中国、明末の思想家。字は坤儀、号は了凡。袁了凡と呼ばれ知られる。//大辭典(平凡社)	送返 鼎口趙田了軒先生編纂古本 510-2・4・6・7・8・11・12・14・15・16・18・19・20は分冊	R2-02
明倫・0511	（沢木堂）綱鑑易知録九二巻首一巻	清呉秉権等輯 （大・近江屋平助等）	31					和紙袋綴刊本 24.6×17.0 70・129・129・133・141・131・134・130・131・133・135・134・136・132・134・134・101・138・138・139・135・139・132・140・71・69・67・70・71・68・69	支那歴朝の編年史。107巻。清の呉秉権、周之炯、周之燦の共撰。資治通鑑の煩を削りて、歴代的事績を簡明に記述す。//大辭典(平凡社)	句送返	R2-02
明倫・0512	（沢木堂）綱鑑易知録	清呉秉権等輯	2					和紙袋綴刊本 36・74丁 25.6×17.9	支那歴朝の編年史。107巻。清の呉秉権、周之炯、周之燦の共撰。資治通鑑の煩を削りて、歴代的事績を簡明に記述す。//大辭典(平凡社)	句返	R2-03
明倫・0513	（沢木堂）綱鑑易知録	清呉秉権等輯	35					和紙袋綴刊本 25.6×17.8 43・68・65・68・65・71・68・67・67・70・67・69・69・69・69・64・72・68・70・67・69・55・44・63・74・75・67・75・69・70・74・68・68・67・75	支那歴朝の編年史。107巻。清の呉秉権、周之炯、周之燦の共撰。資治通鑑の煩を削りて、歴代的事績を簡明に記述す。//大辭典(平凡社)	句送返 在巻序～92 巻64は前3頁欠落	R2-03
明倫・0514	（沢木堂）綱鑑易知録九二巻首一巻	清呉秉権等輯	48					和紙袋綴刊本 24.8×18.0 43・36・68・65・68・65・91・66・74・71・68・68・69・70・65・69・67・67・70・67・70・69・69・69・71・69・66・72・68・70・69・69・55・51・68・74・75・67・68・75・69・70・69・74・68・68・67・76	支那歴朝の編年史。107巻。清の呉秉権、周之炯、周之燦の共撰。資治通鑑の煩を削りて、歴代的事績を簡明に記述す。//大辭典(平凡社)	句返	R2-03
明倫・0515	（沢木堂）明鑑易知録一五巻	清呉秉権等輯 （大・近江屋平助等）	5					和紙袋綴刊本 68・75・92・90・91丁 25.0×17.2		句送返 巻5・6欠	R2-03
明倫・0516	（沢木堂）明鑑易知録一五巻	清呉秉権等輯 （大・河内屋源七郎）	13					和紙袋綴刊本 25.3×18.2 67・75・69・92・61・62・63・67・55・不明・79・62・63		句返	R2-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0517	(清太祖高皇帝)易知錄六卷	永根弘等編 元錫校 (大・近江屋平助)	8			嘉永4刊	1851	和紙袋綴刊本 25.0×18.0 60・50・45・57・52・66・61・66		句送返	R2-03
明倫・0518	(沢木堂)綱刊易知錄	清呉秉権等輯	1					和紙袋綴刊本 66丁 25.1×17.9	支那歴朝の編年史。107巻。清の呉秉権、周之炯、周之燦の共撰。資治通鑑の煩を削りて、歴代の事績を簡明に記述す。//大辭典(平凡社)	句返	R2-03
明倫・0519	東華錄一六卷	清蔣良騏 (官版)	16			天保4刊	1833	和紙袋綴刊本 26.4×18.2 36・34・39・38・31・70・38・36・40・37・33・37・35・30・34・32	東華錄は中国、清朝に関する編年体の歴史書。32巻。編者の?良騏、王先謙らは国史館に奉職し、清朝の実録や各種記録を参照して編纂した。ときに実録にない記事が散見する。書名は国史館が宮城の東華門内にあったことに由来する。//	句返	R2-03
明倫・0520	東華錄一六卷	清蔣良騏	12			乾隆30(明和)刊	1765	和紙袋綴刊本 23.8×15.6 46・67・64・63・47・67・64・69・44・69・51・69	東華錄は中国、清朝に関する編年体の歴史書。編者の?良騏、王先謙らは国史館に奉職し、清朝の実録や各種記録を参照して編纂した。ときに実録にない記事が散見する。書名は国史館が宮城の東華門内にあったことに由来する。//	白	R2-03
明倫・0521	(御批)歴代通鑑輯覽一〇二巻	清伝恒等	3					和紙袋綴刊本 104・99・89丁 24.8×15.6		白	R2-03
明倫・0522	宋元通鑑鑑四八巻	明薛应旂撰 明陳仁錫校 (江・和泉屋金右衛門)	96					和紙袋綴刊本 26.2×17.8	* 宋元通鑑は157巻。明の薛應?撰。宋元2代の史書。宋の太祖建隆元年～元の順帝に至る正28年までの約480年間の事績を資治通鑑にならって記述している。//大辭典(平凡社)	句 76・66・50・57・63・57・64・69・69・54・54・65・66・63・65・62・46・61・53・54・49・55・64・53・51・52・64・54・52・63・60・61・60・59・59・56・48・58・55・60・64・62・52・59・55・54・42・58・65・62・52・60・55・53・55・58・67・65・50・57・63・57・64・69・69・54・53・65・66・54・57・62・57・61・53・54・49・56・64・53・61・52・64・54・	R2-03
明倫・0523	明朝紀事本末八〇巻	清谷応泰編著 (江・須原屋茂兵衛等)	30			弘化3	1846	和紙袋綴刊本 26.0×18.2 59・63・51・49・52・54・66・67・56・55・64・55・63・45・54・71・64・69・71・78・82・79・69・69・61・50・48・73・73・41		返	R2-03
明倫・0524	聖武記一四巻	清魏源 (京・琉球廠)	10			道光24(弘化)	1844	和紙袋綴刊本 26.2×15.6 84・108・70・91・63・68・70・94・49・69		白	R2-04
明倫・0525	(標註)十八史略七巻	元曾先之撰	1					和紙袋綴 64丁 23.6×16.6	中国、太古より宋代までの簡略な史書。宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち(史記)から(新五代史)までの十七史に(宋史)の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。……//		R2-04
明倫・0526	(標註)十八史略校本	元曾先之編次 明陳殷音釈 関徳評註	1					和紙袋綴刊本 49丁 24.4×17.8	中国、太古より宋代までの簡略な史書。宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち(史記)から(新五代史)までの十七史に(宋史)の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。……//	句送返	R2-04
明倫・0527	(評註)十八史略校本七巻	元曾先之編次 明陳殷音釈 関徳評註 (大・花井卯助)	4			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 62・51・51・51丁 24.2×17.4	中国、太古より宋代までの簡略な史書。宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち(史記)から(新五代史)までの十七史に(宋史)の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。……//	句送返 巻2・4・6欠	R2-04
明倫・0528	十八史略校本七巻	元曾先之編次 明陳殷音釈 木村方斎纂註 (大・花井卯助)	5			明治24刊	1891	和紙袋綴刊本 73・53・55・65・67丁 22.4×15.2	中国、太古より宋代までの簡略な史書。宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち(史記)から(新五代史)までの十七史に(宋史)の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。……//	句送返 巻3・4欠	R2-04
明倫・0529	(評註)十八史略校本	元曾先之撰	1					和紙袋綴刊本 60丁 24.6×18.0	中国、太古より宋代までの簡略な史書。宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち(史記)から(新五代史)までの十七史に(宋史)の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。……//	句送返 在巻2	R2-04
明倫・0530	(箋註)十八史略校本七巻	近藤元粹註釈 (大・中川勘助)	4			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 63・76・76・117丁 26.4×18.4	中国、太古より宋代までの簡略な史書。宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち(史記)から(新五代史)までの十七史に(宋史)の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。……//	句送返 530-4は分冊	R2-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0531	宋史新編二〇〇巻	明柯維祺編 (大・河内屋吉兵衛)	65			天保6刊	1835	和紙袋綴刊本	中国、太古より宋代までの簡略な史書。 宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち《史記》から《新五代史》までの十七史に《宋史》の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。・・・//	句返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-02・03-07
明倫・0532	(立斎先生標題鮮註釈文)十八史略	元曾先之編 王逢点校 明陳殷音釈 (江・須原屋茂兵衛等)	4			天明5刊	1785	和紙袋綴刊本 53・42・72・71丁 26.8×18.2	中国、太古より宋代までの簡略な史書。 宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち《史記》から《新五代史》までの十七史に《宋史》の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。・・・//	句送返	R2-04
明倫・0533	(立斎先生標題鮮註)十八史略七巻	巖垣彦明校訂 巖垣松苗再校 (京・菱屋孫兵衛)	6			元治1刊	1864	和紙袋綴刊本 65・55・42・55・53・80丁 26.8×18.2	中国、太古より宋代までの簡略な史書。 宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち《史記》から《新五代史》までの十七史に《宋史》の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。・・・//	送返	R2-04
明倫・0534	(立斎先生標題鮮註音釈)十八史略七巻	元曾先之編 王逢点校 明陳殷音釈 (京・出雲寺松柏堂)	13			天明1刊	1781	和紙袋綴刊本 25.8×18.2 72・55・42・55・53・71・55・72・72・55・42・55・53	中国、太古より宋代までの簡略な史書。 宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち《史記》から《新五代史》までの十七史に《宋史》の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。・・・//	句送返	R2-04
明倫・0535	(立斎先生標題鮮註音釈)十八史略		1			天明刊	1781～	和紙袋綴刊本 64丁 26.8×18.0	中国、太古より宋代までの簡略な史書。 宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち《史記》から《新五代史》までの十七史に《宋史》の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。・・・//	送返	R2-04
明倫・0536	(増補)十八史略字解	桜井茂衛編輯	1					和紙袋綴刊本 62丁 12.7×8.6	中国、太古より宋代までの簡略な史書。 宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち《史記》から《新五代史》までの十七史に《宋史》の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。・・・//		R2-04
明倫・0537	十八史略弁蒙上・中・下巻	村山隆子纂輯 著 (讃州高松・今古堂)	4			天保10刊	1839	和紙袋綴刊本 40・39・35・36丁 26.0×18.0	中国、太古より宋代までの簡略な史書。 宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち《史記》から《新五代史》までの十七史に《宋史》の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。・・・//	送返	R2-04
明倫・0538	十八史略鈔本	岡田正之編纂 (東・東京開成館)	1			大正6刊	1917	和紙袋綴刊本	中国、太古より宋代までの簡略な史書。 宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち《史記》から《新五代史》までの十七史に《宋史》の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。・・・//	句送返	H23-07
明倫・0539	十八史略鈔本	簡野道明編 (東・明治書院)	1			昭和2刊	1927	和紙袋綴刊本	中国、太古より宋代までの簡略な史書。 宋末・元初の曾先之撰。2巻。通行本は後代の増補を経て、明の陳殷の音釈、劉?の標題、王逢の点校を付した7巻本。十八史とは正史のうち《史記》から《新五代史》までの十七史に《宋史》の記事を加えるの意である。宋・元代以後、簡易な通史が一般に求められる風潮があり、元・明代の江西地方を中心とする南中国でこの書が歓迎された。史料的价值は低い俗書であるが、多くの故事、逸話を含み、初学者のための入門書として読まれてきた。・・・//	句送返	H23-07
明倫・0540	元明清史略	石村貞一編次 (東生書館)	4			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本		句送返	H23-07
明倫・0541	元明清史略	石村貞一編次 (東・東生亀治郎)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 76丁 22.6×15.6		句送返	R2-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0542	元明清史略三卷	舒弘謬編（東都・前川六左衛門）	2			宝暦1刊	1751	和紙袋綴刊本 86・86丁 26.4×17.8		句	R2-04
明倫・0543	元明清史略五卷	石村貞一編次（東・東生書館）	10			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本		句送返 「第五大学区高嶺学校第廿六中学区」の印あり。	H23-03
明倫・0544	(増補)元明史略	後藤世鈞編 藤原正臣増補	1					和紙袋綴刊本 61丁 26.0×18.4	4巻。後藤芝山(世鈞)著。宝暦元年成。藤原正臣増補刊(1803)。元明2代の歴史で、漢文で記している。明の舒弘謬の古今全史の元朝2代を底本としている。/日本漢文学大辞典/大辞典(平凡社)	句送返	R2-04
明倫・0545	(増補)元明史略四巻	後藤世鈞編 藤原正臣増補 (京・藤井孫兵衛)	4			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 68・89・71・82丁 18.4×13.0	4巻。後藤芝山(世鈞)著。宝暦元年成。藤原正臣増補刊(1803)。元明2代の歴史で、漢文で記している。明の舒弘謬の古今全史の元朝2代を底本としている。/日本漢文学大辞典/大辞典(平凡社)	送返	R2-04
明倫・0546	(増補)元明史略四巻	後藤世鈞編次 藤原正臣増補 (京・菱屋孫兵衛)	8			享和3序刊	1803	和紙袋綴刊本 25.5×17.6 51・61・51・68・51・61・52・68	4巻。後藤芝山(世鈞)著。宝暦元年成。藤原正臣増補刊(1803)。元明2代の歴史で、漢文で記している。明の舒弘謬の古今全史の元朝2代を底本としている。/日本漢文学大辞典/大辞典(平凡社)	句送返	R2-04
明倫・0547	(増補)元明史略四巻	後藤芝山編次 藤原正臣増補 奥野精一標注 (京・藤井孫兵衛)	3			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 51・52・57丁 26.4×18.5	4巻。後藤芝山(世鈞)著。宝暦元年成。藤原正臣増補刊(1803)。元明2代の歴史で、漢文で記している。明の舒弘謬の古今全史の元朝2代を底本としている。/日本漢文学大辞典/大辞典(平凡社)	句送返 巻2欠	R2-04
明倫・0548	国語定本二一巻	秦鼎編 村瀬 詢輔等校（尾張・水楽屋東四郎等）	3			文政2刊	1819	和紙袋綴刊本	「国語」は中国の歴史書。21巻。左丘明の著といわれるが宋詳。春秋時代を中心とする周・魯・齊・晋・鄭・楚・呉・越の各国別の記録。「春秋左氏伝」と並び称された。春秋外伝。/漢籍解題/大辞典(平凡社)	送返 巻1～8欠 「財津蔵書」の印あり。 1～巻末に「明治十四年八月書入… 財津氏所有」 額の餘の墨書あり 2～裏表紙見開きに「明治二年七月十日書上 財津蔵書」「財津主也」の墨書あり。	H23-07
明倫・0549	国語定本二〇巻	呉韋昭解 宋 宋焯補音 秦 鼎定本（大・梅原龜七）	6					和紙袋綴刊本 59・69・52・61・52・72丁 25.2×18.0	「国語」は中国の歴史書。21巻。左丘明の著といわれるが宋詳。春秋時代を中心とする周・魯・齊・晋・鄭・楚・呉・越の各国別の記録。「春秋左氏伝」と並び称された。春秋外伝。/漢籍解題/大辞典(平凡社)	句送返	R2-04
明倫・0550	国語定本	呉韋氏解 宋 宋氏補音 秦 鼎定本	1					和紙袋綴刊本 52丁 25.4×17.8	「国語」は中国の歴史書。21巻。左丘明の著といわれるが宋詳。春秋時代を中心とする周・魯・齊・晋・鄭・楚・呉・越の各国別の記録。「春秋左氏伝」と並び称された。春秋外伝。/漢籍解題/大辞典(平凡社)	送返	R2-04
明倫・0551	国語定本二一巻	呉韋氏解 宋 宋氏補音 秦 鼎定本（大・河内屋茂兵衛等）	5			嘉永7刊	1854	和紙袋綴刊本 79・61・52・69・59丁 25.3×18.0	「国語」は中国の歴史書。21巻。左丘明の著といわれるが宋詳。春秋時代を中心とする周・魯・齊・晋・鄭・楚・呉・越の各国別の記録。「春秋左氏伝」と並び称された。春秋外伝。/漢籍解題/大辞典(平凡社)	送返	R2-04
明倫・0552	貞観政要一〇巻	唐呉兢	8					和紙袋綴刊本 26.0×16.8 38・68・60・37・62・29・31・32	10巻。40編。唐の史家呉兢(670～749)撰。中国、唐の貞観年間(627-649)に、太宗文皇帝が群臣と政治上の得失を問答した言や群臣たちの事跡を分類編纂した書。武后、韋后による政治混乱を経験した時期に、〈貞観の治〉を顕彰せんとする意図で編まれたので、史書としてよりも治道の要諦を説いた政治教科書としての色彩が濃い。中国のみならず朝鮮や日本の為政者に広く読まれた//大辞典(平凡社)	句送返	R2-04
明倫・0553	貞観政要一〇巻	元戈直集論 (大・松村九兵衛等)	9			文政2刊	1819	和紙袋綴刊本 27.4×19.7 44・39・49・59・60・46・46・46・45	10巻。40編。唐の史家呉兢(670～749)撰。中国、唐の貞観年間(627-649)に、太宗文皇帝が群臣と政治上の得失を問答した言や群臣たちの事跡を分類編纂した書。武后、韋后による政治混乱を経験した時期に、〈貞観の治〉を顕彰せんとする意図で編まれたので、史書としてよりも治道の要諦を説いた政治教科書としての色彩が濃い。中国のみならず朝鮮や日本の為政者に広く読まれた//大辞典(平凡社)	送返	R2-04
明倫・0554	貞観政要一〇巻	元戈直集論 (京・吉野屋徳兵衛)	12			天和3刊	1683	和紙袋綴刊本 27.6×19.8 36・43・40・31・47・36・34・30・46・46・46・45	10巻。40編。唐の史家呉兢(670～749)撰。中国、唐の貞観年間(627-649)に、太宗文皇帝が群臣と政治上の得失を問答した言や群臣たちの事跡を分類編纂した書。武后、韋后による政治混乱を経験した時期に、〈貞観の治〉を顕彰せんとする意図で編まれたので、史書としてよりも治道の要諦を説いた政治教科書としての色彩が濃い。中国のみならず朝鮮や日本の為政者に広く読まれた//大辞典(平凡社)	句送返	R2-04
明倫・0555	(校刻)戦国策一〇巻	(京・平安書林)	15			寛保1刊	1741	和紙袋綴刊本 26.4×17.8 45・47・33・48・51・38・40・56・49・47・40・40・47・39・40	古代中国の遊説家の弁論集。原作者は不明。前漢の劉向が宮中の蔵書を整理したおり、〈国策〉〈国事〉〈短長〉などの名称で呼ばれていた諸書を校定し、合わせて1書33編とし、「戦国策」と名づけたという。周の安王から秦の始皇帝の中国統一までの約250年におよぶ、戦国時代の弁士の言説など480条を、12国別に収録している。とくに秦、齊、楚、趙、韓、魏に関するものが多く、蘇秦、張儀、范雎、商鞅、甘茂ら多くの政客弁士が活躍し、政治、経済、軍事、外交などあらゆる分野にわたって権謀術数をふるい、功名を競うさまが描かれ、当時の国	白	R2-04
明倫・0556	戦国策評苑一〇巻	張文 重校 朱 重閣	1					和紙袋綴刊本 97丁 26.2×14.6	戦国策は古代中国の遊説家の弁論集。原作者は不明。前漢の劉向が諸書を校定し、合わせて1書33編とし、「戦国策」と名づけたという。周の安王から秦の始皇帝の中国統一までの約250年におよぶ、戦国時代の弁士の言説など480条を、12国別に収録している。当時の国際関係、世相や人心、弁論術の発達などを知ることができる。//大辞典(平凡社)	句	R2-04
明倫・0557	夷匪犯境聞見録六巻	高鍋藩明倫堂 蔵梓（日向・高鍋藩明倫堂）	6			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 44・40・38・62・50・55丁 25.8×17.5	『夷匪犯境聞見録』は明倫堂刊行の書。アヘン戦争の顛末を記した中国の書を、日向高鍋藩10代藩主秋月種殷(たねとみ)が編纂し明倫堂より刊行したもの。安政4(1857)年編纂。なお、原書は清開名撰、内容は上諭と大臣奏議、沿海数省及び所属府県の公文、編者の見聞、英軍と清政府中央及び地方当局の往来函件の4部で構成。中国に残った原著がなく、明倫堂刊本が逆輸入して中国に普及された。/圖書解題/高鍋藩史話	白(木活)	R2-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0558	夷匪犯境聞見録六巻	高鍋藩明倫堂 蔵梓（日向・ 高鍋藩明倫堂）	6			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 44・40・ 38・62・50・55丁 26.0× 17.7	『夷匪犯境聞見録』は明倫堂刊行の書。アヘン戦争の顚末を記した中国の書を、日向高鍋藩10代藩主秋月種殷（たねとみ）が編纂し明倫堂より刊行したもの。安政4(1857)年編纂。なお、原書は清國名撰。内容は上諭と大臣奏議、沿海数省及び所屬府県の公文、編者の見聞、英軍と清政府中央及び地方当局の往来函件の4部で構成。中国に残った原著がなく、明倫堂刊本が逆輸入して中国に普及された。/國書解題/高鍋藩史話	白	R2-04
明倫・0559	夷匪犯境聞見録六巻	高鍋藩明倫堂 蔵梓（日向・ 高鍋	1			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 38丁 26.6×18.2	『夷匪犯境聞見録』は明倫堂刊行の書。アヘン戦争の顚末を記した中国の書を、日向高鍋藩10代藩主秋月種殷（たねとみ）が編纂し明倫堂より刊行したもの。安政4(1857)年編纂。なお、原書は清國名撰。内容は上諭と大臣奏議、沿海数省及び所屬府県の公文、編者の見聞、英軍と清政府中央及び地方当局の往来函件の4部で構成。中国に残った原著がなく、明倫堂刊本が逆輸入して中国に普及された。/國書解題/高鍋藩史話	白 在巻3(4621を見よ)	R2-04
明倫・0560	戦国策譚〇 一〇巻		5					和紙袋綴刊本 49・47・ 40・47・39丁 26.4×18.6	戦国策は古代中国の遊説家の弁論集。原作者は不明。前漢の劉向が諸書を校定し、合わせて1書33編とし、「戦国策」と名づけたという。周の策王から秦の始皇帝の中国統一までの約250年におよぶ、戦国時代の弁士の言説など480条を、12国別に収録している。当時の国際関係、世相や人心、弁論術の発達などを知ることができる。//大辞典(平凡社)	送返 巻1～5・10欠	R2-04
明倫・0561	(増注標記)二十二史略	清職敏本編 阿部修助注 孫弘国校訂 (東・青山清吉)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 68丁 26.4×18.6	*二十二史とは、二十一史に旧唐書または明史を加えた正史の称。//	句送返	R2-04
明倫・0562	歴代要覧	嬰佑宗 毛利 貞斎点校 (京・龜屋辰之 助等)	1			延宝8刊	1680	和紙袋綴刊本 62丁 26.6×16.6		句送返	R2-04
明倫・0563	(宋朱晦菴先生)名臣言行録後集一四巻	宋朱熹撰 李 衡校 明張采 評 宋学顕 (京・風月荘左 衛門) 馬嘉植 参正	4			寛文7印	1667	和紙袋綴刊本 79・82・ 66・64丁 26.6×16.6	名臣言行録とは中国宋代の名臣とうたわれた人々の言行や逸話などを列伝風に記した書。朱熹の著。〈五朝名臣言行録〉10巻(前集)、〈三朝名臣言行録〉14巻(後集)の総称。前者は宋初より英宗朝に至る65人、後者は英宗朝から徽宗朝に至る42人の伝記をそれぞれ収める。帝王学のテキストとして、また、あるべき臣下の手本として、中国のみならず朝鮮・日本でもよく読まれた。のちに李幼武がこの続編(続集・別集・外集)を著し、南宋の名臣の事跡を補った。//大辞典(平凡社)	送返 (一)総録	R2-04
明倫・0564	(宋朱晦菴先生)名臣言行録 前集後集	宋朱熹撰 李 衡校 明張采 評 宋学顕 馬 渡植参正 (京・村上勘兵 衛)	7			寛文7刊	1667	和紙袋綴刊本 25.2× 17.8 74・88・76・64・ 112・112・79	名臣言行録とは中国宋代の名臣とうたわれた人々の言行や逸話などを列伝風に記した書。朱熹の著。〈五朝名臣言行録〉10巻(前集)、〈三朝名臣言行録〉14巻(後集)の総称。前者は宋初より英宗朝に至る65人、後者は英宗朝から徽宗朝に至る42人の伝記をそれぞれ収める。帝王学のテキストとして、また、あるべき臣下の手本として、中国のみならず朝鮮・日本でもよく読まれた。のちに李幼武がこの続編(続集・別集・外集)を著し、南宋の名臣の事跡を補った。//大辞典(平凡社)	送返 (一)総録	R2-04
明倫・0565	(宋朱晦菴先生)名臣言行録	明張采 兎先評 聞 宋学顕 馬 渡植参正	1					和紙袋綴刊本 64丁 25.4×18.4	名臣言行録とは中国宋代の名臣とうたわれた人々の言行や逸話などを列伝風に記した書。朱熹の著。〈五朝名臣言行録〉10巻(前集)、〈三朝名臣言行録〉14巻(後集)の総称。前者は宋初より英宗朝に至る65人、後者は英宗朝から徽宗朝に至る42人の伝記をそれぞれ収める。帝王学のテキストとして、また、あるべき臣下の手本として、中国のみならず朝鮮・日本でもよく読まれた。のちに李幼武がこの続編(続集・別集・外集)を著し、南宋の名臣の事跡を補った。//大辞典(平凡社)	送返 (一)総録	R2-04
明倫・0566	(宋朱晦菴先生)名臣言行録前集一〇巻	宋朱熹撰 李 衡校 明張采 評 宋学顕 馬 渡植参正 (京・風月荘左 衛門)	3			寛文7印	1667	和紙袋綴刊本 69・71・85 丁 26・6×16.7	名臣言行録とは中国宋代の名臣とうたわれた人々の言行や逸話などを列伝風に記した書。朱熹の著。〈五朝名臣言行録〉10巻(前集)、〈三朝名臣言行録〉14巻(後集)の総称。前者は宋初より英宗朝に至る65人、後者は英宗朝から徽宗朝に至る42人の伝記をそれぞれ収める。帝王学のテキストとして、また、あるべき臣下の手本として、中国のみならず朝鮮・日本でもよく読まれた。のちに李幼武がこの続編(続集・別集・外集)を著し、南宋の名臣の事跡を補った。//大辞典(平凡社)	送返 (一)総録	R2-04
明倫・0567	伊洛三子伝心録	保科正之 山 崎闇斎録	1			寛文12序 刊	1672	和紙袋綴刊本 100丁 27.4×19.2	朱子学上の重要な書「3部書」の一つ。3冊。保科正之編。寛文12年林隠の序。寛文9年山崎嘉の序・跋あり。三子の文集・語録・問答等より性理説に関する文章を特に抜粋した書。会津侯編。三子とは楊龜山、羅豫章、李延平を指す。楊龜山は二程子に学び、静一体験の法を以て人を教え、羅子の二子も又相伝えて静坐を以てその徳を成せり、然るに近儒静坐を以て異端となすものあり、是れ此の編ある所以也(山崎闇斎全集解説)/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 (一)総録	R2-04
明倫・0568	伊洛淵源録	明楊廉	1					和紙袋綴刊本 23丁 26.6×18.6	中国、南宋の朱熹が著した書物。14巻。北宋の周敦頤、程、程頤、邵雍および二程の交友、門人、計47人の伝記や言行、逸話などを載せる。伊洛は伊水、洛水のあたり(つまり洛陽)の人である二程をさすから、本書は二程を中心に道学の源を示した書といえる。当初46人であったが、明の楊廉が伊洛に関する議論を増入し、黄仲昭は各人の事蹟を増加して原著を補い、謝鐸は続6巻を撰した。//大辞典(平凡社)	送返(一)総録	R2-04
明倫・0569	伊洛淵源続録六巻	明謝鐸（京・ 風月荘左衛門）	6			慶安2刊	1649	和紙袋綴刊本 69・63・ 69・72・69・72丁 26.5× 18.4	中国、南宋の朱熹が著した書物。14巻。北宋の周敦頤、程、程頤、邵雍および二程の交友、門人、計47人の伝記や言行、逸話などを載せる。伊洛は伊水、洛水のあたり(つまり洛陽)の人である二程をさすから、本書は二程を中心に道学の源を示した書といえる。当初46人であったが、明の楊廉が伊洛に関する議論を増入し、黄仲昭は各人の事蹟を増加して原著を補い、謝鐸は続6巻を撰した。//大辞典(平凡社)	送返(一)総録	R2-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0570	伊洛淵源統録六卷	明謝鐸（京都書房）	2					和紙袋綴刊本 69・64丁 27.6×18.6	中国、南宋の朱熹が著した書物。14巻。北宋の周敦頤、程、程頤、邵雍および二程の交友、門人、計47人の伝記や言行、逸話などを載せる。伊洛は伊水、洛水のあたり（つまり洛陽）の人である。二程をさすから、本書は二程を中心に道学の源を示した書といえる。当初46人であったが、明の楊廣が伊洛に関する議論を増入し、黄仲昭は各人の事蹟を増加して原著を補い、謝鐸は統6巻を撰した。//大辞典(平凡社)	送返（一）総録	R2-04
明倫・0571	伊洛淵源統録六卷	明謝鐸	1			弘治2刊	1556	和紙袋綴刊本 132丁 26.8×19.2	中国、南宋の朱熹が著した書物。14巻。北宋の周敦頤、程、程頤、邵雍および二程の交友、門人、計47人の伝記や言行、逸話などを載せる。伊洛は伊水、洛水のあたり（つまり洛陽）の人である。二程をさすから、本書は二程を中心に道学の源を示した書といえる。当初46人であったが、明の楊廣が伊洛に関する議論を増入し、黄仲昭は各人の事蹟を増加して原著を補い、謝鐸は統6巻を撰した。//大辞典(平凡社)	送返（一）総録 分冊	R2-04
明倫・0572	伊洛淵源録新增一四巻附一卷	明楊廉（京・風月荘左衛門）	9			慶安2刊	1649	和紙袋綴刊本 26.7×18.8 87・77・82・88・77・82・87・77・82	中国、南宋の朱熹が著した書物。14巻。北宋の周敦頤、程、程頤、邵雍および二程の交友、門人、計47人の伝記や言行、逸話などを載せる。伊洛は伊水、洛水のあたり（つまり洛陽）の人である。二程をさすから、本書は二程を中心に道学の源を示した書といえる。当初46人であったが、明の楊廣が伊洛に関する議論を増入し、黄仲昭は各人の事蹟を増加して原著を補い、謝鐸は統6巻を撰した。//大辞典(平凡社)	送返（一）総録	R2-04
明倫・0573	伊洛淵源録新增一四巻附一卷	明楊廉	3					和紙袋綴刊本 87・79・82丁 27.4×18.4	中国、南宋の朱熹が著した書物。14巻。北宋の周敦頤、程、程頤、邵雍および二程の交友、門人、計47人の伝記や言行、逸話などを載せる。伊洛は伊水、洛水のあたり（つまり洛陽）の人である。二程をさすから、本書は二程を中心に道学の源を示した書といえる。当初46人であったが、明の楊廣が伊洛に関する議論を増入し、黄仲昭は各人の事蹟を増加して原著を補い、謝鐸は統6巻を撰した。//大辞典(平凡社)	送返（一）総録	R2-04
明倫・0574	伊洛淵源録新增一四巻	明楊廉	2					和紙袋綴刊本 64・110丁 26.6×19.2	中国、南宋の朱熹が著した書物。14巻。北宋の周敦頤、程、程頤、邵雍および二程の交友、門人、計47人の伝記や言行、逸話などを載せる。伊洛は伊水、洛水のあたり（つまり洛陽）の人である。二程をさすから、本書は二程を中心に道学の源を示した書といえる。当初46人であったが、明の楊廣が伊洛に関する議論を増入し、黄仲昭は各人の事蹟を増加して原著を補い、謝鐸は統6巻を撰した。//大辞典(平凡社)	送返 巻8〜10欠（一）総録 574-2は分冊	R2-04
明倫・0575	（新統）列女伝三巻	明黄希周等	1			承応2刊	1653	和紙袋綴刊本 54丁 26.2×18.2	中国の古来の著名な女性たちの伝記を、母儀、賢明、仁知、貞順、節義、弁通、?娶の7類に分けて集めている。7巻。編者は前漢の劉向とされる。各伝の終りに《詩経》が引用され、君子の評語がついたりして、教訓的な説話集の形をとるが、たとえば夫が官位につくのを随わぬ接輿の妻の伝が収められたりして、儒家的な価値観のみでまとめられた書物ではない。《古列女伝》ともいう。//大辞典(平凡社)	送返（一）総録	R2-04
明倫・0576	（新刻）古列女伝八巻	漢劉向撰 明胡文煥校	3			承応2刊	1653	和紙袋綴刊本 50・55・40丁 26.4×18.2	「列女伝」は「古列女伝」ともいう。中国の古来の著名な女性たちの伝記を、母儀、賢明、仁知、貞順、節義、弁通、?娶の7類に分けて集めている。7巻。編者は前漢の劉向とされる。各伝の終りに《詩経》が引用され、君子の評語がついたりして、教訓的な説話集の形をとるが、たとえば夫が官位につくのを随わぬ接輿の妻の伝が収められたりして、儒家的な価値観のみでまとめられた書物ではない。//大辞典(平凡社)	送返 巻4〜7欠（一）総録	R2-04
明倫・0577	（新刻）古列女伝八巻	漢劉向撰 明胡文煥校	2					和紙袋綴刊本 66・59丁 26.2×18.6	「列女伝」は「古列女伝」ともいう。中国の古来の著名な女性たちの伝記を、母儀、賢明、仁知、貞順、節義、弁通、?娶の7類に分けて集めている。8巻。編者は前漢の劉向とされる。各伝の終りに《詩経》が引用され、君子の評語がついたりして、教訓的な説話集の形をとるが、たとえば夫が官位につくのを随わぬ接輿の妻の伝が収められたりして、儒家的な価値観のみでまとめられた書物ではない。//大辞典(平凡社)	送返（一）総録	R2-04
明倫・0578	晏氏春秋四巻	旧題齊晏嬰撰 明費之震校（京・植村藤三郎等）	2			元文1刊	1736	和紙袋綴刊本 71・59丁 26.2×18.0	春秋とは中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宣統年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立//	送返	R2-04
明倫・0579	朱子実記一二巻	明戴統	11			寛文2刊	1662	和紙袋綴刊本 27.2×18.6 61・52・56・43・47・46・47・40・25・39・28	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	送返 巻9〜12欠	R2-04
明倫・0580	朱子年譜三巻	明朱堦編 孫叔拱等重編 葉公回校（大・河内屋八兵衛）	2			寛文6刊	1666	和紙袋綴刊本 60・73丁 25.0×18.6	4巻、考異4巻。清の王應鉉編//大辞典(平凡社)	送返	R2-04
明倫・0581	朱子年譜外記二巻	元脱脱撰（上巻）明戴統輯（下巻）（大・河内屋八兵衛）	1					和紙袋綴刊本 40丁 26.7×18.0	朱子年譜は4巻、考異4巻。清の王應鉉編//大辞典(平凡社)	句送返	R2-04
明倫・0582	朱子行状一卷	朝鮮李滉輯註（京・書文堂）	1			正徳2刊	1712	和紙袋綴刊本 40丁 26.8×18.2	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	送返	R2-04
明倫・0583	朱子行状輯註	朝鮮李滉編	1					和紙袋綴刊本 59丁 26.0×19.4	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	送返	R2-04
明倫・0584	朱子行状輯註	朝鮮李滉編	1					和紙袋綴刊本 59丁 27.5×19.2	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	虫害甚大	R2-04
明倫・0585	（東萊先生音註）唐鑑二四巻	宋沈祖禹撰 呂祖謙注（京・風月荘左衛門）	6			寛文9刊	1669	和紙袋綴刊本 70・76・78・70・68・58丁 25.5×18.4	宋の范祖禹撰。24巻。唐の高祖より昭・宣帝に至る史実を記載したもの。//大辞典(平凡社)	送返	R2-04
明倫・0586	（東萊先生音註）唐鑑二四巻	宋沈祖禹撰 呂祖謙注（京・風月荘左衛門）	6			寛文9刊	1669	和紙袋綴刊本 80・75・78・70・68・58丁 25.8×18.2	宋の范祖禹撰。24巻。唐の高祖より昭・宣帝に至る史実を記載したもの。//大辞典(平凡社)	送返	R2-04
明倫・0587	（東萊先生音註）唐鑑二四巻	宋沈祖禹撰 呂祖謙注（京・風月荘左衛門）	6			寛文9刊	1669	和紙袋綴刊本 79・75・78・70・68・58丁 26.2×18.2	宋の范祖禹撰。24巻。唐の高祖より昭・宣帝に至る史実を記載したもの。//大辞典(平凡社)	送返	R2-04
明倫・0588	尚論篇（陽明大意）	明鄭泉撰 陳○等校	1					和紙袋綴刊本 88丁 16.4×11.8			R2-04
明倫・0589	懲毖録四巻	朝鮮楊成龍（大・和屋伊兵衛）	4			元禄8刊	1695	和紙袋綴刊本 30・30・29・29丁 25.8×18.2		送返	R2-04
明倫・0590	入蜀記	宋陸游著 大槻誠之註釈	1					和紙袋綴刊本 46丁 18.4×11.6	紀行文。中国、宋代の詩人。陸游（1125〜1210）著。入蜀記は四川省(蜀)へ赴任の46歳のときの日記。//大辞典(平凡社)	句送返	R2-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0591	入蜀記	宋陸游務観著 大槻誠之註釈 (何不成舎)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 48丁 18.4×11.6	紀行文。中国、宋代の詩人。陸游(1125―1210)著。入蜀記は四川省(蜀)へ赴任の46歳のときの日記。//大辞典(平凡社)	句送返	R2-05
明倫・0592	客杭日記	元郭天錫著 (江・和泉屋金 右衛門等)	1			文化4刊	1807	和紙袋綴刊本 25丁 18.2×12.4	* 元郭撰//	送返	R2-05
明倫・0593	海国図志	清魏源撰 塩 谷甲蔵 眞作 阮甫校 (江・ 須原屋伊八)	3			嘉永7刊	1854	和紙袋綴刊本 48・47・42 丁 25.8×18.2	「海国図志」は中国の地理書に校訂、付訓を施した書。儒者塩谷岩陸、蘭学者眞作阮甫 が校訂、付訓。原書は中国、清末の魏源が著した海外事情紹介をも兼ねた地理書。100巻。後に英國部3巻を増補。魏源は第1次アヘン戦争(1840)のとき、捕虜になったイギリス兵の口述をもとに「英吉利小記」をつくってイギリス事情を紹介。翌年夏、欽差大臣両広総督を罷免された林則徐の依頼により「海国図志」の編纂に着手した。これは林則徐訳「四洲志」(H・マラー)「地理学百科Encyclopaedia of Geography」(1834)の漢	送返	R2-05
明倫・0594	海国図志六〇巻	清魏源撰 塩 谷世弘校 眞 作阮甫 (江・ 須原屋伊八)	2			嘉永7刊	1854	和紙袋綴刊本 44・47丁 26.0×18.4	「海国図志」は中国の地理書に校訂、付訓を施した書。儒者塩谷岩陸、蘭学者眞作阮甫 が校訂、付訓。原書は中国、清末の魏源が著した海外事情紹介をも兼ねた地理書。100巻。後に英國部3巻を増補。魏源は第1次アヘン戦争(1840)のとき、捕虜になったイギリス兵の口述をもとに「英吉利小記」をつくってイギリス事情を紹介。翌年夏、欽差大臣両広総督を罷免された林則徐の依頼により「海国図志」の編纂に着手した。これは林則徐訳「四洲志」(H・マラー)「地理学百科Encyclopaedia of Geography」(1834)の漢	送返	R2-05
明倫・0595	芸海珠塵	呉省蘭輯 丁 校 (財津吉一 享)	1			天保13写	1842	和紙袋綴 34丁 23.6× 16.2		白	R2-05
明倫・0596	月令粹編		1			光緒9(明治16)	1883	和紙袋綴刊本 56丁 15.4×9.3		白	R2-05
明倫・0597	月令粹編		1			光緒9(明治16)刊	1883	和紙袋綴刊本 83丁 15.0×9.3		白	R2-05
明倫・0598	月令粹編		1			光緒9(明治16)刊	1883	和紙袋綴刊本 72丁 15.0×9.4		白 1～17巻	R2-05
明倫・0599	通典二〇〇巻	唐杜佑	40					和紙袋綴刊本 26.6× 17.0 88・71・90・107・ 78・79・84・90・99・97・ 91・94・86・75・96・70・ 77・93・84・82・82・81・ 86・90・85・101・105・ 127・93・101・94・78・75・ 87・93・83・91・81・92・69		白 通制	R2-05
明倫・0600	文献通考三四八巻	宗馬端臨貴与 者	80					和紙袋綴刊本 25.0× 15.8	中国の諸制度を集成した書物。宋末・元初の馬端臨の著。348巻。元の延祐4年(1317)に成る。太古から南宋までの歴史王朝の制度と沿革を24部門に分けて記述する。文献とは《論語》に由来する言葉で、文は典籍、献は賢人の意(朱熹の注)。田賦から四裔に至る各部門ごとに、まず史実を叙述し(文)。次に政治家や学者の議論を載せ(献)。最後に著者自身の見解を加える。//大辞典(平凡社)	白(朱句点若干) 通制 90・121・105・97・88・95・87・103・97・81・87・85・ 89・83・101・84・91・90・96・101・84・86・81・62・67・ 83・81・89・91・68・61・91・72・94・87・90・80・85・ 92・67・87・72・89・87・98・87・84・86・84・93・74・ 88・93・81・91・94・87・91・100・80・93・93・89・84・ 91・76・92・91・108・85・99・95・88・101・92・90・ 101・110	R2-05
明倫・0601	文献通考篇二二巻	清郎星等編	13			康熙甲辰 (寛文4)刊	1664	和紙袋綴刊本 25.4× 16.1 94・81・86・88・ 88・97・95・123・107・91・ 117・115・86	中国の諸制度を集成した書物。宋末・元初の馬端臨の著。348巻。元の延祐4年(1317)に成る。太古から南宋までの歴史王朝の制度と沿革を24部門に分けて記述する。文献とは《論語》に由来する言葉で、文は典籍、献は賢人の意(朱熹の注)。田賦から四裔に至る各部門ごとに、まず史実を叙述し(文)。次に政治家や学者の議論を載せ(献)。最後に著者自身の見解を加える。//大辞典(平凡社)	白 通制	R2-05
明倫・0602	続文献通考二五四巻	明王圻編(雲間 王 折洪洲)	78			万曆31(慶 長8)刊	1603	和紙袋綴刊本 26.1× 16.4	中国の諸制度を集成した書物。宋末・元初の馬端臨の著。348巻。元の延祐4年(1317)に成る。太古から南宋までの歴史王朝の制度と沿革を24部門に分けて記述する。文献とは《論語》に由来する言葉で、文は典籍、献は賢人の意(朱熹の注)。田賦から四裔に至る各部門ごとに、まず史実を叙述し(文)。次に政治家や学者の議論を載せ(献)。最後に著者自身の見解を加える。//大辞典(平凡社)	白 巻17～22欠 通制 602-59の巻195は9頁欠 122・123・84・90・100・92・147・125・109・124・102・ 91・106・83・125・100・95・112・85・114・127・88・ 105・94・95・108・100・104・91・96・97・114・100・ 100・112・87・92・113・115・114・65・66・93・84・ 112・79・85・116・109・76・77・82・90・88・127・88・ 82・77・120・84・83・112・97・100・9	R3-01
明倫・0603	続文献通行篇二二巻	明王圻編(雲間 王 折洪洲)	7					和紙袋綴刊本 77・108・ 76・100・80・85・72丁 25.2×16.2	中国の諸制度を集成した書物。宋末・元初の馬端臨の著。348巻。元の延祐4年(1317)に成る。太古から南宋までの歴史王朝の制度と沿革を24部門に分けて記述する。文献とは《論語》に由来する言葉で、文は典籍、献は賢人の意(朱熹の注)。田賦から四裔に至る各部門ごとに、まず史実を叙述し(文)。次に政治家や学者の議論を載せ(献)。最後に著者自身の見解を加える。//大辞典(平凡社)	白 通制	R3-01
明倫・0604	故唐律疏議三〇巻釈文三〇巻	唐長孫無忌等 奉勅 元王元 亮釈 官版	30			文化2刊	1805	和紙袋綴刊本 25.7× 17.6 44・67・61・53・ 56・40・56・49・53・52・ 47・38・51・50・63・46・ 67・61・53・56・40・56・ 49・53・52・47・62・38・ 50・51		句返 二部 法令	R3-01
明倫・0605	大明律三〇巻	明洪武中勅撰 欽生親校 (大・河内屋和 助等)	45			享保7刊	1722	和紙袋綴刊本 27.2× 19.0	中国、明代の刑法典。明律ともいう。明の太祖洪武帝が、李善長に編集を命じ、唐律を理想として建国の初め1367年に制定した律。ついで1374年、89年、97年と改訂を重ねた。74年律は唐律同様12律であったが、89年律は名例律と吏・戸・礼・兵・刑・工律の七律。97年律も同様で30巻460条。明律は宋・元以来の刑法の影響で刺字の刑や凌遲処死の極刑が加わり、裁判時の法が犯行時まで遡及するなどの法適応の原則の変更もあった。//大辞典(平凡社)	送返 法令	R3-01
明倫・0606	大明律三〇巻	明劉惟謙等奉 勅 荻生観点 (京・風月荘左 衛門)	9			享保7刊	1722	和紙袋綴刊本 25.9× 18.0 52・56・47・45・ 37・40・55・55・54	中国、明代の刑法典。明律ともいう。明の太祖洪武帝が、李善長に編集を命じ、唐律を理想として建国の初め1367年に制定した律。ついで1374年、89年、97年と改訂を重ねた。74年律は唐律同様12律であったが、89年律は名例律と吏・戸・礼・兵・刑・工律の七律。97年律も同様で30巻460条。明律は宋・元以来の刑法の影響で刺字の刑や凌遲処死の極刑が加わり、裁判時の法が犯行時まで遡及するなどの法適応の原則の変更もあった。//大辞典(平凡社)	送返 法令	R3-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0607	大明会典二二八巻首一巻	明申時行等奉勅撰	80			弘治15(文電2)刊	1502	和紙袋綴刊本 30.6×19.8	明会典ともいう。明の典章を網羅したものの。180巻。徐溥らが勅命で撰した。内容は文職衙門・武職衙門の二文目。会典とは中国、明・清代の総合行政法典。明では、1393年諸司職掌がつくられ、天順年間(1457～64)よりその続編作成を機に会典編集が始まった。弘治年間(1488～1505)にひとまず成ったが、校訂が施され、1509年に刊行。それが1582年に大増修された。これを万厯会典とよぶ。//大辞典(平凡社)	句 法令	R3-02
明倫・0608	欽定大清会典一六二巻	清伊桑阿等奉勅撰	17					和紙袋綴刊本 18.3×12.6 71・62・50・58・70・77・70・72・90・77・73・75・60・95・94・75・73	中国、清朝の基本法典の一つ。乾隆26年勅命で編集。清代を通じて5回編集された。(1)《康熙会典》162巻(1690)、(2)《雍正会典》250巻(1732)、(3)《乾隆会典》100巻(1764)、(4)《嘉慶会典》80巻(1819)、(5)《光緒会典》100巻(1899)。会典は行政に関する基本法の総合的法典で、その本文は容易に変更されないが、施行例および細則である事例(または則例)は時代とともに変更、追加されることが少なくなかった。//大辞典(平凡社)	句 法令	R3-02
明倫・0609	万国公法	重野安繹訳(東・万屋兵四郎)	6			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 47・42・48・31・21丁 25.5×17.2	アメリカの国際法学者ホイートンHenry Wheaton(中国語表記は惠頓)のスタンダードな国際法の教科書《Elements of International Law》(1836初版)の中国在住アメリカ人宣教師W・マーテン(丁韓良)による中国語訳(底本はおそらく1855年の6版)。1864年刊。翌1865年(慶応1)に幕府開成所により訓点・振りがなを付して翻刻刊行され、維新後も版を重ねた。なお重野安繹の和訳本(鹿児島藩蔵梓、1870)、高谷竜洲の注釈本(済美堂刊、1876)など、和訳本・注釈本も数種刊行さ	句送返 通文	R3-02
明倫・0610	万国公法	重野安繹訳述(鹿児島藩)	3					和紙袋綴刊本 丁数不明	アメリカの国際法学者ホイートンHenry Wheaton(中国語表記は惠頓)のスタンダードな国際法の教科書《Elements of International Law》(1836初版)の中国在住アメリカ人宣教師W・マーテン(丁韓良)による中国語訳(底本はおそらく1855年の6版)。1864年刊。翌1865年(慶応1)に幕府開成所により訓点・振りがなを付して翻刻刊行され、維新後も版を重ねた。なお重野安繹の和訳本(鹿児島藩蔵梓、1870)、高谷竜洲の注釈本(済美堂刊、1876)など、和訳本・注釈本も数種刊行さ	句送返 通文 コーナー系替	R3-02
明倫・0611	陸官公奏議四巻	唐陸贄撰 田口文之校(東・田口文之)	4			安政6刊	1859	和紙袋綴刊本 39・43・45・63丁 25.7×17.8	22巻。唐の陸贄撰。奏草・奏議・制告に分けている。(翰苑奏ともいう)//大辞典(平凡社)	白 横尾葉の名あり	R3-02
明倫・0612	東坡策三巻	宋蘇軾 森森大雅輯評(東・和泉屋吉兵衛等)	2			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 38・34丁 17.9×12.3	蘇東坡文集からその策文のみを抄出し、訓点を施したもの。3巻。森森大雅著。成立年未詳。蘇東坡とは宋代の士大夫であり、唐宋八大家の一人である蘇軾のこと。//大辞典(平凡社)	句返 上巻欠	R3-02
明倫・0613	蘇長公論策三巻	宋蘇軾 丹羽正清校(大・四書堂)	3			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本	蘇長公とは宋代の士大夫であり、唐宋八大家の一人である蘇軾のこと。//大辞典(平凡社)	句送返 コーナー系替	R3-02
明倫・0614	金石例一〇巻墓銘銘例	楊本端如編輯 王思明重校正	4			明和5刊	1768	和紙袋綴刊本 53・69・56・59丁 25.8×18.4	金石例は金石学に関する書。10巻。元の潘昂霄撰。碑碣の制・始作の本・銘土の式・辭義の要を説明している//漢籍研究/大辞典(平凡社)	白	R3-02
明倫・0615	孔子家語一〇巻	魏王肅(京・風月宗智)	2			寛永15刊	1638	和紙袋綴刊本 84・59丁 28.7×19.3	孔子の言行や、孔子と門人との問答などを集めた書。10巻。著者不明。原本は27巻あったといいが、散逸。現存のもののは魏の王肅の偽作とされる。日本にも平安時代から伝わる。日本では寛永15年京都風月宗智刊本がある。//大辞典(平凡社)	句送返 巻1～4欠	R3-02
明倫・0616	荀子二〇巻	唐楊倞注(江・和泉屋金右衛門)	7			文政13刊	1830	和紙袋綴刊本 59・40・44・41・43・48・67丁 26.0×17.6	中国、戦国時代の思想家荀卿の著作。荀卿(前298?・前235ころ)は趙(山西省)の人。20巻。唐楊倞注延享2年刊。江戸梅村弥市郎覆明刊行印本10冊。//長澤規矩也著作集	句送返 巻1・2欠	R3-02
明倫・0617	荀子	周荀況撰	2					和紙袋綴刊本 52・59丁 26.5×18.1	中国、戦国時代の思想家荀卿の著作。荀卿(前298?・前235ころ)は趙(山西省)の人。20巻。唐楊倞注延享2年刊。江戸梅村弥市郎覆明刊行印本10冊。//長澤規矩也著作集	句	R3-02
明倫・0618	荀子二〇巻	周荀況撰 唐楊倞注 明川善庵校開(平戸維新館)	8			文政13刊	1830	和紙袋綴刊本 59丁 26.0×18.0	中国、戦国時代の思想家荀卿の著作。荀卿(前298?・前235ころ)は趙(山西省)の人。20巻。唐楊倞注延享2年刊。江戸梅村弥市郎覆明刊行印本10冊。//長澤規矩也著作集	句送返	R3-03
明倫・0619	荀子二〇巻	唐楊倞注(江・西宮弥兵衛等)	7			文政13刊	1830	和紙袋綴刊本 (№1～5不明)48・55	中国、戦国時代の思想家荀卿の著作。荀卿(前298?・前235ころ)は趙(山西省)の人。20巻。唐楊倞注延享2年刊。江戸梅村弥市郎覆明刊行印本10冊。//長澤規矩也著作集	句送返 巻1・2欠 コーナー、系替	R3-03
明倫・0620	荀子二〇巻	唐楊倞注(京・葛西市郎兵衛)	10			延享2刊	1745	和紙袋綴刊本 26.0×17.8 61・58・49・45・42・54・39・44・43・64	中国、戦国時代の思想家荀卿の著作。荀卿(前298?・前235ころ)は趙(山西省)の人。20巻。唐楊倞注延享2年刊。江戸梅村弥市郎覆明刊行印本10冊。//長澤規矩也著作集	句	R3-03
明倫・0621	説苑二〇巻	漢劉向撰 明程榮校(江・千鍾房)	10					和紙袋綴刊本 26.1×18.1 28・50・33・45・39・35・36・31・44・47	説苑は中国、前漢の劉向の編。君主を戒めるための前賢先哲の故事・伝説集。20巻。散逸していたのを、宋の曾鞏が復した。内容・体裁ともに同著者の《新序》に類似する。//	句送返	R3-03
明倫・0622	忠経補注	漢馬融撰 山井幹六校補(東・石塚徳次郎)	1			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 34丁 22.5×15.1		句送返	R3-03
明倫・0623	忠経補註全	漢馬融撰 漢鄭玄註 山井幹六校補	1			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 36丁 22.2×14.9		句送返	R3-03
明倫・0624	(曹大家)文誠図会		1					和紙袋綴刊本 19丁 25.3×18.3			R3-03
明倫・0625	帝範二巻	唐太宗撰(京・出雲寺和泉)	4			元仁2刊	1225	和紙袋綴刊本 36・36・36・36丁 25.2×18.7	中国の政治書。4巻12編。唐の太宗撰。648年成立。帝王として規範とすべき事項を記し、太宗の子(のちの高宗)に与えたもの。「貞観政要」とともに、帝王学の教科書として有名。//	送返	R3-03
明倫・0626	臣軌二巻	唐太宗撰(京・出雲寺和泉)	4			寛文8刊	1668	和紙袋綴刊本 56・56・56丁 25.2×19.0	唐の則天武后撰。人臣たる者の法とすべきことを述べている。//大辞典(平凡社)	送返	R3-03
明倫・0627	(鄭氏)女孝経図絵		1					和紙袋綴刊本 37丁 25.0×18.3	女四書の一つで女性のための教科書。女四書とは中国、清代に王晋升(王相)が編修した「女誠」「女論語」「内訓」「女範」の4種。康熙年間(1662～1722)成立。日本にも伝わり、江戸前期に辻原元甫が和訳した。明暦2年(1656)刊。尚、「女範」の代わりに「女孝経」が印行された。//		R3-03
明倫・0628	太極図説全	(京・寿文堂)	2			延宝8刊	1680	和紙袋綴刊本 61・61丁 27.6×19.6	中国、宋代の哲学書。1巻。周敦頤著。成立年未詳。宇宙の生成、人倫の根源を表すとされる「太極図」と、それに施した249字の解説からなる。のち、朱熹が「太極図説解」を著したため、朱子学の聖典とされた。//大辞典(平凡社)	送返	R3-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0629	太極図説全	宋周敦頤 宋朱熹（京・山崎寿文堂）	3			延宝8刊	1680	和紙袋綴刊本 61・61・58丁 27.7×19.2	中国、宋代の哲学書。1巻。周敦頤著。成立年未詳。宇宙の生成、人倫の根源を表すとされる「太極図」と、それに施した249字の解説からなる。のち、朱熹が「太極図説解」を著したため、朱子学の聖典とされた。//大辭典(平凡社)	送返	R3-03
明倫・0630	周子全書七巻	宋周敦頤撰	2					和紙袋綴刊本 46・43丁 26.2×18.5	宋の周濂溪の全集（清の重校の編集による22巻本が最もおこなわれている）//大辭典(平凡社)	送返 巻1欠	R3-03
明倫・0631	周書全書	宋周敦頤撰 宋朱熹注釈 明徐必達校	1					和紙袋綴刊本 52丁 26.3×18.5	宋の周濂溪の全集（清の重校の編集による22巻本が最もおこなわれている）//大辭典(平凡社)	送返	R3-03
明倫・0632	西銘	宋張載撰 朱熹解	2					和紙袋綴刊本 13・13丁 27.1×18.0	西銘とは「正蒙」のこと。北宋の張横渠の著。1076年。易経や論語、孟子、中庸を縦横に引用しつつ、自らの思想を表明している。/岩波哲学・思想家辞典/	送返	R3-03
明倫・0633	西銘解	宋張載撰 朱熹解	1			宝暦3写	1753	和紙袋綴 21丁 22.5×15.9	朱子による西銘の解釈書。西銘とは「正蒙」のこと。北宋の張横渠の著。1076年。易経や論語、孟子、中庸を縦横に引用しつつ、自らの思想を表明している。//		R3-03
明倫・0634	西銘	宋張載撰 朱熹解	2					和紙袋綴刊本 12・12丁 27.2×19.2	西銘とは「正蒙」のこと。北宋の張横渠の著。1076年。易経や論語、孟子、中庸を縦横に引用しつつ、自らの思想を表明している。/岩波哲学・思想家辞典/	句送返	R3-03
明倫・0635	西銘		1					和紙袋綴刊本 11丁 27.6×19.2	西銘とは「正蒙」のこと。北宋の張横渠の著。1076年。易経や論語、孟子、中庸を縦横に引用しつつ、自らの思想を表明している。/岩波哲学・思想家辞典/	送返	R3-03
明倫・0636	張子全書一五巻	宋張載撰（京・天王寺屋市兵衛）	6			延宝3刊	1675	和紙袋綴刊本 72・47・61・57・57・46丁 26.1×18.5	15巻。宋の張横渠撰。西銘・東銘・正蒙・経学理語・易説・語録・性理拾遺・文・詩等を集めている。/大辭典(平凡社)/	送返 巻1・2・4～8・12・13欠	R3-03
明倫・0637	張子全書一五巻	宋朱熹註釈 明徐必達校正	4					和紙袋綴刊本 39・74・50・75丁 26.4×18.5	15巻。宋の張横渠撰。西銘・東銘・正蒙・経学理語・易説・語録・性理拾遺・文・詩等を集めている。/大辭典(平凡社)/	送返 巻9～11・15・16欠	R3-03
明倫・0638	二程全書六八巻	宋朱熹編	28					和紙袋綴刊本 27.3×17.5 58・67・42・65・63・94・69・41・45・64・60・74・69・80・58・45・76・49・72・70・55・54・63・44・65・49・66・49	中国の思想書。68巻。明の徐必達校訂。1606年刊。北宋・道学派の儒教思想家として有名な程顥・程頤(程明道・程伊川)兄弟の文集・語録・著述などを集大成したもの。宋学の先駆となる著書集。/岩波哲学・思想家辞典/大辭典(平凡社)	送返	R3-03
明倫・0639	二程治教録二巻	保科正之編（京・寿文堂）	2			寛文8刊	1668	和紙袋綴刊本 59・76丁 27.7×19.8	朱子学上重要な書物「三部書」の一つ。保科正之編。全2巻。寛文8年(1668)成立。宋の程明道・程伊川兄弟の二程全書(68巻)の中から、治教に関するものを抜粋して政治思想の本質を明らかにするとともに、為政者の参考と為した。明道は易と中庸を主とし、物を渾然一体として考え、伊川は『大学』と『孟子』を中心とし、治国平天下を最終目標とした。横田俊益と山崎闇斎が編集を補助し、林春斎の序、山崎闇斎の序と跋がある/圖書解題/大辭典(平凡社)	送返	R3-03
明倫・0640	程董二先生学則一卷	宋程端蒙 董銖著	1			淳熙丁未(文治3)刊	1187	和紙袋綴刊本 9丁 26.8×19.3	二程とは北宋の道学派の儒教思想家として有名な程顥・程頤兄弟(程明道・程伊川)のこと。/岩波哲学・思想家辞典/		R3-03
明倫・0641	伊川先生四箴	宋程頤（浅見安正）	1					和紙袋綴刊本 18丁 28.0×19.1	伊川とは北宋の道学派の儒教思想家として有名な程頤(程伊川)のこと。/岩波哲学・思想家辞典/	送返	R3-03
明倫・0642	延平李先生師弟答問後録	宋朱熹編（京・風月宗智）	3			正保3・4	1646・1647	和紙袋綴刊本 50・56丁 27.6×18.0		句送返	R3-03
明倫・0643	近思録	(大・武村佐兵衛等)	3					和紙袋綴刊本 87・96・84丁 25.6×18.3	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編集した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の遺集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。///大辭典(平凡社)	送返	R3-03
明倫・0644	近思録一四巻	宋朱熹	1					和紙袋綴刊本 86丁 25.8×19.3	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編集した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の遺集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。///大辭典(平凡社)		R3-03
明倫・0645	近思録	宋朱熹	2					和紙袋綴 47・34丁 24.4×17.0	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編集した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の遺集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。///大辭典(平凡社)		R3-03
明倫・0646	近思録一四巻	宋朱熹 呂祖謙撰（大・武村佐兵衛）	7			淳熙3(仁安2)	1167	和紙袋綴刊本 54・24・21・52・49・104・84丁 26.1×19.0	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編集した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の遺集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。///大辭典(平凡社)	送返	R3-03
明倫・0647	近思録一四巻	宋朱熹 呂祖謙撰	3			寛文10刊	1670	和紙袋綴刊本 80・54・49丁 26.0×18.3	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編集した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の遺集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。///大辭典(平凡社)		R4-01
明倫・0648	近思録一四巻	宋朱熹 呂祖謙撰	2					和紙袋綴刊本 97・91丁 26.0×18.5	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編集した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の遺集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。///大辭典(平凡社)	送返	R4-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫-0649	近思錄一四卷	宋朱熹 呂祖謙編（京・吉野屋権兵衛）	4			寛文13刊	1673	和紙袋綴刊本 68・53・60・65丁 27.2×17.8	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の選集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0650	近思錄一四卷	(京・寿文堂)	2			寛文10刊	1670	和紙袋綴刊本 92・96丁 26.6×18.6	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の選集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0651	近思錄一四卷	(京・井上清兵衛)	2			安永3刊	1774	和紙袋綴刊本 96・92丁 25.7×18.2	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の選集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0652	近思錄一四卷	宋朱熹編 宋葉采集解（京・出雲寺和泉）	6			延宝6刊	1678	和紙袋綴刊本 66・68・71・72・61・46丁 26.0×18.6	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の選集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0653	近思錄一四卷	宋朱熹	4					和紙袋綴刊本 83・88・73・68丁 27.0×19.3	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の選集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0654	近思錄		1					和紙袋綴刊本 79丁 22.4×15.9	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の選集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0655	近思錄	宋朱熹	1			寛政1写	1789	和紙袋綴 48丁 24.5×17.2	中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の選集。宋の淳熙2年、14巻。北宋の4人の道学者、周濂溪、程明道、程伊川、張横渠の著作や語録のなから、道学を修めるうえで重要な語を抜粋し、項目別に再構成したもので、道学の入門書として、中国・日本・朝鮮で広く読まれた。//大辭典(平凡社)		R4-01
明倫-0656	近思錄附案		1					和紙袋綴 15丁 24.6×17.2	近思錄は中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の選集。//	送返	R4-01
明倫-0657	近思錄抄説		2					和紙袋綴 110・84丁 26.6×19.3	近思錄は中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の選集。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0658	近思錄説略一四卷	(芳野屋権兵衛)	4			享保5刊	1720	和紙袋綴刊本 92・80・76・87丁 27.6×18.3	呂素謙の近思錄を略註注解している。5巻 江戸時代沢田庵の著 享保5年(1720)自序と共に刊行/日本漢文学大辞典/	送返 巻5〜9欠	R4-01
明倫-0659	近思錄備考一四卷	貝原益軒編（吉野屋権兵衛）	2			寛文8刊	1668	和紙袋綴刊本 122・138丁 27.0×19.0	呂素謙の近思錄の字義訓詁について注解考証している。江戸時代貝原益軒の著 14巻寛文8年(1668)自跋と共に刊行/日本漢文学大辞典/	送返 659-2は分冊	R4-01
明倫-0660	(朱文公)童蒙須知一卷	宋朱熹撰（大・平瀬新四郎）	1			元禄16刊	1703	和紙袋綴刊本 22丁 26.7×18.8	童蒙須知は南宋の朱熹の著。童蒙とは子ども(物事の道理に蒙き者の意。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0661	(朱文公)童蒙須知	宋朱熹撰（宇都宮由武(源庵)）首書（大・千種屋平兵衛）	1			元禄16刊	1703	和紙袋綴刊本 21丁 26.8×19.2	童蒙須知は南宋の朱熹の著。童蒙とは子ども(物事の道理に蒙き者の意。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0662	童蒙須知(筆記)	宋朱熹撰	1					和紙袋綴 13丁 24.4×16.2	童蒙須知は南宋の朱熹の著。童蒙とは子ども(物事の道理に蒙き者の意。//		R4-01
明倫-0663	白鹿洞揭示(筆記)	宋朱熹	1					和紙袋綴 39丁 24.0×16.9			R4-01
明倫-0664	小学二篇	宋朱熹（大・武村佐兵衛等）	3					和紙袋綴刊本 76・76・76丁 26.5×18.8	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0665	(標題註疏)小学集成一〇巻	(京・風月庄左右衛門)	8			万治1刊	1658	和紙袋綴刊本 26.5×19.0 77・70・66・57・122・77・70・65	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0666	小学六巻	宋朱熹撰 明陳澧句読（大・加賀屋善藏）	4			嘉永3刊	1850	和紙袋綴刊本 48・48・38・54丁 25.5×17.9	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	句送返	R4-01
明倫-0667	小学(句読)六巻	明陳澧句読（川崎治郎右衛門）	2			寛文10刊	1670	和紙袋綴刊本 92・104丁 25.8×18.9	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送	R4-01
明倫-0668	小学(内編)	(丹後・明倫堂)	2					和紙袋綴刊本 76・72丁 25.1×18.8	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫-0669	小学(内篇)	山崎嘉点	3					和紙袋綴刊本 76・76・76丁 26.0×18.8	山崎間斎点。小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	書き込みが多い 書入れ「小丸上/泥谷氏」	R4-01
明倫-0670	小学(纂註)	清高愈編（江・英平吉）	4			文政5刊	1822	和紙袋綴刊本 56・40・53・65丁 25.2×17.5	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	句送返	R4-01
明倫-0671	小学六巻	明陳澧句読 楊衡定本 景山陶校正（大・河内屋喜兵衛等）	8			享保6刊	1721	和紙袋綴刊本 25.7×18.3 46・32・40・42・55・38・48・47	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0672	小学内篇	宋朱熹	3			淳熙丁未 (文治3)刊	1187	和紙袋綴本 76・76・76 丁 25.4×18.0	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)		R4-01
明倫・0673	小学句読集疏一〇巻目錄一卷	竹田定直編次	1					和紙袋綴本 43丁 25.7×18.3	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0674	小学句読集疏	貝原益軒鑑定 竹田定直編次 (江・書林名山閣)	5			天保9刊	1838	和紙袋綴本 37・43・ 44・48・37丁 26.0×18.2	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0675	小学(内篇・外篇)	宋朱熹(京・ 出雲寺松柏)	2					和紙袋綴本 38・丁	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0676	小学句読集疏一〇巻	貝原益軒鑑定 竹田定直編次 (江・和泉屋吉兵衛等)	6			天保9刊	1838	和紙袋綴本 51・51・ 26・35・38丁 26.0×18.2	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返 巻1・4・5・9欠	R4-01
明倫・0677	小学書説		5					和紙袋綴 57・50・60・96・ 76丁 23.9×16・6	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	白	R4-01
明倫・0678	小学外篇	(宮崎・佐土原 学官館)	1					和紙袋綴本 77丁 27.1×18.5	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	白 全6巻/宋朱熹撰 佐土原藩の藩校「佐土原学官館」(文政8設立・島津氏)の出版物 * 成立年は『近世藩校における出版書の研究』(吉川公文館)より記載	R4-01
明倫・0679	小学外篇	山崎嘉点 (風 月又一郎)	4			延宝4刊	1676	和紙袋綴本 76・76・ 76・76丁 26.2×18.7	山崎闇斎点。小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0680	小学集疏一〇巻	竹田定直編次 (京・和泉屋吉兵衛等)	22			天保9刊	1838	和紙袋綴本 26.0× 18.0・37・43・50・50・ 44・47・25・35・38・37・ 45・37・43・50・50・44・ 48・26・35・38・37・44	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0681	小学本註一〇巻	浦野庄三郎訓 点 (東・福田 屋勝蔵等)	2			嘉永2刊	1849	和紙袋綴本 84・86丁 26.0×19.0	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	句送返	R4-01
明倫・0682	小学句読口義詳解一三巻	明陳道句読 (京・風月庄左衛門)	7			延宝8刊	1680	和紙袋綴本 84・86・ 76・106・112・71・73丁 25.7×18.9	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0683	小学		1					和紙袋綴本 75丁 25.0×18.0	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0684	小学	(京・武村市兵衛等)	1					和紙袋綴本 73丁 27.2×19・1	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0685	小学	高愈集註	1					和紙袋綴本 51丁 26.0×15.7	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	句	R4-01
明倫・0686	小学内篇		1					和紙袋綴本 76丁 26.6×17.1	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0687	小学内篇		1					和紙袋綴本 74丁 26.7×18.5	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	白	R4-01
明倫・0688	小学纂註校本	清高愈纂註 五十川左武郎 校本 (大・此 村庄助等)	3			明治15刊	1882	和紙袋綴本 34・45・46 丁 24.7×17.7	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	句送返	R4-01
明倫・0689	小学集註		1					和紙袋綴本 109丁 26.6×19.6	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0690	小学句読集疏	貝原益軒鑑定 竹田春竜編次 (東・名山閣)	1					和紙袋綴本 37丁 25.7×18.3	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0691	小学叢書集	山崎嘉点 (京・寿文堂)	2			延宝9刊	1681	和紙袋綴本 95・43丁 26.3×17.6	小学の注釈書。山崎嘉(闇斎)著。3巻。朱熹の語類文集中から小学を引用した語句を説明したもの。//大辭典(平凡社)	送返	R4-01
明倫・0692	朱子抄略三巻	山崎嘉編 (京・寿文堂)	2			延宝8序延 宝9刊	1681	和紙袋綴本 116・96丁 27.2×19.3	山崎闇斎編。朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	送返	R4-01
明倫・0693	朱子語類一四〇巻	明朱吾弼編 鵜飼信之 (安 井)真祐点	28					和紙袋綴本 27.0× 17.9 73・61・85・127・ 73・61・65・114・73・111・ 56・100・68・82・71・94・ 71・88・104・96・75・94・ 130・84・110・109・130・ 105・74(13冊目が2冊分)	朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。(理氣)〈鬼神〉(性理)〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	巻34～38・59～64・74～79・89～105・122～126・138～140欠	R4-01
明倫・0694	朱子語類一四〇巻	明朱吾弼編 鵜飼信之 (安 井)真祐点 (山形屋)	38			寛文8刊	1668	和紙袋綴本 27.0× 19.2 70・60・75・37・ 80・61・45・111・57・100・ 117・86・70・101・130・ 65・118・66・104・93・74・ 43・94・73・44・77・55・ 61・74・66・110・128・45・ 61・38・61・84・73	朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。(理氣)〈鬼神〉(性理)〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返 巻17・18・20～24・28～29欠	R4-02
明倫・0695	朱子語類一四〇巻	明朱吾弼編 鵜飼信之 (安 井)真祐点 (山形屋)	59			寛文8刊	1668	和紙袋綴本 27.2× 17.7 73・61・75・77・ 53・73・61・65・61・57・ 73・69・64・107・81・55・ 77・64・76・64・42・64・ 83・61・69・48・43・48・ 71・75・65・72・57・63・ 45・75・43・55・49・58・ 46・53・53・78・74・64・ 55・55・62・68・59・51・ 54・85・50・56・74・51・54	朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。(理氣)〈鬼神〉(性理)〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返 巻32・33・65・66・134～136欠	R4-02
明倫・0696	朱子語類一四〇巻		27					和紙袋綴本 27.2× 18.5 74・83・61・48・ 43・48・50・75・55・49・ 58・45・51・78・74・64・ 55・55・58・59・51・54・ 85・61・56・74・54	朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。(理氣)〈鬼神〉(性理)〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0697	朱子語類		1					和紙袋綴本 57丁 27.5×18.2	朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。(理氣)〈鬼神〉(性理)〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0698	朱子語類		1					和紙袋綴刊本 63丁 27.4×18.3	朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0699	朱子語類		2					和紙袋綴刊本 73・61丁 27.1×18.1	朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0700	朱子語類		4					和紙袋綴刊本 45・43・62・51丁 27.5×17.9	朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	句送返	R4-02
明倫・0701	(重録)朱子語類		3					和紙袋綴刊本 76・64・42丁 27.2×18.3	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0702	(重録)朱子語類		16					和紙袋綴刊本 27.0×17.8 96・62・108・131・106・92・53・98・19・41・18・32・61・45・61・73	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0703	(重録)朱子語類		1					和紙袋綴刊本 57丁 27.2×18.0	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0704	(重録)朱子語類		4					和紙袋綴刊本 73・65・77丁 27.4×18.1	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0705	(重録)朱子語類一四〇巻		2					和紙袋綴刊本 69・74丁 27.1×18.2	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0706	(重録)朱子語類		2					和紙袋綴刊本 71・65丁 27.2×18.3	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0707	(重録)朱子語類		7					和紙袋綴刊本 61・73・69・64・56・81・55丁 27.4×18.4	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	句送返	R4-02
明倫・0708	(重録)朱子語類		1					和紙袋綴刊本 99丁 27.3×19.0	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0709	朱子語類大全一四〇巻	鵜飼信之点	1					和紙袋綴刊本 50丁 27.4×17.9	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したもの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。〈理氣〉〈鬼神〉〈性理〉〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	送返	R4-02
明倫・0710	朱子書節要二〇巻	朝鮮李滉編 (京・上村次郎右衛門)	20			寛文11刊	1671	和紙袋綴刊本 26.3×19.2 53・44・45・47・29・33・59・40・48・43・55・40・44・52・30・55・50・38・54・44	(朱子書節用か?)—朱子書節用…朱子語類を抜粋してまとめたもの。朱子学の入門書として用いられた。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0711	敬斎箴	宋朱熹撰 山崎嘉編	1			明暦1序刊	1655	和紙袋綴刊本 19丁 26.9×19.8	山崎闇斎編。*「敬斎箴」は朱熹の著。修養の中で「敬」を重んじ、その実践法を説いたもの。『居敬』などが説かれている(居敬とは、朱子学における修養法の一つで、日常のいかなる時であっても意識を集中させ心を安静の状態(敬)に置くこと) この箴は朱子の修養論を見るに極めて重要な物也、然るに元明の儒者、その真義を知るもの甚稀なり、先生之を愛い之を表出して各条下に分註を施せるものなり、また附録を作りて朱子以下黃勉齋・周北溪・真西山・吳草廬・黃東発・胡敬斎などがこの箴に就いて説き及べる言を輯録す(山崎闇斎全集解説)/前	送返 「日本思想体系」所収	R5-01
明倫・0712	敬斎箴	宋朱熹撰 山崎闇斎編 (京・齊文堂)	3			明暦1刊	1655	和紙袋綴刊本 19・20・19丁 27.8×19.3	山崎闇斎編。*「敬斎箴」は朱熹の著。修養の中で「敬」を重んじ、その実践法を説いたもの。『居敬』などが説かれている(居敬とは、朱子学における修養法の一つで、日常のいかなる時であっても意識を集中させ心を安静の状態(敬)に置くこと) この箴は朱子の修養論を見るに極めて重要な物也、然るに元明の儒者、その真義を知るもの甚稀なり、先生之を愛い之を表出して各条下に分註を施せるものなり、また附録を作りて朱子以下黃勉齋・周北溪・真西山・吳草廬・黃東発・胡敬斎などがこの箴に就いて説き及べる言を輯録す(山崎闇斎全集解説)/前	送返 「日本思想体系」所収	R5-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0713	孝経外伝全	清周春（京・山崎敬義）	1			明暦2刊	1656	和紙袋綴刊本 26丁 26.4×18.7	孝経とは孔子の弟子の曾子の作といひ伝えられる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につく地位があたえられた。//	送返	R5-01
明倫・0714	大学衍義四三卷	宋真徳秀彙輯 明陳仁錫詳闡	17					和紙袋綴刊本 26.5×17.5 73・95・37・48・44・41・46・48・49・43・33・71・46・84・34・46・62	政治学の書。大学衍義は真徳秀の著。南宋末期/岩波哲学・思想事典/	送返	R5-01
明倫・0715	大学衍義補	朝丘濬進呈 陳仁錫詳闡 （京・福井軌）	60			寛政4刊	1792	和紙袋綴刊本 27.5×19.5 41・58・66・69・51・68・55・66・53・64・47・68・59・55・61・49・50・56・60・49・49・58・51・55・49・56・52・46・58・54・54・51・46・65・62・63・52・51・52・47・51・62・61・47・45・58・56・56・61・43・54・54・46・43・45・58・51・64・66・72	政治学の書。大学衍義補は明の丘濬の著。/岩波哲学・思想事典/	句送返	R5-01
明倫・0716	童子習一卷	浅見綱齋訓点 （京・風月堂荏左衛門）	1			享保10刊	1725	和紙袋綴刊本 48丁 26.2×18.5		送返	R5-01
明倫・0717	童子習	明末逢吉撰 浅見綱齋点 （風月堂荏左衛門）	1			享保10刊	1725	和紙袋綴刊本 47丁 27.5×19.2	明の朱逢吉（しゅほうきつ）著//	送返	R5-01
明倫・0718	童子習一卷	明末逢吉撰 浅見綱齋点 （京・風月堂荏左衛門）	2			享保10刊	1725	和紙袋綴刊本 48・48丁 27.3×19.0		送返	R5-01
明倫・0719	性理大全七〇卷	明胡広等奉勅撰 （京・小嶋弥左衛門等）	50			承応2刊	1653	和紙袋綴刊本 27.4×19.8 24・117・87・39・129・121・68・102・72・87・73・92・67・80・40・70・48・66・45・53・53・60・73・48・61・40・49・49・57・75・78・69・60・61・68・46・64・41・51・38・52・52・47・48・37・53・46・45・84・87		送返 卷31・32欠	R5-01
明倫・0720	（薛文清公）従政名言	明薛瑄撰 胡纘宋編（官板）	1			嘉永4刊	1851	和紙袋綴刊本 31丁 26.8×18.0	従政名言は2巻薛?撰。儒家の書、著者の政治上の意見を語録体でかいたもの。薛文清とは薛?(1392～1464)のこと。中国、明代初期の思想家。字は徳温、号は敬軒/大辭典(平凡社)/漢籍解題	句返	R5-01
明倫・0721	（薛文清公）従政名言	明薛瑄撰 胡纘宋編（京・唐本屋新右衛門）	1			寛政4刊	1792	和紙袋綴刊本 27丁 26.7×17.9	従政名言は2巻薛?撰。儒家の書、著者の政治上の意見を語録体でかいたもの。薛文清とは薛?(1392～1464)のこと。中国、明代初期の思想家。字は徳温、号は敬軒/大辭典(平凡社)/漢籍解題	送返	R5-01
明倫・0722	薛文清公策目一卷	明口果類次 張銓校梓	1					和紙袋綴刊本 37丁 27.3×17.4	* 薛文清とは薛?(1392～1464)のこと。中国、明代初期の思想家。字は徳温、号は敬軒//	送返	R5-01
明倫・0723	附録薛文清公祠堂記	呂口撰	1					和紙袋綴刊本 43丁 27.2×17.6	* 薛文清とは薛?(1392～1464)のこと。中国、明代初期の思想家。字は徳温、号は敬軒//	送返	R5-01
明倫・0724	読書録一一卷	明薛口撰 李口等	1					和紙袋綴刊本 29丁 27.4×17.6	読書録は明の薛?撰10巻、続12巻、主として修身齊家の要道を説く。部門を設けず、語録の体述べている。薛?(1392～1464)は中国、明代初期の思想家。字は徳温、号は敬軒/大辭典(平凡社)/漢籍解題	送返	R5-01
明倫・0725	読書続録	明薛口撰 李口等校	5					和紙袋綴刊本 40・39・52・43・38丁 27.3×17.6	読書録は明の薛?撰10巻、続12巻、主として修身齊家の要道を説く。部門を設けず、語録の体述べている。薛?(1392～1464)は中国、明代初期の思想家。字は徳温、号は敬軒/大辭典(平凡社)/漢籍解題	送返	R5-01
明倫・0726	詩序辨説一卷	宋朱熹	1					和紙袋綴刊本 95丁 27.9×20.0	宋の朱熹著//	送返	R5-01
明倫・0727	伝習録三卷		1					和紙袋綴刊本 111丁 26.3×18.7	中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録。書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流布しているのは銭徳洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文獻。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返 巻上・下欠	R5-01
明倫・0728	伝習録	王陽明著 （大・岡島宝玉堂）	1					和紙袋綴刊本 93丁 25.9×18.6	王陽明著。中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録。書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流布しているのは銭徳洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文獻。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0729	伝習録		1					和紙袋綴刊本 111丁 26.1×18.6	中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録。書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流布しているのは銭徳洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文獻。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0730	伝習録		1					和紙袋綴刊本 108丁 26.8×18.5	中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録。書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流布しているのは銭徳洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文獻。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0731	伝習録	王陽明著 (大・岡田群玉堂)	2					和紙袋綴刊本 93・108丁 25.9×18.4	王陽明著。中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録、書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流通しているのは銭德洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文献。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0732	伝習録	王陽明	1					和紙袋綴刊本 111丁 26.2×18.4	王陽明著。中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録、書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流通しているのは銭德洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文献。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0733	伝習録三巻附録	王陽明著 (大・文海堂)	4					和紙袋綴刊本 91・111・108・40丁 26.5×18.8	王陽明著。伝習録は中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録、書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流通しているのは銭德洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文献。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0734	伝習録六巻	明王守仁	1					和紙袋綴刊本 108丁 26.7×18.8	王陽明著。中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録、書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流通しているのは銭德洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文献。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0735	伝習録三巻附録	明王守仁撰 (京・丁子屋藤吉郎等)	4					和紙袋綴刊本 92・111・108・40丁 26.2×18.6	伝習録は中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録、書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流通しているのは銭德洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文献。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0736	伝習附録全	(大・前川善兵衛)	1					和紙袋綴刊本 40丁 26.0×18.6	伝習録は中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録、書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流通しているのは銭德洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文献。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)		R5-01
明倫・0737	伝習附録	(大・河内屋茂兵衛)	1			万暦12(天正12)刊	1584	和紙袋綴刊本 40丁 26.2×18.8	伝習録は中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録、書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流通しているのは銭德洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文献。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0738	伝習附録	王陽明(東・北畠茂兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 40丁 25.9×18.5	王陽明著。伝習録は中国、明代の思想家、王守仁(陽明)の語録、書簡を編集したもの。1518年(正徳13)に薛侃が刊行したのが最初で、語録のみであった。今日流通しているのは銭德洪編「王文成公全書」所収の3巻本である。王陽明、陽明学の思想を知るためには不可欠の重要な文献。上巻は40歳代の語録、中巻は主に50歳代の書簡、下巻は主に50歳代の語録。日本では、三輪執斎の《標註伝習録》が広く読まれ、陽明学の普及に大きな貢献を果たした。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0739	父師善誘法二巻	清唐彪撰修輯 (京・風月荘左衛門等)	1			享和2刊	1802	和紙袋綴刊本 40丁 25.6×18.0	清の唐彪著。(同著「読書作文譜」,全12巻)に付く、とあり、この中に含まれていたものかと思われる。読書作文譜は読書、作文に関する故人の言や自己の意見を述べたもの//大辭典(平凡社)	句送返	R5-01
明倫・0740	父師善誘法二巻	清唐彪撰修輯 (京・秋田屋太右衛門)	1					和紙袋綴刊本 38丁 25.6×18.3	清の唐彪著。(同著「読書作文譜」,全12巻)に付く、とあり、この中に含まれていたものかと思われる。読書作文譜は読書、作文に関する故人の言や自己の意見を述べたもの//大辭典(平凡社)	句送返	R5-01
明倫・0741	(退溪先生)自省録	朝鮮李滉 鵠 銅信之点 (村上平楽寺)	1			寛文5刊	1665	和紙袋綴刊本 90丁 27.3×19.5	李退溪著＊自省録は李滉の著。著者の「敬」の思想が集中的に再現されたもの。退溪とは朝鮮の李退溪(1501-70)のこと。哲学思想家であり教育者でもある。(李退溪の思想は朝鮮のみならず江戸の崎門学派にも影響を与えたとされる)//	送返	R5-01
明倫・0742	(退溪先生)自省録	朝鮮李滉	1			万暦13(天正13)刊	1585	和紙袋綴刊本 81丁 28.2×20.7	李退溪著＊自省録は李滉の著。著者の「敬」の思想が集中的に再現されたもの。退溪とは朝鮮の李退溪(1501-70)のこと。哲学思想家であり教育者でもある。(李退溪の思想は朝鮮のみならず江戸の崎門学派にも影響を与えたとされる)//	送返	R5-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0743	孫子書三卷	明趙本学解引 梁見孟 周著 校	1					和紙袋綴 184丁 22.7×16.2	孫子は中国古代の兵書。兵法書のうち最も著名で、日本での影響も大きい。全13編。春秋時代の呉の孫武(前500年ごろ)の著とされる。行軍、地形、火攻、用間などという各論も精密であるが、〈兵は国の大事〉として開戦の慎重さを求め、戦争の主導性を強調するなど特色に富み、そこに人生問題一般に通ずる深い思想性がみられる。日本ではすでに(続日本紀)天平宝字4年(760)の条に〈孫子〉の記事が見え、江戸時代には荻生徂徠、新井白石、佐藤一斎らの注釈書が出ている//大辭典(平凡社)	白 分冊	R5-01
明倫・0744	孫子十家註一三卷	宋吉天保編 清張星衍 呉人驥校 (出雲寺万次郎)	4			嘉永5刊	1852	和紙袋綴刊本 92・82・74・82丁 26.2×18.3	孫子は中国古代の兵書。兵法書のうち最も著名で、日本での影響も大きい。全13編。春秋時代の呉の孫武(前500年ごろ)の著とされる。行軍、地形、火攻、用間などという各論も精密であるが、〈兵は国の大事〉として開戦の慎重さを求め、戦争の主導性を強調するなど特色に富み、そこに人生問題一般に通ずる深い思想性がみられる。日本ではすでに(続日本紀)天平宝字4年(760)の条に〈孫子〉の記事が見え、江戸時代には荻生徂徠、新井白石、佐藤一斎らの注釈書が出ている//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0746	(正文)七書七卷	漢百年校 (大・河内屋太助)	2			寛政5刊	1793	和紙袋綴刊本 73・93丁 25.0×17.9	七書とは中国の7部の兵書。「孫子」「呉子」「司馬法」「尉繚子」「三略」「六韜」「李衛公問对」のこと(日本では、家康がこの書を刊行した)//大辭典(平凡社)	句送返 2〜4・6・7欠	R5-01
明倫・0747	(増附)武経七書評釈要三卷	明陳元素校	1			正徳2刊	1712	和紙袋綴刊本 85丁 26.3×17.5	七書とは中国の7部の兵書。「孫子」「呉子」「司馬法」「尉繚子」「三略」「六韜」「李衛公問对」のこと(日本では、家康がこの書を刊行した)//大辭典(平凡社)	句送返	R5-01
明倫・0748	紀効新書一八巻首一卷	明威繼光 平山潜校 (江・須原屋伊八等)	6			寛政10刊	1798	和紙袋綴刊本 45・63・74・72・59・69丁 26.8×18.0		送返	R5-01
明倫・0749	百戦奇法一〇巻	明章口 (京・小嶋市郎右衛門等)	7			明暦4刊	1658	和紙袋綴刊本 42・32・37・36・36・43・38丁 28.6×19.3			R5-01
明倫・0750	武備志二四〇巻	明茅元義輯	50					和紙袋綴刊本 27.7×18.1 65・65・57・54・65・58・57・50・40・55・50・69・47・65・62・61・61・49・53・49・71・68・65・53・61・60・59・74・49・61・68・78・51・59・51・51・59・59・53・48・63・48・67・56・50・53・49・41・55・68	中国、明代の兵書。茅元儀著。240巻。1621年(天啓1)に成る。2000余種の書物を資料として歴代の戦術を詳述している。ことに明代の形勢を述べた部分は最も史料価値が高く、明代史研究の重要文献である。なお書中には戦陣図や地図をも収録しているが、中でも〈鄭和航海図〉は南海史研究の重要史料となっている。天啓刊本のほかに、1664年(寛文4)刊の和刻本がある。//大辭典(平凡社)	送返 在巻118〜240	R5-01
明倫・0752	武備志	明茅元義輯	33					和紙袋綴刊本 27.6×18.3 52・52・43・52・57・40・46・52・48・40・53・47・64・65・20・58・42・56・41・43・74・60・59・55・77・67・91・57・69・59・81・53・68	中国、明代の兵書。茅元儀著。240巻。1621年(天啓1)に成る。2000余種の書物を資料として歴代の戦術を詳述している。ことに明代の形勢を述べた部分は最も史料価値が高く、明代史研究の重要文献である。なお書中には戦陣図や地図をも収録しているが、中でも〈鄭和航海図〉は南海史研究の重要史料となっている。天啓刊本のほかに、1664年(寛文4)刊の和刻本がある。//大辭典(平凡社)	送返	R5-01
明倫・0753	武備志二四〇巻	明茅元義編	17					和紙袋綴刊本 27.7×18.5 50・50・46・42・45・39・41・53・48・59・60・62・49・36・46・30・72	中国、明代の兵書。茅元儀著。240巻。1621年(天啓1)に成る。2000余種の書物を資料として歴代の戦術を詳述している。ことに明代の形勢を述べた部分は最も史料価値が高く、明代史研究の重要文献である。なお書中には戦陣図や地図をも収録しているが、中でも〈鄭和航海図〉は南海史研究の重要史料となっている。天啓刊本のほかに、1664年(寛文4)刊の和刻本がある。//大辭典(平凡社)	送返	R5-02
明倫・0754	西洋火攻神器説二巻	明何汝賓撰 平山潜校 (江・須原屋伊八等)	2					和紙袋綴刊本 27・27丁 26.0×17.7	西洋火攻神器説は漢文、写本4巻、清水正徳著。明の周景〇の著した「疑獄叢書」の中の銃〇説を抄出して註解したもの/國書解題/	田邨氏蔵書印 朱印	R5-02
明倫・0755	諸葛孔明兵法註解詳林	明章璽註 蔭口評 (佐野七左衛門等)	4					和紙袋綴刊本 30・27・25・13丁 26.1×18.8		送返 巻1(前欠)巻2巻3巻4巻5 漢文	R5-02
明倫・0756	武経直解一二巻	劉寅輯著 張居正増訂 翁鴻業重校 (京・近江屋卯兵衛)	7			元治1刊	1864	和紙袋綴刊本 63・124・127・86・79・127・58 25.5×18.2	増訂武経七書直解/論将・道士・編伍・教練・射法・鳥銃・弩箭・牌雲・長槍・拳法・陣法・器械・軍行・安營・攻戦・水攻・火攻・医薬・地利・天時/前任者の備考より/	句送返 修復糸替え 樗武藤蔵書記 朱印 漢文体	R5-02
明倫・0757	兵録一四巻	明何汝賓	14			寛永5訂	1628	和紙袋綴 62・55・81・41丁 26.0×17.0	/論将・道士・編伍・教練・射法・鳥銃・弩箭・牌雲・長槍・拳法・陣法・器械・軍行・安營・守禦・攻戦・水攻・火攻・医薬・地利・天時/前任者の備考より/	句送返 写本 漢文体 挿し図多数	R5-02
明倫・0758	管子二四巻	唐房玄齡註釈 明劉綰増註 朱長春通演 和元冲輯訂 明新皇 純六一参評	1					和紙袋綴刊本 45丁 26.0×18.5	管子は中国古代の政治論文集。管仲の著と伝えられるが、一人の作ではなく戦国時代から漢代にかけて成立したとみられる。現存76編。経済政策や富国強兵策などを記す。/齊の富民・治国・敬神・布教の術を述べた書/前任者の備考より/	句送返 明倫堂蔵書印・口高鍋圖書寶 朱印 巻1・巻2 漢文体	R5-02
明倫・0759	評釈韓非子全書	藤沢南岳校疏 (愛媛県人)	10			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 42・41・50・37・36丁 26.0×18.7	韓非の著書、法律・刑罰を以って政治の基礎と説く、/前任者の備考より/	句送返 田邨氏蔵書印墨引き 秋月家蔵書印朱印 巻1〜巻20	R5-02
明倫・0760	韓非子	江戸 小知正国公濟校	1					和紙袋綴刊本 43丁 26.4×18.4	中国、戦国末の思想家韓非(？・前234？)の言説を集めた書。20巻55編、すべてが韓非の自著ではなく、後学のもち含まれている//	巻4〜巻7 栗原文庫朱印	R5-02
明倫・0761	韓非子二〇巻	芥煥彦草撰	4			延享3刊	1746	和紙袋綴 89・74・67・74丁 27.2×17.8	中国、戦国末の思想家韓非(？・前234？)の言説を集めた書。20巻55編、すべてが韓非の自著ではなく、後学のもち含まれている//	白 巻9〜12欠 田邨氏蔵書印 東京 朱印 虫損写本(0762原本)	R5-02
明倫・0762	韓非子全書	山田政徳等校 (京・唐本屋吉左衛門等)芥煥彦草撰	5			延享3刊	1746	和紙袋綴刊本 92・74・70・68・74丁 27.4×17.9	中国、戦国末の思想家韓非(？・前234？)の言説を集めた書。20巻55編、すべてが韓非の自著ではなく、後学のもち含まれている//	句送返 虫損 数箇所付箋あり(字の意味、異本との違いなど 堀氏 山本喜六)	R5-02
明倫・0763	棠陰比事	宋桂万榮撰	5					和紙袋綴刊本 21・16・32・29・43丁 27.3×19.5	中国、南宋の桂万榮が著した裁判実例集。古今の名裁判官による144の判例から成る。「疑獄集」「折獄龜鑑」等を参照して編んでいる。のち明代に呉訥による加除が行われ、その後はこの再編本の方が流行した。元来は実際の裁判の参考のための書であるが、中には探偵小説のような話もあり、後世ではむしろその方面の興味から読まれることが多かった。日本では江戸初期に訳された。同じ題名で、寛永年間に5巻本で刊行。最初の裁判小説として好評を博した/前任者の備考より 補足済/	仮名草子 巻1・2・3・5・7 虫損 城氏朱印 表紙裏に全部五冊城氏蔵書と墨書	R5-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0764	業陰比事上・中・下	宋四明桂籍著 東都北山園 (江・青藜園)	3					和紙袋綴刊本 45・27・34丁 26.0×19.0	中国、南宋の桂芳が著した裁判実例集。古今の名裁判官による144の判例から成る。「疑獄集」「折獄龜鑑」等を参照して編んでいる。のち明代に呉訥による加除が行われ、その後はこの再編本の方が流行した。元末は実録の裁判の参考のための書であるが、中には探偵小説のような話もあり、後世ではむしろその方面の興味から読まれることが多かった。日本では江戸初期に訳された。同じ題名で、寛永年間に5巻本で刊行、最初の裁判小説として好評を博した/前任者の備考より/	句送返 題箋あり 修復糸替えのみ 明倫堂蔵書印朱印	R5-02
明倫・0765	洪範皇極内篇三卷首一卷末1巻後録一卷	山崎闇斎著 (京・寿文堂)	6				寛文7刊 1667	和紙袋綴刊本 22・43・62・29・75. 43丁 27.1×19.3	山崎闇斎著。洪範は「書経」の一編。洪は大、範は規範の意。天下を治める大法を述べた書。皇極は洪範九職と称される5つの大法のひとつ。伝承によれば、殷の箕子がつけて周の武王に授けたという。漢代には《易》と《春秋》とともに天人相関説の根拠づけに用いられ、宋代には哲学の体系化に寄与した。/前任者の備考より 補足済/	句送返 明倫堂蔵書印・高鍋図書館蔵書印朱印 末巻虫損大	R5-02
明倫・0766	芥子園画伝	芥子園著 河野通之和解 (東・山中市兵衛)	2				明治14刊 1881	和紙袋綴刊本 54・27丁 19.5×12.7	中国、清代の画譜。「芥子園画譜」と通称される。明の画家李流芳(長?)の山水画集を主編が整理し李漁が刊行したもの。4集より成る。王概(安節)・王翬(密菴)・王翬(司直)兄弟の編纂。芥子園は書物出版のハトロン李漁(笠翁)の南京にあった別荘名。李漁の女婿沈心友が明の画家李流芳(長?)の山水画集をもとに王概に増補を依頼し、1679年(康熙18)第1集が完成。最初に《青在堂書面淺説》として、簡単な歴代山水画論の抜粋、画材説明をのせ、ついで樹、山石、人物屋宇にわから数多くの挿図により描写法を説明、終りに宋以後の有名画	高鍋図書館蔵書朱印 自省堂印朱印	R5-02
明倫・0767	芥子園画伝	芥子園著	1					和紙袋綴刊本 18丁 19.5×12.7	中国、清代の画譜。「芥子園画譜」と通称される。明の画家李流芳(長?)の山水画集を主編が整理し李漁が刊行したもの。4集より成る。王概(安節)・王翬(密菴)・王翬(司直)兄弟の編纂。芥子園は書物出版のハトロン李漁(笠翁)の南京にあった別荘名。李漁の女婿沈心友が明の画家李流芳(長?)の山水画集をもとに王概に増補を依頼し、1679年(康熙18)第1集が完成。最初に《青在堂書面淺説》として、簡単な歴代山水画論の抜粋、画材説明をのせ、ついで樹、山石、人物屋宇にわから数多くの挿図により描写法を説明、終りに宋以後の有名画	高鍋図書館蔵書朱印 自省堂印朱印	R5-02
明倫・0768	芥舟学画編	清沈宋養述	1					和紙袋綴写本 80丁 23.2×16.0	4巻、清沈宋養(字は熙遠、号は芥舟など)著。弘化元年江戸版屋徹三郎等復刊弘化2年補綴本・明治12年本と有。1、2巻は山水の画法など、3巻は伝神10篇、巻四は人物など。(山水 宗派・用筆・用墨・布置・窮源・作法・平貼他)//長澤規矩也著作集	句 巻1・2「秋月家蔵書印」あり。	H29-05
明倫・0769	元明清書画人名録	彭真淵百川纂 高孟彪補皮 木孔恭世第 石希聰頼父補訂 (京・中村治郎兵衛)	2				安永6刊 1777	和紙袋綴刊本 57・64丁 22.0×15.3	2巻。彭城真淵著。安永6年刊。元・明・清における書家・画家3千余名をいいるは順に列挙し、その字號・書画品等について記す。/國書解題/大辭典(平凡社)	日向高鍋城氏図籍朱印	R5-02
明倫・0770	国朝面微録	清張庚撰 三元堂蔵板	1				明治8(明治2)刊 1869	洋紙袋綴刊本 60丁 26.4×15.5	国朝の画家微其蹟/前任者の備考より/	句 朱詒点 秋月家蔵書印朱印 巻上・中	R5-02
明倫・0771	国朝面微録	清張庚著 薛泰 湯之昇校	1					和紙袋綴刊本 69丁 26.4×15.5	国朝の画家微其蹟/前任者の備考より/	句(朱点) 秋月家蔵書印朱印 巻下	R5-02
明倫・0772	元明清書画人名続録	宮崎憲子達纂 (大・河内屋書兵衛等)	2				天保7刊 1836	和紙袋綴刊本 28・39丁 22.2×15.5	元明清書画人名録の続録か?★「元明清書画人名録」は2巻、彭城真淵著。安永6年刊。元・明・清における書家・画家3千余名をいいるは順に列挙し、その字號・書画品等について記す。/國書解題/大辭典(平凡社)	日向高鍋城氏図籍朱印	R5-02
明倫・0773	青在堂竹譜	(芥子園甥館口蔵)	1					和紙袋綴刊本 45丁 19.2×12.8	題箋「芥子園画傳」/前任者の備考より/	自省堂印朱印 高鍋図書館蔵書朱印	R5-02
明倫・0774	草書要領五巻	唐虞世南等編 (西村伝兵衛)	2				寛文4刊 1664	和紙袋綴刊本 68・48丁 26.0×17.1	草書辞書/前任者の備考より/	田邨氏蔵書印朱印	R5-02
明倫・0775	佩文斎詠物詩選	館機坂御鈔 (江・吳平吉等)	1				文政13刊 1830	和紙袋綴刊本 105丁 9.5×18.7	佩文斎詠物詩選は4編。清の康熙年間、陳廷敬等勅撰。古詩より宋・元・明に至る詩家の作品を収めている。/大辞典(平凡社)/	送返 付箋「的場出次第」 □□樓□氏蔵書之印朱印	R5-02
明倫・0776	墨子一五巻	清畢口校注	5				天保6刊 1835	和紙袋綴刊本 49・47・48・34・47丁 26.2×18.1	墨子は中国、春秋戦国時代の思想家。墨家の祖。墨は姓、名は?（てき）。墨子の思想は勤労と節約を旨としている。経訓堂/前任者備考・補足済み/	送返 雑学 小学上江学校朱印 修復糸替えのみ	R5-02
明倫・0777	呂氏春秋二六巻	秦呂不韋撰 宋邦文 除益孫訂 (京・芸香堂)	5					和紙袋綴刊本 79・66・93・87・76丁 24.9×18.4	中国における戦国諸家の説を集めた一種の百科全書。26巻。秦の丞相呂不韋が食客を集め、彼らに編纂させた。前239年ころに完成。八覧。六論、十二紀で構成され、覧と論はそれぞれ8部8編、6部6編からなる。八覧第1部は1編が失われ、また後人の手が加わった個所もある//大辭典(平凡社)	雑学 明倫堂蔵書印朱印	R5-02
明倫・0778	呂氏春秋二六巻	秦呂不韋撰	9					和紙袋綴刊本 47・43・60・43・43・44・37・13・25丁 26.5×17.9	中国における戦国諸家の説を集めた一種の百科全書。26巻。秦の丞相呂不韋が食客を集め、彼らに編纂させた。前239年ころに完成。八覧。六論、十二紀で構成され、覧と論はそれぞれ8部8編、6部6編からなる。八覧第1部は1編が失われ、また後人の手が加わった個所もある//大辭典(平凡社)	田邨氏蔵書印朱印 巻1・2欠 本文に朱句点注 欄外注墨書 虫損大	R5-02
明倫・0779	改正淮南鴻烈解二一巻	漢高誘注 明茅坤批註 宇野東山等校 (京・頼田勝兵衛等)	10				寛政10刊 1798	和紙袋綴刊本 51・41・39・33・41・51・49・46・50・57丁 26.5×18.0	淮南子は前漢の宗室の一人である淮南王劉安(前179-前122)編の書物。全21編。《老子》の《道》と《莊子》の《真》の思想を依拠として、周末以来の儒家・兵家・法家等の思想を取り入治乱興亡・逸事・銀談を記載している。内容は、現実世界の根源を論述する《原道》(假真)2編に始まり、次いで、その根源から現実世界が形成され変化するありさまを、天人相関説と陰陽五行説の理論に基づいて論述する《天文》(地形)(時則)3編を記し、以下、現実世界の諸相を政治論、人生論から戰略論などにわたって、無為・清静と外界への因應を旨とする	句送返 明倫堂蔵書印朱印 新釈漢文大系淮南子に詳解説 虫損	R5-02
明倫・0780	顔氏家訓二巻(上下)	北齊館之推撰 (京・葛西市郎兵衛)	2				文化7刊 1810	和紙袋綴刊本 50・47丁 27.2×18.5 題箋巻枚	2巻、20編。中国、6世紀の顔之推の著。20編から成る。立身・治家の法術を述べ世俗の謬失を弁正したもの。著者のゆけかな人生経験に裏うちされたこの書物は、たんに一家内の子弟たちを訓戒することばに終始するだけでなく、六朝時代における江南と華北両社会の家庭生活、風俗、儀礼、學術、宗教など、多方面にわたる知識を提供する。後世、家訓の祖と聞かれた。中国南北朝・隋初の世態を窺う資料日本への伝来も早く、吉備真備の《私教類聚》はその影響のもとに成ったという/前任者の備考より/大辭典(平凡社)	送返 序文墨書筆記写 明倫堂蔵書墨書 朱筆句点・注書きあり 養口精舎朱印	R5-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0803	世説箋本二〇巻		1					和紙袋綴刊本 25.5×17.8	中国南北朝の宋の劉義慶が編集した「世説新語」の和刻本。後漢末から東晋までの著名人の逸話を集めた小説集。/前任者の備考(又は24年)/	句送返 雑事 43丁 外題あり	R5-02
明倫・0804	世説新語補二〇巻	明何良俊撰 李贄評 王世貞刪定 張文柱校注 (京・林九兵衛)	9			安永8刊	1779	和紙袋綴刊本 27.4×18.2	中国南北朝の宋の劉義慶が編集した「世説新語」に明代に補足を加えたものの後漢末から東晋までの著名人の逸話を集めた小説集。李贄(李卓吾)が批評を加えている。/前任者の備考(又は24年)/	句送返 雑事 明倫堂蔵書朱印 52・50・55・47・52・49・53・54・52丁 外題直書804-1～5にあり(書き方はまばら) 804-1(3・4巻)表紙裏に「明倫堂蔵書輯」の一筆有り 裏表紙の裏に一筆有り 804-9(19・20巻)奥書「世説新語補」3丁「世説新語補跋」2丁	R5-02
明倫・0805	(李卓吾批点)世説新語補二〇巻	宋劉義慶撰 梁劉孝標注 宋劉辰翁批 明何良俊增 明張文柱校注	1					和紙袋綴刊本 25.9×18.0	中国南北朝の宋の劉義慶が編集した「世説新語」に明代に補足を加えたものの後漢末から東晋までの著名人の逸話を集めた小説集。李贄(李卓吾)が批評を加えている。/前任者の備考(又は24年)/	句送返 在巻5・6 49丁 外題有「校正解説世説新語補 五 六」 高鍋図書館蔵書朱印	R5-02
明倫・0806	虞初新志二〇巻補遺	清張潮編 (大・岡田權助等)	10			文政6刊	1823	和紙袋綴刊本 26.4×17.7	清張潮編集の伝奇小説集 神仙怪誕な話や閑閑猥褻な話がある//	句送返 異聞 64・47・42・45・45・46・51・50丁 806-1(序・1・2巻)に20巻までの目録あり 明倫堂蔵書印朱印(10冊全) 日高氏朱印(10冊全) 巻首に書入「耳水子高氏蔵書」(806-3～10) 外題直書(806-1・3～10)	R5-02
明倫・0807	雉薮正編	李義山纂 (京・吉村吉右衛門)	1			元禄8刊	1695	和紙袋綴刊本(写本) 21.6×16.3	雉薮とはさまざまな物事を書き留めること。「雉薮」という書は1巻。唐の李商隠の著。＊本書の内容・雉薮正編(李義山)12丁、雉薮次編(王君玉)7丁、雉薮続編(鈴子)〇5丁/前任者の備考(又は24年)/	送返 異聞 24丁 外題直書「雉薮」 「水筑蔵書記」の印あり。裏表紙見返し「水筑蔵書」の堂書あり。	H29-05
明倫・0808	西陽雜俎二〇巻続集一〇巻	唐段成式撰 明毛晋訂 (井上忠兵衛等)	4			元禄10刊	1697	和紙袋綴刊本 27.2×17.9	雑考の書。20巻、編集10巻。唐の段成式撰。//大辭典(平凡社)	送返 異聞 H24に5冊であること確認 79・98・76・69・62丁 808-1(目・1～5巻)808-2(6～14巻)808-3(15～20巻)808-4(編集1～4)808-5(編集5～10)すべて23年度に改裝	R5-02
明倫・0809	西陽雜俎二〇巻続集一〇巻	唐段成式撰 明毛晋訂 (井上忠兵衛等)	6			元禄10刊	1697	和紙袋綴刊本 25.4×18.1	雑考の書。20巻、編集10巻。唐の段成式撰。//大辭典(平凡社)	送返 異聞 H24に5冊であること確認 85・106・62・69・62丁 809-1(目・1～6巻)809-2(7～15巻)809-3(16～20巻)809-4(続1～4)809-5(続5～10) 明倫堂朱印・日高氏朱印あり 巻頭に書付「耳水子蔵本」 外題あり809-3～5は直書	R5-02
明倫・0810	事物紀原一〇巻序目録	宋高承編 編 詞信之訓点 (京・武村三郎兵衛)	11			寛文4刊	1664	和紙袋綴刊本	中国の類書。原本は20巻217事、現行本は10巻1765事。宋の高承撰。成立年未詳。事物を天文・地理・生物・風俗など55部門に分類し、名称や縁起の由来を古書に求めて記したもの。事物紀原集類。//大辭典(平凡社)	送返	R6-03
明倫・0811	(新編)古今事文類聚	元富大用編 元祝淵編	36					和紙袋綴刊本 27.6×17.9	＊事文類聚とは中国の類書。170巻。宋の祝瑄編。1246年成立。「芸文類聚」の体裁に倣い、古典の事物・詩文などを分類したもの。のちに元の富大用が新集36巻・外集15巻を、祝淵が遺集15巻を追加し、総計236巻//大辭典(平凡社)	題箋811-1「古今事文類聚 別集 廿七～廿九」内題「新編古今事文類聚別集」(＊別集の他に3種類ある) 蔵書印「明倫堂蔵書印」811-36のみ修復後に改裝(表紙・裏表紙) 別集14冊(目録・全32巻)、新集15冊(目録・全36巻)と外集2冊(目録・1～5巻のみ)、遺集5冊(3～11巻のみ) ＊外集は明倫812と併せると目録・全15巻がそろう 丁数(枝番順に):69・58・52・54・72・51・49・51・41・59・47・56・45・44・63・61・46・43・46・68・37・49・57・52・49	R5-03
明倫・0812	(新編)古今事文類聚(外集)一五巻	元富大用 時 可編	6					和紙袋綴刊本 27.7×17.9	＊事文類聚とは中国の類書。170巻。宋の祝瑄編。1246年成立。「芸文類聚」の体裁に倣い、古典の事物・詩文などを分類したもの。のちに元の富大用が新集36巻・外集15巻を、祝淵が遺集15巻を追加し、総計236巻//大辭典(平凡社)	送返 題箋812-1「古今事文類聚 外集 六～七」内題「新編古今事文類聚外集」編者等「南江 富大用 時可 編/金陵 唐富春 子和 刊」 蔵書印「明倫堂蔵書印」「高鍋図書館蔵書印」 古今事文類聚外集の巻6～15(全8冊の内の6冊で巻数は枝番の順、なお811-14,15に目録と巻1～5が含まれる) 丁数(枝番順に):58・50・80・76・63・44丁	R5-03
明倫・0813	(新編)古今事文類聚・後集五〇巻	元祝淵編 唐 富春梓	20					和紙袋綴刊本 27.5×17.5	＊事文類聚とは中国の類書。170巻。宋の祝瑄編。1246年成立。「芸文類聚」の体裁に倣い、古典の事物・詩文などを分類したもの。のちに元の富大用が新集36巻・外集15巻を、祝淵が遺集15巻を追加し、総計236巻//大辭典(平凡社)	句送返 後集在全巻、20冊(目録、1～50巻) ＊巻数は枝番順 外題題箋813-3「古今事文類聚・後集一」(枝番1,2以外は題箋有) 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・0814	(新編)古今事文類聚・前集六〇巻	元祝淵編 唐 富春梓	21					和紙袋綴刊本 27.5×17.5	＊事文類聚とは中国の類書。170巻。宋の祝瑄編。1246年成立。「芸文類聚」の体裁に倣い、古典の事物・詩文などを分類したもの。のちに元の富大用が新集36巻・外集15巻を、祝淵が遺集15巻を追加し、総計236巻//大辭典(平凡社)	句送返 前集在全巻、21冊(目録・1～60巻) ＊巻数は枝番順 外題題箋0814-1「古今事文類聚 前集 目録上」巻頭見返「重刻補遺古今事文類聚」(全て題箋あり、ただし枝番5、21は題箋一部欠) 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・0815	(新編)古今事文類聚・続集二八巻	元祝淵編 唐 富春	13					和紙袋綴刊本 27.5×17.5	＊事文類聚とは中国の類書。170巻。宋の祝瑄編。1246年成立。「芸文類聚」の体裁に倣い、古典の事物・詩文などを分類したもの。のちに元の富大用が新集36巻・外集15巻を、祝淵が遺集15巻を追加し、総計236巻//大辭典(平凡社)	句送返 続集在全巻、13冊(目録、1～28巻) 外題題箋815-3「古今事文類聚 続集 三之四」題箋は枝番3～9以外一部欠損 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・0816	(新編)古今事文類聚遺集一五巻	元祝淵編 (京・八尾勘兵衛)	4			寛文6刊	1666	和紙袋綴刊本	＊事文類聚とは中国の類書。170巻。宋の祝瑄編。1246年成立。「芸文類聚」の体裁に倣い、古典の事物・詩文などを分類したもの。のちに元の富大用が新集36巻・外集15巻を、祝淵が遺集15巻を追加し、総計236巻//大辭典(平凡社)	句送返	R6-03
明倫・0817	(京本音釈註解)書言故事大全一二巻	宋胡維宗集 陳玩直解 李廷機校	6			正保3刊	1646	和紙袋綴刊本		句送返	R6-03
明倫・0818	(新刻丘瑾山)故事龍二巻	明丘瑾編 (京・升屋孫兵衛)	2			享保10刊	1725	和紙袋綴刊本			R6-03
明倫・0820	円機活法韻学全書一四巻(校正増補)	明王世貞校正 近藤元粹校正 (大・前川善兵衛等)	6			明治29刊	1896	和紙袋綴刊本	中国、明代の作詩用の辞書。二四巻。天文・地理など四四部門からなり、故事成語などを分類編集したもの。明の楊滌著とも王世貞編とも伝えられる。円機詩学活法全書。//	句送返	H23-03
明倫・0821	円機詩韻活法全書一四巻	明王世貞増校 唐口繡梓 (大・秋田屋太右衛門)	6			明暦2刊	1656	和紙袋綴刊本	中国、明代の作詩用の辞書。二四巻。天文・地理など四四部門からなり、故事成語などを分類編集したもの。明の楊滌著とも王世貞編とも伝えられる。円機詩学活法全書。//	句送返	R6-03
明倫・0823	(新刻重校増補)円機活法詩学全書二四巻	明王世貞校正 楊淦参閱 唐口繡梓 (大・秋田屋太右衛門)	14			明暦2刊	1656	和紙袋綴刊本 25.7×18.3	中国、明代の作詩用の辞書。二四巻。天文・地理など四四部門からなり、故事成語などを分類編集したもの。明の楊滌著とも王世貞編とも伝えられる。円機詩学活法全書。//	句送返 在全巻、14冊(目録・1～24巻) 外題題箋0823-1「円機活法 詩学 序目一」題箋あり 蔵書印「日高鍋文庫印」	H28-01
明倫・0824	瀟艦類函四五〇巻目四巻	清張英等奉勅 編	66					和紙袋綴刊本	清の康熙帝の勅命を受けて張英らが編集したもの。明の愈安期の「唐類函」という類書を骨子としている 1710年にできあがって奏上された//	白 在巻151～299	H23-03・04
明倫・0825	瀟艦類函		65					和紙袋綴刊本	清の康熙帝の勅命を受けて張英らが編集したもの。明の愈安期の「唐類函」という類書を骨子としている 1711年にできあがって奏上された//	白 在巻300～450	H23-04・05
明倫・0826	瀟艦類函		69					和紙袋綴刊本 24.8×16.0 84・77(12冊目、4冊目、6～69冊目は不明)	清の康熙帝の勅命を受けて張英らが編集したもの。明の愈安期の「唐類函」という類書を骨子としている 1712年にできあがって奏上された//	白 在巻1～150 H23に826-5(9～11巻)のみ修復 84丁 改裝 ＊826-4は修復不可のため電子化後複製本のまま蔵へ展し(保存袋使用) 826-3は電子化後25年度修復 826-3 外題無 内題「瀟艦類函巻四/天部四星」4-5巻・77丁	H23-05・06

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0827	佩文韻府	清蔡升元等奉勅編	50					和紙袋綴刊本 23.4×13.6	中国の詩文用例事典。最大の韻書とされる。2字の熟語を主に、4.5字ぐらいまでの文字の連なりについて経・史・子・集のいわゆる(四部)について用例を集めた。類書と呼ばれるものの一つ。清代康熙帝の命令で作られ、張玉書らが編集。康熙43年(1704)に編纂を始同50年に成立。444巻拾遺112巻。佩文は康熙帝の書斎名。/前任者の備考(又は24年) 補足済/国史大辞典	白「廣氏蔵書」の印あり。	H27-01
明倫・0828	佩文韻府一〇六巻	清蔡升元等奉勅編	95					和紙袋綴刊本 23.4×13.6	中国の詩文用例事典。最大の韻書とされる。2字の熟語を主に、4.5字ぐらいまでの文字の連なりについて経・史・子・集のいわゆる(四部)について用例を集めた。類書と呼ばれるものの一つ。清代康熙帝の命令で作られ、張玉書らが編集。康熙43年(1704)に編纂を始同50年に成立。444巻拾遺112巻。佩文は康熙帝の書斎名。//	白 巻15欠「廣氏蔵書」の印あり。	H27-02
明倫・0829	佩文詩韻		5					和紙袋綴刊本	佩文詩韻とは、清代に編纂された官方韻書。康熙55年(1716年)成書。同じく康熙年間に作られた『佩文韻府』の簡略版あるいは熟字を取めない筆字本といえる。国家官吏登用試験である科擧の作詩の参考書として編纂され、宋代の『礼部韻略』に相当する。平水韻106韻を探り、平声・上声・去声・入声の四声に分ける。10,235字を収録する。同韻内では常用字を前にして罕用字を後にし、また字ごとに反切の情報を加えている。//	白 昭和31年5月31日山崎不二夫氏寄贈	H23-06
明倫・0830	韻府一隅八巻	清韻悠功編 中井豊氏校 (東・高山堂・文栄堂)	4					和紙袋綴刊本 12.3×8.3	韻府一隅は音韻の書。16巻。清の韻悠功撰。佩文詩韻の例にしたがい、2字から7字の熟語に至るまでの語を集めている。作詩家にとって重要な書。//大辭典(平凡社)	830-2と3、4と1で2部ずつ有、版は異なる 蔵書印「泥谷■之印」 ①830-2と3(全8巻か、巻末に出版年等記載有 明治13年出版) 序・巻1〜3/4〜8 ②830-4と1(全16巻のうち在8巻、目録あり、文化十年蔵有り)	H28-01
明倫・0831	詩韻含英一八巻	清山陰劉文蔚約君輯 (大・堺屋新兵衛等)	2			天保11刊	1840	和紙袋綴刊本16.6×12.0 77・57	18巻。清の劉文蔚著。佩文詩韻の例にしたがい、詩韻を収録したものと*佩文詩韻とは、清代に編纂された官方韻書のこと//大辭典(平凡社)	送返 23年度電子化後831-1のみ修復(831-1は分冊し2冊に。分冊1は原装77丁(凡例・目録・巻1〜4)/分冊2は改装57丁(巻5〜8)) 外題無、内題「詩韻含英異同辨」(天保再版と記載有) 「日向高鍋城氏因籍」「城氏」の印あり。	H23-06
明倫・0832	詩韻含英	劉文蔚約君輯	1					和紙袋綴刊本 18.0×12.2 77・57(分冊)	18巻。清の劉文蔚著。佩文詩韻の例にしたがい、詩韻を収録したものと*佩文詩韻とは、清代に編纂された官方韻書のこと//大辭典(平凡社)	送返 23年度電子化後修復(分冊し2冊に。分冊1は原装77丁(凡例・目録・巻1〜4)/分冊2は改装57丁(巻5〜8)) 外題直書(ペン書き?)「詩韻含英」、内題「詩韻含英異同辨」(表紙見返しに「岡田群玉堂製本」と記載) 朱印「高雄」(丸印)「栗■」(2cm程度の長方形の印)	H23-06
明倫・0833	詩韻含英	清劉文蔚編 (大・伊丹屋喜兵衛等)	1			嘉永7刊	1854	和紙袋綴刊本	18巻。清の劉文蔚著。佩文詩韻の例にしたがい、詩韻を収録したものと*佩文詩韻とは、清代に編纂された官方韻書のこと//大辭典(平凡社)	句返	H23-06
明倫・0834	詩韻含英	劉文蔚約君輯	1					和紙袋綴刊本	18巻。清の劉文蔚著。佩文詩韻の例にしたがい、詩韻を収録したものと*佩文詩韻とは、清代に編纂された官方韻書のこと//大辭典(平凡社)	送返	H23-06
明倫・0835	詩韻含英	山陰劉文蔚約君輯	1					和紙袋綴刊本	18巻。清の劉文蔚著。佩文詩韻の例にしたがい、詩韻を収録したものと*佩文詩韻とは、清代に編纂された官方韻書のこと//大辭典(平凡社)	返	H23-06
明倫・0836	五車韻端一六〇巻	明凌稚隆編 (京・八尾勘兵衛)	48			万治2刊	1659	和紙袋綴刊本	中国の韻書。160巻。明の凌稚隆撰。経・史・子・集・賦の5部に分けて、熟語とその出典とを明示したもの。「佩文(はいぶん)韻府」のもとになったといわれる。//国史大辭典	送返	R6-03
明倫・0837	韻府群玉二〇巻	陰勁菴編輯 陰復春補註	20					和紙袋綴刊本	韻府群玉とは、宋末元初の陰時夫によって編纂された韻書。1307年成書。20巻。現存する韻書の中では最古とされる。平水韻106韻を採用し、その韻のもとに語彙の典故となる文献を配した類書の機能を兼ね備えた韻書である。清代の一大類書『佩文韻府』の底本となったことで知られる。父、陰应夢(1224年?1314年)が作業を監督し、『韻府群玉』序を作り、兄陰幼達が注を作っている。//	白	R6-03
明倫・0838	詩韻通覧	鎌田禎志庸纂輯	1					和紙袋綴刊本 15.5×11.0		巻上 外題題箋「詩韻通覧 上」	H28-01
明倫・0839	詩対押韻前集	明秋純編輯次	1					和紙袋綴刊本 25.3×15.7 78丁		23年度電子化後修復 外題直書「■歴板詩対押韻」*添付のペン書きの題箋に(萬曆版詩対押韻)とある/内題「詩対押韻」(前集一巻、後集二巻からなる)巻末に萬曆戊戌年(1598年)の記載有 「秋月家蔵書印」あり。	H23-06
明倫・0843	莊子翼全一一巻	明焦竑編輯 明王元貞校刻 (京・小嶋市郎右衛門)	9			承応2刊	1653	和紙袋綴刊本	莊子とは中国、戦国時代の思想家莊周のこと。「莊子」は莊周及びその後継者の学説をまとめた書。33篇//国史大辭典	句送返	R6-03
明倫・0844	莊子因六巻	銘西仲評述	3					和紙袋綴刊本 24.6×15.0	莊子とは中国、戦国時代の思想家莊周のこと。「莊子」は莊周及びその後継者の学説をまとめた書。34篇	句 在巻1〜6 外題直書「莊子因」 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・0848	(明陽進士)袁了几先生陰陽録	明袁(黄)撰 陳昇・黄幼清校	1			元禄14刊	1701	和紙袋綴刊本 26.7×17.5		送返 全 外題題箋「陰陽録」(上部欠) 蔵書印無	H28-01
明倫・0849	列子虞齋口義二巻	宋林希逸	4					和紙袋綴刊本	列子は中国、戦国時代の道家の思想家。名は紫冠。生没年未詳。唐代に冲虚真人と追号された。「列子」は中国の道家思想書。8編。列子の撰と伝えられるが、現行本は前漢末から晋代にかけて成立したといわれる。故事・寓言・神話を多くのせ、唐代に道教教典として尊ばれ、「冲虚真経」と称された。 /岩波哲学・思想辞典/	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-06
明倫・0850	太上感應編	(河陽・安井舎童)	1			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本			H23-06
明倫・0851	本草通玄二巻	李士材著 尤秉校 (江・西村半兵衛等)	3					和紙袋綴刊本 26.2×18.0	明末〜清の医師、李中梓(士材)著。本草通玄は李中梓(士材)撰。//	句送返 上下二巻(0851-1と3が上巻(同じ)、2が下巻) 題箋直書「本草通玄」 蔵書印無	H28-01
明倫・0852	本草通玄	李士材著 尤秉校	1					和紙袋綴刊本	明末〜清の医師、李中梓(士材)著。医学書。//	句送返	R6-03
明倫・0853	診家正眼二巻	李士材著 尤秉等重校 (江・西村半兵衛等)	2			元禄7刊	1694	和紙袋綴刊本 26.2×18.0	明末〜清の医師、李中梓(士材)著。医学書。//	句送返 上下巻 外題直書「李士材三書/診家正眼」 跋年:元禄甲戌 蔵書印無	H28-01
明倫・0854	診家正眼二巻(合本)	李士材著 尤秉等重校 (江・西村半兵衛等)	1			元禄7刊	1694	和紙袋綴刊本 27.3×18.4	明末〜清の医師、李中梓(士材)著。医学書。//	句送返 上下巻 外題直書「李士材三書/診家正眼」 跋年:元禄甲戌 蔵書印無	H28-01
明倫・0855	病機沙篆二巻(合本)	李士材著 尤秉校 (江・西村半兵衛等)	1			元禄8刊	1695	和紙袋綴刊本 27.3×18.4	明末〜清の医師、李中梓(士材)著。医学書。//	句送返 上下巻 外題直書「李士材三書/病氣沙篆」 蔵書印無 跋年:元禄8	H28-01
明倫・0856	病機沙篆二巻	李士材著 尤秉校 (江・西村半兵衛等)	2			元禄8刊	1695	和紙袋綴刊本 26.4×18.0	明末〜清の医師、李中梓(士材)著。医学書。//	句送返 上下巻 外題直書「李士材三書/病氣沙篆」 蔵書印無 跋年:元禄8	H28-01
明倫・0858	薛氏醫案	明薛己撰	1					和紙袋綴刊本	薛己(せっき)は明の呉の漢方医。//		H23-06

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0859	彙輯薛氏内科医案	古呉薛 巳立 斎者 橋李黄 承吳履素詳輯	1					和紙袋綴刊本 12.8× 19.4 61丁	薛己(せっき)は明の呉の漢方医。//	送返 23年度電子化後表紙のみ修復 内容:序4・ 2、凡例3、目録2、巻上～35、巻上215丁計61丁 外題直書「医案一、二」内題「彙輯薛氏内科医案」	H23-06
明倫・0860	(評註)薛氏医案	古呉薛 巳立 斎者 〇李黄 承吳履素詳輯 (大・大富三郎 助)	3			宝永6刊	1709	和紙袋綴刊本 12.9× 19.8 30(1,3,4冊目は不 明)	薛己(せっき)は明の呉の漢方医。//	送返 23年度電子化後860-2のみ修復 860-2について 外題直書「医案四」(内題なし)内容:巻四 30丁	H23-06
明倫・0861	(評註)薛氏医案附方	古呉薛 巳立 斎者(大・大富 三郎助)	1			宝永6刊	1709	和紙袋綴刊本 13.0× 19.5	薛己(せっき)は明の呉の漢方医。*「薛 氏医案二十四種」は薛己の著作をまと め明の万暦年間に刊行したものととい われる。//	送返 23年度電子化後修復 蔵書印無 外題直書「医案 二」(鉛筆で二の箇所 に附とある) 内題「評註薛氏医案附方」 内容: 附方巻上23丁・下18丁	H23-06
明倫・0863	黄帝内経素問	明呉傅校	5					和紙袋綴刊本 27.5× 19.5	黄帝内経は中国最古の医学書。素問 (基礎理論)と鍼経(実践的)の18巻から なるとされる。黄帝の著といわれるが不 明。散逸し、762年唐の時代に王冰の表 した「素問」と「靈枢」が伝えられてい る。//	送返 一～四、九巻 外題題箋「素問」 書入れ多数有 1～表紙見開き「演岐蔵」の墨書あり。	H28-01
明倫・0864	黄帝内経靈枢	(京・田中清左 衛門)	6					和紙袋綴刊本 27.7× 18.3 48(2～6冊目は不 明)	黄帝内経は中国最古の医学書。素問 (基礎理論)と鍼経(実践的)の18巻から なるとされる。黄帝の著といわれるが不 明。散逸し、762年唐の時代に王冰の表 した「素問」と「靈枢」が伝えられてい る。//	句送返 864-1のみ23年度電子化後24年度修復 外題題箋に墨書き「靈枢 一」 内容:巻一49丁 書入れ有:表裏見返りに「演岐■」朱や墨での書入 れ有	H23-06
明倫・0866	救偏瑣言一〇巻	消費啓泰	2					和紙袋綴刊本	清の費啓泰(ヒケイタイ)著。//		H23-06
明倫・0867	救偏瑣言一〇巻	消費啓泰	4			宝暦4刊	1754	和紙袋綴刊本 26.0× 18.2 33(1,2,4冊目は不 明)	清の費啓泰(ヒケイタイ)著。//	送返 巻8～10欠 867-3のみ23年度電子化後24年度修復 867-3について 表・裏とも表紙改装 内題・版心題「救偏瑣言」 内容:巻之五33丁 蔵書印無	H23-06
明倫・0868	張氏医通纂要四巻	勝島巢輯録 勝主篤校正 (定栄堂・星文 堂)	2			安永5刊	1776	和紙袋綴刊本	医書。安永5刊。*「傷寒」に基き症状と薬 物の用い方を記している。中国の清代 の医師、張?が自分の治験を整理し「医 通」を刊行するが(高値で入手し難いの で)、加藤諒斎が要点を整理し編纂刊行 したもの。*張?(1617～1699)の著作に 「張氏医通」があり、中国臨床医学の大 成とされる。 //	白 巻1欠	H23-06
明倫・0869	張氏医通纂要	清張口	1					和紙袋綴刊本 13.0× 19.5	医書。安永5刊。*「傷寒」に基き症状と薬 物の用い方を記している。中国の清代 の医師、張?が自分の治験を整理し「医 通」を刊行するが(高値で入手し難いの で)、加藤諒斎が要点を整理し編纂刊行 したもの。*張?(1617～1699)の著作に 「張氏医通」があり、中国臨床医学の大 成とされる。 //	句 在巻3 平成23年度電子化後修復 130丁(内容巻之三203～330丁) 『張氏医通』(『張氏医通』(張?)-清)-清 蔵書印朱印「高鍋図書館蔵書印」表・裏の見返しに 2箇所有	H23-06
明倫・0870	医方大成論	(丸屋市兵衛)	1			宝永6刊	1709	和紙袋綴刊本 27.7× 19.5 60丁	中国の元の孫允賢が書いたとされる『南 北経験医方集成』が明代に増益され「医 書大全」となった。日本で、その『医書大 全』の病論のみを抜き集めてこれを一書 とし、『医方大成論』となる。治療方針の 書にして『医学入門』、『医学正伝』、『万 病回春』等のような療治本。その『医書 大全』の毎頁の背に記す所の病論は医 道の切要を述べ、初学者の便りとなり ている。//財団法人研医会図書館HPより	送返 23年度電子化の後24年度に修復 外題直書「新版医方大成論 全」内題「南北経験 医方大成」版心題「医方大成論」朱書きの書き込み多 数あり 本文:59丁(修復の枚数は60丁) 「城氏」の印あり。 裏見開きに書入れ「江州目野木津村/■住寺侍/北 川正蔵/■(花押)」 「城重義」	H23-06
明倫・0871	医方口訣集	白梅庵等録 中山三柳新增 (村上勳兵衛)	2			延宝9刊	1681	和紙袋綴刊本		送返	H23-06
明倫・0872	難経本義二巻	(芳野屋)	1					和紙袋綴刊本	* 難経(なんぎょう)は、中国の東晋時代 に、伝説的な医師として知られる華佗が 編纂したとされる。現在知られるもっとも 古い医学書のひとつである。正しくは「黄 帝八十一難経(こうていはちじゅういち なんぎょう)」という。難経は、具体的ある いは実用的な、鍼灸の臨床上の問題につ いて書かれており、とくに経絡治療を行 う人にとっては、必須のバイブルとされて いる。 //		H23-06
明倫・0873	秘伝疹子心法	明仲春方輯 男志伊元	1			寛政12刊	1800	和紙袋綴刊本 19.3× 12.2		全一巻 外題題箋「疹子心法 完」巻頭見返「疹子心法」内 題「秘伝疹子心法」 蔵書印「萩原氏蔵書記」萩原氏(萩原石作か?)	H27-02
明倫・0874	神農本草経	明盧復 (岡田 三郎右衛門)	1			寛保3刊	1743	和紙袋綴刊本 18.5× 12.2	*「新農本草経」は中国最古の本草書。 神農の名を冠するが、2—3世紀に道士 たちによって編録されたらしい。4巻で 365種の薬物を記載し、薬効により上薬・ 中薬・下薬に分類。6世紀初めに陶弘景 (456-536)が増補・付注して《神農本草 経集注》7巻を作る。//	白 題箋欠「神農本草経」 巻末刊年:寛保三年再版 表紙見返しに「萩原氏」の墨書あり。	H27-02
明倫・0875	(校増)救急易方三巻	巡道重刊 (武 村新兵衛)	3			寛文13刊	1673	和紙袋綴刊本 26.5× 16.4		送返 上下巻三冊(下巻が2冊にわたる) 外題直書「救急易方」 (巻首・目録・上巻/下巻1～41/下巻42～74) 巻末 発行年記載:寛文十三年 蔵書印無	H28-01
明倫・0876	赤水玄珠		50			明暦3刊	1657	和紙袋綴刊本 27.0× 17.0		送返 全51巻(1冊合本あり、のべ50冊) 目録、1～36巻、治験目録、1～13巻(枝番順、 0876-3のみ十四、二巻の合本)(*876-15は題箋は 14巻だが本文は19巻) 蔵書印無	H27-03
明倫・0877	医門法律六巻	清喻嘉言 (村 上勳兵衛)	16			寛文5刊	1665	和紙袋綴刊本		句送返	H23-06
明倫・0878	痘科鍵	宛陵朱 異嚙 万父著	1					和紙袋綴刊本 24.6× 15.5		句 表紙・裏表紙欠 版心題は「痘科鍵 下」と「麻疹」 巻頭に著者名等記載「宛陵朱 異嚙万父著・・・」 蔵書印無	H28-01
明倫・0879	金匱要略方論	漢張機仲景述	2					和紙袋綴刊本		句送返 裏表紙に「矢野主」の墨書あり。	H23-06
明倫・0880	瘟疫論二巻	明呉有性撰 黄晟晩筆校刊 黒弘休標注	2			享和1刊	1801	和紙袋綴刊本 17.9× 12.3 58(2冊目は不明)	中国の医論書瘟疫論の和刻版 標柱が 加えられている。瘟疫論とは中国初の伝 染病学の専著で、上下2巻86編からなる 医論書。流行性でも、傷寒とは異なる温 疫の概念を前面に掲げている。//	送返 58丁 H23に880-1(上巻)のみ修復 漢文 外 外題直書「瘟疫論標柱 上」 「萩原氏蔵書記」の印あり。	H23-06
明倫・0881	名医類案一二巻	明江口撰 江 応宿述補 (京・野田庄右 衛門)	11			寛文1刊	1661	和紙袋綴刊本	中国の各医家の治験を類編したもの。 明の江?(1503～1565)が撰。その子の 江応宿が補った(万暦19年/1591の 跋)。全12巻、205門を述べる。日本の刊 本(本書)は明の万暦19年の刊本をもと に日本で刷られたもの。//	送返	R6-03
明倫・0883	引痘略一巻	清邵口	1			道光18(天 保9)写	1838	和紙袋綴刊本	医学書。清の邵蕤(浩川)(1773～1851) 著。天然痘を牛痘のウィルスの種痘に より予防する方法を記したもの。//	白	R6-03
明倫・0884	太医院補遺真伝医学正伝一六巻		7					和紙袋綴刊本		送返	H23-06
明倫・0885	炮炙全書四巻	福(生)若水学 (京・大和屋重 左衛門)	2			元禄15刊	1702	和紙袋綴刊本		送返	H23-06
明倫・0886	(新刊)続添是齋百一選方二〇巻	宋王口撰 (千 田子敬等)	5			寛政11刊	1799	和紙袋綴刊本		白	H23-06

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0887	保赤全書二巻	口居中増補 管口編輯 呉 文炳校正	4					和紙袋綴刊本		送返	H23-06
明倫・0888	(治癆證)十業神書 全	胡雲口家伝 (京・富倉太兵衛)	1			元禄3刊	1690	和紙袋綴刊本		句送返	R6-03
明倫・0894	(太医院校註)婦人良方大全二四巻	宋陳自明編 明薛己著 立 齋薛校註 (京・河内屋理 兵衛)	10			貞享4刊	1687	和紙袋綴刊本 13.4×20.0	産婦人科の医学書。『校注婦人良方』は産婦人科の医書『婦人大全良方』に、明の薛己(1486?-1558)が注釈と自験例を加えたもの。薛己(せつぎ)は明の呉の漢方医。『婦人大全良方』は宋の陳自明(南宋時代の臨床医家。生没年不詳。字は良甫)の著。//	送返 総ルビ有 23年度電子化後24年に修復 蔵書印等なし 894-1表紙のみ改裝 3・7・8・10に題箋の一部が残る 内題「太医院校註婦人良方大全」 修復時の丁数:52・54・49・77・74・42・52・41・59・63 内容:序2丁・目錄9・凡例1・薬禁3・巻之一36丁・巻之二4・巻之三50/巻之四28・巻之五21/巻之六34・巻之七41/巻之八43・巻之九12・巻之十13・巻之十一7/巻之十二28・巻之十三14/巻之十四18・巻之十五18・巻之十六15/巻之十七13・巻之十八9・巻之十九17/巻	H23-06
明倫・0895	医通纂要	張璐玉著 藤 原謙齋纂 藤 原玄順校正	1					和紙袋綴刊本 13.2×19.5 (分冊74+72丁)	* 張氏医通纂要	24年度分冊(2冊) 句 23年度電子化後24年度修復 外題無、内題「医通纂要」(* 早稲田所蔵の「張氏医通纂要」と同様のものと思われる。チヨウロウ著・加藤 謙齋(1669-1724)、加藤 玄順(1699-1785))	H23-07
明倫・0896	四部録	(京・永田調兵衛)	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本		送返	H23-07
明倫・0897	鎮州臨濟慧照禅师語録二巻	唐釈義玄撰 宋釈慧然編 (京・山城屋左 兵衛)	2			元禄12刊	1699	和紙袋綴刊本 26.6×19.45(1冊目は不明)	中国の臨済禅の開祖。臨済義玄(?-886)の語録。詳しくは『鎮州臨済慧照禅师語録』。その弟子三聖慧然的編と伝える。1巻。臨済は、義玄が住する禅院の名で、帰依者であった鎮州王氏の開創であり、『臨済録』は鎮州臨済院における義玄の上堂説法を中心に、その一代の行録、問答を集めた言行録である。現在の本は、宋代の再編で、臨済禅の聖典として、その家風を強調する傾きをもつが、唐代の古い記録をうけることは確かで、言語、歴史、思想資料としても、高く評価される。//	送返 23年電子化後897-2のみ24年度修復 897-2について 外題題箋「首書増補臨済慧照禅师語録坤」 新心題「増補臨済録」 内容 本文:47~90丁 蔵書印朱印「堤氏文庫」(表・裏見開き2か所)表「■夢」	H23-07
明倫・0898	文房肆玖因説	練水栗釣銚銚 著	1					和紙袋綴刊本		題箋「古硯図説文房肆玖 上」 中下は0899 「堤氏文庫」の印あり。	H23-07
明倫・0899	文房肆玖因説三巻	練水栗釣銚銚 纂 劉復徳校 (東・藤井利八)	2					和紙袋綴刊本		句送返 題箋「古硯図説文房肆玖 中」「古硯図説文房肆玖 下」上は0898 「堤氏文庫」の印あり。	H23-07
明倫・0900	楚辞(集註)八巻・後語巻	朱子校定	6					和紙袋綴刊本 26.4×16.4		送返 六朝・唐 在全8巻 外題直書「楚辞後語」 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・0902	唐韓昌黎集	口口李 明啓 之輯注	1					和紙袋綴刊本		送返 六朝・唐	R6-03
明倫・0903	新刻翰林攷正京本李詩評選	李白集著 何 口翰選 李廷 機改正 (書林 熊氏)	1			万暦19(天 正19)刊	1591	和紙袋綴刊本 25.4×15.7 126丁		句 六朝・唐 23年度電子化後24年度修復 修復時に改裝(表・裏表紙) 朱印「■堂圖書之印」 朱や墨の書き込み多数	H23-07
明倫・0904	唐韓昌黎集四〇巻	唐韓愈(京・ 中江文四郎)	31			万治3刊	1660	和紙袋綴刊本 25.9×17.9 40・44(3~31冊目は不明)		送返 六朝・唐 23年度904-2(目錄)のみ修復 44丁 明倫堂蔵書 朱印 巻頭に書付 外題あり「韓文」か? 23年度電子化後24年度修復904-1 40丁 外題直 書「韓文」内題「校注韓柳集論例」 23年度電子化後24年度に904-1のみ修復40丁 (26.2×17.8) 「明倫堂蔵書記」の印あり。 「学校御用」「明倫堂蔵書」等の墨書あり。	H23-07
明倫・0905	(唐大家)柳柳州文選	綿震川選輯	3					和紙袋綴刊本		白 六朝・唐 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-07
明倫・0906	寒山子詩集管解		1					和紙袋綴刊本	* 寒山詩集(寒山詩)は1巻。唐台州剡史間丘良編。寒山の詩300余りを集めたもの。五律詩が多い。//	大朝・唐 裏表紙見返しに「黒水氏」の墨書あり。	H23-07
明倫・0907	温飛卿詩集二巻	唐温庭筠撰 藤森大雅 林 鳳岡校	2					和紙袋綴刊本 25(2冊目は不明)	「温飛卿集」は中国 晩唐の詩人の温庭? (字は飛卿)の作。//	送返 六朝・唐 907-1のみ23年度電子化の後修復 907-1について 天保4年の序有(藤森序/林序) 蔵書印朱印「田部氏蔵書印」 外題題箋「温飛卿詩集 上」 内容:序①1②1・上23丁	H23-07
明倫・0908	李太白詩醇四巻	近藤元幹編 (東・青木恒太郎)	3			明治39刊	1906	和紙袋綴刊本		句返 六朝・唐 「泥谷氏印」あり。	H23-07
明倫・0909	樊川詩集八巻	唐杜牧撰 館 機校 (大・河 内屋茂兵衛等)	4			文化13刊	1816	和紙袋綴刊本 25.1×17.9 39(2~4冊目は不明)	樊川詩集は中国晩唐の詩人杜牧(803-852)の詩集、4巻、補遺1巻、外集1巻、別集1巻、五・七言など雑然としたままに収録している。杜牧の字は牧之、号は樊川/大辞典(平凡社)/	送返 六朝・唐 H23に909-1(集田序・葛序・序1・2巻)のみ修復 39丁 改裝 見返り「樊川集」 「田部氏蔵書印」あり。	H23-07
明倫・0910	樊川集八巻	唐杜牧 (大・ 河内屋茂兵衛 等)	4			文化13刊	1816	和紙袋綴刊本 25.0×18.2 42・18(2,3冊目は不明)	中国晩唐の詩人杜牧(803-852)の詩集 杜牧の字は牧之、号は樊川//	送返 六朝・唐 H23に910-1(亀田序・葛序・序1・2巻)910-4(7・8巻)のみ修復 42・18丁 外題欠損 ひとい 巻首題・版心題「樊川詩集」とある。見返しには「樊川集」 910-1のみの読点の書入(朱)あり 「日高綱文庫印」あり。	H23-07
明倫・0911	樊川詩集	桐郷馮集梧注	1					和紙袋綴刊本 24.1×15.8 丁数不明	樊川詩集は中国晩唐の詩人杜牧(803-852)の詩集、4巻、補遺1巻、外集1巻、別集1巻、五・七言など雑然としたままに収録している。杜牧の字は牧之、号は樊川 * 清の馮集梧が注を施している/大辞典(平凡社)/	白 六朝・唐	H23-07
明倫・0912	樊川詩集	唐杜牧撰	4					和紙袋綴刊本	樊川詩集は中国晩唐の詩人杜牧(803-852)の詩集、4巻、補遺1巻、外集1巻、別集1巻、五・七言など雑然としたままに収録している。杜牧の字は牧之、号は樊川/大辞典(平凡社)/	白 六朝・唐 912-3のみ23年度電子化後24年度修復 912-3について 外題直書「樊川詩集卷三」(赤マジック?)内題・版心題も同じ 内容:巻347丁 蔵書印・書入れ等無	H23-07
明倫・0913	(唐大家)韓昌黎公文文選一〇巻	唐韓愈撰 明 綿有光編	3					和紙袋綴刊本	* 朱文公は南宋の朱熹のこと//	白 六朝・唐 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-07
明倫・0914	忠獻韓魏王君臣相遇家伝一〇巻	宋向士傑等校 訂 (江・山城 屋佐兵衛等)	3					和紙袋綴刊本		句返 宋 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-07
明倫・0915	忠獻韓魏王別録	宋王藤叟 (江・山城屋佐 兵衛等)	1					和紙袋綴刊本		句返 宋 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-07
明倫・0916	陸放翁詩鈔四巻	(大・秋田屋太 右衛門)	4					和紙袋綴刊本 25.5×18.3 70・45・39(3冊目は不明)	* 陸放翁は陸游(1125~1210)のこと。中国、南宋の文人。山陰(浙江省)の人。字は務観。号、放翁。南宋第一の詩人として、北宋の蘇東坡と並称される。激情の愛国詩人であるとともに日常の生活をもこまやかに歌い上げた。1万首近くの詩が今に伝わる。著「刺南詩稿」「放翁詞」「渭南(いなん)文集」など。//	送返 宋 916-1・2・4のみ23年度電子化後修復 916-1・2・4について それぞれに蔵書印朱印「堤氏文庫」(ほか3つあり) 外題題箋「陸放翁詩鈔」916-1讀/916-2龜/(916-3龍?)/916-4鳳 916-1表紙見返しに享和元年(1801年)とある 内容:序①3②2③2丁、五言古10、七言古29、五言律24/七言律45/五言絶2、六言絶2、七言絶35丁	H23-07
明倫・0917	放翁先生詩鈔八巻	宋陸游撰 清 周之麟 柴升 編 中野正興 山本謹校 (大・秋田屋太 右衛門)	3			享和1刊	1801	和紙袋綴刊本	* 陸放翁は陸游(1125~1210)のこと。中国、南宋の文人。山陰(浙江省)の人。字は務観。号、放翁。南宋第一の詩人として、北宋の蘇東坡と並称される。激情の愛国詩人であるとともに日常の生活をもこまやかに歌い上げた。1万首近くの詩が今に伝わる。著「刺南詩稿」「放翁詞」「渭南(いなん)文集」など。//	送返 宋 「高鍋藩蔵書印」あり。	H23-07

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0918	放翁先生詩鈔八巻	宋陸游撰 清周之麟 柴升編 中野正興 山本謹校 (江・和泉屋庄次郎)	1			享和1刊	1801	和紙袋綴刊本 26.5×18.4 40丁	* 陸放翁は陸游(1125～1210)のこと。中国、南宋の文人。山陰(浙江省)の人。字は務観。号、放翁。南宋第一の詩人として、北宋の蘇東坡と並称される。激情の愛国詩人であるとともに日常の生活をもこまやかに歌い上げた。1万首近くの詩が今に伝わる。著「劍南詩稿」「放翁詞」「渭南(いなん)文集」など。//	送返 宋 23年度電子化後24年度修復 蔵書印朱印「財津蔵書」 外題「放翁先生詩鈔」(朱で直書き)内題も同じ 版心題は「放翁詩鈔」 内容:五言絶2、六言絶2、七言絶35丁	H23-07
明倫・0919	東坡文鈔二巻		1					和紙袋綴刊本 25.6×18.3 28丁	* 蘇東坡(東坡)とは宋代の士大夫であり、唐宋八大家の一人である蘇軾のこと。* 日本では「東坡文抄」二巻(赤松點(蘭室 1743—1797)が選び訓点をつけたもの)が文化元年(1804)に刊行されて流布* 本書は刊年不明だが、明治19年刊行のものとの基や内容から推察? (国立国会図書館蔵)//	句送返 宋 下巻欠 外題題箋「東坡文鈔 龍」内題・版心題も「東坡文鈔」見返「蘭室先生定撰/東坡文鈔」 内容:序1、目次3、巻上24丁 蔵書印朱印「堤氏文庫」	H23-07
明倫・0920	謝選拾遺七巻	頼山陽選 (大・塩治芳兵衛)	6			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本		句返 宋 「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H23-07
明倫・0921	謝選拾遺評林七巻	頼山陽選 木沢成斎輯評 (大・中尾新助)	5			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本		句返 宋 「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H23-07
明倫・0922	(晦庵先生)朱文公文集	宋朱熹撰 明胡岳等校 (京・寿文堂)	14			正徳1刊	1711	和紙袋綴刊本	* 朱文公は南宋の朱熹のこと、晦庵とは、朱熹をさす「晦庵先生朱文公文集」は朱熹の著作の一つ//	送返 宋 巻1～74欠	R6-03
明倫・0923	朱子文集		4					和紙袋綴刊本	朱子文集は100巻。続集11巻。別集10巻。宋の朱熹著。//大辞典(平凡社)	送返 宋	R6-03
明倫・0924	(晦庵先生)朱文公文別集一〇巻	宋朱熹 (京・寿文堂)	4			正徳1刊	1711	和紙袋綴刊本	* 朱文公は南宋の朱熹のこと、晦庵とは、朱熹をさす「大詩典(平凡社)/漢籍解題	送返 宋	R6-03
明倫・0925	(晦庵先生)朱文公続集	宋朱熹	3			淳祐5(寛元3)刊	1245	和紙袋綴刊本 27.5×19.2	* 朱文公は南宋の朱熹のこと、晦庵とは、朱熹をさす「大詩典(平凡社)/漢籍解題	送返 宋 在全11巻(続集) 外題直書「朱子続集」内題「晦庵先生朱文公続集」 版心題「朱子大全」 蔵書印「城氏」	H28-01
明倫・0926	(晦庵先生)朱文公文集一〇〇巻	宋朱熹	30			成化19(文明15)刊	1483	和紙袋綴刊本	* 朱文公は南宋の朱熹のこと、晦庵とは、朱熹をさす「晦庵先生朱文公文集」は朱熹の著作の一つ/大辞典(平凡社)/漢籍解題	送返 宋	R6-03
明倫・0929	(重刊晦庵先生)朱文公文集一〇〇巻	宋朱熹撰 明胡岳等校	30					和紙袋綴刊本 27.7×18.8 101(1～10、12～30冊目は不明)	* 朱文公は南宋の朱熹のこと、晦庵とは、朱熹をさす「晦庵先生朱文公文集」は朱熹の著作の一つ/大辞典(平凡社)/漢籍解題	送返 宋 929-11のみ23年度電子化後24年修復 外題題箋「朱子文集」 内題「晦庵先生朱文公文集」 929-1～8 目録(全100巻)・巻1～23 929-11 巻30～32 蔵書印朱印「明倫堂蔵書記」 朱の書入れ有	H23-07/27-01
明倫・0930	(晦庵先生)朱文公文集五八巻	宋朱熹選 明胡岳等校	31					和紙袋綴刊本 27.3×19.1	* 朱文公は南宋の朱熹のこと、晦庵とは、朱熹をさす「晦庵先生朱文公文集」は朱熹の著作の一つ/大辞典(平凡社)/漢籍解題	送返 宋 在巻6～7、16～19、26～58(枝番順)/(58巻に跋など無) 外題題箋「朱子文集」(930-4・14・24・29～31のみ題箋有)* 他は外題直書又は外題無 内題「晦庵先生朱文公文集」版心題「朱子大全」 蔵書印「城氏」 930-31の三丁目(7-8コマ)欠(内装データは有り、29年度製本時に不明確認)	H28-01
明倫・0931	(晦庵先生)朱文公文集一〇〇巻	宋朱熹撰 明胡岳等校	12					和紙袋綴刊本 27.5×19.2 55-65(12冊目、4～8冊目、10～12冊目は不明)	* 朱文公は南宋の朱熹のこと、晦庵とは、朱熹をさす「晦庵先生朱文公文集」は朱熹の著作の一つ/大辞典(平凡社)/漢籍解題	送返 宋 23年度電子化後931-3、931-9のみ24年度に修復 931-3について 題箋「…集」蔵書印「城氏」他に2cm四方の朱印が2つあり「■斎」「■■■■■」 内容:巻一27・巻二28丁 書入れ多数あり 931-9 外題無・蔵書印「城氏」 内容:巻二十7、巻二十一28丁	H23-07
明倫・0932	(晦庵先生)朱文公文集		3					和紙袋綴刊本 27.9×19.8 56・87・115	* 朱文公は南宋の朱熹のこと、晦庵とは、朱熹をさす「晦庵先生朱文公文集」は朱熹の著作の一つ/大辞典(平凡社)/漢籍解題	送返 宋 23年度電子化後24年度修復(改装、直書きの外題のみ貼付) 56・87・115丁 外題題箋(932-3のみ)・直書「朱子文集」内題「晦庵先生朱文公文集」版心題「朱子大全/文集」 朱書や・墨の書入れ有(932-2など) 蔵書印朱印「大塚」 内容:(932-1)巻九十九28・巻百27丁/(932-2)巻六十二44・巻六十三43/(932-3)巻九十六36・巻九十七47・巻九十八31丁	H23-07
明倫・0936	(文公朱先生)感興詩	蔡模学	1			嘉熙丁酉(嘉禎3)刊	1237	和紙袋綴刊本 28.0×18.0	* 朱文公は南宋の朱熹のこと、//	白 宋 外題直書「感興詩 全」内題「文公朱先生感興詩」 卷末跋年・嘉熙丁酉 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・0937	(宋大家)蘇文忠公文選	綿震川選輯	9					和紙袋綴刊本 26.8×17.0	* 蘇文忠公とは唐宋八大家の一人である蘇軾のこと。蘇東坡(東坡)とも呼ばれる//	白 宋 937-9について 外題「蘇文忠公 銘 祭文/傳」内題「宋大家蘇文忠公文選巻之十五」内容巻之十五(雜著)、十六(碑・銘・墓誌・祭文)、十七(雜傳)92丁 25年度修復時改装	H23-07
明倫・0938	蘇東坡絶句四巻	宋蘇軾撰 源修編 田能村孝憲校	1					和紙袋綴刊本	* 蘇東坡(東坡)とは宋代の士大夫であり、唐宋八大家の一人である蘇軾のこと//	送返 宋	H23-07
明倫・0939	蘇東坡絶句四巻	宋蘇軾撰 源修編 田能村孝憲校 (大・河内屋茂兵衛等)	2			嘉永1刊	1848	和紙袋綴刊本 22.4×15.8 41(1冊目は不明)	* 蘇東坡(東坡)とは宋代の士大夫であり、唐宋八大家の一人である蘇軾のこと//	送返 宋 全四巻(目次より) 23年度電子化後、25年度939-2のみ修復 939-2について 外題無・表紙見返「蘇東坡絶句」(虫損大)内題「蘇東坡絶句 巻之一」著者等「秋田 源修士業校録/豊後 田能村孝憲君葬?丁」文化四年の序あり 序・巻之一～二(全41丁)	H23-07
明倫・0940	韓魏公集三八巻史伝一卷	宋韓琦著 明康丕瑞校 (江・山城屋佐兵衛等)	13					和紙袋綴刊本	韓魏公集は宋の韓琦の詩文を収め、全38巻。その詩文は華嚴ではないが、唐風を一家させ文壇に宋調をおこした。//大辞典(平凡社)	句返 宋 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-07
明倫・0941	(宋大家)欧陽文忠公文選一〇巻	綿震川選著	7					和紙袋綴刊本	* 欧陽修は、唐宋八家の一人。中国、北宋の文学者・政治家。廬陵(江西省)の人。字は永叔。号は醉翁、六一居士。仁宗・英宗・神宗に仕えたが、王安石の新法に反対して引退。北宋随一の文豪で詩の評論形式の一つである「詩話」を初めて書いた。著「新唐書」「新五代史」「集古録」など。欧陽修//	白 宋 「明倫堂蔵書記」あり。	H23-07
明倫・0942	王陽明先生全集一六巻	王陽明著	16					和紙袋綴刊本 26.9×15.8 81・68(1～5冊目、7,8冊目、10～16冊目は不明)	* 王陽明(1472～1528)は中国、明代の思想家。陽明学の祖。余姚(浙江省)の人。名は守仁。字は伯安。陽明は号。諡は文成。陸九淵の学をうけ継ぎ、知行合一説・致良知説を主張して一派を成し、王学・陽明学と呼ばれる//	句(朱点加) 明 23年度電子化後24年度修復(942-6・9のみ・改装、直書きの外題のみ添付) 外題「王陽明全集」外題・小口には「巻六」「巻九」とある、内容は巻五(80丁)と巻八(67丁)942-13～16(27年度電子化) 巻十三～十六 1～12は23-07 蔵書印朱印「田部氏蔵書印」 朱による書入れ(批点)あり	H23-07/27-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0944	杜律五言鈔一二巻	(山村伝右衛門等)	9			万治3刊	1660	和紙袋綴刊本 27.0×17.5	*「杜律五言」は漢詩の書。(唐の杜甫の撰した「杜工部集」の注解書か?)/圖書総目録/漢籍解題	送返 明 「杜律五言鈔」1～12巻「杜律七言鈔」2～7巻(五言 944-1・3・5・7・8)外題直書「五言」内題「杜律五言鈔」(七言 944-2・4・6)外題直書「七言」内題「杜律七言鈔」7巻の巻末に「西田加兵衛 板」と記載 944-8に書付有 蔵書印無	H28-01
明倫・0945	杜律五言鈔		1			天保4写	1833	和紙袋綴刊本	*「杜律五言」は漢詩の書。(唐の杜甫の撰した「杜工部集」の注解書か?)/圖書総目録/漢籍解題	明	H23-08
明倫・0946	唐荊川先生文集三巻	明唐順之著 齋藤五郎象校読 (大・河内屋吉兵衛等)	3			文政13刊	1830	和紙袋綴刊本		送返 明	R6-03
明倫・0948	高青邱詩醇七巻	齋藤謙有編	1			嘉永3刊	1850	和紙袋綴刊本	*高青邱は中国、元末・明初の詩人、高啓(1336～1374)のこと。蘇州(江蘇省)の人。字は季迪。号、青邱。江南の風物・農民生活を描いた叙景詩や、歴史・伝説に取材した幻想的な詩を残す。//	送返 明	H23-08
明倫・0949	高青邱詩鈔	明高啓撰 清李(漁)評	1					和紙袋綴写本 24.7×16.5	*高青邱は中国、元末・明初の詩人、高啓(1336～1374)のこと。蘇州(江蘇省)の人。字は季迪。号、青邱。江南の風物・農民生活を描いた叙景詩や、歴史・伝説に取材した幻想的な詩を残す。//	白 明 外題題箋「高青邱詩鈔」(墨書)内題同 蔵書印「田邨氏蔵書印」	H28-01
明倫・0950	青邱高李迪先生詩集	明高啓撰 清金檀輯注 近藤元粹評訂	1					和紙袋綴刊本	*高青邱は中国、元末・明初の詩人、高啓(1336～1374)のこと。蘇州(江蘇省)の人。字は季迪。号、青邱。江南の風物・農民生活を描いた叙景詩や、歴史・伝説に取材した幻想的な詩を残す。//	句返 明 「堤氏文庫」の印あり。	H23-08
明倫・0951	青邱高李迪先生詩集	明高啓撰 清金檀輯注 近藤元粹評訂	1					和紙袋綴刊本	*高青邱は中国、元末・明初の詩人、高啓(1336～1374)のこと。蘇州(江蘇省)の人。字は季迪。号、青邱。江南の風物・農民生活を描いた叙景詩や、歴史・伝説に取材した幻想的な詩を残す。//	句返 明 「堤氏文庫」の印あり。	H23-08
明倫・0952	青邱高李迪先生詩集	明高啓撰 清金檀輯注 近藤元粹評訂 (大・青木高山堂)	8			明治30刊	1897	和紙袋綴刊本	*高青邱は中国、元末・明初の詩人、高啓(1336～1374)のこと。蘇州(江蘇省)の人。字は季迪。号、青邱。江南の風物・農民生活を描いた叙景詩や、歴史・伝説に取材した幻想的な詩を残す。//	句返 明 「堤氏文庫」の印あり。	H23-08
明倫・0953	青邱高李迪先生詩集	清金檀輯注 近藤元粹評訂	1					和紙袋綴刊本	*高青邱は中国、元末・明初の詩人、高啓(1336～1374)のこと。蘇州(江蘇省)の人。字は季迪。号、青邱。江南の風物・農民生活を描いた叙景詩や、歴史・伝説に取材した幻想的な詩を残す。//	句返 明 「堤氏文庫」の印あり。	H23-07
明倫・0954	感興考註	山崎嘉考註 (京・寿文堂)	2			明暦4刊	1658	和紙袋綴刊本 261×18.5	山崎間齋(嘉)が考註を加えている。朱子の齋居感興五言詩凡そ二十首、程明道は蓋孔門吟味の遺法を得、朱子その法によりて詩伝を輯む、而してその詩は直に周詩に続くものなり、その後継なく僅かに明の方遼志斎あり、わが国にてはこの詩の名を知る者渺きを以表裏して注釈を加える(山崎間齋全集解説)/前任者の備考(又は24年)/	送返 明 2冊とも同じ本 外題直書「感興考」内題「感興考註」 明暦2年山崎嘉序、巻末刊年記載:明暦4年蔵書印「大塚」(2冊とも)	H28-01
明倫・0955	岳忠武王集	明單衡録 (江・和泉屋金右衛門等)	1			文久3刊	1863	和紙袋綴刊本		句返 明	H23-08
明倫・0956	王尊嚴文粹五巻	村瀬臨輯編 明王直中撰	2			天保15刊	1844	和紙袋綴刊本		句返 明 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-08
明倫・0957	岳忠武王集	明單衡録 (江・和泉屋金右衛門)	1			文久3刊	1863	和紙袋綴刊本		句返 明 「高月鈴木文庫之印」あり。	H23-08
明倫・0958	船山詩草三巻	清張問陶撰 篠崎長平点	2			嘉永1刊	1848	和紙袋綴刊本	中国、清代中期の詩人の張問陶著。字は仲治。号は船山。四川省遂寧の出身。「船山詩草」は先妻・継妻への追慕相聞、使用人への親近感などを歌った作品。江戸・明治期に愛読された//	句返 明 「堤氏文庫」の印、「堤氏」の丸印あり。	H23-08
明倫・0959	船山詩草	清張問陶撰 (江・須原屋茂兵衛等)	1			嘉永7刊	1854	和紙袋綴刊本	中国、清代中期の詩人の張問陶著。字は仲治。号は船山。四川省遂寧の出身。「船山詩草」は先妻・継妻への追慕相聞、使用人への親近感などを歌った作品。江戸・明治期に愛読された//	句返 明 「堤氏文庫」の印、「堤氏」の丸印あり。 巻末に「明治四十二年三月一日 購之於宮崎 岡田経師」の墨書あり。	H23-08
明倫・0960	魏叔子文鈔二巻	清魏謙著 (江・須原屋茂兵衛等)	3			弘化3刊	1846	和紙袋綴刊本		返 明	H23-08
明倫・0961	杜海堂文抄一〇巻	杜海堂著 (一本松邸財津吉一写)	1					和紙袋綴刊本		白 明 「財津吉一先生写本 先生は明倫堂創立の功労者財津吉恵先生の曾孫です。明治十年に逝去されました」と書かれた紙片あり。 巻末に「保虎八月写一本松邸 財津吉一」の墨書あり。	H23-08
明倫・0962	朱竹垞文粹六巻	村瀬臨輯編 (大・河内屋茂兵衛等)	6			天保5刊	1834	和紙袋綴刊本 21.9×15.3 48・26(2～4冊目、6冊目は不明)	朱竹?は朱彝尊のこと(竹?は号)、中国、清初の学者・詩人。//大辞典(平凡社)	句返 明 全六巻(962-1目次より)H23に962-5(5巻)のみ修復 26丁 25年度962-1のみ修復 (962-1について)外題無、表紙見返「天保甲午新鐫/朱■■■■■幹/浪花書林 岡田群玉堂」内題「朱竹?文粹」 内容:序・朱竹?小傳・目録・巻之一(48丁)蔵書印朱印あり「田邨氏蔵書印」	H23-08
明倫・0963	臨北詩話	清趙翼撰	1					和紙袋綴刊本 24.5×16.1 (分冊101+91丁)		*24年度2冊に分冊 白 明 平成23年度電子化後24年修復(分冊) 外題・題箋断片のみ「■■■■詩■■」内題・版心題「臨北詩話」表紙見返に「湛怡堂蔵版」とある朱印「秋月家蔵書印」「■■■精舍球職之■■」 内容:小引1、目録1、巻一12、巻二13、巻三8、巻四21、巻五24、巻六21丁/巻七19、巻八14、巻九17、巻十19、巻十一13、巻十二9丁 *目録1、巻一1～3丁目、巻十二の9丁目は書写で補われている。 *朱や青色の書入れ有	H23-08
明倫・0966	古文真宝正文	(名古屋・本屋久兵衛等)	2			文政15刊	1832	和紙袋綴刊本	古文真宝は中国の詩文の選集。宋末・元初の費望の編と伝えられる。通行本は前、後集それぞれ10巻。前集には漢から宋までの古体詩を10体に分類し、後集は戦国から宋までの17体の文章を収める。後集には詩・賦などの韻文を含み、詩・賦・説・解・序・記・歳・銘・文・頌・伝・碑・并・表・原・論・書に分けられる。古文を主としているが、李白の「春夜桃李園に宴するの序」のような駢文をまじえる。中国におけるよりも主として日本で流行し、室町時代に伝来して五山の学僧に愛読されて以来江戸時代の初期まで、特に後集がもてはやされた。//漢籍	送返 通代 「柿原蔵書」の印あり。	H23-08

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0967	(魁本大字諸儒箋解) 古文真宝	韓退之	1					和紙袋綴刊本	古文真宝は中国の詩文の選集。宋末・元初の黄望の編と伝えられる。通行本は前、後集それぞれ10巻。前集には漢から宋までの古体詩を10体に分類し、後集は戦国から宋までの17体の文章を収める。後集には辞・賦などの韻文を含み、辞・賦・説・解・序・記・箴・銘・文・頌・伝・碑・弁・表・原・論・書に分けられる。古文を主としているが、李白の〈春夜桃李園に宴するの序〉のような駢文をまじえる。中国におけるよりも主として日本で流行し、室町時代に伝来して五山の学僧に愛読されて以来江戸時代の初期まで、特に後集がもてはやされた。／漢籍	送返 通代 「高月節木文庫之印」あり。	H23-08
明倫・0968	(魁本大字諸儒箋解) 古文真宝		1			貞享4	1687	和紙袋綴刊本 27.3×18.6 67丁	古文真宝は中国の詩文の選集。宋末・元初の黄望の編と伝えられる。通行本は前、後集それぞれ10巻。前集には漢から宋までの古体詩を10体に分類し、後集は戦国から宋までの17体の文章を収める。後集には辞・賦などの韻文を含み、辞・賦・説・解・序・記・箴・銘・文・頌・伝・碑・弁・表・原・論・書に分けられる。古文を主としているが、李白の〈春夜桃李園に宴するの序〉のような駢文をまじえる。中国におけるよりも主として日本で流行し、室町時代に伝来して五山の学僧に愛読されて以来江戸時代の初期まで、特に後集がもてはやされた。／漢籍	句送返 通代 23年度電子化後24年度修復 外題・題箋「 ■ ■真宝 坤」(上部欠損)、内題「魁本大字諸儒箋解古文真宝 (巻之下後集)」版心題「古文 巻之下」 蔵書印「水筑氏蔵書記」朱書「水筑氏」 内容・巻之下67丁 *巻末に貞享4年(1687)刊行と記載有	H23-08
明倫・0971	(魁本大字諸儒箋解) 古文真宝	(京・出雲寺和泉掾)	2					和紙袋綴刊本 25.4×18.7	古文真宝は中国の詩文の選集。宋末・元初の黄望の編と伝えられる。通行本は前、後集それぞれ10巻。前集には漢から宋までの古体詩を10体に分類し、後集は戦国から宋までの17体の文章を収める。後集には辞・賦などの韻文を含み、辞・賦・説・解・序・記・箴・銘・文・頌・伝・碑・弁・表・原・論・書に分けられる。古文を主としているが、李白の〈春夜桃李園に宴するの序〉のような駢文をまじえる。中国におけるよりも主として日本で流行し、室町時代に伝来して五山の学僧に愛読されて以来江戸時代の初期まで、特に後集がもてはやされた。／漢籍	句送返 通代 23年電子化後、25年度971-2のみ修復 (971-2について)外題題箋「天明再刻/ ■ ■ ■ 正/古文真宝 坤」内題「魁本大字諸儒箋解古文真宝 巻之下 後集」巻末「御書物所 出雲寺和泉掾」 「田邨氏蔵書印」あり。	H23-08
明倫・0972	古文真宝前集一〇巻	(京・武村新兵衛等)	8				元禄10刊	刊本	古文真宝は中国の詩文の選集。宋末・元初の黄望の編と伝えられる。通行本は前、後集それぞれ10巻。前集には漢から宋までの古体詩を10体に分類し、後集は戦国から宋までの17体の文章を収める。後集には辞・賦などの韻文を含み、辞・賦・説・解・序・記・箴・銘・文・頌・伝・碑・弁・表・原・論・書に分けられる。古文を主としているが、李白の〈春夜桃李園に宴するの序〉のような駢文をまじえる。中国におけるよりも主として日本で流行し、室町時代に伝来して五山の学僧に愛読されて以来江戸時代の初期まで、特に後集がもてはやされた。／漢籍	送返 通代	H23-08
明倫・0973	古文真宝二巻	題宋黄望編 (梅村)	2				元禄2刊	刊本	古文真宝は中国の詩文の選集。宋末・元初の黄望の編と伝えられる。通行本は前、後集それぞれ10巻。前集には漢から宋までの古体詩を10体に分類し、後集は戦国から宋までの17体の文章を収める。後集には辞・賦などの韻文を含み、辞・賦・説・解・序・記・箴・銘・文・頌・伝・碑・弁・表・原・論・書に分けられる。古文を主としているが、李白の〈春夜桃李園に宴するの序〉のような駢文をまじえる。中国におけるよりも主として日本で流行し、室町時代に伝来して五山の学僧に愛読されて以来江戸時代の初期まで、特に後集がもてはやされた。／漢籍	送返 通代 「泥谷蔵書」の印あり。	H23-08
明倫・0975	(魁本大字諸儒箋解) 古文真宝後集一〇巻	(和泉屋善兵衛)	2				寛政6刊	和紙袋綴刊本 26.4×18.2 60(1冊目は不明)	古文真宝は中国の詩文の選集。宋末・元初の黄望の編と伝えられる。通行本は前、後集それぞれ10巻。前集には漢から宋までの古体詩を10体に分類し、後集は戦国から宋までの17体の文章を収める。後集には辞・賦などの韻文を含み、辞・賦・説・解・序・記・箴・銘・文・頌・伝・碑・弁・表・原・論・書に分けられる。古文を主としているが、李白の〈春夜桃李園に宴するの序〉のような駢文をまじえる。中国におけるよりも主として日本で流行し、室町時代に伝来して五山の学僧に愛読されて以来江戸時代の初期まで、特に後集がもてはやされた。／漢籍	句送返 通代 全10巻(目録より) 23年度電子化後、25年度975-2のみ修復(975-2について)外題(ベンで直書)「魁本大字諸儒箋解古文真宝後集」内題同 内容・序・目録・巻之一〜四(巻上)(60丁) 「橋河辺蔵書印」	H23-08
明倫・0976	(魁本大字諸儒箋解) 古文真宝二巻		1					和紙袋綴刊本 25.4×18.0 63丁	古文真宝は中国の詩文の選集。宋末・元初の黄望の編と伝えられる。通行本は前、後集それぞれ10巻。前集には漢から宋までの古体詩を10体に分類し、後集は戦国から宋までの17体の文章を収める。後集には辞・賦などの韻文を含み、辞・賦・説・解・序・記・箴・銘・文・頌・伝・碑・弁・表・原・論・書に分けられる。古文を主としているが、李白の〈春夜桃李園に宴するの序〉のような駢文をまじえる。中国におけるよりも主として日本で流行し、室町時代に伝来して五山の学僧に愛読されて以来江戸時代の初期まで、特に後集がもてはやされた。／漢籍	送返 通代 全2巻のうちの上巻(目録より) 23年度電子化後、25年度修復 外題直書「古文真宝 乾」内題「魁本大字諸儒箋解古文真宝巻之上後集」内容・序・目録・巻之上(59丁) 蔵書印「高鍋図書館蔵書印」表紙見返書入「学校御用」など、裏表紙「高鍋字 ■ ■蔵書」「明倫堂」	H23-08
明倫・0977	統唐宋八家文読本一八巻	村瀬石庵編 (和泉屋庄次郎)	12				文政8刊	和紙袋綴刊本 22.9×16.4 74・70・49・52・62・62・49・67・60・51・74・53	中国 唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻 唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	白 通代 在全巻(18巻12冊) 23年度電子化後25年度修復(12冊全て) 外題題箋「統唐宋八家文読本 一」(巻数の数字と枝番は同)977-6のみ題箋欠 内題同 著者等「韓愈退之著 後学 村瀬潜輔字 ■ 編次」*編者は村瀬石庵(田辺石庵) 内容・丁数(枝番順に):序①文政8②文政2③文政2(佐藤坦)・巻一(74丁)/巻二・三(70)/巻四(49)/巻五(52)/巻六・七(62)/巻八・九(62)/巻十(49)/巻十一・十二(67)/巻十三・十四(60)/巻十五(51)/巻十六・十七(74)/巻十八・跋(柒)	H23-08
明倫・0978	唐宋八家文読本三〇巻	沈徳潜編次・評点 (大・此村庄助等)	14			明治12刊	1879	刊本	中国 唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻 唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	句 通代 「日向高鍋城氏國籍」の印あり。	H23-08
明倫・0979	唐宋八家文読本三〇巻	清沈徳潜編 (和泉屋庄次郎)	13			文化11刊	1814	和紙袋綴刊本 22.7×16.4	中国 唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻 唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	句 通代 23年電子化後25年度に979-1・2・5・6・9を修復(修復5冊について)題箋欠損(一部しか読み取れない)「唐宋八大家文読 ■ 」か?内題「唐宋八家文読本」著者等「韓愈退之著 後学 清沈徳潜 ■ 士評点」 巻数・丁数(枝番979-1・2・5・6・9の順に):巻二・三・65丁/巻四・五・71/巻十一・十二・77/巻十五・十六・59/巻二十一・二十二・61/ 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H23-08

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0980	(纂評)唐宋八家文読本三〇巻	井上揆一郎纂評（江・太田勘右衛門等）	16			明治12刊	1879	刊本	中国、唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	句返 通代「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H23-08
明倫・0981	(纂評精註)唐宋八大家文読本三〇巻	石川鴻斎校註（東・前田圓）	8			明治18刊	1885	刊本	中国、唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	句返 通代「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H23-08
明倫・0982	唐宋八大家文読本	清沈徳潜評頼山陽増評（江・和泉屋金右衛門）	16			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 24.0×16.0 44・52(1〜7冊目、9・10冊目、12〜16冊目は不明)	中国、唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	返 通代 H23に982-8(13・14巻)のみ修復（24.0×16.0）外題あり「増評八大家文讀本」朱印あり書入(朱)あり 28丁目に書が挟み込まれている（「蠹翰」と表題）23年度電子化後24年度に982-11(巻19・20)のみ修復 982-11について (23.4×15.7)外題あり「増評八大家文讀本」内題同じ 52丁 内容:巻十九25・巻二十25丁 朱印有「■武藤蔵書」	H23-08
明倫・0983	(纂評)唐宋八大家文読本三〇巻	清沈徳潜評松本仁吉纂評（京・寺田熊次郎）	16			明治25刊	1892	刊本	中国、唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	句返返 通代	H23-08
明倫・0984	(纂評)唐宋八大家文読本三〇巻	清沈徳潜評点井上揆一郎纂評（東・太田勘右衛門等）	16			明治12刊	1879	刊本	中国、唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	返 通代「田邨氏蔵書印」「好古堂蔵書印」あり。	H23-08
明倫・0985	唐宋八家文読本三〇巻	清沈徳潜	1					刊本	中国、唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	白 通代「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H23-09
明倫・0986	唐宋八家文読本三〇巻	柳宋元著	1					和紙袋綴刊本 21.7×15.5 64丁	中国、唐宋の八家の名文集、清の乾隆期の詩文作家、沈徳潜の編集で30巻唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	白 通代 23年度電子化後表紙のみ修復(改装)題箋下部のみ(巻数:「七」)内題、版心題「唐宋八家文読本」 内容:巻七36丁、巻八28丁「日向高鍋城氏図籍」朱印 書入れ多数(墨書・朱)	H23-09
明倫・0987	唐宋八大家文分体読本	翰林院編	35			康熙56(享保2)刊	1717	和紙袋綴刊本 24.5×15.2 丁数不明	唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	白 通代 23年電子化後表紙のみ修復(987-1〜4、6〜17、19〜23、27)内題「唐宋八大家文分体読本」蔵書印無、987-13裏表紙見返りに朱書「高鍋明倫堂蔵書」 改装987-1・6【1集】巻之一目次2・1〜50/51〜119・巻之二目次2・1〜68/69〜130・巻之四目次2・76・巻之五目次2・96・巻之六目次2・101・巻之七目次5・1〜70/71〜118・巻之八目次3・1〜55/56〜116・【2集】巻之一目次2・1〜60/61〜102・巻之二目次2・95・巻之三目次2・86・巻之四	H23-09/24-01
明倫・0988	唐宋八大家訳語二巻	城井寿章訳語（東・太田勘右衛門等）	4			明治10刊	1877	刊本	唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	通代「高鍋学校印章」の印あり。	H23-09
明倫・0989	唐宋八大家文格	川西潜士編次片山勳子纂評	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.8 64丁	唐宋八大家とは中国唐代から宋代にかけての八人の文人のことで 唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、曾鞏、王安石を指す。//	句 通代 23年度電子化後24年度修復蔵書印朱印「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」「高鍋図書館蔵書印」 外題・題箋「唐宋八大家文格纂評 三」内題「唐宋八大家文格」版心題「八大家文格纂評」 内容:目録3、巻三61丁 朱の書入れ有	H23-09
明倫・0990	西漢文選	欣同人評 呉振乾 陳永勲 董南紀芝五采参述	2					和紙袋綴刊本 23.0×12.9		白 通代 24年度電子化時に990-2の表紙のみ修復 外題直書「西漢分選」 990-1巻之四43丁/990-2巻之三54丁 (巻の順が枝番とは逆) 990-2は改装 巻頭に朱印有 (R2.9月 巻之三55丁目が出てきたため、巻末に追加・再度製本)	H24-01
明倫・0991	(六臣註)文選六〇巻	梁蕭統編 唐李善等註	59					和紙袋綴刊本 18.9×26.7	文選は中国の六朝の梁代に編まれた詞集。編者は梁の武帝の長子、昭明太子蕭統。30巻。周から梁に至る代表的な詩文約800編を網羅する。こうした詩集の編纂事業は3世紀末から始まり、六朝時代を通じてかなりの数に上る詩文の選集が編まれたが、《文選》はその集大成として現れ、唐以後の文学にも多大の影響を及ぼした。選択の基準は、経書、史書(ただし論贊は別)、諸子を除く詩文中から、深い内容と華麗な表現を備えた作品を取ることにあつたと、昭明太子の序にはいう 唐代に李善がこれに注して60巻とした。//	句返返 通代 全80巻のうち59巻(60巻が欠) 外題題箋「文選 六臣註 四」(題箋は枝番4・5・6・7・9・10・14・17・18・20・24・29・30・31・33・37・41・42・43・44・47・50・51・52・55・56)に残る、他は直書き)991-59は改装 内題「六臣註文選巻第一・梁昭明太子蕭統撰/唐李善 呂延濟 劉良/張統 李周翰 呂向 註」 991-1から順に内容:序8・目録36・姓氏8・表3/巻第一-53/第二 46/54/43/49/55/43/42/37/53/63/37/44/3	H24-01
明倫・0992	(精刊唐宋千家)聯珠詩格二〇巻	宋干濟 蔡正孫編（江・山崎屋清七等）	5			文化1刊	1804	和紙袋綴刊本 25.8×17.3		送返 通代 外題題箋「聯珠詩格」 自一/至四」 表紙見返「文化元年新饒/天民先生校/聯珠詩格/東都書肆 金蘭閣梓」 文化甲子歲・佐藤坦の序有、庚子三月・蔡正孫の序、王序、干序 序文5、序計6丁、総目10、一巻7、二巻8、三巻9、四巻11丁/五巻12、六巻11、七巻12、八巻11 九巻10、十巻13、十一巻12、十二巻14/十三巻12、十四巻12、十五巻10、十六巻12/十七巻15、十八巻10、十九巻13、二十巻10 蔵書印「日高鍋文庫印」 992-2裏表紙改装	H24-01
明倫・0993	文章軌範	謝枋得編次安藤業纂評	1					和紙袋綴刊本 25.5×18.2 52丁	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜(淵明)の《帰去来兮辞》)以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、欧陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句返 通代 全三冊七巻のうち二冊目(巻之三〜巻之四)(994.995をみよ) 外題題箋「安政改鑄/文章軌範纂評 二」 内題同 内容:巻之三25、巻之四27 蔵書印「堤氏文庫」	H24-01
明倫・0994	文章軌範	安藤業纂評 宋謝枋得編次（京・吉野屋仁兵衛）	1			嘉永1刊	1848	和紙袋綴刊本 25.5×18.2 62丁	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜(淵明)の《帰去来兮辞》)以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、欧陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句返 在巻5・6・7 通代 993.995をみよ 全三冊7巻の3冊目 外題題箋「安政改鑄/文章軌範纂評 三」 内容:巻之五21、巻之六19、巻之七22丁 巻末 嘉永元年 吉野屋仁兵衛 板 蔵書印「堤氏文庫」	H24-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・0995	文章軌範	謝枋得編次 安藤素菴評	1					和紙袋綴刊本 25.5 × 18.2 66丁	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句返 通代 全三冊7巻の1冊目 外題題箋「安政改謄/文章軌範纂評 一」 安政丁巳の序有(昌平学教育 安積信) 内容: 序3、文章軌範序2、凡例1、目錄5、巻之一32、巻之二23 巻末 嘉永元年 吉野屋仁兵衛 板 蔵書印「堤氏文庫」	H24-01
明倫・0996	文章軌範正編		3					和紙袋綴写本 24.2 × 15.7	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句 通代 外題直書「文章軌範 正編 壹」 巻頭(文章 ■■(虫損))「王守仁撰」(文章軌範の序と思われる)、内題の下「宋 廣信 疊山先生 謝枋得 批選」 996-1正文章軌範巻之一・二 996-2正文章軌範評林注釈巻之三・四 996-3正文章軌範巻之五・七 蔵書印「田邨氏蔵書印」	H24-01
明倫・0997	(精註)正文章軌範七巻	謝枋得批選 李廷機評訓 石鴻斎補註 (東・松栄堂)	3			明治24刊	1891	和紙袋綴刊本 23.1 × 15.6	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句送返 通代 1002の「続文章軌範」とあわせて全6冊か 外題題箋「精註/正文章軌範 石川鴻斎精註 一」 表紙見返「精註 正続文章軌範/版権所有 東京 松栄堂蔵版」内題同 巻首題下部「謝枋得批選 李廷機評訓 石鴻斎補註」版心題下部「松栄堂蔵版」 明治24年 石川英(鴻斎)の序有 内容: 教育勸語1、序①2②1、凡例2、目錄4、巻之一23、巻之二19/巻之三24・巻之四24/巻之五15・巻之六16・巻之七22 蔵書印「高鍋学校印章」	H24-01
明倫・0999	文章軌範評林	宋謝枋得批選 明李廷機評訓 塩田東亀補訂	1					和紙袋綴刊本 18.6 × 12.5	文章軌範評林は「文章軌範」の注解書。文章軌範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	送返 通代 23年度電子化後24年度修復(一部のみの) 外題題箋「明治新刻文章軌範評林」 表紙見返し「明治新刻/塩田先生補訂/文章軌範評林/大版 山内蔵」内題「正文章軌範評林註釋」 序(寛政3年 東都 東亀年)と凡例で1・4丁・巻之一25・巻之二22丁	H24-01
明倫・1000	文章軌範評林・註釈全七巻	宋謝枋得 明李廷機評訓 東亀年補訂 (江・谷茂助)	3			文政4刊	1821	和紙袋綴刊本 26.3 × 18.0	文章規範評林は「文章規範」の注解書。文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	送返 通代 1001の「続文章軌範評林」とあわせて、全6冊(続文章軌範の2冊目欠) 巻末の刊行は1001-2に記載(文政4年刊) 外題題箋「校刻補訂/文章軌範評林 一 二」 表紙見返「正続合併/塩田先生補訂/文章軌範評林/満寛亭蔵」 寛政3年東亀年の序あり 内容: 補訂序・凡例・王陽明序・目錄・原本凡例のべ13丁、巻之一25、巻之二21/巻之三26、巻之四27/巻之五17、巻之六18、巻之七25/ 蔵書印「樗武藤蔵書記」	H24-01
明倫・1001	続文章軌範評林七巻	明 守益批選 焦崧評校 李廷機註問 伊東亀年補訂 (江・谷茂助)	2			文政4刊	1821	和紙袋綴刊本 26.3 × 18	文章規範評林は「文章規範」の注解書。文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句送返 通代 1000の「文章軌範評林」とあわせて、全6冊(正続合併)続文章軌範全三冊で二冊目が欠 外題題箋「校刻補訂 続文章軌範評林 一 二」 内容: 目錄4・巻之一29・巻之二15/巻之五27・巻之六25・巻之七18・跋(寛政六年)1 蔵書印「樗武藤蔵書記」	H24-01
明倫・1002	(精註)続文章軌範七巻	石川鴻斎補註 (東・大草常章)	3			明治24刊	1891	刊本	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句送返 通代 997の正文章軌範とあわせて全6冊か 外題題箋「精註 続文章軌範 石川鴻斎精註 一」 内題同、版心題下部「松栄堂蔵版」 巻末より「明治廿四年出版/石川鴻斎補註/大草常章発行」 内容: 目錄4丁・巻之一27・巻之二14/巻之三20・巻之四26/巻之五25・巻之六23・巻之七17・(奥付)2丁 「高鍋学校印章」の印あり。	H24-01
明倫・1003	(補註)続文章軌範	奥田遼補註	2					和紙袋綴刊本 23.0 × 15.6 丁数不明	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句送返 通代 23年度電子化後24年度に一部修復(1003-1)のみ 目錄より全七巻(巻之五〜七) 外題題箋「補註/続文章軌範校本 奥田遼補註 一 二」 巻頭見返「補註/続文章軌範」(下部虫損) 明治12年島田禮序 内容: 島田序3・例言1・目錄4・巻之一40・巻之二19/巻之三31・巻之四33/ 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H24-01
明倫・1004	続文章軌範講解	森立之講解	1					和紙袋綴刊本 22.7 × 15.4 59丁	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	通代 23年度電子化後24年度に一部修復(1004-1)のみ 原文は句送返・原文の次に書き下した力ナ交じり文をのせる。上部の講解部分は力ナでルビ 外題題箋「■文章軌範講解 森立之著 三」(一部欠)内題「続文章軌範講解」版心題下部「内藤氏蔵版」 内容: 巻之三59丁 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H24-01
明倫・1005	(増評)続文章軌範七巻	大竹政正纂輯 (融部太郎兵衛)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 18.6 × 12.3 75丁	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句送返 通代 全七巻(全3冊のうちの1冊か?) 外題鉛筆で直書き、内題「増評続文章軌範」 内容: 巻之五28・巻之六26・巻之七20丁・(奥付)1丁 奥付「明治十年(版權免許)/纂輯 大竹政正/出版 牧野吉兵衛/發兌 融部太郎兵衛」 蔵書印「日向高鍋城氏図籍」「高鍋城氏」(直径4.2 cmの丸印)	H24-01
明倫・1006	(標註)続文章軌範読本七巻	明 守益批選 焦崧評校 李廷機評訓 井上揆訓釈 (東・水野慶次郎)	4			明治30刊	1897	和紙袋綴刊本 22.5 × 15.0	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と晋の陶潜《淵明》の《帰去来兮辞》) 以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	送返 通代 「正文章軌範読本」と「続文章軌範読本」とともに一冊目が欠(正続併せて6冊のうちの4冊と思われる) 1006-1題箋「評註続文章軌範読本」1006-3f評註正文章軌範読本」内題同 版心題下「水野氏蔵版」(1006-1から順に)続三巻・四巻/続五・六・七/正三・四/正五・六・七 内容: 三之巻20・四之巻25/五之巻25・六之巻23・七之巻13/三之巻22・四之巻22/五之巻15・六之巻15・七之巻21丁/	H24-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1007	正統文章軌範纂語字類	池田四郎次郎 編輯	1					刊本	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と曹の陶潜《淵明の《帰去来兮辞》）以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	通代 漢文には返り点とルビ(読み)日本語の解説文はカナで書き下し文(ルビ有)。 随所に挿絵あり (外題：鉛筆書きで「正統文章軌範纂語字類」)内題同じ、版心題同、版心の下部「大阪同志出版社蔵」巻之二59丁	H24-01
明倫・1008	(補註)文章軌範校本七巻	宋謝枋得編次 海保元備補註 島田重 (東・別所平七)	3			明治10刊	1877	刊本	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と曹の陶潜《淵明の《帰去来兮辞》）以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句送返 通代	R6-03
明倫・1009	(点註)正文文章軌範	宋謝枋得批選 明李廷機評訓 宮脇南溪輯補	4					和紙袋綴刊本 12.7×18.5	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と曹の陶潜《淵明の《帰去来兮辞》）以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句送返 通代 外題直書「點註正文文章軌範」内題同 1009-1・4が宋謝枋得批選 明李廷機評訓 宮脇南溪輯補の巻二〜七(刊年不明 明治十三年の財津氏の書入れ有) 巻三29・四28/五19・六19・七17 1009-2・3が明 李廷機註問 で宮脇南溪輯補の巻三〜七(明治十年刊) 巻三25・四31/五30・六17・七20 蔵書印「高鍋図書館蔵書」丸印「財津」 1009-1の裏表紙見返しに「財津蔵書」、1009-4の裏表紙見返しに「明治十三年六月下旬■/横筏財津蔵本」等の墨書あり。	H24-01
明倫・1010	(標註)文章軌範読本	宋謝枋得批選 明 守益批選 井上揆標註	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.1	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と曹の陶潜《淵明の《帰去来兮辞》）以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	返 通代 巻之一、二のみ 外題直書「評註正文文章軌範読本 一二」見返し「宋廣信 臺山謝枋得批選/明 安福 東郭鄒守益批選/日本 北総 桜塘井上揆標註/標註文章軌範読本/東京 水野氏蔵版」 J内題同じ宋謝枋得批選 明 守益批選 井上揆標註 版心題下「水野氏蔵版」 * 目録では全七巻 序2、凡例1、目録4、巻之一21、巻之二18「■田一印」あり。	H24-01
明倫・1011	続文章軌範校本七巻	奥田達補注 (東・別所平七)	3			明治12刊	1879	刊本	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と曹の陶潜《淵明の《帰去来兮辞》）以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句送返 通代	R6-03
明倫・1012	(標註)続文章軌範読本七巻	明羅守益批選 堀評校 李延機註問 井上揆訓釈	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.1	文章規範は、中国、科挙受験者のための編集された模範文集。7巻。軌範とは手本・法則の意味。宋末の忠臣謝枋得の編。蜀漢の諸葛亮の《出師表》と曹の陶潜《淵明の《帰去来兮辞》）以外はすべて唐・宋人の文章から成り、韓愈31編、柳宗元5編、蘇軾12編、歐陽修5編、蘇洵4編などが多いほうである。全体を放胆文(1.2巻)と小心文(3巻以下)とに大別する/大辞典(平凡社)/漢籍解題	句送返 通代 (目録より全七巻)在一、二巻 外題題庫「標註続文章軌範読本 一二」内題同、巻頭に明 羅守益批選 集註評校 李延機註問 日本北総 井上揆訓釈とある 版心題下「水野氏蔵版」 内容：目録4、巻之一26、巻之二14	H24-01
明倫・1013	古今詩刪三四巻	明李攀龍編 徐中行校 (京・文林軒田原勘兵衛)	5			寛保3刊	1743	和紙袋綴刊本 22.5×15.5	* 李攀龍の編んだ漢詩集『古今詩刪』か？ 明の李攀龍(りはんりょう、1514年(1570年)は唐代の漢詩選集『唐詩選』を編纂したといわれる	送返 通代 在巻10〜13、19〜24、28〜30 外題直書「古今詩刪」書入「明倫堂」学校御用籍 など1013-3巻末「送横尾君」とあり 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・1014	文体明辯	明徐師曾	1					和紙袋綴刊本 25.5×16.8		白 通代 在巻11〜12 外題直書「文体明辯」内題同 蔵書印「秋月家蔵書印」	H28-01
明倫・1015	声面集八巻	宋孫紹遠編	1			文化13刊	1816	和紙袋綴刊本 20.7×14.5		句返 通代 在巻5〜8(1〜4欠) 外題直書「聲面集」内題同 巻末刊年記載 文化十三年刊	H28-01
明倫・1016	佩文齋詠物詩選二編	清汪 等奉勅編 (江・玉屋久五郎等)	1			文政13刊	1830	和紙袋綴刊本 9.6×18.5 106丁	佩文齋詠物詩選は4編、清の康熙年間、陳廷敬等奉勅撰、古詩より宋・元・明に至る詩家の作品を収めている。 /大辞典(平凡社)/	送返 通代 全一冊のうちの一冊(二巻目)、懷中模本 外題無、内題「佩文齋詠物詩選二編」館模榊柳 鈔録 巻末「文政十三寅春発行」(江戸、玉屋久五郎等) 内容：二編 161〜260頁(102丁)、金生堂目録4丁 蔵書印「日向高鍋城氏図籍」 * 目録より、続巻2冊とあわせて全部(4編)となるこのこと	H24-01
明倫・1017	国朝六家詩鈔八巻	清沈德潜 清劉執玉編	3			乾隆32(明和4)刊	1767	和紙袋綴刊本 17.2×11.5		句 通代 外題直書・内題「国朝六家詩鈔」 1017-2の一卷に沈德潜の序(乾隆丁亥) 1017-1が六巻1017-3が二巻 1017-1 六巻42丁/1017-2 序3・凡例2・総目1・一卷46/1017-3 二巻64丁 1017-2.3は表紙改裝 蔵書印「田中蔵書」「高鍋図書館蔵書」「福山藩■ ■氏蔵書記」	H24-01
明倫・1018	国朝六家詩鈔(上下)	清劉執玉編	2					和紙袋綴刊本 17.2×11.5		句 通代 外題直書・内題「国朝六家詩鈔」 1017-2の目録より、1017の七巻・八巻であると思われる 「査慎行 上 下」 1018-1 上 46丁 1018-2下43丁 蔵書印「田中蔵書」「高鍋図書館蔵書」「福山藩■ ■氏蔵書記」	H24-01
明倫・1019	培菴諧声集	梁炯編輯 黎国光審異	1			道光8(文政11)刊	1828	和紙袋綴刊本 20.0×12.9		白 通代 外題直書「廣東培菴詩集 全」表紙見返「道光丁酉年饒/督学使者白■鑒定/廣東培菴詩集/大西堂蔵版」 序：道光丁酉、1丁・目録23・巻之一36・巻之二34・巻之三34・巻之四36・跋2丁 巻末に書入れ有 「堤氏文庫」	H24-01
明倫・1020	蔣苕生詩	歸元邦選 (甲府・内藤伝右衛門)	1			明治		和紙袋綴刊本 24.0×13.8		返 通代 在巻下 外題直書「蔣苕生詩」内題同 明治戊寅十月跋あり 蔵書印「小寺蔵書」朱印「小寺」	H28-01
明倫・1021	瀛奎律髓四九巻	元方回編	1					和紙袋綴刊本 8.9×18.0		送返 通代 巻中 内題「瀛奎律髓」 蔵書印「■■之印」	H28-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1022	庚寅誦集三編	黎庶昌署校	1			清光緒16 (明治23) 刊	1890	和紙袋綴刊本 25.5×15.1		白 通代 外題鉛筆で直書き「庚寅誦集三編」扉「庚寅誦集三編/黎庶昌署校」 内容・統序2・扉1(傍親編)、傍親編24、疊韻語録、序は「大清光緒十六年歲次庚寅十月遵義黎庶昌」 蔵書印「秋月家蔵書印」	H24-01
明倫・1023	題画玉函三卷	庄門照編 (大・岡田茂兵衛)	3			明治12函	1879	和紙袋綴刊本 13.5×8.5		句送 通代 外題無 内題「題画玉函」表紙に順に「天」「地」「人」と墨書き 1023-3の巻末に明治十二年九月五日/編集人「京都府平民/庄門照」出版人「大阪府平民/岡田茂兵衛」序7丁・総目2・巻上60/巻中59/巻下71丁「泥谷真蘭之印」あり。	H24-01
明倫・1024	(山映閣里訂) 昭明文選	梁昭明太子肅撰 吳郡孫等評閱	6			康熙25(貞享3)刊	1686	和紙袋綴刊本 23.4×14.6	「文選(もんぜん)」は中国の六朝の梁に編まれた詞華集。編者は梁の武帝の長子、昭明太子蕭統。30巻。周から梁に至る代表的な詩文約800篇を網羅する。こうした詩華集の編纂事業は3世紀末から始まり、六朝時代を通じてかなりの数に上る詩文の選集が編まれたが、「文選」はその集大成として現れ、唐以後の文学にも多大の影響を及ぼした。選択の基準は、経書、史書(ただし論贊は別)、諸子を除く詩文中から、深い内容と華麗な表現を備えた作品を取ることにあつたと、昭明太子の序にはいう 唐代に李善がこれに注して60巻とした。	白 通代 外題直書「文選」 孫序8、文選序8、山映閣重訂昭明文選原序3丁、 凡例2、目14、巻一55/巻二27、巻三44、巻四74(1-36/37-74)、巻五46、巻六48/巻七35、巻八66/巻九序、巻十53/巻十一66、巻十二59 蔵書印「秋月家蔵書印」「上嶋日小田氏蔵書記」「小田郁印」 朱や墨の書入れ有	H24-01
明倫・1025	絶句類選	津坂東陽輯 (稽古精享)	1			文政11刊	1828	和紙袋綴刊本 25.0×14.4	唐代から清代にわたる七言絶句の名詩を類別した書。津藩の儒者・津坂東陽(名は孝緯、1744-1825)が編集。(* 圖書にある「絶句類選評本」は「絶句類選」中の主な詩に批評を書き加え、唐代から清代にわたる七言絶句の名詩3000首を、21の類に分けて編集したもの)	通代 全十冊のうちの一冊目(巻一〜三) 外題鉛筆書き「絶句類選」見返し「文政戊子新鐫/東陽先生輯/絶句類選/稽古精舍版」 内題同 伊勢、津坂孝緯君裕編輯 巻一(節序類)24、巻二(禁書類)8、巻三(宴会類)6丁 序には「文政七年甲申八月 東陽老人題於稽古精舍/八年乙酉夏日 菱湖 巻大任書」(東陽が題し、菱湖巻が清書した)	H24-01
明倫・1026	清廿四家詩	中嶋一男編纂	1			明治11刊	1878	刊本		句送 通代	R6-03
明倫・1027	林園月令	館柳湾	4					和紙袋綴刊本 12.7×8.7	正月より、12月までの順に故事や章句など関係あるものを類集したもの。(圖書より)初篇8巻4冊、二篇8巻4冊、三篇16巻4冊より成り、各月別の林園作業について記す、全漢文、天保2年の松崎俊序あり、従来との29番減に当たる。「りんえんがつりょう」とも読む(鹿児島大学図書館より)	通代 題箋1027-2「林園月令二編」 1027-1は初篇の3巻 1027-2〜4は二編の巻三・一・二 1027-1内題「林園月令巻三」巻三51丁 107-2内題「林園月令二編巻三」 巻三46/目録2・巻一43/巻二46丁 蔵書印「泥谷真蘭蔵書之印」	H24-01
明倫・1029	晚唐十二家絶句	館機板卿父輯 (江・青藜閣)	2					和紙袋綴刊本 22.2×14.9		送返 断代 1030をみよ 上下巻のうちののみ二冊 1029-2外題題箋「晚唐十二家絶句」巻頭見返・内題同 序(戊■十一月)・目録・上 1029-1蔵書印「田邨氏蔵書印」 1029-2朱印「開■■■■」	H28-01
明倫・1030	晚唐十二家絶句	館機板卿父輯 (江・青藜閣・須原屋伊八)	1			弘化2刊	1845	和紙袋綴刊本 22.2×14.9		送返 断代 1029-1をみよ 下巻(38丁〜始まる) 外題直書「晚唐十二家絶句」 「田邨氏蔵書印」あり。	H28-01
明倫・1033	唐詩選掌故七卷	明李攀龍編選 葉玄之集註 (江・小林新兵衛等)	2			明和5刊	1768	刊本	唐詩選は中国、明代に作られた唐詩の選集。7巻。編者は李攀竜とされていたが編者未詳というのが定説。初・盛・中・晩の四唐にわたり126人、400余首を収録。//	送返 断代 巻末に千葉茂右衛門着記載	R6-03
明倫・1035	唐詩選	李攀龍編選	1					和紙袋綴刊本 12.4×9.0	中国、明代に作られた唐詩の選集。7巻。編者は李攀竜とされていたが編者未詳というのが定説。初・盛・中・晩の四唐にわたり126人、400余首を収録。/大詩典(平凡社)/	返 断代 総ルビ(カナ) 巻之四〜五 外題無、内題「唐詩選 巻之四(トウセン クハンシ)/濟南李攀龍編選」 巻之四18丁・巻之五25丁 「高鍋図書館蔵書」 24年度電子化時に一部修復	H24-01
明倫・1036	唐詩選講釈	李千嶺編選 千葉子玄口述 (江・高山房)	1			文化10刊	1813	刊本	唐詩選講釈は唐詩選の注釈書。7巻。千葉玄之著。文化10年刊。唐詩選を仮名文によって全釈。(大詩典(平凡社)/	断代	R6-03
明倫・1038	唐詩選掌故	李攀龍編選 葉玄之集註	1			明和1刊	1764	和紙袋綴刊本 22.8×16.4 171丁	「唐詩選掌故」は江戸期に出された唐詩選の注釈書のひとつ。唐詩選は中国、明代に作られた唐詩の選集。7巻。	送返 断代 全七巻(1冊) 外題直書「唐詩選掌故 全」表紙見返・内題同じ 著者等「明 濟南 李攀龍編選 日本 東郡 葉玄之集註」 内容・序・秋月序・凡例・爵里・序・附言・巻一〜七・跋(序跋は全て明和1年) 23年度電子化後25年度修復(2冊に分冊) 「城氏」の印あり。 巻末に「二冊之内 城橋重」の墨書あり。	H23-09
明倫・1039	唐詩集註七卷	明李攀龍選 宇鼎士纂 笠原常大典集補 (京・田原勘兵衛)	7			安永3刊	1774	和紙袋綴刊本 27.6×19.1 51・42・43・53・25・69(1冊目は不明)	* 唐詩選は中国、明代に作られた唐詩の選集。7巻。編者は李攀竜とされていたが編者未詳というのが定説。初・盛・中・晩の四唐にわたり126人、400余首を収録。* 日本での(纂)宇鼎士斯/(訂)笠原士朗とは江戸中期の匿名者群 野説とその第士郎のこと。(24年度修復資料で著者名確認)//	送返 断代 1039-2〜7のみ23年度電子化後24年度修復 1039-2〜7について 全て蔵書印朱印「明倫堂蔵書記」「高鍋図書館蔵書印」1039-3・4「明倫堂所蔵」1039-5・6墨書「明倫堂蔵書」など 外題直書1039-1〜5、7「唐詩集註」1039-6表・裏表紙改装(題箋に「唐詩集註」と墨書き) 内題、版・版心とも同じ 内容・巻之五1、三42、四43、五53、六25、七69丁裏見返書入：1039-4「梅窓主人/水町作十郎」 1039-7「学校御用書物/平時教授/横尾■■■/晩■■■爽■■■」	H23-09
明倫・1041	唐詩正声二二巻	明高 編選 明呉 校訂	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.7	唐詩正声は22巻。明の高?撰。「唐詩品彙」(90巻・明の高?撰)より声律の良いものを収録。五言古・七言古・五言律・五言排律・七言律・五絶・七絶の七門に分けて収録。//	送返 断代 内題「唐詩正聲」 内容・総目・巻1〜8(総目・全22巻)	H28-01
明倫・1042	唐詩集註略		1					和紙袋綴写本 23.7×15.0 15丁	* 唐詩選は中国、明代に作られた唐詩の選集。7巻。編者は李攀竜とされていたが編者未詳というのが定説。初・盛・中・晩の四唐にわたり126人、400余首を収録。//	送返 断代 外題直書「唐詩集註略 附解■■■」 唐詩選の注釈書を抜粋したものか?唐詩の部分に簡略化し、注釈文を書き込んでいる(17丁目に杜唐言の「渡湘江」が記載されるが、「暹日園林巻唐遊一選一巻一」)巻末に「文政二巳卯年夏五月/九日?諸■■明倫堂/閑来■■之■■備佳日/之玩■■哀勞■■■■」	R5-03
明倫・1044	(増註)唐詩五言律句三体家宝	(川勝五郎右衛門)	1			元禄5刊	1692	和紙袋綴刊本 25.6×19.2	* 唐詩選は中国、明代に作られた唐詩の選集。7巻。編者は李攀竜とされていたが編者未詳というのが定説。初・盛・中・晩の四唐にわたり126人、400余首を収録。//	断代 巻下 内題「増註唐詩五言律句三体家宝」 巻末刊年・元禄5年 蔵書印「財津蔵書」	H28-01
明倫・1046	唐賢絶句三体詩法		1					和紙袋綴写本 25.4×15.7		白 断代	H26-01
明倫・1047	(増註)唐詩五言律句三体家宝	宋周弼選 (撰補・塩屋七郎兵衛)	1			貞享5刊	1688	刊本	* 唐詩選は中国、明代に作られた唐詩の選集。7巻。編者は李攀竜とされていたが編者未詳というのが定説。初・盛・中・晩の四唐にわたり126人、400余首を収録。//	送返 断代	R6-03
明倫・1048	(増註)唐賢絶句三体詩法	宋周弼選 門至大臨註 非復季昌増註	1					刊本		送返 断代	R6-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1049	唐三体詩註三卷		1					和紙袋綴刊本 25.6×18.5		巻中・下欠 断代 外題無、内題「校正三體詩」 巻之一 裏表紙見返し「奥田氏」墨書あり。	H28-01
明倫・1050	三体詩抄一三巻		13					和紙袋綴刊本 29.1×20.8 81・52・53・85・56 (4～8冊目、10～12冊目は不明)		断代 1050-1～3・9・13のみ23年度電子化後24年度に修復 1050-1～3・9・13について 蔵書印朱印「田朝氏蔵書印」(1050-9巻末に書入「田村」) 外題題箋1050-3のみ「三體詩抄」(他は直書または無)内題「増註唐賢絶句三體詩法」 内容:起14丁、三体絶句巻之一65、巻之二50、巻之三51、三体詩巻之三之一81、三之五55丁 1050-3(巻之三)巻末に寛永3年(1626)の刊記あり 5～裏表紙見返しに「田村富三郎 黒水果太郎 三好充太郎 讀之」の墨書あり。	H23-09
明倫・1051	(新刻陳眉公改正)国朝七才子詩解七巻	明陳繼儒句解 李士安補註	1			元禄2歳刊	1689	刊本		送返 断代	R6-03
明倫・1052	宋詩清絶	柏迺如亭選 (江・山城屋佐兵衛)	1			文政8刊	1825	刊本		送返 断代	H23-09
明倫・1053	三謝詩	謝靈運 謝惠運 謝朓暈 (江・山城屋佐兵衛)	1			文政7刊	1824	和紙袋綴刊本 18.0×12.9 40丁	*謝?(玄暉)・謝靈運・謝惠運をあわせて六朝時代の山水詩人「三謝」と称す。謝?(464年～499年)は中国南北朝時代、南齊の詩人、字は玄暉。謝靈運(385-433)は中国、南朝宋の詩人。陳郡陽夏(河南省)の人。謝惠運(394-433)は陳郡陽夏の人。謝靈運の従弟にあたる。	送返 断代 23年度電子化後24年度修復 外題・題箋「三謝詩 完」内題・版心題も同じ 本文38 蔵書印等なし	H23-09
明倫・1054	(増補較正贊延季先生)雁魚錦箋九巻	明李贊延注 (大和田九左衛門)	5			寛文2刊	1662	刊本		送返 (明倫堂)	R6-03
明倫・1055	黄幾熊先生尺牘	黄幾熊	3					和紙袋綴写本 25.3×17.5 42(1冊目、3～5冊目は不明)	*本書は手紙の書き方の指南書として編まれた「尺牘」(せきとく)は手紙・書簡の意「双魚」も手紙のこと。～遠来の客が置いていった2匹の鯉の腹中に手紙があったという「古家傳」の故事から。双鯉。	送返 23年度電子化後1055-2のみ修復 42丁 外題直書き「尺牘雙魚 二」内題「新編増補較正黄幾熊先生尺牘雙魚」(黄幾熊のかきまぢがいか?)	H23-10
明倫・1057	尺牘彙材五巻	(東・須原屋伊八等)	1			文化5刊	1808	和紙袋綴刊本 19.0×13.0		句送返 巻1～3欠 外題直書・内題「尺牘彙材」 巻四・五・跋(寛政改元) 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H28-01
明倫・1060	宋三家詩話	可亭閑欣采述 (玉山堂)	1			文化13刊	1816	和紙袋綴刊本 25.9×17.8 47丁		送返 23年度電子化後24年度修復 外題無・表見返し「六一・温公/中山/宋三家詩話」 蔵書印「田朝氏蔵書印」朱印「■■■」 内容:「序?」2丁、六一詩話1(見出し)+12、温公詩話1+10、中山詩話1+20丁	H23-10
明倫・1061	談書作文譜一二巻	清唐彪輯著 男正志 正心正紀校	3					和紙袋綴刊本 25.1×18.2 61・62・57	12巻。清の唐彪著。談書・作文に関する古人の言、自己の意見を述べたもの。 (*附父師善誘法)	句送返 23年度電子化後24年度に修復 題箋1061-1～3「談書作文譜一之四/五之八/九之十二」上表見返し「談書作文譜/附父師善誘法」 蔵書印朱印「城氏丸印」(紫)(?)など 内容:毛序3・仇序3・凡例2・目錄4・巻之一14・巻之二12・巻之三10・巻之四12/巻之五10・巻之六12・巻之七20・巻之八19/巻之九12・巻之十11・巻之十一21・巻之十二13	H23-10
明倫・1062	(弇州山人)芸苑卮言八巻	明王世貞編 (京・唐木屋吉左衛門等)	4			延享3刊	1746	和紙袋綴刊本 25.5×18.3 45・44・40(3冊目は不明)	詩話。六巻。明の王世貞撰。卮言は蛇足の如き意にて謙辞。古來の詩文を論じたもの。除昌穀の談芸録・楊慎の詩話、嚴羽の滄浪詩話の不足を補うために作られた詩話といえる。//大辞典(平凡社) *著者は王世貞(1526～1590) 中国、明代の文人。字(あざな)は元美、号は弇州(えんしゅう)山人・鳳洲(ほうしゅう)の七人の文人。李攀竜・王世貞・謝榛・宗臣・梁有誉・徐中行・吳國倫、文は泰漢、詩は唐虞を重んじた。著者井上簡台は江戸時代中期の漢学者。江戸の人。/大辞典(平凡社)/コトバンク	送返 平成23年度電子化後平成24年に修復(1062-1・2・4のみ)1062-1裏表紙改裝45丁・44丁・40丁 外題直書き「芸苑卮言」内題・版心題も同じ 蔵書印朱印「明倫堂蔵書印」「高岡図書館蔵書印」 内容:序3・巻之一21・巻之二20/巻之三21・巻之四23/巻之七20・巻之八22	H23-10
明倫・1063	談書作文譜一二巻	清唐彪選 唐正心等校 松井暉成点 (大・秋田屋太右衛門等)	3			文政7刊	1824	刊本		句送返 「明倫堂蔵書印」の印あり。	H23-10
明倫・1064	明七子詩解	蘭臺著 (京・梅村三郎兵衛等)	1			宝暦7刊	1757	和紙袋綴刊本 27.1×18.0 61・66(分冊)	*明の七子には「前七子」(明七子)と「後七子」(明七才子)があり、本書(明七子詩解)では後七子を指している。後七子は中国明代、嘉靖年間(1521～1566)の七人の文人。李攀竜・王世貞・謝榛・宗臣・梁有誉・徐中行・吳國倫、文は泰漢、詩は唐虞を重んじた。著者井上簡台は江戸時代中期の漢学者。江戸の人。/大辞典(平凡社)/コトバンク	送返 平成23年度電子化後24年に修復(2冊に分冊)61丁・66丁 蔵書印朱印「明倫堂蔵書印」「高岡図書館蔵書印」 外題直書「明七才子詩解」表見返し「蘭先生著「明七子詩解」」 巻之一(李攀竜56首)19丁・二(王世貞70首)22・三(梁有誉45首)14・四(謝榛43首)13・五(徐中行64首)20・六(吳國倫67首)19・七(宗臣47首)13丁 表紙見返しに「明七才子御学校御用書」の墨書あり。	H23-10
明倫・1065	蒙学読本全書七編		1					刊本		白	H23-10
明倫・1066	皇清経解	清嚴口編	90					和紙袋綴刊本 26.1×15.8 70・54・73・58・100・100・71・100(1～40冊目、45～85冊目、88冊目は不明)	中国、清代の経学研究書を取めた叢書。「学海堂経解」とよばれる。両広総督の阮元が嚴杰に命じて編集させ、1829年(道光9)に完成し出版された。188種、1400巻。その後1862年(同治1)、両広総督の勞崇光(1802-67)が續刻8種、8巻を併せて補刻再版した//	白 在671下～1106 23年度電子化後25年度に1066-41・42・43・44・86・87・89・90を修復 1066-41外題直書「皇清経解 二百廿五」内題(序)「周禮注疏?勅記序」(本文)「皇清経解卷八百五十/十三経注疏?勅記//学海堂・儀徵阮元宮保元著」朱印「■■■■■■■■■■」 巻数と丁数:1066-41・42・43・44・86・87・89・90の順に: 850-851巻・70丁/852-853・54/854-855・73/856-859・58/1092-1095・100/1096-1099・100	H23-10
明倫・1067	皇清経解一四〇〇巻	清嚴口編	86					和紙袋綴刊本 26.1×15.6	中国、清代の経学研究書を取めた叢書。「学海堂経解」とよばれる。両広総督の阮元が嚴杰に命じて編集させ、1829年(道光9)に完成し出版された。188種、1400巻。その後1862年(同治1)、両広総督の勞崇光(1802-67)が續刻8種、8巻を併せて補刻再版した//	白 在1109～1408(1174～1177欠) 表紙の巻数は275～360 外題直書「皇清経解」	H27-03
明倫・1068	皇清経解一四〇〇巻	清嚴口編	94					和紙袋綴刊本 26.1×15.7 73(1～70冊目、72～94冊目は不明)	中国、清代の経学研究書を取めた叢書。「学海堂経解」とよばれる。両広総督の阮元が嚴杰に命じて編集させ、1829年(道光9)に完成し出版された。188種、1400巻。その後1862年(同治1)、両広総督の勞崇光(1802-67)が續刻8種、8巻を併せて補刻再版した//	白 在31～387巻 23年度表紙のみ改裝(1068-1・6・49・50・92) 外題直書 23年度電子化後25年度修復(1068-71のみ) 1068-71 外題直書「皇清経解 七十一」内題「皇清経解卷二百八十二・儀礼章句//学海堂/仁和寺馬延華著」朱印「■■■■■■■■■■」 巻282-287・73丁	H23-11
明倫・1069	皇清経解一四〇〇巻	清嚴口編	90					和紙袋綴刊本 26.0×16.7 57・85・88・78・60・91・65・92・81・77(1～61冊目、63～69冊目、71～81冊目、85冊目は不明)	中国、清代の経学研究書を取めた叢書。「学海堂経解」とよばれる。両広総督の阮元が嚴杰に命じて編集させ、1829年(道光9)に完成し出版された。188種、1400巻。その後1862年(同治1)、両広総督の勞崇光(1802-67)が續刻8種、8巻を併せて補刻再版した//	白 在388～671上 外題直書「皇清経解」1069-1の巻頭内題「皇清経解卷三百八十八/鍾山札記/学海堂/餘姚盧学士文?著」巻頭に朱印「■■■■■■■■■■」 1069-1～4まで順に 巻三百八十八28丁・13・55/39・52・51・48/56(巻三百九十五) 1069-42・43 巻五百一十四(514?)8・10・15・44・20/16・16・23・17・13(523巻) 23年度電子化後25年度修復1069-62・70・82・83・84・86・87・88・89・90 巻数・丁数:581-587巻・	H23-11

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1203	百科全書(科学編)	(東京・文部省)	1					和紙袋綴刊本 22.1×15.2		126,326,863,152 題箋「百科全書 化学篇 下」(朱書「六番」) 内題同じ 版心題下部に「文部省」 巻末 清水世信 校「官版御書籍發兌」 蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」	H24-01
明倫・1204	百科全書	堀越愛国訳 (三家村佐平等)	1		明治8刊	1875		和紙袋綴刊本 22.4×15.1	「百科全書」は文部省が明治6年から翻訳・刊行した百科事典。通計92篇200冊(1204の巻末目録による)。イギリスの「チャンブルの百科全書」Chambers's Information for the Peopleという小百科事典を翻訳したもの。翻訳事業は真作麟祥が中心となってさまざまな訳者が部門別にまとも、電気編、交際編、経済編というような形で順次木版本で刊行された。	カナ交じり文 外題無 内題「百科全書/経済論 下 従六位 堀越愛国 訳」版心題の下部「文部省」 下47丁・百科全書篇名2丁(通計92篇200冊) 蔵書印「後秋月蔵書印」表紙裏書入「後 秋月蔵書」 巻末に「明治八年七月十又九日宮崎県庁下河原町和泉屋市兵衛支店ニ於て之ヲ購フ 価 三拾五錢五厘 幸夫記」の墨書あり。	H24-01
明倫・1205	百科全書	牧山耕平訳 (三家村佐平)	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.2 48丁	「百科全書」は文部省が明治6年から翻訳・刊行した百科事典。通計92篇200冊(1204の巻末目録による)。イギリスの「チャンブルの百科全書」Chambers's Information for the Peopleという小百科事典を翻訳したもの。翻訳事業は真作麟祥が中心となってさまざまな訳者が部門別にまとも、電気編、交際編、経済編というような形で順次木版本で刊行された。	外題・題箋なし 内題「百科全書/百工応用化学篇 下 牧山耕平 訳」版心題下「文部省」 巻末「川本清一 校」 蔵書印「宮崎学校」(表紙に「十七番」と記載、島田小学校のことか?) 蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」	H24-01
明倫・1206	百科全書	堀越愛国訳	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.2		下巻 外題題箋「百科全書経済論」内題同 巻末書入「明治十四年秋月左都大所也」	H28-01
明倫・1207	和漢三才図絵一〇五巻	顧秉謙撰 翰林院 (京・大野木市兵衛等)	81		正徳3刊	1713		刊本	江戸時代の図入り百科事典。105巻81冊。編者は大坂の医師寺島良安。30余年の歳月をかけ1712年(正徳2)にう完成。大坂杏林堂より刊行される。明の王圻の選になる『三才図会』にない、上は天文、人倫より下は禽獣、草木まで80余の部類に分け、考証、図示する。その特色は必ず和漢の事象をならび記したところにある。/日本古典文学大辞典/圖書解題	送返	R4-02
明倫・1213	明治文抄(合本)	高橋易直編輯	1					刊本			R6-03
明倫・1215	学問のススメ	福沢諭吉著	2		明治7刊	1874		刊本	福沢諭吉著の啓蒙書。。1872(明治5)〜77年刊。全一七冊。冒頭で「天は人の上に人を造らず」と天賦人権論の立場を明らかにし、個人主義・実利主義に基づいて学問論・国家論・知識人論など多彩な民主主義的立国論を展開した。非常に多くの人に読まれ、当時の教育政策などにも大きな影響を与えた。//大辞典(平凡社)		R6-03
明倫・1216	過庭紀(記)談	原双桂	1					和紙袋綴写本 23.3×16.1 160丁	随筆。5巻。原題(号は双桂)著。天保5年刊。儒家の見地から詩賦・音韻・作詩法・文学・書籍・刊書・姓氏・署名式その他和漢の習俗雑事を記したもので、支那の文化の日本への応用する適否について論じたものが多い。//大辞典(平凡社)	カナ交じり文 題箋「過庭記談 全」巻頭「過庭紀談」序(故古河教授雙桂原先生墓碣銘並序)に明和戊子夏五月とある 巻末(跋文)に天保甲午初夏上幹 原義正道謹撰とある 全五巻総計百八條(巻頭目録より) 蔵書印「田邨氏蔵書印」(村=邨) 25年度修復時分冊	R5-03
明倫・1217	講習余筆四巻	藤原明達著 (東・前川六左衛門)	2		延享4刊	1747		和紙袋綴刊本 25.9×18.0	随筆、写本4巻1冊。藤原明達著。延享4年序あり。162條にわたり経史に関する一般知識を説く。//大辞典(平凡社)	1217-1 61丁(序1丁・自序2丁) 外題直書「講習余筆 乾」 目録・巻之一・巻之二 1217-2 外題直書「講習余筆 坤」巻之三・巻之四 2冊ともに蔵書印「高鍋図書館蔵書印」1217-1巻頭に墨書で「高鍋学校之印」	R6-03
明倫・1218	心覚誌		1					和紙袋綴写本 14.6×22.2 12丁		外題直書「心覚誌」	H24-01
明倫・1219	雑学集		1					和紙袋綴写本 24.0×16.5 10丁		外題無、表紙の次に「雑学集之巻 上下合巻」と墨書き 上巻5丁 抜書下5丁 蔵書印「高月節木文庫之印」 (故実・特に料理関係の内容か?) 巻末に「水嶋ト也(完成)/伊藤基右衛門(幸氏)/同 畢太(幸充)」の各名がある *水嶋ト也1807-1897 江戸時代前期の有職家。慶長12年生まれ。小池基之丞の門人 斎藤三郎右衛門に小笠原流礼法をまなび 江戸で道場をひらいて水島流を称した	H24-01
明倫・1220	雑誌		1		明治4写	1871		和紙袋綴写本 25.0×16.0 4丁			H24-01
明倫・1223	称呼弁正上下	留守友信著 (大・伊丹屋善兵衛)	2		宝暦7刊	1757		和紙袋綴刊本 25.5×18.1	諸称呼を弁正したもの。2巻。江戸中期の儒者留守希斎(友信)著。宝暦七年刊。栗田邦彦(宝暦4)、桑原典瑞(宝暦7)の序あり。國郡・官職・諡號その他の称呼百數十條につきその語をただしたものの、なお、著者は京都で三宅尚斎にまなび大坂でおしえた	送返 外題題箋「称呼弁正 上■」(及び下■) 内題同「称呼弁正巻之上 留守友信 著」 序①3序②4・上巻37丁・下巻37丁	H24-01
明倫・1224	彼我言行録	赤松渡編輯	1		明治13刊	1880		和紙袋綴刊本 15.0×10.8	国内外の嘉言明行を録したもの(著者序より)。赤松渡編(赤松は漢詩人で初代高松市長)。明治13年刊。乾坤の全2巻。詳細な挿絵がある(銅版か?) 「政事/精義/経済/軍旅//才智/修身/民権/忍耐/勇敢/勉強/教育/治家」	カナ交じり文。難読にはルビ有。 挿絵あり(銅版か?) 乾坤2巻のうち乾(1巻目)のみ。 題箋「彼我言行録 乾」巻頭「赤松渡編集/彼我言行録/開文舎蔵」明治13年の編者識あり 内容: 挿絵・序・目録のべ10丁・乾47丁 蔵書印「堤氏文庫」	H24-01
明倫・1231	斯文学会講義筆記	編修第二局編輯 (東・山本邦彦等)	1		明治14刊	1881		和紙袋綴刊本 17.9×12.0 57丁	* 斯文(しぶん)とは『「論語」子罕から』この字間。この道。特に、儒教の字間や道徳をいう。//大辞典(平凡社)	題箋「編修第二局編輯/斯文学会講義筆記/詩経第一巻」 第十五号〜廿二号	H24-01
明倫・1234	太政官日誌	(京・井上治兵衛)	7					刊本	* 「太政官日誌」は関西で明治元年に創刊された新政府系の新聞(圖書・「新聞」より)		R6-03
明倫・1237	明治月刊	大阪府 (大・河内屋清七等)	1		明治1刊	1868		和紙袋綴刊本 22.7×15.0		見返し「戊辰九月/官版明治月刊/大阪府」 版心の書名: 明治月刊巻一 題簽なし、刊記に「官書発行所」とあり 緒言1丁、巻一20丁 出版: 河内屋清七 内容? 通盟諸邦強弱一覽? 政体畧論 英政畧記	H24-01
明倫・1241	中外雑誌	大英衆嘉湖輯訳 (東・万屋兵四郎)	1		同治1(文久2)刊	1862		和紙袋綴刊本 22.6×15.8		外題直書「中外雑誌」見返し「同治壬戌六月 千八百六十二年 我文久二年六月/中外雑誌/大英衆嘉湖輯訳」 巻頭右頁に英語の単語と漢字(の当て字)の表がある 内容 英国綱鑑・天文月説・珊瑚説・英国城説(倫敦)・泰西近事述略 18丁 蔵書印「上江小学高鍋」	H24-01
明倫・1242	(官版)海外新聞別集(合本)	洋書調所訳 (江・万屋兵四郎)	1		文久2刊	1862		刊本	3巻。上巻は文久2年8月の発行で、ハタビヤ、阿姆斯特ダム、ロテルダム等の新聞より遠外使節竹内下野守一行に関する記事を抄録。中・下巻は同年10月発行で、ニューヨーク新聞よりアメリカ南北戦争の記事を抄録。* 文久年間に外国の新聞を翻訳・翻刻して発行された新聞(文久新聞)の一つ//大辞典(平凡社)		R6-03
明倫・1243	海外新聞	(東・紀伊国屋源兵衛)	1					和紙袋綴刊本 22.6×15	* 海外新聞は新聞志の継続したもの? * 文久年間に外国の新聞を翻訳・翻刻して発行された新聞(文久新聞)の一つ/ 国史大辞典/		R6-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1244	(官版)新聞志(バタビヤ新聞)	洋書調所訳 (江・万屋兵四郎)	1	文久元年9月9日～10月14日	1861年10月～11月	文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 22.4×15.4	日本で最初の(日本語の)新聞、オランダ語新聞の翻訳紙//「新聞志」は江戸末期の逐次刊行物。文久2年(1862)江戸幕府の番書調所が、バタビアのオランダ総督府の機関紙を抄訳、出版したもの。23巻まで刊行。のうち、洋書調所が訳して継続したのが「官報海外新聞」で、内容は同質。日本の近代新聞の先駆となった。官版バタビア新聞*文久年間に外国の新聞を翻訳・翻刻して発行された新聞(文久新聞)の一つ/国史大辞典/	5巻合冊(巻13～23) 表紙直刷・外題「官版新聞志」内題「ハタヤ新聞」	R6-03
明倫・1245	新聞雑誌	(東・日進堂)	1			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本	明治初期の新聞。明治4年5月東京で木戸孝充が山縣嘉蔵をして創刊した。島地熱雷編集。半紙数枚つづりで毎月数回発行。不定期刊で、別冊付録をしばしば発行。内外の政治、経済、社会の情報や解説を掲載した自由民権論の盛んな時期に新新主義をとり、一時読者を集めたが、明治7年に買収され東京曙新聞と改題された(国史の「東京曙新聞」参照)//大辞典(平凡社)	(表紙改装)外題「新聞雑誌 第六号附録」(明治辛未七月・定価四匁・新封建論)内題同 新封建論 静?子	H24-01
明倫・1246	正華新誌	多川常澄編輯 (鹿児島・桜洲社)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 18.1×11.7	「正華新誌」は鹿児島・桜洲社が発行した雑誌。内容は読者の投稿の掲載や古今の名文の紹介など。(なお、鹿児島県立図書館に、1号(本書)の複製がある)	表紙改装 外題「正華新誌 第壹號」(明治十四年十二月廿五日刊行/日曜日発売)巻末に「一冊金五銭」と「鹿児島金生町 桜洲社」とある	H24-01
明倫・1247	中外新報抜萃		1					和紙袋綴写本 18.8×13.0 33丁	*「中外新聞」は文久年間に外国の新聞を翻訳・翻刻して発行された新聞(文久新聞)の一つ//	白 外題「中外新報抜萃」内題なし。黒の野線用紙で巻末10丁は白紙 蔵書印「高月節木文庫之印」 中外新報1858年11月「上海」1859年12月「京波」3月「民数」など世界地理や情勢に関する抜書きなどが多く見受けられる	R5-03
明倫・1249	書物通		1			天明1	1781	和紙袋綴写本 13.0×19.0 13丁		外題「天明元年九月吉日 書物通」表裏紙書入「相原屋与左衛門 大塚七郎次様」	H24-01
明倫・1250	香港新聞		1					和紙袋綴刊本 22.4×15.4	官版香港新聞は翻刻新聞で文久新聞の一つ。8巻。文久年間、香港の英字新聞デイリー・プレススの中国版。咸豐11年7月(1861)から抜抄したもの。開成所で編。発行年月は不明。*文久年間に外国の新聞を翻訳・翻刻して発行された新聞(文久新聞)の一つ//大辞典(平凡社)	句返 外題直書「香港新聞」内題「香港新聞卷一 咸豐外國」(巻二は翌年の 同治壬戌・咸豐11年(1861)7月～12年(西1862)の5月までを記載(第五百九十一號 七月初五日～第七百十七号五月初二日) 巻末「老舎館 東都堅川三之橋 萬屋平四郎」 蔵書印「上江小学高鍋」	H24-01
明倫・1253	群書類従	塙保己一集	1					和紙袋綴刊本 25.8×17.9 26丁	古代から江戸初期に至る国書を25項に分類し編集合刻した叢書。塙保己一編。正編1270種530巻666冊(1819完成)、続編2103種1150巻1185冊(1822)からなる日本最大の叢書/日本漢文学大辞典/	返 蔵書印「木曾文庫」 外題直書*ペン書き?「群書類従」(墨書。「和律」)内題「群書類従 卷第七十五上」巻第七十五上: 23丁	H24-01
明倫・1254	群書類従	塙保己一集	1					和紙袋綴刊本 25.8×17.8	古代から江戸初期に至る国書を25項に分類し編集合刻した叢書。塙保己一編。正編1270種530巻666冊(1819完成)、続編2103種1150巻1185冊(1822)からなる日本最大の叢書/日本漢文学大辞典/	返 卷第七十五・中 外題・内題「群書類従」 蔵書印「木曾文庫」	H28-01
明倫・1255	群書類従五三〇巻	塙保己一編	70					和紙袋綴刊本 26.5×17.9	古代から江戸初期に至る国書を25項に分類し編集合刻した叢書。塙保己一編。正編1270種530巻666冊(1819完成)、続編2103種1150巻1185冊(1822)からなる日本最大の叢書/日本漢文学大辞典/	外題題箋「群書類従」(題箋のないものは外題直書き)すべて蔵書印「明倫堂蔵書記」 左巻:(1255-1～35206上・209・210・212・227・229・241・262・264・370下・271・272・281・282・284・288・307・308上下・310・311・322・330・331・340・370上下・381・382上下・383・384上中下・386(1255-36～70)393・494・395・396・401・402・406上・406下・424・429・436・449上・449下・458	H24-01
明倫・1256	群書類従五三〇巻	塙保己一集	41					和紙袋綴刊本 26.4×18.1	古代から江戸初期に至る国書を25項に分類し編集合刻した叢書。塙保己一編。正編1270種530巻666冊(1819完成)、続編2103種1150巻1185冊(1822)からなる日本最大の叢書/日本漢文学大辞典/	全て朱の蔵書印あり「明倫堂蔵書記」 「高鍋学校用」「高鍋学校蔵書の墨書あり。 在巻:目録・3上下・10・13上下・16上下・31上下・32上下・33・63・64・66・69・70・80上下・81・96・99・108・133・154上下・157～159・172・176・179・189・190・199・200・205・206上 丁数(順に):73・48・57・29・36・40・48・47・52・42・64・52・71・68・46・49・71・42・30・30・44・41・35・31・56・57・22・	H24-02
明倫・1257	群書類従	塙保己一集	1					和紙袋綴刊本 25.7×17.8 24丁	古代から江戸初期に至る国書を25項に分類し編集合刻した叢書。塙保己一編。正編1270種530巻666冊(1819完成)、続編2103種1150巻1185冊(1822)からなる日本最大の叢書/日本漢文学大辞典/	返 外題題箋「群書類従 七十五上」 「律令部～/贓盜律第七?伍十三條」 蔵書印「木曾文庫」	H24-02
明倫・1259	整牙遺稿	土井整牙	4					和紙袋綴刊本 24.5×14.1	土井有格(号?牙)著。10巻。著者の漢文集。凡そ100余編を載せる。明治25年出版。著者は江戸後期-明治時代の儒者。伊勢(三重県)津藩儒医土井構窓の次男。藩校有造館の助教・講官をつとめ佐幕を主張。(国書解題のよみ・がうがい)う//増訂国書解題	白 巻1～5と8のみ 外題直書(1259-1のみ)?「耳遺稿」内題「?牙遺稿」 内容:巻一目2、巻一63/巻二目1、巻二22/巻三1、巻三24/巻四2、巻四43/巻五2、巻五38/巻八目2、巻八44丁 「論」/「策」/「賸」/「疏」/「書」/「記」	H24-02
明倫・1260	殉難録稿	竹内節 大橋義校	1					和紙袋綴刊本 23.2×15.6 28丁	「殉難録稿」は宮内省編集55巻。ペリー来航から王政復古に至る時期、非命に倒れた攘夷派志士の小伝を網羅したもの。各府県から進達した志士履歴を宮内省で集録し、明治26年以降40年まで順次刊行された。安政の大獄など事件別に膨大な数の人物が区分けされ、小伝が文語体で列記されている。王政復古史観に基づき記述であるが、たしよでは見られない伝記的事実も多い。//国史大辞典	巻之12 題箋「殉難録稿」(内題同じ)目録1丁・巻之十二27丁 朱で書入れ有(校正の跡か?) 目録には「藤本真金/松本衡/那須重民/竹志田重楯/澤田寛之助/森下茂時/野崎正盛/北辻則久/橋本成儀 外十一人」とある 原稿用紙を貼付けて文を補っている箇所もある。	H24-02
明倫・1261	殉難録稿	足立正声聞 大橋義 外崎覚稿	1					和紙袋綴刊本 23.0×15.4 42丁	「殉難録稿」は宮内省編集55巻。外崎覚著。ペリー来航から王政復古に至る時期、非命に倒れた攘夷派志士の小伝を網羅したもの。各府県から進達した志士履歴を宮内省で集録し、明治26年以降40年まで順次刊行された。安政の大獄など事件別に膨大な数の人物が区分けされ、小伝が文語体で列記されている。王政復古史観に基づき記述であるが、たしよでは見られない伝記的事実も多い。//国史大辞典 *著者は東奥義塾で漢文をおしえながら、川田墨江、三島中洲にまなぶ。//	巻之三十三 題箋「殉難録稿 三十三」内題同じ 目録1丁・巻之三十三41丁 朱で書入れ有(校正の跡か?) 目録「福岡 海津正倫/月形詳/中村無二/城武貞/月形弘/筑紫義門」	H24-02
明倫・1263	百科全書	堀越愛国訳 (文部省)	1			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.5×15.2		1203をみよ 経済論 上巻 巻頭見返「百科全書/経済論」 蔵書印「杵杵月蔵書印」 裏表紙見返し「杵杵月蔵書印」の墨書あり。	H28-01
明倫・1264	百科全書(経済編)	堀越愛国訳 (文部省)	1			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.5×15.1 63丁		題箋「百科全書 経済論 上」内題同じ。表紙見返「明治七年三月/百科全書 経済論/文部省」内題下に「從六位堀越愛国 訳」とある	H24-02
明倫・1270	国本論	源定信撰	1			天明1写	1781	和紙袋綴写本 24.0×16.9	2巻。松平定信著。天明元年自序。成年未詳。人民は国の本元となることを論じ、太平の世に於ける治者の流弊を難したもの。//大辞典(平凡社)/	在1・2巻 外題直書「國本論」内題同じ 蔵書印朱印「明倫堂蔵書記」高鍋図書館蔵書印 漢文の箇所に戻送有。 序(天明元年自序)・巻之1・2からなる。 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H26-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1271	王学提綱	吉村晋輯録	1			文久1刊	1861	和紙袋綴刊本 24.7×17.5 48丁	陽明学の書。1巻。寛政年間、安芸の儒学者吉村秋陽の著。陽明学の要綱を提示した書。/大辞典(平凡社)/	句返 全2巻のうち1冊のみ(序・巻之上) 外題(題箋)「王学提綱 乾」表紙裏「安芸吉村晋集録 全二冊 王学提綱 浪華 群玉堂宋栄堂合梓」	H24-02
明倫・1272	大祓詞後釈二巻	本居宣長釈(京・銭屋利兵衛等)	2			安永5刊	1776	和紙袋綴刊本 25.5×17.9	2巻2冊。本居宣長著。寛政7年序あり。寛政8年刊。『延喜式』巻八「祝詞」所収「大祓詞」の注釈書。賀茂真淵著「祝詞考」の中の大祓の條に対し、師説を訂補したもの。寛政7年序。附録には他の祓詞中の種々の事項も解説している。・「大祓」とは6月・12月に晦日に大内裏の朱雀門で行われた神事。/本居宣長事典/大辞典(平凡社)/圖書解題	漢文部分は句返返、読み仮名あり 外題(題箋)「大祓詞後釈 上」及び「大祓詞後釈 下」蔵書印「静■江■氏蔵」 70丁(序4丁・上66丁)・下と附録60丁	H24-02
明倫・1273	神代正語		1					和紙袋綴刊本 26.2×18.2 28丁	神代正語(かみよのまさごと)は3巻。本居宣長撰。寛政元年刊。仮名交じり文で書かれた神代物語。「古事記」の神代の巻を読み下し文で記したもの、漢風の混じらない神代の古伝の正しい姿を世に普及し初学のための入門書とした。/本居宣長事典/大辞典(平凡社)/圖書解題	仮名交じり文。振仮名あり、本文の仮名書きの横には漢字を小さく記す。 外題無、内題「神代正語 中巻」(おヨ/マサゴト/ナカマキ) 巻頭書入「道具小路 柿原氏 林」 各所に書入本・18丁目に「第六層」という書の二十丁目が挟まれていた→記録し別置	H24-02
明倫・1274	神代正語三巻	本居宣長著(名古屋・永楽屋東四郎等)	3					和紙袋綴刊本 26.0×18.0	神代正語(かみよのまさごと)は3巻。本居宣長撰。寛政元年刊。仮名交じり文で書かれた神代物語。「古事記」の神代の巻を読み下し文で記したもの、漢風の混じらない神代の古伝の正しい姿を世に普及し初学のための入門書とした。/本居宣長事典/大辞典(平凡社)/圖書解題	在全巻(上・中・下巻三冊) 外題・内題「神代正語」 1274-3巻末跋あり(横井千秋)	H28-01
明倫・1275	神代正語	本居宣長著	1					和紙袋綴刊本 26.1×18.1 45丁	神代正語(かみよのまさごと)は3巻。本居宣長撰。寛政元年刊。仮名交じり文で書かれた神代物語。「古事記」の神代の巻を読み下し文で記したもの、漢風の混じらない神代の古伝の正しい姿を世に普及し初学のための入門書とした。/本居宣長事典/大辞典(平凡社)/圖書解題	外題鉛筆で直書「神代正語」内題「神代正語 下巻」(おヨ/マサゴト/カダマキ) 序9丁・上36丁 蔵書印「高月鈴木文庫之印」巻末書入「明治三年庚午六月 高月鈴木氏蔵」	H24-02
明倫・1276	弘仁歴運記考二巻	平田篤胤撰 寺部重光等校	1					和紙袋綴刊本 26.0×18.0	1巻。江戸時代の国学者、平田篤胤著。我が国上古の紀年について論弁し、更に自己の推歩年数を説示したもの。神代年数説が所書であると弁じている。/圖書解題/大辞典(平凡社)	在全巻(上下二巻・1冊) 外題・内題「弘仁歴運記考」 蔵書印「白眉堂印」「宮崎県高鍋図書館印」 内容・序・はしがき・上・下(銅鐸の挿絵あり)	H28-01
明倫・1277	皇典文彙	平田篤胤校書 孫延胤書	2					和紙袋綴刊本 26.7×18.5	江戸時代の国学者、平田篤胤著。皇典の漢文序表を集めて校正訓点したもの。/圖書解題/	句返返 1277-1題箋「皇典文彙 中」内題:同、巻之二/ 平田篤胤謹校書 孫延胤謹書 33丁 蔵書印「桜秋月蔵書印」 1277-2題箋「皇典文彙 下」内題:同、巻之三 20丁・刻成書目1丁 蔵書印「財津蔵書」「高鍋図書館蔵書」	H24-02
明倫・1278	皇典文彙二巻	平田篤胤校輯 鉄胤書(棚田駿)	2			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 26.6×18.2 27丁・21丁	江戸時代の国学者、平田篤胤著。皇典の漢文序表を集めて校正訓点したもの。/圖書解題/	句返返 上と下(巻之一と巻之三、中が欠)題箋「皇典文彙上」(及び下) 上は永井序3丁・平綴順序2丁・22丁 下は1277-2と同一で計21丁 「安政四年丁巳嘉平 筑前侍讀棚田駿謹撰 同藩永井諱謹書」の序あり、「天保八年丁酉正月 平綴胤謹序」の序 蔵書印1278-1「財津蔵書」「高鍋図書館蔵書」 1278-2「桜秋月蔵書印」	H24-02
明倫・1279	皇典文彙	平田篤胤校輯 男鉄胤書	1					和紙袋綴刊本 26.7×18.4 27丁	江戸時代の国学者、平田篤胤著。皇典の漢文序表を集めて校正訓点したもの。/圖書解題/	句返返 題箋「皇典文彙 上」 内容は1278-1と同 蔵書印1278-2「桜秋月蔵書印」	H24-02
明倫・1280	国学私議		1			文政4写	1821	和紙袋綴写本 23.9×17.7 36丁		返 外題直書「国学私議 下」巻頭・内題同 後序に「文政辛巳・…とあり 複数人の筆跡が見受けられる 巻頭に蔵書印「大塚」と書入れ「大塚家蔵」	R5-03
明倫・1281	古史成文	平田篤胤謹記	2			文政6刊	1823	和紙袋綴刊本 26.7×18.4	15巻。平田篤胤著。文政元年刊。神代から推古天皇までを古事記の文体にならって記述している。現存のものは神代部3巻のみ。材料は「古事記」「日本紀」「古語拾遺」「風土記」などに取る。/圖書解題/大辞典(平凡社)	在1(序含む)・3巻 句返返、全文に読仮名 外題(題箋)「古史成文 一」「古史成文 三」 内題もおなじ 序8丁 藤原貞宣(文政6年) 内容・序8丁・一之巻30丁/三之巻50丁・刻成書目1丁 巻末に蔵書者名墨書・朱印「栗原良円」「良円」	H24-02
明倫・1282	古史成文三巻	平田篤胤著	3			文政6刊	1823	和紙袋綴刊本 26.5×18.4	15巻。平田篤胤著。文政元年刊。神代から推古天皇までを古事記の文体にならって記述している。現存のものは神代部3巻のみ。材料は「古事記」「日本紀」「古語拾遺」「風土記」などに取る。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返返 外題:題箋有1282-1/2「古史成文一」/「古史成文二」、1282-3…題箋なし 内題:「古史成文」「明倫堂蔵書印」有 内容・序8丁、一之巻30丁、二之巻49丁、三之巻50丁、刻成書目1丁	H24-02
明倫・1283	古史成文	平田篤胤謹記	1					和紙袋綴刊本 26.6×18.4	15巻。平田篤胤著。文政元年刊。神代から推古天皇までを古事記の文体にならって記述している。現存のものは神代部3巻のみ。材料は「古事記」「日本紀」「古語拾遺」「風土記」などに取る。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返返 題箋「古史成文二」内題「古史成文二之巻」神代中(おヨ/ナカマキ) 内題の下に「平篤胤謹謹記」とある。全文ルビ有 巻末に蔵書者名墨書・朱印「栗原良円」「良円」	H24-02
明倫・1284	古史微	(江・前川六左衛門)	13			文政1刊	1818	刊本	4巻。江戸時代の国学者、平田篤胤著。文化8年成立。同著古史成文(明倫1282・1283)の各條について古伝を比較したもの。構成は第1巻を「開題記」春夏秋冬の4冊として分け、第2巻以下を各上下とし都合4巻10冊となっている。/圖書解題/大辞典(平凡社)		R6-03
明倫・1285	古史微六巻	平田篤胤著	8					和紙袋綴刊本 26.1×18.4	4巻。江戸時代の国学者、平田篤胤著。文化8年成立。同著古史成文(明倫1282・1283)の各條について古伝を比較したもの。構成は第1巻を「開題記」春夏秋冬の4冊として分け、第2巻以下を各上下とし都合4巻10冊となっている。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返返、ルビあり(部分的に) 全て朱印あり「明倫堂蔵書印」 序は文政元年「山崎長右衛門篤胤」 外題・題箋「古史微」(8冊ともアリ)・内題も古史微 内容・序5丁、そへこと6丁、目録2丁、一之巻141(春55+夏96)丁、二之巻97丁(上50+下47)、三之巻84丁(上35、下49)、四之巻99丁(上48+下51)、刻成書目1丁	H24-02
明倫・1286	古史微	平田篤胤著	1					和紙袋綴刊本 26.7×18.5	4巻。江戸時代の国学者、平田篤胤著。文化8年成立。同著古史成文(明倫1282・1283)の各條について古伝を比較したもの。構成は第1巻を「開題記」春夏秋冬の4冊として分け、第2巻以下を各上下とし都合4巻10冊となっている。/圖書解題/大辞典(平凡社)	外題題箋「古史微 題記■秋下」(1巻の一部 175丁～210丁) 「大塚蔵書」「依平蔵書」	H28-01
明倫・1288	古史伝	平田篤胤撰 男鉄胤 孫延胤校考	8					和紙袋綴刊本 26.7×18.5	古史伝は37巻(*圖書解題によると32巻)。江戸時代の国学者、平田篤胤著。同著古史成文の注釈書。 *なお、「伊吹能舍著撰書目」に次のように記載「この書は鈴能屋翁(本居宣長のこと)の古事記伝に倣い、右の古史成文を悉く註解したる書にて、我が古道の真意は凡て此の書に説き盡されたり」/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返返 古史成文の本文は大きい字体で総ルビ有。注釈部分は一部の漢字にルビ有。 蔵書印など無し 在巻:2(80丁)・3(69丁)・5(67丁)・22(57丁)・26(64丁)・27(64丁)・28(54丁・刻成書目1丁)・29上(70丁) 枝番3・4・8には小口書きあり	H24-02
明倫・1289	古史伝二四巻	平田篤胤撰 男鉄胤 孫延胤校考	40					和紙袋綴刊本 26.6×18.4	古史伝は37巻(*圖書解題によると32巻)。江戸時代の国学者、平田篤胤著。同著古史成文の注釈書。 *なお、「伊吹能舍著撰書目」に次のように記載「この書は鈴能屋翁(本居宣長のこと)の古事記伝に倣い、右の古史成文を悉く註解したる書にて、我が古道の真意は凡て此の書に説き盡されたり」/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返返 1289-1～24について 全て題箋有「古史傳」小口書きあり 在巻1～24 全て明倫堂蔵書印有 1289-1～24は枝番と巻数が同じ、 1289-25～40は一巻～十六巻(重複)蔵書印「年生蔵書」(この印を消すよう「明倫堂蔵書印」もおされている) 丁数 順に一之巻73丁・80・69・69・刻成書目1・67・68・63・65・刻成書目1・83・70・75・62・1・57・59・72・76・1・75・63・77・63・1・73・58・1・76・54・1	H24-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1290	古史伝二八巻	平田篤胤撰 男鉄胤 孫延胤続考	28					和紙袋綴刊本 26.7×18.5	古史伝は37巻（※国書解題によると32巻）。江戸時代の国学者、平田篤胤著。同着古史成文の注釈書。＊なお、「伊吹能舎著撰書目」に次のように記載したの書は鈴能屋翁（本居宣長のこと）の古事記伝に倣い、右の古史成文を悉く註解したる書にて、我が古道の真意は凡て此の書に説き盡されたり。/国書解題/大辞典（平凡社）	かな交じり文 古史成文の原文部分は総ルビ題箋（1290-1）「古史傳 自第一段 至第三段 一」内題同 一之巻/ 平田篤胤撰 男鉄胤 孫延胤続考 廿八巻末に彫工者の名「木村喜平房藏」＊ 枝番と巻番号が暗不同で重複もある（1～28巻中、2・3・15・16・22が欠、4・6・12・24が重複）	H24-02
明倫・1291	古史伝	平田篤胤著	10					和紙袋綴刊本 26.7×18.5	古史伝は37巻（※国書解題によると32巻）。江戸時代の国学者、平田篤胤著。同着古史成文の注釈書。＊なお、「伊吹能舎著撰書目」に次のように記載したの書は鈴能屋翁（本居宣長のこと）の古事記伝に倣い、右の古史成文を悉く註解したる書にて、我が古道の真意は凡て此の書に説き盡されたり。/国書解題/大辞典（平凡社）	題箋10冊と有る。 枝番1の題箋は「古史傳 自第二十八段 至第三十二段 七」1～10の順に七・十四・十六・廿二・廿五・九・十五・二十・廿一・廿三巻（順に63・59・77・59・71・93・72・64・73・76丁）古事記本文は15mm角、古史成文は8mm角、その注釈は5mm角と字の大きさを変えて記載。カナで振仮名あり、枝番3巻末に刻成書目1丁 丁「彫工 木村房藏 刻」の記載有	H24-02
明倫・1292	五常五倫	室鳩巢書	1					和紙袋綴写本 25.0×19.2 74丁	江戸時代中期の儒学者、室 鳩巢（新助）の著。//	外題題箋「室鳩巢書 全」巻頭見返し「五常五倫上呈/誠恐々々頓首再拜/臣 室新助謹言」「五常」「五倫」をはじめの各種の見書が記されている巻末には「宝暦十年冬十一月 南涯■■■濟謹識」蔵書印「堤氏文庫」	R5-03
明倫・1293	言雲或問	中村孝道著	1					和紙袋綴写本 25.0×17.5 26丁	写本1巻。中村孝道著。天保5年成立。国語音声の原義を説明し、併せて言語の活用法を或問的に記している。/国書解題/大辞典（平凡社）	かな交じり文 外題無 内題「言雲或問」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	R5-03
明倫・1294	悟道弁講本	平田篤胤講談 門人等筆記	1					和紙袋綴刊本 23.5×16.3 31丁	江戸時代の国学者、平田篤胤講談/門人筆記。＊「悟道弁」は平田篤胤著の国学者、主として仏教の悟道にいて論じしもの、古道国体を探るべきことを説いたもの。（国書解題/大辞典）//大辞典（平凡社）	外題・題箋「悟道弁 上」 内題「悟道弁講本」仮名文・ルビ有 序2丁・本文28丁（序の前に白紙1丁）巻末の文面に「文化九年/門人等云。今般コ/悟道を清書スルニ付テハ、イト能キ序ナレハ。尻口物語ヲモ清書シテ、是ニサンシヘハ…」とある巻末に朱印あり	H24-02
明倫・1295	詞八衛二巻	本居春庭原著 清水浜臣増補 岡本保孝標注 加部殿夫校正 （東・江島伊兵衛等）	2			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 19.0×12.9	本居春庭著。2冊。文化3年成立。文化5年刊。（なお、本書は明治に刊行されたもの著者は本居宣長の長男。本書は宣長の古語訓読活用研究の集大成、活用形と活用図の形態で簡明に記している。また、それぞれの活用型に属する動詞も列挙している。その後の活用研究に多くの影響を与えた。/本居宣長事典/大辞典（平凡社）/大辞典（平凡社）	3443を見よ かな交じり文。一部ルビ有 外題題箋「増補標注/言葉のやちまた（著者名等4丁）上」 表紙見返「明治十三年十月新刻/本居春庭原著 清水浜臣 岡本保孝増補標注/増補標註 詞のやちまた/ 加部殿夫校正 白楽岡 治?舎 合梓」 内題「詞八衛」下部「本居春庭 著 清水浜臣増補 岡本保孝標注 加部殿夫校正」巻末「明治十三年版権免許」とある 内容：題字1・加部序4（明治13年）・植松序3（文化3年）・上巻50/下巻53・本居大平 跋2 1～表表紙見返しに、2～表紙見返しに「坂田蔵書」の墨書あり。	H24-02
明倫・1296	三大考全	本居宣長著 （名古屋・永楽屋東四郎等）	1			寛政3刊	1791	和紙袋綴刊本 18.3×12.7 35丁	「三大考全」は江戸時代の国学者、本居宣長著。＊「三大考」は服部中庵著。寛政3年成立。記・記にある天地・養賢に関する記事を比較考説したもの。（増補本居宣長全集所収）//大辞典（平凡社）	外題・題箋「三大考全」内題「三大考」 仮名交じり文・ルビ有 巻末①に「寛政三年五月廿五日に書きをへぬ 服部中庵」②「宣長の」の跋文（?）あり 巻末目録の本書の紹介には「本居先生門人服部中庵考」とある 本文25丁・名古屋東壁堂目録10丁	H24-02
明倫・1297	集義外書一六巻	（江・須原屋茂兵衛等）	4			宝永6刊	1709	刊本	集義外書は5冊。熊澤蕃山撰。学教に関する戒門に答えた書。//大辞典（平凡社）		R6-03
明倫・1298	集義和書一六巻	熊沢蕃山	5					刊本	集義和書は16巻。熊澤蕃山撰。仮名文による問答体の書。書問（巻7）、心法問解（巻6）、始物問、義論（巻9～16）で構成される。集義外書と並ぶ著者の代表作。//大辞典（平凡社）		R6-03
明倫・1299	初学知要三巻	貝原篤信編録	3					和紙袋綴刊本 25.7×18.3	江戸時代の儒学者・本草学者である貝原益軒著。3巻。元禄10年序刊。為学、修身、接物、處事、警戒の5綱にわけ、経伝中から適切な句を選んで纂算したもの。//大辞典（平凡社）	送返 仮名巻（上中下三冊） 題箋「初学知要」元禄丁丑序、巻末刊元禄十一年	H28-01
明倫・1300	精里先生遺説	古賀精里	1		0			和紙袋綴写本 25.0×16.3 45丁	著者の古賀精里は江戸時代後期の儒学者。//	カナ交じり文 外題無 巻末大尾「…文政■年季夏九月 横尾敬■■■■/同六年癸未三月会始四月■」	R5-03
明倫・1301	洗心洞割記下	大塩平八郎	1					和紙袋綴刊本 24.7×17.6 51丁	洗心洞割記は3巻。上下2巻と中1巻（附録）。江戸時代中期の大塩中斎の著。読書の感想録。宋儒の語録の体倣い、道学・理学等の原理を論述したもの。ただし、自学である王陽明流の学理を主張し、發揮している。洗心洞は大塩中斎（平八郎）の室号。/国書解題/日本漢文学大辞典	句返 外題・題箋上部欠損「■■■■■記 下二」 版心題「洗心洞割記下」 ＊下の49丁目より始まり96丁（終）まで 巻末に「凡百三十九條」とある 蔵書印朱印「■原氏所蔵」（児原氏か？） 朱の書入れ有	H24-02
明倫・1303	続紀歴朝詔調解六巻	本居宣長解 （名古屋・永楽屋東四郎）	5			享保3刊	1718	和紙袋綴刊本 26.2×18.2	6巻。江戸後期の注釈書。6巻。本居宣長著。享和3年（1803）刊。「続日本紀」の漢字詠詩62編を取り出し、訓解・注釈を施したもの。巻首に総論があり、宣命詔教の沿革文体等について最も詳密に論じている。/本居宣長事典/大辞典（平凡社）/国書解題	1巻欠 詠詩の部分はカナで総ルビ、注釈部分は仮名交じり文 1303-1外題「続紀歴朝詔調解」（ペンで直書）内題「続紀歴朝詔紀歴朝詔調解二巻」（下部 本居宣長解）版心題「詔調解二」 蔵書印「財津蔵書」/高鍋図書館蔵書 内容：二巻71/三巻36/四巻44/五巻72/六巻47・（刻成書目）11丁	H24-02
明倫・1304	続近世世語	角田簡大可撰 （江・岡田屋嘉七等）	1			弘化2年		和紙袋綴刊本 25.4×17.5 36丁	続近世世語は8巻。角田九華著。慶長・天和以来の逸事異聞を集録したもの。弘化2年成立、宋の世説新語に倣っている。/日本漢文学辞典/大辞典（平凡社）	句返 外題・題箋「続近世世語 七 八」 内題「続近世世語巻之七」16丁「続近世世語巻之八」18丁跋2丁（弘化2年・西島長孫） 巻頭蔵書印朱印あり「明倫堂蔵書印」「上江小学高鍋」	H24-02
明倫・1305	続近世世語八巻	角田九華著 （尚古堂）	2			弘化2刊	1845	和紙袋綴刊本 25.5×17.6	続近世世語は8巻。角田九華著。慶長・天和以来の逸事異聞を集録したもの。弘化2年成立、宋の世説新語に倣っている。/日本漢文学辞典/大辞典（平凡社）	巻5～8欠 「上江小学高鍋」「明倫堂蔵書印」あり。	H24-02
明倫・1306	続近世世語		1					和紙袋綴刊本 25.5×17.6	続近世世語は8巻。角田九華著。慶長・天和以来の逸事異聞を集録したもの。弘化2年成立、宋の世説新語に倣っている。/日本漢文学辞典/大辞典（平凡社）	句返 「明倫堂蔵書印」あり。	H24-02
明倫・1307	俗神道大意	平田篤胤講説	1					和紙袋綴刊本 23.3×16.0 47丁	江戸時代の国学者、平田篤胤著。萬葉元年吉川朝範胤行の序がある。著者が「俗神道」と定義した両部神道（真言密教と習合した神道）や唯一神道（吉田神道。皇室ゆかりの伯家神道をさしおいて唯一宗源神道を名乗った）などを排撃し、論難を加えた書。著者の講説を門人が筆記したという形で著された、大意もののひとつで、他に「古道大意」、「歌道大意」などがある。/国書解題/	漢文の部分には句送返あり。本文は仮名交じり文・ルビ有。題箋無（鉛筆で後世に直書き「俗神道大意」）内題「俗神道大意三之巻」47丁（※巻の文末に「…時は文政八年九月ナカバ。」）とある） 蔵書印朱印「橋河辺文庫」 表紙見返しに「かわへ」の墨書あり。	H24-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1308	蘇李明問答講義ほか		1					和紙袋綴写本 24.5 × 16.8 75丁		カナ交じり文 外題・内題なし(表紙無)一丁目は本文だが副題等無(文の途中から始まっている?)副題と見受けられるものは「蘇李明問答講義」(2丁目)「徳勝所録」(27丁目)「永井行達録 享保丁酉」(32丁目)「稲葉正義所録」(49丁目)※永井行達(隠求)・稲葉正義(廷察)は蘭学学派の佐藤直方の弟子 25年度修復時改装	R5-03
明倫・1309	玉鉾百首直日晝	本居宣長	8					和紙袋綴刊本 23.5 × 16.0	「玉鉾百首」は1冊。天明6年ごろ成。本居宣長作の古道精神を歌った100首、及び「阿麻理歌」32首。万葉仮名で記している。(玉鉾は「道」にかかる枕詞で、ここでは古道を示す)。「直日晝」(直毘羅・直比乃晝とも書く)は神道書。明和8年成。1巻。宣長の古道論を展開したもの。同著「古事記伝」初巻の附録であったものを別に刻して単行本としたもの。/本居宣長事典/大辞典(平凡社)	白 1309-1・2・4・5・6・8は「玉鉾百首」14丁「直日晝」5丁(計19丁) 1309-3・7は「玉鉾百首」14丁のみ 同一のテキスト 題箋1309-8のみあり「玉矛百首直比乃晝 完」 蔵書印朱印1309-6・7「高鍋図書館蔵書」「財津蔵書」 3～表表紙見返しに「高鍋学校御用書」の墨書あり。	H24-02
明倫・1310	玉鉾百首直比乃晝完	本居宣長	1					和紙袋綴刊本 23.5 × 15.8 19丁	「玉鉾百首」は1冊。天明6年ごろ成。本居宣長作の古道精神を歌った100首、及び「阿麻理歌」32首。万葉仮名で記している。(玉鉾は「道」にかかる枕詞で、ここでは古道を示す)。「直日晝」(直毘羅・直比乃晝とも書く)は神道書。明和8年成。1巻。宣長の古道論を展開したもの。同著「古事記伝」初巻の附録であったものを別に刻して単行本としたもの。/本居宣長事典/大辞典(平凡社)	白文 外題・題箋「玉矛百首直比乃晝 完」 「玉鉾百首」14丁「直日晝」5丁(計19丁) 蔵書印朱印「田村氏蔵書印」	H24-02
明倫・1311	玉矛百首解	(大・伊丹屋善兵衛等)	1					刊本	2巻2冊。本居大平著。歌集の注解書。寛政11年刊。本居宣長作の「玉矛百首」の註解書。はじめに語釈。次に一首の意味を簡潔に釈している。出書の相續俊信・橋本雄等の序あり。/国書解題/本居宣長事典/大辞典(平凡社)		R6-03
明倫・1312	直日晝一卷	本居宣長著 (伊勢・相屋兵助)	1			文政8刊	1825	和紙袋綴刊本 26.2 × 18.1 20丁	神道書。直毘羅とも書く。江戸時代の国学者・文献学者である本居宣長の著。明和8年成。1巻。皇国の道ということ論述したもの。同著「古事記伝」初巻の附録であったものを別に刻して単行本としたもの。みずから(此篇は、道といふことの論ひ(あげつらひ)なり)といっているように、宣長の古道論の精髓を示す。日本古代にあったのは、したがうべき教義として意識されず、なんらの人智を加える必要もなかった(物にゆく道)であるとする信念から、ただ神意にまかせる(惟神)の道を説く/国書解題/大辞典(平凡社)	仮名交じり文・ルビ有 表紙無? 内題「直日晝」序5丁・本文13丁・跋2丁 序・跋ともに文政8年蔵書印朱印「財津蔵書」「高鍋図書館蔵書」	H24-02
明倫・1313	直毘羅一卷	本居宣長著 (名古屋・永楽屋東四郎等)	3					和紙袋綴刊本 18.2 × 12.7	神道書。直日晝とも書く。江戸時代の国学者・文献学者である本居宣長の著。明和8年成。1巻。皇国の道ということ論述したもの。同著「古事記伝」初巻の附録であったものを別に刻して単行本としたもの。みずから(此篇は、道といふことの論ひ(あげつらひ)なり)といっているように、宣長の古道論の精髓を示す。日本古代にあったのは、したがうべき教義として意識されず、なんらの人智を加える必要もなかった(物にゆく道)であるとする信念から、ただ神意にまかせる(惟神)の道を説く/国書解題/大辞典(平凡社)		H24-02
明倫・1314	直毘羅	本居宣長著 (名古屋・永楽屋東四郎等)	1					和紙袋綴刊本 18.2 × 12.6	神道書。直日晝とも書く。江戸時代の国学者・文献学者である本居宣長の著。明和8年成。1巻。皇国の道ということ論述したもの。同著「古事記伝」初巻の附録であったものを別に刻して単行本としたもの。みずから(此篇は、道といふことの論ひ(あげつらひ)なり)といっているように、宣長の古道論の精髓を示す。日本古代にあったのは、したがうべき教義として意識されず、なんらの人智を加える必要もなかった(物にゆく道)であるとする信念から、ただ神意にまかせる(惟神)の道を説く/国書解題/大辞典(平凡社)	「高月鈴木文庫之印」あり。	H24-02
明倫・1315	祝詞考三巻	賀茂真淵著 (大・河内屋善兵衛等)	3			寛政12刊	1800	和紙袋綴刊本 25.2 × 17.9	延喜式の祝詞を考解した書。賀茂真淵著。3巻。同著「祝詞解」を考訂したもの。明和5年の自序。寛政12年荒木田久老の跋あり。*「祝詞解」は延喜式第八巻の祝詞を註解したもの/国書解題/		H24-02
明倫・1316	祝詞正訓二巻	平田鉄胤著	3			安政5年	1858	和紙袋綴刊本 26.6 × 18.4 55丁	2巻。平田鐵胤(平田胤胤の養子)著。安政5年奇玉安氏の跋あり。延喜式所収の祝詞の読み方を示すため。片仮名で傍訓を附したものと。/国書解題/大辞典(平凡社)	祝詞に片仮名で傍訓が附されている 外題・題箋「祝詞正訓」 構成「祝詞正訓上巻(30丁)「祝詞正訓下巻(22丁) 祝詞正訓おがき(1丁) 刻成書目(1丁) * 1316-1・2・3とも同じ丁数・内容 蔵書印1316-1・3「明倫堂蔵書印」1316-2「財津蔵書」1316-3朱印あり(内容不明)	H24-02
明倫・1317	復讐説		1					和紙袋綴写本 23.1 × 17.0 4丁		送返 外題直書「復讐説」内題なし 表紙裏に書入「外嶋田/大塚氏」巻末「元禄六癸酉八月廿五日」	R5-03
明倫・1318	本数学解	矢野玄道著 (東・平田胤雄)	1			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 19.2 × 13.1	幕末から明治時代の国学者、矢野玄道著。*江戸の平田塾に入り、胤胤没後の門人となる。昌平塾で漢学を学ぶ。//国史大辞典		H24-02
明倫・1319	野馬台魂		1					和紙袋綴写本 24.8 × 17.1 4丁		外題直書(虫損大)「野馬臺魂 全」(臺は台の旧字)内題同 「嘉永六年秋八月/源芳 ■■■」(3丁目)とある、その後に和歌(?)が11種記載 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	R5-03
明倫・1320	歴朝詔訓解六巻	本居宣長解	1			享和3刊	1803	和紙袋綴刊本 26.1 × 18.2 43丁	江戸後期の注釈書。6巻。本居宣長著。享和3年(1803)刊。「続日本紀」の漢字詔辞62編を取り出し、訓解・注釈を施したもの。巻首に総論があり、宣命詔歌の沿革文休等について最も詳密に論じている。/国書解題/大辞典(平凡社)	巻2〜6欠 本文は仮名交じり文。一部に片仮名の傍訓あり。引用の漢文には送返あり 外題無・内題「続紀歴朝詔訓解一巻」 構成・序(3丁)享和3年大神安守・本文・1巻(40丁) 蔵書印「高鍋図書館蔵書」「財津蔵書」	H24-02
明倫・1321	為学		1					和紙袋綴写本 25.3 × 17.9 79丁		カナ交じり文 表紙無・内題「為学」 25年度修復時改装	R5-03
明倫・1322	一荅嫩軍記		1					和紙袋綴写本 23.2 × 14.6 18丁		かな交じり文 表紙・巻末書入れ多数 表紙「■■■■■嫩軍記 序段 ■■■」(表紙右上)「安芸之尾上太夫最不■■■■」 巻頭「壹漢嫩軍記序」内題「一谷嫩軍記」 『一谷嫩軍記』(いちのたにふたばぐんき)とは、文楽および歌舞伎の演目のひとつ 25年度修復時改装(表表紙のみ)	R5-03
明倫・1323	為貧説	三宅尚斎 (京・屋勘兵衛)	1			享保13刊	1728	和紙袋綴刊本 27.8 × 19.0	三宅尚斎著。著者は江戸中期の儒者。名は重因。播磨国明石の人。山崎闇斎の門人にて、佐藤直方、浅見綱斎(けいさい)とともに崎門三傑といわれた。/国書解題/	送返 外題題箋・内題同「為貧説」 巻末識・享保戊申(13)年蔵書印「大塚」	H28-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1324	陰騭録	塩沢健	1			大正7刊	1918	和紙袋綴刊本 22.5×14.8	陰騭録(いんじつろく)は 中国、明末の代表的な善書(勸善の書)の一つ。明末の袁黄(号は了凡)の《立命之学》《謙虛利中》《積善》《改過》《決科要語》《功過格》《雲谷禪師伝功過格?》を集めたもの。崇禎年間(1628-44)の刊本が日本に輸入され、?案《自知録》とあわせて、1701年(元禄14)に?東獅子谷升蓮社から出版され、現存する。陰騭は《尚書》洪範に見える語で、天が無言のうちに民を安定させること。転じて陰徳の意に用いられ、天が人の行為の善惡によって禍福を下すとする。(コハンク)//	外題題箋「倭譯/陰騭録 全」 文化8年	H24-02
明倫・1325	陰騭録全		1			文化8刊	1811	和紙袋綴刊本 18.6×13.0	陰騭録(いんじつろく)は 中国、明末の代表的な善書(勸善の書)の一つ。明末の袁黄(号は了凡)の《立命之学》《謙虛利中》《積善》《改過》《決科要語》《功過格》《雲谷禪師伝功過格?》を集めたもの。崇禎年間(1628-44)の刊本が日本に輸入され、?案《自知録》とあわせて、1701年(元禄14)に?東獅子谷升蓮社から出版され、現存する。陰騭は《尚書》洪範に見える語で、天が無言のうちに民を安定させること。転じて陰徳の意に用いられ、天が人の行為の善惡によって禍福を下すとする。(コハンク)//	外題題箋「倭譯/陰騭録 全」 卷末刊年・文化8年	H28-01
明倫・1326	迂斎先生学話抄略		1					和紙袋綴刊本 75丁 25.6×18.3	儒書。1冊。山崎派の儒者、稲葉正義著。迂斎は著者の号。刊行年代不詳。「迂斎学話」中より、協議に関する談話を抄出行したしたもの。*「迂斎学話」は教義、學術について論述した隨筆(写本1巻)/圖書解題/大辞典(平凡社)		R5-03
明倫・1327	氏族弁証附録	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 24.6×17.0	三宅尚斎著。著者は江戸中期の儒者。名は重固。播磨国明石の人。山崎闇斎の門人にて、佐藤直方、浅見綱斎(けいさい)とともに崎門三傑といわれた。//	句 外題直書「三宅先生/氏族弁証附録」内題「氏族弁証附録」 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1328	氏族弁証附録	三宅尚斎著	1					和紙袋綴 丁数不明	三宅尚斎著。著者は江戸中期の儒者。名は重固。播磨国明石の人。山崎闇斎の門人にて、佐藤直方、浅見綱斎(けいさい)とともに崎門三傑といわれた。//	白 修復済・年度不明(27年度確認時)	R6-03
明倫・1330	易学啓蒙	宇井熟斎講 千手興欽写	1		明和3写		1766	和紙袋綴刊本 131丁 24.2×17.5	江戸中期の儒者、宇井熟斎著。*「易学啓蒙」は宋の朱熹撰。易の本義を明らかにして初学を啓蒙するために著した。主に邵雍の先天圖に基礎を置く<首書易学啓蒙・頭註易学啓蒙>四巻四冊 延宝2年(1734)刊/国書総目録/大辭典(平凡社)		R5-03
明倫・1331	易学啓蒙仮名筆記二巻	宋朱熹	2					和紙袋綴刊本 65・57丁 24.1×17.2	宋の朱熹撰。易の本義を明らかにして初学を啓蒙するために著した。主に邵雍の先天圖に基礎を置く<首書易学啓蒙・頭註易学啓蒙>四巻四冊 延宝2年(1734)刊//		R5-03
明倫・1332	易学啓蒙	宇井熟斎講義 (千手興欽)	1		明和3写		1766	和紙袋綴 110丁 26.4×17.2	江戸中期の儒者、宇井熟斎著。宋の朱熹撰。易の本義を明らかにして初学を啓蒙するために著した。主に邵雍の先天圖に基礎を置く<首書易学啓蒙・頭註易学啓蒙>四巻四冊 延宝2年(1734)刊/国書総目録/大辭典(平凡社)		R5-03
明倫・1333	易学啓蒙統筆記	三宅尚斎	1					和紙袋綴 16丁 24.3×17.8	江戸中期の儒者、三宅尚斎著。* 同著「易学啓蒙筆記」は易学啓蒙を講読したもの(1335参照)本書はその続編と思われる//	句返	R5-03
明倫・1334	易学啓蒙国字解上中下	三宅尚斎校閱 布施權安	3					和紙袋綴 134-152・122丁 24.3×17.0	江戸中期の儒者、三宅尚斎が校閱。「易学啓蒙」は宋の朱熹撰。易の本義を明らかにして初学を啓蒙するために著した。主に邵雍の先天圖に基礎を置く<首書易学啓蒙・頭註易学啓蒙>四巻四冊 延宝2年(1734)刊//		R5-03
明倫・1335	易学啓蒙筆記	三宅尚斎	1					和紙袋綴 112丁 24.1×17.7	易学啓蒙を講読したもの、木村重遠の所説を多く引用している。写本4巻、三宅尚斎著。//大辭典(平凡社)	句返返	R5-03
明倫・1336	易学類編三巻	新井白石著 (大・浅野弥兵衛等)	2		明和3刊		1766	和紙袋綴刊本 42・33丁 25.7×18.2	江戸時代の詩人、学者である新井白石著。//	句返返	R5-03
明倫・1337	易经講義	宇井熟斎 千手興欽写	10		寛政13写		1801	和紙袋綴 94丁 24.4×17.4 2・3-8・10は2分冊	江戸時代中期の儒者、宇井熟斎著。* 2下経34卦 3易上象伝 4易下象 5易上下象 6易上象伝 7易下象伝 8上経自師毛至畢 9下経自卷頤至萃卦 10文言説卦序卦雜卦/前任者の備考(又は24年)/	奥村兄の講義録(草書)と尚斎先生筆記(草書) 久米訂斎筆記校合して記す。明倫堂蔵書印 較合墨書	R5-03
明倫・1338	易繫辞伝久米子講説	久米訂斎 前谷明誠書	3	宝暦3	1753	天明2写	1782	和紙袋綴91・108・97丁 24.5×17.4	* 江戸時代中期の儒者、久米訂斎(1699-1784)著。山崎闇斎の弟子、三宅尚斎にまなぶ、崎門学派の説をひろめた。名は順利。字(あざな)は断治。通称は新二郎。//	明倫堂蔵書印朱印 較合墨書 久米訂斎朱註 3冊目に「天明37月27日於京都阪藤波公所蔵本写 山内尚綱(貞昌)」表紙に八十四 八十五 八十六	R5-03
明倫・1339	尚斎先生易本義筆記	三宅尚斎	1					和紙袋綴 95丁 24.2×17.2	江戸中期の儒者、三宅尚斎* 易本義は易経の注釈書 朱子(諱は朱熹)(1130-1200)の著作 //大辭典(平凡社)	句返 漢文体 大塚氏、写本に読点・註記する 虫損	R5-03
明倫・1341	隔釋論	塩谷世弘著	1			安政6刊	1859	和紙袋綴刊本 30丁26.0×17.0	塩谷世弘著。著者の論集、清国アヘン戦争、海防、1巻、安政6年刊。11編をのせる。論澳門屠夷・同窓狐狸・論聖祖胎謀等/圖書解題//	句返 堤氏文庫朱印	R5-03
明倫・1342	学思録	久米訂斎著 (大塚静氏写)	1			安永18写	1789	和紙袋綴写本 106丁 23.2×15.8	* 江戸時代中期の儒者、久米訂斎(1699-1784)著。山崎闇斎の弟子、三宅尚斎にまなぶ、崎門学派の説をひろめた。名は順利。字(あざな)は断治。通称は新二郎。* 儒学 享保21著* 江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親瀧)の書写本/前任者の備考(又は24年)/	返 此本魯魚之誤衍文落字甚多觀者謹識 静識「大塚」の印あり。	H29-05
明倫・1343	学談筆記	三宅尚斎	1			正徳1写	1711	和紙袋綴 18丁 24.0×17.2	* 三宅尚斎著。*「学談」とは崎門学派において記録された、師(ここでは山崎闇斎)の日常の言行の記録のこと/日本思想体系31(山崎闇斎学派)/		R5-03
明倫・1344	感興詩附案	大塚静氏	1					和紙袋綴 10丁 24.6×17.2	大塚静氏/ 感興詩の解説書。感興詩は朱熹の著、20首。/前任者の備考(又は24年)/	大塚朱印 大塚? 三蔵本 表紙右端に文政口口秋記	R5-03
明倫・1345	感興詩筆記	久米訂斎 (安永9坂田氏書写)	1		寛延4写		1751	和紙袋綴 30丁 23.4×15.5	* 江戸時代中期の儒者、久米訂斎(1699-1784)著。山崎闇斎の弟子、三宅尚斎にまなぶ、崎門学派の説をひろめた* 酒井欽のため、吾朱子感興詩を読む、他日考に所見を記す。感興詩は朱熹の著。(安永9坂田氏書写)/前任者の備考(又は24年)補足済み/	返 頭朱書氏慎書 大塚朱印 漢文体	R5-03
明倫・1346	感興詩筆記	久米訂斎 大塚精斎写	1		宝暦9写		1759	和紙袋綴 33丁 24.0×17.0	書写者：大塚氏慎(精斎)(明倫堂師範)* 江戸時代中期の儒者、久米訂斎(1699-1784)著。山崎闇斎の弟子、三宅尚斎にまなぶ、崎門学派の説をひろめた。名は順利。字(あざな)は断治。通称は新二郎。* 酒井欽のため、吾朱子感興詩を読む、他日考に所見を記す。感興詩は朱熹の著。/前任者の備考(又は24年)補足済み/	送返 表紙欠 題箋に「時在浪華藩邸 精斎写」虫損	R5-03
明倫・1347	感興詩諸説記全	鈴木翔房	1		文化14		1817	和紙袋綴 15丁 25.3×16.3	感興詩解釈 感興詩は朱熹の著、20首。著者(書写者)鈴木馬左也の母方の大叔父鈴木翔房(たかふさ)か?/前任者の備考(又は24年)/	奥書 陳江・横尾両子と会之 藤原房智后翔房 高月鈴木文庫之印	R5-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1348	諸説(元亨利貞説・約七録・殺生食肉説)	三宅尚斎著 写	1			元禄6	1693	和紙袋綴 19丁 24.0×17.8	儒学*三宅尚斎著。著者は江戸中期の儒者。名は重固。播磨国明石の人。山崎闇斎の門人で、佐藤直方、浅見綱斎(けいさい)とともに崎門三傑といわれた。//	白 明倫堂蔵書印朱印 校合 表紙に「百十」	R5-03
明倫・1349	管子二四巻	安井息軒著	11					和紙袋綴刊本 25.7×17.8 丁数不明	江戸後期～明治初期の儒学者安井息軒著。(日向臥肥藩儒者安井澹洲の子) *管子は中国古代の政治論文集。管仲の著と伝えられるが、一人の作ではなく戦国時代から漢代にかけて成立したとみられる。現存76編。経済政策や富国強兵策などを記す。//	巻17～20欠 24年度電子化時に一部修復(1349-11のみ) 「田邨氏蔵書印」あり。	H24-02
明倫・1350	管子二四巻	安井息軒監註 (江・山城屋佐兵衛等)	12			慶應1刊	1865	和紙袋綴刊本 25.8×17.9	江戸後期～明治初期の儒学者安井息軒著。(日向臥肥藩儒者安井澹洲の子) *管子は中国古代の政治論文集。管仲の著と伝えられるが、一人の作ではなく戦国時代から漢代にかけて成立したとみられる。現存76編。経済政策や富国強兵策などを記す。//	句送 「堤氏文庫」の印あり。	H24-02
明倫・1351	管子葉註補正	安井息軒著	1			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 25.9×17.9	江戸後期～明治初期の儒学者安井息軒著。(日向臥肥藩儒者安井澹洲の子) *管子は中国古代の政治論文集。管仲の著と伝えられるが、一人の作ではなく戦国時代から漢代にかけて成立したとみられる。現存76編。経済政策や富国強兵策などを記す。//	句 「堤氏文庫」の印あり。	H24-02
明倫・1352	神主題名式	三宅尚斎著	1			享保8写	1723	和紙袋綴写本 24.1×16.8	*三宅尚斎著。著者は江戸中期の儒者。名は重固。播磨国明石の人。山崎闇斎の門人で、佐藤直方、浅見綱斎(けいさい)とともに崎門三傑といわれた。//	白 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H24-02
明倫・1354	顔楽章筆記	小野信成著	1					和紙袋綴写本 24.7×18.0	小野信成著//	外題直書「顔楽章筆記」内題同 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・1356	教録筆記		1					和紙袋綴写本 23.5×14.5		外題題箋「教録筆記」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H28-01
明倫・1358	玉講附録二巻(上下)	山崎闇斎(京・寿文堂)	2			寛文12刊	1672	刊本	山崎闇斎著(？)。「玉講付録」(寿文堂刊本)は玉山講義附録の流布本。「山崎嘉猷」の四字を加えた後記が附してある。*玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。寛文13年林恕の序有//	句送返	R6-03
明倫・1359	玉講附録		1					刊本	「玉講付録」(寿文堂刊本)は玉山講義附録の流布本。「山崎嘉猷」の四字を加えた後記が附してある。*玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。寛文13年林恕の序有//	句送返	R6-03
明倫・1360	玉講附録		3					刊本	「玉講付録」(寿文堂刊本)は玉山講義附録の流布本。「山崎嘉猷」の四字を加えた後記が附してある。*玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。寛文13年林恕の序有//	句送返	R6-03
明倫・1361	玉講附録		1					刊本	「玉講付録」(寿文堂刊本)は玉山講義附録の流布本。「山崎嘉猷」の四字を加えた後記が附してある。*玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。寛文13年林恕の序有//	句送返	R6-03
明倫・1362	玉講附録三巻	山崎闇斎 (京・寿文堂)	6			寛文12刊	1672	刊本	山崎闇斎著(？)。「玉講付録」(寿文堂刊本)は玉山講義附録の流布本。「山崎嘉猷」の四字を加えた後記が附してある。*玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。寛文13年林恕の序有//	句送返	R6-03
明倫・1363	玉山講義二巻		1			寛文12刊	1672	和紙袋綴刊本 27.7×19.1	*玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。寛文17年林恕の序有//	送返 外題直書(ペン書き)「玉山講義」内題同 内容:序(寛文12年)・本文・附録上	H28-01
明倫・1364	玉山講義附録	山崎闇斎著	5					和紙袋綴写本 24.4×18.0 91・98・94・62・123・110(3冊目は2冊分)	朱子学上の重要な書物「三部書」の一つ。玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。凡て漢文体で記されている。上・中・下巻よりなる。寛文12年林恕の序有 (*山崎闇斎著と目録にある)/国書解題/大辭典(平凡社)	カナ交じり文 外題直書「玉山講義附録口義」1364-1巻頭「玉山講義筆記 上之一」順に「上之二」「中」「下之一」「下之二」 (表紙右上に数字、順に「九十」「九十一」「九十二」「九十三」「九十四」) 丁数 順に91・98・156丁(1364-3は分冊)・123・110丁 蔵書印「明倫堂蔵書記」 *1364-4巻末書入れに山内氏に伝わる書を写したもので「甲子之春 大塚静記」とある(1804年か?)	R5-03
明倫・1365	玉山講義口義	三宅尚斎著 大塚氏復写	1			享保19写	1734	和紙袋綴 45丁 24.5×17.7	*三宅尚斎著。著者は江戸中期の儒者。*玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。寛文12年林恕の序有 *江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親瀧)の書写本//		R5-03
明倫・1366	玉山講義附録三巻	山崎闇斎著 (京・寿文堂)	3			寛文12刊	1672	刊本	朱子学上の重要な書物「三部書」の一つ。玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。凡て漢文体で記されている。上・中・下巻よりなる。寛文12年林恕の序有 (*山崎闇斎著と目録にある)/国書解題/大辭典(平凡社)	句送返	R6-03
明倫・1367	玉山講義玉講附録	保科正之	3					和紙袋綴刊本 26.5×17.2	玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。寛文12年林恕の序有 *金津藩主編/前任者の備考(又は24年)/	句送返 在玉山講義、玉講附録上之一、中、下之一(全5冊のうちの3冊) 1367-1外題直書「玉山講義 上」 (1367-1表紙書入「上ノ二失」1367-2「下ノ二欠」)	H28-01
明倫・1368	玉山講義附録三巻	保科正之(林恕)	3			寛文12刊	1672	刊本	朱子学上の重要な書物「三部書」の一つ。玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。凡て漢文体で記されている。上・中・下巻よりなる。寛文12年林恕の序有/国書解題/大辭典(平凡社)	句送返	R6-03
明倫・1369	(玉山講義)玉講附録三巻	(京・武村市兵衛)	3					和紙袋綴刊本 27.2×17.7	玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。寛文12年林恕の序有//	句送返 「城氏」の印あり。	H24-02
明倫・1370	玉山講義附録三巻	保科正之	1			安政9写	1862	和紙袋綴写本 24.3×14.3	朱子学上の重要な書物「三部書」の一つ。玉山講義附録は3巻5冊、松平正之著 性理・道徳に関する、著者の講説を集めている。凡て漢文体で記されている。上・中・下巻よりなる。寛文12年林恕の序有/国書解題/大辭典(平凡社)		H24-02
明倫・1371	近思錄二資講		1			寛政9写了	1797	和紙袋綴写本 23.6×15.5	近思錄は中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代)に起こった新儒教)者の道集。//		H24-02
明倫・1372	近思錄質講		1			寛政10写	1798	和紙袋綴写本 23.6×15.5 57丁	近思錄質講は14巻5冊/國書総目録/	外題・直書「近思錄質講」内題「近思錄四」 仮名交じり文(片仮名)	H24-02
明倫・1373	近思錄質講		2			寛政9写	1797	和紙袋綴写本 23.8×15.7 42・61	近思錄質講は14巻5冊/國書総目録/	カナ交じり文 外題直書き「近思錄質講」内題1373-3「近思錄十」1373-4「近思卷之三質講」 蔵書印1373-1「高鍋図書館蔵書」 1373-2 巻末に「寛政九年丁巳十一月十四日書■ ■斎」	R5-03
明倫・1375	近思錄示蒙句解一四巻	中村惕斎	1					和紙袋綴刊本 25.4×17.7 104丁	14巻 中村欽撰 近思錄を仮名文で平易に解釈したもの *中村之歎(歎)は江戸時代前期の儒学者中村惕斎(1629～1702)のこと/国史大辞典/大辭典(平凡社)	句 巻1～3のみ(*巻1～2上・下) 外題・題箋「近思錄示蒙句解」 漢文(引用部分)には句送返あり。説明部分は仮名交じり文(片仮名)、傍訓あり。 蔵書印「高鍋図書館蔵書」 巻一(38丁)、巻二上(33丁)、巻二下(33丁)	H24-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1376	近思錄示蒙句解一四巻	中村惕斎	4					刊本	14巻 中村欽撰 近思錄を仮名文で平易に解釈したもの * 中村之歟(歟)は江戸時代前期の儒学者中村惕斎(1629～1702)のこと/国史大辞典/大辭典(平凡社)	6・7・10欠 外題直書「近思錄筆記 二」(三)・(四) 1378-1～3 順に51・51・54丁(為学・致知/存養・克己・家道・出處・活体/治法・政事・教学・管輅・異端・聖賢・後序) 1378-1巻頭序入「享保十三年戊申二月十五日起」 1378-3巻末書入「享保十四年己酉十一月 尚齋州」 蔵書印「大塚」	R6-03
明倫・1378	近思錄(筆記)	三宅尚斎	3			享保13～14写	1728～1729	和紙袋綴写本 24.2×17.3 51・51・54	* 三宅尚斎著。著者は江戸中期の儒者。山崎闇斎の門人。佐藤直方、浅見綱斎とともに崎門三傑といわれた * 中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の道集。西銘とは「正蒙」のこと。北宋の張栻集の著。1076年。易经や論語、孟子、中庸を縦横に引用しつつ、自らの思想を表明している。//	送返(朱書きで句点有) 外題直書「近思錄筆記 二」(三)・(四) 1378-1～3 順に51・51・54丁(為学・致知/存養・克己・家道・出處・活体/治法・政事・教学・管輅・異端・聖賢・後序) 1378-1巻頭序入「享保十三年戊申二月十五日起」 1378-3巻末書入「享保十四年己酉十一月 尚齋州」 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1379	近思錄筆記・西銘易伝序		1					和紙袋綴刊本 25.9×17.9	近思錄は中国、南宋の朱熹が呂祖謙と共に編纂した。北宋の道学(宋代に起こった新儒教)者の道集。西銘とは「正蒙」のこと。北宋の張栻集の著。1076年。易经や論語、孟子、中庸を縦横に引用しつつ、自らの思想を表明している。//		H24-02
明倫・1380	卦爻諸説		1					和紙袋綴写本 24.8×17.5		句送返 外題直書「卦爻諸説全」内題「卦爻諸説」 20丁 1380-1巻末「延宝辛酉九月二日再版」/「手井翁ノ講ニ綱齋先生卦爻諸説トテ板本アリ」 精斎とある(表紙に朱書き「■■■■■■翁云山奇■■■■浅見子者所ト」) 蔵書印「大塚」 修復時に裏表紙改装	R6-03
明倫・1382	君子儒		1					和紙袋綴写本 22.9×16.4 16丁		句返(カナ交じり文も含む) 題「君子儒」(表紙無) 16丁 巻末書入れ「文化八年辛未初夏■■干梅香山」 26年修復時に表紙・裏表紙を補完	R5-03
明倫・1383	敬斎箴	山崎闇斎著	1			安永10写	1781	和紙袋綴写本 24.8×16.2 15丁	山崎闇斎による「敬斎箴」の註釈書。 * 「敬斎箴」は宋の朱熹の著。修養の中で「敬」を重んじ、その実践法を説いたもの。この箴は朱子の修養論を見るに極めて重要な物也。然るに元明の儒者、その真義を知るもの甚稀なり。先生之を憂い之を表现出して各条下に分註を施せるものなり。また附録を作りて朱子以下黄勉齋・陳北溪・真西山・呉草廬・黄東齋・胡敬齋などがこの箴に就いて説き及べる言を輯録す(山崎闇斎全集解説)/前任者の備考より/大辭典(平凡社)	カナ交じり文 15丁 「日本思想体系」所収 外題直書「敬斎箴講義」表紙に書入れ「安永辛丑季春念三」(安永10年) 冒頭に大塚静氏の謹識有り 蔵書印「大塚」 26年度修復時に表紙・裏表紙を補完	R5-03
明倫・1385	敬斎箴筆記	大塚静氏写 (三宅尚斎著)	1			安永10写	1781	和紙袋綴写本 23.5×14.5 21丁	三宅尚斎著 * 「敬斎箴」は師の山崎闇斎が註釈・刊行した朱熹の著作。修養の途中で「敬」を重んじ、その実践法を説いたもの。 * 江戸期の儒者で高橋藩校明倫堂教授、大塚静氏(観瀾)の書写本//	カナ交じり文 21丁 「日本思想体系」所収 外題直書「敬斎箴筆記 全」内題「敬斎箴講義」巻中で「敬」を重んじ、その実践法を説いたもの。 * 江戸期の儒者で高橋藩校明倫堂教授、大塚静氏(観瀾)の書写本//	R5-03
明倫・1386	敬斎箴筆記	山崎闇斎	1					和紙袋綴写本 24.0×16.8	三宅尚斎著、師の山崎闇斎が註釈・刊行した「敬斎箴」(朱熹の著作)の註釈書。著者の、筆記と題する他の注釈書と同様、字句の典拠を記し、字義を明らかにし、所説を引き簡潔に自説を附しているところが特徴。成立年未詳(成徳2年以前か?) /日本思想体系31(山崎闇斎学派)/	カナ交じり文 22丁 外題直書「三宅先生 敬斎箴筆記 全 留守先生附」内題「敬斎箴筆記」 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1387	経史考	井口蘭雪輯著 (京・唐本屋吉左衛門)	1			明和3刊	1766	和紙袋綴刊本 26.5×18.0	江戸時代中期の儒者、井口蘭雪(1719-1771)著。紀伊出身。名は文炳。字(あざな)は仲虎。通称は孝太夫。//	送返 外題直書「経史考」 内容:序(明和2年)・目録・(本文)・附録 巻末刊年:明和3年 蔵書印「城氏」	H28-01
明倫・1390	經典題説	林羅山著	1					和紙袋綴刊本 27.1×17.4	1巻。林羅山著。刊年未詳。13経を解説したもの(経・書・礼記・周礼・儀礼・楽易・春秋・左伝・公羊伝・穀梁伝・孝・爾雅)//大辭典(平凡社)	「城氏」の印あり。 巻頭に「日州高橋 城重明家蔵」の朱書あり。	H24-02
明倫・1391	経名考筆記		1					和紙袋綴写本 24.2×17.3 12丁	* 経名考は山崎闇斎の著作か?(ネットで引かなかっただけ、要確認)//	句送返 12丁 外題直書き「経名考筆記」 巻末書入れ「此筆記観■■大塚東蔵手跡也/壬戌仲夏精斎大塚氏■■」本文跋部分には「元文四年己未二月朔旦留守友信書」とある	R5-03
明倫・1392	啓蒙序・卦爻略説		1					和紙袋綴写本 23.6×15.6 11丁		カナ交じり文 表紙「啓蒙序/命■■口義/深静精微説/卦爻略説/啓蒙卦爻説」(本文は「卦爻略説」/「啓蒙卦爻/説」計4丁。「綱齋先生啓蒙序口義」4丁。「深静精微字并黙斎論/講」1丁) 表紙に書入「大塚氏」4丁目に蔵書印「大塚」 修復時に改装(表紙・裏表紙を補う)	R5-03
明倫・1393	献替録八巻	萩原裕録評	1			文久2年		和紙袋綴刊本 26.3×18.1 50丁	8巻。明治の萩原西庵(裕)の著。文久2年の著。外恵に処するため宋の名臣の奏議文を30条編抄したもの。/大辭典(平凡社)/国書解題	句返(本文は漢文) 巻4～8欠 外題・題箋「献替録一」内題「献替録巻一」及び同巻二、巻三 蔵書印朱印「堤氏文庫」 構成:序・凡例・標目(計7丁)、巻1(19丁)、巻2(10丁)、巻3(14丁)	H24-02
明倫・1395	講学叢策録	佐藤直方著 (京・寿文堂)	1			天和3刊	1683	和紙袋綴刊本 25.9×18.5 55丁	講学叢策録は写本1巻。佐藤直方著。天和3年稿。朱子の著作より學術の要綱に關することを抄録したもの。/大辭典(平凡社)/国書解題	送返 外題直書「講学叢策録」 巻頭・蔵書印朱印「城氏」 丸印「〇〇」(不明) 構成:序(浅見安正) 5丁、本文内題「講学叢策録」49丁、著者跋1丁	H24-02
明倫・1397	講学叢策論全	佐藤直方著 (京・朝倉義助)	2			貞享1刊	1684	刊本	講学叢策録は写本1巻。佐藤直方著。天和3年稿。朱子の著作より學術の要綱に關することを抄録したもの。/大辭典(平凡社)/	送返	R6-03
明倫・1398	講学叢策論	佐藤直方 (財津恒吉)	1			文化7写	1810	和紙袋綴写本 23.1×15.7	講学叢策録は写本1巻。佐藤直方著。天和3年稿。朱子の著作より學術の要綱に關することを抄録したもの。/大辭典(平凡社)/	巻末に「財津恒吉」の墨書あり。	H24-02
明倫・1399	孝経(句解)	蟹維安句解	1			宝暦9写	1759	和紙袋綴写本 22.8×16.5 37丁	江戸時代中期の崎門派の儒者、蟹養斎(維安)著。 * 「孝経」は孔子の弟子の曾子の作といひ伝えられる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	句 外題直書「孝経句解」序「孝経句解序」(宝暦己卯七月 蟹維安謹序)内題「孝経/朱子刊誤」後学蟹維安句解 巻末「明和四亥三月上■■ 山本宏賢写之」 蔵書印「城氏」 26年度修復・解体時本文の裏面(36丁全て)に書入れ有、資料撮影後簡易製本(裏打ちせず)。裏面の書入れの一部は日記状(要調査)	R5-03
明倫・1400	孝経刊誤附考	山崎闇斎 浅見綱斎	1					和紙袋綴刊本 27.5×18.7	朱熹の孝経刊誤に考證を加えたもの。山崎憲(闇斎)撰。1巻/国書解題/大辭典(平凡社)	送返 外題直書「孝経刊誤附考」 巻頭書入(文化15年大塚観瀾か?) 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1401	孝経参釈全	川崎魯斎著 (東・万屋忠蔵)	1			慶応4刊	1686	和紙袋綴刊本 25.4×17.4	孝経参釈は江戸時代の川崎也斎(名は隠)の著。章句を解釈し、又、諸家の説を掲げて考注している。元治元年(1864)の自序あり。補足の文は朱書きしている。秋月種樹及び土岐頼之の序文あり。/大辭典(平凡社)/日本漢文学大辞典	句送返 補足文は朱で刷られる 外題・題箋欠損のため不明 内題「孝経参釈」蔵書印「財津蔵書」「高鍋図書館蔵書」 * 濡れた紙か? 全体的にシミ有、表紙や本文(折り目側)欠損あり。	H24-02
明倫・1402	孝経筆記	三宅尚斎	1					和紙袋綴写本 23.5×15.9 70丁	三宅尚斎著 * 孝経とは孔子の弟子の曾子の作といひ伝えられる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	5丁目以降空白 26年度撮影後改装(表紙・裏表紙)	R5-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1403	孝経筆記	久米順利	1			享保15写	1730	和紙袋綴写本 23.7×16.1 38丁	久米順利著。孝経とは孔子の弟子の曾子の作といい伝えられる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	句(巻末3丁はカナ交じり文) 外題「孝経」内題「孝経筆記」 目録「孝経/冲莫■■説/西銘/性情体用考證/道心人心之説/中庸分■説」 孝経筆記の巻頭(?)に「享保14年己酉十一月久米順利説孝経因并与平素所見録其大意/庚亥夏五月十九日終之/重固」 「冲莫■■説」:元文5年(三宅重固謹識)「性情体用考證」:宝永7年(尚斎識)「道心人心之説」「中庸分■説」:享保4年(三宅重固識) * 26年修復後表紙・裏表紙を補う	R5-03
明倫・1404	孝経筆記	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 23.6×16.8 17丁	三宅尚斎著 * 孝経とは孔子の弟子の曾子の作といい伝えられる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。//	送返 外題「尚斎先生孝経刊誤筆記全」内題「孝経筆記」 巻末に「享保14年己酉十一月久米順利説孝経因并与平素所見録其大意/庚亥夏五月十九日終之/重固」(明倫1403の記載と同)「享保廿年春謄写」 * 26年修復後表紙・裏表紙を補う	R5-03
明倫・1405	蓋簪余録二巻	伊藤長胤著	2					和紙袋綴写本 27.3×19.3 62・28	伊藤長胤著。//	白(1406をみよ) (枝華の順に)外題「蓋簪録 五」(同 六)内題「蓋簪録巻之上」「蓋簪余録巻之下」62・28丁 蔵書印「明倫堂蔵書記」「高鍋図書館蔵書印」	R5-03
明倫・1406	蓋簪録四巻	伊藤長胤著	4					和紙袋綴写本 27.3×19.3 52・47・55・45	伊藤長胤著。//	白(1405をみよ) (枝華順に)外題「蓋簪録一」(同二～四)内題も同 伊藤長胤著 52・47・55・45丁 蔵書印「明倫堂蔵書記」「高鍋図書館蔵書印」	R5-03
明倫・1407	浩然章筆記(牛山夜記章講義)		1					和紙袋綴写本 24.3×16.8 11丁		カナ交じり文 外題「佐藤直方先生/孟子浩然章筆記/牛山夜記章講義」 本文「浩然章筆記」7丁「夜記章講義」3丁 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1408	洪範全書指要	蟹維安著	1					和紙袋綴写本 25.5×17.5	江戸時代中期の崎門派の儒者、蟹養斎(維安)著。* 洪範は「書経」の一篇。洪は大、範は規範の意。天下を治める大法を述べた書。皇極は洪範九疇と称される8つの大法のひとつ。//	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H24-02
明倫・1410	拘幽操	山崎闇斎(京・武村市兵衛)	1					和紙袋綴刊本 27.5×19.2	「拘幽操」は山崎闇斎著。写本1巻。成立年代不詳。唐の韓退之(韓愈)の「憂里操」に、韓愈の語を収めてその義を補充したもの。* 拘幽操と放伐論に併せ見られるべし、と国書解題に記されている * 拘幽操とは唐の韓退之が、周の文王が罪無くして紂王に幽囚された時、微塵も君を恨む意なくただ君を思う止むに止まれぬ惻怛の心情を推察して文王に代って詠じたもので「韓昌黎論」/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 題箋一部欠損・内題「拘幽操」 蔵書印「城氏」	H28-01
明倫・1413	拘幽操附録一卷	山崎闇斎(京・寿文堂)	1			元禄5刊	1692	和紙袋綴刊本 27.5×19.0	儒学の書。1巻。浅見綱斎(安正)著。元禄4年の自跋あり。山崎闇斎著の「拘幽操」に、諸儒の説を収めてその義を補充したもの。* 拘幽操と放伐論に関する程瑒朱並書儒の説を編集し闇斎の文章を補覧(日本思想体系山崎闇斎学派)* 目録では山崎闇斎著とある/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 外題題箋「拘幽操附録」 内容:拘幽操(本文)・拘幽操附録・跋(元禄五年) 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1414	拘幽操附録	山崎闇斎(京・寿文堂)	1			元禄5刊	1692	和紙袋綴刊本 27.5×18.7	儒学の書。1巻。浅見綱斎(安正)著。元禄4年の自跋あり。山崎闇斎著の「拘幽操」に、諸儒の説を収めてその義を補充したもの。* 拘幽操と放伐論に関する程瑒朱並書儒の説を編集し闇斎の文章を補覧(日本思想体系山崎闇斎学派)* 目録では山崎闇斎著とある/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 外題題箋有(不鮮明) 内容:拘幽操附録・跋(元禄5年) 蔵書印「城氏」	H28-01
明倫・1415	拘幽操合集	内田周平著(東・谷門精社)	1			昭和10刊	1935	和紙袋綴刊本 23.3×16.2	内田周平(明治～昭和前期の中国哲学者)著。昭和10刊。* 「拘幽操」は山崎闇斎著。写本1巻。成立年代不詳。唐の韓退之(韓愈)の「憂里操」に、韓愈の語を収めてその義を補充したもの。* 拘幽操とは唐の韓退之が、周の文王が罪無くして紂王に幽囚された時、微塵も君を恨む意なくただ君を思う止むに止まれぬ惻怛の心情を推察して文王に代って詠じたもので「韓昌黎論」//大辞典(平凡社)	句返	H24-02
明倫・1416	拘幽操合集続編	内田周平著(東・谷門精社)	1			昭和13刊	1938	和紙袋綴刊本 23.3×16.3	内田周平(明治～昭和前期の中国哲学者)著。昭和13刊。* 「拘幽操」は山崎闇斎著。写本1巻。成立年代不詳。唐の韓退之(韓愈)の「憂里操」に、韓愈の語を収めてその義を補充したもの。* 拘幽操とは唐の韓退之が、周の文王が罪無くして紂王に幽囚された時、微塵も君を恨む意なくただ君を思う止むに止まれぬ惻怛の心情を推察して文王に代って詠じたもので「韓昌黎論」//大辞典(平凡社)		H24-02
明倫・1417	古易断外篇	新井白蟻著	2					和紙袋綴刊本 25.7×18.2	同著「古易断」の外篇か? * 「古易断」は新井祐登(号・白蟻)著。3巻。安永5年刊。周易本文の註解書上中の刊に、古人の説と自説を掲げ、下巻に正しく易経を註釈している。//大辞典(平凡社)	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。表紙見返しに「内外兩篇二十二冊内 日高明實」の墨書あり。	H24-02
明倫・1419	古周易経断外篇	新井祐登著 新井篤光校	3					和紙袋綴刊本 26.1×18.2	新井祐登著(江戸中期の儒学者新井白蟻。名は祐登、三宅尚斎の門人菅野兼山に師事して朱子学を学ぶ)//	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。 2・3～表紙見返しに「内外兩篇二十二冊内 日高明實」の墨書あり。	H24-02
明倫・1420	古周易経断外篇	新井謙吉著 新井鶴夫校(大・浅野弥兵衛等)	7			文政4刊	1821	和紙袋綴刊本 26.1×18.0	新井謙吉著(江戸中期の儒学者新井白蟻。名は祐登、字は謙吉 三宅尚斎の門人菅野兼山に師事して朱子学を学ぶ)//	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-03
明倫・1421	五常五倫名義	室直清著(東・前田六左衛門)	1			宝暦11写	1761	和紙袋綴写本 27.3×20.7	室直清著//	「大塚」の印あり。	H24-02
明倫・1422	故三宅氏の筆記	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 23.8×17.3 14丁	三宅尚斎//	カナ交じり文(虫害による欠損大) 外題「敬斎録三宅氏之筆記」内題「敬斎録筆記」 巻末「天明■寅年七月廿二日写/鈴木由房写」(天明2年壬寅(1782)か?) * 27年確認:鈴木由房(天明2年・写)	R5-03
明倫・1425	祭祀来格説口義	三宅尚斎 久米訂斎	1					和紙袋綴写本 24.0×17.2 87丁	三宅尚斎著 * 「祭祀来格説」は三宅尚斎の著作:国書解題//	カナ交じり文 外題「尚鈴/訂斎/祭祀来格説口義 全」 大塚静氏謹識 巻末:大塚静氏謹識・天明3年(1783)(朱書きで訂斎が79歳の言葉が(和歌?)記載) 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1426	祭祀来格説	三宅尚斎著(美作・岡田守正)	1			宝暦13刊	1763	刊本	* 「祭祀来格説」は三宅尚斎の著作:国書解題//	送返 外題題箋「祭祀来格説 全」 内容:尚斎先生小伝・三宅重固識・後序(宝暦13年)	H28-01
明倫・1427	祭祀来格説口義	三宅尚斎著	1			天明2写	1782	和紙袋綴写本 24.4×17.5	三宅尚斎著 * 「祭祀来格説」は三宅尚斎の著作:国書解題//	句 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H24-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1428	祭先聖説	山口景徳撰	1			天明2写	1782	和紙袋綴写本 23.8×16.9 24丁	山口景徳撰//	句送返 外題「祭先聖説」 内題「嗣齋先生策批」「祀聖説」(文政甲申(7年)大塚静記)「釈■儀註 全」(大塚静記) 蔵書印「大塚」 巻末、釈■儀註の末尾に記述有「右横尾生東学中傳空寄■静因…天■■■■八月大塚静記」 * 26年修復後表紙・裏表紙を補う	R5-03
明倫・1429	祭先聖説	三宅尚斎(大塚静氏写)	1					和紙袋綴写本 24.3×16.7	三宅尚斎//	句 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H24-02
明倫・1430	左氏難題一五巻	中井履軒	2					和紙袋綴写本 22.9×15.3	中井履軒//	句 「財津蔵書」の印あり。	H24-03
明倫・1431	左氏伝考	(大塚稼斎)	1					和紙袋綴写本 24.5×17.0 71丁	書写者:大塚氏慎(精斎)(明倫堂師範) //	カナ交じり文 外題「左氏傳考」大塚稼斎 内題同、目次「荏公」「儒公」 蔵書印「大塚」巻末書入「大塚家蔵」「大塚■■■■」 享晩年之■■也/左氏傳考/「左伝国字解黒水氏アリ黒公」 * 26年修復後表紙・裏表紙を補う	R5-03
明倫・1432	雑説	大塚子侯甫	1					和紙袋綴写本 25.2×17.3 32丁	大塚子侯甫//	カナ交じり文(虫害による欠損大) 外題「雑説」 表紙の目次「鬼神説 鳩巢」「兄■■■及説 一斎」「祈禱考」「衰儀」「衰■説」 書入「大塚家蔵」 * 26年修復後表紙・裏表紙を補う	R5-03
明倫・1433	雑談録	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 23.0×16.3 38丁	三宅尚斎著//	カナ交じり文 外題題箋「尚斎先生雑談録 全」(内題同) * 本文中に享保13年・14年などの記載有、項目ごとに目付も記載 蔵書印「高月鈴本文庫之印」	R5-03
明倫・1434	左伝輯釈二五巻	安井息軒著 (彦根・春風館)	21					和紙袋綴刊本 18.5×26.1	安井息軒著 * 「左伝輯釈」は日向の儒者安井息軒の著作(国書解題では21巻とある) //	白 25巻全 校審と題箋の巻数は一致 題箋「左傳輯釈」内題同じ 日南 安井衡 一巻の見返「安井息軒先生著/左傳輯釈/春風館蔵板」序①大清同治十年歲次庚戌七月…永康広宝時謹序 序②明治四年辛未春三月 彦根藩知事藤原朝臣宣重撰 序③明治四年龍集辛未正月朔旦薨居士川田剛撰 序④明治三年庚午冬十月日南 安井衡 内容(丁数): 序①6②4③4/4⑤、凡例1、総論11、巻一56/巻二58/巻三56/巻四13、巻五53/巻六64/巻七18・巻八45/巻九28・巻十34/巻十一37・巻十二28/巻十三76/巻十	H24-03
明倫・1435	佐藤先生語録	佐藤直方 永井行達録	1			宝暦1刊	1751	和紙袋綴刊本 24.9×18.0 18丁	佐藤直方 永井行達録//	外題直書「佐藤先生語録」右上に「百十二」 内題同 永井行達録 享保丁酉(*1717年)跋・宝暦元年福聚正書 版心題「永」とある 蔵書印朱印「明倫堂蔵書記」(逆さま?) 仮名交じり文(片仮名、平仮名)	H24-03
明倫・1436	佐藤先生国字筆記	佐藤直方著	1			享保3刊	1718	和紙袋綴刊本 19.2×26.7 12丁	佐藤直方著//	返、仮名交じり文 外題直書「佐藤先生国字筆記」右上に七十四、内題同、請返思録為純生部 享保丁酉十一月十八日巻末に享保戊戌季春二十七日直方書 蔵書印朱印「明倫堂蔵書記」(逆さま?)	H24-03
明倫・1437	詩経講説二〇巻	宇井黙斎著 (千手興歎)	7			文化2写	1805	和紙袋綴写本 23.8×17.5	宇井黙斎著 * 詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ //	カナ交じり文(漢文には送返) 外題直書「詩経講説」1437-1の内題「詩集伝宇井子講説」本文見出し「詩集伝或問 宇井黙斎先生著」 155・159・185・185・141・135・176丁 1437-1は23丁目より「詩巻之一 朱喜集傳」で巻之三まで、順に四一八/九一十一/十二一十五/十六一十七/十八/十九一二十/巻末に「文化十二年乙牛歳仲秋/日 千手興歎」とある * 千手興歎が江戸遊学中に宇井黙斎の講義に列席し記した講義筆記 蔵書印「明倫堂蔵書記」 1437-1の裏表紙「明 御用書物」の書入れあり	H24-03
明倫・1439	詩経示蒙句解	中村惕斎	8					和紙袋綴刊本 26.5×17.6	詩経の注釈書。詩経をわかりやすく註解したもの。18巻。中村欽(?斎)著。享保3年刊(同年に増田謙之の序あり)。* 中村之欽(欽)は江戸時代前期の儒学者中村惕斎(1629~1702)のこと/国書解題/国史大辞典	在巻4~18 外題題箋1439-7「詩経示蒙句解 九」 蔵書印「田村氏蔵書印」 1439-2に田村氏関係の書付(石碑について)、漢詩?の書付あり	H28-01
明倫・1440	詩経拔書	三宅重固著	1					和紙袋綴 21丁 24.2×17.9	三宅重固著。詩経とは中国最古の詩歌集。五経の一つ //	内題「詩経拔書」 三宅重固 蔵書印「明倫堂蔵書印」 内容は本草の名前の解説書か? 周南鵲鳩(ミサゴ)?/巻耳/龜斯/?言…など上段に単語 下段にその解説が記される * コピー本あり郷土室の書架におく	R5-03
明倫・1441	四句全対格		1					和紙袋綴写本 24.0×16.6 75丁		本文が「四句全対格」より始まる(外題は赤鉛筆直書で同) 漢詩の題・作者・詩を形式に分けて列記している。四句全対格/起聯平側対格/起聯協韻対格/起聯即景対格など。	H24-03
明倫・1442	詩講義	朱熹集伝	1			寛政5写	1793	和紙袋綴写本 23.5×15.2 74丁	朱熹集伝//	外題「詩講義 自 南/至 ■■」内題「詩巻之一/寛政乙卯十一月廿三日/朱熹集傳」 裏表紙に墨書「大塚氏」	H24-03
明倫・1443	詩集伝或問		1					和紙袋綴写本 28.0×20.4 1丁	詩集伝は朱子の著作/岩波哲学・思想辞典//	送返 外題題箋「詩集伝 甲」内題「詩集伝巻之一」 本文「詩集伝或問」(丸子弘馬撰・安永5年)「詩伝綱領」(朱喜) 欄外書入多い	R5-03
明倫・1444	四書訓蒙輯疏	会津安聚	2					和紙袋綴刊本 25.4×17.6	四書を宋註を主として集疏・考解したものの。安部井?著。(著者は会津の人。安?、会津安?ともいう)寛永元年刊。天保14年自序。29巻/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 1455を見よ 在巻9・4 外題題箋「四書輯疏」内題「四書訓蒙輯疏」 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・1449	四書国字弁(大学)全	(京・大谷仁兵衛等)	1			寛政6刊	1794	和紙袋綴刊本 22.5×16.2	四書国字弁は江戸時代中期-後期の儒者宇野東山の著作。四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称//大辞典(平凡社)	大学 全巻 外題題箋「四書国字弁 大学 全」 内容:序(寛政6年)・附言・大学(本文) 蔵書印無	H28-01
明倫・1450	四書国字弁(中庸)全	(京・大谷仁兵衛等)	1			寛政6刊	1794	和紙袋綴刊本 22.6×16.2	四書国字弁は江戸時代中期-後期の儒者宇野東山の著作。四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称//	中庸 全巻(上下巻) 外題題箋「四書国字弁 中庸 全」 蔵書印無	H28-01
明倫・1453	四書国字弁(論語)	(大塚彪写)	1			安政6写	1859	和紙袋綴写本 22.6×16.2 39丁	四書国字弁は江戸時代中期-後期の儒者宇野東山の著作。四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称//	カナ交じり文・筆線あり 外題直書「四書国字弁 論語四」(内題同) 本文:四書国字弁論語巻八~十 蔵書印「大塚」 巻頭書入「高鍋縣■田濱大塚」「大塚寛次郎求之」 巻末書入「安政六己未上流写之本書…」	R5-03
明倫・1454	四書纂要	金子霜山(芳洲軒蔵版)	3			安政5刊	1858	和紙袋綴刊本 26.6×18.1	四書とは中国の《論語》《孟子》《大学》《中庸》の総称。(学庸論孟)ともいい、儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重されてきた//	送・返 巻之三~五まで 外題題箋「四書纂要 中庸 上」(同 中/下) 内題1454-1「四書纂要巻之三/安芸 後学金済民伯成学」表紙見返「安政五戊午新撰/四書纂要 中庸/芳洲軒蔵版」 蔵書印「明倫堂蔵書記」 中庸序8丁・巻之三25丁・巻之四39丁・巻之五33丁	H24-03
明倫・1455	四書訓蒙輯疏二九巻	会津安聚著 (江・岡田屋嘉七等)	27			嘉永1刊	1848	和紙袋綴刊本 25.5×17.8	四書を宋註を主として集疏・考解したものの。安部井?著。(著者は会津の人。安?、会津安?ともいう)寛永元年刊。天保14年自序。29巻/国書解題/大辞典(平凡社)	白 1444を見よ 「明倫堂蔵書記」の印あり。 3~裏表紙に「明倫堂蔵書」の墨書あり。	H27-03
明倫・1460	四書示蒙句解(論語)		1					和紙袋綴刊本 25.5×18.7	四書示蒙句解は四書(大学・中庸・論語・孟子)についての平易な解説書。中村之欽著。元禄14年の自序がある。26巻 * 中村之欽(欽)は江戸時代前期の儒学者中村惕斎(1629~1702)のこと/国史大辞典/大辞典(平凡社)	巻九の論語7~8巻 外題直書「四書示蒙句解 四」内題「四書示蒙句解/巻九論語第七」 蔵書印「隈江家蔵書印」	H28-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1463	詩書評釋	長允文著（東・長允文）	3			明治16刊	1883	和紙袋綴刊本 20.1×11.5	長允文著//	句送返 詩書評釋の中・下巻・詩書評釋拾遺上下巻（詩書評釋上巻欠） 外題題箋1463-3「詩書評釋 書経全 下」 1463-1が拾遺 巻末刊年記載明治16年（1463-1・3） 蔵書印「秋月家蔵書印」	H28-01
明倫・1466	士不可以不弘毅章講義	三宅尚斎所録	1			元禄5刊	1692	和紙袋綴刊本 9丁 26.3×18.6	三宅尚斎所録 *「士不可以不弘毅」は曾子のごとく、士(し)は以(もつて)弘毅(こうぎ)にうきならざる可(べ)からず。//		R5-03
明倫・1467	斯文学会講義筆記	編修第二局編輯（斯文学会）	2					和紙袋綴刊本 18.0×12.2	編集第2局編集*「斯文学会」とは風教を振張し、學術を興隆するのを目的として設立された学会の一つ。明治13年設立。/大辞典（平凡社）//	送返 外題題箋「編集第二局編纂/斯文学会講義筆記 意義解/第一巻」 版心題より1467-1は第七号（令義解17頁）～第23号（令18頁）1467-2は第四十七号（孝/頁）第59号（孝7頁） 49丁・58丁 1467-1蔵書印「素水軒子修所持之印」1467-2書入表紙見返「堤氏蔵書」	H24-03
明倫・1468	斯文学会講義筆記	斯文学会編輯局編輯（東・斯文学会）	6			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 18.0×12.1	斯文学会編集局編集*「斯文学会」とは風教を振張し、學術を興隆するのを目的として設立された学会の一つ。明治13年設立。/大辞典（平凡社）//	易経・書経・令義解・論語・孟子・詩経 外題題箋「斯文学会講義筆記」 巻末刊年：明治14年 蔵書印「素本軒子■所持之印」	H28-01
明倫・1469	社倉大意	多田源儀雜則伝	1					和紙袋綴 27丁 24.5×17.0	多田源儀雜則 伝//		R5-03
明倫・1470	周易下経時義	長井江衍学（十二石鼓斎蔵版）	1					和紙袋綴刊本 25.2×18.0 58丁	長井江衍学 *周易は儒教の基本的文獻五経の一つ、本来占筮の書、周王朝の易で周易と称する 尚、宋代には易経とよばれた。『経』は上経(30卦)・下経(34卦)で構成される//	句 外題題箋「江氏周易下経時義 先庚」内題「周易下経時義/十二石鼓斎蔵版/長井江衍学」	H24-03
明倫・1471	（重改）大学章句惺謄鈔	（大・秋田屋太右衛門等）	4					和紙袋綴刊本 25.6×18.5	*大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。//	全五巻（二巻欠） 外題直書「大儒」巻頭「重改大学章句惺謄鈔」 蔵書印「大塚」書入れ「嶋田大塚蔵書/黒水■四郎借用/時事十六才」など	H28-01
明倫・1472	（重改）大学章句惺謄鈔五巻	毛利貞斎述（大・秋田屋太右衛門等）	5			正徳5刊	1715	刊本	毛利貞斎 述*大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。//		R6-03
明倫・1473	（重改）中庸章句惺謄鈔	毛利貞斎著（大・秋田屋太右衛門等）	5			正徳5刊	1715	刊本	毛利貞斎 著*中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。33章からなる中庸の注釈書。//岩波哲学・思想辞典		R6-03
明倫・1474	（重改）中庸章句惺謄鈔		2					和紙袋綴刊本 25.0×18.5	毛利貞斎 *中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。33章からなる中庸の注釈書。//岩波哲学・思想辞典	句送返 巻三、四 題箋（添付）「重改新添/中庸章句惺謄鈔」内題「中庸章句惺謄鈔」 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1478	（重改）孟子集註惺謄鈔		1					和紙袋綴刊本 25.6×18.5	孟子集註は孟子の注釈書。朱子がまとめたもので、後漢の趙岐の古註に対して新註と呼ばれる。//岩波哲学・思想辞典	句返 巻十三（尾） 外題題箋「重改新添/孟子集註惺謄鈔」 蔵書印「大塚」書入れ「大塚家蔵」	H28-01
明倫・1479	（重改）論語集註惺謄鈔		7					和紙袋綴刊本 25.6×18.5	四書の第一である論語に朱子が新しい哲学的解釈を加えたもの。元以後朱子学の盛行と共に科挙と結びついて広く読まれた。「論語集解」が古註と呼ばれるのに対して、新註と呼ばれる。//	句送返 巻八～十三、十五 外題題箋「重改新添/論語集註惺謄鈔」内題「重改論語集註惺謄鈔」 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1480	（重改）論語集註惺謄鈔		6					和紙袋綴刊本 25.6×18.5	四書の第一である論語に朱子が新しい哲学的解釈を加えたもの。元以後朱子学の盛行と共に科挙と結びついて広く読まれた。「論語集解」が古註と呼ばれるのに対して、新註と呼ばれる。//	文書名訂正「孟子一論語」(H28年度電子化時) 句送返 巻二～七 外題題箋「重改新添/論語集註惺謄鈔」内題「重改論語集註惺謄鈔」 蔵書印「大塚」 1480-3は絵図有	H28-01
明倫・1481	集義外書一六巻	熊沢蕃山著（東・前川善兵衛）	5			宝永6刊	1709	和紙袋綴刊本 25.0×17.9	熊沢蕃山著//	「集義外書」は熊沢蕃山著、江戸時代の随想録。「集義和書」からもれたものが収められている。*「集義和書」16巻、熊沢蕃山著。寛文12年（1672）刊。蕃山の思想・學問を問答形式によって論じた書。 全5冊16巻 序（宝永庚寅初夏下） 外題題箋1481-1「集義外書 附簡一 ―」内容 序2丁・巻之一26・（順に）29・25・16・17・22・17・21・26・20・22・14・15・21・30・21/「明倫堂蔵書記」の印あり。	H24-03
明倫・1482	周書抄略三巻	山崎闇斎編（京・寿文堂）	1			延宝7刊	1679	和紙袋綴刊本 27.7×19.4	山崎闇斎著 *天地（凡4条）人倫（凡5条）為学（凡4条）の目に依りて通書、遺事及び遺文に載する周子の言を抄出して小註を施す（山崎闇斎全集解説）//	送返 全1冊（序・上・中・下） 題箋添付「周書抄略 全」 延宝7年序あり 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1483	周書抄略三巻	山崎闇斎著	1			延宝7刊	1679	和紙袋綴刊本 27.5×19.4	山崎闇斎著 *天地（凡4条）人倫（凡5条）為学（凡4条）の目に依りて通書、遺事及び遺文に載する周子の言を抄出して小註を施す（山崎闇斎全集解説）/前任者の備考（又は24年）//	送返 全1冊（序・上・中・下） 題箋添付「周書抄略 全」 延宝7年序あり 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・1485	雑説		1					和紙袋綴写本 25.4×17.6 31丁	朱子の後所謂今易再び行われ、古易遂に地に播えるは宋の熹樞に初まり、明の易経大全に定れり 先生夙に之を愛い本書を作りて朱易の旧に復せり（山崎闇斎全集解説）//	白・句返・カナ交じり文 外題直書「樞録」 本文「君臣夫■説」「詩伝或問」（安永5年丸子弘■説）「詩集伝」「傳」「■傳」「文會社約」「■■■■■氣質之性」「顔仁蔵用割記」 詩伝或問の末尾「安永九年・・・望得此本於千手興歎撰写■■/大塚静氏記」	R5-03
明倫・1486	習文録	皆川淇園著	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.7	皆川淇園著。*朱子の後所謂今易再び行われ、古易遂に地に播えるは宋の熹樞に初まり、明の易経大全に定れり 先生夙に之を愛い本書を作りて朱易の旧に復せり（山崎闇斎全集解説）//	白 外題題箋「習文録」 内容・原文（50首）、甲乙判	H28-01
明倫・1487	朱易衍義講義三巻	宇井黙斎講義（丸子弘篤）	3					和紙袋綴写本 24.2×17.4 50・142・73丁	宇井黙斎 講義 *朱易衍義」は、山崎闇斎の作。3巻。朱易に和訓を施し諸子小易の論説を抄録し自家の註解を付したもの。*天地・人倫・為学の目に依りて文義語類中より肝要なる語を選びて編次し且つ小註を附す（山崎闇斎全集解説）//	カナ交じり文 外題直書1487-1「宇井氏全書九子弘篤/朱易衍義講義 一」（順に同 二・三）中扉と地には上・中・下で表記 蔵書印「明倫堂蔵書印」	H24-03
明倫・1488	朱易衍義三巻	（京・寿文堂）	3			延宝5刊	1677	和紙袋綴刊本 27.0×18.0	朱易衍義は山崎闇斎の作。3巻。延宝5年自序有。朱易に和訓を施し諸子小易の論説を抄録し自家の註解を付したもの。*朱子の後所謂今易再び行われ、古易遂に地に播えるは宋の熹樞に初まり、明の易経大全に定れり 先生夙に之を愛い本書を作りて朱易の旧に復せり（山崎闇斎全集解説）/圖書解題/大辞典（平凡社）	送返 全三巻 外題題箋「朱易衍義」 延宝5年の序と巻末刊年有り 蔵書印「城氏」書入1488-1「文政四辛巳蔵明倫堂御■書室黎調之・虫損」	H28-01
明倫・1491	朱易衍義	宇井黙斎講義（千手興歎）	2			明和3写	1766	和紙袋綴写本 24.7×16.4 130・73丁	江戸中期の儒者、宇井黙斎の講義を千手興歎が明和3年に書写したものか。*朱易衍義は山崎闇斎の作。3巻。延宝5年自序有。朱易に和訓を施し諸子小易の論説を抄録し自家の註解を付したもの。/圖書解題/大辞典（平凡社）	カナ交じり文 外題直書1491-1「宇井子/朱易衍義講説 上 中」（巻頭「朱易衍義宇井子講説 上中」）内題「朱易衍義」1491-2は同下 1491-2の巻末に筆記者の識がある（「明和丙戌」に「東都」で「先生年四十有二」「興歎年三十也」に録したという内容） 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H24-03
明倫・1492	朱易衍義筆記		1					和紙袋綴写本 25.0×17.5 49丁	「朱易衍義」は山崎闇斎の作。3巻。朱易に和訓を施し諸子小易の論説を抄録し自家の註解を付したもの。*天地・人倫・為学の目に依りて文義語類中より肝要なる語を選びて編次し且つ小註を附す（山崎闇斎全集解説）//大辞典（平凡社）	送返 外題直書「尚斎先生朱易衍義筆記 全」（内題同） 巻頭首題の下部に「享保十五年庚戌春改之」巻末「右尚斎先生所著也先生一日以此書手授之予■敬句為漫出京師受敬撰写之 留守友信/享保十六年八月書干京師■馬場通之客書」 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1493	朱易衍義筆記	三宅尚斎著（馬場通之）	1			享保16写	1731	和紙袋綴写本 24.1×16.8 49丁	三宅尚斎著 *「朱易衍義」とは、朱易に和訓を施し諸子小易の論説を抄録し自家の註解を付したもの。*天地・人倫・為学の目に依りて文義語類中より肝要なる語を選びて編次し且つ小註を附す（山崎闇斎全集解説）//	送返なし 外題直書「三宅子朱易衍義筆記 全」 蔵書印朱印「明倫堂蔵書記」 巻末に享保一六年八月書	H24-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1495	朱子行状考		1					和紙袋綴写本 23.7×17.1 29T	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	カナ交じり文 (表紙無・26年修復時に補充) 内題「朱子行状考」巻頭に「宇井黙斎翁筆記二脱スルモノヲ識ス之」	R5-03
明倫・1496	朱子行状(附安)	(大塚静)	1			享和2写	1802	和紙袋綴写本 24.8×17.3 12T	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。*江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親瀧)の書写本//	外題「朱子行状附安」内題「朱子行状」 巻頭書入「聊士翁之説宇井先生書入アル元本手塚■八郎方アリコレヲ間野七次郎借り書入ノ本アリ」 宇井先生朱子行状口義モ右書入ト網斎先生口義ヲ本タテニ■テ手タモ/至■通本ハ手塚源太夫遺■有七次郎本ハ間野七郎方アルコレヲ以テ宇井先生口義ニスケテアル処ヲ考足シテモレハ行状ハヨリスム事ナリ大塚氏■七十九歳ニメ書ス網斎先生口義ハ綾部恒兵衛方ヘアルナリ」巻末書入「享和二年十月二十五日大塚静記」 蔵書印「大塚」 (26年修復時に表紙・裏表紙補充)	R5-03
明倫・1498	朱子行状割記		1					和紙袋綴写本 24.4×17.3 27T	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	送返 (裏表紙欠?本文後半も欠? 26年度修復時表紙・裏表紙補充) 外題直書「朱子行状割記 四」 (本文は「七秋/■」より始まる)	R5-03
明倫・1499	朱子行状筆記		1					和紙袋綴写本 23.7×17.0 130T	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	カナ交じり文(1501をよみよ下) (26年修復時分冊 97丁・23丁) 外題「朱子行状筆記一」(内題同) 巻末「朱子行状筆記 上 終」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	R5-03
明倫・1500	朱子行状筆記四巻	丸子弘篤	1			安永10写	1781	和紙袋綴写本 25.4×17.4 59T	丸子弘篤 *朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	送返 外題「黙斎/朱子行状筆記 全四」 巻末「朱子行状筆記 下終」安永10年丸子弘篤の跋あり	R5-03
明倫・1501	朱子行状筆記		1					和紙袋綴写本 23.8×17.1 98T	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	カナ交じり文 外題「朱子行状筆記 二」内題「朱子行状筆記 下」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」 *巻末20丁は白紙	R5-03
明倫・1502	朱子行状筆記		1					和紙袋綴写本 24.1×17.5 15T	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	外題「朱子行状筆記■」(五?) *小冊子「小藤教練」(銃などの教練のメモ書き?)が入っていた(撮影済)	R5-03
明倫・1504	朱子社倉法一卷	山崎柯著(藤井五郎右衛門)	3					和紙袋綴写本 26.4×19.1	山崎柯著 *朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	送返 全1巻 1504-「嘉文堂刊行」序無し 1504-2・3「藤井五郎右衛門刊行」山崎序有	H28-01
明倫・1505	朱子治教本要二巻	山口景徳纂編	2					和紙袋綴写本 27.3×18.2 37・36	山口景徳 *朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	句 (戻上・下)巻首題下部「後学山口景徳纂編」 下巻巻末に「文政七年…大塚静■■謹記」 野線有(木版か?) 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1506	朱子読書之要		1			宝暦10写	1760	和紙袋綴写本 24.8×20.0 15T	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。//	送返 蔵書印「大塚」表紙書入「大塚家蔵」 表紙「朱子読書之要/程董二先生學則/遊佐氏未翁家説」(三編)	R5-03
明倫・1507	朱子文集便覧	池内義方著	1					和紙袋綴写本 24.2×16.6 130T	池内義方著 *朱子文集は100巻。続集11巻。別集10巻。宋の朱熹著。//大辭典(平凡社)	白 外題直書「朱文便覧 全」巻頭「大塚静先生序並補遺池内義方著/朱子文集便覧 全」 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H24-03
明倫・1509	儒林伝	洪井太室著	1					和紙袋綴写本 24.0×15.7 47T	洪井太室著 *「儒林」とは儒者の仲間 の事//大辭典(平凡社)	句送返 外題直書「太室 儒林傳」(内題もおなじ) 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H24-03
明倫・1510	春秋左伝叙文資講	峰山正寛民	1			天保2写	1831	和紙袋綴写本 26.5×17.2 33T	峰山正寛民 *春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	カナ交じり文 外題「春秋左伝叙文資講」 蔵書印「城氏」	R5-03
明倫・1511	春秋左氏伝国字并三〇巻	加藤公達正庵(岡田茂兵衛他)	14			文政6刊	1823	刊本	加藤公達正庵 *春秋左氏伝は「春秋」の注釈書。//	巻1・2欠	R6-03
明倫・1512	春秋左伝離題略六巻	中井積徳著 山田寛校正 (唐津・廓然堂)	6			弘化3刊	1846	和紙袋綴写本 22.4×15.7 50・33・32・34・25・29T	春秋左史伝の注釈書。6巻。中井積徳著。弘化3年の佐藤坦の序あり。注釈に当たり春秋三伝を参考している。/国書解題・大辭典(平凡社)	句返 1512-1・5・6に題箋有「春秋左伝離題略」表紙見返「弘化三年丙午季冬終/中井履軒先生著/春秋左伝離題略/唐津 廓然堂蔵版」1512-1構成:序・佐藤坦(2丁)、例言・目録(計3丁)、巻1(45丁) 1512-2〜5 33・32・34・25 1512-6 本文27丁、杜氏後序・跋(計2丁) 蔵書印朱印「明倫堂蔵書印」	H24-03
明倫・1513	小学	浅見綱口義	1					和紙袋綴写本 25.0×16.2 19T	浅見綱口義 *小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	カナ交じり文 外題「浅見先生口義/小学」 巻末書入「大塚家蔵」	R5-03
明倫・1515	小学外篇	宇井黙斎講義	1					和紙袋綴写本 25.3×16.5 44T	宇井黙斎講義 *小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	カナ交じり文 外題「宇井子講説/小学外篇」 巻末識「天保十五甲辰秋 大塚寛識」 本文末に「安永戊戌7年仲冬下旬千手興欽識之」とある。原本は千手興欽の筆記録と考えられる。 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1517	小学外篇	(日向・佐土原学習館)	1			天保2	1831	和紙袋綴写本 27.0×18.5	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	返 外題・題箋「小学外篇」内題「小学外篇」(73丁) 巻末に佐土原学習館蔵版とあり。朱印「○○」不 明) *序跋なし 蔵書印「高月鈴木文庫之印」 全6巻「宋朱熹撰 佐土原藩の藩校「佐土原学習館」(文政8設立・島津氏)の出版物 *成立年は『近世藩校における出版書の研究』(吉川公文館)より記載	H24-03
明倫・1518	小学外篇	(鈴木吉房)	1			天明2写	1782	和紙袋綴写本 24.1×16.0 33T	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	白 外題直書「小学外篇 全」(内題 小学外篇) 巻末に「天明二壬寅七月中旬■ 鈴木吉房」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H24-03
明倫・1519	小学外篇	浦野庄三郎訓点(江・福田屋勝蔵等)	1			嘉永2刊	1849	和紙袋綴写本 22.0×15.0	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	送返 下巻 題箋「改正訓點/小学本下 註」内題「小学外篇」 巻末刊年 嘉永2年	H28-01
明倫・1520	小学外篇筆記	三宅尚斎著(大塚精演写)	1					和紙袋綴写本 24.8×17.2 50T	三宅尚斎著 *小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。*江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親瀧)の書写本//大辭典(平凡社)	送返 外題直書「三宅尚斎/小学外篇筆記 坤」(内題同) 書入「精演」 巻末「大塚寛大謹記」	R5-03
明倫・1521	文意講義二巻	浅見綱斎	2					和紙袋綴写本 29.2×19.7 121・124T	浅見綱斎//	カナ交じり文 小学講義 *修復時4冊に分冊 外題直書「綱斎先生小学講義 上」(同 下) 内題「(小学講義)」浅見先生■意講義」(文意or大意?) 巻頭や巻末に書入「学校御用書物」	R5-03
明倫・1522	小学講義(外篇)	浅見綱斎	1					和紙袋綴写本 24.0×16.1 56T	浅見綱斎 *小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	カナ交じり文 外題直書「浅見先生小学講義外篇 全」 蔵書印「城氏」	R5-03
明倫・1523	小学示蒙句解	伊欽敬甫	4			元禄3刊	1690	刊本	伊欽敬甫 *小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)		R6-03
明倫・1524	小学示蒙句解	(大・村井喜太郎等)	10					和紙袋綴写本 25.1×17.8	小学(小学書)とは中国の「小学」という題目を示した書。内外2編、全6巻。宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	巻1〜6(全10冊) 巻五・六は各上・中・下 「樗武藤蔵書記」の印あり。 1〜裏表紙見返しに「武藤氏」の墨書あり。 2・4〜表紙見返しに「武藤氏」の墨書あり。 5・6・7〜表紙見返しに「外六冊之内 天保甲辰年六月調之」 「武藤氏」「武藤家蔵」の墨書あり。	H27-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫-1525	小学示蒙句解		7					刊本	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)		R6-03
明倫-1527	小学内編尚斎筆記	三宅尚斎	1					和紙袋綴 56丁 24.2×17.7	三宅尚斎 *小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	句	R5-03
明倫-1528	小学内編留守先生大意	(鈴木由房)	1			天明2写	1782	和紙袋綴写本 23.3×14.5 19丁	小学(小学書)とは中国の「小学」という課目を示した書。内外2編、全6巻、宋の劉子澄が朱熹の指示を受けて編纂。1187年成立。//大辭典(平凡社)	カナ交じり文 外題欠(虫損?)内題「小学内篇留守先生大意」 巻末「天明二年 寅二月下旬 鈴木■房/藤原性」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	R5-03
明倫-1529	尚斎三宅先生国字筆記	三宅尚斎著	1			正徳1刊	1711	和紙袋綴刊本 18丁 26.5×18.5	三宅尚斎著//		R5-03
明倫-1530	尚斎三宅先生国字筆記	三宅尚斎著 (鈴木由房・天明1写)	1			正徳1写	1711	和紙袋綴写本 24.1×17.5 9丁	三宅尚斎著//	カナ交じり文 外題直書「尚斎三宅先生国字筆記」(内題同) 本文末「正徳元年辛卯九月三日 尚斎識/天明元年辛丑九月朔日 鈴木由房写之」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	R5-03
明倫-1531	尚斎先生易本義筆記	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 24.1×17.0 93丁	三宅尚斎著 *易本義は易経の注釈書朱子(諱は朱熹)(1130~1200)の著作//大辭典(平凡社)	句返 外題直書「尚斎先生易本義筆記 四 五 六」 内題「尚斎先生易本義筆記」(「此書精斎■華耕写之/自○○梅刀■人記」) 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫-1532	証心録二巻	東正純著 (山口・東敬治)	1			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 22.0×14.7	3巻。東正純著。慶応2年成。心性の理・中庸の要旨・儒家為学の工夫以下治国の要道に至る旧作。書牘、語録等を説・解・書・語の4類に集録する。著者の代表作の一つとされる。上・下巻の外1巻を余録とする。/国書解題/大辭典(平凡社)	句 上下巻 外題無 巻頭見返「証心録」 蔵書印「秋月家蔵書印」	H28-01
明倫-1533	証心餘録	東正純著 (山内・東敬治)	1			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 22.4×14.9	証心録は3巻。証心余録はそのうちの1巻。東正純著。慶応2年成。心性の理・中庸の要旨・儒家為学の工夫以下治国の要道に至る旧作。書牘、語録等を説・解・書・語の4類に集録する。著者の代表作の一つとされる。上・下巻の外1巻を余録とする。/国書解題/大辭典(平凡社)	句 外題題簽「証心餘録」 巻末刊年 明治17年 蔵書印「秋月家蔵書印」	H28-01
明倫-1534	昌平遺響一卷	高橋勝弘編輯 (東・村岡彌)	1			明治25刊	1892	刊本	高橋勝弘 編集//		R6-03
明倫-1535	書経集伝	宇井黙斎講義 (千手興歎)	11			明和8~享和1写	1771~1801	和紙袋綴写本 24.1×17.0	宇井黙斎講義//	(巻末に跋あり)宇井黙斎が江戸の循漸堂で明和丙戌(8)に講義した記録(千手興歎30才の頃) 蔵書印「明倫堂蔵書記」書入れ「明倫堂蔵書」など	H27-03
明倫-1536	助字雅	三宅尚斎著 (大塚氏)	1			寛延4写	1751	和紙袋綴 25丁 29.0×22.0	(三宅尚斎著 複写製本)漢文法書。1巻。二名範漢(範)著。元禄12年自跋。漢文における助字について論じたもの。/国書解題/大辭典(平凡社)	送返	R5-03
明倫-1537	書集伝	宇井黙斎講説 (千手興歎)	1			文化1写	1804	写本	書集伝は6巻。南宋の蔡沈撰。6巻58篇。蔡沈は朱熹の弟子であり、序には「堯典」「舜典」「皋陶謨」「大禹謨」に朱熹の校勘を受けたとある。元・明・清と科挙試験の教科書として取りあげられ、広く読まれた。「蔡伝」とも呼ばれる//	送返	H25-01
明倫-1538	書集伝楊斎筆記	中村楊斎	1					和紙袋綴写本 22.9×16.4 98~76丁	中村楊斎 *書集伝は6巻。南宋の蔡沈撰。6巻58篇。蔡沈は朱熹の弟子であり、序には「堯典」「舜典」「皋陶謨」「大禹謨」に朱熹の校勘を受けたとある。元・明・清と科挙試験の教科書として取りあげられ、広く読まれた。「蔡伝」とも呼ばれる//	白(朱で句点) (校書順に)外題直書「書集伝楊斎筆記 自七 至八」「同 四」内題「筆記書集伝巻■」(虫損) (同 巻八)「筆記書集伝巻四」	R5-03
明倫-1539	書集伝楊斎筆	中村楊斎	1					写本 76丁	中村楊斎 *書集伝は6巻。南宋の蔡沈撰。6巻58篇。蔡沈は朱熹の弟子であり、序には「堯典」「舜典」「皋陶謨」「大禹謨」に朱熹の校勘を受けたとある。元・明・清と科挙試験の教科書として取りあげられ、広く読まれた。「蔡伝」とも呼ばれる//	句	R5-03
明倫-1540	諸説	(丸子弘篤)	1			明和1写	1764	和紙袋綴写本 24.3×17.5 138丁	(丸子弘篤/写)//	外題直書「前■/書説筆記」巻頭「諸先生諸説」 巻頭に目次有(訂斎・尚斎・黙斎などのべ9人、19の説)が収められる。 蔵書印「明倫堂蔵書記」 *筆者著・成立年は不明。(目録の著者名は、巻末に掲載された丸子弘篤の著作の跋からか?)	R5-03
明倫-1541	諸説	(久米順利)	1			寛保3写	1743	写本	(久米順利/写)//		H25-01
明倫-1542	諸説筆記全	(鈴木由房)	1			天明1写	1781	和紙袋綴写本 25.0×17.0 37丁	(鈴木由房/写)//	カナ交じり文 題簽「書説筆記 論語 全」内題「書説筆記」 巻末「天明元辛丑年季冬/鈴木由房写之」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」 「鈴木氏」 「鈴木與兵衛」 * 36丁に紙片有(末尾に「寛政六年八月廿日 精斎」と記載、書籍の断片か?)	R5-03
明倫-1543	王寅初冬説孟子尧端口義	三宅尚斎	1					和紙袋綴 37丁 24.1×16.3	三宅尚斎 *孟子とは儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃~289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人がおのずから備えている良心・良知を発揮する仁政を本質とすべきと強調している。//岩波哲学・思想辞典/	句送返	R5-03
明倫-1545	慎終疏節	中村楊斎	2					和紙袋綴写本 35・35丁	中村?斎// 2巻。元禄3年、中村欽著。儒学の精神に基づき、喪礼の事を記したもの。(国書解題)	送返 (校書順に)外題直書「慎終疏節 本」「同 末」 内題同、序(元禄庚午、平安仲欽)・巻之一~巻四 蔵書印「大塚」 * 喪礼具などの挿絵(彩色付)あり	R5-03
明倫-1547	仁説問答	浅見綱斎講義 若林進居打聞	1					和紙袋綴写本 24.7×17.7 85丁	1巻。江戸前期の儒学者・神道家の山崎嘉(闇斎)著。寛文8年(1688)自序有。中国諸家の仁説を集録したもの。仁説に更に朱子が張南軒、呂東と仁を論ずるものを文集中より輯録。/国書解題/日本漢文学大辞典	カナ交じり文 外題直書「綱斎先生仁説筆記/直方先生仁説 山崎先生朱批」 内題①仁説問答 綱斎講義 若林進居打聞」②68丁目「直方先生仁説 山崎先生朱批」 巻末「宝暦五年 於江府写之/大塚慎養(七部次亡弟)」* 慎養が浪花に遊学した旨など記されている 蔵書印「大塚」巻頭書入「大塚七郎次」	R5-03
明倫-1549	仁説問答	山崎闇斎著	2					和紙袋綴刊本 27.5×19.5	1巻。江戸前期の儒学者・神道家の山崎嘉(闇斎)著。寛文8年(1688)自序有。中国諸家の仁説を集録したもの。仁説に更に朱子が張南軒、呂東と仁を論ずるものを文集中より輯録。/国書解題/日本漢文学大辞典	送返 (同じ版の本が2冊) 内題「仁説問答」 内容:序(寛文8年著者)・本文 1549-1 蔵書印「泥谷氏」(巻末書入「安永六年...泥谷直教」) 1549-2 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫-1550	仁説問答筆記	(鈴木由房)	1			天明2写	1782	和紙袋綴写本 24.6×16.0 36丁	(鈴木由房/写)「仁説問答」は1巻。江戸前期の儒学者・神道家の山崎嘉(闇斎)著。寛文8年(1688)自序有。中国諸家の仁説を集録したもの。仁説に更に朱子が張南軒、呂東と仁を論ずるものを文集中より輯録。//日本漢文学大辞典	白 外題無 内題(巻頭)「尚斎先生仁説筆記」内題「仁説問答筆記」 享保19年三宅重国識有 巻末「天明二壬寅七月写之/鈴木由房」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	R5-03
明倫-1551	仁説問答筆記	三宅尚斎	1					和紙袋綴写本 24.3×17.6 42丁	(三宅尚斎/写)「仁説問答」は1巻。江戸前期の儒学者・神道家の山崎嘉(闇斎)著。寛文8年(1688)自序有。中国諸家の仁説を集録したもの。仁説に更に朱子が張南軒、呂東と仁を論ずるものを文集中より輯録。//日本漢文学大辞典	白(* 1550や1553のテキストと同じ) 外題「尚斎先生仁説問答筆記」内題「仁説問答筆記」 享保19年三宅重国識有 蔵書印「明倫堂蔵書記」	R5-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1552	仁説問答口義	久米訂斎講義 (大塚静氏・写)	1			天明3写	1783	和紙袋綴写本 24.5×17.5 89丁	(久米訂斎講義・大塚静氏・写)「仁説問答」は1巻。江戸前期の儒学者・神道家の山崎嘉(闇斎)著。寛文8年(1688)自序有。中国諸家の仁説を集録したもの。仁説に更に朱子が張南軒、呂東?と仁を論ずるものを文集中より輯録。*江戸期の儒者の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親瀧)の書写本//日本漢文学大辞典	23年度電子化後24年度に一部修復 外題直書「久米子訂斎 仁説問答口義」4丁目(仁説問答免端口義の末部分)に「明和五……訂斎調授/与川崎氏/原本■(三十?)本有河崎氏所録免端講義先生■曰失誤多考口義而可也今略予■(三十?)云 大塚静氏識」巻末「癸卯春二月中旬 大塚静氏識/……天明三年癸卯」免端9丁・本文80丁 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H24-03
明倫・1553	仁説問答筆記	三宅尚斎編次	1					和紙袋綴写本 24.0×16.5 44丁	(三宅尚斎編次 写)「仁説問答」は1巻。江戸前期の儒学者・神道家の山崎嘉(闇斎)著。寛文8年(1688)自序有。中国諸家の仁説を集録したもの。仁説に更に朱子が張南軒、呂東?と仁を論ずるものを文集中より輯録。//日本漢文学大辞典	句送返 (※本文は1550や1551のテキストと同じ) 外題「尚斎先生仁説問答筆記 全」内題「仁説問答筆記」 享保19年三宅重国識有り 蔵書印「大塚」朱の書入「外嶋田大塚」 *巻末に紙片有	R5-03
明倫・1554	垂加草三〇巻	山崎闇斎著 (大塚静氏の跋文在り)	1			天明1写	1781	和紙袋綴写本 25.8×18.9 55丁	(大塚静氏・写・序文有)*「垂加草全集」は33巻。江戸の儒者、山崎嘉(闇斎)著。神道思想精神を基調とする著者の遺稿を集め、先著「文会筆録」と合刻して全集と名付けたもの。享保6年植田成章の跋、天明3年刊。*垂加は著者の号*江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親瀧)の書写本/圖書解題/大辞典(平凡社)	外題「垂加草 全」(内題同) 享保8年植田成章の跋の後、巻末に大塚静氏の跋(天明元年)あり。(書写の詳細が記される) 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1555	正学指掌一卷	尾藤二洲著 (大・泉本八兵衛等)	1			天明7刊	1787	和紙袋綴刊本 26.0×17.7	1巻。尾藤孝肇著。倫理書。仮名文で記されている。天明7年刊。道・学・致知・力行・読書・詩文の6項について平易に解説したもの。/圖書解題/大辞典(平凡社)	外題直書「正学指掌 全」表紙見返「二洲尾藤先生著「正学指掌」大版書房」 巻末「天明七年丁未十一月開彫」 序(12丁)21丁 本文41丁 蔵版目録1丁 蔵書印「明倫堂蔵書印」「高鍋図書館蔵書記」	H24-03
明倫・1556	聖学図講義	浅見綱斎講義 門人録	1			寛永2刊	1625	和紙袋綴刊本 27.7×19.5	浅見綱斎 講義(門人録)。聖学図とは易の太極図の事か?//	送返 外題「聖学図講義」内題同 巻末刊年 寶永己丑(6)年	H28-01
明倫・1557	静座説	佐藤直方著 (門人跡部長頼)	1					和紙袋綴写本 24.3×17.6 18丁	佐藤直方著//	カナ交じり文 外題「直方先生静座説」(内題同) 巻末「右静座説佐藤直方先生所伝之意門人跡部良頼重舒寄記之」 蔵書印「明倫堂蔵書印」	R5-03
明倫・1558	聖人優劣説	三宅重国(尚斎)著	1			享保13写	1728	和紙袋綴写本 24.3×17.6 18丁	三宅尚斎著//	白 外題「三宅氏全書 聖人優劣説」内題「尚斎先生聖人優劣説 上下」 巻末「享保戊申六月 三宅重国」 蔵書印「明倫堂蔵書記」	R5-03
明倫・1559	聖人優劣説	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 24.5×16.5 18丁	三宅尚斎著//	白 外題直書「尚斎先生/聖人優劣説 上下」(表紙右下に朱書きで「大塚■家蔵」とある) 「享保戊申歲五月十二日■或人論…」より始まる(序文?2丁) 本文は「上篇 泰伯文王」10丁、「下篇 湯武」4丁 巻末(跋文?)に2丁「享保戊申六月三宅重国」と巻末に記載 蔵書印「大塚」	H24-03
明倫・1561	西銘解筆記全	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 25.2×18.0 19丁	三宅尚斎 *朱子による西銘の解釈書。西銘とは「正蒙」のこと。北宋の張栻著の書。1076年、易経や論語、孟子、中庸を縦横に引用しつつ、自らの思想を表明している。//	送返 外題「尚斎先生西銘解筆記 全」内題「尚斎三宅先生西銘解筆記 全」巻首題「読西銘筆記 享保十六辛亥三月 三宅尚斎先生著」 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1562	西銘講義	佐藤直方	1			宝暦5写	1755	和紙袋綴写本 23.7×15.8 12丁	佐藤直方 *西銘とは「正蒙」のこと。北宋の張栻著の書。1076年、易経や論語、孟子、中庸を縦横に引用しつつ、自らの思想を表明している。/岩波哲学・思想家辞典/	カナ交じり文・(虫損大) 外題無、内題「直方先生西銘講義」巻首題「直方西銘講義」 巻末「宝暦五乙亥三月下旬写之」 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1563	西銘講義全	久米訂斎著 前田昌言題跋	1					和紙袋綴写本 23.9×15.7 54丁	久米訂斎著 *西銘とは「正蒙」のこと。北宋の張栻著の書。1076年、易経や論語、孟子、中庸を縦横に引用しつつ、自らの思想を表明している。/岩波哲学・思想家辞典/	外題無・内題「訂斎久米翁西銘講義 全」巻首題「訂斎久米先生西銘講義 建前田昌言/明和■歳二月十九日(明和5年?)」巻末「明和■……月廿二日 記■人■無■洩 訂■」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	R5-03
明倫・1564	精里先生遺説・大学説	古賀精里著 土屋明等校 (城重教)	1			嘉永1写	1848	和紙袋綴写本 25.2×16.7 66丁	著者の古賀精里は江戸時代後期の儒学者。//	1300を見よ カナ交じり文 外題直書「龜頭/纂歌/鈴誤/精里先生■学 全」 寛政12年古賀精里序、文化8年土屋明謹識、巻首題「精里先生遺説 大学」 巻末「戊申九月二十有七日揮毫於明倫堂中/城重教但義」「嘉永紀元六月十日会始同十一日本書写」	R5-03
明倫・1565	性論明備録	程先生論 朱先生説 山崎闇斎	1					和紙袋綴刊本 26.0×18.7	1巻。山崎闇斎著。寛文12年自序。程明道の性説に朱熹の補遺したものや、更に朱子語類同説に関する事項を抄出して附録したもの。*性に本然気風の差あることは程子・張子始めて之を云いその説已明備成るものなるが朱子によりて始めて詳なりを得る、朱子の性論を輯次して編する(山崎闇斎全集解説)/圖書解題/	送返 2256を見よ 外題題簽「性論明備録 全」 寛文12年序(山崎敬義) 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H28-01
明倫・1568	性論明備録(筆記)	山崎闇斎 (京・武村市兵衛)	1			寛文12刊	1672	和紙袋綴刊本 28.0×19.7	「性論明備録」は1巻。山崎闇斎著。寛文15年自序。程明道の性説に朱熹の補遺したものや、更に朱子語類同説に関する事項を抄出して附録したもの。*性に本然気風の差あることは程子・張子始めて之を云いその説已明備成るものなるが朱子によりて始めて詳なりを得る、朱子の性論を輯次して編する(山崎闇斎全集解説)/圖書解題/	送返 (1565と同じ版か) 外題直書「性論明備録」 蔵書印「大塚」朱の書入れ多数	H28-01
明倫・1569	性論考		1					和紙袋綴写本 24.9×17.4 6丁		カナ交じり文 (表紙欠?)内題「性論考」 本文の題「論説」 26年修復時に改装	R5-03
明倫・1570	析玄	広瀬淡窓著 矢上行子生批釈 (大・河内屋茂兵衛等)	1			天保15刊	1844	和紙袋綴刊本 23.8×14.9 30丁	1巻。廣瀬淡窓(建)著。天保12年刊。「老子道德経」の要旨を説述したもの。/圖書解題/大辞典(平凡社)	漢文・句送有 外題直書(色鉛筆)「析玄」 蔵書印「財津蔵書」、内題(天保甲辰新撰/淡窓先生著)「析玄」 構成・巻首題「析玄三十則」序(4丁)、本文(23丁)・跋(3丁)	H24-03
明倫・1571	黄沈	山崎闇斎考訂 (京・武村市兵衛)	2					和紙袋綴刊本 27.5×19.0	山崎闇斎考訂*山崎闇斎の著作に「黄沈文」がある。圖書解題 *序跋なし。陣了翁は仕年の頃まで前輩先覚の名を知らざりしが、一旦その非を知や、彼の葉公が孔子を問ひし故事を引いて自から責む、葉公は沈諸梁なれば、この文を名づけて黄沈という、尊徳数学の文なり、文会筆録中に本書を論ぜる一文あり(山崎闇斎全集解説)/前任者の備考(又は24年)/圖書解題	全1冊(同じ版の本2冊) 外題直書「黄沈」 1571-1蔵書印「明倫堂蔵書記」 1571-2蔵書印「城氏」	H28-01
明倫・1572	節用序目全		1			安永8写	1779	和紙袋綴写本 26.4×18.7		句送 外題直書「節用序目 全」 (跋文に、安永7年遊学時に宇井煎斎先生の講義を記し安永8年に大塚静氏が書したと記載) 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1573	洗心洞割記	大塩中斎著 (大・中川勘助)	4			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 24.8×17.6 51・54・48・42丁	洗心洞割記は3巻。上下2巻と中1巻(附録)。江戸時代中期の大塩中斎の著。讀書の感想録。宋儒の語録の体に倣い、道学・理学等の原理を論述したもの。ただし、自学である王陽明流の学理を主張・発揮している。洗心洞は大塩中斎(平八郎)の室号。/圖書解題/日本漢文学大辞典	漢文・句送 外題・題簽「洗心洞割記」(上1・上2・下1・附録抄全) 構成・自述・後自述・跋問(計15)本文上1(36丁)上2(54丁)下(48丁)・附録抄(33丁)・跋(8丁) 巻末に「明治十七年二月十二日翻刻御扇」 蔵書印朱印「児原氏所蔵」 巻末に書入「昭和四年一月二十日 於東京神田■(求?)之 柿原政一郎■(就?)」	H24-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1574	先輩諸説		1					和紙袋綴写本 26.1×17.2 37丁		カナ交じり文 外題「先輩諸説」 巻頭目次「宇井子全書 経伝要説/絶体各具論/忠恕解同目同再答/仁愛説問答/社倉法之大意」 各論の末に宇井子(丸子弘馬)の識あり、年代が記されたものは、絶体各具論(宝暦8年)/仁子解問答(安永9年) 蔵書印「明倫堂蔵書記」	R5-03
明倫・1575	草稿	宇井黙斎(丸子弘馬・写)	1					和紙袋綴写本 24.4×17.8 118丁	宇井黙斎//	カナ交じり文 26年度修復時2冊に分冊 外題直書「草稿 全」内題(及び目次)「宇井子草稿/上家傳/上下係詳傳/文言傳/皇極内篇」 蔵書印「明倫堂蔵書印」	R5-03
明倫・1576	曾子一貫章講義	池田親敬書	1					和紙袋綴写本 23.5×15.3 24丁	池田親敬 書 //	外題題箋「前谷氏/一貫章■■全」巻頭「曾子一貫」巻首題「曾子一貫章講義」 巻末「池田親敬書」 蔵書印「城氏」	R5-03
明倫・1577	増続大広益会玉篇大全	毛利貞斎著	2		嘉永7刊	1854		和紙袋綴刊本 22.4×16.0 75・34丁	毛利貞斎 著*「大広益会玉編」中国の字書「玉編」を北宋の陳彭年らが勅命により撰したもの(1013年)。玉編に比べて、収録字を増したかわり、注解は大幅に簡略化された。玉編は現実的な優れた字書であったが、中国では散逸し現存するのはこの大広益会玉編である。//大辞典(平凡社)	巻之8・9と引用目録のみ 送返 1577-1外題・題箋「四声附韻 冠註補闕 ■書字義 増続大広益会玉…」(下部欠損)1577-1・巻之8・9(8面・9面)(38・37丁) 1577-2:引用書目(34丁)	H24-03
明倫・1579	息軒遺稿	安井息軒著	1					和紙袋綴刊本 23.6×15.8	4巻。日向の儒者安井息軒著。著者の漢文集。のべ97編を収集。川田剛芳野寺育等の序をふし、明治11年出版。//	返 巻二 外題題箋「安井息軒著/息軒遺稿 二」 蔵書印「堤氏文庫」	H28-01
明倫・1580	狙徠先生南留別志	宇恵校訂	1		文化9写	1812		和紙袋綴写本 23.2×17.8 34丁	宇恵 校訂//	(1581をみよ) 全三冊のうち下巻 外題直書「南留別志 人」(共三冊)内題「狙徠先生南留別志 下巻」(門人 南総 宇恵校訂) 巻末「文化九年壬申八月初三求之於■■通書舖 此年家■■官道■■江戸 大塚静書」 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1581	狙徠先生南留別志	宇恵校訂	1					和紙袋綴写本 23.2×17.8 36丁	宇恵 校訂//	(1580をみよ) 全三冊のうち中巻 外題直書「南留別志 地」(共三冊)内題「狙徠先生南留別志 中巻」(門人 南総 宇恵校訂) 巻末「親瀾求江戸/島田大塚親瀾求」(大塚氏が江戸で購入した記述あり) 蔵書印「大塚」・瀾	R5-03
明倫・1582	村学資講		1					和紙袋綴写本 25.1×17.3 63丁		24年度電子化時に表紙と内容の一部を修復 外題直書「村学資講/中唐 自序 至十一章」 内題「中唐章句資講」巻末「戊申十月五日 書」 蔵書印「源印■■■■」 書付けのある紙が挟まっていた(修復済み)	H24-03
明倫・1584	村学資講		1		寛政9写	1797		和紙袋綴写本 25.6×17.5 30丁		近思録・存養 カナ交じり文 外題直書「近思録存養/村学資講」 巻末「寛政戊午十年六月五日書」 巻末書入「大塚氏」 26年修復時に表紙・裏表紙を補完	R5-03
明倫・1585	村学資講(孟子尽心上)		1					和紙袋綴写本 25.4×16.5 91丁	孟子とは儒教の経典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻、前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。後善説を唱え、人がおのずから備えている良能・良知を発揮する仁を本源とすべきと強調している。「尽心」は孟子の著書的一篇。/岩波哲学・思想辞典/	カナ交じり文 外題「村学資講/孟子尽心上」内題「孟子尽心首章講義 己亥仲春」巻末「孟子卷之十三終」書入「文化九年壬申九月初■■了」 蔵書印「大塚」 (26年修復時に表紙・裏表紙補完)	R5-03
明倫・1588	大学章句講義	前谷氏録	1		明和4写	1767		和紙袋綴写本 22.8×17.0 90丁	(前谷氏 録/写) *大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	外題「大学章句講義 下/訂斎久米先生門人前谷氏録」(■■二冊) 内題「明和四丁亥■■夏十七日/大学章句講義下」 巻末「前谷時邦謹記頓首」(朱書→)「大概記得■■思索 訂斎」(誰?)大塚静氏讀■■ 蔵書印「大塚」	R5-03
明倫・1589	大学或問講説	宇井黙斎 手塚氏聞録(財津吉恵)	1		明和8写	1771		和紙袋綴写本 24.3×16.3 55丁	宇井黙斎 *大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を表せるもの。或問:文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を表せるもの。大学は四書の一つ//大辞典(平凡社)	カナ交じり文 外題「宇井子/大学或問講説」内題「大学或問筆記」 宇井子 巻末書入「右宇井先生講説手塚氏聞録之/明和八卯秋写之 財津吉恵」 蔵書印「高鍋図書館蔵書印」	R5-03
明倫・1590	大学章句筆記		1					和紙袋綴写本 24.0×16.8 93丁	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	句送返 外題「三宅先生/大学章句筆記 坤」(内題同)書入「大塚氏」	R5-03
明倫・1591	大学章句俗解五巻	山田昌殷(市川治兵衛)	5		貞享2刊	1685		刊本	山田昌殷 *大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//		R6-03
明倫・1592	大学問答	古賀 庵	3					和紙袋綴写本 24.0×16.9	経書。4巻。古賀輝(?庵)著。嘉永年間刊。問答体で大学(四書の一つ)の大意を講解したもの。//	白 全て漢文。外題直書「大学問答」、本の下部に1592-1・2・3の順に「天」「地」「人」とある。内題なし。本文は「問 氣質之質末子…」で始まる順に36・35・30丁	H24-03
明倫・1594	大学明徳説	浅見綱斎著	1		宝永3写	1706		和紙袋綴写本 27.5×20.7 12丁	経書。写本1巻。浅見安正著。大学中の明徳を朱子の章句・或問・發揮等の意を推して講説する。//大辞典(平凡社)	送返(本文)*書入れはカナ交じり文 外題「綱斎/大学/明徳説 物説 全」 巻末「宝永三年丙戌十二月 綱斎敬書」	R5-03
明倫・1595	大学章句新疏上・下巻	英賀室直清著(東・参河屋半兵衛)	2					刊本	2巻。室直清著。天明6年刊。「大学」を疏釈したもので、最も詳密であるとされる。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返	R6-03
明倫・1596	大学章句漫記		2		安永8写	1779		和紙袋綴写本 24.7×16.2 100丁・86丁	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	カナ交じり文 枝番の順に 外題「大学経文 野学資講」大学傳文 野学資講 内題「大学章句漫記」1596-1(「安永八年仲夏己後」)1596-2(同己亥歲仲冬以後)1596-1巻末「経文 終」 蔵書印「城氏」 *1596-1は修復時2冊に分冊	R5-03
明倫・1597	大学或問筆記	三宅尚斎著(大塚東蔵写)	1		安永6写	1777		和紙袋綴 28丁 24.6×17.2	三宅尚斎著 *大学或問は四書或問の一つ。四書或問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したものの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。或問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を表せるもの。或問:文章の形式の一。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を表せるもの。大学は四書の一つ//大辞典(平凡社)	句返 複写製本 大塚印 亡弟大塚東蔵写謄也安永九秋精彩氏俟有感記焉	R5-03
明倫・1598	大学紀聞略説		1		元禄2刊	1689		和紙袋綴刊本 27.0×19.5		送返 巻上 外題無、内題「大学紀聞略説」 元禄二年序有 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1599	大学章句会説		1		文政5写	1822		和紙袋綴写本 24.6×15.7 9丁	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。大学が儒学の基本書となる事に貢献した。//	カナ交じり文 内題「大学章句会説」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	R5-03
明倫・1600	大学筆記	三宅尚斎著	1					和紙袋綴 88丁 24.3×16.5	三宅尚斎著/写本//	送返	R5-03
明倫・1601	大学三綱領大意口義	宇井黙斎著(大塚氏義後改静氏・写)	1		安永4写	1775		和紙袋綴写本 24.5×16.0	宇井黙斎著(大塚静氏/写)*江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親瀾)の書写本//	外題直書「■学三綱領大意口義/稿斎写」 内題「黙斎大学三綱領大意口義」 安永4年写 蔵書印「大塚」	H28-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1604	太極図講義	宇井煎斎講義	3			安永6写	1777	和紙袋綴写本 24.3×17.4 61・94・90丁	* 大極図説とは中国、宋代の哲学書。周敦頤著//大辭典(平凡社)	24年度電子化時に1604-2の表紙のみ修復 外題直書「宇井氏太極図説 上」(同 中・下) 巻頭「宇井先生/太極図説講義 上」内題「太極図講義」 1604-3の巻末に丸子弘篤の識がある(安永丁酉) 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H24-03
明倫・1606	太極図説講義	宇井煎斎 (大塚氏儀)	1			寛政6写	1794	和紙袋綴写本 24.0×16.6	* 大極図説とは中国、宋代の哲学書。周敦頤著 * 江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親淵)の書写本//大辭典(平凡社)	外題無、内題「太極図説講義」 安永丁酉(6年)丸子弘篤(宇井煎斎)識 寛政甲寅(6年)写(裏江村山内家所蔵本を写した件等巻末に記載) 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1607	太極図説講義	宇井煎斎講義 (大塚静氏・写)	2			天明5写	1785	写本	* 大極図説とは中国、宋代の哲学書。周敦頤著 * 書写者: 大塚静氏(親淵) (高鍋藩校明倫堂教授//大辭典(平凡社))		R6-03
明倫・1608	太極図説筆記	三宅尚斎	1			享保19写	1734	和紙袋綴写本 24.0×16.4 113丁	* 大極図説とは中国、宋代の哲学書。周敦頤著//大辭典(平凡社)	送返 外題直書「尚斉先生/太極圖説筆記 全」内題「太極圖説筆記」 巻末「享保十九年甲寅歲為諸生講説太極圖説解因考旧日所筆記其誤者不少再改謄知此...尚斎識」 蔵書印「大塚」	H24-03
明倫・1609	大東世語五卷	服部南郭著 (江・小林新兵衛)	2			寛延3刊	1750	和紙袋綴刊本 26.7×17.6 49・68丁	5巻。江戸時代中期の儒者服部元裔(南郭)著。寛延3年刊。中国の世説新語に倣って、日本の逸話、奇行を漢文で情明に書いたもの。なお、著者は儒者であるほか漢詩人、画家であり、姦生組の弟として知られる/『國書解題』大辭典(平凡社)	句返返 外題直書「大東世語 乾」「大東世語 坤」 奥書「静斎蔵刊/寛延三庚午春三月日/江都書肆嵩山房/小林新兵衛発行」蔵書印朱印「明倫堂蔵書記」1609-1のみ朱印「静斎蔵刊」(* 奥書の発行は?) 構成: 序・自序(針7丁) 巻1(18丁)、間に2丁、巻二(22丁) 巻3(20丁)、間に1丁、巻4(24丁)、間に1丁、巻5(21丁)、奥書1丁	H24-03
明倫・1610	休用顕微考	三宅尚斎著	1			享保5写	1720	写本			R6-03
明倫・1611	休用顕微考全	三宅尚斎著	1					和紙袋綴 18丁 24.3×17.1		送返 「大塚」の印あり。	H29-05
明倫・1612	三宅氏全書 智蔵説	三宅尚斎著	1			享保14	1729	和紙袋綴写本 9丁 24.4×18.0		送返 点付校合 漢文体 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・1613	智蔵説筆記	留守希斎著	1			宝暦2写	1752	和紙袋綴 20丁 24.7×17.2		送返	R5-03
明倫・1614	千載日至諸説異同考	留守友信	1					和紙袋綴写本 6丁 23.0×16.6	漢学 孟子離婁下篇/前任者の備考(又は24年)/	送返 「大塚氏」の墨書あり。「大塚」の印あり。	H29-05
明倫・1615	治邦要旨	蟹維安著	1			元文元序	1736	和紙袋綴写本 124丁 24.1×16.5	(ちはうえうし)江戸時代中期の崎門派の儒者、蟹養斎(維安)著。写本三巻。政治の要旨を示したもの。立志・得人・養育・教導・法禁・賞罰・武備・財用・大本等の諸項あり。元文年間の著に係る。/『國を治め人を教える大要を示す/前任者の備考(又は24年)/増訂國書解題	1790(治法要旨傳)を見よ 蟹翁治邦要旨提綱 中損 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・1616	忠孝類説	浅見綱斎著 跡部良賢	1					和紙袋綴写本 57丁 24.3×16.4	松田左馬助・新田義貞他 直方先生二葉集/前任者の備考(又は24年)/	表紙に「百四」校合 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・1617	忠孝類説	浅見綱斎著	1			安永6写	1777	和紙袋綴写本 24丁27.4×19.3	松田左馬助・新田義貞他/前任者の備考(又は24年)/	虫損 「大塚」の印あり。 裏表紙見返しに「此書綱斎先生所著而内藤某所蔵也予請求以識写之 安永六年丁酉歲仲冬中旬 大塚静氏識」大塚静は太一郎事「大塚家蔵」の墨書あり。	H29-05
明倫・1618	冲漢無説説	山崎闇斎著 (京・武村市兵衛)	1					和紙袋綴刊本 18丁 27.8×19.5	1巻。山崎闇斎著。成年不詳。近思録中、釈明道の語「語漢無説...」に関する説を記載したもの。* 程子が道礼の全を發明して「冲漢無説万象全已具云々の」の1章に小解を付し、且、朱子並その門人及び諸般軒・胡敬斎・李道漢の説を抄出してこの編を作る(山崎闇斎全集解説)/大辭典/國書解題	送返 上部に註書朱・黒 大塚朱印 漢文体	R5-03
明倫・1620	中庸成問筆記	三宅尚斎著	1					写本	四書成問とは宋の朱熹が四書集註の参考として著したもの。四書章句集註を作り、疑義にあたる内容をまとめたもの。成問とは文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの成問、文章の形式の一つ。仮にある質問を設け、それに答える形で自分の意見を述べるもの//大辭典(平凡社)	白	R6-03
明倫・1621	中庸講義	浅見綱斎	3			明和8写	1771	和紙袋綴写本 56・75・66丁 23.5×17.0	浅見綱斎。明和8写 * 中庸章句1〜11、12〜20、21〜33章/國書解題/	表紙見返しに「外島田 大塚家蔵」の墨書あり。「大塚」の印あり。	H29-05
明倫・1622	中庸資講	幸田先生 (城景正・写)	1			文政13写	1830	和紙袋綴写本 128丁 24.5×15.9	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一選(今の第32篇にあたる)であり、「中和」と「誠」を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。//	天明3夏〜翌9月講義 大塚家蔵 「城氏」の印あり。 裏表紙見返しに「右全書講説文政十三写之 城景正家蔵」の墨書あり。「景正之印」あり。	H29-05
明倫・1623	中庸輯略筆記	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 52丁 24.1×17.3	三宅尚斎著 享保9年5月〜10年6月講義 * 「中庸輯略」は2巻。子思の中庸の本文を略して各小節に対する諸説を集録したもの。/國書解題/	句返 「大塚」の印あり。	H29-05
明倫・1624	中庸証	高敏慎録	1			文化9序	1812	和紙袋綴刊本 34丁 25.7×18.4	1巻。高橋敏慎著。文化9年藤原貞直の序有。中庸を証したものの。同者に李経証、論語証、論語人物証などがある。/國書解題/	句返返 田村氏蔵書朱印	R5-03
明倫・1625	中庸章句纂釈二巻	古賀精里著 土屋明等校 石塚崔高序	2			文化11序	1814	和紙袋綴写本 61・55丁 27.0×18.3	写本2巻。古賀精里。子思の中庸を註釈したもの。ひろく諸家の論説の朱子に合するものを纂集採択している。文化11年門人の石塚崔高の序有。/國書解題/	句 漢文体 一部朱句点 「城氏」の印あり。	H29-05
明倫・1626	中庸章句鈔説	仲欽散甫著(中村協斎)	1					和紙袋綴刊本 82丁 26.3×18.5	中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ、33章からなる中庸の注釈書。//岩波哲学・思想辞典	送返 表紙欠 城氏朱印 行間・頭部に書込みあり 漢文体	R5-03
明倫・1627	中庸章句統筆記	三宅尚斎著	1			元文4	1739	和紙袋綴写本 14丁 24.5×17.5	中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ、33章からなる中庸の注釈書。//岩波哲学・思想辞典	送返 「大塚」の印あり。	H29-05
明倫・1628	中庸諸説弁誤	古賀精里著 土屋明等校	1			文化11序	1814	和紙袋綴写本 48丁 26.7×18.3	写本1巻。古賀精(精里)著。朱子の説を準拠とし、宋元氏清諸家の「中庸」の註解の是非を弁論したもの。文化11年男堀の序あり。/國書解題/	漢文体 一部句点 「城氏」の印あり。	H29-05
明倫・1629	中庸統口義	(大塚氏儀)	1			寛政5	1793	和紙袋綴 18丁 25.0×17.5	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一選(今の第32篇にあたる)であり、「中和」と「誠」を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。//	訂斎久米先生中庸口義有關 者補之氏慎記 付箋 「尚斎三宅先生訂斎久米先生中庸統口義」	R5-03
明倫・1630	中庸訂斎先生口義	久米訂斎講義	2			延享1	1744	和紙袋綴写本 99・41丁 24.8×17.9	* 江戸時代中期の儒者、久米訂斎(1699〜1784)著。山崎闇斎の弟子三宅尚斎にまなぶ、崎門学派の説をひろめた。名は順利。字(あざな)は断治。通称は新二郎。* 中庸とは四書の一つ。//	「大塚家蔵」の墨書。「大塚」の印あり。	H29-05
明倫・1631	中庸分面説	三宅尚斎 (大塚静氏の跋)	1			享保4 天明4写	1719 1784	和紙袋綴写本 21丁 24.8×17.7	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一選(今の第32篇にあたる)であり、「中和」と「誠」を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。* 書写者: 大塚静氏(親淵) (高鍋藩校明倫堂教授//	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・1632	中庸分面説	三宅尚斎著 (大塚東蔵儀徳・写)	1			享保4	1719	和紙袋綴写本 21丁 24.0×17.3	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一選(今の第32篇にあたる)であり、「中和」と「誠」を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。//	白返 「大塚」の印あり。 裏表紙見返し「精齋家蔵」の墨書あり。	H29-05
明倫・1633	中庸筆記	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 75丁 24.3×17.6	中庸とは四書の一つ。もともと礼記の一選(今の第32篇にあたる)であり、「中和」と「誠」を説く。孔子の孫の子思が作ったともされるが、定かではない。//	送返 大塚 朱印 中屏口学教授大塚太一郎 尚斎先生中庸筆記 乾 「大塚」の印あり。裏表紙見返し「大塚七郎次氏蔵」の墨書あり。	H29-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1634	中和集説	山崎闇斎著 (京・武村市兵衛)	3			寛文12序・刊	1672	和紙袋綴刊本 42・41・40丁 27.2×19.6	山崎闇斎著。＊山崎闇斎の著作に「中和集説」がある。国書解題 ＊朱子の中庸の中和に関する説中和旧説を闡明にする。朱子の中庸を得られし次第階級が分かる(山崎闇斎全集解説)/国書解題/	送返 同じ物3冊 明倫堂印朱印(1634-3) 口朱印・行間書き込み(1634-1)	R5-03
明倫・1635	中和集説筆記	三宅尚斎著	1			享保16写	1631	和紙袋綴写本 21丁 26.9×19.7	＊山崎闇斎の著作に「中和集説」がある。国書解題/国書解題/	「大塚」の印あり。	H29-05
明倫・1636	張書抄略	(京・寿文堂)山崎闇斎(敬義)編	1			延宝5跋	1677	和紙袋綴刊本 36丁 27.7×19.5	山崎闇斎(敬義)編 天地・人倫・為学の3篇となし理屈 正蒙・易説 語録中より騰出して小解をふせり /前任者の備考(又は24年)/	大塚朱印 上中下 書き込みあり「天明八年戊申中冬会讀ヨリ寛政十一年己未季夏看寫」墨書 二十一 佐藤直方・浅見?斎編	R5-03
明倫・1638	通祭小記	浅見網斎著	1			元禄4序	1691	和紙袋綴写本 78丁 24.3×17.5	浅見安政(網斎)の著作「通祭喪祭小記」のうちの一つか?。「通祭喪祭小記」は写本一巻、浅見安政著。仮名で喪祭のことを記したものを、都を二種に分かち、「通祭小記」「喪祭小記」としている。＊詞室・通礼・春養・秋養・忌日世俗祥月・云是也/前任者の備考(又は24年)/国書解題	浅見子葬祭通記(表紙綴) 百二(表紙)「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・1639	通書筆記	三宅尚斎著	1					和紙袋綴写本 58丁 24.7×17.4	三宅尚斎著。＊通書(太極)図説の応用面を説いた書。宋の周敦頤著)註釈/前任者の備考(又は24年)/	句送返 虫損 後欠?「大塚」の印あり。「大塚氏」の墨書あり。	H29-05
明倫・1640	訂斎先生諸説筆記	久米訂斎	1			延享元寛保3	1739 1747	和紙袋綴筆本 63丁24.1×17.2	＊江戸時代中期の儒者、久米訂斎(1699～1784)著。山崎闇斎の弟子、三宅尚斎にまなぶ。崎門学派の説をひろめた。名は順利。字(あざな)は断治。通称は新一郎。＊讀太極図説筆記・讀中流無誤筆記・讀西銘略筆記・讀書経発端講義・一治一乱考・一元發揮・皇極經世一元消長数図筆記・郡子全書抜粹・胡子知言附録・天問私考/前任者の備考(又は24年)/	奥書「右尚斎口口一巻獲之於前口時口美二先生之真筆也口持珍蔵之口 大塚静謙書」	R5-03
明倫・1641	程書抄略二卷	山崎闇斎著 (京・寿文堂)	1			延宝1刊	1673	和紙袋綴刊本 68丁 27.8×19.3	山崎闇斎著。＊山崎闇斎の著作に「程書抄略」がある。国書解題 ＊二程全書(北宋の儒者程頤・程頤兄弟語録・詩文)中より嘉言を騰出し天地・人倫・為学の三目によりて編次(山崎闇斎全集解説)/前任者の備考(又は24年)/国書解題	送返 明倫堂蔵書印朱印 1642と同	R5-03
明倫・1642	程書抄略	山崎闇斎著	1			延宝1刊	1673	和紙袋綴刊本 68丁 26.2×18.9	山崎闇斎著。＊山崎闇斎の著作に「程書抄略」がある。国書解題 ＊二程全書(北宋の儒者程頤・程頤兄弟語録・詩文)中より嘉言を騰出し天地・人倫・為学の三目によりて編次(山崎闇斎全集解説)/前任者の備考(又は24年)/国書解題	送返 大塚朱印 1641と同 虫損	R5-03
明倫・1646	侗庵新論第二編	古賀侗庵著	1			天保6跋		和紙袋綴写本 56丁 23.4×17.0	写本10巻。古賀煙(?庵)著。經史徳経に関する論議100章を集録したもの。文政8年以降の起稿に関わる。/国書解題/	句 卷十一・十二 高鍋図書館蔵書印	H29-05
明倫・1647	唐詩選国字解四卷	(江・嵩山房)服部南郭(元高)	1			寛政3刊	1791	和紙袋綴刊本 92丁 22.9×16.2	唐詩選の注釈書。7巻。服部元喬撰。林元圭編。寛政3年刊。唐詩選の中より120首の作465首を抄して註解する。/前任者の備考・補足済/大辞典(平凡社)	明倫堂蔵書印朱印 高鍋図書館蔵書印朱印	R5-03
明倫・1648	道心人心説	三宅尚斎著	1	元文4				和紙袋綴写本 18丁 24.5×17.0	三宅尚斎著 ＊同心人心説・中庸章句続筆記・致中和・復讐中庸首章説筆記/前任者の備考(又は24年)/	白 表紙「三六 中庸同心人心説」「較合高鍋図書館蔵書印朱印 明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・1650	読近思錄筆記全		1			享保13写	1728	和紙袋綴写本 23.5×16.5		句送返 外題直書「読近思錄筆記 全」内題同	H28-01
明倫・1651	読近思錄筆記	三宅尚斎	1					和紙袋綴写本 23.7×17.0	三宅尚斎//	白 外題直書「読近思錄筆記 全」内題「尚斎先生/近思錄筆記 元」蔵書印「大塚」書付有	H28-01
明倫・1653	読春秋大意		1					和紙袋綴写本 25.0×17.5	春秋とは中国の古典。五經の一つ。周代の魯国の宮廷年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立//	「大塚」の印あり。	H24-03
明倫・1654	読小学記	蟹養安著	2					和紙袋綴写本 24.0×17.1	江戸時代中期の崎門派の儒者、蟹養安(維安)著。//	送返 外題無、内題「讀小学記 一」及び「同 二」蔵書印「明倫堂蔵書記」書入れ1654-2「学校御用書物」「読小学五冊/較合」	H28-01
明倫・1656	読書録	宇井黙斎	5					和紙袋綴刊本 27.1×17.3	宇井黙斎//	送返 卷之三～十一(卷一・二穴)題箋(1656-4のみ)「讀書録 五之穴」内題同 杖書順に九～十一、三、四、五～六、七～八巻蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・1657	直方先生静座説	佐藤直方所伝 (城垂正)	1					和紙袋綴写本 24.3×15.7	佐藤直方所伝//	「城氏」の印あり。	H24-03
明倫・1658	二程治教録二卷	保科正之著	1					和紙袋綴刊本 27.0×19.0	朱子学上重要な書物「三部書」の一つ。保科正之編。全2巻。寛文8年(1668)成立。宋の程明道・程伊川兄弟の二程全書(68巻)の中から、治教に関するものを抜粋して政治思想の本質を明らかにするとともに、為政者の参考と為した。明道は易と中庸をまとし、物を渾然一体として考え、伊川は「大学」と「孟子」を中心とし、治国平天下を最終目標とした。横田俊益と山崎闇斎が編纂を補助し、林春斎の序、山崎闇斎の序と跋がある/国書解題/	送返 下巻欠 外題直書(ペン書)「二程治教録 上」内題同 序①林恩(春斎)・寛文12年②山崎嵩(闇斎)・寛文8年 巻頭書入れ「此書從程茂公由房之■■白鹿洞学規之■■■■■■」	H28-01
明倫・1659	培根堂達支堂記	三宅尚斎著	1			享保17写	1731	和紙袋綴写本 23.3×17.0	三宅尚斎著//	白 外題直書「培根堂達支堂記」内題同 巻末に培根堂の両堂図有 蔵書印「大塚」	H28-01
明倫・1660	排釋録	佐藤直方(寿文堂)	1			貞享3刊	1686	和紙袋綴刊本 27.0×18.7 52丁	諸子学。1巻。佐藤直方著。貞享3年刊。朱子の語類文集等より儒老排撃の辞句を集録して詳註を附している。各項その出所を細註する。貞享2年自跋あり。/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 外題直書「排釈録 全」内題「排釈録」152丁(うち著者自跋2丁・貞享2年)巻末奥書に貞享丙寅(3年)刊とあり 蔵書印朱印「高鍋図書館蔵書印」「明倫堂蔵書記」	H24-03
明倫・1661	白鹿洞学規集註	山崎闇斎集註	1					和紙袋綴刊本 26.4×18.2	山崎闇斎//	句送返 外題題箋「白鹿洞学規集註」内題同 慶安3年序(山崎) 巻末書入「此書二程全書玉篇字引從/種茂公由房江被給書也後年不可■■也」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」(種茂公から賜わった書籍か?)	H28-01
明倫・1662	白鹿洞学規集註	山崎闇斎	3					刊本	山崎闇斎//	句送返	R6-03
明倫・1665	非微八巻	中井竹山著 (大・良生六兵衛等)	8			天明4刊	1784	和紙袋綴刊本 26.8×18.1	中井積善著。8巻。天明4年刊。五井蘭洲が「論語微」(微生伯休著)を論取した「非物論」(6巻)の後編。＊明倫1675を参照/国書解題/大辞典(平凡社)	句送返 全一～八巻(杖書順) 外題題箋(1665-6のみ)「續編/非微」(*1665-3と4は題箋一部あり) 蔵書印「明倫堂蔵書記」 1665-6は裏表紙欠	H28-01
明倫・1666	筆記詩集伝一六巻	仲欽敬甫著 増田謙之校 (大・河内屋喜兵衛等)	8			明和1刊	1764	和紙袋綴刊本 25.7×18.1	儒書。詩経の注釈書。江戸時代前期の儒學者中村惕斎(欽)(1629～1702)著。著者の五経筆記の一つ。享保15年室直清及び門人の和角維幹の序有/国史大辞典/国書解題	送返	H24-03
明倫・1667	筆記礼記集説一五巻	中村惕斎著	15			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 24.8×17.2	儒書。礼記の注釈書。江戸時代前期の儒學者中村惕斎(1629～1702)著(名は之欽)。著者の五経筆記の一つ。安政4年、安積良斎の序有。終始無點の漢文。/国史大辞典/国書解題	白 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H24-03
明倫・1668	筆記周易本義一六巻	仲欽敬甫著 増田謙之校 (大・河内屋喜兵衛等)	7			明和1刊	1764	和紙袋綴刊本 25.8×18.1	儒書。周易本義の注釈書。16巻。江戸時代前期の儒學者中村惕斎(1629～1702)著。享保15年室直清の序有。程朱の本義に基づき諸家の説を取捨している。著者の五経筆記の一つ。/国史大辞典/国書解題	送返	H24-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1669	筆記書集伝一二巻	仲欽敬甫著 増田謙之校 (大・河内屋喜兵衛等)	6			明和1刊	1764	和紙袋綴刊本 25.6×18.1	江戸時代前期の儒学者中村惕斎(1629～1702)著(名は之歟)/国史大辞典/	送返	H24-03
明倫・1673	筆記読易要領四巻	仲民敬甫著 増田謙之校	1					和紙袋綴刊本 25.7×18.2 86丁	惕斎・4巻。江戸時代前期の儒学者中村惕斎(1629～1702)著(名は之歟)。易経の要領を講説したもの。/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 外題・題箋「筆記読易要領一 四 全」内題「筆記読易要領」 構成:巻1～4(21・14・21・30丁) 易の六十四卦や二十四卦の図説は朱を用いた2色刷り。	H24-03
明倫・1675	非物篇六巻	五井蘭洲著 中井竹山校 (大・良笠六兵衛等)	6			天明4刊	1784	和紙袋綴刊本 26.4×18.2	五井蘭洲(純禎)が「論語微」(荻生徂徠著)を論駁した書。6巻。明和3年刊。/国書解題/大辞典(平凡社)	句送返 在全6巻 外題無(1675-6のみ一部残)巻頭見込「蘭州先生著/正編/非物篇」刊年天明4年序(明和3年・著者) 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-01
明倫・1679	弁疑録四巻	伊藤長胤著 (林文進)	2			元文2刊	1737	和紙袋綴刊本 26.8×17.9 68・76丁	惕斎・4巻。伊藤長胤著。寶永5年の自序有。道德・學術について論述したもの。1巻に命道德・2巻に性教徳鬼神・3巻に論孟徳、中庸・4巻に群教徳の目を置く。/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 外題・直書「弁疑録 乾」及び「同 坤」構成:題辞・目錄(計2丁)、巻1(31丁)、巻2(35丁)、巻3(40丁)、巻4(35丁)、跋(1丁) 序(題辞)は著者伊藤長胤・寶永戊子(5年)/高鍋図書館蔵書印!「明倫堂蔵書記」	H24-03
明倫・1680	弁安	安井息軒著 松本豊多校註 (東・石塚徳次郎)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 21.8×13.7	安井息軒著//	「田邨氏蔵書印」あり。	H24-03
明倫・1681	丸子弘篤先生講義	丸子弘篤手録	1			安永1写	1772	和紙袋綴写本 24.2×17.3	丸子弘篤手録//	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H24-03
明倫・1683	三宅子全書	三宅尚斎著	52					和紙袋綴 53丁 24.0×17.5	三宅尚斎著//	52冊のうち1冊修復 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H24-03
明倫・1684	三宅子全書	三宅尚斎著	1			文化4写	1807	和紙袋綴写本 24.7×16.0	三宅尚斎著//	外題題箋「三宅氏全書/拘幽■筆記/全」内題「拘幽録」 蔵書印「城氏」	H28-02
明倫・1685	三宅先生学談筆記	三宅尚斎著	1			正徳1写	1711	和紙袋綴写本 24.0×14.7	*三宅尚斎著。 *「学談」とは崎門学派において記録された、師にこでは山崎闇斎の自序の言行の記録のこと/日本思想体系3(山崎闇斎学派)	外題直書(欠損大)「三宅先生学談筆記」見返しに書入れ!此書一■国字筆記 巻末に「正徳元辛卯九月三日 尚斎識」墨書あり。	H28-02
明倫・1688	孟子尚斎筆記 大塚精斎写	三宅尚斎筆記 大塚精斎写	1					和紙袋綴写本 24.0×16.5 33丁	三宅尚斎筆記 書写者:大塚氏儀(精斎)(明倫堂師範)*孟子とは儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのすから備えている良能・良知を發揮する仁政を本源とすべきと強調している。/岩波哲学・思想辞典/	送返 複写製本 外題直書「三宅尚斎全書」(公孫丑/滕文公)内題蔵書印「大塚」	H28-02
明倫・1691	孟子集註講義	宇井煎斎講義 朱熹篇	1			弘化3写	1846	和紙袋綴写本 25.0×16.0	宇井煎斎講義 *孟子集註は孟子の注釈書。朱子が決めたもので、後漢の趙岐の古註に対して新註と呼ばれる。/岩波哲学・思想辞典/	外題「宇井子孟子集註講義」内題「孟子 巻之七 離婁章句 上」	H28-02
明倫・1694	孟子筆記		1					和紙袋綴写本 23.5×16.0	孟子とは儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのすから備えている良能・良知を發揮する仁政を本源とすべきと強調している。/岩波哲学・思想辞典/	外題直書「孟子筆記」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」 添付物あり:武者絵図(一竜山普濟禅寺の岡部郷の絵図)	H28-02
明倫・1696	孟子俚諺抄		1					和紙袋綴刊本 22.7×16.0	孟子とは儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのすから備えている良能・良知を發揮する仁政を本源とすべきと強調している。/岩波哲学・思想辞典/	外題無、内題「孟子巻之三/離婁章句 上」版心題「正文俚諺抄」 (巻末「孟子俚諺抄巻之三」)	H28-02
明倫・1698	孟子俚弁		1			文化1写	1804	和紙袋綴写本 25.0×15.5	孟子とは儒教の經典四書の一つ。戦国時代に孟子(名は軻。前372頃～289)が自説を述べたもの。7編。性善説を唱え、人のおのすから備えている良能・良知を發揮する仁政を本源とすべきと強調している。/岩波哲学・思想辞典/	外題直書「孟子俚弁」巻末「文化改元蔵書印「高月鈴木文庫之印」 巻末「文化十酉年借于大塚先生写之」	H28-02
明倫・1701	山崎先生行実	水足安直 (山内尚綱)	1			天明3写	1783	和紙袋綴写本 24.5×17.5	水足安直//	白 外題直書「山崎先生行実」 天明3年写(巻末に山内尚綱書写の詳細あり) 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-02
明倫・1706	論学		1					和紙袋綴写本 27.5×20.5		送返 「大塚」の印あり。	H28-02
明倫・1708	論語語由二〇巻	亀井魯道範撰 男翌元鳳校	8					刊本 1～4巻欠	写本10巻。亀井魯著。論語の詳註、一家の見を發揮している。諸本に照らし、先儒の説を校閲しその善者をとり各章の下に集註している。文化3年源長舒の序、黒田長房の序あり。詳密な著者の凡例あり。/国書解題/	句送返	R6-03
明倫・1710	論語材学資講	三宅尚斎筆記	1					和紙袋綴写本 24.0×15.7	三宅尚斎筆記 *論語は儒教の代表的な經典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。//	「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・1711	論語集説	安井息軒著	1					和紙袋綴刊本 26.0×18.0	論語の注釈書。日向の朱子学者安井息軒(1799～1876)撰。古註(集解)を主とし、新註(集註)も参考になっている/国史大辞典/大辞典(平凡社)	句返 外題・題箋「論語集説 二」(表紙書入、里仁/公洛長/雅也/述而)内題「論語集説 巻二/日南 安井」序跋なし本文61丁(第4～7(篇?)里仁～述而、蔵書印朱印「堤氏文庫」丸印「堤」(「〇〇文庫」の蔵書印を消すように押印)朱の批点の書入れ有	H24-03
明倫・1712	論語集説	安井明衡著 (東・伊東祐傳)	4			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 26.0×18.1	論語の注釈書。日向の朱子学者安井息軒(1799～1876)撰。古註(集解)を主とし、新註(集註)も参考になっている/国史大辞典/大辞典(平凡社)	送返 「堤氏文庫」の印あり。	H24-03
明倫・1713	論語集説	安井息軒著 (東・福田左兵衛等)	6			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 25.9×17.8	論語の注釈書。日向の朱子学者安井息軒(1799～1876)撰。古註(集解)を主とし、新註(集註)も参考になっている/国史大辞典/大辞典(平凡社)	送返	H24-03
明倫・1715	論語集説	安井息軒著 (嘸喰舎蔵版)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 26.0×18.1	論語の注釈書。日向の朱子学者安井息軒(1799～1876)撰。古註(集解)を主とし、新註(集註)も参考になっている/国史大辞典/大辞典(平凡社)	句返	H24-03
明倫・1716	論語抄	山本信孝輯 (東・富山房)	1			明治29刊	1896	和紙袋綴刊本 22.9×14.8	写本14巻。論語抄は論語の仮名交り文体の注釈書。論語の1章句毎に、本文をあげ、仮名を振り、さらに一字を下げ仮名交じり文で注釈をしている。注釈文にも漢字には傍訓あり。(講抄者を異にする本は20以上伝わっている) *山本信孝 集/国史大辞典/国書解題	句送返	H24-03
明倫・1718	論語大関節仮名講義	久米訂斎講義 (水筑彦太郎)	2			文化4写	1807	和紙袋綴写本 24.5×16.7	*江戸時代中期の儒者、久米訂斎(1699～1784)著。山崎闇斎の弟子三宅尚斎にまなぶ。崎門学派の説をひろめた。名は順利。字(あざな)は斯治。通称は新二郎。* 論語は儒教の代表的な經典で四書の第一。//	「水筑氏蔵書記」の印あり。 2～裏表紙見返しに「文化四年丁卯歳五月初七写成 水筑彦太郎」の墨書あり。	H28-02
明倫・1719	論語微一〇巻	荻生徂徠著 (松本新六)	5			元文5刊	1740	和紙袋綴刊本 27.0×18.0	古学派の立場から論語を注釈したもの。江戸時代、荻生徂徠(茂卿)(1666～1728)撰。なお、古学派とは孔孟の真意をくみ取ろうとする儒学の一派のこと。他の註書と異なり、一句一章をあげたたちではなく、その一章また一節の義や註の理否等を概論したもの/国史大辞典/国書解題	句 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-02
明倫・1720	論語問答		1					和紙袋綴写本 23.5×16.4	論語は儒教の代表的な經典で四書の第一。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。//		H28-02
明倫・1724	心理学三巻	約瑟 般著 西周訳 (出雲寺万次郎)	3			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.2×15.1			H24-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1726	卜筮樞要上・下巻	平沢随貞口述 平沢随風筆記 平沢左仲輯 皆川知来校 (大・河内屋喜兵衛)	2			文化9刊	1812	和紙袋綴刊本 21.8×14.2		「橘河辺蔵書印」あり。	H28-02
明倫・1727	女今川		1					和紙袋綴写本 25.1×17.0	女今川は1巻。澤田きち著。自序あり。元禄13年刊。今川貞世の今川帖にもして、姉女子の訓戒となるべきことを絵入りの仮名文でかいたもの。/国書解題/大辞典(平凡社)	「田邨氏蔵書印」あり。	H28-02
明倫・1728	女今川教訓鑑		1					和紙袋綴刊本 22.9×15.8	*「女今川」は澤田きち著。今川貞世の今川帖にもして、姉女子の訓戒となるべきことを絵入りの仮名文でかいたもの。//		H24-03
明倫・1729	女今川教訓鑑		2					和紙袋綴刊本 23.0×15.8	*「女今川」は澤田きち著。今川貞世の今川帖にもして、姉女子の訓戒となるべきことを絵入りの仮名文でかいたもの。//		H24-03
明倫・1730	女小学	貝原益軒	2					和紙袋綴刊本 23.0×16.8 共に33丁	貝原益軒 *女子修身上の諸注意を仮名文で書き綴っている。嘉永3年(1850)刊。1巻。書は佐藤慎一郎の手に成る。/日本漢文学大辞典/	1730-1.2とともに同じテキスト(1冊完) 1730-2のみ外題・題箋有「女小学 全」内題「女小学」仮名交じり文、文字大きめ(20m程度) 序跋なし、本文のみ(33丁) 蔵書印朱印「上江小学高綱」*直径5.5cmの丸印あり「文能■堂」?(目録では貝原益軒著だが、本書の中では確認とれず)	H24-03
明倫・1732	女大学全	貝原益軒	2					和紙袋綴刊本 23.2×16 共に35丁	女大学とは儒教精神に基づいて姉女の道を説いたもの。貝原益軒の著。江戸時代の女子教育に大きな影響を及ぼした。/日本漢文学大辞典/	1732-1.2とともに同じテキスト(一冊完) 表紙の装丁異なる 1732-2のみ表紙に朱の書き入れ「教ノ部」仮名交じり文、文字大きめ(20m程度) 序跋なし、本文のみ(35丁) 蔵書印朱印「上江小学高綱」*直径5.5cmの丸印あり「文能■堂」?	H24-03
明倫・1734	女礼一〇巻	(城景正)	4			天保2写	1831	和紙袋綴写本 24.6×16.1		巻7・8欠	H24-03
明倫・1735	女論語	貝原益軒述 (大・石川屋和助等)	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.3 31丁	貝原益軒 述 *女四書の一つで女性のための教科書。女論語は唐の宋若昭のものといわれる。女四書とは中国、清代に王善升(王程)が編修した「女戒」「女論語」「内訓」「女範」の4種。康熙年間(1662〜1722)成立。日本にも伝わり、江戸前期に辻元甫が和訳した。明暦2年(1656)刊。尚、「女範」の代わりに「女孝経」が印行された。/日本漢文学大辞典/	巻首に見開きの挿絵 仮名交じり文(平仮名)・傍訓有 20m角程度の字体 外題無・内題「女論語」(益軒貝原先生述) 表表紙に墨書き「泥谷氏」	H24-03
明倫・1738	家礼		1					和紙袋綴写本 23.8×15.6	(文公)家礼とは中国、南宋時代に成立した礼儀作法の書。朱熹撰。5巻。附録1巻。官儀・庶民の家庭的規模における礼の実践的細則を定める。朱子家礼ともいう。通礼、冠礼、昏(婚)礼、喪礼、祭礼の5章より成る。文公とは朱熹のこと//大辞典(平凡社)	「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・1741	家礼会説	(鈴木翔房)	2			文政11号	1828	和紙袋綴写本 (1)23.5×15.6(2)24.5×16.7	(文公)家礼とは中国、南宋時代に成立した礼儀作法の書。朱熹撰。5巻。附録1巻。官儀・庶民の家庭的規模における礼の実践的細則を定める。朱子家礼ともいう。通礼、冠礼、昏(婚)礼、喪礼、祭礼の5章より成る。文公とは朱熹のこと//大辞典(平凡社)	(1741-1)23.5×15.6(1741-2)24.5×16.7 「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・1742	家礼講義	若林漁斎講義 (山内貞昌)	1			明和6写	1769	和紙袋綴写本 24.5×16.7	(文公)家礼とは中国、南宋時代に成立した礼儀作法の書。朱熹撰。5巻。附録1巻。官儀・庶民の家庭的規模における礼の実践的細則を定める。朱子家礼ともいう。通礼、冠礼、昏(婚)礼、喪礼、祭礼の5章より成る。文公とは朱熹のこと//大辞典(平凡社)		H28-02
明倫・1743	家礼書義講	(大塚静氏)	1			安永8写	1779	和紙袋綴写本 23.0×15.2	(文公)家礼とは中国、南宋時代に成立した礼儀作法の書。朱熹撰。5巻。附録1巻。官儀・庶民の家庭的規模における礼の実践的細則を定める。朱子家礼ともいう。通礼、冠礼、昏(婚)礼、喪礼、祭礼の5章より成る。文公とは朱熹のこと *書写者:大塚静氏(観瀾)(高綱潘校明倫堂教授)//大辞典(平凡社)	「大塚」の印あり。	H28-02
明倫・1745	家礼筆記二巻	三宅尚斎	1					和紙袋綴写本 24.2×15.7	三宅尚斎 * (文公)家礼とは中国、南宋時代に成立した礼儀作法の書。朱熹撰。5巻。附録1巻。官儀・庶民の家庭的規模における礼の実践的細則を定める。朱子家礼ともいう。通礼、冠礼、昏(婚)礼、喪礼、祭礼の5章より成る。文公とは朱熹のこと//大辞典(平凡社)		H28-02
明倫・1746	勸善訓蒙前編三巻(泰西)	箕作麟祥訳述 (東・中外堂・紀伊国屋梅治郎)	6			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.0×15.0	明治初期に修身の教科書として用いられた。『泰西勸善訓蒙』箕作麟祥訳。1867年(バ)で刊行されたボンスの著述を翻訳したもの。全3冊6編。内容は、本書の冒頭に「勸善学ノ大旨」として、「勸善学トハ人ノ務ノ学ニシテ其本旨人ヲシテ善ヲ行ハシムルニアリ」と記しているように、西洋で行われていた倫理修身を紹介しようとしたもの。訳者箕作麟祥は、蘭学者として高名な箕作阮甫の孫にあたり、父は『坤輿図説』の著者、箕作者吾。/国史大辞典/		H24-03
明倫・1747	勸善訓蒙後編四巻	箕作麟祥訳述 (東・中外堂・紀伊国屋梅治郎)	4			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.2×15.0	明治初期に修身の教科書として用いられた。『泰西勸善訓蒙』箕作麟祥訳。1867年(バ)で刊行されたボンスの著述を翻訳したもの。全3冊6編。内容は、本書の冒頭に「勸善学ノ大旨」として、「勸善学トハ人ノ務ノ学ニシテ其本旨人ヲシテ善ヲ行ハシムルニアリ」と記しているように、西洋で行われていた倫理修身を紹介しようとしたもの。訳者箕作麟祥は、蘭学者として高名な箕作阮甫の孫にあたり、父は『坤輿図説』の著者、箕作者吾。/国史大辞典/		H24-03
明倫・1748	勸善訓蒙(泰西)	箕作麟祥訳述 (東・紀伊国屋梅治郎)	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.3×14.5	明治初期に修身の教科書として用いられた。『泰西勸善訓蒙』箕作麟祥訳。1867年(バ)で刊行されたボンスの著述を翻訳したもの。全3冊6編。内容は、本書の冒頭に「勸善学ノ大旨」として、「勸善学トハ人ノ務ノ学ニシテ其本旨人ヲシテ善ヲ行ハシムルニアリ」と記しているように、西洋で行われていた倫理修身を紹介しようとしたもの。訳者箕作麟祥は、蘭学者として高名な箕作阮甫の孫にあたり、父は『坤輿図説』の著者、箕作者吾。/国史大辞典/		H24-03
明倫・1749	勸善訓蒙後編八巻	箕作麟祥訳述 (東・紀伊国屋梅治郎)	8			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.2×14.6	明治初期に修身の教科書として用いられた。『泰西勸善訓蒙』箕作麟祥訳。1867年(バ)で刊行されたボンスの著述を翻訳したもの。全3冊6編。内容は、本書の冒頭に「勸善学ノ大旨」として、「勸善学トハ人ノ務ノ学ニシテ其本旨人ヲシテ善ヲ行ハシムルニアリ」と記しているように、西洋で行われていた倫理修身を紹介しようとしたもの。訳者箕作麟祥は、蘭学者として高名な箕作阮甫の孫にあたり、父は『坤輿図説』の著者、箕作者吾。/国史大辞典/		H24-03
明倫・1750	高等小学修身書		1					和紙袋綴刊本 22.5×15.0	高等小学修身書は修身の教科書 *修身とは旧制の小・中学校などの教科の一つ。教育勅語をよりどころとする道徳教育を授けたもの。/国史大辞典/		H24-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1751	西国立志編	中村正直訳 (東・雁金屋清吉等)	21			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.9×15.6	中村正直 訳//		H24-04
明倫・1755	修身訓蒙後編二巻(小学必修)	関徳著 (大・吉岡平助)	2			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 21.8×14.8	* 修身とは 旧制の小・中学校などの教科の一つ。教育勅語をよりどころとする道徳教育を授けたもの。//		H24-04
明倫・1756	小学新編三巻	岡本監輔編 (東・内外兵事新聞局)	3			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 22.2×14.8			H24-04
明倫・1757	尋常小学修身書	教育学館編輯 (東・大日本図書株式会社)	1			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 22.4×14.8	* 修身の教科書。* 修身とは 旧制の小・中学校などの教科の一つ。教育勅語をよりどころとする道徳教育を授けたもの。//		H24-04
明倫・1758	西洋品行論一二巻	中村正直訳 (東・中村正直)	7			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 23.3×15.8	中村正直 訳//	欠1〜5巻	H24-04
明倫・1759	西洋品行論一二巻	中村正直訳 (東・中村正直)	15			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 23.3×15.6	中村正直 訳//		H24-04
明倫・1760	曹大家女論語図会		1					和紙袋綴刊本 25.2×18.0	女四書の一つで女性のための教科書。女論語は唐の宋若昭のものといされる。女四書とは中国、清代に王晋升(王相)が編修した「女誠」「女論語」「内訓」「女範」の4種。康熙年間(1662〜1722)成立。日本にも伝わり、江戸前期に辻原元甫が和訳した。明暦2年(1656)刊。尚、「女範」の代わりに「女孝経」が印行された。//		H24-04
明倫・1762	中等倫理書二巻	井上円了撰 (東・集英堂・小林清一郎)	1			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 22.5×14.8	井上円了撰//		H24-04
明倫・1763	中等倫理書	井上円了撰 (東・集英堂)	1			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 22.6×14.9	井上円了撰//		H24-04
明倫・1764	帝国実業読本	宝文館編輯所 編集 (東・宝文館)	5			明治43刊	1910	刊本			R6-03
明倫・1765	日本女鑑二巻	風當朔郎編 (東・小林義則)	1			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 22.5×14.4			H24-04
明倫・1766	日本女鑑二巻	風當朔郎編 (東・小林義則)	1			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 22.5×14.5			H24-04
明倫・1767	日本立志編三巻	千河岸貴一著 (大・吉岡平助)	3			明治15刊	1882	刊本 22.1×15.1		1〜目次1ページ「宮崎県下嶋田小学日向児湯郡」の印あり。 本文1ページ「鹿児島県下嶋田小学日向児湯郡」の印あり。 2〜「第五学区橋瀬小学第廿六中学区」の印あり。裏表紙「北高鍋村立橋瀬小学校」の墨書あり。 巻末「明治十五年秋八月購之 橋瀬小学校」の墨書あり。 3〜「第五学区橋瀬小学第廿六中学区」の印あり。	H30-05
明倫・1770	明孝慈列女図会	(大・敦賀屋喜藏等)	1			天保6刊	1835	和紙袋綴刊本 25.4×18.2		「上江小学高鍋」の印あり。	H28-02
明倫・1771	万志つけ方能次第	(鈴木翔房)	1					和紙袋綴写本 26.8×19.0		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・1773	女諸礼集大全抜書	姫井苺実著	1			天保10写	1839	和紙袋綴写本 25.2×16.0			H28-02
明倫・1774	鑑草六巻	中江藤樹著	2			慶安3刊	1650	和紙袋綴刊本 28.0×18.2	倫理書。6巻。中江原(藤樹)著。寛文9年刊。仏教的見地に立って倫理道徳を説いた書。//大辞典(平凡社)	「明倫堂蔵書記」の印あり。 2〜裏表紙見返しに「慶安三年かのとら五月九日写之」の墨書あり。	H28-02
明倫・1775	家政要旨三巻	永峰秀樹翻訳 (甲府・内藤伝衛門)	2			明治12刊	1879	刊本 22.1×14.9		「田邨氏蔵書印」あり。	H30-05
明倫・1778	釈親考全	伊藤東涯 安原貞平校 (江・文刻堂)	1			享保20刊	1735	刊本			R6-03
明倫・1779	新鑑草	(大・河内屋茂兵衛)	5			寛政4刊	1792	和紙袋綴刊本 25.0×17.7	*「鑑草」は倫理書。6巻。中江原(藤樹)著。寛文9年刊。仏教的見地に立って倫理道徳を説いた書。//		H28-02
明倫・1780	日本品行論二巻	荒野文雄著 (東・荒野文雄)	2			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 22.5×15.0			H24-04
明倫・1782	童蒙教草初編五巻	福沢諭吉訳 (尚古堂)	10			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.5×15.0	童蒙教草は、イソップ物語などの寓話を福澤諭吉が訳したもの。5冊。明治5年刊。小学校で啓蒙書の教科書として用いられた。 * “T原著はアメリカ人ウェーランドのモラル・サイエンスthe Moral Class-Book” / William Chambers and Roberts Chambers / Chambers's educational course/福沢諭吉が明治5年に翻訳したもの//滋賀大学付属図書館	在全5冊(2組) 初編・巻之1〜3 二編・巻之4・5 外題題箋 1782-1・8のみ「童蒙をしへ草」 蔵書印「上江小学高鍋」(すべてに)1782-1・7(1・2巻)のみ「島田小学」 1782-10に書付添付	H28-02
明倫・1783	童蒙をしへ草	福沢諭吉訳 (尚古堂)	3			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 18.7×13.0	童蒙教草は、イソップ物語などの寓話を福澤諭吉が訳したもの。5冊。明治5年刊。小学校で啓蒙書の教科書として用いられた。 * “T原著はアメリカ人ウェーランドのモラル・サイエンスthe Moral Class-Book” / William Chambers and Roberts Chambers / Chambers's educational course/福沢諭吉が明治5年に翻訳したもの//滋賀大学付属図書館	在全3冊(初編) 初編・巻之1〜3 外題題箋「童蒙をしへ草」 (蔵書印なし)	H28-02
明倫・1784	童蒙必読	(青山堂)	1			明治5刊	1872	刊本 21.9×15.1	往来物の入門教科書。3巻。明治3年刊。橋爪貴一編。明治初期に入門教科書として広く用いられた。皇詮(こうし)之巻(明治3年)、年号之巻(明治3年)、州名之巻(明治5年)で、歴代天皇・年号・国尽からなる。//滋賀大学付属図書館		H30-05
明倫・1785	童蒙必読	橋爪貴一著 (東・雁金屋清吉)	6			明治5刊	1872	刊本 22.0×14.6	往来物の入門教科書。3巻。明治3年刊。橋爪貴一編。明治初期に入門教科書として広く用いられた。皇詮(こうし)之巻(明治3年)、年号之巻(明治3年)、州名之巻(明治5年)で、歴代天皇・年号・国尽からなる。//滋賀大学付属図書館	「上江小学高鍋」印あり。	H30-05
明倫・1786	本朝孝子伝	(西村孫衛門)	1			貞享3刊	1686	和紙袋綴刊本 25.5×18.0	3巻。藤井淵斎著。狩野永敬 画。貞享3年刊。天子・公卿・士庶・婦女・今世の5部門に分ち、仁徳天皇や曾我兄弟など60人の孝子の伝を漢文で記し、挿絵を加えたもの。//大辞典(平凡社)	送返	H28-02
明倫・1787	民家童蒙解	常盤貞尚述 (京・勝村治衛門)	2			天明1刊	1781	和紙袋綴刊本 22.4×15.8 43丁・57丁	3巻。新井堯民著。享保19年の自序跋あり。「民家分量記続編」と内題している。「民家日常の諸道徳を仮名書で平易に説いたもの。/圖書解題/大辞典(平凡社)	仮名交じり文。ルビ有 外題無 巻頭に「常盤貞尚述/民家童蒙解/京都書肆 奎星堂発兌」(出版社の朱印「勝村氏奎星堂正本記」)* 常盤貞尚(堯民)のこと 内題「民家童蒙解」 構成:序・目録(計3丁)、巻上之一(19丁)、巻上之二(19丁)、巻下之一(21丁)、巻下之二(20丁)、附録(16丁) 序①享保19年序②享保20年 奥書刊行年:天明元年 蔵書印朱印「上江小学高鍋」 *「民家童蒙解」は圖書解題・大辞典では「新井堯民著」、「圖書総目録」では常盤貞尚(堯民)著となっている	H24-04
明倫・1788	小笠原流百ヶ条		1					和紙袋綴写本 14.5×21.8			H28-02
明倫・1789	正信集	本田佐渡守著	1			慶長17写		和紙袋綴写本 26.5×19.0	本田佐渡守 著//		H24-04
明倫・1792	武士訓	蟠龍子長秀著 (京・茨木多左衛門)	5			正徳5刊	1715	刊本	蟠龍子長秀著//		R6-03
明倫・1793	武士訓	蟠龍子長秀著 (京・茨木多左衛門)	1			享保6刊	1721	和紙袋綴刊本 22.7×15.0	蟠龍子長秀著//	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1794	武林隠見録一九巻		4					和紙袋綴写本 27.0×19.0	写本19巻。四冊。諸士の逸事雑説を集記したもの。元和2年徳川家康が病に臥すことから筆を起こしている。明治8年内務省に於いて19巻を4冊に写伝したもの。/増訂圖書解題/	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-02
明倫・1795	文訓・武訓(合本)	貝原益軒著 (京・茨木多左衛門)	1			享保2刊	1717	和紙袋綴刊本 22.6×15.8	貝原益軒著//	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-02
明倫・1796	礼節要抄	松岡明義著 (東・松岡明義)	1			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 22.4×15.4			H24-04
明倫・1800	菅家遺戒		1			嘉永5刊	1852	和紙袋綴刊本 26.0×18.7		句送返 表紙見返しに「此書松岡義明君所贈 元治紀元九月十九日劉節識之」の墨書あり。	H28-02
明倫・1802	阿淡孝子伝三巻	福田林右衛門著	2					和紙袋綴刊本 22.0×15.2	阿淡は地名//	句送返	H24-04
明倫・1803	阿淡孝子伝	(阿波・立石信成)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 22.1×15.1	阿淡は地名//		H24-04
明倫・1805	鑑古録	横須賀安枝編集 (東・和泉屋金右衛門等)	1			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 25.8×17.8		句返	H24-04
明倫・1806	勸善余論	虚舟子著(神奈川・木村洞石)	1			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 19.3×13.1	虚舟子 著//		H24-04
明倫・1807	啓蒙智慧の環	於菟子訳述	2					和紙袋綴写本 20.5×13.8	『啓蒙智慧の環』は明治初期に教科書として用いられた書。爪生寅訳述。全3冊。(明治5年刊?)。「小学教則」の「読本読方」科に示された科学読みのもの一つ。当時は読み方の授業でも、科学の本が多く使われていた。//宮城教育大学図書館	3166を見よ 幕末・維新期の英中対訳学習書 原書はA circle of knowledge in 200 lessons 24篇200課よりなるを英和対訳にしたものか?	H24-04
明倫・1808	啓蒙智慧の環	於菟子訳述 (東・和泉屋吉兵衛)	3			明治6刊	1873	刊本 18.1×12.1	『啓蒙智慧の環』は明治初期に教科書として用いられた書。爪生寅訳述。全3冊。(明治5年刊?)。「小学教則」の「読本読方」科に示された科学読みのもの一つ。当時は読み方の授業でも、科学の本が多く使われていた。//宮城教育大学図書館	*国史大辞典の「智環啓蒙」を参照 幕末・維新期の英中対訳学習書「智環啓蒙」を邦訳にしたもの(英和対訳になった)。原書よりキリスト教に関する最終篇9課を削る。新たに日本論が加えられた 「上江小学高鶴」印あり。	H30-05
明倫・1809	告志篇全	徳川斉昭(弘道館)	1			文久3刊	1863	和紙袋綴刊本 25.8×17.8			H24-04
明倫・1810	故事俚諺会鈔一四巻(蒙求編)	(京・書堂同版)	4			元禄3刊	1690	和紙袋綴刊本 22.7×15.3		巻之三～十四(一・二欠) (校書順に)三～五、十二～十四、六～八、九～十一巻 蔵書印「明倫堂蔵書記」 裏表紙見返しに「学校御用書物」の墨書あり。 (1810-1・3)	H28-02
明倫・1814	諺草	貝原好古纂輯	3					和紙袋綴刊本 22.5×15.7	7巻。貝原好古著。元禄13年刊。和漢佛の諺をいろは順に並べて、出所と解説を示す。/増訂圖書解題/大辞典(平凡社)	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-02
明倫・1817	修身論三巻	阿部泰蔵訳 (文部省)	3			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.5×15.2	*修身とは 旧制の小・中学校などの教科の一つ。教育勅語をよりどころとする道徳教育を授けたもの。//		H24-04
明倫・1819	小学纂要六巻	近藤元幹述 (東・嵩山堂)	4			明治19刊	1886	和紙袋綴刊本 25.8×18.4		句送返	H24-04
明倫・1820	小学摘要	大槻如電編纂	2			明治29刊	1896	和紙袋綴刊本 22.5×15.0		句送返 表紙見返しに「高鶴学校印章」の印あり。 1〜明治卅一年四月十一日買求」の墨書あり。 2〜明治三十三年二月一日 大阪三木佐助書店寄贈」の墨書あり。	H28-02
明倫・1822	積善録		1					和紙袋綴刊本 22.5×15.8			H28-02
明倫・1823	西洋品行論	中村正直訳述 (大・伊丹屋善兵衛等)	2			明治11刊	1878	刊本 23.2×15.7	中村正直 訳述//	「堤氏文庫」の印あり。	H30-05
明倫・1825	早雲寺殿廿一ヶ条	(早雲寺大隆禅師禅室)	1			天文11写	1542	和紙袋綴刊本 23.6×16.3	北条長氏著。1巻。第一神仏を信すべきこと以下武士の日常心得を記したもの。(ウキペディア:戦国時代に相模国の後北条氏が定めたとされる分国法。北条早雲が定めたと伝えられる。全21ヶ条から成るが、成立年代は不明。内容は、主君への奉公や生活上の心得などを示したものが大部分という。江戸時代より前の写本等が存在せず、北条早雲が定めたかどうか疑わしいという見方もある)//大辞典(平凡社)		H24-04
明倫・1826	中等倫理書	井上円了撰 (東・小林八郎)	5			明治31刊	1898	和紙袋綴刊本 22.7×15.0 丁数不明		24年度電子化時一部修復(1826-2)	H24-04
明倫・1828	東照宮御遺訓		1					写本	「東照宮御遺訓」(とうしょうぐうごゆいくん)は徳川家康が残したと言われる家訓//		R6-03
明倫・1829	東照宮御遺訓	徳川家康遺訓	1					和紙袋綴写本 26.3×19.2 127丁	「東照宮御遺訓」(とうしょうぐうごゆいくん)は徳川家康が残したと言われる家訓//	大正14年8月21日合本(表紙は厚紙・裏表紙に合本のむね記載)表紙(新)「東照宮御遺訓並二附録合本 完」巻頭(?)直書「東照宮御遺訓」明倫堂蔵書印(と思われる)あり 巻末に書入れ「学校御用」巻末に「此書元明倫堂蔵書目録中御遺訓 ■附録分の二 ■■大正十四年八月廿一日曜書整理の際合 ■巻冊」	H24-04
明倫・1830	東照宮御遺訓附録	徳川家康遺訓	1					和紙袋綴写本 25.4×18.2	「東照宮御遺訓」(とうしょうぐうごゆいくん)は徳川家康が残したと言われる家訓//		H28-02
明倫・1831	彼我言行録	赤松渡編輯 (香川・高阪岩太)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 14.9×10.8			H24-04
明倫・1832	常陸帯		1			慶応4刊	1868	和紙袋綴刊本 18.5×12.6	* 同名の書もあるが、分類から藤田東湖の著作のものか? 水戸藩士で学者の藤田東湖の著。上下2巻。水戸藩主徳川斉昭による天保期藩政改革の経緯を詳細に記録したもの/大辞典/国史大辞典		H24-04
明倫・1833	富貴自在集二巻	大関為孝 (江・須原屋源助等)	2					刊本			R6-03
明倫・1834	婦女鑑六巻	西村茂樹編纂 山田安栄校勘 加部殿夫修文 (京・吉川半七)	6			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 23.2×15.6			H24-04
明倫・1838	大和為善録三巻	よもぎが仙入 (藤井懶斎)著 (大・安井弥兵衛)	5			正徳3刊	1713	刊本			R6-03
明倫・1839	幼学綱要七巻		7			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 23.3×15.5		在全七冊 (宮内省蔵版) 外題題箋「幼学綱要」 巻末刊年:明治15年 挿絵多数	H28-02
明倫・1840	養生訓八巻附録	貝原益軒続録 (大・河内屋善兵衛等)	4			文化10刊	1813	和紙袋綴刊本 22.2×15.6	「養生訓」は江戸時代の代表的な養生法指導書。貝原益軒が1713年(正徳3)84歳のときに大成したもの。8巻。中国医書からの取捨選択と自分の体験に基づき養生法を精神・肉体両面から懇切・具体的に述べたもので、総論、飲食、飲茶、煙草、慎色欲、五官、二便、洗浴、慎病、折腰、用藥、養老、育幼、鍼、灸法の項目からなる。/大辞典(平凡社)//		H24-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1841	六諭衍義大意	室鳩巢（佐土原・学習館）	1			元治2刊	1865	和紙袋綴刊本 26.0×18.0 41丁		仮名交じり文、漢字には振仮名 外題題箋「六諭衍義」(題箋は後からつけられたものか?) 佐土原学習館蔵板/元治二乙丑年四月再板 表紙見返しに書入「後小路綾部/高鍋後小路/綾部藏書」(裏表紙見返しにも同様と「綾部主」)巻末書入れ「綾部■一郎/承之」 1巻・1冊 清・世祖勅撰 佐土原藩の藩校「佐土原学習館」(文政8設立・島津氏)の出版物 * 成立年は「近世藩校における出版書の研究」(吉川公文館)によると天保年間	H24-04
明倫・1845	奉納神社仏閣堂場記		1			天保12写	1841	写本			R6-03
明倫・1846	注心経全	町元香空編輯(東・森江佐七等)	1			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 25.9×18.4		送返	H24-04
明倫・1848	儒仏問答三巻		1					和紙袋綴刊本 27.4×17.5	1巻。林道春(羅山)著。林信壽の間に、仏者煩祐が答えた仏法、儒学上の問答。/國書解題/	「明倫堂蔵書記」の印あり。 裏表紙見開きに「高鍋縣黄舎」の墨書あり。	H28-02
明倫・1850	古道訓蒙頌	久保李茲(堺・苗道舎塾)	1					和紙袋綴刊本 22.8×15.8	1巻。久保季?著。安政4年鶴峰戊申の序有、同5年刊。神道のことを五言二百韻に賦して、童蒙頌歌の用に供したるもの。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・1851	古道訓蒙頌	久保李茲(堺・苗道舎塾)	1					和紙袋綴刊本 22.8×15.8	1巻。久保季?著。安政4年鶴峰戊申の序有、同5年刊。神道のことを五言二百韻に賦して、童蒙頌歌の用に供したるもの。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H28-02
明倫・1852	古道訓蒙頌	久保李茲(堺・苗道舎塾)	12					和紙袋綴刊本 22.4×15.8	1巻。久保季?著。安政4年鶴峰戊申の序有、同5年刊。神道のことを五言二百韻に賦して、童蒙頌歌の用に供したるもの。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返	H24-04
明倫・1854	神教大意	松下永福編輯(名古屋・片野東四郎)	1			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.7×15.6			H24-04
明倫・1855	神代紀草牙		1					和紙袋綴刊本 25.5×17.9	「日本書紀」の解説書、3巻。栗田土満著。文化7年自序、同8年本居大平の序あり。日本書紀の中神代巻を註釈したもの。賀茂真淵の説・本居宣長の古事記伝の説を多くもらっている。本居大平の評註もある。/國書解題/		H24-04
明倫・1856	神代紀草牙三巻	本居宣長校正(大・河内屋勸助)	2			天保14刊	1843	和紙袋綴刊本 25.5×17.9	「日本書紀」の解説書、3巻。栗田土満著。文化7年自序、同8年本居大平の序あり。日本書紀の中神代巻を註釈したもの。賀茂真淵の説・本居宣長の古事記伝の説を多くもらっている。本居大平の評註もある。/國書解題/		H24-04
明倫・1857	神代系図	平田篤胤謹記	1			文政1刊	1804	和紙袋綴刊本 26.5×18.5	江戸時代の国学者、平田篤胤著。1巻。「古史徴」1巻の附録を単行したもの。文政元年自跋あり。天之御中主神より、天種子命に至る神代の系図。/國書解題/		H24-04
明倫・1859	大道問答全	千家尊福講述 島田豆夫筆録(出雲国・千家武主)	1			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 22.0×15.0			H24-04
明倫・1860	大道本義	浦田長民撰	1					和紙袋綴刊本 22.3×15.0		句返	H24-04
明倫・1862	保建大記打聞	谷重遠講義(京・柳枝軒)	1			享保5刊	1720	和紙袋綴刊本 25.2×18.2	雑史。3巻。谷重遠講説。享保5年刊。栗山■(愿?)著の保建大記(明倫2154参照)の全文に関する講説を門人等が編輯したもの。本文の後に仮名書きで評註。* 保建大記は明倫2154参照//大辞典(平凡社)		H24-04
明倫・1863	神道唯一問答二巻(合本)	神道 派本院(東・神道 派本院)	1			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 23.0×15.7			H24-04
明倫・1864	玉多須喜	平田篤胤著(平田篤胤)	6					和紙袋綴刊本 26.6×18.4	*「玉櫛/玉手櫛」(たまだすき)は江戸時代の国学者、平田篤胤著。神道書。1巻。文政12年男款胤序。毎朝の神拝の心得等を書いたもの。/國書解題/大辞典(平凡社)		H24-04
明倫・1865	靈能真柱二巻	平田篤胤著(平田篤胤)	2			文化9刊	1812	和紙袋綴刊本 26.5×18.6 65丁・63丁	江戸時代の国学者、平田篤胤著。2巻。文化9年堤朝風の序。我が国の開闢説より天地黄泉の区別を説明し、国学者の重任を述べる。/國書解題/大辞典(平凡社)	外題・題箋「多満能美者し良(たまのみはしら)上」「多満能三者し良(たまのみはしら)下」仮名で表記 内題「靈能真柱/平田篤胤著」仮名交じり文、力字で振り仮名あり。説明図あり。構成:序・藤原良真(3丁)・序・文化9年堤朝風(3丁)、本文上(56丁)、下(58丁)、跋・大野廣則(3丁)、刻成書目(1丁) 蔵書印朱印「明倫堂蔵書印」	H24-04
明倫・1866	鬼神集説一卷	佐藤直方(京・寿文堂)	1			元禄2刊	1689	和紙袋綴刊本 26.5×18.8		送返	H28-02
明倫・1868	神代正語三巻	(京・吉野屋仁兵衛)	6			文政刊	1818 ～ 1829	和紙袋綴刊本 26.6×18.4	神代正語(かみよのまさごとは)は3巻。本居宣長撰。寛政元年刊。仮名交じり文で書かれた神代物語。「古事記」の神代の巻を読み下し文で記したもの、漢風の混じらない神代の古伝の正しい姿を世に普及し初学のための入門書とした。/本居宣長事典/大辞典(平凡社)/國書解題		H24-04
明倫・1869	神代正語三巻	(尾張・永楽屋東四郎)	6			寛政刊	1789 ～ 1800	和紙袋綴刊本 26.2×18.0	神代正語(かみよのまさごとは)は3巻。本居宣長撰。寛政元年刊。仮名交じり文で書かれた神代物語。「古事記」の神代の巻を読み下し文で記したもの、漢風の混じらない神代の古伝の正しい姿を世に普及し初学のための入門書とした。/本居宣長事典/大辞典(平凡社)/國書解題		H24-04
明倫・1870	古語拾遺	齋部広成撰(大・河内屋喜兵衛)	6			文化4刊	1807	和紙袋綴刊本 25.1×17.8	平安初期に書かれた歴史書。著者は齋部広成。1巻。大同年間成立。齋部氏の由緒・旧績を録し天皇に献上したもの。記紀に漏れた事実を伝えていることも少なくなく、上古研究の資料ともなる。漢文体。(807年(大同2)2月13日完成。忌部(齋部)氏は大和朝廷時代には中臣氏と並んで祭祀を担当していたが、大化改新後は中臣氏から藤原氏が出て政界で有力になると、中臣氏も奈良時代には祭祀関係の要職を独占するようになった。これを救いた広成は、806年8月に常弔使の任命をめぐって中臣氏と争い、平城天皇から下問のあったのを機会に、一族	送返	H24-04
明倫・1871	古語拾遺	齋部宿禰撰(大・河内屋喜兵衛)	1			文化4刊	1807	和紙袋綴刊本 25.2×17.9	平安初期に書かれた歴史書。著者は齋部広成。1巻。大同年間成立。齋部氏の由緒・旧績を録し天皇に献上したもの。記紀に漏れた事実を伝えていることも少なくなく、上古研究の資料ともなる。漢文体。(807年(大同2)2月13日完成。忌部(齋部)氏は大和朝廷時代には中臣氏と並んで祭祀を担当していたが、大化改新後は中臣氏から藤原氏が出て政界で有力になると、中臣氏も奈良時代には祭祀関係の要職を独占するようになった。これを救いた広成は、806年8月に常弔使の任命をめぐって中臣氏と争い、平城天皇から下問のあったのを機会に、一族	送返 「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・1872	祭祀末格説訂齋先生講義	久米訂齋講義(城里威護書)	1			明和5写	1768	和紙袋綴写本 24.0×16.8	久米訂齋講義*「祭祀末格説」は三宅尚斎の著作:國書解題//	「城氏」の印あり。表紙見返しに「城氏」の墨書あり。	H28-02
明倫・1875	上等葬祭図式全		1					和紙袋綴刊本 26.7×18.4			H24-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1876	葬祭略式		1					和紙袋綴写本 28.5×21.0			H28-02
明倫・1877	喪義略		1					和紙袋綴刊本 25.9×18.5			H24-04
明倫・1880	正法眼蔵随聞記全	懷英編（京・貝派書院）	1			明和6刊	1769	和紙袋綴刊本 26.5×18.7			H28-02
明倫・1882	心経捷解	洪川禅師著	1					和紙袋綴刊本 24.3×17.1	送返	堤長揆氏の挿入文在り	H24-04
明倫・1884	蒼龍窟年譜	北条時敬編（東・大倉保五郎）	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 23.7×15.7		句返	H24-04
明倫・1885	蒼龍窟年譜	釈宗寅等敬編（東・大倉保五郎）	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 23.7×15.7		句	H24-04
明倫・1886	蒼龍窟年譜	釈宗寅等編 北条時敬編輯（東・大倉保五郎）	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 23.7×15.7		句返	H24-04
明倫・1887	蒼龍窟年譜	釈宗寅等敬編（東・大倉保五郎）	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 23.7×15.6		句返	H24-04
明倫・1888	蒼龍広録五卷	今北洪川著（東・東海玄虎）	5			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 23.0×15.4		句送返	H24-04
明倫・1889	伝心法要全	東恵仁編輯（愛知・矢野平兵衛）	1			明治19刊	1886	和紙袋綴刊本 25.3×17.9		送返	H24-04
明倫・1892	仏祖三経指南	（東・金地院住職・一色伊仲）	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 26.1×18.5	*『仏祖三経指南』は明代の曹洞宗の僧道滂の著作。//		H24-04
明倫・1893	仏祖三経指南	富沙歌道露述（東・森江佐七）	1					和紙袋綴刊本 26.3×18.2	*『仏祖三経指南』は明代の曹洞宗の僧道滂の著作。//	送返	H24-04
明倫・1894	明良洪範統	真田増普述	1					和紙袋綴刊本 26.3×18.2	*洪範は「書経」の一編。洪は大、範は規範の意。天下を治める大法を述べた書。皇極は洪範九畴と称される9つの大法のひとつ。//		H24-04
明倫・1895	金剛略疏	元賢述（京・山城屋佐兵衛）	1					和紙袋綴刊本 25.5×18.2		送返	H24-04
明倫・1897	孝悌和讃	松平越中守（天保二・再写成）	1			天保2写	1831	和紙袋綴写本 24.3×16.2			H24-04
明倫・1899	一鹹味	木宮恵満編集（京・出雲寺文次郎）	1			明治19刊	1886	和紙袋綴刊本 26.2×18.7		送返 「堤氏文庫」の印あり。	H28-02
明倫・1900	槐安国語開筵垂示七卷	白隠慧鶴著	5			寛延3刊	1750	刊本		送返	R6-03
明倫・1902	金剛経全	大蔵禅師口訳 道川禅師着語（京・貝葉書院）	1			康暦2刊	1380	和紙袋綴刊本 26.1×18.5		送返	H24-04
明倫・1903	三教指帰全	空海（京・藤井佐兵衛）	1			享保6刊	1721	和紙袋綴刊本 25.7×18.5		句送返	H24-04
明倫・1906	禅関策進義解三卷	稽山竺堯著（京・出雲寺文治郎）	1			天保7刊	1836	和紙袋綴刊本 25.6×18.1		送返	H24-04
明倫・1907	禅臨済宗眼目	鈴木子順筆記（東・梅花書院）	1			明治30刊	1897	和紙袋綴刊本 22.9×15.6			H24-04
明倫・1926	耶蘇教略解全		1					和紙袋綴刊本 20.8×13.9			H24-04
明倫・1931	新訳全書（官話）	（大・美国聖經会）	1			明治22刊	1889	和紙袋綴刊本 19.3×13.2		白	H24-04
明倫・1934	新訳聖書約翰伝	（大英国聖書会社）	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 22.6×15.0			H24-04
明倫・1940	皇国官名誌一卷	（大・書籍会社）	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.4×15.1			H24-04
明倫・1941	（増補）日本外史稱呼訓	生駒貞幹著	1			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 18.3×12.9	*「日本外史」は歴史書。22巻。頼山陽（久太郎）著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならいう漢文体で叙述したもの。//	送返	H24-04
明倫・1942	海外異伝	斎藤正謙著	1			嘉永3写	1850	和紙袋綴写本 24.4×16.8	1巻。斎藤正謙著。日本人が海外であった事実を収録したもの。山田長政・濱田弥兵衛・鄭成功などの人物について漢文で記している。/圖書解題/		H24-04
明倫・1943	紀事論説	大槻収蔵著 中島省斎閑（高山堂）	1					和紙袋綴刊本 12.3×8.4			H24-04
明倫・1944	尽忠録	斎藤静軒（国分平校正 白石時康訓點（仙台・伊勢安右衛門）	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 22.4×14.8	「盡忠録」は1巻。実録書。斎藤馨著。嘉永2年刊。所謂伊達騒動について伊達安基が主家のために挺身した精忠大節の様を漢文にて録した書。明治15年再刊。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句送返	H24-04
明倫・1945	西肥遺芳	狩野雄一編纂（佐賀・西肥日報株式会社）	1			大正6刊	1917	和紙袋綴刊本 22.7×15.7			H24-04
明倫・1946	読史餘論一二巻	新井白石著 萩原英助校（江・和泉屋金右衛門等）	12			万延1刊	1860	刊本	摂関政治の開始から徳川家康制覇に至る政權の変遷経過を論じた史書。新井君美（白石）著。白石が主君・徳川家宣に日本古来の治乱興亡の沿革について進講した原稿。徳川氏制覇の必然性を跡づけた史論であるが、〈九変・五変〉の時代区分と、その変遷をもたらした事件や人物の行動についての論評に、白石独自の歴史観が表れている点で、近代以前の代表的史書の一つに数えられる。 *『読史余論』の自跋には「右三冊ハ正徳二年春夏之間、座ヲ賜テ古今ヲ論シ申セン時ノ講義ノ基本也」とあるが、表題に稿本が完成されたのはそれ以前であることが漢文の自		H24-04
明倫・1947	義尚公御馬召初之記		1					和紙袋綴写本 26.8×19.1		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・1949	新撰年表	箕作蓬谷閑（江・山城屋佐兵衛）	1					和紙袋綴刊本 25.7×17.9	1巻。清宮秀堅著。安政年間刊行。日本の年表。明治年間に増補・訂正された。//大辞典(平凡社)//	「日向高鍋城氏国籍」の印あり。	H28-02
明倫・1950	新撰年表	箕作蓬谷閑（佐倉順天堂）	1			嘉永7刊	1854	和紙袋綴刊本 25.7×17.7	1巻。清宮秀堅著。安政年間刊行。日本の年表。明治年間に増補・訂正された。//大辞典(平凡社)//	句送返	H24-04
明倫・1951	新撰年表	箕作蓬谷閑（江・山城屋佐兵衛等）	1			嘉永7刊	1854	和紙袋綴刊本 25.5×17.8	1巻。清宮秀堅著。安政年間刊行。日本の年表。明治年間に増補・訂正された。//大辞典(平凡社)//	送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H28-02
明倫・1952	新撰年表	箕作蓬谷閑（佐倉順天堂）	1			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 25.4×17.8	1巻。清宮秀堅著。安政年間刊行。日本の年表。明治年間に増補・訂正された。//大辞典(平凡社)//	句送返 「財津蔵書」の印あり。	H28-02
明倫・1953	（増補）新撰年表	清宮秀堅原著 安藤一郎訂正増補（東・蓮沼善兵衛）	1			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 18.2×12.0	「新撰年表」は1巻。清宮秀堅著。安政年間刊行。日本の年表。明治年間に増補・訂正された。//大辞典(平凡社)//		H28-02
明倫・1954	大日本国帝王年代三巻		1					和紙袋綴刊本 27.0×19.0	「大日本帝国年代記」は3巻。?圓智著。神代以来、第113代靈元天皇に至る年代記。下段には支那の事実を我が年代にあて、中国の年号も挙げて順掲している。寛文9年作。/圖書解題/大辞典(平凡社)	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-02
明倫・1955	大日本国帝王年代目録（中巻）	円智撰 吉田光由集	2					和紙袋綴刊本 27.2×19.2	*「大日本帝国年代記」は3巻。?圓智著。神代以来、第113代靈元天皇に至る年代記。下段には支那の事実を我が年代にあて、中国の年号も挙げて順掲している。寛文9年作。//	「黒水家蔵」の印あり。	H28-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1956	大日本国帝王略記		1					和紙袋綴刊本 26.0×18.3	1巻。神武天皇から第116代櫻町天皇までの略記。末に「大日本中興武將略記」として源頼朝以下徳川吉宗に至る39人を略記する。当時の作。/國書解題/	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-02
明倫・1957	泰平年表		1					和紙袋綴写本 24.5×16.7	年代記。5巻6冊。国学者の大野広城編。1841年(天保12)刊。徳川家康から家斉まで。1542年(天文11)より1837年(天保8)まで300年間の年代記で、幕府の行事、事変、事件、奇談など詳細な説明を施している。* 出版元とも幕府の処罰を受け、著者は丹波綾部藩に預けられ、没した。しかし、絶版後もひそかに写され、続編(1838年より52年(嘉永5))さえ編集された。* 続編「泰平年表後記」「泰平年表嗣記」/國書解題/大辞典(平凡社)		H24-04
明倫・1958	和漢年契	浅野高蔵 (大・葛城長兵衛等)	1			文化2刊	1805	和紙袋綴刊本 23.0×18.0	1巻。浅野高蔵著。寛政8年三村其原の序。神武天皇から寛政年中までの和漢対照の年表。各重要事項や人物等を記している。/國書解題/大辞典(平凡社)	句	H28-02
明倫・1959	和漢年契	浅野高蔵 (江・吉田屋文三郎)	1			万延2刊	1861	和紙袋綴刊本 26.1×17.8	1巻。浅野高蔵著。寛政9年三村其原の序。神武天皇から寛政年中までの和漢対照の年表。各重要事項や人物等を記している。/國書解題/大辞典(平凡社)	返	H24-04
明倫・1961	古今万国綱鑑録三巻	英国横礼松著 大槻誠之訓点 (東・東生亀次郎)	3			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 26.1×18.6		句送返	H24-04
明倫・1962	五洲紀事	寺内章明訳編 (東・紀伊国屋源兵衛)	1					和紙袋綴刊本 22.3×15.0			H24-04
明倫・1963	万国史略	師範学校編輯 (東・文部省)	2			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.2×14.8	2巻2冊。文部省が刊行した官版の小学校歴史教科書。明治7年刊。「史略」(明倫1911)の2～4巻の支那・西洋史の部分を詳述したもの。アジア・ヨーロッパ・アメリカの21か国の国別による歴史の概略を述べる。/日本教科書大系/		H24-04
明倫・1964	万国史略	田中義康編 (内藤書店)	1			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.6×15.2	5冊。田中義康著。小学校外国史教科書の代表的なもの。同名の文部省刊のものに比べると、支那や日本の内容は全て省略し、より詳細に欧米の歴史を述べている。各巻末に本文中の地名人名の音訳漢字に読み仮名をつけている。/日本教科書大系/	句	H24-04
明倫・1965	(校正)万国史略一〇巻	西村茂樹編 (東・稲田佐兵衛)	7			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.8×15.3 丁数不明	西村茂樹編集の外国史の教科書。//	巻1・3・10欠 24年度電子化時に一部を修復(1965-6)	H24-04
明倫・1966	万国史略五巻	田中義康編輯 (東・内藤伝右衛門)	5			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.4×15.1	5冊。田中義康著。小学校外国史教科書の代表的なもの。同名の文部省刊のものに比べると、支那や日本の内容は全て省略し、より詳細に欧米の歴史を述べている。各巻末に本文中の地名人名の音訳漢字に読み仮名をつけている。/日本教科書大系/		H24-04
明倫・1967	(校正)万国史略	西村茂樹編輯 (東・稲田佐兵衛)	11			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.2×15.0	西村茂樹編集の外国史の教科書。//		H24-04
明倫・1968	万国史略四巻	田中義康編輯	3					和紙袋綴刊本 22.6×15.2	5冊。田中義康著。小学校外国史教科書の代表的なもの。同名の文部省刊のものに比べると、支那や日本の内容は全て省略し、より詳細に欧米の歴史を述べている。各巻末に本文中の地名人名の音訳漢字に読み仮名をつけている。/日本教科書大系/	巻1欠	H24-04
明倫・1969	万国新史	箕作麟祥纂輯 (東・玉山堂)	6			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 22.8×15.5	中編1～5巻 1969-6は下篇4巻 * 中編6巻は1970-6参照 外題題箋「万国新史 中編 一」 蔵書印「堤氏文庫」「第五大学区/第廿五中学区/宮崎学校」「宮崎学校執复局印」	H28-02	
明倫・1970	万国新史	箕作麟祥纂輯 (東玉山堂)	6			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.8×15.5	下篇全6冊(4巻欠 * 1969-6にあり)、1970-6のみ中編6巻 外題題箋「万国新史 下 一」 蔵書印「堤氏文庫」(6冊とも)1970-6には「第五大学区/第廿五中学区/宮崎学校」「宮崎学校執复局印」(明倫-1969と同じ印) 1970-1巻末堤長發氏の印と書入れ(M11)「此万国新史下篇六冊集書預金ヲ以て賤ヲ所/明治十一年七月十日(印)」	H28-02	
明倫・1971	万国新史上編	箕作麟祥纂輯 (東・稲田佐兵衛等)	6			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.8×15.4 丁数不明		24年度電子化時に一部を修復(1971-1)	H24-04
明倫・1972	万国通史上編三巻	作楽戸痴 訳編 (三家村佐平)	3			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.5×15.0			H24-04
明倫・1973	万国通史中編三巻	作楽戸痴纂訳編 (出雲寺万次郎)	3			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.0×15.0			H24-04
明倫・1974	万国通史下編三巻	稲垣銀治訳編 (東・出雲寺万次郎等)	3			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.4×15.3		「第五大学区宮崎学校第廿五中学区」の印あり。	H28-02
明倫・1977	意見封事略		1					写本		白	R6-03
明倫・1978	意見封事略		1					和紙袋綴写本 26.0×17.0			H28-02
明倫・1979	逸史一三巻	中井積善著	5			嘉永1刊	1848	和紙袋綴刊本 26.0×18.5	史書。13巻。江戸時代の儒者中井積善著。寛政11年自序あり。1巻には源平から徳川までの治乱興亡を略述。2巻からを本編とし、徳川家康の事跡を論贊を加えながら述べている。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 「税田氏蔵書印」あり。	H28-02
明倫・1980	逸史	寛陰逸史同関子撰 中井積善著	2			嘉永1刊	1848	和紙袋綴刊本 26.1×18.5	史書。13巻。江戸時代の儒者中井積善著。寛政11年自序あり。1巻には源平から徳川までの治乱興亡を略述。2巻からを本編とし、徳川家康の事跡を論贊を加えながら述べている。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返	H24-04
明倫・1981	逸史一二巻	中井竹山 (大・森長行等)	7			文化5写	1808	和紙袋綴写本 28.0×21.0	史書。13巻。江戸時代の儒者中井積善著。寛政11年自序あり。1巻には源平から徳川までの治乱興亡を略述。2巻からを本編とし、徳川家康の事跡を論贊を加えながら述べている。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-02
明倫・1982	飲食記口伝		1					和紙袋綴写本 23.0×15.7			H28-02
明倫・1983	応仁広記		1					和紙袋綴刊本 18.5×12.4			H28-02
明倫・1984	応仁広記	近藤瓶城翻刻	3			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 18.5×12.4			H28-02
明倫・1985	落穂集一一巻	大道寺友山著	2					写本	写本30巻。徳川家康や他家の事を年代的に記したもの。約483箇条からなる。江戸時代の武士、兵法家の大道寺友山著。/國書解題/大辞典(平凡社)	巻1～8欠	R6-03
明倫・1986	落穂集六巻	大道寺友山述作	6					和紙袋綴写本 23.4×15.4	写本30巻。徳川家康や他家の事を年代的に記したもの。約483箇条からなる。江戸時代の武士、兵法家の大道寺友山著。/國書解題/大辞典(平凡社)	6冊、巻1～11まで 外題・題箋△(虫損)「落穂集 一」～「落穂集 六」か? 1986-1～6の順に1～3、4-5、6-7、8、9、10-11巻 蔵書印朱印「高月鈴木文庫之印」	H24-04
明倫・1990	懷孕着帯の次第口伝		1					和紙袋綴写本 23.0×16.8			H28-02
明倫・1991	鎌倉官領九代記		4					和紙袋綴刊本 18.5×12.4		含鎌倉官領九代後記・完	H28-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・1992	閑際筆記三卷	伊高子先生編 門人稲葉氏校 (大・敦賀屋九兵衛等)	3			正徳5刊	1715	和紙袋綴刊本 27.0×18.2			H28-02
明倫・1993	九州軍記一二巻	彦城 人	7			元禄15刊	1702	刊本		巻2～5・7欠	R6-03
明倫・1994	裏代考	松岡行義著	1					和紙袋綴写本 24.0×16.5		白 「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・1996	近代正説碎玉話一〇巻	熊沢淡庵編輯 (大・河内屋)	5			正徳6刊	1716	和紙袋綴刊本 24.3×17.1			H24-04
明倫・1997	禁秘抄	(京・吉田四郎右衛門)	3			文明9刊	1477	和紙袋綴刊本 25.7×18.4	禁秘抄は順徳天皇が著した有職書。2巻あるいは3巻(大辞典では3巻)。成立年代は数説あり一定しないが、和田英松によれば1219-21年(承久1-3)。(禁中抄)《建暦御記》ともいう。宮中の毎日恒例の次第、毎日事、臨時の大事、質所、清涼殿のことから蔵人、殿上人、殿上人、女官、勤書、宣命、改元といった天皇として必要な故実を記す。(群書類従)《列聖全集》《皇学叢書》に所収。//大辞典(平凡社)		H24-04
明倫・1998	禁秘抄聞書	順徳天皇	1					和紙袋綴写本 24.0×16.0	禁秘抄は順徳天皇が著した有職書。2巻あるいは3巻。成立年代は数説あり一定しないが、和田英松によれば1219-21年(承久1-4)。(禁中抄)《建暦御記》ともいう。宮中の毎日恒例の次第、毎日事、臨時の大事、質所、清涼殿のことから蔵人、殿上人、女官、勤書、宣命、改元といった天皇として必要な故実を記す。(群書類従)《列聖全集》《皇学叢書》に所収。//大辞典(平凡社)	「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・1999	公事根源三巻	一条兼良 (京・平楽寺村上勤兵衛)	3			元禄7刊	1694	和紙袋綴刊本 25.7×18.7	3巻。一条兼良著。禁中の年中行事を記したもの。二条良基作年中行事歌合せの判詞を抄出し応永年中足利義量に進献したものと伝えられる。//大辞典(平凡社)		H24-04
明倫・2001	勲功記(後篇)		1					和紙袋綴写本 24.6×16.0		上杉雅正大弼	H24-04
明倫・2002	献替録八巻	萩原裕録評 (京・石津賢助)	2					和紙袋綴刊本 26.3×18.0	8巻。明治の萩原西嶺(裕)の著。文久2年の著。外患に処するため宋の名臣の奏議文を30余編抄出したもの。/大辞典(平凡社)/圖書解題	句返	H24-04
明倫・2004	蹴鞠口伝書		1					和紙袋綴写本 28.5×19.7		裏表紙見開きに「寛政三年亥写之」とあり。	H28-02
明倫・2005	甲越春秋	樺園松原泰子掌撰 (江・山城屋佐兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 26.0×17.9	春秋とは中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮延年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立//	句返	H24-04
明倫・2007	江家次第	大江玄圃著 (京・勝村治右衛門等)	10			承応2刊	1653	和紙袋綴刊本 26.1×18.0		句送返	H24-04
明倫・2008	(校刻)日本外史	頼山陽	2					和紙袋綴刊本 22.4×15.1	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論贊を加えて28年(文政9)完成。(通鑑)《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句返 2104を見よ	H24-04
明倫・2009	(校刻)日本外史		2					和紙袋綴刊本 ①22.3×15.0②22.5×15.6	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論贊を加えて28年(文政9)完成。(通鑑)《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句送返 2009-1 22.3×15.0 2009-2 22.5×15.6 1～「堤氏文庫」の印あり。 2～「柿原蔵書」の印あり。	H28-02
明倫・2010	(校刻)日本外史		2					和紙袋綴刊本 22.3×15.1	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論贊を加えて28年(文政9)完成。(通鑑)《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句返	H24-04
明倫・2011	皇朝史略一二巻	青山延干著 (文昌堂)	1			文政10刊	1827	和紙袋綴刊本 22.5×15.5	歴史書、大日本史を簡略にしたもの。12巻。水戸藩の青山延干著。文政8年序。神武天皇から後小松天皇の慶永19年に至るまでを漢文で記し、史論を附している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	送返 「第五大区区宮崎学校廿五中学区」の印あり。	H28-02
明倫・2015	(校刻)古今紀要四巻	川島梅平編 (長島为一郎)	4			明治14刊	1871	和紙袋綴刊本 22.0×14.5			H24-05
明倫・2017	国史一斑五巻	佐久間舜一郎著 (岡山・西尾吉太郎)	5			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 22.0×14.4		師範中学用	H24-05
明倫・2018	国史纂論一〇巻	山縣積善 (長門・明倫館)	5			弘化3刊	1846	和紙袋綴刊本 22.4×15.5	10巻。江戸時代後期の儒者山県大華(名は積)著。天保10年自跋。大日本史、嵯山文集など28家34部の書により神武天皇以降後陽成天皇に至る史論の正確なるものを収め、著者の評論を下したもの。//大辞典(平凡社)	「明倫堂蔵書印」あり。 5～裏表紙見返しに「高鍋学校御用書」の墨書あり。	H28-02
明倫・2019	国史集要(小学)	山名留三郎編輯 (東・石川治兵衛)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 21.9×15.0		「財津蔵書」の印あり。	H28-02
明倫・2022	国史提要一六巻	棚谷元善編輯 (東・篠崎竹次郎)	15			明治8・9刊	1875・6	刊本 22.1×14.5		1～6～「第五大区区鶴学第廿六中学区」の印あり。7～「第五大区区廿六中学区七番小学印あり。13～裏表紙見返し「児湯郡高鍋学校御蔵書」の墨書あり。14～表紙見返し「高鍋校明倫堂蔵書」	H30-05
明倫・2024	国史略五巻	源松苗編次 源吉忠校 (京・藤井孫兵衛)	5			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 26.0×18.3	江戸後期の歴史書。5巻。裏垣松苗著。文政9年(1826)刊。神代から天正16年(1588)後陽成天皇の聚楽第(ゆらくだい)行幸に至るまでを、漢文による編年体で述べたもの。十八史略に倣っている。//大辞典(平凡社)	「第五大区区嶋田学校第廿五中学区」の印あり。	H28-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2025	国史略	源松苗編次 源在忠校	3					和紙袋綴刊本 26.0×18.3	江戸後期の歴史書。5巻。巖垣松苗著。文政9年(1826)刊。神代から天正16年(1589)後陽成天皇の聚楽第(じゅらくだい)行幸に至るまでを、漢文による編年体で述べたもの。十八史略に倣っている。//大辞典(平凡社)	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。 1～裏表紙見返しに「高瀬校御用書籍」の墨書あり。 2～裏表紙見返しに「高鍋嶋田学校需用」の墨書あり。 3～裏表紙見返しに「嶋田学校」の墨書あり。	H28-02
明倫・2026	国史略五巻	源松苗編次 源言忠校 (京・藤井孫兵衛)	5			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 26×18.5 丁数不明	江戸後期の歴史書。5巻。巖垣松苗著。文政9年(1826)刊。神代から天正16年(1590)後陽成天皇の聚楽第(じゅらくだい)行幸に至るまでを、漢文による編年体で述べたもの。十八史略に倣っている。//大辞典(平凡社)	送返 24年度電子化時に一部を修復(2026-1)	H24-05
明倫・2027	国史略五巻	岩垣東園著 (京・菱屋孫兵衛等)	3			文政9刊	1826	和紙袋綴刊本 26.0×18.3	江戸後期の歴史書。5巻。巖垣松苗著。文政9年(1826)刊。神代から天正16年(1591)後陽成天皇の聚楽第(じゅらくだい)行幸に至るまでを、漢文による編年体で述べたもの。十八史略に倣っている。//大辞典(平凡社)	句送返 「財津蔵書」の印あり。 2～裏表紙見返しに「明治十二歳七月 黒谷財津」の墨書あり。	H28-02
明倫・2029	国史略五巻	源松苗編次 源言忠校	4					和紙袋綴刊本 25.5×17.8	江戸後期の歴史書。5巻。巖垣松苗著。文政9年(1826)刊。神代から天正16年(1591)後陽成天皇の聚楽第(じゅらくだい)行幸に至るまでを、漢文による編年体で述べたもの。十八史略に倣っている。//大辞典(平凡社)	句送返 「伐秋月蔵書印」あり。	H28-02
明倫・2032	国史略	源松苗編次 (京・菱屋孫兵衛)	2			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 18.4×12.6	江戸後期の歴史書。5巻。巖垣松苗著。文政9年(1826)刊。神代から天正16年(1596)後陽成天皇の聚楽第(じゅらくだい)行幸に至るまでを、漢文による編年体で述べたもの。十八史略に倣っている。//大辞典(平凡社)	句送返	H24-05
明倫・2035	古今事歴大要	田中登作編輯 (東・普及舎)	1			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 24.0×14.5			H24-05
明倫・2036	古史通	源君実撰 新井源八郎校正 (東・松山堂書店)	4			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 26.2×18.1	古史通は新井白石著。4巻。記・紀・舊事記等により、神代より神武帝の始めまでの大略を通考したもの。//大辭典(平凡社)		H24-05
明倫・2037	刪修近古史談	大槻登漢著 大槻文彦訳文 (漢釋書風館)	2					和紙袋綴刊本 22.0×15.0			H24-05
明倫・2038	刪修近古史談詳解三巻	大槻修二校正 藤江卓蔵詳解 (大・三木佐助等)	1			明治18刊	1885	和紙袋綴刊本 17.5×12.1			H24-05
明倫・2039	三譜一統聞書		1			文政5写	1822	和紙袋綴写本 23.0×16.0	*「三譜一統」は武家故実の書。室町時代、足利義満の命により、10代小笠原康秀が今川了宗・大氏頼・伊勢蔵守忠忠と共に編纂。武士の一般常識をまとめたとされる。//大辞典(平凡社)	「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・2042	装束拾要抄二巻	(太田長兵衛)	1			元禄4刊	1691	和紙袋綴刊本 22.5×16.0	装束の故実作法などを記したものの。2巻。慶長19年奥書あり、元禄4年刊。//増訂國書解題/	「水城氏蔵書記」の印あり。	H28-02
明倫・2043	正名緒言二巻	菱川大親著 (江・和泉屋善兵衛)	2			嘉永2刊	1849	和紙袋綴刊本 26.1×18.0	2巻。成年未詳。江戸時代中期-後期の備考。菱川素庵(1748-1803)著。(名は實。字(あざな)は大親。通称は字門別号に岡山。)鎌倉以降武家社会に用いられた称呼について諸書に徴して考證解釈したもの。/國書解題/大辞典(平凡社)	返	H24-05
明倫・2044	正名緒言	菱川大親著	2			嘉永2写	1849	和紙袋綴写本 23.5×16.6	2巻。成年未詳。江戸時代中期-後期の備考。菱川素庵(1748-1803)著。(名は實。字(あざな)は大親。通称は字門別号に岡山。)鎌倉以降武家社会に用いられた称呼について諸書に徴して考證解釈したもの。/國書解題/大辞典(平凡社)	白 「財津蔵書」の印あり。	H28-02
明倫・2045	条約国史略二巻	琴浦釣夫・三駕史編 (東・松本屋龜吉等)	2			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 23.0×15.5		「上江小学高鍋」の印あり。	H28-02
明倫・2046	初学文範三巻	岡松蘆谷撰 奥並雄 野中準編輯 (東・岡松蘆谷)	3			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 21.9×14.7			H24-05
明倫・2049	書札礼抜要口伝上・下		1					和紙袋綴写本 23.0×16.0	*「書札礼」は写本1巻。公家武家及び僧侶の書式を集録したもの。/國書解題/		H28-02
明倫・2050	史略	木村権助編輯 (宮崎県)	1					和紙袋綴刊本 22.3×15.3	4冊。明治初年における官版の小学校歴史教科書の代表ともいえる。歴史を簡略に述べたもので、挿絵も交える。明治5年に文部省より初めて刊行された歴史の教科書で、1は皇国、2は支那、3は西洋上巻、4は西洋下巻からなる。＊本書は宮崎県から発行されたもの/日本教科書大系/		H24-05
明倫・2051	清英交際始末	福沢諭吉問 松田普斎訳 (尚古堂)	1			明治2刊	1869	和紙袋綴刊本 22.4×15.0		裏表紙見返しに「明治九年第七月十日東京九厘ニ於テ之ヲ買フ 値参拾壹錢貳厘五毛 左都夫誌」の墨書あり。	H28-02
明倫・2053	神皇正統記六巻(詳註・校訂)	北畠親房撰 (京・吉野屋仁兵衛)	27			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 25.4×17.7	歴史書。3巻(大辞典では6巻)。南北朝時代に北畠親房が著した。延元4年稿。神代から後村上天皇即位までの歴史を、簡潔で力強いかなまじり文で叙述し、広く読まれた。神器のあるところに正当のある事を証せんために建国から歴朝を概観している。//大辞典(平凡社)	全6巻(全6巻の4セットと揃いでない1・2・5巻)蔵書印「上江小学高鍋」(＊蔵書印無が1セット2053-2・6・9・16・17・19)	H28-02
明倫・2055	随兵之次第之事	小笠原清満 (伊勢万助)	1			寛政4刊	1792	和紙袋綴刊本 27.3×19.8	兵書。随兵に関する故実50箇条を記したものの。1巻。著者不詳。明応9年記。＊「群書類従」巻409、武家部第20にあり。/國書解題/大辞典(平凡社)	「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-02
明倫・2056	前朝史略五巻	城兼文著 (城氏)梅陰軒蔵版	5			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 18.5×12.7			H24-05
明倫・2057	総見記		1					和紙袋綴刊本 18.5×12.2	別名「織田軍記」なる信長一代記。遠山信春著。貞享2年の自跋。元禄15年刊。織田氏の歴代系譜を略記し、信長の誕生以下太政大臣の勅宣を拝するまでを記す。本書は小瀬甫庵の信長記の増訂。/國書解題/大辞典(平凡社)		H24-05
明倫・2058	総見記		1					和紙袋綴刊本 18.4×12.4	別名「織田軍記」なる信長一代記。遠山信春著。貞享2年の自跋。元禄15年刊。織田氏の歴代系譜を略記し、信長の誕生以下太政大臣の勅宣を拝するまでを記す。本書は小瀬甫庵の信長記の増訂。/國書解題/大辞典(平凡社)		H24-05
明倫・2059	総見記	(親英堂版)	1					和紙袋綴刊本 18.4×12.4	別名「織田軍記」なる信長一代記。遠山信春著。貞享2年の自跋。元禄15年刊。織田氏の歴代系譜を略記し、信長の誕生以下太政大臣の勅宣を拝するまでを記す。本書は小瀬甫庵の信長記の増訂。/國書解題/大辞典(平凡社)	在巻7・8	H24-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2061	(増補)日本外史	頼山陽	1					和紙袋綴刊本 22.3×14.9	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論評を加えて28年(文政9)完成。(通鑑)《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	送返	H24-05
明倫・2062	続皇朝史略	青山延子著 (青山延光校)	6			天保2刊	1831	和紙袋綴刊本 22.5×15.0		1〜5「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H28-02
明倫・2063	続日本記考証一二巻	村尾元融著 村尾元矩 元長校 (大・石田和助等)	12			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 25.7×18.1	12巻。村尾元融著。続日本紀の6種の異本を校合し、遺漏を補い誤字を訂正し改美の考証と難解文句の注釈を丁寧にしたもの。嘉永2年著。明治元年刊。/圖書解題/		H24-05
明倫・2064	太閤記	小瀬南庵道喜輯録	1					和紙袋綴刊本 18.5×12.5	豊臣秀吉の伝記物語。小瀬南庵著。22巻。元和3年自跋、万治4年刊。別称「豊臣記」。秀吉の出生から一生の事蹟を述べ、併せて諸士その他の逸事を記している。//大辞典(平凡社)		H28-02
明倫・2066	大日本史二四三巻	徳川光圀修 徳川綱條校 徳川治保重校	75					和紙袋綴刊本 26.5×18.0	漢文の日本史。246冊。徳川光圀の命により編纂。神武天皇から南北朝時代の終末すなわち後小松天皇の治世(1382-1412)までを、中国の正史の体裁である紀伝体により記述している。本紀73巻、列伝170巻、志126巻、表28巻の4部397巻(別に目録5巻) * 明暦3年(1657)水戸藩が史局を設けて編纂(へんさん)に着手、明治39年(1906)完成。* 佐々宗淳、栗山潜鋒、三宅観瀾、安積澁泊ら多くの学者を集めて、編纂に従事させるとともに、佐々らを京都、奈良など各地に派遣して、古文書・記録など史料の探訪に努めた	句 在1〜180巻 蔵書印「高銅藩蔵書印」24年度電子化時に2066-28を修復 蔵書印未印「高銅藩蔵書印」題箋「大日本史」(題箋欠2066-3・9・10・69)内題・版心題も同じ2066-175まで校番=題箋の巻数で揃う(1〜180巻本紀第1〜73巻/列伝1〜107)1巻に文化7年(1810)源朝臣治紀(水戸藩の第7代藩主)の「上表」、正徳5年(1715)源綱條(水戸藩第3代藩主)の「序」あり内容:上表5丁、序6、「本記」(第1〜73巻)18丁・20/15・16・19/13・17・15/23・17	H24-05
明倫・2067	大日本史二四三巻	徳川光圀修 徳川綱條校 徳川治保重校	50			嘉永4刊	1851	和紙袋綴刊本 26.2×17.8	漢文の日本史。246冊。徳川光圀の命により編纂。神武天皇から南北朝時代の終末すなわち後小松天皇の治世(1382-1412)までを、中国の正史の体裁である紀伝体により記述している。本紀73巻、列伝170巻、志126巻、表28巻の4部397巻(別に目録5巻) * 佐々宗淳、栗山潜鋒、三宅観瀾、安積澁泊ら多くの学者を集めて、編纂に従事させるとともに、佐々らを京都、奈良など各地に派遣して、古文書・記録など史料の探訪に努めた/圖書解題/	句 在181〜243巻 明倫堂蔵書印	H25-01
明倫・2068	大八洲遊記一三巻	青山延寿著 (東・松陽塾塾)	12			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 22.1×14.9	青山延寿著(水戸藩士で、儒学者・史学者)。諸国を旅した際の漢文体の紀行文。全13冊。//	返	H24-05
明倫・2069	地方凡例録		1					和紙袋綴刊本 25.2×18.0	20巻。大石久敬著。明治4年刊。まず地方の総論を記し、国郡里より徳川時代の地方制度、上方諸藩の区別あること、石高、貢高など凡そ地方に関すること細大もれなく述べる。/圖書解題/		H28-02
明倫・2070	中古正説碎玉話一〇巻	栗原信充編輯 (大・近江屋平助等)	9			嘉永4刊	1851	和紙袋綴刊本 25.0×17.6		全十巻のうち巻八欠2070-8のみ題箋「中古正説碎玉話/続武得感状記九」(他は直書「続武得感状記」)嘉永4年刊 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-02
明倫・2072	銚子之口伝		1					和紙袋綴写本 23.0×15.7		外題直書「銚子之口伝」 絵図有 句送返	H28-02
明倫・2074	帝国史談	重野安種編述 (東・富山房)	2			明治29刊	1896	和紙袋綴刊本 22.9×14.7			H24-05
明倫・2075	帝国小史	山県徳三郎著 (東・小林義則)	2			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 22.4×15.6			H24-05
明倫・2077	摘句日本外史訳語大全	小野正己編輯 大館照開正 (東・小島伊兵衛等)	3			明治18刊	1885	袋綴刊本 17.0×12.0	*「日本外史」は歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にない漢文体で叙述したもの。//	全三冊(1〜22巻) 外題直書(ペン)「摘句日本外史訳語大全」巻頭裏返「改正増補摘句/日本外史訳語大全」 蔵書印「椿原蔵書」(書入有「新田村湯風呂椿原蔵書」など)	H28-03
明倫・2078	当家銚子包口伝		1					和紙袋綴写本 24.3×15.7		外題直書「当家銚子包口伝」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H28-03
明倫・2079	東唐略記		1					和紙袋綴写本 24.5×15.5		白 外題無(表紙欠) 蔵書印無	H28-03
明倫・2081	童蒙必読	橋爪貫一著 (雁金屋清吉)	2			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 22.0×15.3	往来物の入門教科書。3巻、明治3年刊。橋爪貫一編。明治初期に入門教科書として広く用いられた。皇論(こうし)之巻(明治3年)、年号之巻(明治3年)、州名之巻(明治5年)で、歴代天皇・年号・国尽かなる。//滋賀大学付属図書館	外題無 2081-1「年号之巻」2081-2「皇論之巻」 明治3年刊 蔵書印「堤氏蔵書」	H28-03
明倫・2082	内国史略(後編)二巻	石村貞一編次 (桐陰書屋)	4			明治7刊	1874	刊本 21.5×15.1	内国史略は幕末の会津藩士。明治時代の教育者である南摩綱紀著。//	「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H30-05
明倫・2084	内国史略八巻	南摩綱紀編輯 (京・羽峰書屋)	8			明治5刊	1872	刊本 22.6×15.3	内国史略は幕末の会津藩士。明治時代の教育者である南摩綱紀著。//	「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H30-05
明倫・2085	内国史略二巻(後編)	石村貞一編次 (桐陰書屋)	6			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.2×15.0	内国史略は幕末の会津藩士。明治時代の教育者である南摩綱紀著。//	上下巻(在3部) 外題題箋「石村貞一編次/内国史略/後編」明治7年刊 蔵書印「第五大区区/宮崎学校/第二十五中学区」	H28-03
明倫・2086	内国史略	南摩綱紀編輯	1					和紙袋綴刊本 21.8×15.5	内国史略は幕末の会津藩士。明治時代の教育者である南摩綱紀著。//	巻三・四 外題題箋「内国史略」 蔵書印「第五大区区/宮崎学校/第二十五中学区」	H28-03
明倫・2087	内国史略	南摩綱紀編輯 (羽峰書屋)	1			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.4×15.6	内国史略は幕末の会津藩士。明治時代の教育者である南摩綱紀著。//		H24-05
明倫・2089	浪波冬夏軍記		9					和紙袋綴写本 27.0×19.4		1・3・8・9・10〜14巻 外題直書「難波冬夏軍記」 1〜落書き? 字の練習のあとあり。 3〜「高銅明倫堂蔵書」の墨書あり。 9〜「高銅学校蔵書」の墨書あり。	H28-03
明倫・2090	南山巡狩録一五巻	大草公弼編 (東・近藤瓶城)	5			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 18.5×12.5	正史。25巻(首1巻、本編15巻、附録1巻、追加5巻、遺草3巻)(圖書解題には写本15巻とある)、南北朝時代に南朝への忠勤に励んだ義士達の事蹟を纏め上げたもの。江戸時代の国学者、幕臣の大草公弼著。文化6年成。元禄の乱より南朝57年の編年史。/圖書解題/大辞典(平凡社)	6〜14巻欠	H28-03
明倫・2091	南山巡狩録	大草公弼編	7			文化6刊	1809	和紙袋綴刊本18.4×12.4	正史。25巻(首1巻、本編15巻、附録1巻、追加5巻、遺草3巻)(圖書解題には写本15巻とある)、南北朝時代に南朝への忠勤に励んだ義士達の事蹟を纏め上げたもの。江戸時代の国学者、幕臣の大草公弼著。文化6年成。元禄の乱より南朝57年の編年史。/圖書解題/大辞典(平凡社)		H24-05
明倫・2092	南朝順考論	二宮成撰述 山野田一成校 (鹿児島・坂本宝徳)	1			明治44刊	1911	和紙袋綴刊本23.4×15.4			H24-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2095	日本逸史四〇巻	藤原経嗣等編輯祐之輯補 (神京・茨城方道等)	20			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 25.8×18.1	歴史書。40巻20冊(ほかに考異1冊)。江戸時代の鴨祐之著。当時散逸していた日本後紀の復元を試みて編纂した書。1692年(元禄)の完成、同年浅井重遠の序有。1724年(享保9刊)。「類聚国史」をはじめ「日本紀略」「類聚三代格」「政治要略」など各種の史料から文を集め、792年(延暦11)から833年(天長10)までの《日本後紀》の原文を復元している*引用書や編纂方法に問題があり。《日本後紀》の写本の一部が発見され、復元が進んだ今日では、その重要さは減じている/圖書解題/大辞典(平凡社)	送返	H25-01
明倫・2096	日本逸史考異	(茨木方道等)	1			享保9刊	1724	和紙袋綴刊本 25.8×18.1		送返	H25-01
明倫・2097	日本開化小史三巻	田口卯吉著 (東・田口卯吉等)	3			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本22.1×14.1			H24-05
明倫・2098	日本開化小史	田口卯吉著 (東・田口卯吉)	3			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 22.1×14.1			H24-05
明倫・2099	日本外史(校刻)二二巻	頼山陽著 (松平氏蔵版)	2			天保15刊	1844	和紙袋綴刊本 22.5×15.2	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推轂を重ね、論贊を加えて26年(文政9)完成。《通議》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句返	H28-03
明倫・2100	(増補)日本外史二二巻	頼山陽著 (大・湯上市兵衛等)	12			明治18刊	1885	和紙袋綴刊本 22.0×14.8	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推轂を重ね、論贊を加えて26年(文政9)完成。《通議》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句返	H25-01
明倫・2101	日本外史	水戸光圀編	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.1	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推轂を重ね、論贊を加えて26年(文政9)完成。《通議》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句返	H28-03
明倫・2102	日本外史二二巻	頼山陽著	2					和紙袋綴刊本 25.2×17.8	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推轂を重ね、論贊を加えて26年(文政9)完成。《通議》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句返 在巻10・12題箋「日本外史 十二」(2102-2)蔵書印「高鍋藩蔵書印」	H28-03
明倫・2103	日本外史補一四巻	岡田儔撰	9			嘉永3刊	1850	和紙袋綴刊本 25.2×17.9	歴史書。14巻。日本外史(頼山陽著・明倫1962など参照)の遺漏を補ったもの。嘉永3年自序有。慶応2年刊行。江戸・明治期の儒者岡田鴨里(儔)著。頼山陽の弟子。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返 9冊(在全十四巻)題箋2103-2「日本外史補」蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-03
明倫・2104	日本外史二二巻	頼山陽著 (頼山陽)	22			文政10刊	1827	和紙袋綴刊本 22.5×15.7	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推轂を重ね、論贊を加えて26年(文政9)完成。《通議》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	白(朱点在) 2008を見よ 在全22巻(22冊・巻数は枝番と同じ) 外題題箋「(■■■■■)日本外史」(2104-3・5・8・9・14〜18に有) 蔵書印「第五学区/高鍋学校/第廿六中学区」(2104-3〜15のみ押印有)書入「明倫堂蔵書」「学校御用書」「明倫堂文庫」「高鍋学校御蔵書」など (主に2104-1〜15までで学校関係の書入有)	H28-03
明倫・2105	日本外史二二巻	頼山陽著 保岡元吉校 (松平基則)	10			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 22.4×15.1	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推轂を重ね、論贊を加えて26年(文政9)完成。《通議》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句返 4〜10〜「堤氏文庫」の印あり。	H28-03
明倫・2106	日本外史	頼山陽編	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.5	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閉中に執筆を始め、その後推轂を重ね、論贊を加えて26年(文政9)完成。《通議》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句返 「柿原蔵書」の印あり。裏表紙見返しに「明治六年九月 柿原氏」の墨書あり。	H28-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2107	日本外史	頼山陽編	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.7	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽明中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論贊を加えて28年(文政9)完成。《通鑑》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句送返 「樗武藤蔵書記」の印あり。	H28-03
明倫・2108	日本外史	頼山陽著	1					和紙袋綴刊本 18.7×12.7	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽明中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論贊を加えて28年(文政9)完成。《通鑑》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	句返 表紙見開きに「黒水氏・・・」の墨書あり。	H28-03
明倫・2109	日本外史	頼山陽著	1					和紙袋綴刊本 22.7×16.0	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽明中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論贊を加えて28年(文政9)完成。《通鑑》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/圖書解題/大辞典	返 「柿原蔵書」の印あり。 裏表紙見返しに「大日本国日向武拾七大区二小区柿原氏」の墨書あり。	H28-03
明倫・2110	(増補)日本外史字解	桜井茂衛編 (大・此村蔵版)	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 12.5×8.6	*「日本外史」は歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。//	第五大区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H28-03
明倫・2111	日本外史評論	大同諫議著	1			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 21.8×15.8	*「日本外史」は歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。//	句送返	H28-03
明倫・2112	日本外史評論七巻	大同諫編輯 (広島・頼又次郎)	3			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 21.8×15.2	*「日本外史」は歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならない漢文体で叙述したもの。//	句送返	H25-01
明倫・2113	日本外史補一四巻		5					和紙袋綴刊本 25.6×18.3	歴史書、14巻。日本外史(頼山陽著・明倫1982など参照の通鑑を補ったもの。嘉永3年自序有。慶応2年刊行。江戸・明治期の俳者岡田鴨生(僞)著。頼山陽の弟子。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返	H28-03
明倫・2115	日本三代実録五〇巻	藤原時平勅撰 (司太助等)	20			寛文13刊	1673	和紙袋綴刊本 25.2×18.3		送返 題端「三代實録 一」内題「日本三代實録」(藤原時平勅撰) 延喜元年序 藤原時平 巻之一24丁・二32丁/ 蔵書印「上江小学高鍋」	H25-01
明倫・2117	日本小歴史二巻	天野為之權 (東・富山房)	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 22.8×15.0		上巻欠	H28-03
明倫・2118	日本小歴史初歩二巻	天野為之權 (東・富山房)	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 22.4×14.9		裏表紙見返しに「筏 河辺つう子 明治廿年求之」の墨書あり。	H28-03
明倫・2120	日本史略二巻(小学読本)	市岡正一著 (東・和泉屋市兵衛等)	2			明治8刊	1875	刊本			H25-01
明倫・2121	日本史略(挿画)二巻	川崎千虎著 (峻・山岸弥平)	2			明治8刊	1875	刊本			H25-01
明倫・2122	日本政記一六巻	頼山陽著 (京・頼又二郎)	13			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 18.0×12.3	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句送返 「高鍋学校印章」あり。 2～裏表紙見返しに「高鍋学校用書」の墨書あり。 4～裏表紙見返しに「高鍋明倫堂蔵書」の墨書あり。 5・9～裏表紙見返しに「高鍋学校御蔵」の墨書あり。 10～裏表紙見返しに「日向高鍋藩」の墨書あり。 11～裏表紙見返しに「高鍋学校 This book belong to Takanabe school」の墨書あり。 12～裏表紙見返しに「日向高鍋藩」(墨書)藩を消して「学校」(朱書)あり。	H28-03
明倫・2123	日本政記一六巻	頼山陽著 (京・頼又二郎)	8			明治13刊	1880	刊本	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返	H25-01
明倫・2124	日本政記	頼山陽著	2					和紙袋綴刊本 18.8×12.8	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句送 「柿原蔵書」の印あり。 1～裏表紙見返しに「明治二十九年五月正次叔父様ヨリ土産 柿原政一郎領」の墨書あり。 2～裏表紙見返しに「宮崎県児湯郡新田村 柿原政一郎」の墨書あり。	H28-03
明倫・2125	日本政記一六巻	頼山陽著	1					和紙袋綴写本 25.0×17.5	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	送	H28-03
明倫・2126	日本政記一六巻	頼山陽著 (京・頼又二郎)	24			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 17.5×12.1	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返	H25-01
明倫・2127	日本政記	頼山陽著	1					和紙袋綴刊本 18.8×12.8	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返 「柿原蔵書」の印あり。	H28-03
明倫・2128	日本政記便蒙	尾本源吉郎編輯	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 18.3×12.8	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句送返 「柿原蔵書」の印あり。裏表紙見返しに「杉田幾松・板田幾松主」の墨書あり。	H28-03
明倫・2129	日本政記一六巻	頼山陽著 岡田僞等校 (京・頼又二郎)	8			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 18.7×12.5	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	返 「樗武藤蔵書記」の印あり。 裏表紙見返しに「浜田良光」の墨書あり。	H28-03
明倫・2131	日本政記一六巻	頼山陽著 岡田僞等校 (大・浅井吉兵衛等)	2			明治7刊	1874	刊本	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句返	H25-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2132	日本政記字解大全	内田尚長編輯 (合書堂)	1					刊本			H25-01
明倫・2133	日本政記便蒙	尾本源吉郎編輯 (京・松山書輔)	1		明治9刊	1876		和紙袋綴刊本 18.4 × 12.7	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/『國書解題/大辞典(平凡社)』	句送返 「柿原藏書」の印あり。裏表紙見返しに「杉田内」の墨書あり。	H28-03
明倫・2135	日本政記纂語字類	多田直勝纂訳 (歎英堂)	1					刊本			H25-01
明倫・2136	日本政記便蒙	尾本源吉郎編輯	1					和紙袋綴刊本 18.4 × 12.7	16巻。神武天皇より後陽成天皇に至る108世、2000年間の編年史。1代ごとに本記をたてて史実を掲げ、自身の論断を付記している。/『國書解題/大辞典(平凡社)』	句返 「柿原藏書」の印あり。裏表紙見返しに「宮崎師範 学 宮崎県北那珂町 杉田幾松」の墨書あり。	H28-03
明倫・2137	日本文明史略首巻四巻	物集高見著 (東・文部省編輯局)	5		明治20刊	1887		和紙袋綴刊本 23.5 × 15.0		「高鍋学校印章」あり。	H28-03
明倫・2138	日本略史	笠間益三編輯 (京・辻本定次郎)	1					和紙袋綴刊本 17.0 × 11.5	笠間益三著。新編日本略史。日本史の教科書/日本教科書大系/		H28-03
明倫・2139	日本略史四巻	笠間益三(東・宮島権三郎)	4		明治11刊	1878		刊本	笠間益三著。新編日本略史。日本史の教科書/日本教科書大系/		H25-01
明倫・2140	日本略史四巻	笠間益三編輯 (大・圓村九兵衛)	1					和紙袋綴刊本 17.5 × 12.5	笠間益三著。新編日本略史。日本史の教科書/日本教科書大系/	「田邨氏藏書印」「川崎藏書」の印あり。裏表紙見返しに「日向国児湯郡高鍋村 川崎栄次郎」の墨書あり。	H28-03
明倫・2142	日本略史訳語	堤大助編輯 (松村文海堂)	1		明治10刊	1877		和紙袋綴刊本 17.5 × 12.5	*『日本略史』は日本史の教科書。//	「田邨氏藏書印」あり。	H28-03
明倫・2143	日本通史(陸軍)	藤沢南岳著 (大・松田正助等)	1		明治17刊	1884		和紙袋綴刊本 22.5 × 15.5		句返	H28-03
明倫・2144	日本通史附録	藤沢南岳著 (大・松田正助等)	1		明治17刊	1884		和紙袋綴刊本 22.5 × 15.0			H28-03
明倫・2145	日本文徳天皇実録	藤原基経等勁撰 (京・出雲寺和泉)	15		寛政8刊	1796		和紙袋綴刊本 25.5 × 17.2	送返 題箋「文徳實録 校訂」内題「日本文徳天皇実録」序・元應二年藤原朝臣基経 序2・巻一23・巻二19/	*『日本文徳天皇実録』(にほんもんとくてんのうじつろく)は、平安時代の日本で編纂された歴史書。六国史の第五にあたり、文徳天皇の代である嘉祥3年(850年)から天安2年(858年)までの8年間を扱う。略して文徳実録ともいう。編年体、漢文、全10巻。	H25-01
明倫・2146	配膳着條口伝		1					和紙袋綴写本 23.0 × 16.0		外題直書「配膳着條口伝」(内題同) 配膳図などの挿絵有	H28-03
明倫・2149	標柱日本外史二二巻附図一卷	頼山陽著 瀬文二前著註 雲谷任斎校(大・中川清次郎等)	13		明治28刊	1895		刊本	*『日本外史』は歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。瀬平南氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならいう漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)脱藩後の幽閑中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論賛を加えて26年(文政9)完成。《通鑑》《日本政記》とともに山陽の歴史書三部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化/川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼山陽蔵版として増補日本外史が刊行された/	句送返	H25-01
明倫・2152	続武将感状記		1					和紙袋綴刊本 24.0 × 17.5	*増訂國書解題に著者違いの同タイトルが二通り。①2巻/南條八郎著(25巻/栗原信充著)のもの要確認。/増訂國書解題/	巻八(20丁～) 外題題箋「中正正論碎玉話/続武将感状記」	H28-03
明倫・2154	保建大記二巻	栗山潜鋒著 (水戸・茨城多左衛門)	7		正徳6刊	1716		刊本	雑史。栗山■(匿名?)著。2巻。正徳6年刊。保元元年より建久3年に至る後白河天皇より6王38年間の史実を記し、その間の大義名分を明らかにす。//大辞典(平凡社)	句送返	H25-01
明倫・2155	保建大記二巻	栗山潜峰著 (水戸・茨城多左衛門)	2		正徳6刊	1716		刊本	雑史。栗山■(匿名?)著。2巻。正徳6年刊。保元元年より建久3年に至る後白河天皇より6王38年間の史実を記し、その間の大義名分を明らかにす。//大辞典(平凡社)	句送返	H25-01
明倫・2162	本朝略史三巻	関吉孝編	3		明治7刊	1874		刊本			H25-01
明倫・2165	名目鈔聞書完		1					和紙袋綴写本 24.0 × 16.0		全1冊 外題題箋「義■先生/名目鈔聞書 完」 「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-03
明倫・2167	歴史(小学校用)第四	辻敬之 福地復一共著(東・普及舎)	1		明治20刊	1887		刊本	歴史教科書。4冊。明治20～21年に文部省検定済み。天皇紀による歴代史の構成をとる。/日本教科書大系/		H25-01
明倫・2169	樺浜藻塩草	城勇雄著	5					和紙袋綴写本 18.3 × 13.5	高鍋藩家老、明倫堂教授でもあった城勇雄(竹窓)の著。//	在巻5集 外題直書「樺浜藻塩草」 蔵書印「日向高鍋城氏図籍」	H28-03
明倫・2171	育英新編上・下巻	石村貞一編輯 (田村義勝写)	1		明治9写	1876		和紙袋綴写本 23.0 × 16.0	全1冊(上下二巻) 外題直書「写本/育英新編 全」 蔵書印「田村氏藏書印」■古堂蔵書印		H28-03
明倫・2174	宇井井熱齋(小学外篇筆記)	宇井熱齋(千手興敏の跋文・写)	2		文化2写	1805		和紙袋綴写本 24.3 × 16.4	*宇井熱齋(1725―1782)は江戸時代中期の儒者。//	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。巻末に「御学校御用書物 明倫堂」の墨書あり。	H26-01
明倫・2175	宇井井熱齋(小学内篇)	宇井熱齋	1					和紙袋綴写本 23.9 × 16.5	*宇井熱齋(1725―1782)は江戸時代中期の儒者。//	「明倫堂蔵書記」の印あり。巻末に「学校御用書物」の墨書あり。	H26-01
明倫・2176	宇井井熱齋(周子書)二巻	宇井熱齋(千手興敏の跋文・写)	2		明和9写	1772		和紙袋綴写本 24.1 × 17.0	*宇井熱齋(1725―1782)は江戸時代中期の儒者。//	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H26-01
明倫・2177	宇井井熱齋(朱子行状筆記)	宇井熱齋(丸手弘篤の跋文)	4		安永10写	1781		写本	朱子とは宋の朱熹のこと。朱子学の大成者。*宇井熱齋(1725―1782)は江戸時代中期の儒者。//	送返	H25-01
明倫・2178	宇井井熱齋(中庸章句)	宇井熱齋(千手興敏の跋文・写)	2		文化11写	1814		和紙袋綴写本 25.4 × 16.3	中庸章句は朱熹の「四書集註」のひとつ、33章からなる中庸の注釈書。//岩波哲学・思想辞典	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H26-01
明倫・2179	宇井井熱齋(孟子集註)	朱熹集註(千手興敏の跋文)	14		文化8～10写	1811 1813		和紙袋綴写本 25.6 × 16.5	孟子集註は孟子の注釈書。朱子がまとめたもので、後漢の趙岐の古註に対して新註と呼ばれる。*宇井熱齋(1725―1782)は江戸時代中期の儒者。//岩波哲学・思想辞典/	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。巻末に「学校御用」「明倫堂蔵書」等の墨書あり。	H26-01
明倫・2181	宇井井熱齋(千手興敏の跋文・写)		6		文化5～8写	1808 1811		和紙袋綴写本 25.0 × 16.0	論語は儒教の代表的な経典で四書の一つ。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。*宇井熱齋(1725―1782)は江戸時代中期の儒者。//	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。巻末に「明倫堂御用書物」「学校御用書物」等の墨書あり。	H26-01
明倫・2183	大蔵姓歴御法誡		1					和紙袋綴刊本 24.5 × 16.0	秋月家の初代春實〜種樹までの没年や誡を記載したもの	外題直書「大蔵姓歴世御法誡」	H28-03
明倫・2184	沖繩志	伊地知貞馨著 重野安綱校	2					和紙袋綴刊本 23.5 × 16.5		在巻二・四 外題無、内題「沖繩志」 蔵書印「柿原藏書」 挿絵多数あり	H28-03
明倫・2185	阿蘭陀使節 外江被下物		1					和紙袋綴写本 16.5 × 25.5		外題直書「阿蘭陀使節 ■外江被下物」	H28-03
明倫・2186	御式全書		1					和紙袋綴写本 24.0 × 17.0		外題題箋「御界進御位階/御式全書 全」 蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H28-03
明倫・2187	海防總測	古賀侗庵著 日高説実校	2		明治13刊	1880		刊本	2巻。古賀愷著。我が国の海防に関する論記。天保9年成。全編漢文。1～56篇よりなる。/『國書解題』	句返	H25-01
明倫・2192	鹿児島県地誌略	大槻修二編 (東・大槻清二)	3		明治12刊	1879		刊本			H25-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2196	雑書		1	0				和紙袋綴写本 23.5×16.4		未目録 外題無(表紙・裏表紙欠)	H28-03
明倫・2197	起止録	鈴木馬左也	1	0					鈴木馬左也の明治7年(1874)、馬左也13歳の学習記録。(明倫堂展示関係資料より)	未目録	H25-01
明倫・2198	橋門韻語二巻	秋月橋門著 秋月新太郎撰 (東・博文社)	2			明治16刊	1883	和紙袋綴刊本 26.0×16.5	「橋門韻語」は秋月橋門の詩集。秋月橋門(きつもん)(1809―1880)は 江戸後期-明治時代の儒者。姓は劉・水筑とも。名は竜。字は伯起。通称は小相。広瀬淡窓・亀井昭圃にまなび、のち医学もおさめた。豊後の佐伯藩にまねかれ、藩校四教堂の教授となった。明治2年初代下総葛飾県知事。//	上下二巻 外題題箋「橋門韻語」 巻末刊年・明治16年 蔵書印「秋月家蔵書印」	H28-03
明倫・2199	橋門韻語二巻	秋月伯起著 男新太郎抄 谷永祥校 (東・博文社)	1			明治16刊	1883	刊本	「橋門韻語」は秋月橋門の詩集。秋月橋門(きつもん)(1809―1880)は 江戸後期-明治時代の儒者。姓は劉・水筑とも。名は竜。字は伯起。通称は小相。広瀬淡窓・亀井昭圃にまなび、のち医学もおさめた。豊後の佐伯藩にまねかれ、藩校四教堂の教授となった。明治2年初代下総葛飾県知事。//		H25-01
明倫・2201	橋門韻語二巻	秋月伯起著 男新太郎抄 谷永祥校(晩翠書堂)	2					刊本	「橋門韻語」は秋月橋門の詩集。秋月橋門(きつもん)(1809―1880)は 江戸後期-明治時代の儒者。姓は劉・水筑とも。名は竜。字は伯起。通称は小相。広瀬淡窓・亀井昭圃にまなび、のち医学もおさめた。豊後の佐伯藩にまねかれ、藩校四教堂の教授となった。明治2年初代下総葛飾県知事。//	返	H25-01
明倫・2202	規定(方角)		1			安政4写	1857	和紙袋綴写本 9.0×19.0		外題直書「方角/規定」 蔵書印「祿武藤蔵書記」	H28-03
明倫・2207	居家大事記	大塚静氏著	1					和紙袋綴写本 24.0×17.5	江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親淵)の著。//	外題直書「居家大事記」 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-03
明倫・2208	霧島山路縁起並面図相附	華林密寺三十二世露叢記 (鹿児島・相良徳右衛門等)	1			文政9刊	1826	刊本			H25-01
明倫・2210	郡役所経費其他諸費収支現仕高明細仕訳書	非職児湯郡長 黒水長健	1			明治25年8月22日		和紙袋綴写本 24.5×18.0 (内容1丁)	明治25年の児湯郡役所の収支報告書(明治25年8月20日付)	外題直書「郡役所経費其他諸費収支現仕高明細仕訳書」 児湯郡長 堀長発宛非職児湯郡長 黒水長健 新紙「宮崎県児湯郡役所」	H28-03
明倫・2213	皇国史要二巻	勝浦頼雄編著 (東・吉川平七)	2			明治27刊	1894	刊本			H25-01
明倫・2214	皇国史要二巻	勝浦頼雄編著 (東・吉川平七)	1			明治28刊	1895	刊本			H25-01
明倫・2215	皇国小史	勝浦頼雄編著 (東・吉川平七)	2			明治30刊	1897	刊本			H25-01
明倫・2217	呉子副詮	佐藤一斎著 大橋順校	2					和紙袋綴刊本 26.0×17.0	1巻。佐藤坦著「呉子」の本文に言語を挿入して解し易しし、傍註を加えたもの。/圖書解題/大辞典(平凡社)	(2217-2巻頭見返「孫呉副詮/全二冊」) 句返送 泥谷良次郎の記述あり(2217-1後述2217-2挿入跋) 2217-1「呉子副詮」 2217-2「孫子副詮」(巻頭見返「孫呉副詮」) 「高鍋藩蔵書印」あり。	H28-03
明倫・2219	骨董録	大塚静著	1					写本	江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親淵)の著。//		H25-01
明倫・2225	雑記	黒水次右衛門	1	元禄5	1692			和紙袋綴 本 11.0×17.0		未目録 外題直書「雑記」 巻頭に「元禄五年申四月十二日/黒水次右衛門」	H28-03
明倫・2235	四子音義	大塚精斎著	1					和紙袋綴 103丁 24.5×17.3			R5-03
明倫・2238	朱易衍義	大塚精斎著	1			寛政5写	1793	和紙袋綴写本 24.0×15.0		外題直書「朱易衍義」 書入「島田大塚家蔵/寛政五年」「精斎」	H28-03
明倫・2239	小学嘉言録(中等)	秋月種樹撰	1			明治16刊	1883	刊本		2270を見よ	H25-01
明倫・2240	小学略考	大塚静氏著	1			文化	1804 ～ 1817	和紙袋綴写本 25.0×16.5		外題直書「小学略考」 巻末刊記:「文化十三年丙子閏八月十七日/大塚静記」 蔵書印「大塚」 (本文冒頭「熟斎宇井子日小学之方…」)	H28-03
明倫・2241	小学試験法一卷		1					和紙袋綴写本 26.0×18.0	高鍋学校関係	外題直書「小学試験法」 高鍋学校関係 新紙「児湯郡高鍋学校」「鹿児島縣下児湯郡」	H28-03
明倫・2242	上記山陵実地考(遼意則鈔)	吉良義風撰	1			明治9刊	1876	刊本 21.8×15.1			H30-05
明倫・2247	諸物轻重量目事	大塚充大輔書	1			天保12写	1841	和紙袋綴写本 25.0×16.5		外題不明 以下の数タイトルの書物の抜書きか? 「諸物轻重量目事」 「田数名之事」 「九九之次第」 「商売往来」	H28-03
明倫・2248	書類目録	宮崎県児湯郡役所編	1					和紙袋綴写本 24.5×17.5	児湯郡役所の書類目録(明治16年～23年まで)	外題直書「書類目録」 新紙「宮崎県児湯郡役所」	H28-03
明倫・2249	書類目録	宮崎県児湯郡役所編	1					和紙袋綴写本 24.5×17.5	児湯郡役所の書類目録(明治6年～25年まで)	外題直書「書類目録」 新紙「宮崎県児湯郡役所」	H28-03
明倫・2257	草稿俗		1					和紙袋綴写本 25.0×18.0		外題直書「草稿俗」	H28-03
明倫・2263	大学筆記	大塚精斎著	1					和紙袋綴 20丁 25.0×17.3	江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親淵)の著。//	1586を見よ	R5-03
明倫・2270	中等小学嘉言録	秋月種樹撰 (東・原亮三郎)	7			明治16刊	1883	和紙袋綴刊本 22.0×14.7	小学校四～六学年向けの教材。全6冊で上三冊、下三冊からなる。秋月種樹撰。	2239を見よ 全6冊(上①②③下①②③)*上①のみ2冊 外題題箋「中等小学嘉言録」	H28-03
明倫・2272	追懷録	有吉忠一編纂 (東・有吉忠一)	1			大正8刊	1919	刊本		句返	H25-01
明倫・2273	通書	大塚精斎記	1			寛政5写	1793	和紙袋綴写本 25.0×17.0	高鍋藩校明倫堂師範、大塚氏慎(精斎)が記 //	外題直書「通書」 書入「精斎」	H28-03
明倫・2277	答成書	大塚静氏著	1			寛政8写	1796	和紙袋綴写本 24.0×18.0	江戸期の儒者で高鍋藩校明倫堂教授、大塚静氏(親淵)の著。//	返 外題直書「答成書」 巻末刊記・寛政八年大塚精斎識	H28-03
明倫・2280	天放存稿	秋月新太郎著 男豊校 (東・秋月新太郎)	1			明治30刊	1897	刊本		句	H25-01
明倫・2281	天放存稿	秋月新太郎著 男豊校	1			明治30刊	1897	刊本		句	H25-01
明倫・2282	天放存稿一卷	秋月新太郎著 男豊校 (東・秋月新太郎)	1			明治30刊	1897	刊本		句	H25-01
明倫・2294	日用文・細字草紙記事文帳	川辺ツウ	3					和紙袋綴写本 25.0×17.0		2294-1外題直書「日用文」(明治30年9月 高二河辺ツウ) 2294-2外題直書「記事文帳」(明治33年 高三河辺ツウ) 2294-3外題直書「細字草紙」(明治29年 河辺ツウ)	H28-03
明倫・2298	年々諸覧(大塚本家)		1			弘化4改	1847	和紙袋綴 8丁 25.0×16.0	年中米造 作道具覧 /前任者の備考(又は24年)/	虫損「大塚」の印あり。	H28-03
明倫・2302	日向国史二巻	中村徳五郎著 (東・史語出版社)	1					刊本			H25-01
明倫・2303	日向纂記二〇巻	平部きょう南著 (宮崎・高山真平等)	8			明治18刊	1885	刊本			H25-01
明倫・2305	日向私史一一巻	平部崎南著 (東・伊東祐希)	5			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 23.0×16.0	梶谷君宛長発書状あり。	句返送 「堤氏文庫」の印あり。 付箋「此書泥谷嘉之吉借用スルコト多年□□□人死後又数年昭和九年三月真□□□受取堤氏/書庫二納収ス」 1～序(叙・凡例・目録) 2～(正誤・第一) 3～2(第二)4～3(第三～第五) 5～四(第六～第七)	H28-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2306	日向私史一一巻	平部きょう南著 (東・伊東祐傳)	1			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 23.0×16.0		句返送 五巻のみ在(第八～第十一)「堤氏文庫」の印あり。	H28-03
明倫・2314	雄書 覚書		1		0			和紙袋綴写本 24.0×15.0		未目録	H28-03
明倫・2315	防御役効方大略	(鈴木氏)	1					和紙袋綴写本 21.0×13.5		表紙に「鈴木」の墨書あり。	H28-03
明倫・2317	法華千部供養普説		1					和紙袋綴写本 25.2×17.0		白 諸寺鐘之銘並詩「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-03
明倫・2321	宮崎郡地方風俗・習慣調査報告書ほか		1			明治35写	1902	和紙袋綴写本 23.5×16.5		株式会社宮崎新報社の野紙	H28-03
明倫・2330	明治廿五年度前半期地方税金徴収並上納既済未済明細仕訳書	非職児湯郡長黒水長健	1	明治25年				和紙袋綴写本 24.0×18.0		児湯郡長 堤長発宛	H28-03
明倫・2331	明倫歌集	徳川斉昭編 (和泉屋金石衛門)	5			文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 22.5×15.5	6巻(圖書解題では5巻)徳川斉昭著。嘉永4年序。文久元年跋。文久2年刊。備題に「明する古今の和歌を類集したもの。およそ一千余首を収む。君臣・父子・夫婦・兄弟・朋友・雑の6部に分ちている。/圖書解題/大辞典(平凡社)	挿入紙片あり(資料室)「上江小学高鍋」の印あり。	H28-03
明倫・2336	録録外書	大塚静氏記	1			寛政1写	1789	和紙袋綴写本 25.0×17.0	* 書写者: 大塚静氏(観瀾)(高鍋藩校明倫堂教授)//	「大塚」の印あり。裏表紙見返しに「大塚家蔵」の墨書あり。	H28-03
明倫・2337	録録外略全	大塚静氏俵	1					和紙袋綴写本 25.0×17.0	明倫堂教授、大塚静氏(観瀾)の俵。//	裏表紙見開きに「桴武藤蔵書記」の印あり。	H28-03
明倫・2339	論語諸説記	鈴木某	1					和紙袋綴写本 23.5×16.0	論語は儒教の代表的な経典で四書の第1。孔子の言論を主として、門人その他の人々との問答などを集めた語録で、10巻20編。//	「高月鈴木文庫之印」あり。裏表紙に「鈴木氏蔵書」の墨書あり。	H28-03
明倫・2340	不明	大塚写	2		0			和紙袋綴写本 ①23.0×14.8 ②23.5×17.0		未目録 2340-1 23.0×14.8 2340-2 23.5×17.0 2～表紙見返しに「大塚」の印。「大塚氏」の墨書あり。	H28-03
明倫・2344	大日本史二四三巻	源光圀編 源綱條校 源治保重校	100			嘉永4刊	1851	和紙袋綴刊本 25.7×17.9	漢文の日本史。246冊。徳川光圀の命により編纂。神武天皇から南北朝時代の終末すなわち後小松天皇の治世(1382-1412)までを、中国の正史の体裁である紀伝体により記述している。本紀73巻、列伝170巻、志126巻、表28巻の4部397巻(別に目録5巻) * 佐々宗淳、栗山潜鋒、三宅観瀾、安積澹泊ら多くの学者を集めて、編纂に従事させるとともに、佐々らを京都、奈良など各地に派遣して、古文書・記録など史料の探訪に努めた。/圖書解題/	句 2065を見よ* 朱刷りの字と謹識は2065にはなく、大きさもや異なっている。 蔵書印「中原氏圖書記」題簽「大日本史」内題・版心題も同じ。 2065-1～100まで枝巻=題簽の巻数で揃う(1～180巻:本紀第1～73巻/列伝1～1)1巻に臣治紀の「謹識」文 47年(1810) 源朝臣治紀(水戸藩の第7代藩主)の「上表」、正徳5年(1715) 源綱條(水戸藩第3代藩主)の「序」あり跋は嘉永4年 源實昭(水戸藩9代藩主) 内容: 朱刷りの第1丁(専横國史博考群書為一大部之書■代之美事構構之業勤勞可想)謹識1、上表5丁	H24-05
明倫・2346	史記 一〇巻	岡白駒著 (大・柳原喜兵衛)	5					和紙袋綴刊本 25.2×18.2	中国の歴史書四史の一つ。司馬遷が書いた中国最初の通史。当時の中国を中心として、知られていたかぎりのすべての世界にわたる全歴史過程を総合的・体系的に記述したもの。//大辞典(平凡社)	句返送	H25-01
明倫・2351	元明清史略字類大全	河村興一郎編輯	1					和紙袋綴刊本 17.4×12.6			H25-01
明倫・2356	史略支那一卷		1					和紙袋綴刊本 22.4×15.0			H25-01
明倫・2357	清史叢要六巻	増田貢 (亀谷行)	6			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 24.3×17.5			H25-01
明倫・2358	清史略	石村貞一編次 (城勇雄写)	2					和紙袋綴写本 24.3×17.5	書写者: 城勇雄(竹窓)(高鍋藩家老・明倫堂教授)//		H25-01
明倫・2359	続通鑑評三巻	古賀燈識	1			文政1写	1818	和紙袋綴写本 27.0×18.0		白「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-03
明倫・2360	中華歴代紀略三巻	(荒川四郎左衛門)	1			寛文1刊	1661	和紙袋綴刊本 27.0×17.5		裏表紙見返しに「大正四年十月調査之際裏紙ヲ添ヘテ中下二巻ヲ合シ一冊トナス 上巻ハ旧目録ニ既ニ紛失ト記入セリ 真証識」の墨書あり。	H28-03
明倫・2361	読左筆記	増島蘭園	2					和紙袋綴写本 23.4×16.5		白	H25-01
明倫・2362	近世西史綱紀十巻	堀越愛国編 (東・出雲寺方次郎等)	4			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.0×15.0	文部省が明治4年に刊行した近世西洋史。全10巻。原著は米ウィルソン氏著の万国史「アウトラインオブヒストリー」で、特に1500年代以降をとりあげて紹介している。(序文より)	在1～4巻(5～10次) 外題題簽「官版/近世西史綱紀」 巻頭見返あり: 堀越愛国編/近世西史綱紀(明治4年 文部省刊) 蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」	H28-03
明倫・2363	西洋史略(改正)	文部省 (文部省)	2			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.2×15.0		「第五大学区第廿六中学区第七番小学」の印あり。	H28-03
明倫・2364	西洋史略	文部省 (東・山中市兵衛)	1			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.2×15.0		「財津蔵書」の印あり。	H28-03
明倫・2365	西洋史略二巻	文部省 (文部省)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.4×15.4			H25-01
明倫・2366	泰西史鑑	勿的爾著 (東・相田佐兵衛等)	14			明治2刊	1869	和紙袋綴刊本 22.7×15.4		句送	H25-01
明倫・2367	李佛戦記六巻	細川十洲校 芳川春満訳 (東・須原屋茂兵衛)	5			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.6×15.6			H25-02
明倫・2368	欧羅巴文明史一四巻	(仏)ギゾー著 (米)ヘンリー訳 永峰秀樹再訳 (東・菊池辰三郎)	7			明治22刊	1889	和紙袋綴刊本 22.8×14.9			H25-02
明倫・2369	英国志	(英)葛維廉著 (長門温知社)	8			文久1刊	1861	和紙袋綴刊本 25.8×17.8		句送返	H25-02
明倫・2370	伯克爾英国文明史六巻	土井光華 菅生泰三訳 (東・小林新造等)	8			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 22.0×15.0	明治12年刊行のイギリスの歴史書。原著は「HISTORY OF CIVILIZATION IN ENGLAND」で土井光華、菅生泰三が翻訳。全6編。(巻頭見返し記載)	在全巻(六編8冊) 外題題簽「伯克爾氏著/英国文明史」巻頭見返に原著名記載「HISTORY OF CIVILIZATION IN ENGLAND」(1872・英 ヘンリー・トーマス・ハウクル著) 蔵書印「高鍋学校印章」(2370-2、5～8のみ)	H28-03
明倫・2371	合衆国小史四巻	(米)グードリッチ著 桑田新五訳 (三家村佐平)	4			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.4×15.1			H25-02
明倫・2372	稽古要略一卷	本居宣長著 (緑可亭主人)	1			安政3刊	1856	和紙袋綴刊本 26.1×18.5	1巻。碧川好尚著。安政3年刊。神代の大意、外国来住の概略を概略を録して、我が国固有の精神を明らかにしたもの。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句送返	H25-02
明倫・2374	雲上明覚大全全	西本願寺徳府編 (京・竹原好兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 15.5×11.0	2巻。皇室・皇族・公家等の世系・士族・紋所等を記述したもの。編者不詳。天保8年 * 名鑑 年々改正/圖書解題/	「田邨氏蔵書印」あり。	H28-03
明倫・2375	姓氏解二巻	宇土新著 (大・河内屋茂兵衛等)	2			寛政7刊	1795	和紙袋綴刊本 15.2×21.8	江戸中期の儒者、宇野明震(字は士新)の著。//		H25-02
明倫・2377	公事根源集釈	松下見林 (平楽寺村山勘兵衛)	1			元禄7刊	1694	和紙袋綴刊本 26.0×19.2	3巻。松下見林著。「公事根源」の注釈書。元禄7年自跋あり。公事根源の傍訓頭書に至るまで諸書を引いて集釈している。*「公事根源」は年中の禁中行事の根源を説術した書。一條兼良著。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句送返	H25-02
明倫・2378	公事根源集釈		1					和紙袋綴刊本 26.0×19.1	3巻。松下見林著。「公事根源」の注釈書。元禄7年自跋あり。公事根源の傍訓頭書に至るまで諸書を引いて集釈している。*「公事根源」は年中の禁中行事の根源を説術した書。一條兼良著。/圖書解題/大辞典(平凡社)		H25-02
明倫・2379	校正王代一覽八巻	林春斎編次 西野古高校正 (東・北畠茂兵衛)	16			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 26.0×18.1			H25-02
明倫・2380	校正王代一覽後編六巻	西野古海等編集 大関克校正 (東・坂上平七等)	6			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 26.3×18.3			H25-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2381	校正王代一覽七卷	春齋林密編次 西野古梅校正 (東・北畠茂兵衛)	4			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 26.1×18.1			H25-02
明倫・2385	新撰姓氏録四卷	源稲彦謹校 藤長年補正 (大・加賀屋善藏等)	4			文化4刊	1807	和紙袋綴刊本 24.8×17.7	30巻。萬多親王勅を奉じて撰進したもの。弘仁6年作。当代有数姓氏の一覧表。当時京畿に貫した諸士の出自を、皇別、神別、蕃別等に類別している。1182氏が記載。古史研究に必須の書とされる。/國書解題/大辞典(平凡社)	句送返	H25-02
明倫・2387	神代系図	林羅山著	1					和紙袋綴刊本 26.6×18.4	江戸時代の国学者、平田篤胤著。1巻。「古史微」1巻の附録を単行したもの。文政元年自跋あり。天之御中主神より、天種子命に至る神代の系図。/國書解題/		H25-02
明倫・2388	千年山御伝略		1					和紙袋綴刊本 11.5×17.3			H25-02
明倫・2389	(増修)続王代一覽五卷	栗原信充編 (大・河内屋茂兵衛等)	5			嘉永4刊	1851	和紙袋綴刊本 25.5×18.2			H25-02
明倫・2392	徳川伝記一八巻	牧野富成	6					和紙袋綴写本 27.0×19.0		送返 在1～3、5、7、9巻 外題直書「徳川伝記」	H28-03
明倫・2393	日本王代一覽七巻	林春斎編 (大・内田屋惣三郎等)	7			寛文3刊	1663	和紙袋綴刊本 25.5×18.3	歴史書。慶安5年(1652年)成立。全7巻。林羅山の息子である林嘉豪(春斎)により編纂された。神武天皇から正親町天皇(1557-1586在位)の代までを記している。寛文3年上梓。 /増訂國書解題/		H25-02
明倫・2394	日本王代一覽七巻	林春斎編(村上勘兵衛)	7			寛文3刊	1662	和紙袋綴刊本 25.5×18.5	歴史書。慶安5年(1652年)成立。全7巻。林羅山の息子である林嘉豪(春斎)により編纂された。神武天皇から正親町天皇(1557-1586在位)の代までを記している。寛文3年上梓。 /増訂國書解題/	在全7巻(枝番順) 外題題蓮「日本王代一覽」(2394-4のみ)内題同 巻末刊年。寛文3年 蔵書印「明倫堂蔵書記」巻末書入れ「学校御用書物」など	H28-03
明倫・2399	海外異伝	斎藤正謙著 (惜陰書屋)	1			嘉永3刊	1850	和紙袋綴刊本 23.0×16.0	1巻。斎藤正謙著。日本人が海外であった事実を収録したもの。山田長政・濱田弥兵衛・郷成功などの人物について漢文で記している。/國書解題/	「堤氏文庫」の印あり。巻末に「蛇歳年月購之 長発」の墨書あり。	H28-03
明倫・2403	川角太閤記五巻	川角三郎右衛門者 三宅弘道校訂(江・岡田屋嘉七等)	5			嘉永4刊	1851	和紙袋綴刊本 26.1×18.1	江戸初期の軍記。5巻。川角三郎右衛門著といわれる。元和年間(1615～1624)ごろの成立。豊臣秀吉の軍功を中心にした一代記。(コトバンク)//		H25-02
明倫・2405	謙信公御家記	(鈴木房藏)	1					和紙袋綴写本 25.6×16.7			H25-02
明倫・2408	信長記	小瀬南庵著	5					和紙袋綴刊本 27.0×19.9	「信長記」(しんちょうき)は「のぶながき」ともよまれる。15巻。小瀬道斎著。永禄11年から天正10年まで1年1巻ずつ刊行。大田牛一の「信長記」(写本・15巻・寛永3年ごろ刊)を敷衍し、省略し全体に文節を加えて版刻したもの。巻数は原本に従い15巻としている。/國書解題/大辞典(平凡社)	十五巻のうち巻六～八欠 外題直書2408-「信長記 一」(以下二～五) 巻数は枝番の順に、巻一/二/三～五・九～十/十一～十四/十五 蔵書印「明倫堂蔵書記」(2408-3～5)「高鍋図書館蔵書印」 3～裏表紙見開きに「宮崎県日向国児湯郡高鍋学校蔵書」の墨書あり。	H28-03
明倫・2410	靖献遺言八巻	浅見綱斎著 (京・風月堂)	1			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 18.5×12.5	「靖献遺言」江戸前期の朱子学者浅見綱斎の著。8巻。成立年不詳。載に安んじ。先王に誠意をさげる(靖献)という趣意から。楚の屈原より明の方孝孺に至る中国の8人の忠臣の遺文・略伝を記し、あわせて日本の忠臣義士の行状を載せたもの。広く読まれ、のちの尊王討幕論に大きな思想的影響を与えた/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 裏表紙見返しに「慶応三 黒水記」の墨書あり。	H28-03
明倫・2411	靖献遺言八巻	浅見安正(綱斎)編輯(京・風月庄左衛門)	3			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 17.3×12.5	「靖献遺言」江戸前期の朱子学者浅見綱斎の著。8巻。成立年不詳。載に安んじ。先王に誠意をさげる(靖献)という趣意から。楚の屈原より明の方孝孺に至る中国の8人の忠臣の遺文・略伝を記し、あわせて日本の忠臣義士の行状を載せたもの。広く読まれ、のちの尊王討幕論に大きな思想的影響を与えた/國書解題/大辞典(平凡社)	送返	H25-02
明倫・2412	靖献遺言八巻	浅見安正(綱斎)著	3					和紙袋綴刊本 27.0×19.0	「靖献遺言」江戸前期の朱子学者浅見綱斎の著。8巻。成立年不詳。載に安んじ。先王に誠意をさげる(靖献)という趣意から。楚の屈原より明の方孝孺に至る中国の8人の忠臣の遺文・略伝を記し、あわせて日本の忠臣義士の行状を載せたもの。広く読まれ、のちの尊王討幕論に大きな思想的影響を与えた/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 「城氏」の印あり。 3～裏表紙見返しに「城里明主」の墨書あり。	H28-03
明倫・2413	靖献遺言正気之歌	浅見安正(綱斎)著(京・風月庄左衛門等)	1			慶応1刊	1865	2413-1和紙袋綴刊本・18.2×12.7 2413-2刊本・14.8×8.8	*「靖献遺言」は江戸前期の朱子学者浅見綱斎の著。8巻。成立年不詳。載に安んじ。先王に誠意をさげる(靖献)という趣意から。楚の屈原より明の方孝孺に至る中国の8人の忠臣の遺文・略伝を記し、あわせて日本の忠臣義士の行状を載せたもの。広く読まれ、のちの尊王討幕論に大きな思想的影響を与えた/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 「靖献遺言」に刊本の「正気之歌」が合本されている。	H25-02
明倫・2415	靖献遺言	浅見綱斎著	1					和紙袋綴刊本 18.5×12.5	「靖献遺言」江戸前期の朱子学者浅見綱斎の著。8巻。成立年不詳。載に安んじ。先王に誠意をさげる(靖献)という趣意から。楚の屈原より明の方孝孺に至る中国の8人の忠臣の遺文・略伝を記し、あわせて日本の忠臣義士の行状を載せたもの。広く読まれ、のちの尊王討幕論に大きな思想的影響を与えた/國書解題/大辞典(平凡社)	送返	H25-02
明倫・2418	靖献遺言講義		4					和紙袋綴写本 24.5×17.0	「靖献遺言講義」は2巻。浅見安正(綱斎)著。同著「靖献遺言」の義例・文意・編次の大意等を門人のために講じたもの。元禄2年自跋あり。* 國書解題に同名の書、写本10巻、宮地信敬筆記のものも記載あり。延享3年の自序。(師の山口某・小野某の講義の筆記文)/國書解題/大辞典(平凡社)	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-03
明倫・2422	太閤記	近藤瓶城校訂 (東・近藤瓶城)	5			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 18.5×12.4	豊臣秀吉の伝記物語。小瀬南庵著。22巻。元和3年自跋、万治4年刊。別称「豊臣記」。秀吉の出生から一生の事蹟を述べ、併せて諸士その他の逸事を記している。//大辞典(平凡社)		H25-02
明倫・2423	太閤記二巻	小瀬南庵	10			元和2刊	1616	和紙袋綴刊本 26.2×17.0	豊臣秀吉の伝記物語。小瀬南庵著。22巻。元和3年自跋、万治4年刊。別称「豊臣記」。秀吉の出生から一生の事蹟を述べ、併せて諸士その他の逸事を記している。//大辞典(平凡社)	全21巻(巻第五次) 外題直書「太閤記」(内題同) 寛永二年自序。元和二年跋 蔵書印「高鍋図書館蔵書印」書入「明倫堂蔵書」「学校御用蔵書」など	H28-03
明倫・2424	太閤記	近藤瓶城校訂 (東・近藤瓶城)	3			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 18.5×12.5	豊臣秀吉の伝記物語。小瀬南庵著。22巻。元和3年自跋、万治4年刊。別称「豊臣記」。秀吉の出生から一生の事蹟を述べ、併せて諸士その他の逸事を記している。//大辞典(平凡社)		H28-03
明倫・2425	太閤素性記	近藤瓶城校訂 (東・近藤瓶城)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 18.5×12.5			H28-03
明倫・2430	拿破崙第一世伝一〇巻	(陸軍文庫)	5			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 22.7×15.3		注読みナポレオン	H25-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2431	一橋一位殿准大臣		1					和紙袋綴写本 23.5 × 16.0		「高月鈴木文庫之印」(2種)あり。	H28-04
明倫・2433	(並墨利加)華盛頓軍記二巻	鈴木彌堅 (東・大和屋喜兵衛等)	2					和紙袋綴刊本 23.0 × 15.5		1～裏表紙見返しに「高鍋学校蔵書」の墨書あり。	H28-04
明倫・2434	明君一斑	徳川斉昭	2					和紙袋綴写本 26.0 × 18.0	*「明君一斑抄」は写本5巻。徳川斉昭著。人君の注意すべき要件を論述したものの。仁心を本とすべきこと・奢侈(しゃし・度)を過ぎた貴族(きやく)を禁ずべきことなど7様の要を論じ、古今の事績や徳川将軍歴代の事例をあげて論じる。//増訂圖書解題/	「堤氏文庫」の印あり。	H28-04
明倫・2435	名譽新誌	佐田白茅 杉村雄二編輯 (兵庫・長尾景弼)	3			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 18.2 × 12.0		1～裏表紙に「明治十三年十月初旬購於東京神保町値七銭 日州学生鈴木馬左也所蔵 三冊之内」の墨書あり。 2・3～裏表紙に「日州学生鈴木馬左也所蔵 三冊之内」の墨書あり。 3～表紙に「康呈 武藤君 鈴木馬左也」の墨書あり。	H28-04
明倫・2436	明良洪範統編一五巻	真田増善述 (郁文堂)	3					和紙袋綴刊本 26.0 × 18.2	* 洪範は「書経」の一編。洪は大、範は規範の意。天下を治める大法を述べた書。皇極は洪範九職と称される9つの大法のひとつ。//	「山口文庫」 弘毅館図書記」の印あり。	H28-04
明倫・2438	山県大貳伝全	中山正俊編述 (山梨・中山正俊)	1			明治30刊	1897	和紙袋綴刊本 22.7 × 15.2			H25-02
明倫・2439	歴朝靖献遺言四巻	荘門照編輯 (大・岡島真七)	4			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 22.1 × 15.2			H25-02
明倫・2441	改置府県概表	大蔵省編集 (東・北畠茂兵衛)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.5 × 15.4			H25-02
明倫・2445	坤輿図説五巻	眞作寛著 (仙台・斎藤善)	6			弘化1刊	1844	和紙袋綴刊本 26.5 × 18.5	幕末の最もすぐれた世界地理書。眞作著。洋学者眞作阮甫の息子眞作善が、数種の圖書を基にして編述。1845年(弘化2)刊。5巻3冊。46・47年補編4巻4冊刊。世界六大州諸国の地誌万般を説き、彼の《新製輿地全図》(1844)とともに、幕末から明治維新に至るまで広く流布し、世人の世界知識の啓蒙に最も貢献した。従前の地誌がフランス・アジア・アフリカなどを詳しく取り上げていたのに対し、アメリカや豪州諸島など他書が乏しい点に力を注いでいるのが特徴。/国書解題/大辞典(平凡社)	1・2・3～「日高鍋文庫印」あり。 4・5・6～「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-04
明倫・2448	小学外国地誌	(天津開文書局)	1			光緒28刊	1902	和紙袋綴刊本 19.7 × 12.0		白	H28-04
明倫・2450	新撰地誌	岡村増太郎編集 (東・小林義則)	1			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 23.2 × 15.3		「田邨氏蔵書印」あり。	H25-02
明倫・2451	世界国畫	福沢諭吉訳	1			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.2 × 15.5	(せかいにつくし) 福沢諭吉の外国地誌書。6巻。明治2年(1869)刊。世界各国の地理・歴史を、七五調の唱歌体で記述したもの。1～5巻は世界地理、付録の6巻は地学で構成。著しい普及を見た啓蒙書であると共に教科書としても広く使用された。なお、明治4年に再版本が刊行され、このなかには2巻づつを合わせた3冊本もある。(明治5年の学制で暫定的に地理教科書に指定された5冊の教養書のうちの1つ)//日本教科書大系		H28-04
明倫・2453	世界国名盡一卷	青木東江訳 (東・和泉屋市兵衛等)	1			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.7 × 15.6			H25-02
明倫・2455	地学教授本三巻(小学)	勝浦新雄 三島豊三郎編 松山亮 桂木房吉校 (東・五十嵐雅書)	2			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 22.0 × 15.3			H25-02
明倫・2456	地学教授本六巻	内田正雄纂訳 三橋淳 (東・内田正義)	4			明治8・11刊	1875・1878	和紙袋綴刊本 22.2 × 14.9			H25-02
明倫・2457	地学教授本	三橋淳纂訳 那珂通高校訂 (東・内田正義)	1			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 22.0 × 15.0		「第五大区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。裏表紙見返し「高鍋学校本校蔵印」の書き込みあり(鉛筆)。	H28-04
明倫・2460	地学事始	松山棟庵訳述 (東・慶応義塾)	3			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 18.0 × 12.0	松山棟庵訳述。3冊。明治3年刊。小学校の教科書として採用された。著者は福澤諭吉の弟子。//滋賀大学付属図書館		H28-04
明倫・2461	地学初歩	コルネル氏著 (東・蔵田清右衛門等)	1					和紙袋綴刊本 18.1 × 12.4			H25-02
明倫・2462	地球説略		2					和紙袋綴刊本 25.5 × 17.3		句返	H25-02
明倫・2463	地方往来	(東・青松堂)	1			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 17.9 × 13.0	農業に関する往来物。明治3年刊。語彙は簡潔であり、農業生活に必要な一般的・日用的なものをくまなく取り上げている。//奈良教育大学資料館	「上江小学高鍋」の印あり。	H28-04
明倫・2464	地理初歩	文部省編集 (宮崎・宮崎県)	1			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.5 × 15.0	1巻。明治6年刊。文部省が編、小学校地理の教科書。地理学の基礎知識を享受するための入門教科書。アメリカ人コーネルの地理書などを参考に編集された。数種の版本があり、その翻刻本が全国各地で刊行されたので版本の種類は多い。全巻僅か12枚の小冊子。(※「地理初歩」「日本地誌略」「万国地誌略」の3部を地理教科書とした)//		H25-02
明倫・2466	万国地誌要略七巻	片山淳吉編訳 寺内章明校 (東・石川治兵衛等)	1			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 22.5 × 14.8	*「万国地誌略」は明治7年刊。文部省が師範学校に編集させた小学校地理の教科書。//		H25-02
明倫・2467	万国地誌要略	大島貞益問 片山淳吉編 (東・石川治兵衛)	1			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 22.4 × 14.7	*「万国地誌略」は明治8年刊。文部省が師範学校に編集させた小学校地理の教科書。//		H25-02
明倫・2468	万国地誌略	菅野虎太郎訳述 (和泉屋市兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 22.7 × 15.1	世界地理書。3巻6篇。明治7年刊。文部省が師範学校に編集させた小学校地理の教科書。編集にあたっては、外国の地誌から材料を取って編集している。(米:コルト「学校地誌」 米:ミチェル「近世万国地誌」など) 挿絵も豊富。(※「地理初歩」「日本地誌略」「万国地誌略」の3部を地理教科書とした)//日本教科書大系/		H25-02
明倫・2470	万国地誌略	大島貞益問 片山淳吉編 寺内章明校 (東・石川治兵衛)	5			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 22.4 × 14.7	世界地理書。3巻6篇。明治7年刊。文部省が師範学校に編集させた小学校地理の教科書。編集にあたっては、外国の地誌から材料を取って編集している。(米:コルト「学校地誌」 米:ミチェル「近世万国地誌」など) 挿絵も豊富。(※「地理初歩」「日本地誌略」「万国地誌略」の3部を地理教科書とした)//日本教科書大系/		H25-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2471	万国地誌略	菅野虎太郎訳述（東・養賢堂）	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.2	世界地理書。3巻6篇。明治7年刊。文部省が師範学校に編集させた小学校地理の教科書。編集にあたっては、外国の地誌から材料を取って編集している。（米：コルト「学校地誌」米：ミヤナル「近世万国地誌」など）挿絵も豊富。（※「地理初歩」「日本地誌略」「万国地誌略」の3部を地理教科書とした）/日本教科書大系/		H25-02
明倫・2472	万国地誌略	師範学校編輯	1					和紙袋綴刊本 22.3×15.3	世界地理書。3巻6篇。明治7年刊。文部省が師範学校に編集させた小学校地理の教科書。編集にあたっては、外国の地誌から材料を取って編集している。（米：コルト「学校地誌」米：ミヤナル「近世万国地誌」など）挿絵も豊富。（※「地理初歩」「日本地誌略」「万国地誌略」の3部を地理教科書とした）/日本教科書大系/		H25-02
明倫・2473	万国地誌略	菅野虎太郎訳述（東・和泉屋市兵衛等）	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.2	世界地理書。3巻6篇。明治7年刊。文部省が師範学校に編集させた小学校地理の教科書。編集にあたっては、外国の地誌から材料を取って編集している。（米：コルト「学校地誌」米：ミヤナル「近世万国地誌」など）挿絵も豊富。（※「地理初歩」「日本地誌略」「万国地誌略」の3部を地理教科書とした）/日本教科書大系/		H25-02
明倫・2474	輿地誌略七巻	内田正雄纂輯 文部省正定（東・和田治郎兵衛）	3			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 24.5×17.7	明治時代の地理書明治3～11年刊。内田正雄著。世界の地理を略述した書。＊明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている5冊の教養書のうちの1冊。//	2530～2532を見よ 1～「第五大区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。 2～「上江小学高鍋」の印あり。 3～「第五大区第廿六中学区第七番小学」の印あり。	H28-04
明倫・2476	輿地誌略三巻（亜細亞洲）	内田正雄纂輯 （東・紀伊国屋源兵衛等）	1					和紙袋綴刊本 25.5×17.8	明治時代の地理書。内田正雄著。世界の地理を略述した書。第1篇（巻1～3）は大学南校。第2篇（巻4～7）は文部省。第3・4篇は修静館出版の発行。別に明治9年刊の洋装本（四六版）もある。著者が欧州滞在時に収集した資料をまとめたもの。本書の刊行当時は日本人の手で刊行された唯一の世界地理書であったため、広く読まれた。小学校・中等学校の教科書であり、一般に対する啓蒙書ともなった。＊明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている5冊の教養書のうちの1冊。//日本教科書大系	「第五大区第廿六中学区第七番小学」の印あり。	H28-04
明倫・2477	輿地誌略三篇（亞非利加洲）	内田正雄纂輯 （東・紀伊国屋源兵衛）	2			明治8刊	1875	刊本 25.1×17.7	明治時代の地理書。内田正雄著。世界の地理を略述した書。第1篇（巻1～3）は大学南校。第2篇（巻4～7）は文部省。第3・4篇は修静館出版の発行。別に明治9年刊の洋装本（四六版）もある。著者が欧州滞在時に収集した資料をまとめたもの。本書の刊行当時は日本人の手で刊行された唯一の世界地理書であったため、広く読まれた。小学校・中等学校の教科書であり、一般に対する啓蒙書ともなった。＊明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている5冊の教養書のうちの1冊。//日本教科書大系	「第五大区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H30-05
明倫・2478	輿地誌略二篇	内田正雄纂輯 （山梨県）	1					刊本 23.0×15.3	明治時代の地理書。内田正雄著。世界の地理を略述した書。第1篇（巻1～3）は大学南校。第2篇（巻4～7）は文部省。第3・4篇は修静館出版の発行。別に明治9年刊の洋装本（四六版）もある。著者が欧州滞在時に収集した資料をまとめたもの。本書の刊行当時は日本人の手で刊行された唯一の世界地理書であったため、広く読まれた。小学校・中等学校の教科書であり、一般に対する啓蒙書ともなった。＊明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている5冊の教養書のうちの1冊。//日本教科書大系		H30-05
明倫・2479	輿地誌略（亜細亞洲）	内田正雄纂輯 （東・大学南校）	3			明治3・9刊	1870・1876	刊本 23.9×17.5	明治時代の地理書。内田正雄著。世界の地理を略述した書。第1篇（巻1～3）は大学南校。第2篇（巻4～7）は文部省。第3・4篇は修静館出版の発行。別に明治9年刊の洋装本（四六版）もある。著者が欧州滞在時に収集した資料をまとめたもの。本書の刊行当時は日本人の手で刊行された唯一の世界地理書であったため、広く読まれた。小学校・中等学校の教科書であり、一般に対する啓蒙書ともなった。＊明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている5冊の教養書のうちの1冊。//日本教科書大系	「第五大区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H30-05
明倫・2480	輿地誌略四篇三巻	内田正雄遺稿 西村茂樹校定（東・紀伊国屋源兵衛）	2			明治10刊	1877	刊本 25.0×17.5	明治時代の地理書。内田正雄著。世界の地理を略述した書。第1篇（巻1～3）は大学南校。第2篇（巻4～7）は文部省。第3・4篇は修静館出版の発行。別に明治9年刊の洋装本（四六版）もある。著者が欧州滞在時に収集した資料をまとめたもの。本書の刊行当時は日本人の手で刊行された唯一の世界地理書であったため、広く読まれた。小学校・中等学校の教科書であり、一般に対する啓蒙書ともなった。＊明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている5冊の教養書のうちの1冊。//日本教科書大系	「第五大区高鍋学校校第廿六中学区」の印あり。	H30-05
明倫・2486	蔵島図会		4					和紙袋綴刊本 25.7×18.2	蔵島の名所記。10巻。岡田清著（蔵島の学者）。天保13年刊。1～5巻は名所記（蔵島神社及び付近の名所）。6～10巻は蔵島神社の宝物の図絵。/國書解題/大辞典（平凡社）		H25-02
明倫・2487	蔵島図会	岡田清編述 山中芳樹校正（広・樽屋惣左衛門）	5			天保13刊	1832	和紙袋綴刊本 25.8×18.2	蔵島の名所記。10巻。岡田清著（蔵島の学者）。天保13年刊。1～5巻は名所記（蔵島神社及び付近の名所）。6～10巻は蔵島神社の宝物の図絵。/國書解題/大辞典（平凡社）	2489をみよ（六巻） 在1・7～9巻（枝書順に巻1、9、7、8、10） 外題題箋「蘇州/蔵島図会」内題同（巻6～10は「蔵島宝物図会」） （枝書順に巻1、9、7、8、10） 絵図多数収録 蔵書印無	H28-04
明倫・2488	蔵島扁額縮本初編	渡辺黄鶴著 （広・森光治郎）	5			明治28刊	1895	和紙袋綴刊本 26.4×18.8			H25-02
明倫・2489	蔵島宝物図会	岡田清編 山野俊峰斎外二四人面	1					和紙袋綴刊本 25.5×18.3	蔵島の名所記。10巻。岡田清著（蔵島の学者）。天保13年刊。1～5巻は名所記（蔵島神社及び付近の名所）。6～10巻は蔵島神社の宝物の図絵。/國書解題/大辞典（平凡社）	2487をみよ 「蔵島図会」の第6巻 外題題箋「蔵島図会 巻之六」内題「蔵島宝物図会 巻之一」 蔵書印無	H28-04
明倫・2490	瓜生氏日本国畫六巻	瓜生三寅著 （東・和泉屋吉兵衛）	4			明治5刊	1872	刊本 22.2×15.1	＊日本国図（にほんぐにつくし）は安土桃山時代の往来物。1巻。著者未詳。成立年未詳。慶長2年（1597）初刊。日本国内諸国名を畿内七道に分類列記し、学習記憶に便利のように編集した教科書。最古の国図（くにづくし）型往来物//	「上江小学高鍋」の印あり。	H30-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2491	瓜生氏日本国畫		1					和紙袋綴刊本 22.2×15.0	* 日本国尽 (にほんくにづくし)は安土桃山時代の往来物。1巻。著者未詳。成立年未詳。慶長2年(1597)初刊。日本国内諸国名を畿内七道に分類列記し、学習記憶に便利のように編集した教科書。最古の国尽(くにづくし)型往来物//	二巻(東海道) 外題題箋「瓜生氏/日本国畫 東海道 二」 色刷りの絛図多数有 蔵書印「上江小学高鍋」	H28-04
明倫・2492	瓜生氏日本国畫		1					刊本 22.0×15.1	* 日本国尽 (にほんくにづくし)は安土桃山時代の往来物。1巻。著者未詳。成立年未詳。慶長2年(1597)初刊。日本国内諸国名を畿内七道に分類列記し、学習記憶に便利のように編集した教科書。最古の国尽(くにづくし)型往来物//	「第五大学区大廿六中学区第■番小学」の印あり。	H30-05
明倫・2496	甲斐地誌略	山梨県師範学校編 (山梨・内藤佐右衛門)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 22.0×14.8	山梨県の地理の教科書。明治13年。山梨県師範学校編集。文部省検定済みの教科書。	外題題箋「山梨県師範学校編集/甲斐地誌略 全」 内題同 明治13年刊 蔵書印無	H28-04
明倫・2497	皇国地理書	市岡正一著	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.1	市岡正一著*明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている5冊の教養書のうちの1冊。//		H25-02
明倫・2498	皇国地理書	市岡正一著 (茨城・新報義社等)	2			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.4×15.0	市岡正一著*明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている6冊の教養書のうちの1冊。//		H25-02
明倫・2499	皇国地理書	市岡正一著	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.4	市岡正一著*明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている7冊の教養書のうちの1冊。//		H25-02
明倫・2504	新撰地誌四巻	岡村増太郎編集 (東・小林義則)	3			明治20刊	1887	刊本 22.9×15.3		「田邨氏蔵書印」あり。	H30-05
明倫・2506	童蒙必読	橋爪貞一著 横山由清閑 (東・青山堂)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.0×15.0	往来物の入門教科書。3巻、明治3年刊。橋爪貞一編。明治初期に入門教科書として広く用いられた。皇誼(こうし)之巻(明治3年)、年考之巻(明治3年)、州名之巻(明治5年)で、歴代天皇・年号・国尽からなる。//滋賀大学付属図書館	「堤氏文庫」の印あり。	H28-04
明倫・2508	日本地誌要略五巻	大槻修二編 (東・石川治兵衛等)	1			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.5×15.1	日本地誌教科書。大槻修二編、6冊本。明治8年刊。日本を8道84国に分けて地誌を細かく叙述したもの。地誌の叙述のさいにその歴史的成立展開を明らかにしているところに特徴がある。本書は小学校生徒には上級用参考書であり、よい指導教材書であったとみられる。/日本教科書大系/		H25-02
明倫・2509	日本地誌要略	大槻修二編 (東・稲田左兵衛等)	2			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.0×15.0	日本地誌教科書。大槻修二編、6冊本。明治8年刊。日本を8道84国に分けて地誌を細かく叙述したもの。地誌の叙述のさいにその歴史的成立展開を明らかにしているところに特徴がある。本書は小学校生徒には上級用参考書であり、よい指導教材書であったとみられる。/日本教科書大系/	1～表紙見返しに「高鍋中学校蔵書」の墨書あり。 2～「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H28-04
明倫・2510	日本地誌要略	大槻修二編	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.5×15.1	日本地誌教科書。大槻修二編、6冊本。明治8年刊。日本を8道84国に分けて地誌を細かく叙述したもの。地誌の叙述のさいにその歴史的成立展開を明らかにしているところに特徴がある。本書は小学校生徒には上級用参考書であり、よい指導教材書であったとみられる。/日本教科書大系/		H25-02
明倫・2512	日本地誌要略	大槻修二編	1					和紙袋綴刊本 22.1×15.1	日本地誌教科書。大槻修二編、6冊本。明治8年刊。日本を8道84国に分けて地誌を細かく叙述したもの。地誌の叙述のさいにその歴史的成立展開を明らかにしているところに特徴がある。本書は小学校生徒には上級用参考書であり、よい指導教材書であったとみられる。/日本教科書大系/		H25-02
明倫・2513	日本地誌要略	大槻修二編 (青山紅樹書樓)	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.1×15.1	日本地誌教科書。大槻修二編、6冊本。明治8年刊。日本を8道84国に分けて地誌を細かく叙述したもの。地誌の叙述のさいにその歴史的成立展開を明らかにしているところに特徴がある。本書は小学校生徒には上級用参考書であり、よい指導教材書であったとみられる。/日本教科書大系/		H25-02
明倫・2514	日本地誌要略	大槻修二編 (東・稲田佐兵衛等)	4			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 22.1×15.1	日本地誌教科書。大槻修二編、6冊本。明治8年刊。日本を8道84国に分けて地誌を細かく叙述したもの。地誌の叙述のさいにその歴史的成立展開を明らかにしているところに特徴がある。本書は小学校生徒には上級用参考書であり、よい指導教材書であったとみられる。/日本教科書大系/		H25-02
明倫・2516	日本地誌要略字解	大槻修二編輯 (京・辻本定次郎等)	1			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 8.7×17.3	*「日本地誌要略」は日本地誌教科書。大槻修二編、6冊本。明治8年刊。日本を8道84国に分けて地誌を細かく叙述したもの。//		H25-02
明倫・2517	日本地誌要略字解	大槻修二著 (三木美記)	1			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 8.5×17.5	*「日本地誌要略」は日本地誌教科書。大槻修二編、6冊本。明治8年刊。日本を8道84国に分けて地誌を細かく叙述したもの。//	「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H28-04
明倫・2518	日本地誌略	師範学校編輯 (東・文部省)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 22.2×14.8	4巻。明治7年刊。文部省が師範学校に編集させた小学校地理の教科書。畿内・東海道・東山道と9地区に分けて述べる。地誌の内容としては、特に山、河川についての記述が精細である。/日本教科書大系/国史大辞典		H25-02
明倫・2520	日本地誌略	師範学校編輯 (文部省)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 22.2×14.9	4巻。明治7年刊。文部省が師範学校に編集させた小学校地理の教科書。畿内・東海道・東山道と9地区に分けて述べる。地誌の内容としては、特に山、河川についての記述が精細である。/日本教科書大系/国史大辞典		H25-02
明倫・2521	日本地理	学海指針社(泥谷奎吉)編 (東・小林八郎)	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 22.7×14.7		蔵書印「宮崎県高鍋図書館印」	H25-02
明倫・2522	日本地理往来	(大・書林会社)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 23.0×15.9		「第五大学区第廿六中学区第七番小学」の印あり。	H28-04
明倫・2523	日本地理撮要	(東・青山堂等)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.4×15.2		「上江小学高鍋」の印あり。	H28-04
明倫・2524	広島県管内地理	永原製道編 (広・松村善助)	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 22.0×14.8		句 小学校生徒用	H25-02
明倫・2526	(拾遺)都名所図会		1					和紙袋綴刊本 27.3×18.8		「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H28-04
明倫・2527	東洋記	(山田玄民)	1			文化10写	1813	和紙袋綴写本 24.8×17.0		返表表紙に「大塚氏」の墨書あり。	H28-04
明倫・2528	西洋紀行二巻	中井貞著 (東・柳屋喜兵衛等)	2			慶応4刊	1868	和紙袋綴刊本 21.5×14.2		「明倫堂蔵書印」「第五大学区嶋田小学校第廿六中学区」の印あり。	H28-04
明倫・2529	五洲紀事	寺内章明訳編 (艸光書屋)	1			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.2×15.1			H25-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2530	輿地誌略三編(亞米利加洲)	内田正雄纂輯 (京・遠藤平左衛門等)	2			明治12刊	1878	刊本 25.1×17.8	明治時代の地理書。内田正雄著。世界の地理を略述した書。第1篇(巻1〜3)は大学南校、第2篇(巻4〜7)は文部省、第3・4篇は修静館出版の発行。別に明治9年刊の洋装本(四六版)もある。著者が欧州滞在時に収集した資料をまとめたもの。本書の刊行当時は日本人の手で刊行された唯一の世界地理書であったため、広く読まれた。小学校・中等学校の教科書であり、一般に対する啓蒙書ともなった。＊明治5年の学制で暫定的に地理の教科書に指定されている5冊の教養書のうちの1冊。//日本教科書大系	2474〜2484を見よ	H30-05
明倫・2534	西洋新書	瓜生政和編 (大和屋喜兵衛)	22			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.4×15.0		校番には同じ内容の本も含まれている(要確認11/30)	H25-02
明倫・2535	西洋事情	福沢諭吉(慶応義塾出版)	31			明治		和紙袋綴刊本 22.2×15.2	福沢諭吉が幕末から明治(慶応2〜明治3年)にかけて著した書物。当時欧米の状況を紹介したもの。初編3冊、外編3冊、2編4冊の10冊からなる。//	2535-06「高鍋学校御蔵書」書入有/蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第廿五中学区」書入れ2535-09「兵武局」2535-10「耳々津泉学校蔵書」2535-27「第五大学区/嶋田学校/第廿六中学区」	H25-02
明倫・2537	人民必携六篇	(東・博聞社)	9			明治6刊	1873	刊本 22.5×15.0	官省諸公布中より衆庶に関する条件を抜粋して訓解を加えたもの。明治6年刊。全10冊。明治元年〜6年分を収録。//	「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H30-05
明倫・2538	人民必携	(東・博聞社)	3			明治6刊	1873	刊本 22.3×14.8	官省諸公布中より衆庶に関する条件を抜粋して訓解を加えたもの。明治6年刊。全10冊。明治元年〜6年分を収録。//	「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H30-05
明倫・2539	人民必携	(東・博聞社本社)	1			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.3×15.0	官省諸公布中より衆庶に関する条件を抜粋して訓解を加えたもの。明治6年刊。全10冊。明治元年〜6年分を収録。//	「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H28-04
明倫・2542	所見	前田正名著 (東・前田正名)	1			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 23.0×15.1		題箋「前田正名著/再版/所見」	H25-02
明倫・2543	通議	頼山陽著	1					和紙袋綴刊本 25.0×17.5	全3巻。頼山陽(頼襄(のぼる))著。弘化4年刊。漢文体の日本の政論書。28編からなる。日本の古今の形勢、政治の得失や官制、民政、法律、兵論等を論議した策文。毎編に古賀穀堂(古賀精里の長男)の評論が附されている。(頼山陽が得意とする史論の体裁を採りながら、彼の政治・法律思想の根幹にある「勢」とこれに付随する「権」と「機」について説きつつ現状の政治の得失について説き、更に今後の日本のあるべき姿について政治・経済・軍事の各面から論じた。1806年(文化3年)に「新策」(全6巻)を執筆したが、後にこれの補訂・再稿	句返	H28-04
明倫・2545	柳子新論完	山県大貳著 孫昌蔵校 (東・山県昌蔵)	1			明治17完	1884	和紙袋綴刊本 23.7×15.1		返	H28-04
明倫・2555	新論二巻	会沢正志斎	1					和紙袋綴写本 22.8×16.2		句	H28-04
明倫・2558	太政官日誌		1		0			和紙袋綴刊本 21.1×14.5		未目録(第百六十〜百六十九)巻頭書入「大政官日誌 十五/高鍋明倫堂蔵書」蔵書印「高鍋藩」巻末に「高鍋明倫堂」の墨書あり。	H28-04
明倫・2559	朝廷役職名・氏名一覧		1					和紙袋綴写本 24.0×16.5		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2560	野芹三巻	細井平洲著 (財津氏)	1			文化3写	1806	和紙袋綴写本 26.4×17.1		巻末に「学校御用書物」の墨書あり。	H28-04
明倫・2561	野芹全	細井平洲著	1					和紙袋綴写本 24.3×16.6			H28-04
明倫・2564	牧民忠告解	樋口好古撰 杉浦邦古校 (尾州・永楽屋東四郎等)	1					和紙袋綴刊本 22.9×15.8			H28-04
明倫・2565	合衆国政治小学八巻	瓜生三寅著	2					和紙袋綴刊本 22.5×14.9			H25-02
明倫・2566	責而者草	洪井孝徳筆記	34					和紙袋綴刊本 18.1×12.4			H25-02
明倫・2569	自由之理五巻	ジョン・スチャート・ミル著 中村敬太郎訳 (静・木村兼一郎)	6			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.7×15.4	明治初年の啓蒙的翻訳書。原書はイギリス功利主義の思想家J.S.ミルの(On Liberty)(1859)で、中村直正が1871年(明治4)に翻訳し、翌年刊行された。中村の人格・学識と相まって、明治前半の青年知識人の必読書となった。本書はルソーやスペンサーの著書とともに自由民権思想の形成に最も大きな影響を与えた書物の一つ(コハング)	外題題箋「自由之理」巻頭「ON LIBERTY」(原題)著者「JOHN STUART MILL」1870年英国で出版したものを 中村敬太郎訳が訳し、1871年駿河より発行したもの。	H25-03
明倫・2571	印紙御布告		1					和紙袋綴写本 25.5×18.4			H25-03
明倫・2572	願書案詞		1					和紙袋綴写本 24.3×15.9		電子化時表紙裏に貼り付いていた1枚を製本時に剝離。	H28-04
明倫・2578	俄羅斯書翰和解		1			嘉永6写	1853	和紙袋綴写本 27.8×19.5		「黒水之印」あり。	H28-04
明倫・2579	日本国帝に上る書		1					和紙袋綴写本 25.0×17.2			H28-04
明倫・2580	刑法註釈	村田保著 (東・内田正栄堂)	6			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 22.4×15.1		＊「刑法註釈」は明治13年に公布された刑法の注釈書で、同法はフランス法に基づく我が国最初の近代的刑法であった	H25-03
明倫・2581	新律綱領首巻五巻		5					和紙袋綴刊本 29.9×19.8		＊「新律綱領」は明治政府のもとの最初の刑法典。明治3年(1870)発布。江戸幕府や中国の刑法典をもとにして作成され、華族・士族に閨刑(じゅんけい)を認めるなど、刑に身分的差別を設けていた。同15年の旧刑法施行まで行われた。	H25-03
明倫・2582	聴訟指令	近藤圭造編	1			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.8×15.4			H25-03
明倫・2584	明律国字解	荻生徂徠著	16					和紙袋綴刊本 18.3×12.5	中国、明代の基本法典を日本語で解説した書。荻生徂徠の著。16巻。(国書解題では写本5巻とある)明律の中から、必要なものを摘出し仮名文をもって平易簡明な解を施したもの。江戸時代、将軍吉宗のころ中国法制の研究が盛んに行われ、明律の解説書も数種あらわれたが、徂徠のこの書がもっとも普及した。版本には四文様本と拙修斎蔵書本の2種があり、自筆本も現存しており、いずれも明律(30巻)と(問刑条例)との訳解を収めている(国書解題/大辞典(平凡社))		H25-03
明倫・2585	明律国字解一六巻	荻生徂徠著	6					和紙袋綴写本 27.5×18.8	中国、明代の基本法典を日本語で解説した書。荻生徂徠の著。16巻。(国書解題では写本5巻とある)明律の中から、必要なものを摘出し仮名文をもって平易簡明な解を施したもの。江戸時代、将軍吉宗のころ中国法制の研究が盛んに行われ、明律の解説書も数種あらわれたが、徂徠のこの書がもっとも普及した。版本には四文様本と拙修斎蔵書本の2種があり、自筆本も現存しており、いずれも明律(30巻)と(問刑条例)との訳解を収めている(国書解題/大辞典(平凡社))	「財津蔵書」の印あり。	H28-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2586	明律国字解	狄生徂徠著	6					和紙袋綴刊本 18.2×12.5	中国、明代の基本法典を日本語で解説した書。狄生徂徠の著。16巻。(国書解題では写本5巻とある)明律の中から、必要なものを摘出し仮名文をもって平易簡明な解を施したもの。江戸時代、将軍吉宗のころ中国法制の研究が盛んに行われ、明律の解説書も数種あらわれたが、徂徠のこの書がもっとも普及した。版本には四文様本と拙修斎書本の2種があり、自筆本も現存しており、いずれも明律(30巻)と〈問刑条例〉との訳解を収めている。(国書解題/大辞典(平凡社))		H25-03
明倫・2588	律例権衡便覧三巻	村田保編纂 (東・法制局)	3			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.8×15.4		2588-3に田村義勝(晩翠学舎創始者)が城勇雄にあてた書かんが入っていた蔵書印朱印「日向高鍋城氏圖籍」	H25-03
明倫・2589	人間文法初編	児玉淳一郎訳述 (東・養和春舎)	2			明治6刊	1873	刊本 22.4×15.0		「粹秋月蔵書印」あり。 2～裏表紙見返し「宮崎県庁下河原町和泉屋兵衛支店ニ於テ之ヲ除フ 明治八年第七月十有九日 横式拾五銭八厘 左都大記」「後村月蔵書」の墨書あり。	H30-05
明倫・2590	延喜式五〇巻	藤原忠平等 (出雲寺)	50			享保8刊	1723	和紙袋綴刊本 27.4×19.0	朝廷の年中儀式や作法などを詳述した書。弘仁式・貞観式以降の律令の施行細則を取捨・集大成したもの。50巻。三代式の一。延喜5年(905)醍醐天皇の勅により藤原時平・忠平らが編集。延長5年(927)成立。康保4年(967)施行。(国書解題/大辞典(平凡社))	句送返	H25-03
明倫・2591	延喜式	藤原忠平勅撰 (源齋貴)	50			文政10刊	1827	和紙袋綴刊本 25.5×18.2	朝廷の年中儀式や作法などを詳述した書。弘仁式・貞観式以降の律令の施行細則を取捨・集大成したもの。50巻。三代式の一。延喜5年(905)醍醐天皇の勅により藤原時平・忠平らが編集。延長5年(927)成立。康保4年(967)施行。(国書解題/大辞典(平凡社))	句送返	H25-03
明倫・2592	延喜式考異五〇巻	源齋恒考訂	8					和紙袋綴刊本 25.5×18.2	*「延喜式」は朝廷の年中儀式や作法などを詳述した書。弘仁式・貞観式以降の律令の施行細則を取捨・集大成したもの。50巻。三代式の一。延喜5年(905)醍醐天皇の勅により藤原時平・忠平らが編集。延長5年(927)成立。康保4年(967)施行。//	返	H25-03
明倫・2593	延喜式考異附録三巻	源齋恒編	3					和紙袋綴刊本 25.5×18.2	*「延喜式」は朝廷の年中儀式や作法などを詳述した書。弘仁式・貞観式以降の律令の施行細則を取捨・集大成したもの。50巻。三代式の一。延喜5年(905)醍醐天皇の勅により藤原時平・忠平らが編集。延長5年(927)成立。康保4年(968)施行。//	返	H25-03
明倫・2597	官職知要		1					和紙袋綴刊本 22.5×15.7		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2599	官途必携	外史局編纂	2			明治5刊	1872	刊本 22.8×15.5		「堤氏文庫」の印あり。	H30-05
明倫・2600	官途必携	外史局編 (北畠茂兵衛等)	2					和紙袋綴刊本 23.0×15.4		「堤氏文庫」の印あり。	H28-04
明倫・2602	新律綱領改定律例合巻註釈		1			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 23.0×15.8		2617・2654を見よ	H28-04
明倫・2603	国喪正義	新井白石講 室鳩巢記	1					和紙袋綴写本 23.5×15.9		白 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-04
明倫・2607	職員令		1					和紙袋綴刊本 21.2×14.8		蔵書印「高鍋藩」	H25-03
明倫・2609	職官志六巻	会沢安編著 (大・加賀屋善蔵等)	6			文化13刊	1816	和紙袋綴刊本 25.0×17.5		句返	H25-03
明倫・2614	新貨幣法	(東・須原屋茂兵衛等)	1			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.8×15.6			H25-03
明倫・2617	新律綱領註釈改正律例註釈		2					和紙袋綴刊本 23.0×15.6		2602・2654を見よ	H25-03
明倫・2618	泰西国法論四巻	(三家村佐兵衛等)	3			慶応5刊	1869	和紙袋綴刊本 22.5×15.0	西洋の刑事法をも含む広義の公法学の概論書。津田真道訳。1868年(明治1)刊。4巻。津田は西周とともに幕府留学生としてオランダに渡り、1863年から65年までライデン大学教授S・フイエリングから個人教授を受けた。本書はその講義のうち(国法学)の分を幕命により訳出し、幕府の開成所が刊行したものである。政治行政制度全般にわたる簡にして要を得た概論で、訳も的確である。明治新政権成立後も版を重ね広く読まれた。(コハック)//		H28-04
明倫・2619	泰西国法論		1					和紙袋綴刊本 22.5×15.0	西洋の刑事法をも含む広義の公法学の概論書。津田真道訳。1868年(明治1)刊。4巻。津田は西周とともに幕府留学生としてオランダに渡り、1863年から65年までライデン大学教授S・フイエリングから個人教授を受けた。本書はその講義のうち(国法学)の分を幕命により訳出し、幕府の開成所が刊行したものである。政治行政制度全般にわたる簡にして要を得た概論で、訳も的確である。明治新政権成立後も版を重ね広く読まれた。(コハック)//		H28-04
明倫・2621	太政官布書	(東・北畠茂兵衛等)	6			明治7刊	1874	刊本 18.2×12.2		第四大 宮崎県 區之印」あり。	H30-05
明倫・2622	治罪法註釈八巻	村田保蔵註釈 (東・村田保蔵)	8			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 25.9×17.4			H25-03
明倫・2623	聴訟彙案三巻	津坂東陽著 (津・有造館)	3			天保2刊	1831	和紙袋綴刊本 25.9×17.4		送返	H25-03
明倫・2624	日本独逸条約書全		1					和紙袋綴刊本 21.5×14.9			H25-03
明倫・2625	万法精里全二〇巻	孟德斯鳩著 何禮之重訳 (東・丸家善一)	17			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.3×15.2		カバー状の装丁あり(書袋?)	H25-03
明倫・2626	百寮訓要鈔直説	岸康銓	1					和紙袋綴写本 24.3×15.8		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2627	標注職原抄校本	藤原芳樹撰 (大・秋田屋太右衛門等)	18			元治1刊	1864	和紙袋綴刊本 25.9×18.6		開題別記	H25-03
明倫・2628	標注令義解校本三巻	藤原芳樹著 (大・秋田屋太右衛門等)	12			元治1刊	1864	和紙袋綴刊本 25.7×18.0		送返	H25-03
明倫・2629	詳解	鈴木房蔵写	1	0				和紙袋綴写本 27.0×19.5		高月鈴木文庫之印朱印	H25-03
明倫・2633	服忌令詳解	大滝高尚増補撰	1					和紙袋綴写本 24.2×16.3	写本1巻。遠山景晋(金四郎)著。元禄6年に改定された服忌令及び追加と修増補7條等をあげ、分かなりやすく衍義したもの。文化8年自序有。(国書解題/	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-04
明倫・2634	服忌令養実早見	大滝高尚撰	1					和紙袋綴写本 24.2×16.5			H28-04
明倫・2635	法曹至要抄三巻	鶴御石庵点 (村上勘兵衛)	9			寛文2刊	1662	和紙袋綴刊本 24.2×17.5		送返	H25-03
明倫・2637	立憲政体略	加藤弘蔵譯之 著 (江・上州屋徳七)	1			慶応4刊	1868	和紙袋綴刊本 22.6×15.4	明治の指導的思想家の著者が憲法の概念を紹介し、立憲政体がすぐれているゆえんを解説した書。明治元年(1868)刊。//		H25-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2639	類聚三代格一六巻	河部伯孝撰 (名古屋・永楽 屋東四郎等)	16			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 26.2× 18.3	平安時代に編纂された法令集。編者は不明。1002-89年(長保4-寛治3)の間に編纂されたと推定される。《本朝書籍目録》は30巻と記すが、写本として残存するのは12巻本と20巻本で、いずれも完本はなく、両者を併せても欠失部がある。内容は、弘仁格、貞観格、延喜格の三代の格(きやく)を類によって聚めたもので、三代の格が官司ごとに配列されていたのを、内容により神社事、国分寺事、分置諸国事、調庸事、禁制事、断罪贈納綱事など類によって集め、再編成している(トバンカ/圖書解題/大辞典(平凡社))	送返	H25-03
明倫・2640	令義解		2					和紙袋綴刊本 25.6× 18.0	養老令の公的注釈書。10巻。令の解釈が画一性を欠き、適用に支障があったので、826年(天長3)に明法博士・額田今足が上申したのを契機として、国家の事業として編纂がすすめられ、833年(天長10)に完成し、翌年(承和1)に詔によって施行された。編纂者は右大臣清原夏野ほか11人。慶安年間以来旅行されている。//大辞典(平凡社)	句送返 「堤氏文庫」の印あり。朱書の書き込み多数。	H28-04
明倫・2641	令義解		1					和紙袋綴刊本 25.6× 18.0	養老令の公的注釈書。10巻。令の解釈が画一性を欠き、適用に支障があったので、826年(天長3)に明法博士・額田今足が上申したのを契機として、国家の事業として編纂がすすめられ、833年(天長10)に完成し、翌年(承和1)に詔によって施行された。編纂者は右大臣清原夏野ほか11人。慶安年間以来旅行されている。//大辞典(平凡社)	句送返 「堤氏文庫」の印あり。	H28-04
明倫・2642	令義解	清原真人等動撰	2		天長10刊	833		和紙袋綴刊本 26.2× 18.8 25.5×18.0	養老令の公的注釈書。10巻。令の解釈が画一性を欠き、適用に支障があったので、826年(天長3)に明法博士・額田今足が上申したのを契機として、国家の事業として編纂がすすめられ、833年(天長10)に完成し、翌年(承和1)に詔によって施行された。編纂者は右大臣清原夏野ほか11人。慶安年間以来旅行されている。//大辞典(平凡社)	送返 在第一巻のみ (サイズ異なる 2642-1:26.2×18.8/2642-2: 25.5×18.0) 2〜「堤氏文庫」の印あり。	H28-04
明倫・2644	令義解一〇巻	清原夏野著 (江・山城屋佐兵衛)	10			寛政12刊	1800	和紙袋綴刊本 25.7× 17.7	養老令の公的注釈書。10巻。令の解釈が画一性を欠き、適用に支障があったので、826年(天長3)に明法博士・額田今足が上申したのを契機として、国家の事業として編纂がすすめられ、833年(天長10)に完成し、翌年(承和1)に詔によって施行された。編纂者は右大臣清原夏野ほか11人。慶安年間以来旅行されている。//大辞典(平凡社)	送返	H25-04
明倫・2645	令義解		1					和紙袋綴刊本 25.5× 17.8	養老令の公的注釈書。10巻。令の解釈が画一性を欠き、適用に支障があったので、826年(天長3)に明法博士・額田今足が上申したのを契機として、国家の事業として編纂がすすめられ、833年(天長10)に完成し、翌年(承和1)に詔によって施行された。編纂者は右大臣清原夏野ほか11人。慶安年間以来旅行されている。//大辞典(平凡社)	句送返	H25-04
明倫・2646	令義解		2					和紙袋綴刊本 25.6× 18.0	養老令の公的注釈書。10巻。令の解釈が画一性を欠き、適用に支障があったので、826年(天長3)に明法博士・額田今足が上申したのを契機として、国家の事業として編纂がすすめられ、833年(天長10)に完成し、翌年(承和1)に詔によって施行された。編纂者は右大臣清原夏野ほか11人。慶安年間以来旅行されている。//大辞典(平凡社)	句送返 「堤氏文庫」の印あり。朱書の書き込み多数。	H28-04
明倫・2647	憲法類編二八冊	明法寮編(小川半七等)	22			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 23.1× 15.5	司法省の法学校「明法寮」編纂。現在でいう「法令全書」のようなもの。//	巻1〜6欠	H25-04
明倫・2648	(第二)憲法類編	明法寮編纂 (小川半七等)	8			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.9× 15.6	司法省の法学校「明法寮」編纂。現在でいう「法令全書」のようなもの。//		H25-04
明倫・2649	十七憲法和解全	広瀬雪堂著 藤田祐真筆記 (東・水野佐助)	1			明治22刊	1889	和紙袋綴刊本 22.6× 15.4		「堤氏文庫」の印あり。	H28-04
明倫・2653	刑法註釈	村田保著(東・村田保)	2			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 22.5× 15.1	日本で最初の刑法注釈書。村田保著。//		H25-04
明倫・2654	新律綱領定定律例合巻註釈		1					和紙袋綴刊本 23.0× 15.7		2602・2617を見よ	H25-04
明倫・2658	監獄則図式		1					和紙袋綴刊本 30.0× 19.8			H28-04
明倫・2663	西班牙条約書	(西班牙公使・是・ヘリベルト・ガルシア・デ・グエト)	1			明治1刊	1868	和紙袋綴刊本 21.4× 15.0			H28-04
明倫・2665	商売往来	(江・和泉屋吉兵衛)	1		文政8刊	1825		和紙袋綴刊本 27.3× 18.4	往来物の一。江戸時代、商売に関係した事務を書いたもの。幸子屋で教科書として用いられた。『商売往来』は、1693(元禄6)年に公刊された。『庶訓往来』と並ぶ二次往来物である。//滋賀大学付属図書館		H25-04
明倫・2666	経済小学二巻	神田孝平重訳	1					和紙袋綴刊本 21.9× 15.2			H25-04
明倫・2668	経済要旨	西村茂樹訳 (大・前川源七郎等)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 21.9× 15.1	経済学の書。西村茂樹訳(原著は不明、複数の書といわれる)明治7年に文部省から刊されたあと、各所で出版された。//		H25-04
明倫・2669	経済要旨	西村茂樹訳 (大・前川源七郎等)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 19.0× 13.2	経済学の書。西村茂樹訳(原著は不明、複数の書といわれる)明治7年に文部省から刊されたあと、各所で出版された。//	「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H28-04
明倫・2671	西洋経済小学	神田孝平重訳	1					和紙袋綴刊本 21.9× 15.3			H25-04
明倫・2673	民間経済録	福沢諭吉著 (東・慶応義塾出版社)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 22.4× 14.8			H28-04
明倫・2674	立会略則	洪沢栄一著 (東・紀伊国屋源兵衛)	1			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.5× 15.2			H28-04
明倫・2675	英氏経済論	小幡篤次郎訳述	1					和紙袋綴刊本 22.0× 15.5	明治初期の経済書。アメリカの経済学者のフランシス・ウェーランド(1796-1865)の著作を小幡 篤次郎が訳したもの。*(ネット)財を富の同義語として用い、「生財ノ道ヲ管理スル法」として経済学を規定した。//		H28-04
明倫・2676	英氏経済論八巻	小幡篤次郎訳 (小幡篤次郎)	4			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.0× 15.5	明治初期の経済書。アメリカの経済学者のフランシス・ウェーランド(1796-1865)の著作を小幡 篤次郎が訳したもの。*(ネット)財を富の同義語として用い、「生財ノ道ヲ管理スル法」として経済学を規定した。//	1〜裏表紙見返しに「明治八年季秋大坂ニ於テ求之 河辺公化」の墨書あり。 2〜裏表紙見返しに「明治八年季秋大坂ニテ調之」の朱書あり。 3〜裏表紙見返しに「明治四年季秋大坂ニ於テ求之 河辺公化」の墨書あり。 4〜「橋河辺文庫印」あり。裏表紙見返しに「明治八年大坂ニ於テ求之 河辺公化」の墨書あり。	H28-04
明倫・2677	英氏経済論九巻	小幡篤次郎訳 (東・小幡篤次郎)	9			明治10刊	1877	刊本 22.4×15.5	明治初期の経済書。アメリカの経済学者のフランシス・ウェーランド(1796-1865)の著作を小幡 篤次郎が訳したもの。*(ネット)財を富の同義語として用い、「生財ノ道ヲ管理スル法」として経済学を規定した。//	表紙「武蔵」の墨書あり。 7裏表紙に「読終而長嘆」の墨書あり。	H30-05
明倫・2679	経済学	ロッツレル氏	1					和紙袋綴写本 23.1× 15.7			H25-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2680	経済小学二編	神田孝平重訳 (江・神田氏蔵)	1			慶応3刊	1867	和紙袋綴り本 22.8×15.2			H25-04
明倫・2681	経済録一〇巻	太宰純撰	3			享保14写	1729	写本 23.8×15.4	経済すなわち経世済民という広義の政治・経済・社会・制度・法令などについて論じた書。10巻。江戸中期の儒者太宰春台(純)著。享保14年(1729)なる。序・凡例および10巻。第1巻は《経済総論》で、有名な定義(凡(およそ)天下国家ヲ治ルヲ経済ト云。世ヲ経シテ民ヲ済(す)クト云義也)が見え、当代を衰世と見、富国強兵を唱え経済を論ずるには時・理・勢・情の概念を明らかにして議論を展開すべきと主張。第2巻(礼楽)では、〈神ト人トノヲ導キ、モノ云(いわ)ズシテ人ノ心ヲ感通セシムル者ハ、只礼楽也〉として経世に礼楽の	「橘河辺蔵書印」あり。	H30-05
明倫・2683	初学経済論三巻	牧山耕平訳 (東・山中市兵衛等)	15			明治10刊	1877	和紙袋綴り本 22.6×15.0	経済学の翻刻書。牧山耕平訳。1877(明治10)年に出版され、その後の研究や消費組合運動に多大な影響を与えた。//一橋大学図書館	句送	H25-04
明倫・2684	初学経済論三巻	牧山耕平訳 (東・牧山耕平)	1			明治15刊	1882	和紙袋綴り本 22.6×15.1	経済学の翻刻書。牧山耕平訳。1877(明治10)年に出版され、その後の研究や消費組合運動に多大な影響を与えた。//一橋大学図書館		H25-04
明倫・2685	初学経済論	牧山耕平訳	2			明治15刊	1882	和紙袋綴り本 22.5×15.1	経済学の翻刻書。牧山耕平訳。1877(明治10)年に出版され、その後の研究や消費組合運動に多大な影響を与えた。//一橋大学図書館		H25-04
明倫・2686	百科全書経済論二巻	堀越愛国訳 (文部省)	1			明治7刊	1874	和紙袋綴り本 22.2×15.2		1203を見よ	H25-04
明倫・2687	百科全書経済論	堀越愛国訳 平田宗敬校 (東・出雲寺万次郎)	1					和紙袋綴り本 22.3×15.2			H25-04
明倫・2688	宝氏経済学	永田健助訳 (大・柳原喜兵衛等)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴り本 22.5×15.1	フォーセツト著の経済学書を永田健助が訳したもの。明治10年刊。(原本、H.フォーセツト『経済学便覧』)//一橋大学図書館		H25-04
明倫・2689	宝氏経済学	永田健助訳	2					和紙袋綴り本 22.6×15.1	フォーセツト著の経済学書を永田健助が訳したもの。明治10年刊。(原本、H.フォーセツト『経済学便覧』)//一橋大学図書館		H25-04
明倫・2690	宝氏経済学五巻	永田健助訳 (永田氏)	2			明治10刊	1877	和紙袋綴り本 22.5×15.0	フォーセツト著の経済学書を永田健助が訳したもの。明治10年刊。(原本、H.フォーセツト『経済学便覧』)//一橋大学図書館	1～「高鍋学校印章」あり。裏表紙に「高鍋学校用」の墨書あり。 2～「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。裏表紙見返しに「学校御用書」の墨書あり。	H28-04
明倫・2691	経済要旨二巻	西村茂樹訳 (大・前川源七郎等)	3			明治10刊	1877	和紙袋綴り本 19.0×13.2	経済学の書。西村茂樹訳(原著は不明、種数の書といわれる)明治7年に文部省から刊されたあと、各所で出版された。//	「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H28-04
明倫・2692	経済要旨二巻	西村茂樹訳 (大・前川源七郎等)	7			明治10刊	1877	和紙袋綴り本 20.4×14.1	経済学の書。西村茂樹訳(原著は不明、種数の書といわれる)明治7年に文部省から刊されたあと、各所で出版された。//		H25-04
明倫・2696	泰西経済新論八巻	ゼームス・イー・ゾロルド・ロー ゼルス識 高橋達郎訳述	2			明治7刊	1874	和紙袋綴り本 22.2×15.2		「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H28-04
明倫・2699	記簿法	小林儀秀訳 (文部省)	1			明治8刊	1875	和紙袋綴り本 25.7×18.0		「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H28-04
明倫・2700	銀行簿記精法		2					和紙袋綴り本 25.5×18.7		3・5巻在	H28-04
明倫・2701	銀行簿記用法	山田十助著 (文部省)	1					和紙袋綴り本 25.9×18.2	西洋簿記の書、明治6年刊、大蔵省。大蔵省に招かれたスコットランド人アラン・シャンド(Alexander Allan Shand)の原著を大蔵省が翻訳・校正した日本初の複式簿記書。//		H25-04
明倫・2702	銀行簿記精法五巻	大蔵省(東・大蔵省)	3			明治6刊	1873	和紙袋綴り本 25.5×18.5			H25-04
明倫・2703	銀行簿記用法	山田十助著 (大・吉岡平助)	2			明治12刊	1879	刊本 25.7×18.1	西洋簿記の書、明治6年刊、大蔵省。大蔵省に招かれたスコットランド人アラン・シャンド(Alexander Allan Shand)の原著を大蔵省が翻訳・校正した日本初の複式簿記書。//		H30-05
明倫・2704	小学記簿法	遠藤宗義編輯 (山梨県師範学校)	1			明治11刊	1878	和紙袋綴り本 22.3×14.9			H25-04
明倫・2705	商家必要二巻	加藤沢訳(西京・村上勘兵衛等)	1					和紙袋綴り本 22.2×15.1	西洋式簿記の書。加藤沢訳、明治6年刊。『商家必用』は「記簿法」という語を簿記書として最初に使用//		H25-04
明倫・2706	商家必要二巻	加藤沢訳	1			明治6刊	1873	和紙袋綴り本 22.3×15.0	西洋式簿記の書。加藤沢訳、明治6年刊。『商家必用』は「記簿法」という語を簿記書として最初に使用//		H25-04
明倫・2707	複式記簿法	小林儀秀訳 (文部省)	3			明治9刊	1876	和紙袋綴り本 25.8×18.2		「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H28-04
明倫・2708	簿記学習梯	森下岩楠 森島修太郎合著 (東・森島修太郎等)	2			明治11刊	1878	和紙袋綴り本 22.7×15.4			H25-04
明倫・2710	朝鮮国釜山港輸出入年度表	商法会議所	1			明治14刊	1881	和紙袋綴り本 22.8×15.0			H28-04
明倫・2713	育英新編上・下	石村貞一纂輯 (大・松村九兵衛)	4			明治6刊	1873	刊本 22.2×15.3		1・2「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。 3「第五大区区嶋田学校第廿六中学区」の印あり。 4「上江小学高鍋」の印あり。	H30-05
明倫・2716	改正教授術三巻	若林虎三郎 白井毅編纂 (東・辻敬之)	3			明治17刊	1884	和紙袋綴り本 22.5×14.8			H25-04
明倫・2718	弘道館術義上・下	藤田彪謹述 (光豊樓珍)	2			慶応2刊	1866	和紙袋綴り本 24.5×17.4		句	H25-04
明倫・2719	三字経	北川尚季(都城県小学館)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴り本 24.4×16.9	中国の児童用の識字教科書。南宋の王应麟の編と伝えられる字書。〈人・之・生・性本善(人の生まるや、性もと善なり)〉にはじまる3字句で進てある。毎句三字で韻を踏み、通編310数句。《千字文》とともに広く行われた。字に重複があり、文辞も《千字文》に劣るといわれながら、いわゆるく(俗耳)に入りやすく、中国では、《千字文》より明らかに大きい影響を民衆に及ぼした。//	返送	H25-04
明倫・2728	日本新学制	(天津・開文書局)	1			光緒28(明治35)刊	1902	和紙袋綴り本 19.6×12.1			H25-04
明倫・2732	(改正)教授術続編二巻	若林虎三郎 白井毅編 (東・菅友会)	2			明治17刊	1884	和紙袋綴り本 22.6×14.9			H25-04
明倫・2739	数学教授本三巻	神田孝平編 (紀伊国屋源兵衛)	3			明治3刊	1870	和紙袋綴り本 22.0×15.0		1～「第五大区区第廿六中学区第七番小学」の印あり。 3～「上江小学高鍋」の印あり。	H28-04
明倫・2743	百科全書教導説二篇	實作藤祥訳 (東・和泉屋市兵衛)	2			明治6刊	1873	和紙袋綴り本 22.3×14.9		1204を見よ	H25-04
明倫・2748	隠叟免岐集完	(京・菊谷喜兵衛)	1			慶応4刊	1868	和紙袋綴り本 18.9×12.7			H25-04
明倫・2749	隠叟免岐集	(京・菊谷喜兵衛)	1			慶応4刊	1868	和紙袋綴り本 18.8×13.0			H25-04
明倫・2750	御厨子黒棚之書		1					和紙袋綴り本 24.5×16.0			H25-04
明倫・2751	具合対末之口伝		1					和紙袋綴り本 24.2×16.5			H25-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2752	管弦御聞之節御直衣々冠等色目全		1					和紙袋綴写本 24.1 × 15.8			H25-04
明倫・2753	冠帽図会全	松岡辰方輯	1			文化3刊	1806	和紙袋綴刊本 28.7 × 20.6			H25-04
明倫・2754	五衣之図		1					和紙袋綴写本 27.2 × 18.8			H25-04
明倫・2756	五節供床飴		1					和紙袋綴じ写本 10丁 24.2 × 16.5	手掛・歯固・具足餅飴 床飴(正月七日・三月三日・五月五日・七月七日・七月十五日・九月九日・亥子餅/前任者の備考又は24年)/	彩色図	H29-05
明倫・2757	婚礼床飴	城貞太郎・森鉄之進	1					和紙袋綴写本 5丁 25.0 × 15.5	床かざり図 秘伝書/前任者の備考(又は24年)/	内題「婚礼床飴之次第」 雑書二十六「城氏」の印あり。	H29-05
明倫・2758	婚礼行列次第		1					和紙袋綴写本 24.3 × 15.7		「城氏」の印あり。	H28-04
明倫・2759	婚礼口伝書	里見忠之進等	1					和紙袋綴写本 24.0 × 15.9			H25-04
明倫・2760	婚礼之次第		1					和紙袋綴写本 24.5 × 15.8		「城氏」の印あり。	H28-04
明倫・2762	産所道具		1					和紙袋綴写本 24.1 × 16.5			H25-04
明倫・2763	敷皮之巻	水島某伝著	1					和紙袋綴写本 20.0 × 13.1			H25-04
明倫・2764	式正料理配膳之書		1					和紙袋綴写本 8丁 23.9 × 15.0		一汁二菜の図に実家黒水口此膳なりしを覚ゆ「高月鈴木文庫之印」あり。	H29-05
明倫・2765	装束要領鈔	(京・銭屋七郎兵衛等)	2			寛保2刊	1742	和紙袋綴刊本 25.2 × 18.5			H25-04
明倫・2767	装束要領鈔	壺井義知著	1			正徳6刊	1716	和紙袋綴刊本 25.7 × 18.5			H25-04
明倫・2768	装束拾要録聞書全		1					和紙袋綴写本 24.0 × 15.7	*「装束拾要鈔」は装束の故実作法などを記したものの。2巻。慶長19年奥書あり、元禄4年刊。//	「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2769	書簡之用典(冬)		1					和紙袋綴写本 24.0 × 15.7		「城氏」の印あり。	H28-04
明倫・2771	女中道具		1					和紙袋綴写本 24.0 × 15.7		「城氏」の印あり。	H28-04
明倫・2774	積方門		1					和紙袋綴写本 20.3 × 13.4		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2776	内裏式一巻	藤原貞幹謹校(平安・後醍醐春行)	1			享和3刊	1803	和紙袋綴刊本 27.8 × 18.5		白	H25-04
明倫・2778	締入記		1		0			和紙袋綴写本 23.9 × 15.5			H28-04
明倫・2780	当用婚礼		1					和紙袋綴写本 24.3 × 15.8			H25-04
明倫・2782	馬具之故実		1					和紙袋綴写本 26.0 × 16.8			H25-04
明倫・2783	的場出次第		1					和紙袋綴写本 26.8 × 18.4			H25-04
明倫・2784	嫁入之記		1			元久4写	1207	和紙袋綴写本 24.3 × 15.7			H25-04
明倫・2785	嫁入次第註		1					和紙袋綴写本 24.0 × 16.0		「城氏」の印あり。	H28-04
明倫・2786	嫁入之次第	小笠原大 大夫長時 小笠原右近大夫貞慶	1					和紙袋綴写本 24.4 × 15.8			H25-04
明倫・2787	嫁入座鋪飴	華氏書写	1			元禄12写	1699	和紙袋綴写本 26.0 × 16.0			H25-04
明倫・2788	西洋衣食住		2					和紙袋綴刊本 15.6 × 11.2			H25-04
明倫・2790	官人着御色目等之書全		1					和紙袋綴写本 24.1 × 16.0		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2791	宮人略解	松岡次郎太郎 丹治行義	1			文政4写	1821	和紙袋綴写本 27.0 × 19.0		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2793	婚礼推 記	(伊藤基右衛門幸氏(等))	2			元禄15写	1702	和紙袋綴写本 23.6 × 16.5			H25-04
明倫・2797	喪祭略要		1					和紙袋綴写本 23.8 × 16.0			H28-04
明倫・2804	四季之法令		2		0			和紙袋綴写本 24.1 × 16.0		未目録「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2805	四季之法令	鈴木房藏写	1		0	文化6写	1823	和紙袋綴写本 24.1 × 16.0		未目録「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2807	年中例式		1					和紙袋綴写本 24.2 × 16.5		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2809	要篋弁忘年中行事		4					和紙袋綴写本 26.1 × 18.8			H25-04
明倫・2810	堺氏袍論一二貫	内藤類次郎や句	1					和紙袋綴刊本 18.0 × 12.0			H25-04
明倫・2814	海防臆測	古賀侗庵著 日高誠実校(東・日高誠実)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 18.6 × 12.5		句返	H25-04
明倫・2815	海防臆測二巻	古賀侗庵著(東・日高誠実)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 18.7 × 12.5		句返	H25-04
明倫・2825	勅諭衍義		1					和紙袋綴刊本 22.8 × 15.1			H25-04
明倫・2826	鶴峯上書	鶴峯彦一郎	1					和紙袋綴写本 24.8 × 17.0		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2828	要門不密		1					和紙袋綴写本 12.6 × 16.5			H28-04
明倫・2830	海防雜説	困学停信述	1					和紙袋綴写本 24.5 × 17.0		送返「粹武藤蔵書記」の印あり。	H28-04
明倫・2834	海防問答	平山潜子 松勲略 平敬明校	2					和紙袋綴写本 23.8 × 16.3		「高月鈴木文庫之印」あり。	H28-04
明倫・2835	兵要日本地理小誌三巻	陸軍兵学寮	3					和紙袋綴刊本 19.0 × 12.7			H25-04
明倫・2836	陸軍給与令	相沢富蔵編輯(東・厚生堂)	1			明治30刊	1897	和紙袋綴刊本 23.0 × 14.9			H25-04
明倫・2838	握奇集解或問	澁斎長沼宗敬 先生注	1					和紙袋綴写本 25.3 × 17.0	写本1巻。佐枝尹重著(号・碎玉軒)。「握奇集解」(長沼宗敬著)に因り、或門的に遺漏を補い、余意を記述したもの。正徳4年自序あり *「握奇集解」は中国の兵書「握奇経」の註解書/圖書解題/	句「大塚」の印あり。	H28-04
明倫・2840	一騎武者受用全		1					和紙袋綴写本 24.5 × 16.2		「粹武藤蔵書記」の印あり。	H28-04
明倫・2841	宇佐美器械製法巻全		1					和紙袋綴写本 24.0 × 16.0		「明倫堂蔵書記」の印あり。	H28-04
明倫・2842	英国歩兵練法		10					和紙袋綴写本 12.7 × 18.3	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)		H25-04
明倫・2843	英国歩兵練法第一編	赤松小三郎訳(下曾仲信教)	6			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 12.4 × 17.9	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)		H25-04
明倫・2844	英国歩兵練法・五編	赤松小三郎訳(下曾仲信教)	5			文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 12.4 × 18.0	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)		H25-04
明倫・2845	英国歩兵練法	赤松小三郎訳	5			慶応4刊	1868	和紙袋綴刊本 12.5 × 17.5	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)		H25-04
明倫・2849	英国歩兵練法		4					和紙袋綴刊本 12.8 × 18.3	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)	高鶴藩兵賦局	H25-04
明倫・2850	英国歩兵練法第三編上・下	赤松小三郎訳(下曾仲信教)	9			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 12.5 × 18.2	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)		H25-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2851	英国歩兵練法第四編三巻	浅津富之助訳 (下曾祢信敦)	14			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 12.4×18.0	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)	*データの冊数を目録・原本確認の上13→14へ修正(28年5月) 1・3～表紙に「高鍋兵隊方」の墨書あり。 4・6・9・10・11・12・14～表紙に「兵隊局」の墨書あり。 5・7～表紙・裏表紙見返しに「高鍋兵隊方」の墨書あり。 8～表紙に「道具小路 河野蔵書」の墨書あり。	H28-04
明倫・2852	英国歩兵練法二編	浅津富之助訳 (下曾祢信敦)	4			文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 12.3×17.4	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)		H25-04
明倫・2853	英国歩兵練法	赤松小三郎訳	14			文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 12.7×18.3	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)		H25-04
明倫・2855	英国歩兵練法	赤松小三郎訳 (大・秋田屋太右衛門)	1					和紙袋綴刊本 12.7×18.5	幕末期の兵学者・政治思想家の赤松小三郎訳(号は宇宙堂)。イギリスの歩兵操典、日本の歩兵操練の元となった。//大辞典(平凡社)	表紙に「兵隊局」の墨書あり。	H28-04
明倫・2861	火技範	下曾祢深信之 参閤 平涯傳一訳述 (廣悠館)	1			安政1刊	1854	和紙袋綴刊本 22.5×15.7			H28-04
明倫・2862	火技範	(廣悠館)	1			安政3刊	1856	和紙袋綴刊本 22.7×15.7			H25-04
明倫・2868	金湯要録		3					和紙袋綴写本 27.0×18.9		1～前篇 目録・巻一・二・三・四 「明倫堂蔵書記」の印あり。 2～後篇巻之一 目録・巻一・二・三・四・五 3～後篇巻之二 目録・巻一・二・三・四・五・六 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・2871	軍事小典上・下巻	(兵学校鐘梓)	4			明治1刊	1868	和紙袋綴刊本 13.3×19.3			H25-04
明倫・2876	軍用(甲州流)		2					和紙袋綴写本 25.0×17.0		1～軍用 着具巻 再々遍 「大塚」の印あり。 2～軍用二 矢玉巻 「大塚」の印あり。	H29-05
明倫・2881	軍用記	平貞文書	1			明和6写	1769	和紙袋綴写本 23.9×16.7	7巻。伊勢貞丈著。天保14年刊。軍陣の作法、故実を詳述図説したもの。/大辞典(平凡社)/	第七 「高月鈴木文庫之印」あり。	H29-05
明倫・2882	軍用記		2			宝暦11写	1761	和紙袋綴写本 23.9×16.7	7巻。伊勢貞丈著。天保14年刊。軍陣の作法、故実を詳述図説したもの。/大辞典(平凡社)/	1～序・第一 1～第六 「高月鈴木文庫之印」あり。	H29-05
明倫・2883	軍用記		4					和紙袋綴写本 23.9×16.6	7巻。伊勢貞丈著。天保14年刊。軍陣の作法、故実を詳述図説したもの。/大辞典(平凡社)/		H25-04
明倫・2884	軍用再遍(甲州流)		1					和紙袋綴写本 25.5×17.0		軍用 着具巻 再遍 「大塚」の印あり。 裏表紙「大塚家蔵」の墨書あり。	H29-05
明倫・2890	軽卒の操練	内田氏著 (萱嶋景清)	1			文化7写	1810	和紙袋綴写本 24.0×16.2		講武原経年練習図考 「高月鈴木文庫之印」あり。	H29-05
明倫・2891	撃鼓之法		1					和紙袋綴写本 23.8×16.7		兵法書 巻十二～二十二	H29-05
明倫・2896	謙信全書(聞書)要鑑抄	山口一徳齋景徳輯校	1					和紙袋綴写本 24.2×16.0		謙信全書聞書 三十三 「高月鈴木文庫之印」あり。	H29-05
明倫・2897	謙信公全書五五巻	山口景徳編	24			安永9写	1780	和紙袋綴写本 24.1×16.0		白 外題直書「謙信全書」 内容:(枝番順に)目録、十二～二十五、二十七、三十七、四十、四十二 2897-21巻末に大塚静識有り(寛政四) 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H28-04
明倫・2901	行軍図解		1					和紙袋綴写本 27.0×18.9		「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・2902	攻守略説八巻	ウ・ア・フワン・レース著 荒井鉄之助 佐々木貞庵訳 (佐倉・荒井氏蔵板)	2			慶応3鑑	1867	和紙袋綴刊本 18.2×12.6			H25-04
明倫・2903	攻城作法五段瀬越奥儀全	近藤理兵衛景兼撰	1					和紙袋綴写本 27.3×19.4		裏表紙見返しに「樗武藤蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・2911	呉子国字解	東山先生口伝池元久筆受 (大・河内屋太助)	3			寛政1刊	1789	和紙袋綴刊本 22.3×15.7		兵法 1～巻之上 2～巻之中 3～巻之下 裏表紙見返しに「武藤」の墨書あり。	H29-05
明倫・2912	呉子副詮	佐藤捨蔵(一斎)著 (江・和泉屋半兵衛等)	1			弘化3刊	1846	和紙袋綴刊本 25.7×18.1		句送返 兵法	H29-05
明倫・2915	再拜之巻		1					和紙袋綴写本 15.2×22.3		送返 武器 采幣巻	H29-05
明倫・2917	里尼全図	下曾祢威達閏阿部洋東訳 (金刺文庫)	1					刊本(画帖仕立) 16.1×22.7		* 画帖仕立の書(便宜的に右側に糸で綴じる、未解体のまま25年に電子化済)	H25-04
明倫・2920	三兵番古知機二〇巻	ヘインリフーボンブラント著 イスハンミルケン訳	10					和紙袋綴写本 23.7×16.7		1～巻之一・二 2～巻之三・四 3～巻之五・六 4～巻之七・八 5～巻之九・十 6～巻之十一・十二 7～巻之十三・十四 8～巻之十五・十六 9～巻之十七・十八 10～巻之十九・二十 全冊「樗武藤蔵書記」あり。	H29-05
明倫・2921	三兵番古知機	ヘインリフーボンブラント著 イスハンミルケン訳 (横尾栗校字)	13					和紙袋綴写本 26.7×18.8	原書は英国サンホルスト兵学校の教官マクドウガルの著した“The Theory of War”1862(『戦争論』)。本書は戦争の実例を理論的に分析した戦術書で、その内容は実践的な色合いが濃い。実戦の舞台となった戦地の地図を豊富に載せ、ナポレオンやフリードリッヒ2世の戦術も紹介している。 訳者の渡部一郎(温)(1837-1898)は、開成所の英語教授職並まで勤めた。幕府の倒れたあと、一時静岡に移り、明治元年、沼津兵学校が開設されるとその英学主任、一等教授並に任ぜられた。/ネットより(資料の序文と照合済)	軍事 外題題蓮「三兵番古知機」 全二十七巻(巻一、二欠) 蔵書印「明倫堂蔵書印」 各巻末に「甲寅 横尾栗校字」(安政1か?)2921-10にのみ「安政乙卯正月横尾栗校字」と記載(安政1～2年にかけて写したと考えられる)	H28-04
明倫・2922	三兵番古知機二七巻	高野長英訳	7					和紙袋綴写本 23.8×16.5		軍事 1～巻之一・二 2～巻之三・四 3～巻之五・六 4～巻之七・八 5～巻之九・十 6～巻之十一・十二 7～巻之十三・十四	H29-05
明倫・2923	散兵定則	安場敬明訳	2			安政5刊	1858	和紙袋綴刊本 25.7×18.2		軍事 1～乾 2～坤 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・2925	三礼(軍弓馬)		1					和紙袋綴写本 13.3×19.7	* 三礼は中国の經典の周礼・儀礼・礼記をさす//	全 「高月鈴木文庫之印」(2種)あり。	H29-05
明倫・2926	(陸軍)士官必携一〇巻	渡部一郎訳 柳河春三閏 (江・山城屋佐兵衛)	5			慶応3刊	1867	和紙袋綴刊本 18.1×12.4			H25-04
明倫・2929	七足変明切紙		1					和紙袋綴写本 13.6×19.5		兵法 「樗武藤蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・2930	射手権副記		1					和紙袋綴写本 27.9×18.7	「伊勢弓馬叢書」の中の一書。武家故実書。写本1冊。伊勢貞丈標柱。寛政4年奥書(伊勢貞春)。弓馬術の故実、特に歩立ちがいそへ30項を説明した書。/圖書解題・大辞典(平凡社)	武家故実 伊勢貞丈校 「高月鈴木文庫之印」あり。	H29-05
明倫・2934	十二斤発手教練		1					和紙袋綴写本 17.5×12.4			H29-05
明倫・2938	小隊教練二巻	本間寿助 (求実館)	1			元治1刊	1864	和紙袋綴刊本 11.2×15.8			H25-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・2939	諸家兵説略全		1					和紙袋綴写本 25.0×17.0		表紙見返しに「此森余一所贈自大阪也 文政6年癸未四月大塚静記」の墨書あり。 「大塚」印あり。 裏表紙見返しに「大塚家蔵」墨書あり。	H29-05
明倫・2941	新撰砲家必読――巻		5					和紙袋綴写本 26.7×18.8		1～巻之一・二 2～巻之三・四 3～巻之五・六 4～巻之七・八 5～巻之九・十・十一 全冊「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・2945	千金編	小堀常春著 (大・河内屋喜兵衛等)	1			慶応1刊	1865	和紙袋綴り本 25.3×17.9		水馬千金篇 「秋杵月蔵書印」あり。	H29-05
明倫・2946	戦地必要	ハンレース著 淀宇武訳 (江・楠磨屋喜右衛門)	6			慶応3刊	1867	和紙袋綴り本 18.1×12.1			H25-04
明倫・2947	戦地必要	ハンレース著 淀宇武訳 (江・楠磨屋喜右衛門)	14			慶応3刊	1867	和紙袋綴り本 18.2×12.1			H25-04
明倫・2948	戦地必要	宇武直訳 (淀・富武場)	1			文久1刊	1861	和紙袋綴り本 18.1×12.1		* 慶応丁卯(3年)刻と表紙の見返しにある	H25-04
明倫・2951	鎗前	(大塚充大輔写)	1			万延2写	1861	和紙袋綴写本 24.5×16.0		裏表紙「大塚氏」の墨書あり。	H29-05
明倫・2958	孫子国字解		9			寛延3刊	1750	和紙袋綴り本 22.3×15.7	孫子は中国古代の兵書。兵法書のうち最も著名で、日本での影響も大きい。全13編。春秋時代の呉の孫武(前500年ごろ)の著とされる。行軍・地形・火攻・用間などという各論も精密であるが、(兵は国の大事)として開戦の慎重さを求め、戦争の主導性を強調するなど特色に富み、そこに人生問題一般に通ずる深い思想性がみられる。日本ではすでに(続日本紀)天平宝字4年(760)の条に(孫子)の記事が見え、江戸時代には荻生徂徠、新井白石、佐藤一斎らの注釈書が出ている//		H25-04
明倫・2959	孫子副詮	佐藤一斎著	1			天保13自序刊	1842	和紙袋綴り本 25.6×18.2	1巻。佐藤坦著。孫子の本文に字句を補足し初学者に読みやすくしたもの。天保13年自序有。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句送返	H29-05
明倫・2960	孫武兵法択	源君美著(新井白石)	1					和紙袋綴写本 24.3×15.8	孫子の注釈書。新井白石(君美)著。13巻。別に副言2巻。享保7年自序。/圖書解題/大辞典(平凡社)	句(朱点) 巻之一～十三 「樗武藤蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・2962	大備操結之説全	(辻景一)	1					和紙袋綴写本 25.0×17.2			H29-05
明倫・2964	高島流砲術伝書二巻	高島四郎太夫著 (源儀教)	2			天保12刊	1841	和紙袋綴り本 24.7×16.3		1～乾 2～坤 「田聊氏蔵書印」あり。	H29-05
明倫・2967	単騎要略被甲弁五巻	村井昌弘編輯 (江・金華堂)	5			享保20刊	1735	和紙袋綴り本 23.2×16.1		句送返 1～巻五 2～巻一 3～巻二 4～巻三 5～巻四 「橋河辺蔵書印」あり。	H29-05
明倫・2968	探練略式草稿	黒水竜	1					和紙綴りの写本(袋綴じでない)			H25-04
明倫・2969	築城典刑五巻	吉母波百児(蘭)著・大島圭介訳(陸軍所)	8			元治1刊	1864	和紙袋綴り本 18.1×12.0	兵法書。幕府陸軍が刊行した軍事書籍。元治元年(1864)刊。1852年オランダ人ペル築城学教本の翻訳。訳者大島圭介。//		H25-05
明倫・2971	通俗漢楚軍談一五巻	夢梅軒章峯・称好軒徹庵著	10					和紙袋綴写本 26.8×17.5	明代の「西漢通俗演義」の翻訳本。江戸中期の読本、仮名草子。15巻。7巻まで夢梅軒章峯、8巻から称好軒徹庵訳。元禄8年(1695)刊。漢の劉邦と楚の項羽とを主人公に、その時代の史実を簡明な読み下し文で述べたもの。中国種の軍談物の先駆。* 通俗三国志と並んで愛読された、後世の読み本などに影響するところが多い/圖書解題/大辞典	送返 読本 在全十五巻 外題直書「通俗漢楚軍談」 蔵書印「明倫堂蔵書記」 裏表紙・巻頭などに書入れ「明倫堂御用書物」「高鍋学校蔵書」「高鍋中学校御用」など	H28-04
明倫・2973	当流馬書秘伝上目録	(江)	1			承応2刊	1653	和紙袋綴り本 14.0×20.0		馬術	H29-05
明倫・2976	尼達間兵学校諸学科教導時限略	吉川造吉訳述	1					和紙袋綴り本 19.3×13.5			H25-05
明倫・2977	旗裁縫口伝事		1					和紙袋綴写本 24.0×16.4		武家故実 「高月鈴木文庫之印」あり。	H29-05
明倫・2978	八陳新書	山口景徳纂述	1			安永8写	1779	和紙袋綴写本 24.2×16.6		句	H29-05
明倫・2980	武学図		1					和紙袋綴写本 25.0×17.5			H29-05
明倫・2981	武学附案		1					和紙袋綴写本 23.9×15.3		「大塚」印あり。	H29-05
明倫・2983	武経七書合解大成俚語鈔	神田勝久編輯 (長州・山口屋権兵衛)	7			正徳6刊	1716	和紙袋綴り本 26.0×17.5	神田勝久編集 * 武経七書は中国の軍略書7部のこと。//大辞典	「城氏」の印あり。 5～表紙見返し「文政十丁亥歳 春陽初旬 城景暁・正」の墨書あり。 7～表紙見返し「文政十丁亥歳 陽春調之 城景暁・正」の墨書あり。	H29-05
明倫・2985	武器訓蒙図彙	(大・増田庄左衛門等)	2			貞享1刊	1684	和紙袋綴り本 27.2×19.4			H29-05
明倫・2994	武門要鑑抄二二巻	加治景明	1			正保3写	1646	和紙袋綴写本 25.0×17.6	「武門要鑑抄」は兵法学・越後流の軍学書。要門流という流派の主要兵書で、沢崎景尚の撰かとされる(謙信時代に編述したもの集成したとも伝わる)。著者は江戸に出て要門流を教え、事実上の祖となった * 越後流は上杉謙信を流祖と仰ぐ兵法学、要門流と宇佐美流があり、宇佐美流の軍学書は『武経要略』。/圖書解題/		H25-05
明倫・3002	武門要鑑抄巻二・巻八	佐久間頼母	2					和紙袋綴写本 ①25.2×16.4②27.0×20.5	「武門要鑑抄」は兵法学・越後流の軍学書。要門流という流派の主要兵書で、沢崎景尚の撰かとされる(謙信時代に編述したもの集成したとも伝わる)。著者は江戸に出て要門流を教え、事実上の祖となった * 越後流は上杉謙信を流祖と仰ぐ兵法学、要門流と宇佐美流があり、宇佐美流の軍学書は『武経要略』。/圖書解題/		H25-05
明倫・3008	武門要鑑抄		1					和紙袋綴写本 14.3×20.5	「武門要鑑抄」は兵法学・越後流の軍学書。要門流という流派の主要兵書で、沢崎景尚の撰かとされる(謙信時代に編述したもの集成したとも伝わる)。著者は江戸に出て要門流を教え、事実上の祖となった * 越後流は上杉謙信を流祖と仰ぐ兵法学、要門流と宇佐美流があり、宇佐美流の軍学書は『武経要略』。/圖書解題/		H29-05
明倫・3013	武略		1					和紙袋綴写本 24.0×16.0		「樗武藤蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・3014	兵学小鏡七巻		3					和紙袋綴写本 26.7×18.7	写本14冊。兵法に関して学問6科、術門3科に分けて諸般のことを論説したもの。/圖書解題/大辞典(平凡社)	兵法 兵学程式巻之一	H29-05
明倫・3015	兵学程式	(陸軍所)	7			慶応3刊	1867	和紙袋綴り本 18.1×11.9	戦術学や戦略学を含む要兵学教本。陸軍所刊。3巻、4冊からなる。オランダ陸軍の用兵操典の翻訳書。「兵学程式」は静岡藩の藩校沼津兵学校、およびその英学教授であった渡部温が刊行した、沼津兵学校用の教科書。//	3015-1～7すべて同じ本(一冊完の一、二、三)	H25-05
明倫・3017	兵学程式	陸軍所訳(陸軍所)	4			慶応3刊	1867	和紙袋綴り本 18.0×12.1	戦術学や戦略学を含む要兵学教本。陸軍所刊。3巻、4冊からなる。オランダ陸軍の用兵操典の翻訳書。「兵学程式」は静岡藩の藩校沼津兵学校、およびその英学教授であった渡部温が刊行した、沼津兵学校用の教科書。//	兵学程式 巻之二～巻之三上下 表紙見返し・裏表紙見返し「武藤東」墨書あり。	H29-05
明倫・3018	兵家必携三巻(仏国軍法規教)	(仏)某著 加比丹レンジー訳・抑田如雲再訳(東・雁金屋清吉)	24			明治2刊	1869	和紙袋綴り本 18.3×12.2			H25-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3019	兵家必要	(英国) 流底南多魯弗列氏撰 野戦陸軍戰術 術解説纂輯	1			明治2刊	1869	和紙袋綴刊本 18.4 × 12.5			H25-05
明倫・3020	兵法雄鑑啓?五二巻	北条平氏長著	5					和紙袋綴写本 24.0 × 16.7	*「兵法雄鑑」は北条氏長著。江戸前期の幕府旗本・兵学者。北条流兵学の創始者。//	巻の第一～五十二	H29-05
明倫・3023	兵法神武雄鑑集	山鹿素行著	7					和紙袋綴写本 25.8 × 18.0		「田邸氏蔵書印」あり。	H29-05
明倫・3024	兵要録二一巻	長沼澹齋(宗敬)著 (江・岡田屋嘉七等)	5			嘉永7刊	1854	和紙袋綴刊本 25.5 × 18.2	(校刻)兵要録は22巻。長沼宗敬著。兵法書。安政2年刊。兵法について兵談・待略・練兵などに大別して詳記したもの。全文漢文体。/「国書解題/大辭典(平凡社)」	句返返 1～兵要録 三 巻七～十 (練兵三上下・練兵四上下) 2～兵要録 四 巻十一～十三(練兵五・六・七) 3～兵要録 五 巻十四～十六(出師編上下) 4～兵要録 六 巻十七～十九(陣營編上下・戦略) 5～兵要録 七 巻二十～二十二(戦略) 「堤氏文庫」の印あり。	H29-05
明倫・3025	兵要録	長沼澹齋著	1					和紙袋綴刊本 25.5 × 18.2	(校刻)兵要録は22巻。長沼宗敬著。兵法書。安政2年刊。兵法について兵談・待略・練兵などに大別して詳記したもの。全文漢文体。/「国書解題/大辭典(平凡社)」	句返返 「堤氏文庫」の印あり。	H29-05
明倫・3027	兵要録補闕五巻	長谷川忠雄著	1			元禄5写	1692	和紙袋綴写本 28.0 × 20.2	兵要録補闕は長谷川忠雄著。*(校刻)兵要録は22巻。長沼宗敬著。兵法書。//	送返 序 巻一～五 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・3029	兵要録二二巻	長沼宗敬	5					和紙袋綴写本 28.0 × 19.8	(校刻)兵要録は22巻。長沼宗敬著。兵法書。安政2年刊。兵法について兵談・待略・練兵などに大別して詳記したもの。全文漢文体。/「国書解題/大辭典(平凡社)」	1～兵要録 一～四 巻一～四 巻末「御用書物」書入れ 2～兵要録五～九 巻五～九 3～兵要録十～十五 巻十～十五 4～兵要録 十六～十九 巻十六～十九 5～兵要録 二十～大尾(巻二十二) 巻二十～大尾(巻二十二) 「明倫堂蔵書記」の印あり。 1～裏表紙「学校書物」の墨書あり。	H29-05
明倫・3030	兵要録口義	愛緑齋聚	6			文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 25.4 × 17.5	*幕末の長州藩士・儒学者富永 有隣著。(譯は徳、後に恵彦。通称は弥兵衛)のものか?//	白 1～巻一・二 2～巻三・四 3～巻七 4～巻九 5～巻八 6～巻十下	H29-05
明倫・3033	砲科新論二〇巻	大島圭介訳 (緋武館)	8			文久1刊	1861	和紙袋綴刊本 18.2 × 12.6			H25-05
明倫・3034	砲家必読		3					和紙袋綴写本 23.9 × 16.2		1～巻七 2～巻八 3～第九「樗武藤蔵書記」の印あり。 2～裏表紙見返し「明治三十三年八月 河辺貞」の墨書あり。裏表紙見返し「明治三十三年八月十八日 河辺つう」の記述あり。 3～裏表紙見返し「明治三十三年八月高鍋鉄 河辺つう女」の記述あり。	H29-05
明倫・3035	砲軍操法		1					和紙袋綴刊本 18.5 × 12.4			H25-05
明倫・3036	砲術訓蒙全一二巻	杉田信成著 (江・山城屋佐兵衛)	5			安政5刊	1858	和紙袋綴刊本 17.8 × 12.4		1～総目・巻一・二 2～巻八 3～巻九 4～巻十 5～巻十一 1～裏表紙見返し「兵賦局所蔵」の墨書あり。 2・3・4～裏表紙見返し「兵賦局」の墨書あり。	H29-05
明倫・3037	砲術語撰	上田仲敏編 山田重香校 (名古屋・永楽屋東四郎等)	1			嘉永2刊	1849	和紙袋綴刊本 19.0 × 9.7			H29-05
明倫・3039	砲場土図		1					和紙袋綴写本 25.0 × 17.2			H29-05
明倫・3040	慕氏兵論	ミルケン(蘭)編 曾田勇次郎訳	3					和紙袋綴刊本 26.1 × 18.1	*フランス兵法論、イ・イ・ファン・ミルケン 著述; 曾田勇次郎 訳//		H25-05
明倫・3041	慕氏兵論	曾田勇次郎訳	7			文久3刊	1863	和紙袋綴刊本 26.1 × 18.1	*フランス兵法論、イ・イ・ファン・ミルケン 著述; 曾田勇次郎 訳//		H25-05
明倫・3043	歩操軌範初編(和蘭官軍)	培蘭牧訳 (江・山城屋佐兵衛等)	4			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 26.0 × 17.9		1～序・総目・訳例・巻一 2～巻二・三 3～巻六 4～巻九・十	H29-05
明倫・3045	歩操軌範	(下管根氏蔵)	2			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 26.3 × 18.1		1～巻六 2～巻七・八 「財津蔵書」の印あり。	H29-05
明倫・3047	歩兵運動軌範	石井修三著	1					和紙袋綴刊本 22.7 × 15.5			H25-05
明倫・3048	歩兵操新書	(間壁伯助一写)	1			慶応1写	1865	和紙袋綴写本 24.8 × 16.1		第一篇 表紙見返しに「大塚氏」の墨書あり。 裏表紙に「慶応四戊辰四月写之時■年七十三 間壁伯助一写す」の墨書あり。	H29-05
明倫・3049	歩兵程式	大島圭介 (江・陸軍所)	1			慶応3刊	1867	和紙袋綴刊本 18.2 × 12.0	兵学書。幕府陸軍が刊行した軍事書籍。慶応3年(1867)刊。1863年版フランス軽歩兵教練所の翻訳。大島圭介翻訳。//		H25-05
明倫・3050	本朝軍器考全一二巻	新井白石彙輯	4			享保7刊	1722	和紙袋綴刊本 26.4 × 19.0	故実書。12巻。新井君美(白石)撰。元文元年刊。我が国の武器に関する制度・沿革等、神代から当代にわたり12類151條に総括的敘述を試みている。//大辞典(平凡社)	1～巻九・十・十一・十二 2～巻四・五・六・七・八 3～序・総目・本朝軍器考集古図説 4～序・凡例・総目・選用書目・巻一・二・三・四	H29-05
明倫・3051	満字大切紙(師伝相承閣書)	有馬成甫(要門巻物業の内)	1					和紙袋綴写本 14.0 × 19.7			H29-05
明倫・3055	野戦要務全	大島圭介訳 (陸軍所)	6			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 18.0 × 12.0	兵学書。幕府陸軍が刊行した軍事書籍。慶応元年(1865)刊。1856年版オランダ陸軍士官心得の翻訳。大島圭介翻訳。//	印あり(不明)。	H29-05
明倫・3057	野戦要務	大島圭介訳 (陸軍所)	1			慶応1刊	1865	和紙袋綴刊本 18.2 × 12.2	兵学書。幕府陸軍が刊行した軍事書籍。慶応元年(1865)刊。1856年版オランダ陸軍士官心得の翻訳。大島圭介翻訳。//		H25-05
明倫・3058	野戦論上中下巻	(武藤東四郎)	3					和紙袋綴写本 22.4 × 13.9		裏表紙見返し「武藤東」の墨書あり。	H29-05
明倫・3062	要鑑抄伝授(筆記)		1					和紙袋綴写本 23.2 × 13.8	*「武門要鑑抄」は兵法学・越後流の軍学書。要門流という流派の主要兵書で、沢崎景尚の撰かとされる(謙信時代に編述したものを集成したとも伝わる)。著者は江戸に出て要門流を教え、事実上の祖となった * 越後流は上杉謙信を流祖と仰ぐ兵法学。要門流と宇佐美流があり、宇佐美流の軍学書は『武経要略』。(圖書)//	*「高月節木文庫之印」あり。	H29-05
明倫・3063	要鑑抄別説	(山口純実)	2			宝暦12写	1762	和紙袋綴写本 24.9 × 17.1	*「武門要鑑抄」は兵法学・越後流の軍学書。要門流という流派の主要兵書で、沢崎景尚の撰かとされる(謙信時代に編述したものを集成したとも伝わる)。著者は江戸に出て要門流を教え、事実上の祖となった * 越後流は上杉謙信を流祖と仰ぐ兵法学。要門流と宇佐美流があり、宇佐美流の軍学書は『武経要略』。(圖書)//	巻末に「樗武藤蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・3065	洋兵明鑑五巻	小幡甚三郎等合訳	1					和紙袋綴写本 22.2 × 15.3	著者: カーク 著[他]; 出版者: 尚古堂 福澤諭吉等譯 //	裏表紙見返しに「河辺直太郎」の墨書あり。	H29-05
明倫・3066	洋兵明鑑		3					和紙袋綴刊本 22.2 × 15.4	著者: カーク 著[他]; 出版者: 尚古堂 福澤諭吉等譯 //		H29-05
明倫・3070	要門備矩会説		1					和紙袋綴写本 24.3 × 14.7		「高月節木文庫之印」あり。	H29-05
明倫・3072	陸軍律	市川陸軍兵学小教授訳述 (陸軍兵学寮)	1			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 19.3 × 13.3			H25-05
明倫・3074	尼尼教則	下曾称借款問 阿部文叔訳	6			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 22.8 × 15.7		軍事	H25-05
明倫・3077	練心總器械制口義二巻		2					和紙袋綴写本 27.2 × 19.9		「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・3078	練卒訓話七巻	和蘭総督(監) 卒籍珀子	6					和紙袋綴写本 26.5 × 18.5		「明倫堂蔵書記」の印あり。	H29-05
明倫・3080	論水軍	(大塚氏)	1					和紙袋綴写本 24.5 × 17.3		「大塚」の印あり。裏表紙に「大塚氏」の墨書あり。	H29-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3082	初学須知――一巻	田中耕三訳 佐沢太郎訂 (東・山中市兵衛)	26			明治9刊	1876	和紙袋綴り本 22.3×14.5	博物学(現在では理科となっている)の教科書、自然科学技術全般にわたる。西洋の本の翻訳で「牙氏」(ガリグー氏:Garrigues)の『Simples Lectures sur les Sciences, les Arts et l'Industrie』の翻訳//宮城教育大学図書館		H25-05
明倫・3083	初学須知(牙氏)	田中耕三訳 佐沢太郎訂 (大阪府第五課)	15			明治9刊	1876	和紙袋綴り本 22.3×13.7	博物学(現在では理科となっている)の教科書、自然科学技術全般にわたる。西洋の本の翻訳で「牙氏」(ガリグー氏:Garrigues)の『Simples Lectures sur les Sciences, les Arts et l'Industrie』の翻訳//宮城教育大学図書館	3083-5に武藤氏宛て高鍋学校よりの紙片あり(お金などを包んでいた紙か?要調査)	H25-05
明倫・3085	三角術	神保長致編纂 (東・内田正義)	1			明治11刊	1878	和紙袋綴り本 22.2×14.9	*三角術とは三角法(三角関数の性質やその応用を研究する数学の一分野)の旧称。神保長致は明治時代の数学者沼津兵学校の数学担当教授、陸軍士官学校の教官などをつとめた	修静館刊行 三角関数などの教科書	H25-05
明倫・3086	新編算学啓蒙註解	松庭朱世傑編撰 星野助南門註	1					和紙袋綴り本 26.5×19.2		送返 表紙見開き「水筑氏」の墨書あり。	H29-05
明倫・3087	比例法全(西洋算法)	岸俊雄塾寄新館纂輯(東・江藤善兵衛等)	1			明治4刊	1871	和紙袋綴り本 22.4×15.1			H25-05
明倫・3089	代数学	今村謙吉 塚谷逸郎編(浩堂蔵)	1					和紙袋綴り本 22.1×15.1			H25-05
明倫・3090	代数学	山本信実編	4			明治9・10刊	1886・1887	和紙袋綴り本 22.2×15.3			H25-05
明倫・3091	代数学階梯	今村謙吉 塚谷逸郎編(東・鈴木善右衛門)	1			明治4刊	1871	和紙袋綴り本 22.1×15.2			H25-05
明倫・3092	代数学例題	石坂清長編輯(新潟・児長栄三郎)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴り本 18.3×12.0		巻末に「高鍋中学校蔵書」書入	H25-05
明倫・3096	(小学)算術題叢	向井蔵次郎編輯(愛媛・向井蔵次郎)	1			明治21刊	1888	和紙袋綴り本 11.0×15.5			H25-05
明倫・3097	(小学)算術題叢	新直憲編(愛媛・向井蔵次郎)	2			明治20刊	1887	和紙袋綴り本 11.3×15.8			H25-05
明倫・3098	小学高等科筆算書	中条澄清著 (東・内田正義)	1			明治21刊	1888	和紙袋綴り本 18.4×12.3	「小学高等科筆算書」は小学校の筆算教科書。5巻。明治20年出版され、M21年3月に訂正再版されている。(M21年4年に文部省検定済)(明倫5091のM20年刊もみよ)	巻之五のみ	H25-05
明倫・3099	小学高等科筆算書答数	中条澄清著 (東・内田正義)	2			明治21刊	1888	刊本 18.3×12.2	「小学高等科筆算書」は小学校の筆算教科書で、本書はその答数(明倫3098参照)	1～裏表紙「高鍋村横筏 高二 河邊よし」の墨書あり。 2～裏表紙見返し「佐 河辺ヨシ女」の墨書あり。	H30-05
明倫・3101	筆算教科書(高等小学)	竹貫登代多著述(東・白井録一)	1			明治29刊	1896	和紙袋綴り本 12.5×18.5	「高等小学筆算教科書」は検定時代中期の筆算教科書。竹貫登代多著、4冊本、明治27年文部省検定済	3093を見よ 生徒用一巻	H25-05
明倫・3102	筆算題聚(合巻)	山本正至 田沢昌永編輯(静岡・広瀬市蔵)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴り本 22.7×15.0			H26-05
明倫・3103	開方取鎖門	(星野助南門)	1			寛文12刊	1672	和紙袋綴り本 26.6×19.0		送返 巻頭に「水城氏」の墨書あり。	H26-05
明倫・3104	算法	岩田幸通著 (江・出雲寺万次郎)	1			天保9刊	1838	和紙袋綴り本 11.3×15.8			H25-05
明倫・3105	格物入門七巻	美国丁題良著 (東・雁金屋清吉)	7			明治2刊	1869	和紙袋綴り本 26.0×17.8	*「格物入門(和解)」は明治初期の無検定教科書で、内容は物理や自然科学。格物とは中国で言う「科学」のこと、アメリカのW.A.P. マーティンは、丁?良(ていりりょう)という中国名で自然科学の概説書《格物入門》(1868)をあらわした(本書はこの和訳か?)//	句返「官許菊間学校蔵版」と3105-4・7巻末記載	H25-05
明倫・3106	格物入門和解七巻	マルチン・ギルリウム著 柳川春徳和解(東・稲田佐兵衛等)	7			明治3刊	1870	和紙袋綴り本 22.5×15.1	*「格物入門(和解)」は明治初期の無検定教科書で、内容は物理や自然科学。格物とは中国で言う「科学」のこと、アメリカのW.A.P. マーティンは、丁?良(ていりりょう)という中国名で自然科学の概説書《格物入門》(1868)をあらわした(本書はこの和訳か?)//		H25-05
明倫・3107	学校用物理書附録	山岡謙介訳 (東・丸屋善七)	5			明治14刊	1881	和紙袋綴り本 22.5×15.0	*学校用物理書は物理の教科書。山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。ロンドンのマクミラン社から発刊された「サイエンス・ブライ マース」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜萃したもので、和綴全四冊。//	蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H26-05
明倫・3108	学校用物理書二巻	山岡謙介訳 小林義直間 (丸善書舗)	7			明治14刊	1881	和紙袋綴り本 22.5×15.1	*学校用物理書は物理の教科書。山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。ロンドンのマクミラン社から発刊された「サイエンス・ブライ マース」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜萃したもので、和綴全四冊。//		H25-05
明倫・3109	学校用物理書	山岡謙介訳 (東・丸屋善七)	2			明治12刊	1879	和紙袋綴り本 22.8×15.3	*学校用物理書は物理の教科書。山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。ロンドンのマクミラン社から発刊された「サイエンス・ブライ マース」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜萃したもので、和綴全四冊。//	2～蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H26-05
明倫・3111	学校用物理書三巻	山岡謙介訳 (東・丸屋善七)	3			明治14刊	1881	和紙袋綴り本 22.4×15.1	*学校用物理書は物理の教科書。山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。ロンドンのマクミラン社から発刊された「サイエンス・ブライ マース」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜萃したもので、和綴全四冊。//	明治11年版免(検定)	H25-05
明倫・3112	学校用物理書三巻	山岡謙介訳 (東・丸善書舗)	13			明治11刊	1879	和紙袋綴り本 22.5×15.0	*学校用物理書は物理の教科書。山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。ロンドンのマクミラン社から発刊された「サイエンス・ブライ マース」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜萃したもので、和綴全四冊。//	「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。 10～裏表紙見返しに「高鍋学校御蔵書」の墨書あり。	H26-05
明倫・3113	学校用物理書	山岡謙介訳 (東・丸屋善七)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴り本 22.5×15.2	*学校用物理書は物理の教科書。山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。ロンドンのマクミラン社から発刊された「サイエンス・ブライ マース」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜萃したもので、和綴全四冊。//		H25-05
明倫・3114	学校用物理書三巻	山岡謙介訳	1					和紙袋綴り本 22.5×15.2	*学校用物理書は物理の教科書。山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。ロンドンのマクミラン社から発刊された「サイエンス・ブライ マース」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜萃したもので、和綴全四冊。//		H25-05
明倫・3115	学校用物理書附録	山岡謙介訳 小林義直間 (東・丸屋善七)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴り本 22.5×15.2	*学校用物理書は物理の教科書。山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。ロンドンのマクミラン社から発刊された「サイエンス・ブライ マース」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜萃したもので、和綴全四冊。//	(明治14年版免(検定))	H25-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3116	気海観瀾広義一五巻	川本幸民訳 (東・福田佐兵衛等)	30			安政2刊	1819	和紙袋綴刊本 5冊単位で寸法異なる(備考に記載)	物理学の書。15巻(5冊)。川本幸民著。青地林宗著の「気海観瀾」(漢文)を国語(仮名交り文)で書き、さらに西洋の本を訳述して遺漏を補ったもの。気海観瀾は日本で最初の物理的科学的の刊本であり、その内容は、体性、引力、温質、気性、気理、望気、清気、燃気、煙気、吸気、光、色、音、越列吉的爾(エシキテル)、氣化、雲、雨、電雷、虹、水性、隄水、潮汐等40項目にわたり、19世紀初頭ヨーロッパの物理・化学の基礎的知識が簡潔に記述されている。/増訂圖書解題/	句 1-5/22.6×15.3 6-10/22.8×15.5 11-15/25.9×17.8 16-20/25.4×17.5 21-25/25.3×17.6 26-30/25.2×17.5	H25-05
明倫・3117	窮理問答五巻附録	後藤達三編 (東・袋屋亀次郎等)	10			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 1・2・4・6・9・10/22.7×15.6 3・5・7・8/21.5×15.0	「訓蒙窮理問答」は物理の教科書。明治5刊、6冊。(萬巻樓刊)。後藤達三(明治前期に活躍した農政実務官俣)訳編。米ベエカー氏の初等窮理書、一・二窮理書を訳編したもの。//	五巻31冊と附録一巻(総目より) 挿絵あり	H25-05
明倫・3118	窮理図解	福沢諭吉編	2					和紙袋綴刊本 18.1×12.4	物理学書。3巻。福沢諭吉著。慶応4年(1868)刊。英米の書物を参考に、自然現象を通俗的に解説したもの。1872年の「小学教則」にあげられた最初の科学書。//		H25-05
明倫・3119	窮理問答五巻附録一巻(訓蒙)	後藤達三編 (東・近江屋半七)	3			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.8×15.6	「訓蒙窮理問答」は物理の教科書。明治5刊、6冊。(萬巻樓刊)。後藤達三(明治前期に活躍した農政実務官俣)訳編。米ベエカー氏の初等窮理書、一・二窮理書を訳編したもの。//		H25-05
明倫・3120	窮理問答(訓蒙)	後藤達三編	2					和紙袋綴刊本 22.7×15.7	「訓蒙窮理問答」は物理の教科書。明治5刊、6冊。(萬巻樓刊)。後藤達三(明治前期に活躍した農政実務官俣)訳編。米ベエカー氏の初等窮理書、一・二窮理書を訳編したもの。//		H25-05
明倫・3121	士氏物理小学(改正増補)	士都華氏著 小林六郎訳 (東・牧野善兵衛)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 22.8×15.0	士氏物理小学は明治初期の物理の教科書(資料用教科書目録より)* スチュワー(氏原著、小林六郎訳、1887/明治20年、イギリス、マクミラン社のサイエンス・プライマーズ(Science Primers)・シリーズの教科書の1冊。Balfour Stewart : Physics の翻訳//		H25-05
明倫・3122	物理階梯	(文部省)	1					刊本	物理階梯は日本初の物理の教科書。明治5年刊。英バークルの「First lesson in Natural Philosophy」をテキストとし、米クワッケン、仏ガノーの著書を参考にした理科教科書。程度の高いもの。/資料用教科書目録/国史大辞典		H25-05
明倫・3123	物理階梯三巻	片山淳吉編 (文部省)	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 20.2×13.5	物理階梯は日本初の物理の教科書。明治5年刊。英バークルの「First lesson in Natural Philosophy」をテキストとし、米クワッケン、仏ガノーの著書を参考にした理科教科書。程度の高いもの。/資料用教科書目録/国史大辞典		H25-05
明倫・3124	物理階梯三巻	片山淳吉編 (宮崎県)	5			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.5×15.2	物理階梯は日本初の物理の教科書。明治5年刊。英バークルの「First lesson in Natural Philosophy」をテキストとし、米クワッケン、仏ガノーの著書を参考にした理科教科書。程度の高いもの。/資料用教科書目録/国史大辞典	送	H25-05
明倫・3125	物理訓蒙	吉田賢輔訳	21					刊本	小学校で読み物として用いられた物理の教科書。吉田賢輔訳、全3冊。共立舎、1872年の「小学教則」で、「該本該方」で使うようあげられている。「窮理」の別名となった「物理」という言葉が使われている。//		H25-05
明倫・3126	物理小学	(牧野氏)	1			明治13刊	1880	刊本			H25-05
明倫・3127	物理全志	宇田川準一訳 市川盛三郎関	1					和紙袋綴刊本 22.5×14.6	物理学の教科書。宇田川準一訳。全10冊。外国の物理学書を土台とする本書は参考書としてひろくつかわれた。1878年、文部省はこの本で学ぶための実験機器一式を各師範学校へ下付した。//宮城教育大学図書館		H25-05
明倫・3128	物理全志一〇巻	宇田川準一訳 市川盛三郎関 (東・青山清吉等)	18			明治9刊	1876	刊本	宇田川準一著。著書「物理全志」は外国の物理学書を土台とする本書は参考書としてひろくつかわれた//		H25-05
明倫・3129	化学通	川本幸民訳述 (東・福田佐兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 22.6×15.1		巻二 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3130	化学通	川本幸民訳述 (東・福田佐兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 22.8×15.4		巻二 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3131	化学通	川本幸民訳述	1					和紙袋綴刊本 22.8×15.4		巻一 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3132	化学入門		1					和紙袋綴刊本 22.4×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の「化学全書」より抄約し、一般化学の概要を記述したもの。堀尾用蔵の註あり。慶応3年桂川甫策(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	後編巻之九下 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3133	化学入門	桂川甫策関 加藤宗甫訳	4					和紙袋綴刊本 22.3×15.2	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の「化学全書」より抄約し、一般化学の概要を記述したもの。堀尾用蔵の註あり。慶応3年桂川甫策(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	後編(順に巻之二、四下、五、七) 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3134	化学入門外編	桂川甫策 石橋八郎訳註 (一貫堂)	1			明治2刊	1869	和紙袋綴刊本 22.3×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の「化学全書」より抄約し、一般化学の概要を記述したもの。堀尾用蔵の註あり。慶応3年桂川甫策(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	外編(全) 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3135	化学入門後編	桂川甫策関 加藤宗甫訳	1			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 22.3×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の「化学全書」より抄約し、一般化学の概要を記述したもの。堀尾用蔵の註あり。慶応3年桂川甫策(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	後編巻之九上 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3136	化学入門	竹原平次郎抄訳 堀尾用蔵註 (東・鈴木忠)	6					和紙袋綴刊本 22.4×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の「化学全書」より抄約し、一般化学の概要を記述したもの。堀尾用蔵の註あり。慶応3年桂川甫策(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。/圖書解題/	3136-3のみ初編(全) 3136-1・2・4・5・6は後編(順に巻之十上、十下、七、二、一) 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。 4~表裏紙見返しに「高嶺学校」の墨書あり。	H26-01
明倫・3137	化学入門	(一貫堂)	2			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 22.4×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の「化学全書」より抄約し、一般化学の概要を記述したもの。堀尾用蔵の註あり。慶応3年桂川甫策(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	後編(順に巻之九、四下) 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3138	化学入門	(東・鈴木忠蔵等)	2			明治2刊	1869	和紙袋綴刊本 22.4×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の「化学全書」より抄約し、一般化学の概要を記述したもの。堀尾用蔵の註あり。慶応3年桂川甫策(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	後編(順に巻之五、十下) 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3139	化学入門	桂川甫策 石橋八郎訳並注	5					和紙袋綴刊本 22.4×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の「化学全書」より抄約し、一般化学の概要を記述したもの。堀尾用蔵の註あり。慶応3年桂川甫策(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	後編(順に巻之十上、八下、六、四上、一) 「第五大区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3140	化学入門		1					和紙袋綴刊本 22.4×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の『化学全書』より抄約し、一般化学の大意を記述したもの。堀尾用藏の註あり。慶応3年桂川南東(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	後編巻之六「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3141	化学入門四巻	桂川南策・加藤宗甫 石橋八郎編 (江・万屋忠蔵板等)	4					和紙袋綴刊本 22.3×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の『化学全書』より抄約し、一般化学の大意を記述したもの。堀尾用藏の註あり。慶応3年桂川南東(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	3141-1のみ外編(全) 3141-2〜4は後編(順に巻之三、八下、八上) 「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3142	化学入門	桂川南策 (江・万屋忠蔵)	1		慶応3刊	1867		和紙袋綴刊本 22.4×15.3	* 竹原平次郎抄訳の「化学入門初編」は11冊。?拉陣の『化学全書』より抄約し、一般化学の大意を記述したもの。堀尾用藏の註あり。慶応3年桂川南東(開成所蘭学化学2科教授方)の序あり。後編12冊は同人の編。//	初編(全) 「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3143	舎密開宗外篇三巻	宇田川榕庵重訳 増註 (江・須原屋伊八等)	5					和紙袋綴刊本 25.8×17.8	日本最初の体系的化学書。21巻。江戸時代後期の医師・蘭学者、宇田川榕庵著。化学書。我が国の化学に関する首唱。天保8年の作/国書解題/	3143-1〜3は順に外編巻一、外編巻二、外編巻三 3143-4・5は一冊に外編〜三が入ったもの 4・5〜「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3144	舎密開宗内編一八巻	宇田川榕庵重訳 増註 (江・須原屋伊八等)	29					和紙袋綴刊本 25.8×17.9	日本最初の体系的化学書。21巻。江戸時代後期の医師・蘭学者、宇田川榕庵著。化学書。我が国の化学に関する首唱。天保8年の作/国書解題/	18〜27・29「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3145	新式化学	太田雄享訳纂 (東・英蘭堂・島村利助)	2					和紙袋綴刊本 22.1×15.0	化学の本。太田雄享訳。全10冊。パーケル、コーウン、コーク、ロスコーなどの化学書を訳編した本。//宮城教育大学図書館	「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3146	新式化学一〇巻	太田雄享訳纂 (東・英蘭堂・島村利助)	38		明治12刊	1879		和紙袋綴刊本 22.4×15.0	化学の本。太田雄享訳。全10冊。パーケル、コーウン、コーク、ロスコーなどの化学書を訳編した本。//宮城教育大学図書館	「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。1〜「公立高鍋学校有」の墨書あり。	H26-01
明倫・3147	新式化学一〇巻	太田雄享訳纂 (東・島村利助)	4					和紙袋綴刊本 22.6×15.0	化学の本。太田雄享訳。全10冊。パーケル、コーウン、コーク、ロスコーなどの化学書を訳編した本。//宮城教育大学図書館	3147-1〜4の順に巻之三・三・八・十 「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3148	新式化学一〇巻	太田雄享訳纂 (東・官版御用所)	5					和紙袋綴刊本 22.6×15.0	化学の本。太田雄享訳。全10冊。パーケル、コーウン、コーク、ロスコーなどの化学書を訳編した本。//宮城教育大学図書館	3148-1〜5の順に巻之二・三・四・十・十 「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3149	新式化学	太田雄享訳纂 (東・英蘭社・島村利助)	1					和紙袋綴刊本 22.6×15.0	化学の本。太田雄享訳。全10冊。パーケル、コーウン、コーク、ロスコーなどの化学書を訳編した本。//宮城教育大学図書館	巻之二 「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3150	新式化学	太田雄享訳纂 (東・島村利助)	5					和紙袋綴刊本 22.6×15.0	化学の本。太田雄享訳。全10冊。パーケル、コーウン、コーク、ロスコーなどの化学書を訳編した本。//宮城教育大学図書館	3150-1〜5の順に 巻之三・三・四・四・四 「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3151	新式化学	太田雄享訳纂 (東・英蘭堂・島村利助)	2		明治9刊	1876		和紙袋綴刊本 22.6×15.0	化学の本。太田雄享訳。全10冊。パーケル、コーウン、コーク、ロスコーなどの化学書を訳編した本。//宮城教育大学図書館	3151-1・2の順に巻之十五 「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3152	百科全書 百工応用化学上・下	牧山耕平訳 川本清一校 (家利佐平)	2		明治6刊	1873		和紙袋綴刊本 22.1×15.1		1203を見よ 巻之上・下 「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3153	登高自卑下本	村松良肅抄輯	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.1		「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3154	(増訂)化学訓蒙	石黒忠恵訳纂 (東・島村利助)	6		明治6刊	1873		和紙袋綴刊本 18.1×12.2		1・2・3・5・6〜「第五大区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。4〜「上江小学高鍋」の印あり。	H26-01
明倫・3156	星学図説	神田孟格訳 (東・紀伊国屋源兵衛)	1					和紙袋綴刊本 22.7×15.5		「瀬川蔵書」の印あり。	H26-01
明倫・3157	天変地異	小幡篤次郎著	1		明治1刊	1868		和紙袋綴刊本 18.1×12.4	科学啓蒙書。明治1刊、慶応義塾出版。(版を重ね異本もある) 明治時代の英学者・教育家・思想家である小幡篤次郎著。天変地異や、神霊の怒りなど一般に流布している自然現象の無理解に対して、自然現象の法則を通俗的に解説して迷信や俗信を解こうとして出版したもの/資料用教科書目録/滋賀大学付属図書館	「上江小学高鍋」の印あり。	H26-01
明倫・3158	地文新編三巻	西村貞編纂 (東京・金港堂)	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.3		「宮崎縣臣湯郡高鍋尋常高等小学校印」あり。	H26-01
明倫・3159	運氣六十年之図分五行以五色	星野助左衛門 劇衆宣考著	1					和紙袋綴刊本 26.6×19.2		表紙見開きに「水筑氏」の墨書あり。	H26-01
明倫・3161	金石小解	白野己巳郎訳述 瀬戸正義校正 (東・白野己巳郎)	1		明治12刊	1879		和紙袋綴刊本 22.5×15.0	金石とは鉱物や石のこと。金石小解は米ダナ著。(当時は、小学校教則要領で博物学・金石が重視された) // 宮城教育大学図書館		H26-01
明倫・3162	具氏博物学	須川賢久訳 (文部省)	3		明治8刊	1875		和紙袋綴刊本 22.4×15.4	アメリカ人、グードリッチの原著による博物学の教科書。文部省刊。原著は明治三年にアメリカで刊行され、日本に入ってきたもの。/資料用教科書目録/	1〜裏表紙見返しに「高鍋学校所有」の墨書あり。内装なし。	H26-01
明倫・3163	具氏博物学	須川賢久訳 田中芳男開校 (文部省)	5		明治9刊	1876		和紙袋綴刊本 22.4×15.1	アメリカ人、グードリッチの原著による博物学の教科書。文部省刊。原著は明治三年にアメリカで刊行され、日本に入ってきたもの。/資料用教科書目録/	4〜表紙見返しに「高鍋学校蔵書」の墨書あり。	H26-01
明倫・3164	具氏博物学	須川賢久訳 田中芳男開校 (文部省)	1		明治9刊	1876		和紙袋綴刊本 22.4×15.3	アメリカ人、グードリッチの原著による博物学の教科書。文部省刊。原著は明治三年にアメリカで刊行され、日本に入ってきたもの。/資料用教科書目録/		H26-01
明倫・3165	博物新編三巻	英国医士合信著 (鹿児島県)	6		明治4刊	1871		和紙袋綴刊本 26.2×18.4	* 「博物新編」は漢文による科学の本。「博物」は、動物、植物、鉱物などの自然物を扱う学問をさすことが多いが、ここでは、科学によってつくられた物、機械をあつかっている。空気ポンプ、気球、汽船、汽車など、実用機械。科学機器を取りあげて、科学を解説している。この本を日本語に訳編した大森秀三訳『博物新編訳解』(1869)が、1872年の「小学教則」で窮理の教科書として示された。表・ペンジャモン・ホブソン(合信)編、1855年刊行(上海・墨海書館)。1集が物理学等、2集が天文学論、3集が鳥獸略論で構成。幕末から明治初	3165-1〜6まで順に巻之一、二、三、一、二、三 蔵書印「上江小学高鍋」* 絵図による解説が豊富	H26-01
明倫・3166	博物新編訳解	解谷大森中訳	2		明治2刊	1869		和紙袋綴刊本 17.8×12.0	「博物新編」を日本語に訳編した科学書。大森秀三訳、1869刊。1872年の「小学教則」で窮理(物理)の教科書として示されている。//	校書の順に三巻、二巻 蔵書印は3166-01「上江小学高鍋」3166-02は印無	H26-01
明倫・3167	博物新編和解	大森中訳 (東・雁金屋清吉)	1		明治3刊	1870		和紙袋綴刊本 18.0×12.3	* 「博物新編」は漢文による科学の本。「博物」は、動物、植物、鉱物などの自然物を扱う学問をさすことが多いが、ここでは、科学によってつくられた物、機械をあつかっている。空気ポンプ、気球、汽船、汽車など、実用機械。科学機器を取りあげて、科学を解説している。この本を日本語に訳編した大森秀三訳『博物新編訳解』(1869)が、1872年の「小学教則」で窮理の教科書として示された。表・ペンジャモン・ホブソン(合信)編、1855年刊行(上海・墨海書館)。1集が物理学等、2集が天文学論、3集が鳥獸略論で構成。幕末から明治初	巻之四 蔵書印「柿原蔵書」	H26-01

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3168	博物新編訳解四巻	解谷大森中訳 (東・鹿金屋清古等)	12			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 17.8 × 12.0	「博物新編」を日本語に訳編した科学書。大森秀三訳、1869刊。1872年の「小学教則」で窮理(物理)の教科書として示されている。//	蔵書印「上江小学高鍋」(3168-1〜5,7,8,11,12)「明倫堂蔵書印」(10) * 挿絵多数掲載	H26-01
明倫・3169	博物新編訳解		1					和紙袋綴刊本 18.1 × 12.4	「博物新編」を日本語に訳編した科学書。大森秀三訳、1869刊。1872年の「小学教則」で窮理(物理)の教科書として示されている。//	巻之二 蔵書印「柿原蔵書」	H26-01
明倫・3170	博物新編補遺三巻	小幡篤次郎訳述 (東・尚古堂)	12			明治2刊	1869	和紙袋綴刊本 22.2 × 15.1	博物学の翻訳書、小幡篤次郎訳述、3冊、明治3年刊。*「博物新編」は漢文による科学の本。「博物」は、動物、植物、鉱物などの自然物を扱う学問をさすことが多いが、ここでは、科学によってつくられた物、機械をあつつかっている。空気ポンプ、気球、汽船、汽車など、実用機械、科学機器を取りあげて、科学を解説している。この本を日本語に訳編した大森秀三訳『博物新編訳解』(1869)が、1872年の「小学教則」で窮理の教科書として示された。英ベンジャミン・ホブソン(合信)編、1855年刊行(上海・墨海書館)。1集が物理学等、2	巻之上・中・下 蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」(3170-1〜3) 「上江小学高鍋」(3170-4〜12)	H26-01
明倫・3171	博物新編二集訳解		1					和紙袋綴刊本 17.9 × 12.3	*「博物新編」は漢文による科学の本。「博物」は、動物、植物、鉱物などの自然物を扱う学問をさすことが多いが、ここでは、科学によってつくられた物、機械をあつつかっている。空気ポンプ、気球、汽船、汽車など、実用機械、科学機器を取りあげて、科学を解説している。この本を日本語に訳編した大森秀三訳『博物新編訳解』(1869)が、1872年の「小学教則」で窮理の教科書として示された。英ベンジャミン・ホブソン(合信)編、1855年刊行(上海・墨海書館)。1集が物理学等、2集が天文学論、3集が鳥獣略論で構成。幕末から明治初	巻之三(天文) 蔵書印「柿原蔵書」(挿絵豊富)	H26-01
明倫・3172	理科新編	金港堂株式会社編輯所編纂	2			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 22.7 × 14.9		「小学校用理科新編」第一巻・四巻(挿絵豊富) 裏表紙に書き入れ3172-1「河辺ツウ」3172-2「高等四年生十四歳河邊つう」	H26-01
明倫・3173	理科読本(新撰)	武田安之助補訳 (東・原亮三郎)	1			明治21刊	1888	和紙袋綴刊本 22.4 × 15.2		第三(14〜20章) 表紙カバー有、書入「高鍋小学校生徒横枝河邊よ志」巻末書入「高二河邊ヨシ」	H26-01
明倫・3174	理科読本(新撰)	武田安之助 (東・原亮三郎)	4			明治20刊	1887	刊本 22.4 × 14.7		「田邨氏蔵書印」あり。	H30-05
明倫・3175	天然人造道理図会	田中大介編 (東・梶屋善兵衛)	3			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 22.7 × 15.3		巻一〜三 蔵書印「明倫堂蔵書印」 (巻末「高鍋千手蔵書」を消し、「明治四年学校■入レニ相成 共三冊」)	H26-01
明倫・3177	植物小学	村松任三纂訳 伊藤圭介校閲	1			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 22.4 × 14.7		巻下 蔵書印「柿原蔵書」	H26-01
明倫・3178	草木異名	岡田三左衛門等編	1					和紙袋綴写本 24.2 × 16.7		蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H26-01
明倫・3180	嶺丘白牛酪考	岩本正倫	1			寛政4刊	1792	和紙袋綴刊本 26.4 × 17.7		句送返 蔵書印「高鍋図書館蔵書印」	H26-01
明倫・3181	人身生理学	坪井信良校閲 松山誠二纂述	1					和紙袋綴刊本 22.4 × 15.0		巻之中 外題・内題「改正再版人身生理学」 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H26-01
明倫・3182	医学に関する筆記文		1					和紙袋綴写本 22.0 × 15.5		返 元の表紙は欠損か(原題不明)	H26-01
明倫・3184	医方聚要一・二巻	友松南軒著	12			延宝6刊	1678	和紙袋綴刊本 25.0 × 17.0		送返 全十二巻(巻数は枝書と同じ)	H26-01
明倫・3185	医療衆方規矩大成	三宅意庵著 (大・藤屋弥兵衛等)	1			天保7刊	1836	和紙袋綴刊本 12.3 × 18.3	1巻。所有病症を網羅して、更に投薬施療の方法を研究指示したもの。まず病名を数十丁に分け、更に数丁の処方をして更に衆方大成のみに背かないものとなっている。旧版は明和6年刊、寛政12年改刻。/圖書解題/		H26-01
明倫・3186	飲膳摘要(増補)	小野恵軟纂輯 (東・岡田屋嘉七等)	1			天保7刊	1836	和紙袋綴刊本 15.5 × 7.9	料理書。1巻。江戸の本草学者、小野職博著。文化元年刊。記譜調理上の諸注意を記述したもの。穀物、諸肉、野菜、果実などの諸理をいろは順に類別し、記譜調理から効能・禁忌などを記す。/圖書解題/大辞典(平凡社)	蔵書印「橋河辺文庫之印」	H26-01
明倫・3188	仮名難経三巻	松井村庵問 男子賀健順輯 (江・若林清兵衛等)	3					和紙袋綴刊本 27.1 × 17.8		巻上・中・下	H26-01
明倫・3189	巻懐食鏡	香月啓益著	1					和紙袋綴刊本 16.0 × 9.0		送返 蔵書印「大塚」巻頭書入「大塚家蔵」	H26-01
明倫・3190	健全学六巻	杉田玄白著 (江・丸屋善七等)	9			慶応3刊	1867	和紙袋綴刊本 18.1 × 12.1	生理学の書。6冊。文久3年の凡例有。天地間万物の生活を論ず。原著は英語で、蘭訳されたものを杉田玄(玄端)が和訳し刊行。(ロベルト・ゼームス・メン[英・原著]: イルデ・ブロイン・コプス[蘭訳増補]) * 目録で杉田玄白著となっている? 確認要。/圖書解題/	枝番の順に巻之一〜六・三・五・六 蔵書印「上江小学高鍋」(9冊とも)枝番5・7のみ「高鍋図書館蔵書印」	H26-01
明倫・3191	健全学	杉田玄白著 (致高館)	3			慶応3刊	1867	和紙袋綴刊本 18.1 × 12.2	生理学の書。6冊。文久3年の凡例有。天地間万物の生活を論ず。原著は英語で、蘭訳されたものを杉田玄(玄端)が和訳し刊行。(ロベルト・ゼームス・メン[英・原著]: イルデ・ブロイン・コプス[蘭訳増補]) * 目録で杉田玄白著となっている? 確認要。/圖書解題/	巻之一・二・四(3190をみよ) 蔵書印「上江小学高鍋」「高鍋図書館蔵書印」	H26-01
明倫・3192	牛渚漫録	浅田惟常著 男惟常 松本豊多校 (浅田恭悦)	2			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 27.1 × 18.0		巻四・続(完) 蔵書印「堤氏文庫」	H26-01
明倫・3198	初学人身窮理上・下巻	松山棟庵 森下岩楠合訳 (東・慶應義塾出版社)	6			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 22.4 × 15.0	医学の教科書。2冊、明治9年刊。小学校の教科書。カトル者の翻訳で、松本棟庵、森下岩楠合訳。小学の「養生口授」科の授業の参考書。「生理」科の授業の教科書として用いられた。慶応義塾医学所用の教科書として出版されたが、小学、師範学校でも使われた。/滋賀大学付属図書館/宮城教育大学図書館	上 「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-01
明倫・3199	初学人身窮理二巻	松山棟庵 森下岩楠合訳 (東・慶應義塾出版社)	2			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.3 × 14.8	医学の教科書。2冊、明治9年刊。小学校の教科書。カトル者の翻訳で、松本棟庵、森下岩楠合訳。小学の「養生口授」科の授業の参考書。「生理」科の授業の教科書として用いられた。慶応義塾医学所用の教科書として出版されたが、小学、師範学校でも使われた。/滋賀大学付属図書館/宮城教育大学図書館	全二巻(上・下) 「田邨氏蔵書印」あり。 1〜裏表紙見返しに「鹿児島県下日向之国児湯郡高鍋村人民 田村」の墨書あり。	H26-01
明倫・3200	初学人身窮理二巻	松山棟庵 森下岩楠同訳 (東・松山棟庵)	7			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.4 × 15.1	医学の教科書。2冊、明治9年刊。小学校の教科書。カトル者の翻訳で、松本棟庵、森下岩楠合訳。小学の「養生口授」科の授業の参考書。「生理」科の授業の教科書として用いられた。慶応義塾医学所用の教科書として出版されたが、小学、師範学校でも使われた。/滋賀大学付属図書館/宮城教育大学図書館	全二巻(上・下)枝番1〜5上6・7下 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」(3200-1・4・5・6)「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」(3200-3・7)書入れ「高鍋学校蔵書」(3200-1) 下巻巻末に人体図有	H26-01
明倫・3201	診脉並妙薬		1					和紙袋綴写本 21.8 × 14.4		外題直書「診脉並妙薬」 巻末に「右極伝他言不可/有者之/■慶長四歳十月廿九日/玄德/内田何某殿」 図説あり	H26-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3202	人身生理学	坪井信良校閲 松山誠二纂述	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.0		巻中 蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」	H26-02
明倫・3203	人身生理学三巻	松山誠二編 (東・松山誠二)	9			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 22.5×15.0		全三巻(上・中・下)枝番順に上(3203-1・2)中(3～5)下(6～9) 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」 書入「高鍋学校用書」(3203-2)	H26-02
明倫・3204	生理発蒙	李 撰 島村鼎 絃仲訳 (江・須原屋伊八等)	1					和紙袋綴刊本 22.7×14.8		巻七～九 蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」 紙片有り(川崎棟宛)	H26-02
明倫・3205	生理発蒙	李 撰 島村鼎 絃仲訳 平松 研介校 (江・須原屋伊八等)	3					和紙袋綴刊本 22.6×15.1		「第五大学区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。 3～表紙見返しに「高鍋学校蔵書」の墨書あり。	H26-02
明倫・3206	生理発蒙一四巻	李 撰 島村鼎 絃仲訳 (江・須原屋伊八)	6					和紙袋綴刊本 22.8×15.2		「第五大学区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。 3・5～表紙見返しに「高鍋学校蔵本」の墨書あり。	H26-02
明倫・3207	生理発蒙一三巻	李 撰 島村鼎 絃仲訳 (江・須原屋伊八等)	1			慶応2刊	1866	和紙袋綴刊本 22.5×15.1		「第五大学区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-02
明倫・3208	生理発蒙図式一巻		3					和紙袋綴刊本 22.8×15.2		「第五大学区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-02
明倫・3209	生理学	井倉先生口授	1					和紙袋綴写本 25.2×17.0		裏表紙「宮崎県児湯郡長 堤長発」の墨書、練習書き(朱書)多数あり。	H26-02
明倫・3210	素問解題	丹波元簡著 (宮商閣)	1			天明7刊	1787	和紙袋綴刊本 27.0×17.7		「素問」は中国最古の医書のこと。丹波元簡は多紀元簡(江戸中～後期の医師)をさす。*医書「素問」を解題したものか? *同著で「素問諸議」「素問の注釈書」は國書解題にあり/國書解題/	H26-02
明倫・3211	性法略一巻	神田孟格著 (東・紀伊国屋源兵衛)	1			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.2×15.1		送 蔵書印「上江小学高鍋」	H26-02
明倫・3213	単理児氏治療書	石井謙道訳述 坪井芳洲訳	11					和紙袋綴写本 23.4×15.8		カナ交じり文 内題「単理児氏治療書/石井謙道訳述」 3213-2に各論の目次記載 3213-10・11は薬剤の処方(「単理児氏方符」) 3213-9は一部に罫線入りの用紙が使用されている	H26-02
明倫・3216	非非一四経	鳥有山人著 (江・須原屋茂兵衛)	1			安永7刊	1778	和紙袋綴刊本 22.8×16.5			H26-02
明倫・3220	北山友松子医案	北山壽庵著 (大・高萩安兵衛等)	3			延享2刊	1747	刊本 27.5×18.0		送 「萩原■■■」の印あり。	H30-05
明倫・3221	愈穴弁解	村上親方	2					和紙袋綴刊本 26.5×18.0			H26-02
明倫・3222	養生新語	玄門山有範述	1			嘉永3刊	1850	刊本 18.0×12.2	玄門山有 範述//	萩原氏蔵書印あり。(M3年萩原石作献納の医書の一つか/明倫堂記録P1027)	H30-05
明倫・3223	養生法	松本良順註 山内皇城校閲 補註 (川辺公化)	1			明治7写	1874	和紙袋綴写本 22.5×15.3	松本良順 註 (幕府の医官、日本の陸軍軍医制度の確立者)//	蔵書印「橋河辺文庫印」 裏表紙見返しに「明治七年六月写之」「紀元二千五百卅五年 七番小学校ニ於て書之」「紀元二千五百 河辺」の墨書あり。(3224を写したものか?)	H26-02
明倫・3224	養生法	松本良順註 山内皇城校閲 補註 (東・島村利助)	1					和紙袋綴刊本 22.3×15.0	松本良順 註 (幕府の医官、日本の陸軍軍医制度の確立者)//	蔵書印「上江小学高鍋」	H26-02
明倫・3225	用薬須知五巻	松岡成章 (京・岡村弥兵衛)	3			享保11刊	1726	和紙袋綴刊本 22.4×15.7	薬書。12巻。松岡玄達著。漢薬の諸品を并じ、一切動植物の名実を訂したもの。享保11年より安永5年までに3回に分冊する。//大辞典(平凡社)	全五巻(順に巻一/巻二・三/巻四・五) 巻末書入「用薬須知三冊之内 萩原氏」(明倫堂記録P1027の萩原石作献納本か)	H26-02
明倫・3228	算法地方大成五巻	秋田十七郎義一編 (江・北嶋順四郎)	1			天保8刊	1837	和紙袋綴刊本 25.4×17.6	数学書。5巻。秋田儀一著。天保8年刊。1巻は農民取扱ひ心得・年貢の事・夏成の事など、第2巻は検見取箇厘付のことなど、第3巻以降は出目米延米などより作業普請などを経て景地法を記したもの。/國書解題/大辞典(平凡社)	巻1～4欠 (挿絵多数有)	H26-02
明倫・3229	算法地方大成五巻	秋田十七郎編 (江・西宮弥兵衛等)	5			天保8刊	1837	和紙袋綴刊本 24.9×17.4	数学書。5巻。秋田儀一著。天保8年刊。1巻は農民取扱ひ心得・年貢の事・夏成の事など、第2巻は検見取箇厘付のことなど、第3巻以降は出目米延米などより作業普請などを経て景地法を記したもの。/國書解題/大辞典(平凡社)	全五巻(巻数は枝番の通り) 蔵書印「明倫堂蔵書記」 (挿絵多数有)	H26-02
明倫・3230	算法量地捷解前編三巻	市川軍八節間 松沢鏡蔵 信義編 (黒羽・明石舎)	2					和紙袋綴刊本 25.9×18.3	3巻。松澤信義著。文久3年刊。量地術の起源・測器の制作方法等に関し、数学初学者にも容易な方法を講じたもの。遠近高低等を図る捷徑算法。/國書解題/大辞典(平凡社)	巻之上・中(下は3231をみよ)	H26-02
明倫・3231	算法量地捷解前編	松沢鏡蔵編 (江・須原屋茂兵衛等)	1			文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 25.9×18.4	3巻。松澤信義著。文久3年刊。量地術の起源・測器の制作方法等に関し、数学初学者にも容易な方法を講じたもの。遠近高低等を図る捷徑算法。/國書解題/大辞典(平凡社)	巻之下(上・中は3230をみよ)	H26-02
明倫・3233	膳部木具寸法		1					和紙袋綴写本 20.1×13.1	御膳の寸法を図解したもの		H26-02
明倫・3234	調度図会初編		1					和紙袋綴刊本 26.2×19.3	調度品の図解	蔵書印「堤氏文庫」	H26-02
明倫・3236	料理早指南	醍醐山人著 (東・和泉屋市兵衛等)	1			享和元 享和2	1801 1802	和紙袋綴刊本 62・68T 18.5×13.2	3巻。八百屋善四郎著。本膳懐石料理の献立から、一切の料理献立を記す。初篇2編は享和元年に、第3編は同2年に記す。*4編1冊 初編料理・料理後編(花船集)・料理三篇(山家集)・料理四編(談合集)/國書解題/	分冊 橋河辺蔵書印朱印 虫損	R5-03
明倫・3238	西洋度量考	青山幸哉撰	1			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 25.5×17.8	西洋度量考とは、安政2年(1855年)に美濃国郡上藩主・青山幸哉の命によって編纂された西洋の度量衡の研究書。日本で最初に本格的にメートル法を紹介した書物/國書解題/ (単位はアルファベット順に記載されている)	蔵書印「財津蔵書」	H26-02
明倫・3239	中外度量早見	吉田庸徳纂輯 (東・三余堂)	1			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 18.2×12.3	日本・諸外国の数・単位・貨幣などを表や図を用いて紹介している		H26-02
明倫・3241	度量衡考	荻生徂徠著 (東都・中村新七)	2			享保19刊	1734	刊本 27.5×18.7	2巻。荻生徂徠著。享保18年刊。周～元代に至る度量衡に関し、隋唐の書により論及したもの。*度量衡(どうりこう)は、さまざまな量に対してそれを測る「もの」あるいは「単位」のことを総称。字義的には、度は「長さ」および「さし(ものさし)」、量は「嵩(かさ、容積)」および「秤」、衡は「目方」および「秤」を表している //大辞典(平凡社)	句送返 「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H30-05
明倫・3242	十字号糞培例	佐藤元庵著 佐藤信淵筆記 織田完之訂正 (織田氏)	1			明治6完	1873	和紙袋綴刊本 22.8×15.4			H26-02
明倫・3243	農家益抄	大蔵永常著 (河辺公常)	1			文久1写	1861	写本 22.4×15.7	*大蔵永常(江戸の農学者)著「農家益」は3巻、享和2年刊。(後編・続編もある)植の樹の栽培法と採蠶技術に関する本。/國書解題/	「橋河辺文庫印」あり。 裏表紙見返し「右万延元申年学校江写取二相来候…。文久元年西六月 河邊公■」	H30-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3246	農業全書一〇巻	貝原篤信著 (京・勝嶋喜六郎)	11			文化12刊	1815	和紙袋綴刊本 22.4×15.6	10巻。元福岡藩士宮崎安貞著。1697年(元禄10)に出版。刊本としては日本最古の体系的農書。著者が福岡城外女原村に帰農40年にして著述したもの。全11巻。貝原益軒の序がある。第11巻は益軒の元来軒の著で付録とする。10巻は農事総論、五穀、菜(2巻)、山野菜、三草、四木、菓木、諸木および生類養方、葎種に分かれる。農事総論をはじめ各論の栽培技術においても耕作農民の立場から詳細な記述をしている。本書が本邦農書の原典と称されるのも、まさにこの点にもとづく。/圖書解題/	「橋河辺文庫印」あり。	H26-02
明倫・3250	泰西農学	(紀伊国屋源兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 22.7×15.0	ソーマス・シ・フレッチャル著 緒方惟一(訳) 原着者はソーマス・シ・フレッチェル。1867年刊行の翻訳書 (西洋の農業の翻訳紹介?)	「上江小学高鍋」の印あり。	H26-02
明倫・3251	泰西農学	緒方惟一訳 (山城屋佐兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.6	ソーマス・シ・フレッチャル著 緒方惟一(訳) 原着者はソーマス・シ・フレッチェル。1867年刊行の翻訳書 (西洋の農業の翻訳紹介?)	「上江小学高鍋」の印あり。	H26-02
明倫・3252	培養秘録五巻	佐藤玄明窩口授 佐藤信淵筆記(織田氏)	3			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.8×15.5			H26-02
明倫・3254	農産物額一覧	宮崎県第一部農産課 (宮崎県)	1			明治23刊	1890	和紙袋綴刊本 18.5×8.8		表紙に「黒水」の丸印有	H26-02
明倫・3255	泰西農学	緒方惟一訳 (大学南校)	2					和紙袋綴刊本 22.6×15.6	ソーマス・シ・フレッチャル著 緒方惟一(訳) 原着者はソーマス・シ・フレッチェル。1867年刊行の翻訳書 (西洋の農業の翻訳紹介?)	3249を見よ 2冊とも上巻 蔵書印「上江小学高鍋」	H26-02
明倫・3256	農業往来	(東・相模屋七兵衛)	2			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 17.2×11.2	往来物の一つ。農村向けのものとして、農事層の要素を織り込んでいる。(往来物は江戸時代寺子屋などで初等教科書として用いられた?)	蔵書印「上江小学高鍋」	H26-02
明倫・3257	農談会筆記	宮崎県第一部農務課	1			明治19刊	1886	和紙袋綴刊本 24.2×16.2		蔵書印「田邨氏蔵書印」	H26-02
明倫・3258	初等農学	横井時敬著 教育学館校訂 (東・大日本図書株式会社)	1			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 22.3×15.0		「田邨氏蔵書印」あり。	H29-05
明倫・3259	農学啓蒙(小学読本)	田中芳男撰 大槻文彦校 十文字信介編 (広島・広島以文社)	2			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 21.4×15.0		巻之一・二	H26-02
明倫・3261	綿圖要務二巻	大蔵永常著 (大・丁字屋平兵衛)	2			天保4刊	1833	和紙袋綴刊本 22.3×15.3	2巻。大蔵永常著。天保4年漢文の序有。同年刊。処々に図を挿入、綿の作り方を平易に詳説した書。/圖書解題/ 大辞典(平凡社)	上下巻(3261-1が下・2が上) *挿絵豊富 蔵書印「橋河辺文庫之印」 紙片有(書物の名・冊数と日付など)	H26-02
明倫・3262	果木栽培法	藤井徹著	3			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.5×15.1		巻之一〜三(四欠) 蔵書印「■■■■■之印」「高鍋図書館蔵書印」	H26-02
明倫・3263	築山山水庭作伝	北村授琴翁論述	3					和紙袋綴刊本 23.7×16.0		全三巻(上・中・下) 巻頭頁返し「庭造傳」内題は「築山山水庭作伝」 *庭の絵図が豊富 蔵書印「■■■蔵書之印」(隠江?)	H26-02
明倫・3264	蚕業講話筆記	松永伍作	1			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 26.0×18.5		裏表紙に「武藤氏」の墨書あり。	H26-02
明倫・3265	養蚕新論二巻	田島邦寧著 (東・出雲寺万治郎)	2			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.4×15.0		全二巻(乾・坤)(3265-1 序・巻一・二/3265-2 巻三・四) *絵図有(彩色付)	H26-02
明倫・3266	続養蚕新論三巻	田島邦寧著 (群馬・田島弥平)	3			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 22.3×14.5		巻一〜三	H26-02
明倫・3267	養蚕新説	渡辺明義校正 佐藤源之助著 (福島・佐藤源之助)	1			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 22.2×15.2		蔵書印「泥谷氏印」「宮崎県高鍋図書館印」	H26-02
明倫・3268	尺ヅ仕出早算用	岩田幸通著 (東・出雲寺万次郎)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 11.2×16.0		丸印有(「河邊貞」?)	H26-02
明倫・3295	万宝書画全書六巻	(大・象牙屋治郎兵衛等)	6					和紙袋綴刊本 8.0×18.0 丁数不明		全7冊(目録・巻一〜六)のうち1冊欠(巻之一) 巻末書入「移秋月蔵書」 3295-5紙片有「京華要話・・・」 生成26年度電子化時3295-1を一部修復	H26-02
明倫・3297	画業要略	白井華陽著 近藤有芳校 (大・河内屋喜兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 22.0×15.0		下巻(表紙外題には「坤」) 蔵書印「田邨氏蔵書印」「高鍋城氏」(丸印)「日向高鍋城氏図籍」 紙片有「画業要略巻三 城氏図籍」	H26-02
明倫・3298	西面指南	川上寛 (出雲寺万次郎)	7			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 22.4×15.2			H26-02
明倫・3299	画学	文部省編(文書局)	1			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.9×15.4		「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-02
明倫・3300	画学本五巻	宮本三平編 諸葛信澄間 (東・北沢伊八等)	13					和紙袋綴刊本 12.0×18.2 丁数不明		平成26年度修復時3300-12のみ一部修復 「第五大区区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。 4〜「第五大区区嶋田学校第廿六中学区」の印あり。 12〜「第五大区区嶋田学校第廿六中学区」の印あり。 裏表紙見返しに「高鍋学校用書」の墨書あり。	H26-02
明倫・3301	飲中八仙歌	広川(先生)草書 (江・播磨屋勝五郎等)	1					和紙袋綴刊本 26.4×17.5		「田邨氏蔵書印」あり。	H26-02
明倫・3302	行草圖(草露貫珠技)	中村立節著 (間野伯助写)	1			慶応4写	1868	和紙袋綴写本 20.5×13.5		白 「大塚」の印あり。	H26-02
明倫・3303	儂堂松嶋先生遺墨	松嶋儂堂 (東・山下重房)	1			明治22刊	1889	和紙袋綴刊本 21.8×13.5		「堤氏文庫」の印あり。	H26-02
明倫・3305	四先生手本目録	百瀬耕元 長雄耕雲 船田耕山 佐藤対雲書	1			寛政11刊	1799	和紙袋綴刊本 27.2×18.0			H26-02
明倫・3306	執筆撥登法因式	広沢知慎自製	1			享保4写	1719	和紙袋綴写本 25.0×16.0			H26-02
明倫・3307	書学大概執筆	外岡北海著 飯田耕述 (江・和泉屋金右衛門等)	1					和紙袋綴刊本 25.7×18.0			H26-02
明倫・3308	書家自在(三編)	藤原良国輯 (京・島林専助)	1			天保10刊	1839	和紙袋綴刊本 17.0×11.2			H26-02
明倫・3309	書家自在	道富元礼輯 (京・三書房)	1			天保10刊	1839	和紙袋綴刊本 17.0×11.2		「田邨氏蔵書印」あり。	H26-02
明倫・3310	書家自在(二編)	藤原良国輯	1					刊本		送返	H26-02
明倫・3311	書家自在(二編)		1					刊本 17.0×11.6		送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H30-05
明倫・3312	書法類釈	菱湖巻寫輯 萩原 訂 (東・紙屋徳八)	1			弘化2刊	1845	和紙袋綴刊本 26.0×17.4	1巻。「幕末の三筆」といわれる巻大任(菱湖)著。弘化2年序有。書法について説明したもの。唐の「玉堂禁経」李陽水の「翰林密論」中の難解を注釈したもの。門人萩原?校訂。/圖書解題/		H26-02
明倫・3313	書法類釈十体源流	菱湖巻著 (大・河内屋茂兵衛)	1			弘化2刊	1845	和紙袋綴刊本 26.1×17.4		句返 題箋「十體源流 全」 表紙見返「書法類釈二集/菱湖巻先生著 松■堂校刊/十體源流/古文 大家 小篆 古隸 草草/八今 今隸 行書 今草 破範」内題「書法類釈二集/書学/十體源流」 弘化二年の序あり	H26-02
明倫・3314	新居帖四巻	頼山陽(京・林芳兵衛等)	3			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 26.8×17.5		「白眉堂印」あり。	H26-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3315	真草千字文	佐瀬得所書 (東・山中孝之助)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 27.0×15.3	『真草千字文』は千字文を中国の智永が楷書と草書の2種の書体で書いたもの。書道の手本として有名。//		H26-02
明倫・3319	和漢研譜	鳥羽希聡	1					和紙袋綴刊本 26.4×18.2	3巻。鳥羽希聡著。和漢名家の使用したもの、又名石を以て作られた硯について図説したもの/『國書解題』/大辞典(平凡社)	「碧水蔵書」の印あり。	H26-02
明倫・3320	印譜考略	郷純造編 中井兼之評	1			明治30刊	1897	和紙袋綴刊本 19.2×13.0		句	H26-02
明倫・3322	刀剣成問	松村昌道著 (江・和泉屋庄次郎等)	4			文化11刊	1814	和紙袋綴刊本 25.8×18.0		「橋河辺文庫印」あり。	H26-02
明倫・3326	重色目	猪飼正	1			文化14刊	1817	和紙袋綴刊本 16.5×23.3		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3328	小謡		1					和紙袋綴写本 22.9×15.8		「高月鈴木文庫之印」あり。裏表紙に「鈴木氏」の墨書あり。	H26-02
明倫・3330	鉢木		1					和紙袋綴刊本 23.2×16.3		句 「吉田蔵書」の印あり。	H26-02
明倫・3333	龍笛仮名家譜		1					和紙袋綴写本 12.6×18.0		「高鍋城氏」の丸印あり。	H26-02
明倫・3335	弘道館記述義二巻	藤田彪謹述	1					和紙袋綴刊本 25.0×17.5		句 「白眉堂印」あり。	H26-02
明倫・3336	打碁式		1					和紙袋綴写本 23.0×16.1		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3337	弘道館記述義	藤田彪謹述	1					和紙袋綴刊本 25.4×18.0		句	H26-02
明倫・3338	甲冑目利之巻		1					和紙袋綴写本 23.8×16.8 丁数不明		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3340	鞍懸廿七簡条講釈		1					和紙袋綴写本 27.0×19.3		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3341	単騎要略書拔		1					和紙袋綴写本 25.4×16.2		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3342	天狗芸術論		1					刊本 22.5×15.9	武芸書。4巻。丹羽橋山著。剣術槍術などの練習や応用の事を記したもの。天狗の言に託して記される。享保13年神田白龍子の序文有。/『國書解題』/大辞典(平凡社)	表紙見返し「イカダ 河直」墨書あり。「河辺」印あり。	H30-05
明倫・3344	八領鏝之事		1					和紙袋綴写本 23.8×16.7		送返 「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3346	円物之事	伊勢万助(貞春) (伊勢貞春)	1			寛政4写	1792	和紙袋綴写本 27.3×19.3		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3347	無刀流開祖山岡鉄舟先生剣道書	山岡鉄舟著 香川善治郎等写	1					和紙袋綴刊本 23.3×15.7		高鍋中学校 泥谷良治郎宛電報あり。 「堤氏文庫」んお印あり。	H26-02
明倫・3348	鍔直垂仕立能事		1					和紙袋綴写本 27.0×18.6		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3349	会席付		1					和紙袋綴写本 16.3×11.4			H26-02
明倫・3350	会席附自我集		1					和紙袋綴写本 20.5×14.3			H26-02
明倫・3351	茶道便箋鈔全		1					和紙袋綴刊本 25.7×19.9		「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H26-02
明倫・3353	茶話指月集		1					刊本 27.3×17.8	写本2巻。藤村庸軒著。千家流の茶式を鑑記したもの。元禄13年宇都宮由的の序あり。/『國書解題』/		H30-05
明倫・3354	煎茶小述	山本徳潤撰 (江・小林新兵衛等)	1			天保6刊	1835	刊本 18.2×12.6		「秋月氏所蔵」印あり。	H30-05
明倫・3357	活花園		1					和紙袋綴写本 24.1×15.4		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3358	華術三才之巻	(大・肥原勝二)	1			明治33刊	1900	和紙袋綴刊本 25.8×17.9			H26-02
明倫・3359	桑原流活花五十ヶ条目録		1					和紙袋綴写本 18.8×13.1			H26-02
明倫・3360	桑原註活花伝授之式	花玄書(河辺花吟丈)	1			文政7写	1824	和紙袋綴写本 18.8×13.2			H26-02
明倫・3361	桑原流立花指要大成	(松領山)	1			享保18写	1733	和紙袋綴写本 23.9×15.9			H26-02
明倫・3362	左実作花法則		1					和紙袋綴写本 24.5×15.6		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3363	四季の掛け花・鏡		1			文化7刊	1810	和紙袋綴刊本 27.4×19.7		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-02
明倫・3364	四季名目伝束		1					和紙袋綴写本 18.8×13.0			H26-02
明倫・3367	格五新譜	牙老生述(土井有格)	1					和紙袋綴刊本 26.5×18.5			H26-02
明倫・3368	暮経精妙四巻	林元美著 (大・秋田屋太右衛門)	4			天保6刊	1835	和紙袋綴刊本 25.4×18.0	囲碁書。江戸時代の囲碁棋士、林元美(1778～1861)著。著者は家元林家十一世林元美、八段準名人。本名は船橋源治、字は寛度。著作では燭柯堂または監叟とも号す。暮経精妙のほかに囲碁書『暮経衆妙』が有名。/『國書解題』/国史大辞典	「小寺蔵書」の印あり。	H26-02
明倫・3370	囲碁の譜	(江・須原屋伊八等)	1			天保6刊	1835	刊本 26.5×19.0		「橋河辺蔵書印」あり。	H30-05
明倫・3371	収平精思	本因坊丈和著 (江・青藜閣)	1			天保14刊	1843	刊本 26.5×19.0		句返 「橋河辺蔵書印」あり。	H30-05
明倫・3373	結構七十二例	(吉野屋権兵衛)	1			寛文4刊	1664	和紙袋綴刊本 27.0×17.1		句送返	H26-02
明倫・3374	辞典		1					和紙袋綴刊本 12.5×18.4 丁数不明			H26-02
明倫・3375	うひまなび	柳川春蔭編輯 (東・紀伊国屋源兵衛)	3					和紙袋綴刊本 22.1×15.1	柳川春蔭編集の国語教材。刊行年不明(明治3年以前か?)。明治初期の小学校国語教材で、「綴字」(かなづかい)の教材として「ちえのいとぐち」「智慧の環」とならびあげられている。/日本教科書大系/	「上江小学高鍋」の印あり。	H26-02
明倫・3376	ちえのいとぐち完	(雁金屋清吉)	2			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 18.1×12.3			H26-02
明倫・3377	小学日本文典三巻	田中義康著 (東・雁金屋清吉)	2			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 25.5×17.5		「第五学区区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-02
明倫・3378	単語篇	(文部省)	3			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.5×15.0	明治5年文部省刊行の国語教科書。3巻。単語を教授するためのもの。かなの綴字の次に用意された教材で、漢字の単語を各項目別に紹介している。/日本教科書大系/	「上江小学高鍋」の印あり。	H26-02
明倫・3379	日本文典二巻	中根淑著 (東・森屋治兵衛)	10			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.6×15.3		句送 3445・3449を見よ 上・下巻(3379-1～5が上、6～10が下) 蔵書印「第五学区区/高鍋学校/第廿六中学区」2～表紙見返しに「御用書 高鍋学校」の墨書あり。	H26-02
明倫・3383	三体千字文	蔵谷修著 (東・榊原友吉等)	1			明治18刊	1885	和紙袋綴刊本 26.1×16.6	* 千字文は中国の字書の名。南朝梁の武帝が周興嗣(?・520)に命じ、王羲之の書の中から1000字を選び、すべて4字1句の重複のない押韻対偶の文に仕立てさせたものという。格(かい)・行(ぎょう)・草(そう)の3書体を並べた「三体千字文」は、習字の手本として中国・日本で広く用いられた。//	外題・内題とも「三体千字文」 蔵書印「白眉堂印」「高鍋図書館蔵書印」 (* 文書名入力間違いのため27年3月目録に合わせ訂正 千字文→千字文)	H26-02
明倫・3384	初学検韻袖珍	(京・吉野屋基助)	1			嘉永1刊	1848	和紙袋綴刊本 17.5×12.0	* 「初学検韻」は2巻。清の姚文登撰。初學者のために韻字を?するのに便ならしめたもの//大辞典(平凡社)	本書は上下2巻4冊のうちの四冊目、巻下の四十八丁よりはじまる(3385をみよ) 外題・内題とも「初学検韻」 蔵書印「■■■■戸文庫」	H26-02
明倫・3385	初学検韻袖珍	海屋眞名改定 内村篤葉等校	3					和紙袋綴刊本 17.5×12.1	* 「初学検韻」は2巻。清の姚文登撰。初學者のために韻字を?するのに便ならしめたもの//大辞典(平凡社)	返 本書は上下2巻4冊のうちの～三冊目、3385-3は巻下の四十七丁まで(3384をみよ) 外題・内題とも「初学検韻」 蔵書印「■■■■戸文庫」	H26-02
明倫・3386	文法七十七則指南	綿震川著 岡三慶訳(東・深沢良助)	1			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 18.5×12.5		「素水軒子修所持之印」あり。	H26-02

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3387	神字日文伝	平田篤胤輯考 (平田篤胤)	1			文政2刊	1819	和紙袋綴刊本 26.7×18.3	江戸時代の国学者、平田篤胤著//	「第五大学区第廿六中学区第七番小学」の印あり。	H26-02
明倫・3388	草葉	三島政編集 (京・松根堂等)	1					和紙袋綴刊本 25.2×17.9	?・文化10年(1813)に刊行された木版オジナル和本「草葉」全2冊揃いです。画像のような江戸くずし字(草書体)字典//	白 蔵書印「素水軒子修所持之印」	H26-02
明倫・3389	第一文字之教	福沢諭吉著 (東・福沢諭吉)	1			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.2×15.1		蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」	H26-02
明倫・3390	第二文字之教	福沢諭吉著 (東・福沢諭吉)	1			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.5×15.0		蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」	H26-02
明倫・3391	二体千字文	佐瀬得所著 (東・山中孝之助)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 26.5×15.2	*『千字文』(せんじもん)は、子供に漢字を教えるために用いられた漢文の長詩である。1,000の異なった文字が使われている//	外題「真草千字文」内題「二体千字文」 蔵書印「日高蔵書」	H26-02
明倫・3392	万象千字文	真利卿編 (江・古文字屋市兵衛)	1			宝暦8刊	1758	和紙袋綴刊本 26.7×17.5	*『千字文』(せんじもん)は、子供に漢字を教えるために用いられた漢文の長詩である。1,000の異なった文字が使われている//	白 「水筑氏蔵書記」の印あり。	H26-02
明倫・3393	連語篇	(東・柳屋吾兵衛)	1			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.6×15.1		巻一 蔵書印「上江小学高鍋」	H26-02
明倫・3394	雅言集覧		1					和紙袋綴刊本 22.3×16.0	石川雅望が編した古語索引ともいうべき辞書。21冊50巻(國書解題では44巻)。《い》～《か》の6冊を1826年(文政9)・《よ》～《な》の3冊を49年(嘉永2)刊行。それ以下は写本のまま伝わる。現在は、中島広足が追補の筆を加えた《増補雅言集覧》(3冊、1887)が行われる。平安時代の文学作品を中心に、奈良時代の作品その他からも語種を集めて(いろは順)に配列したもの。解釈はほとんど施されていないが、引例が豊富で、いちいち出典を示している/増訂國書解題/大辞典	巻一(いろは順の「い」～「ろ」) 蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-02
明倫・3395	雅言集覧	石川雅望集 関豊修補	1					和紙袋綴刊本 22.9×16.1	石川雅望が編した古語索引ともいうべき辞書。21冊50巻(國書解題では44巻)。《い》～《か》の6冊を1826年(文政9)・《よ》～《な》の3冊を49年(嘉永2)刊行。それ以下は写本のまま伝わる。現在は、中島広足が追補の筆を加えた《増補雅言集覧》(3冊、1887)が行われる。平安時代の文学作品を中心に、奈良時代の作品その他からも語種を集めて(いろは順)に配列したもの。解釈はほとんど施されていないが、引例が豊富で、いちいち出典を示している/増訂國書解題/大辞典	巻二(いろは順の「は」～「に」) 蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-02
明倫・3396	雅言集覧	石川雅望集 関豊修補 (江・須原屋伊八)	1			文政9刊	1826	和紙袋綴刊本 22.9×16.1	石川雅望が編した古語索引ともいうべき辞書。21冊50巻(國書解題では44巻)。《い》～《か》の6冊を1826年(文政9)・《よ》～《な》の3冊を49年(嘉永2)刊行。それ以下は写本のまま伝わる。現在は、中島広足が追補の筆を加えた《増補雅言集覧》(3冊、1887)が行われる。平安時代の文学作品を中心に、奈良時代の作品その他からも語種を集めて(いろは順)に配列したもの。解釈はほとんど施されていないが、引例が豊富で、いちいち出典を示している/増訂國書解題/大辞典	巻三(いろは順の「ほ」～「と」) 蔵書印「明倫堂蔵書印」「高鍋図書館蔵書」	H26-02
明倫・3398	蟹翁国字解		1					和紙袋綴写本 23.5×15.1		表紙に「大塚」の墨書あり。	H26-02
明倫・3399	高等小学読本字引	小島安太郎編輯 (東・井上誠四郎)	1			明治24刊	1891	和紙袋綴刊本 18.5×12.2		裏表紙に「明治廿五年九月 河辺ヨシ」の墨書あり。 裏表紙見返しに「明治廿五年八月二十九日求之河辺ヨシ女主」の墨書あり。	H29-05
明倫・3400	詩語園和解便覧		1					和紙袋綴写本 25.0×16.6		送返	H26-02
明倫・3401	初学須知字引五巻	清水世信編 (東・清水得一郎)	5			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 18.5×12.6	*「初学須知」は博物学(現在では理科となっている)の教科書、自然科学技術全般にわたる。西洋の本の翻訳で「牙氏」(ガリグー氏: Garrigues)の『Simples Lectures sur les Sciences, les Arts et l' Industrie.』の翻訳//宮城教育大学図書館	全(巻一～五、枝番の順) 3401-2 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」、3401-3巻末書入「高鍋中学校御蔵書」	H26-02
明倫・3402	続和漢名数	貝原益軒 (京・平安書林)	1			元禄10刊	1697	和紙袋綴刊本 22.8×15.7	続和漢名数とは貝原益軒著の語学書。3巻。元禄5年竹洞野館の序、同8年刊。先著「増補和漢名数」に漏れたものを拾集している。数詞語彙集で、中国の「小学紺珠」(群書拾遺)や仏教の法数物にならったもの。15項に分類し、各項に和漢の単語を配する。/國書解題/大辞典(平凡社)	巻下 3418～3422・3408を見よ 蔵書印「明倫堂蔵書印」巻頭「明倫堂」書入、裏表紙に書入れあり	H26-02
明倫・3404	増続大広益玉篇大全	毛利貞斎著 (敦賀屋九表絵)	3			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 25.1×17.6	『増続大広益会玉篇大全』は毛利貞斎著。中国の辞書「大広益会玉編」に著者が訓点を施したもの。著者は江戸初期に経書漢籍の平易な注釈書を多数出版した博学多識の偉大な学者で、その著書は民間に広く普及し大きな影響を与えた。//	送返 全三冊(首巻・一画～十七画・大尾 * 枝番1・3・2の順) 蔵書印「白眉堂印」	H26-02
明倫・3405	増続大広益玉篇大全	毛利貞斎著 (大・近江屋平助)	12			嘉永7刊	1854	和紙袋綴刊本 22.7×16.1	『増続大広益会玉篇大全』は毛利貞斎著。中国の辞書「大広益会玉編」に著者が訓点を施したもの。著者は江戸初期に経書漢籍の平易な注釈書を多数出版した博学多識の偉大な学者で、その著書は民間に広く普及し大きな影響を与えた。//	句送返 全12冊(首巻・一画～十七画まで枝番の順に並ぶ) 蔵書印「枳秋月蔵書印」表紙に丸印「黒木■五」 巻末書入れ 3405-06「荻小路秋月蔵書」3405-10(漢詩か?)	H26-02
明倫・3406	増続大広益玉篇大全	毛利貞斎編 (大・編銅市兵衛)	34			安永9刊	1780	和紙袋綴刊本	『増続大広益会玉篇大全』は毛利貞斎著。中国の辞書「大広益会玉編」に著者が訓点を施したもの。著者は江戸初期に経書漢籍の平易な注釈書を多数出版した博学多識の偉大な学者で、その著書は民間に広く普及し大きな影響を与えた。//	句送返 表装4種類・サイズも異なる 黄色の表紙 22.6×16.3(3406-4.8.9.12.14.18.20.24.25.28.32.34) 青の表紙 22.0×15.8(3406-1.2.3.10.11.13.16.22.23.26.29.31) 青で花の模様を表紙 23.2×16.4(3406-17.19.21.30.33) 茶色の表紙 22.7×16.3(3406-5.6.7.15.27) 「明倫堂蔵書記」「枳秋月蔵書印」「明倫堂蔵書印」 「第五大学区第廿六中学区第七番小学」の印あり。 「第五	H26-03
明倫・3407	(増補)以呂波韻大成三巻	近藤元粹著 (大・青木恒三郎)	1			明治31刊	1898	和紙袋綴刊本 13.1×9.1		「泥谷氏印」あり。	H26-03
明倫・3409	草露貫珠		23					和紙袋綴刊本 28.5×19.4	漢字の草体を示した字書。22巻、中村義竹著。寶永2年岡谷義端の跋を附して刊行。元禄9年水戸佐々宗淳の序有。真字総計6070字、草字49500字あり。索引法は通常漢字の体による。/増訂國書解題/	「明倫堂蔵書記」の印あり。 「明倫堂」「高鍋学校蔵書」「嶋田学校」等の墨書あり。	H26-03
明倫・3410	日本政記纂語字類三巻	多田直勝纂訳 (大・森本専助)	3			明治18刊	1885	和紙袋綴刊本 18.0×12.2		全三巻(上・中・下) 「高鍋学校印章」あり。	H26-03
明倫・3411	文語粹金	鈴木政軍輯 (江・英文蔵)	1					和紙袋綴刊本 18.2×12.2	(増補)文語粹金は4巻。鈴木政軍著。弘化4年出版。天保4年鐵研学人の序有。漢文語句を収集したもの。山崎久作(美成)(江戸後期の随筆作家、雑学者)の増補。/増訂國書解題/	巻三・四 蔵書印「枳武藤蔵書記」	H26-03
明倫・3413	明治文撰字引	斎木寛直編 (東・大橋新太郎)	1			明治28刊	1895	和紙袋綴刊本 11.5×7.5		蔵書印「田邨氏蔵書印」(巻末)	H26-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3414	名物六帖	伊藤東涯 (京・瀬尾源兵衛)	16					和紙袋綴刊本 22.9×16.3		送返 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H26-03
明倫・3416	藻塩草	宗碩	5					和紙袋綴刊本 28.2×20.5 丁数不明	20巻。宗碩著。寛文9年刊。歌言葉を天象・時節等20門に分類し、更にいろは順に配列して歌人連歌師等の便宜を図ったもの。//大辞典(平凡社)	26年電子化時3416-5を一部修復 1～表紙見返しに「学校御用」の墨書あり。	H26-03
明倫・3417	大和事始六卷附録一	貝原好古編輯 (京・大井七郎兵衛等)	7			元禄10刊	1697	和紙袋綴刊本 22.5×16.0	*「大和事始」は貝原益軒の指導で甥の好古が編したもの//	同著者の「中華事始」とあわせて「和漢事始」とも呼ばれる(明倫3541) 「上江高橋小学」「■■■■圖書」の印あり。	H26-03
明倫・3418	和漢名数大全	上田元周重編 (江・和泉屋吉兵衛)	2			天保13刊	1842	和紙袋綴刊本 11.3×7.5	和漢名数大全は語学書。1巻。上田元周著。元禄8年刊。数詞語彙集で、中国の「小学紺珠」「群書拾雅」や仏教の法数物にならったもの。15項に分類し、各項に和漢の単語を配する。(5刻され、宝暦2年・享和3年・天保13年・弘化4年に再刻)続編として貝原益軒の同続編ものもある。(3419・3420参照)/國書解題/大辞典(平凡社)	句送返 図解 2～「明倫堂蔵書印」あり。	H26-03
明倫・3419	和漢名数大全続篇	塩谷世弘編 (江・和泉屋吉兵衛)	3			弘化4刊	1847	和紙袋綴刊本 11.3×7.7	和漢名数大全続篇は語学書。1巻。貝原益軒著。弘化4年塩谷世弘の序あり。同年刊。数詞語彙集で、中国の「小学紺珠」「群書拾雅」や仏教の法数物にならったもの。15項に分類し、各項に和漢の単語を配する。*上田元周著「和漢名数大全」(元禄8年刊)に続き出版。/國書解題/大辞典(平凡社)	句送返 3～「小寺」の丸印あり。	H26-03
明倫・3420	和漢名数大全三篇	塩谷世弘編 (江・和泉屋吉兵衛)	3			嘉永2刊	1849	和紙袋綴刊本 11.1×7.7	和漢名数大全三篇は語学書。1巻。貝原益軒著。嘉永2年塩谷世弘の序あり。嘉永2年刊。数詞語彙集で、中国の「小学紺珠」「群書拾雅」や仏教の法数物にならったもの。15項に分類し、各項に和漢の単語を配する。*上田元周著「和漢名数大全」(元禄8年刊)に続き同著「和漢名数大全続篇」を刊。これは和漢名数大全続編に次いで出版されたもの。/國書解題/大辞典(平凡社)	句送返 「明倫堂蔵書印」あり。表紙見返しに「明倫堂蔵書」の墨書あり。	H26-03
明倫・3421	和漢名数二巻	貝原益軒編輯	2					和紙袋綴刊本 22.4×15.8	和漢名数とは貝原益軒著の語学書。1冊(又は2冊)。延宝8年(1678)刊。数詞語彙集で、中国の「小学紺珠」「群書拾雅」や仏教の法数物にならったもの。15項に分類し、各項に和漢の単語を配する。/日本古典文学大辞典/	「明倫堂蔵書印」あり。 1～「表紙見返しに「学校御用」の墨書あり。	H26-03
明倫・3422	和漢名数大全	(江・和泉屋吉兵衛等)	2			嘉永2刊	1849	和紙袋綴刊本 11.2×7.7	和漢名数大全三篇は語学書。1巻。貝原益軒著。嘉永2年塩谷世弘の序あり。嘉永2年刊。数詞語彙集で、中国の「小学紺珠」「群書拾雅」や仏教の法数物にならったもの。15項に分類し、各項に和漢の単語を配する。*上田元周著「和漢名数大全」(元禄8年刊)に続き同著「和漢名数大全続篇」を刊。これは和漢名数大全続編に次いで出版されたもの。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 「堤氏文庫」印あり。 2～表紙見返しに落書きあり。	H26-03
明倫・3423	和訓栞(前編)	谷川士清纂 (京・本屋權助等)	33			文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 24.2×17.5	江戸中期の国学者谷川士清編の国語辞書。86巻。前・中・後の3編より成る。本屋宣長序。本来は整板本として1777年(安永6)以降数次にわたり刊行され。最終は1887年(明治16年)に至る。古語、雅語のほか俗語、方言、外来語にも及んで所収語の範囲は広く、全体として均衡のとれた穏健な説明がある/國書解題/大辞典(平凡社)	1～44巻在 「明倫堂蔵書印」あり。	H26-03
明倫・3424	和訓栞(中編)	谷川士清纂 (京・本屋權助等)	29			文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 26.5×18.6	江戸中期の国学者谷川士清編の国語辞書。86巻。前・中・後の3編より成る。本屋宣長序。本来は整板本として1777年(安永6)以降数次にわたり刊行され。最終は1887年(明治16年)に至る。古語、雅語のほか俗語、方言、外来語にも及んで所収語の範囲は広く、全体として均衡のとれた穏健な説明がある/國書解題/大辞典(平凡社)	巻8欠 蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-03
明倫・3425	和訓栞	谷川士清纂 (涇津・篠田伊十郎)	1			文政13刊	1830	和紙袋綴刊本 24.2×17.6	江戸中期の国学者谷川士清編の国語辞書。86巻。前・中・後の3編より成る。本屋宣長序。本来は整板本として1777年(安永6)以降数次にわたり刊行され。最終は1887年(明治16年)に至る。古語、雅語のほか俗語、方言、外来語にも及んで所収語の範囲は広く、全体として均衡のとれた穏健な説明がある/國書解題/大辞典(平凡社)	蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-03
明倫・3426	和訓栞四五巻	谷川士清纂 (涇津・篠田伊十郎等)	11			文政13刊	1830	和紙袋綴刊本 25.2×17.7	江戸中期の国学者谷川士清編の国語辞書。86巻。前・中・後の3編より成る。本屋宣長序。本来は整板本として1777年(安永6)以降数次にわたり刊行され。最終は1887年(明治16年)に至る。古語、雅語のほか俗語、方言、外来語にも及んで所収語の範囲は広く、全体として均衡のとれた穏健な説明がある/國書解題/大辞典(平凡社)	*26年電子化解体中 3426-1、3に「秀…」と書かれたメモ紙有(坂田秀と関係?) 1・5・6・7～蔵書印「■■■之蔵」	H26-03
明倫・3427	和訓栞中編	谷川士清纂	1					和紙袋綴刊本 26.0×18.7	江戸中期の国学者谷川士清編の国語辞書。86巻。前・中・後の3編より成る。本屋宣長序。本来は整板本として1777年(安永6)以降数次にわたり刊行され。最終は1887年(明治16年)に至る。古語、雅語のほか俗語、方言、外来語にも及んで所収語の範囲は広く、全体として均衡のとれた穏健な説明がある/國書解題/大辞典(平凡社)	蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-03
明倫・3428	和爾雅		1					和紙袋綴刊本 22.5×16.0	江戸前期の辞書。8巻。貝原好古著。元禄元年成。同7年(1694)刊。中国の「爾雅」に倣って日本で用いられる漢語を意義によって24門に分類し、音訓を示し、漢文で注解を施したもの。ほかに雑類を附録とする。*爾雅とは中国の字書で十三経の一つ。/國書解題/大辞典(平凡社)	蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-03
明倫・3429	和爾雅八巻	貝原益軒編輯	2			元禄1刊	1688	和紙袋綴刊本 22.2×16.0	江戸前期の辞書。8巻。貝原好古著。元禄元年成。同7年(1694)刊。中国の「爾雅」に倣って日本で用いられる漢語を意義によって24門に分類し、音訓を示し、漢文で注解を施したもの。ほかに雑類を附録とする。*爾雅とは中国の字書で十三経の一つ。/國書解題/大辞典(平凡社)	句送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H26-03
明倫・3430	和爾雅		4					和紙袋綴刊本 22.2×16.0	江戸前期の辞書。8巻。貝原好古著。元禄元年成。同7年(1694)刊。中国の「爾雅」に倣って日本で用いられる漢語を意義によって24門に分類し、音訓を示し、漢文で注解を施したもの。ほかに雑類を附録とする。*爾雅とは中国の字書で十三経の一つ。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H26-03
明倫・3431	和爾雅		1					和紙袋綴刊本 22.3×16.0	江戸前期の辞書。8巻。貝原好古著。元禄元年成。同7年(1694)刊。中国の「爾雅」に倣って日本で用いられる漢語を意義によって24門に分類し、音訓を示し、漢文で注解を施したもの。ほかに雑類を附録とする。*爾雅とは中国の字書で十三経の一つ。/國書解題/大辞典(平凡社)	送返	H26-03

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3432	和爾雅	貝原益軒	1			元禄1刊	1688	和紙袋綴刊本 22.2×16.0	江戸前期の辞書。8巻。貝原好古著。元禄元年成、同7年(1694)刊。中国の「爾雅」に倣って日本で用いられる漢語を意義によって24門に分類し、音訓を示し、漢文で注解を施したもの。ほかに雑類を附録とする。＊爾雅とは中国の字書で十三経の一つ。/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 「明倫堂■■■」の印あり。	H26-03
明倫・3433	和爾雅		1					和紙袋綴刊本 22.2×16.0	江戸前期の辞書。8巻。貝原好古著。元禄元年成、同7年(1694)刊。中国の「爾雅」に倣って日本で用いられる漢語を意義によって24門に分類し、音訓を示し、漢文で注解を施したもの。ほかに雑類を附録とする。＊爾雅とは中国の字書で十三経の一つ。/国書解題/大辞典(平凡社)		H26-03
明倫・3434	倭抄類聚鈔二〇巻	源順著（京・升屋勘兵衛）	5			丞平年間 元和3	931～ 938 1617	和紙袋綴刊本 51・45・41・39・54丁 26.5×19.5	漢語の出典、字音、和名などを説明した一種の百科事典。承平年間(931-938)の編集かとされる。「和名抄」ともいう。醍醐天皇の皇女勅子内親王のために源順が撰上げた意義分類体の漢和辞書。狭進した書で内外の諸書から記事を引用し3千余の項目と万葉仮名による和名約3千、ならびに選者の説を付記 10巻本と20巻本(国史)/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 源順(みなもと)のしたごう) 明倫堂蔵書印朱印 高鍋図書館蔵書印朱印	R5-03
明倫・3435	語彙別記	(東・水村松五郎)	1			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 18.4×12.1		「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H26-03
明倫・3436	古状摘証註	高井蘭山翁講釈（東・玉殿堂）	1					刊本 25.7×17.7	*『古状摘』(こじょうそろえ)とは いわゆる「今川状」「弁慶状」「義経腰越状」などの書翰文体を集めた範文集で、手習いの手本であると同時に、歴史的な知識の修得をも得られるように配慮したもの。//	別児読古状摘証註 往来物	H30-05
明倫・3437	詞捷徑三巻	源重胤著 源春夫校(大・鹿田清七等)	2					和紙袋綴刊本 25.5×17.9	「語学捷徑」(内題:詞捷徑)は3巻、鈴木重胤著。日本語の性質用法等を順序説明した文典書。野之口隆正、佐々木春夫の序有。/増訂国書解題/	別語学捷徑 「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-03
明倫・3438	実語教証註	振鷺亭貞居著（東・和泉屋金右衛門等）	1					和紙袋綴刊本 25.8×17.9	*実語教とは鎌倉初期から明治初期まで広く用いられた教訓書。選者は、弘法大師、護命僧正等の説があるが不明。平安末期ごろの選作と推定される。仏教思想を主とし、仏教および儒教の教典から文を選び、漢詩流の五言96句に構成したもので、児童の暗誦に適した文体。(山高故不貴 以有樹為貴 人肥故不貴以有智為貴)ではじまり、智を財物に対する不朽の宝とし、智を獲得するために幼時から書を読み学に勤めることを説く。この智および学は、今日いうところの知識・学問とは異なり、儒仏それぞれに存する人間倫理の学である。//		H26-03
明倫・3440	(語彙)活語指掌	(東・水村松五郎)	1			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 18.4×12.1		「日向高鍋城氏図籍」の印あり	H26-03
明倫・3441	語学捷徑	鈴木重胤撰(大・鹿田松雲堂)	1					和紙袋綴刊本 25.5×17.9	「語学捷徑」(内題:詞捷徑)は3巻、鈴木重胤著。日本語の性質用法等を順序説明した文典書。野之口隆正、佐々木春夫の序有。/増訂国書解題/	「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-03
明倫・3443	詞八衢二巻(上下・)	本居春庭著（東・岡島真七）	2			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 18.2×12.4	本居春庭著。2冊。文化3年成立。文化5年刊。著者は本居宣長の長男。本書は宣長の古語動詞活用研究の集大成。活用形と活用図の形態で簡明に記している。また、それぞれの活用型に属する動詞も列挙している。その後の活用研究のに多くの影響を与えた。//本居宣長事典	1295を見よ	H26-03
明倫・3444	詞八衢	本居春庭著	1					和紙袋綴刊本 25.0×17.6	本居春庭著。2冊。文化3年成立。文化5年刊。著者は本居宣長の長男。本書は宣長の古語動詞活用研究の集大成。活用形と活用図の形態で簡明に記している。また、それぞれの活用型に属する動詞も列挙している。その後の活用研究のに多くの影響を与えた。//本居宣長事典	蔵書印「上江小学高鍋」	H26-03
明倫・3445	小学日本文典	田中義康著	1			明治8写	1875	和紙袋綴写本 22.2×15.0		3379～3381を見よ 裏表紙見返しに「右三之巻 明治八年五月中旬末方十日ヨリ始め同十六日ニ至リテ成ル 鈴木馬左也印(丸印)」の墨書あり。	H26-03
明倫・3446	(新刊校正)用字格四巻	伊藤長胤輯(大・河内屋茂兵衛等)	4			享保19刊	1734	和紙袋綴刊本 22.5×15.5		送返 巻之1 「秋月家蔵書印」「高鍋藩蔵書印」あり。	H26-03
明倫・3447	正統文章軌範集語字類	池田四郎次郎編輯	1					和紙袋綴刊本 17.7×12.2			H26-03
明倫・3450	(新刊校正)用字格	伊藤長胤(京・平安文泉堂)	4			享保19刊	1734	和紙袋綴刊本 22.6×16.0		送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H26-03
明倫・3451	簡牘記事論説文例	森孫一纂述	1					和紙袋綴刊本 17.5×12.0			H26-03
明倫・3452	記事論説文例	大槻牧庵著 中島省齋問(東・中村熊次郎)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 12.3×8.4		「塙」の丸印あり。	H26-03
明倫・3453	啓蒙手習之文	福沢諭吉編 内田晋斎書(東・慶応塾)	1			明治4刊	1871	和紙袋綴刊本 21.9×15.0	小学校の教科書として用いられた啓蒙書。福沢諭吉著。明治4年刊。2冊。//滋賀教育大学図書館	「上江高鍋小学」の印あり。	H26-03
明倫・3454	皇典文集	平田篤胤	1					和紙袋綴刊本 26.6×18.1	江戸時代の国学者、平田篤胤著。皇典の漢文序表を集めて校正訓点したもの。/国書解題/	句送返 「財津蔵書」の印あり。	H26-03
明倫・3455	皇帝文集三巻	平田篤胤校輯 男鉄胤書（永井等）	3			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 26.7×18.6	江戸時代の国学者、平田篤胤著。皇典の漢文序表を集めて校正訓点したもの。/国書解題/	句送返	H26-03
明倫・3456	作文軌範	福井淳著(大・福井淳)	1			明治21刊	1888	袋綴刊本(和紙ではない) 17.7×12.2			H26-03
明倫・3457	小学作文自在	西野古海編集(東・吉田直次郎)	1			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 18.9×13.1			H26-03
明倫・3458	作文方法	林多一郎 中島操編（椋木・菅谷基平）	2			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.8×15.2		「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。1～裏表紙に「高鍋学校」の墨書あり。2～表紙見返しに「高鍋中学校書物」の朱書あり。巻頭に「明治十九移九月五日 高鍋中学校用書物」の墨書あり。	H26-03
明倫・3459	詞韻碎金幼学便覧全	(盛松館)	1			天保13刊	1842	和紙袋綴刊本 11.2×15.4		「田邨氏蔵書印」あり。	H26-03
明倫・3461	詩工推鑿一四巻	岡崎鹿門問 男元軌伯則著(大・河内屋茂兵衛等)	3			天保13刊	1842	和紙袋綴刊本 14.4×10.8		送返 3～表紙見返しに「高鍋水筑」の墨書あり。	H26-03
明倫・3465	十二月帖上	内田晋斎著並書（玉養堂等）	2			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.8×15.4		「堤氏文庫」の印あり。	H26-03
明倫・3466	十二月用文(新撰)		1					和紙袋綴刊本 22.4×15.0			H26-03
明倫・3467	十二月用文(新撰)		1					和紙袋綴刊本 22.5×15.0		「第五大学区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H26-03
明倫・3469	書翰初学鈔(新撰)	(茨木多左衛門)	2			元禄3刊	1690	刊本 26.8×18.8	「明倫堂蔵書印」あり。2～表紙見返し「明倫堂蔵書」墨書あり。/上江小学高鍋」印あり。裏表紙見返し「学校御用」墨書あり。		H30-05
明倫・3470	書牘	(東・和泉屋市兵衛)	2			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.4×15.0		「第五大学区嶋田学校第廿六中学区」「第五大学区第廿六中学区第七番小学」の印あり。	H26-03
明倫・3471	新撰作文活法六巻	近藤南洲著(大・青木崇山堂)	5			明治27刊	1894	刊本 20.9×13.9			H30-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3472	新定詩語碎金	東条耕子蔵原橋 佐藤養君正 穂積克直 言士同編 (江・山崎屋清七)	1			弘化5刊	1848	刊本 22.1×14.6	『詩語碎金』詩を作るための参考書、漢詩に用いられる文字を集めた四季で分けたもの。漢詩用の言葉には片仮名で読みを附す。(※安永五年、延岡藩主内藤政勝の序を有し、序などによれば政勝が奥要士徳らに編纂させたものである。)(『日向ものしり帳』(石川恒太郎著)より)		H30-05
明倫・3473	尺牘叢材三卷	戸崎淡園 (江・須原屋伊八)	1			文化5刊	1808	刊本 18.7×12.7		句送返 裏表紙見返し「財津蔵書」朱印あり。「弘化三丙午夏於東郡求之」の朱書・墨書あり。裏表紙「葡萄庵蔵」の墨書あり。	H30-05
明倫・3474	尺牘叢材三卷	戸崎淡園	1					刊本 18.8×12.7		句送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H30-05
明倫・3477	(増評)続文章軌範七卷	大竹政正纂評	2					和紙袋綴刊本 18.7×12.4		句送返「日向高鍋城氏図籍」、「高鍋城氏」(丸印)の印あり。	H26-03
明倫・3478	(増評)続文章軌範七卷	大竹政正纂評	2					刊本		句送返 「日向高鍋城氏図籍」、「高鍋城氏」(丸印)の印あり。	H26-03
明倫・3479	続文章軌範(纂説)		1					写本		白 「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H26-03
明倫・3480	続文章軌範講解		1					写本		「田邨氏蔵書印」あり。	H26-03
明倫・3481	(点評)続文章軌範	宮脇南溪輯補	1					和紙袋綴刊本 18.3×12.7		句送返 「裏表紙見返しに「横佚 財津氏図書」「明治十三歳八月廿日 財津氏蔵書」の墨書あり。	H26-03
明倫・3483	日本文章軌範七卷	石川鴻斎批選 沈文英・横道憲合評	2					和紙袋綴刊本 22.4×15.1		句返 2～裏表紙に「幼年科生 秋月種英蔵」の墨書あり。	H26-03
明倫・3484	文機活法	関口宇之輔著 (東・大角豊次郎)	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 18.1×12.3		「橋河辺蔵書記」の印あり。	H26-03
明倫・3486	蒙学読本全書四編		1					和紙袋綴刊本 20.9×13.7		句 「若山氏図書」の印あり。	H26-03
明倫・3488	絵入知恵の環八巻	古川正雄著 (大・岡田屋嘉七)	13			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 22.4×15.1	古川正雄著の国語教材。明治3年刊。文部省小学校則によると下等小学第8級(1学年前期)用の綴り字の教科書のひとつとしてあげられている。国語入門教科書として挿絵を豊富に用いている。初編一巻は、仮名と漢字を教える国語の初歩教科書となっている。例えば、四角形の枠の中に犬の絵を示して、右肩に「いぬ」、左肩に「犬」と仮名と漢字で示す。そして、「いぬ、ろ、はち、にはとり、ほたる」というように、「いろは」順に配列している。その次に、仮名と漢字をもって単語を示し、次にこれを組み合わせた短文を掲げている。/日本教科書大系/滋賀		H26-03
明倫・3489	高等小学読本	文部省編輯局編輯 (東・文部省)	4			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 22.7×15.4	文部省刊の国語の教科書。尋常小学校本(明倫3499)に次いで使用される教科書として刊行。当時高等小学校で使用する国語読本の標準となるものとして出版された。内容としては、修身・地理・歴史・理科及び農工商にわたる。格言は明治20年で、そのころの完成か。/日本教科書大系/	1～巻末に「高二 堤シマ」の墨書あり。2～表紙見開きに「河辺よし主」の墨書あり。裏表紙見返しに「十三歳 河辺ヨシ所有」の墨書あり。3～巻末に「横佚 河辺 よし女」の記述あり。4～裏表紙見返しに「十一歳 河辺ヨシ」の墨書あり。	H29-05
明倫・3493	国語読本(女子)	岡田正美著 (東・金港堂書籍)	3			明治35刊	1902	和紙袋綴刊本 22.6×14.9	*「国語読本」は国語の教科書/国史大辞典	2～巻末に「本科第四学年 河辺つ子」の墨書あり。	H26-03
明倫・3494	国語読本六巻	横地清次郎等著 (東・金港堂書籍)	1			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 22.4×15.1	金港堂が刊行した国語教科書/尋常国語読本」と「高等国語読本」がある。明治30年代の国語教科書を代表している。/日本教科書大系/国史大辞典	蔵書印「高鍋学校印章」 表紙に「明治三十四年十一月四日金港堂寄贈」の墨書あり。	H26-03
明倫・3497	小学読本六巻	田中義康編輯 那珂道高校正 (東・文会舎)	6			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.1×14.8	文部省刊行の児童用の読み物教材(国語)。6巻。内容の多くは外国の文章を翻訳したものからなる。明治7年刊の4巻本(明倫3496参照)に田中義康が5・6巻を加えて明治8年民間より出版したものの、5・6巻の内容は巻4に続き理科的教材。/日本教科書大系/		H26-03
明倫・3498	小学読本	文部省編纂 (宮崎県)	13			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本 22.2×15.0	* 文部省刊行の児童用の読み物教材(国語)。同名の教科書が数冊あるため、田中本(翻訳の読み本)/御原本(単語の説明や、和漢の物語などのどちらであるかを要確認/日本教科書大系/	4～「第五学区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。5・6・7・8・9・10・11・12・13～「第五学区第廿六中学区第七番小学」の印あり。	H26-03
明倫・3499	尋常小学読本	文部省編輯局編輯 (東・文部省)	7			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 22.3×15.0	文部省刊の国語の教科書。尋常小学校1年の後半～4学年終わりまで使用されるものとされた。7冊と「入門」あわせて8冊となり、各学年に2冊ずつあたる様子が作られた。体系的に国語の授業が進められるように文字、語彙、文法、内容の各方面から工夫を重ねて編集されている。/日本教科書大系/	1～裏表紙見開きに「筏 河辺ヨシ」の墨書あり。3・4・5・6・7～裏表紙見返しに「河辺ヨシ」の墨書あり。	H29-05
明倫・3500	尺牘箋	木煥智子煥纂 富永行子倣校	1					和紙袋綴写本 15.8×15.2		「大塚」の印あり。	H26-03
明倫・3501	中学読本五巻(国文)	逸見伸三郎編纂 (東・吉川半七)	4			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 23.2×15.7	* 国語の教科書* 逸見伸三郎編「国文中学読本」(明治25年/1892)は尋常中学校国語教科書//	「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H26-04
明倫・3502	中学読本(国文)	逸見伸三郎編纂 (東・吉川半七)	2			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 23.2×15.6	* 国語の教科書* 逸見伸三郎編「国文中学読本」(明治25年/1892)は尋常中学校国語教科書//	「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H26-04
明倫・3503	中学読本(国文)一〇巻	逸見伸三郎編纂 (東・吉川半七)	2			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 23.0×15.3	* 国語の教科書* 逸見伸三郎編「国文中学読本」(明治25年/1892)は尋常中学校国語教科書//	蔵書印「高鍋学校印章」	H26-04
明倫・3504	中学読本	逸見伸三郎編纂 (東・吉川半七)	1			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 23.3×15.5	* 国語の教科書* 逸見伸三郎編「国文中学読本」(明治25年/1892)は尋常中学校国語教科書//	「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H26-04
明倫・3505	中学漢文教科書	国語漢文研究会編 (東・三樹一平)	1			明治36刊	1903	和紙袋綴刊本 22.4×15.0	* 国語の教科書//		H26-04
明倫・3506	中学漢文読本	秋山四郎編著 (東・金港堂書籍)	3			明治29刊	1896	和紙袋綴刊本 22.7×15.1	*「中学漢文読本」(金港堂)は漢文の教科書(横須賀市教育研究所、資料用教科書目録より)//資料用教科書目録	「泥谷直芳」の印あり。3～巻末に「宮崎中学校 五年級 柿原」の墨書あり。	H26-04
明倫・3512	中等国文読本	西田敬止編纂 (東・集英堂)	4			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 22.7×15.1	* 国語の教科書//	蔵書印「高鍋学校印章」(3512-1・2・4のみ) 1・2・4～表紙に「明治三十五年二月城氏寄贈」の墨書あり。	H26-04
明倫・3513	中等国文読本一〇巻	西田敬止編纂 (東・小林清一郎)	3			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 22.5×15.0	* 国語の教科書//	蔵書印「高鍋学校印章」 表紙に「明治三十五年二月城氏寄贈」の墨書あり。	H26-04
明倫・3516	読書入門	文部省編纂局編輯 (東・文部省)	1					刊本	明治19年文部省編輯局発行。明治の模範的国語初級教科書で、小学校入門の最初の半年間に読み書きを学ぶための入門書で、「よみかきにゆうもん」と読む。湯本武比古を中心として編集され、ドイツの国語学習の入門書が参考にされ、それに日本の生活や文化を取り入れたもの。/日本教科書大系/	裏表紙見返し「明治二十一年十月求 河邊ヨシ」の墨書あり。	H30-05
明倫・3517	和漢朗詠集註		2			寛文10刊	1670	和紙袋綴刊本 25.9×18.5	和漢朗詠集の注釈書。10巻10冊。寛文10年序・有同11年刊 西生永濟・北村希吟著。京都菱屋治兵衛刊。詩文は永濟、和歌は希吟の集/日本古典文学大辞典/国書解題		H26-04
明倫・3518	亜細亜言語集二巻	広部精編輯 (東・青山清吉)	2			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 22.5×15.3		句 「堤氏文庫」の印あり。	H26-04
明倫・3519	漢文教科書	秋山四郎編 (東・金港堂書籍)	1			明治43刊	1910	和紙袋綴刊本 22.8×15.1		句返 蔵書印「高鍋学校印章」 表紙に「明治三十四年十二月「金港堂寄贈」の墨書あり。	H26-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3521	中等漢文教科書	国語漢文研究会編（東・三樹一平）	1			明治36刊	1903	和紙袋綴刊本 22.2×14.7		蔵書印「田邨氏蔵書印」	H26-04
明倫・3522	語録訳義二巻	留守友信編（永田追時写）	2			天明3写	1783	和紙袋綴写本 23.6×16.6		3530を見よ 蔵書印「城氏」「日向高鍋城氏図籍」 表表紙見返しに「城里蔵蔵書」の墨書あり。	H26-04
明倫・3525	（増補）伊呂波韻集成	星野隆吉編輯（東・若林喜兵衛）	1			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 16.1×6.0		蔵書印「田邨氏蔵書印」	H26-04
明倫・3526	詞韻	王又華静斎補切 男嗣増田叔訂註	1					和紙袋綴刊本 22.5×13.7			H26-04
明倫・3528	文語解五巻	（京・吉野屋仁兵衛）	3					和紙袋綴刊本 22.4×15.5		蔵書印「秋月家蔵書印」「小田郁印」	H26-04
明倫・3529	虚字解	百川淇園訳（京・〇〇屋孫兵衛）	1			天明3刊	1783	和紙袋綴刊本 18.1×12.3		蔵書印「■■蔵書」	H26-04
明倫・3530	語録訳義全	留守希斎	1					和紙袋綴写本 24.2×15.8		3522を見よ 「橋河辺文庫印」あり。 表表紙見返しに「河辺氏家蔵」の墨書あり。	H26-04
明倫・3532	四声字林集韻	鎌田環斎（大・河内屋喜兵衛等）	1			文化12再版	1815	和紙袋綴刊本 15.9×10.6		「日向高鍋城氏図籍」の印あり。表紙に「城氏」の墨書あり。	H26-04
明倫・3536	増続大広益会玉編たいぜん	毛利貞斎著（大・米田清右衛門等）	12			天保5刊	1834	和紙袋綴刊本 22.8×16.1	『増続大広益会玉編大全』は毛利貞斎著。中国の辞書「大広益会玉編」に著者が訓点を施したもの。著者は江戸初期に経書漢籍の平易な注釈書を多数出版した博学多識の偉大な学者でその著書は民間に広く普及し大きな影響を与えた。//大辞典（平凡社）	送返 蔵書印「田邨氏蔵書印」	H26-04
明倫・3538	増続大広益会玉編大全		1					和紙袋綴刊本 22.4×16.4	『増続大広益会玉編大全』は毛利貞斎著。中国の辞書「大広益会玉編」に著者が訓点を施したもの。著者は江戸初期に経書漢籍の平易な注釈書を多数出版した博学多識の偉大な学者でその著書は民間に広く普及し大きな影響を与えた。//大辞典（平凡社）	送返	H26-04
明倫・3539	俗語訳義	留守希斎著（永田追時写）	1			天明3写	1783	写本	「俗語訳義」では？俗語訳義は写本2巻。留守友信著。漢語の熟字連用ものを抄出して各字の下に仮名書きに俗訳を記したのも。各語は字面によって排纂され、1面～29面にいたる。延享元年漢文あり。/国書解題/	3523を見よ 「城氏」印あり。	H30-05
明倫・3540	（新刻）助語辞	盧以緯著 胡文煥校（梅村弥右衛門）	1			天和3刊	1683	和紙袋綴刊本 26.6×18.7	1巻。明の盧以緯撰。助辞100余りを集め、その意義・用法を説明したもの。//大辞典（平凡社）/漢籍解題	送返 本文32丁と裏表紙の間に小冊子1冊添付「文家必要抄」(写本)「大塚」の印あり	H26-04
明倫・3541	中華事始六巻	貝原好古編録（京・大井七郎兵衛等）	6			元禄10刊	1697	和紙袋綴刊本 22.5×16.0		題箋「漢事始」 同著者の「大和事始」と併せて「和漢事始」とよばれる（明倫3417） 蔵書印「上江小学高鍋」	H26-04
明倫・3542	唐話集要		1					和紙袋綴刊本 22.2×16.0	江戸中期の中国語学習書。岡島冠山著。六巻。享保元年刊。同3年増補本。1716年頃成る。中国語の語句・会話文の発音と意味を記す。江戸時代、江蘇、浙江を中心とした地域の中国語を唐話（唐音）と呼んだ。巻1～3前半までは2～6字の語句に江南語を傍注し、和訳を下にくわえる。巻3後半は常言（通常の格言）、巻4は会話の発音と訳、巻5は類書のような内容分類の語彙、巻6は後に刊され、和漢奇談などを添え享保3年刊。//長澤規矩也著作集		H26-04
明倫・3543	唐話使用六巻	岡嶋環編輯（植村藤 郎）	2			享保20刊	1735	和紙袋綴刊本 22.4×15.4	岡島冠山撰。享保20年刊。6巻。中国語の学習書（辞書？）語句に四声點及び返點を施し、江南音を傍注、訳語を附す。1～3巻は2字～7字の単語を、4～6巻は会話文などを。＊題箋・版心・序文・首及び巻3頭の書名は「唐語使用」//長澤規矩也著作集		H26-04
明倫・3545	助語審象	三宅楠園（名・永楽屋東四郎等）	3			文化14刊	1817	和紙袋綴刊本 18.1×12.4		送返 蔵書印「岡本氏文庫」	H26-04
明倫・3546	漢文軌範	下森来治等編纂（東・松栄堂書店）	3			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 22.8×15.5		句送返 蔵書印「日向高鍋城氏図籍」	H26-04
明倫・3549	中学漢文読本	秋山四郎編（東・金港堂書籍）	4			明治29刊	1896	和紙袋綴刊本 22.7×15.0	＊「中学漢文読本」(金港堂)は漢文の教科書（横須賀市教育研究所、資料用教科書目録より）//資料用教科書目録	句送返 「泥谷直芳」の印あり。 2～巻末に「宮崎県尋常中学校 柿原有」の墨書あり。 3～巻末に「宮崎県尋常中学校 柿原健一」の墨書あり。	H26-04
明倫・3550	中学漢文読本	秋山四郎編（東・金港堂書籍）	9			明治29刊	1896	和紙袋綴刊本 22.7×15.0	＊「中学漢文読本」(金港堂)は漢文の教科書（横須賀市教育研究所、資料用教科書目録より）//資料用教科書目録	句 「高鍋学校印章」の印あり。 1・2～巻頭に「明治三十一年三月八日買入」の朱書あり。 8～巻末に「宮崎県中学校 柿原健一」の墨書あり。	H26-04
明倫・3551	文語解	明霞先生著 大典権師補（京・金伍堂）	2					和紙袋綴刊本 22.4×15.4		蔵書印「秋月家蔵書印」「小田郁印」あり。	H26-04
明倫・3552	訳家必備		1					和紙袋綴写本 24.4×16.8		送返 蔵書印「大塚」	H26-04
明倫・3554	英語教科書		4					和紙袋綴刊本 17.5×12.1	英文（タイトルル不明・4冊とも同じ書誌） 蔵書印「高鍋藩」(3554-1・2)「明倫堂蔵書印」(3・4)「第五学区/高鍋学校/第廿六中学区」(2・3・4)		H26-04
明倫・3555	英文典	慶應義塾（東・尚古堂）	1			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 18.2×12.5		「明倫堂蔵書印」「第五学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H26-04
明倫・3558	仏語明要	村上英俊著（東・須原屋伊八等）	2			元治1刊	1864	和紙袋綴刊本 25.7×18.0 丁数不明		蔵書印「高鍋藩」 2～「明倫堂蔵書印」あり。 平成26年電子化時3558-2のみ一部修復	H26-04
明倫・3561	蘭語和解辞典（Sの部）		1					和紙袋綴刊本 26.5×18.0			H26-04
明倫・3563	遠江歌考		1					刊本		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3564	北総詩史	村岡良弼著（東・青山清吉）	2			明治23刊	1890	和紙袋綴刊本 23.2×15.5	1冊。漢詩文。清宮秀堅著。「緯総余事」といふ。弘化4年自序。明治10年刊。北総の景勝・古蹟の地を七言絶句104首に詠し各詩の後に簡単な来由などを漢文で注記したもの。すなわち、詠詩の連作による大総国の地誌であるといえる。/日本古典文学大辞典/	句返	H26-04
明倫・3566	如蘭社話	柳岡良弼編（東・池辺義象）	13			明治43～大正1刊	1910～1912	和紙袋綴刊本 23.0×15.4			H26-04
明倫・3567	如蘭社話二〇巻	柳岡良弼編輯（東・如蘭社事務所）	19			大正2～5刊	1913～1916	和紙袋綴刊本 22.9×15.3			H26-04
明倫・3569	常磐津		2					和紙袋綴刊本 21.4×14.5	常磐津節(常盤津)は浄瑠璃の流派の一つ。延享4年(1747)常磐津文字太夫が創始。江戸で歌舞伎舞踊の伴奏音楽として発展した。時代物にすぐれ、曲風は義太夫節に近い。//大辭典（平凡社）		H26-04
明倫・3570	青山文鈔全	塩谷時敬著（東・日本大学）	1			明治38刊	1905	和紙袋綴刊本 22.3×14.6		「吉田蔵書」の印あり。	H26-04
明倫・3571	曠野集員外	荷 編	1					写本			H30-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3573	今川了俊対愚息	(大・阿波屋文蔵)	1					和紙袋綴刊本 20.8×14.8	*「今川了俊対二愚息仲秋一制詞条案」(一般に「今川状」という)は家訓。一卷。今川了俊が自らの妻子である弟の仲秋に対して遺(のこ)した訓戒書。1830年、「今川帖」として刊行されて以来広く普及し、近世の児童教育に多大の影響を与えた。今川壁書。//(コハントウ)	内題「今川了俊対二愚息仲秋一制詞條々」「柿原蔵書」の印あり。	H26-04
明倫・3575	小久羅帖	小野〇之助著(東・文永館)	1			大正2刊	1913	和紙袋綴刊本 23.0×15.6			H26-04
明倫・3576	歌集	(大塚氏)	1					和紙袋綴写本 23.0×16.0		表紙に「外嶋田 大塚氏」の墨書あり。	H26-04
明倫・3577	歌道秘蔵録	(高鍋・鈴木照房享)	1			宝暦7写	1757	写本		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3581	鴨河四郎集二巻	(若山・阪本屋喜一郎等)	2					刊本		「日向高鍋城氏図籍」印あり。	H30-05
明倫・3583	狂歌山水奇鑑		1					刊本		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3588	金塊和歌集三巻	源実朝(小村四郎兵衛板)	1			貞享4刊	1687	和紙袋綴刊本 22.0×15.4	源実朝の歌集。3巻。宝暦5年賀茂真淵の序あり。/國書解題/	巻之上・中・下の三巻。蔵書印「明倫堂蔵書印」(各巻頭に押印、計3ヶ所)	H26-04
明倫・3590	侯鯖詩話	日柳政翫編輯(大・本曲浪華文会)	5			明治19刊	1886	和紙袋綴刊本 19.5×12.5	*「侯鯖録」は宋の趙令時(1051-1134年)が編集した書。全八巻。唐宋時代を中心に詩・詞・文章等を集めたもの。/(平凡社大辞典)		H26-04
明倫・3591	黄石齋第六集	岡本迪吉甫(晩晴閣)	1			明治22刊	1889	和紙袋綴刊本 25.8×14.7		句	H26-04
明倫・3595	古今鑑歌集		1					和紙袋綴刊本 22.3×15.5			H26-04
明倫・3596	古今和歌集	紀友則等撰(源尊正書)	1			万延1写	1860	和紙袋綴刊本 24.0×16.0	最初の勅撰和歌集。略称は古今集。20巻。醍醐天皇の詔により紀貫之・紀友則・凡河内躬恒・壬生忠等らが編集。延喜5年。万葉集以後の約1111首をおさめる。流布本では巻首に仮名序。巻尾に真名(まな)序を付している。//大辭典(平凡社)		H26-04
明倫・3597	古今和歌集二〇巻	紀貫之等撰(大・松村九兵衛等)	19			寛政1刊	1789	和紙袋綴刊本 26.3×18.5	最初の勅撰和歌集。略称は古今集。20巻。醍醐天皇の詔により紀貫之・紀友則・凡河内躬恒・壬生忠等らが編集。延喜5年。万葉集以後の約1111首をおさめる。流布本では巻首に仮名序。巻尾に真名(まな)序を付している。//大辭典(平凡社)	題籤より「古今和歌集打聴」(寛政元年出版の古今集の注釈書)本来は全20冊(序と巻二)明倫3597では巻之7・8にあたる一冊が欠(明倫3600が7・8巻なので要参照)蔵書印「橋河辺文庫印」	H26-04
明倫・3600	古今和歌集(打聴)		1					和紙袋綴刊本 26.6×18.4	最初の勅撰和歌集。略称は古今集。20巻。醍醐天皇の詔により紀貫之・紀友則・凡河内躬恒・壬生忠等らが編集。延喜5年。万葉集以後の約1111首をおさめる。流布本では巻首に仮名序。巻尾に真名(まな)序を付している。//大辭典(平凡社)	「橋河辺文庫印」あり。裏表紙見返しに「後 河邊氏所有」の墨書あり。	H26-04
明倫・3601	古今和歌集正義	香川景樹著(大・積善館)	2					和紙袋綴刊本 22.2×15.2	古今集の注釈書。23巻。香川景樹著。天保3年(1832)成立。同6年から刊行、明治28年(1895)に全部刊。/日本古典文学大辞典/		H26-04
明倫・3603	詩韻通覧三巻		2					和紙袋綴刊本 15.5×11.0			H26-04
明倫・3604	詩歌雑輯	〇稲崎道秀編輯(東・千葉万紅社)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 17.5×11.3		句返「若山」の印あり。	H26-04
明倫・3605	詩学小成	千葉玄之子玄(江・須原屋茂兵衛)	1			明和6刊	1769	刊本		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3606	修学院八景		1					写本		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3607	袖中草分衣(一帖)	(京・教来寺弥兵衛等)	1			文化13刊	1816	和紙袋綴刊本 17.3×7.5			H26-04
明倫・3608	春季混題句合		1					和紙袋綴写本 25.0×17.0			H26-04
明倫・3609	殉難後草	青雲閣編(青雲閣)	1			慶応4刊	1860	和紙袋綴刊本 19.2×13.1		「堤氏文庫」の印あり。	H26-04
明倫・3610	精纂詩学新選	橋本小六編輯(大・梅原亀七)	1			明治24刊	1891	和紙袋綴刊本 18.1×12.5			H26-04
明倫・3611	小楠公梓弓詠	(如意輪寺蔵梓)	1			文久3刊	1863	和紙袋綴刊本 24.2×17.5			H26-04
明倫・3615	新古今和歌集二巻	(佐々木惣四郎等)	1			文化1刊	1804	和紙袋綴刊本 15.2×11.0	鎌倉初期、後鳥羽院が編集させた勅撰和歌集。20巻。略して「新古今集」ともいう。巻頭に仮名序。巻尾に真名序を付し、春、夏、秋、冬、賀、哀傷、離別、蒨旅、恋、雑、神祇、釈教に分類され、すべて短歌形式の歌で長歌、旋頭歌などの雑体は含まない。流布本で1979首を収める。八代集の最後位置し、(万葉集)《古今和歌集》と並ぶ古典和歌様式の一典型を表現した歌集と評価されている。撰者は源通具、藤原有家、藤原家隆、藤原定家、藤原雅経。//		H26-04
明倫・3616	新題林和歌集		1					刊本	16巻。編者、成年未詳。後水尾天皇・後西天皇以下数十人の近体の和歌を編集したもの。//大辭典(平凡社)		H30-05
明倫・3619	清少納言枕草子装束撮要抄	北村季吟註(東・青雲閣)	1			寛政1写	1789	和紙袋綴写本 27.0×19.2		3847を見よ「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-04
明倫・3620	誠拙禅師歌集	福泉東洋編集	1			大正2刊	1913	和紙袋綴刊本 25.7×16.2		「堤氏文庫」の印あり。	H26-04
明倫・3621	成本花月集附録	蕩々斎校(竹清)	1					和紙袋綴写本 26.0×18.4			H26-04
明倫・3622	千紅万紫	(江・角力屋徳三郎等)	1			文化14刊	1817	和紙袋綴刊本 18.3×12.2		巻頭に「如松庵蔵」の墨書あり。	H26-04
明倫・3625	草庵和歌集蒙求諺解五巻・続五巻	梅月堂僧宣阿集編 梅仙堂平景新訂正	15					和紙袋綴刊本 22.4×15.8	*「草庵集蒙求諺解」は香川宣阿(歌号:梅月堂宣阿)著。頼阿法師の「草庵和歌集」の注釈書。享保九年に執筆と自序にある。二十巻のなか、五巻は続集の注。/増訂國書解題/	1・2・8・10・12・13・14~「日向高鍋城氏図籍」の印あり。 3~7・9・11・15~「明倫堂蔵書記」の印あり。 裏表紙見返しに「学校御用書」「明倫堂御用」等の墨書あり。	H26-04
明倫・3626	草庵和歌集蒙求諺解	梅月堂僧宣阿集編 梅仙堂平景新訂正	3					和紙袋綴刊本 22.5×15.9	*「草庵集蒙求諺解」は香川宣阿(歌号:梅月堂宣阿)著。頼阿法師の「草庵和歌集」の注釈書。享保九年に執筆と自序にある。/増訂國書解題/	「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H26-04
明倫・3627	(増補)狂歌題林集(用語集)		1					和紙袋綴刊本 16.1×11.2		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-04
明倫・3629	(増補)狂歌題林抄		1					刊本		「■■氏蔵書印」あり。	H30-05
明倫・3630	(増補)和歌題林抄	(大・河内屋喜兵衛等)	5			安永6刊	1777	和紙袋綴刊本 22.3×15.8			H26-04
明倫・3631	続春宴帖	東江先生和尺(東都・漢雅堂)	1			寛政2刊	1790	和紙袋綴刊本 26.9×17.8		1・2・4・5・6~「日向高鍋城氏図籍」の印あり。 3・7~「明倫堂蔵書記」の印あり。他と装丁が異なる。 3~裏表紙見返しに「学校御用」の墨書あり。 7~表紙見返しに「御学校御用」の墨書あり。	H26-04
明倫・3632	続草庵和歌集蒙求諺解	香川宣阿編 香川景新訂正	7					和紙袋綴刊本 22.5×16.0	続草庵和歌集を一首ごとに諺解したもの。2巻。香川宣阿著。続草庵和歌集は二條派歌人で名高い頼阿の著。著者の歌集。「草庵集」2巻に続くものとして著者の歌を集めたもの。/國書解題/		H26-04
明倫・3633	双松山房遺稿		1					和紙袋綴刊本 23.7×14.9		句 表紙見返しに「拝呈 堤為草様」と書かれた住友合資会社 富岡末雄の名刺が貼付されている。	H26-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3636	玉鈔百首直日晝	本居宣長	1					和紙袋綴刊本 23.2×15.8	「玉鈔百首」は1冊。天明6年ごろ成。本居宣長作の古道精神を取った100首、及び「阿麻理歌」32首。万葉仮名で記している。(玉鈔は『道』にかかる枕詞で、ここでは古道を示す)。「直日晝」(直居晝、直比乃晝とも書く)は神道書。明和8年成。1巻。宣長の古道論を展開したもの。同著「古事記伝」初巻の附録であったものを別に刻して単行本としたもの。/本居宣長事典/大辞典(平凡社)	「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-04
明倫・3637	玉鈔百首解上・下巻	(大・伊丹屋善兵衛等)	20					和紙袋綴刊本 25.6×18.0	2巻。本居大平著。寛政10年刊。本居宣長作の「玉鈔百首」の註解書。はじめに語釈、次に一首の意味を簡潔に釈している。出雲の指輪俊信、橘房雄等の序あり。/国書解題/大辞典(平凡社)	1・2・6・7・10・15・17・18～「明倫堂蔵書印」あり。	H26-04
明倫・3639	追悼詩歌集		1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 19.2×12.4	山岸大弘・秀弘/前任者の備考(又は24年)/	「高鍋城氏」の丸印あり。	H26-04
明倫・3640	董菰集		3					和紙袋綴刊本 23.2×16.1		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-04
明倫・3642	杜鵑啼血帖	宮本得造著 (東・宮本得造)	1			明治24刊	1891	和紙袋綴刊本 25.0×17.1		句表紙見返しに「明治廿四歳十二月 宮本得造氏所贈…」の墨書あり。	H26-05
明倫・3644	中院道茂歌集全	(鈴木氏詮房号)	1					和紙袋綴写本 23.3×16.5		「高月鈴木文庫之印」あり。巻末に「鈴木氏詮房号之」の墨書あり。	H26-05
明倫・3645	二女和歌集(連月式部)	小田垣蓮月 高島式部 (京・綿屋三郎兵衛等)	1			明治1刊	1868	和紙袋綴刊本 18.3×12.5		「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H26-05
明倫・3646	野村好辭翁寿筵記		1			明治19刊	1886	和紙袋綴刊本 18.6×12.1			H26-05
明倫・3653	俳諧歌織瀧集	織月亭鳴人撰	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.5		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-05
明倫・3654	俳諧歌織瀧集	織月亭鳴人撰	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.4			H26-05
明倫・3661	俳諧歌風俗集		1			天保6刊	1835	和紙袋綴刊本 22.5×15.3		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-05
明倫・3662	俳諧歌堀河太郎百首		2					刊本	3662-1の中身は「俳諧歌実首七之巻八之巻」※参照3648.3657	「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3665	俳諧歌世継百首		1					刊本		送返	H30-05
明倫・3670	俳諧季寄大全	手塚幸七編輯 (東・井口松之助)	1			明治14刊	1887	和紙袋綴刊本 17.2×11.1	季寄とは連歌や俳諧、俳句では、季語を用いるが、句作の参考にするために、季語を集めたものを季寄という。一般に俳諧歳時記の小型のもので//	「泥谷氏印」あり。	H26-05
明倫・3671	俳諧季寄大全	手塚貞彦編輯 (東・嵩山堂)	1					和紙袋綴刊本 17.3×11.1	季寄とは連歌や俳諧、俳句では、季語を用いるが、句作の参考にするために、季語を集めたものを季寄という。一般に俳諧歳時記の小型のもので//	「泥谷氏印」あり。	H26-05
明倫・3672	俳諧古今謡歌集		11					和紙袋綴刊本 22.4×15.5		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-05
明倫・3678	白楽天	(大・河内屋)	1			文化12刊	1815	和紙袋綴刊本 22.7×15.6			H26-05
明倫・3679	鄙風流集		1					和紙袋綴写本 21.8×14.6		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-05
明倫・3680	百人一首		1					和紙袋綴刊本 24.2×17.4			H26-05
明倫・3683	猫尾百絶	藤森脩蔵編輯 (東・前園造)	1			明治19刊	1886	和紙袋綴刊本 23.0×14.5		「田邨氏蔵書印」あり。	H26-05
明倫・3685	万葉考一〇巻	賀茂真淵著 (前川文栄堂)	12					和紙袋綴刊本 25.3×18.0	万葉集の註釈書。27冊。賀茂真淵著。延暦10年成。明和5年頃刊。/大辞典(平凡社)/	1～4・6・11～「上江小学高鍋」の印あり。5・7・8・9・10・12～「高鍋藩」の印あり。	H26-05
明倫・3686	万葉考別記五巻		4					和紙袋綴刊本 25.0×17.8	賀茂真淵著の「万葉考」の別記として考證したもの。6巻。/国書解題/大辞典(平凡社)	合本1 1～「上江小学高鍋」の印あり。2・3・4～「高鍋藩」の印あり。	H26-05
明倫・3687	万葉集		1					和紙袋綴刊本 24.3×16.4	日本最初の歌集。全20巻。7～8世紀の間にうたわれ、作られた長短さまざまな歌4500余首をおさめる。《万葉集》では部立とよばれる歌の類別が行われており、そのおもなものは、雑歌、相聞、挽歌の3類である。雑歌は宮廷祭式など(晴れ)の機会にうたわれた公的な作を多く含み、相聞は男女の恋歌を主とする贈答歌をいい、また挽歌は死者の葬送や哀傷の歌をさす。/国書解題/	白 26年電子化解体時、書面が出てきた虫損大「宝物 ■(附か?)」(文末に武蔵の国・・・とある) 「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-05
明倫・3688	万葉集大考	長瀬真幸著	1			文政7刊	1824	和紙袋綴刊本 25.1×17.9		「上江小学高鍋」の印あり。	H26-05
明倫・3689	万葉集二〇巻	藤原以文再校 (京・出雲寺文治郎)	18			文化2刊	1805	和紙袋綴刊本 26.4×18.9	日本最初の歌集。全20巻。7～8世紀の間にうたわれ、作られた長短さまざまな歌4500余首をおさめる。《万葉集》では部立とよばれる歌の類別が行われており、そのおもなものは、雑歌、相聞、挽歌の3類である。雑歌は宮廷祭式など(晴れ)の機会にうたわれた公的な作を多く含み、相聞は男女の恋歌を主とする贈答歌をいい、また挽歌は死者の葬送や哀傷の歌をさす。/国書解題/	蔵書印「高鍋図書館蔵書印」	H26-05
明倫・3690	万葉集略解二〇巻	橘千蔭編 (尾張・永楽屋東四郎等)	30			文化9刊	1812	和紙袋綴刊本 25.8×18.2	万葉集の注釈書。橘千蔭(加藤千蔭)著。寛政3年自序有。1800年(寛政12)成立。30巻。12年(文化9)に刊行終わる。各巻の左方に平仮名で訓方を附している。註は、千蔭の家での村田春海、信夫道別、安田躬弦との《万葉集》の会談の成果を基礎として書かれた。契沖の「万葉代匠記」、荷田春満、とりわけ師である賀茂真淵の「万葉考」によるところが大きい。橘が成るごとに本居宣長の問を請い、その説をとりいれることも少なくない。《万葉集》の簡単な全注として。《万葉集》の普及に貢献した/国書解題/大辞典(平凡社)	蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-05
明倫・3691	万葉新採百首解三巻	賀茂真淵 (京・大文字屋与三兵衛)	1					刊本	写本3巻。賀茂真淵著。万葉集の中より100首を選出し、各註釈を加えたもの。/国書解題/大辞典(平凡社)	「橘河辺文庫印」あり。	H30-05
明倫・3698	類題道跡歌集	鈴木翔房	1					和紙袋綴写本 19.1×13.2		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-05
明倫・3699	類題俳諧歌集一五巻	鹿都御真顔編	2					和紙袋綴刊本 18.5×12.3		蔵書印「高月鈴木文庫之印」2種あり。	H26-05
明倫・3700	類題俳諧歌集一五巻	鹿都御真顔編	1					刊本		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3702	朗盧文鈔三巻	阪谷素子鈔著	2			明治18刊	1885	和紙袋綴刊本 23.0×15.2		句返 蔵書印「堤氏文庫」	H26-05
明倫・3703	和歌奇妙談	(水筑家)	1					和紙袋綴写本 23.6×16.0		表紙見開きに「水城蔵」の墨書あり。	H26-05
明倫・3704	新評戯曲十種甲	依田百川評 並木宗輔著	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 23.2×13.8		「堤氏文庫」の印あり。	H26-05
明倫・3705	新評戯曲十種乙	小永井八郎評 (東・小永井八郎)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 23.3×13.9		「堤氏文庫」の印あり。	H26-05
明倫・3707	赤穂義人録	室嶋果著 (大・三書堂)	1			明治1刊	1868	和紙袋綴刊本 25.2×17.7		句送返 「柿原蔵書」の印あり。	H26-05
明倫・3710	絵本田村物語	○老人編輯 梅村閑旭訂正 (大・三木佐助)	6					和紙袋綴刊本 22.1×15.3		五巻下まで在 蔵書印「田邨氏蔵書印」	H26-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3711	応仁記二巻		1					和紙袋綴刊本 28.5×20.0	応仁の乱の原因と洛中合戦のようす。東軍細川勝元、西軍山名宗全の死に至る模様を述べた室町時代の戦記物。3巻。作者不明。1473年(文明5)の岡軍大將の死後まもなく作られたとする説と、このころに原形ができ16世紀中ごろ完成したとする説がある。漢字交じりのかたかな文で《太平記》の影響を受けており、儒教的な色彩も濃く見られる。本記は《応仁別記》(応仁略記)とともに《群書類従》に収められている。(ことばんく)＊1巻・2巻・3巻本の3系統に分かれる。/日本古典文学大辞典/	裏表紙見返しに「高鍋学校」の墨書あり。	H26-05
明倫・3712	大鏡	屋代弘賢校正 (東・近藤瓶城)	4			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 18.4×12.3	歴史物語。8巻(三巻本・六巻本・八巻本がある)。作者未詳。平安後期成立。大宅世継・夏山景樹の二人の老人の昔語り。聞き役の若侍の批評を交えながら、藤原道長(966～1027)の策謀を中心に文徳天皇(827～858)から後一条天皇(1008～1036)まで、一四代176年間を記伝体で記す。鏡物(かがみもの)の最初、四鏡の一。世継。世継物語。/圖書解題/大辭典(平凡社)		H26-05
明倫・3715	義経記八巻	(吉野屋惣兵衛)	6			寛文10刊	1670	和紙袋綴刊本 28.8×20.8	準戦記物。(義経物語・牛若物語・判官物語)ともいう8巻 寛永10年刊 源義経の一代記だが、鞍馬山修行や判官びいきなどの逸話を内容とする//大辭典(平凡社)	蔵書印「明倫堂蔵書印」 「明倫堂蔵書」 「御学校御用」書入有	H26-05
明倫・3719	鳩巢小説		4					和紙袋綴写本 26.2×18.2		「明倫堂蔵書印」あり。	H26-05
明倫・3721	狂歌杓子栗二巻	便々館湖鯉鮒編	1					和紙袋綴刊本 22.8×15.2		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-05
明倫・3722	狂歌竹川集三巻	二世末楽漢江編 (鶴屋喜右衛門)	3			文化12刊	1815	和紙袋綴刊本 22.7×16.0		蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H26-05
明倫・3723	金殿録夢譚物語	(橘景正)	3			天保7写	1836	写本		「城氏」印あり。	H30-05
明倫・3724	金殿録夢物語		2					和紙袋綴写本 24.2×15.3		蔵書印「城氏」	H26-05
明倫・3729	源平盛衰記		8					和紙袋綴刊本 26.7×19.4	鎌倉時代の軍記物語。48巻。著者不詳(葉室時長という説がある)、成立年不詳。(げんべいじょうすいき)ともいう。20余年間の源氏と平家の盛衰興亡を、百数十項に分け詳述。大筋の骨格は《平家物語》(寛一本系)と同じであり、その奥本の一連であるが、和漢の故事や説話を大量にとりこんで、《平家物語》の3倍近い大部な本となっており、同様の特徴を持つ《平家物語》の延慶本・長門本とともに増補系諸本とか、広本とか呼ばれている。また琵琶語りの詞章としてつくられた語り本系の《平家物語》に対して、読むことを主眼とした本として、〈読	蔵書印「明倫堂蔵書記」	H26-05
明倫・3730	元禄曾我物語		1					和紙袋綴刊本 26.5×18.2			H26-05
明倫・3733	後太平記評判五九巻・目録	多々良撰(木原次郎右衛門等)	17			延宝9刊	1681	和紙袋綴刊本 27.0×19.3	後太平記に「評」(本文の解説・批評)と「伝」(余談の紹介や補足)を付加した書。多々良(滝川)吹毛著 59巻、延宝7年自跋・延宝9年刊/日本古典文学大辞典/		H26-05
明倫・3740	古事記伝四四巻	本居宣長撰 (名古屋・永楽屋四郎等)	48			天保15刊	1844	和紙袋綴刊本 26.2×18.6	古事記注釈書。本居宣長著 44巻。付巻1。1790-1822年(寛政2-文政5)刊。本文の注釈にあたって厳正文献批判と訓読方式をつらぬくかたわら、記述された伝承はこれをすべて信じるという立場をも堅持している。(総論)中には、《書屋雲(なのおのみたま)》と題した特別な一編があり、宣長の古道論の要旨を述べる/日本古典文学大辞典/	目録3740―1～3 本文3740-4～47 附3740-48 3740-4(一之巻)巻末「文化五年辰正月」3740-47「天保十五年甲辰九月再校」 蔵書印「明倫堂蔵書印」	H27-04
明倫・3742	西国太平記一〇巻	橘生斎(中野五郎右衛門)	5			延宝6刊	1678	和紙袋綴刊本 26.6×17.7	西国太平記は10巻。大内、大友、島津、毛利、尼子、長曾我部等の關西諸侯が、連年戦争の次第を記したもの。橘生斎著。 //圖書解題	全10巻 外題直書「西国大平記」 3742-5巻末「延宝六仲冬日 中野五郎左衛門板行」 「第五大学区第廿六中学区第七番小学」の印あり。 2～裏表紙見返しに「明倫堂」の墨書あり。 3～表紙見返しに「改正寄編中学校蔵本」「明倫堂蔵本」、裏表紙見返しに「日本西国大平記 此本校御用書物ニ御座候 御覧の上早々御返し可成候」の墨書あり。 4～表紙見返しに「御用書物有之候得者何方江参り候口口御覽御済之上ハ学校方江御返し可成候」、裏表紙見返しに「学校御用書物」の墨書あり。 5～裏表紙見返しに「宮崎明倫堂所書」の墨書あり	H27-04
明倫・3749	順礼物語三巻		1					和紙袋綴刊本 27.9×19.8		全三巻(上・中・下) 外題直書「順礼物語 全」	H27-04
明倫・3752	神代記草牙三巻	本居宣長校 (大・河内屋勘助等)	3			天保8刊	1837	和紙袋綴刊本 25.6×18.0	「日本書紀」の解説書、3巻。栗田土満著。文化7年自序。同8年本居大平の序あり。日本書紀の中神代巻を註釈したもの。黄茂真淵の説・本居宣長の古事記伝の説を多くもっている。本居大平の評註もある。/圖書解題/	全3巻(上・中・下) 外題無、3752-1屏見返「本居大内校正/神代記草牙/京華六書堂合梓」 文化7年自序。同8年本居大平の序あり。文化10年及び文政2年跋あり 巻末に「天保14年九月鑄」とある 蔵書印「明倫堂蔵書印」	H27-04
明倫・3755	前太平記	藤元元撰著	8					和紙袋綴刊本 26.5×17.6	前太平記は通俗史書。40巻・目録1巻。藤元元作。天和元年(1681)ごろの成立。平安中期から後期にかけての事変・合戦を、清和源氏7代の人々との關係を中心に記述。歌舞伎の時代背景となる世界の一として盛んに用いられた。/大辞典(平凡社)/	2014年10月 電子化出し確認時 冊数データ修正 5冊→8冊へ(目録の通り) 在9～40巻(全40巻) 外題直書「前太平記」(3755-4・6・7・8のみ改装か? 茶色の薄の裏紙が用いられるなどした紙) 3755-4巻頭に「学校御用書物」、裏表紙見返しに「明倫堂蔵書」の墨書あり。 ＊3755-4の表紙の裏紙に手紙状の内容が見受けられる(学校御用掛笺?)	H27-04
明倫・3756	曾我物語一二巻		5			寛文11刊	1671	和紙袋綴刊本 28.6×20.4		全12巻 外題直書「曾我物語」(全て改装か? 茶色の表紙で、裏紙が用いられている) 巻末に「寛文十一年九月」とある 挿絵多数有 蔵書印「高鍋図書館蔵書印」 1～巻頭に「御用書物」の墨書あり。 2～裏表紙に「端田学校」、見返しに「学校御用書物」の墨書あり。 3～裏表紙見返しに「学校御用」の墨書あり。 4・5～表紙・裏表紙見返しに「学校御用」の墨書あり。	H27-04
明倫・3759	太平記綱目		25			寛文8序刊	1668	和紙袋綴刊本 27.3×19.2	太平記の本文を校訂し、これに評註を加えたもの。60巻。(圖書解題では61巻)原友軒著。寛文8年自序。/圖書解題/大辞典(平凡社)	(3760をみよ 合わせると在 全40巻か) 在 巻之1、1附翼上・下、2～4、8奇、8正、9、10本、12首、28～32、33上・下、34、35雄・雄、36～39■(巻数は枝番順とは異なる) ＊序・巻之一は3759-13で寛文18の序有 原装は藍色の表紙で、3759-3にのみ一部残っている。外題直書「太平記綱目」 書入れ有「高鍋藩明倫堂」「学校御用」「高鍋学校蔵書」など(枝番1・2・13・14・15・18・19・20・21に有り)	H27-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3760	太平記綱目六〇巻	原友軒	35			寛文12刊	1672	和紙袋綴刊本 27.2×19.3	太平記の本文を校訂し、これに評註を加えたもの。60巻。(圖書解題では61巻)原友軒著。寛文8年自序。/圖書解題/大辞典(平凡社)	返送 (3759をみよ 合わせると在 全40巻か)在 目録・序、巻之5〜7、10末・附寛下、11、12尾、13、13附翼、14〜27、39律、40大尾 3760-11に寛文8年序有 3760-35に寛文12年就有書入れ「高鍋学校藏書」「学校御用書物」「高鍋明倫堂御用書」「太学府有」など3760-1、15〜19、29、32に有り	H27-04
明倫・3761	太平記		3					和紙袋綴刊本 27.7×20.2	50年にわたる南北朝動乱の歴史を描いた軍記物語。40巻。南北朝動乱期の不安な世情をよく写している。小島法師作と伝えられるが未詳。応安年間(1368〜1375)の成立とされる。//大辞典(平凡社)	蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-05
明倫・3762	太平記大全		2					刊本	40巻(圖書解題では50巻)。西道智著。万治2年刊。太平記中の諸将勇士の系図、伝記並びに合戦の事実等を改訂し標柱を加えたもの。/圖書解題/大辞典(平凡社)	1〜裏表紙「高鍋藩」の墨書あり。	H30-05
明倫・3765	長短唐話附小孩児		1					和紙袋綴写本 25.0×16.6		返送 蔵書印「大塚」	H26-05
明倫・3767	治乱記二巻	田村学人	0			寛永12写	1635	和紙袋綴写本 31.0×23.2		大きいので「289」の箱に配架 外題直書「治乱記 乾」(同 坤) 「明倫堂蔵書記」印あり。	H30-05
明倫・3772	東海道敵討		1					刊本		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3773	東海道敵討		2					刊本		3773-1〜東海道敵討三巻 3773-2〜東海道敵討四巻 (29年4月冊数訂正 1冊→2冊*「東海道敵討四巻(表紙欠)」巻頭に3775-1と書かれていたが、表題から3773の校番と判断) 「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3774	東国太平記一六巻	杉原彦左衛門選 国枝清軒重訂(久保田九郎左衛門)	6			宝永3刊	1706	和紙袋綴刊本 26.4×18.4	東国太平記は16巻、元龜・天正前後における東国諸軍の概略を記した戦記。杉原親清(彦左衛門)著。寶永三年出版。//圖書解題	書入れ有「御用書物」など	H26-05
明倫・3784	評註訓訳水滸伝	平岡龍城著(東・近世漢文学会)	1			大正3刊	1914	和紙袋綴刊本 22.1×15.0	「水滸伝」は中国の長編口語小説。忠義水滸伝とも標題。北宋末年、山東省の湖、梁山泊の水辺すなわち水滸に集まった実在の群雄にもとづく物語で、南宋から元にかけて、断片的に講談や演劇でとりあげられていたものを、一つにまとめた。現在最古の版本は、100回から成るが、およそ4部に分かれる。清の金聖嘆が後半部を切り捨てた70回本のほかに100回本・120回本がある。著者は諸説あり不明。施耐庵(1296-1370)と羅貫中(1364生存)によってまとめられたという。//		H26-05
明倫・3786	平家物語一二巻	(大・磯野三郎右衛門)	12			元禄4刊	1691	和紙袋綴刊本 26.6×19.0			H26-05
明倫・3788	保元物語		3					和紙袋綴刊本 27.5×18.4		1〜裏表紙に「学校御用書物」の墨書あり。	H26-05
明倫・3789	北条盛衰記		1					和紙袋綴刊本 27.0×17.8			H26-05
明倫・3791	増鏡	屋代弘賢校正(東・近藤瓶城)	3			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 17.6×12.4			H26-05
明倫・3792	松浦佐用媛石魂録後編七巻	曲亭主人編次(東・東京金玉出版社)	5			明治16刊	1883	和紙袋綴刊本 22.7×15.2		「堤氏文庫」の印あり。	H26-05
明倫・3793	松浦佐用媛石魂録	曲亭馬琴編次(東・東京金玉出版社)	2					和紙袋綴刊本 22.7×15.3		「堤氏文庫」の印あり。	H26-05
明倫・3794	水鏡	屋代弘賢校正(東・近藤瓶城)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 18.4×12.4			H26-05
明倫・3798	義貞軍記		1					和紙袋綴刊本 26.5×17.7			H26-05
明倫・3799	義経勲功記一九巻	馬場信意再遺(京・田井利兵衛)	4			正徳2刊	1712	和紙袋綴刊本 25.6×17.5		「明倫堂蔵書記」の印あり。 「明倫堂御用書」の墨書あり。	H26-05
明倫・3802	理屈物語		1					和紙袋綴刊本 25.9×18.4 丁数不明		蔵書印「城氏」 平成26年度修復時一部修復	H26-05
明倫・3804	和唐珍解鈔	和来参和(加藤源蔵)	1					写本	*「和唐珍解」は1冊。洒落本。唐来参和著。書名は、序題には振り仮名で「ホウトクテンケイ」とある。奇妙な唐人の言葉と和語にしたおかしさを表したものの。天明5年刊。/日本古英文学大辞典/	「大塚」印あり。	H30-05
明倫・3805	嚶鳴館遺草六巻	細井平洲遺稿(西条・土田節書)	6			天保6写	1835	和紙袋綴写本 26.9×18.5		3909を見よ 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H26-05
明倫・3806	嚶鳴館遺草六巻	細井平洲	2			天保6写	1835	和紙袋綴写本 24.8×16.5		3909を見よ 「橘河辺蔵書印」あり。	H26-05
明倫・3807	おだまき一巻	佐藤直方著	1			貞享2刊	1685	和紙袋綴刊本 26.5×18.3	*佐藤直方著。江戸中期の儒者。名は直方、通称五郎左衛門。儒後の人。若くして京都に出て山崎闇斎に師事。浅見綱高、三宅尚斎とともに崎門(きもん)の三傑と称される。//	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H26-05
明倫・3808	折たく柴乃記		4					和紙袋綴写本 25.8×16.9	江戸時代中期に新井白石(君美)の書いた自伝記・随筆。享保元年から執筆。半生を回顧したもの、仮名交じり文の模範とされている。生家である新井家のことや、白石の政治的体験談など自伝的、政治的要素の濃い自伝的随筆である。藩翰譜作成のいきさつが記載されている。『折焚柴の記』とも書く。/圖書解題/大辞典(平凡社)		H26-05
明倫・3809	龍頭宝慶記	(東・森江佐七)	1			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 22.8×15.4		返送 「堤氏文庫」の印あり。	H26-05
明倫・3811	観覧百譚五巻	細井広沢(江・川村源右衛門)	5			享保20刊	1735	和紙袋綴刊本 27.0×17.8		「■山家図書記」の印あり。	H26-05
明倫・3813	近世叢語八巻	角田簡大可撰(大・加賀屋善蔵)	3			文政11刊	1828	和紙袋綴刊本 25.5×17.8	近世叢語は8巻。角田九華著。慶長・天和以来の後事異聞を集録したもの。文政5年の自序有。宋の世説新語に倣っている。/日本漢文学辞典/大辞典(平凡社)	句返 蔵書印「明倫堂蔵書印」 「高鍋学校」の墨書あり。	H26-05
明倫・3815	源氏之内古となることども		1			慶応3刊	1867	和紙袋綴刊本 18.7×13.7		「高月鈴木文庫之印」あり。	H26-05
明倫・3816	儼堂松崎先生遺墨	松崎儼堂著(東・山下里男)	1			明治22刊	1889	和紙袋綴刊本 21.9×21.9			H26-05
明倫・3817	護國隨筆五巻	萩生徂徠著 吉有隣校(京・沢田龍沢等)	2			正徳4刊	1714	和紙袋綴刊本 26.4×17.6		返送 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H26-05
明倫・3818	梧園面話上下巻	細川潤次郎著(東・西川忠亮)	2			明治35刊	1902	和紙袋綴刊本 22.8×15.1		句返 2〜蔵書印「秋月家蔵書印」	H26-05
明倫・3819	梧園面話上下巻	細川潤次郎著(東・細川潤次郎)	2			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 22.9×14.7		句返	H26-05
明倫・3820	吾園隨筆続編	細川潤次郎編(東・西川忠亮)	1			明治35刊	1902	和紙袋綴刊本 22.9×14.8		句返	H26-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3821	梧窓漫筆	加賀元貞著 荒井蘇行校 (玉巖堂)	2		文政5刊	1822		和紙袋綴刊本 26.0×17.9		蔵書印「橋河辺文庫之印」	H26-05
明倫・3822	梧窓漫筆後編	大田元貞著 荒井蘇行校 (東・若林清兵衛等)	1					刊本		「橋河辺文庫印」あり。	H30-05
明倫・3823	梧窓漫筆二巻	大田元貞著 荒井蘇行校 (江・須原屋伊八等)	2		文化10刊	1813		和紙袋綴刊本 25.6×17.6		蔵書印「田邨氏蔵書印」	H26-05
明倫・3826	常山紀談拾遺四巻	湯淺元祐述 湯淺明善校 (大・秋田屋太右衛門等)	5					和紙袋綴刊本 24.9×17.6		蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-05
明倫・3827	常山紀談	湯淺新兵衛輯録	1					和紙袋綴刊本 25.0×17.5		蔵書印「明倫堂蔵書印」	H26-05
明倫・3828	常山紀談二五巻	湯淺常山編輯 赤木周憲校訂	24		明和7刊	1770		和紙袋綴刊本 25.0×17.6		蔵書印「明倫堂蔵書印」 「明倫堂蔵書」「明倫堂御蔵書」の墨書あり。 「高鍋学校御蔵書」の朱書あり。	H26-05
明倫・3830	西洋夜話	寧靜学人著 (東・紀伊国屋源兵衛)	2		明治4刊	1871		和紙袋綴刊本 18.1×12.1		1～「第五大学区嶋田学校第廿六中学区」「上江小学高鍋」の印あり。 2～「上江小学高鍋」の印あり。	H26-05
明倫・3831	西洋夜話	寧靜学人著 (東京書籍)	2		明治6刊	1873		和紙袋綴刊本 18.1×12.1			H26-05
明倫・3832	武蔵野燭談三〇巻		5					写本		「明倫堂蔵書記」の印あり。	H30-05
明倫・3834	(諸人御用)一寸筆文一卷		1		天保14写	1843		和紙袋綴写本 24.5×16.5		送	H26-05
明倫・3836	徒然草文段抄	吉田兼好	3					刊本 26.7×19.2	江戸前期の注釈書。7巻。北村季吟著。寛文7年(1667)刊。徒然草を244段に分け、注釈の旧説を取捨してのせ、自説を加えたもの/国書解題/	「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3839	土佐日記考証二巻	鈴木基之誌	2					和紙袋綴刊本 27.7×18.5		蔵書印「上江小学高鍋」	H26-05
明倫・3841	白石随筆	新井白石著	1					和紙袋綴写本 22.5×15.3		「堤氏文庫」の印あり。	H26-05
明倫・3843	風来六々部集二巻	風来山人著 (東・東京金玉出版社)	1		明治16刊	1883		和紙袋綴刊本 18.2×12.5		蔵書印「堤氏文庫」	H26-05
明倫・3844	福沢文集二巻	福沢諭吉著 (東・松口栄造)	2		明治11刊	1878		和紙袋綴刊本 18.5×12.7			H26-05
明倫・3848	松尾文後集	藤井高尚作 (大・河内屋和助板)	3		安政3刊	1856		和紙袋綴刊本 25.3×17.7		蔵書印「上江小学高鍋」	H26-05
明倫・3849	柳橋新誌二篇一卷	成島柳北著 (東・山城屋政吉)	1		明治7刊	1874		和紙袋綴刊本 21.9×14.7		送返	H26-05
明倫・3850	柳橋新誌初編一卷	成島柳北著 (東・山城屋政吉)	1		明治7刊	1874		和紙袋綴刊本 22.1×14.7		送返	H26-05
明倫・3851	大和めぐり		1					和紙袋綴写本 16.0×15.5		蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H26-05
明倫・3852	夢路之記一卷	島本仲造著 (東・島本仲造)	1		明治24刊	1891		和紙袋綴刊本 26.0×14.7		句	H26-05
明倫・3854	大石内蔵助書翰・大高源吾母江書置之写		1					和紙袋綴写本 25.8×17.0		蔵書印「高月鈴木文庫之印」	H26-05
明倫・3856	観光記遊一〇巻	岡千仞撰著 (東・岡千仞)	2		明治19刊	1886		和紙袋綴刊本 19.6×12.5		返 3922を見よ	H26-05
明倫・3857	西遊旅譚		1		寛政6刊	1794		刊本 26.2×17.4			H30-05
明倫・3858	棧雲峽雨日記二巻	竹添進一郎著 (東・奎文堂)	2		明治12刊	1879		和紙袋綴刊本 23.3×14.9	「棧雲峽雨日記」明治期の外交官、漢学者。竹添進一郎著。字は光清(こうせい)*伊藤博文らの知遇で森有礼に随行して渡清し、さらに翌76年、中国内地を旅行し(棧雲峽雨日記)を著す。明治期有数の漢学者・詩文家が、外交官として北京滞在時代に蜀(四川省)の棧道をのぼり、三峡を下った100余日の旅の記録。山水の奇勝を活写し、古人の史跡に沈思する様子を漢文で著している。//	蔵書印「堤氏文庫」	H26-05
明倫・3861	書牘	文部省 (東・文部省)	1		明治7刊	1874		和紙袋綴刊本 22.1×14.7		蔵書印「鹿児島県下/嶋田小学/日向児湯郡」	H26-05
明倫・3862	随筆紀程八巻	川田剛撰 (東・大政官蔵版)	8		明治18刊	1885		和紙袋綴刊本 23.2×15.4	幕末明治期の儒者、文人の川田壺江(剛)著。明治14年、明治天皇の北海道巡幸に随行し『随筆紀程』(1884)を著す//	句返	H26-05
明倫・3863	大八洲遊記	青山延寿著 三宅厚三郎校	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.1		送返	H26-05
明倫・3864	長享年中矢間日記		1					写本 27.0×19.4		蔵書印「高鍋学校印章」 「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3865	踏雲遊記	外崎寛著	1		明治33刊	1900		和紙袋綴刊本 25.4×15.2		句返	H26-05
明倫・3866	東藩日記	茅原元常紀行	1		文化12刊	1815		和紙袋綴刊本 26.3×18.2		句送返 「水筑氏蔵書記」の印あり。	H26-05
明倫・3869	中山道々中記		1					和紙袋綴写本 18.6×12.8			H26-05
明倫・3871	安部野実録		1					写本 23.8×16.3			H30-05
明倫・3872	今有敵討	(牧山写ス)	1		天保12写	1841		和紙袋綴写本 24.5×17.8		「高鍋城氏」の丸印あり。	H26-05
明倫・3873	介石記全		1		元禄16写	1703		写本 27.5×18.5			H30-05
明倫・3874	天下茶屋敵討真伝記	(橘氏書写)	3		文化3写	1806		写本 23.4×15.6		「橋河辺文庫印」あり。裏表紙見返しに「文化三寅年於東■写之 後橋」の墨書あり。	H30-05
明倫・3876	後夜の夢(妙々奇談)	周滑平 五覧通・晝無鏡校	1					刊本 18.0×12.1		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3877	妙々奇談	周滑平 五覧通・晝無鏡編集	1					刊本 18.0×12.1		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3879	妙々奇談二巻	周滑平 五覧通・晝無鏡編	1					刊本 18.0×12.1		「高月鈴木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3880	鶴梁文鈔一〇巻	林長瑞著	1		明治14刊	1881		和紙袋綴刊本 16.8×11.0		白 3915・3917・3928を見よ	H26-05
明倫・3881	興風後集	(京・田中屋治兵衛)	1		明治2刊	1869		和紙袋綴刊本 18.5×12.8		蔵書印「■■■■蔵書印」	H26-05
明倫・3882	今休名家文抄五巻	土居光華編 (甲府・内藤伝右衛門)	9		明治11刊	1878		和紙袋綴刊本 22.5×15.0		蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」 9～裏表紙に「高鍋学校」の墨書あり。	H26-05
明倫・3884	山陽遺稿		2					和紙袋綴刊本 25.5×17.5	江戸後期の儒学者、詩人の頼山陽(1780-1832)の詩と文を集めている。文10巻。詩7巻(596首)。拾遺1巻。頼山陽著。天保12年刊。/大辞典(平凡社)/日本漢文学大辞典	句送 「秋月家蔵書印」あり。	H29-05
明倫・3885	続今休名家文抄三巻	土居光華編選 (東・小林新造)	3		明治19刊	1886		和紙袋綴刊本 22.5×15.0		「第五大学区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。	H27-04
明倫・3886	続明治文抄四巻	高橋易直編 (東・山中北郎等)	4		明治10刊	1877		和紙袋綴刊本 22.3×15.0		全五巻(三冊)句送 外題直書き(赤マジック?) 「偶評続今體名家文抄 上」(同 中/下)3886-1から順に序・目録・巻之一/巻之二～三/巻之四～五(六尾) 明治10年9月序有 蔵書印(不鮮明)「……■■■学校/第廿六中学区」 (高鍋学校の蔵書印?)	H27-04
明倫・3888	殉難録稿	竹内節・大橋義校	24					和紙袋綴刊本 23.2×15.7			H27-04
明倫・3889	退溪書抄一〇巻	村士玉水 (江・嶋伊兵衛等)	10		文化6刊	1809		和紙袋綴刊本 26.7×18.0		返 在全10巻(枝番順) 3889-06のみ題箋有「李退溪書抄 六」他は外題直書き 巻頭見返「村士玉水先生纂/李退溪書抄 全十巻/信古堂蔵版」文化3年の序、文化6年の跋(岡田恕) 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H27-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3892	和漢朗詠集		1					刊本 26.5×19.4	平安中期の詩歌選集。2巻。藤原公任撰。寛仁(1017-21)ごろの成立か。和漢とは本朝と唐家の意。漢家詩文(234首)・本朝詩文(354首)・和歌(216首)を撰んでる白楽天を尊重し多くの詩句を採るが、ほかに菅原道真、菅原文時など日本人の漢文学作品からも摘出し、さらに《拾遺和歌集》をはじめ、三代集その他から選んだ和歌を並列させている点が特徴的である。/日本古典文学大辞典/	「高月館木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3893	和漢朗詠集		1					刊本 26.6×19.3	平安中期の詩歌選集。2巻。藤原公任撰。寛仁(1017-21)ごろの成立か。和漢とは本朝と唐家の意。漢家詩文(234首)・本朝詩文(354首)・和歌(216首)を撰んでる白楽天を尊重し多くの詩句を採るが、ほかに菅原道真、菅原文時など日本人の漢文学作品からも摘出し、さらに《拾遺和歌集》をはじめ、三代集その他から選んだ和歌を並列させている点が特徴的である。/日本古典文学大辞典/	「高月館木文庫之印」あり。	H30-05
明倫・3894	和漢朗詠集	藤原公任編 (江・須原屋茂兵衛)	2			元禄2刊	1689	和紙袋綴刊本 26.5×19.3	平安中期の詩歌選集。2巻。藤原公任撰。寛仁(1017-21)ごろの成立か。和漢とは本朝と唐家の意。漢家詩文(234首)・本朝詩文(354首)・和歌(216首)を撰んでる白楽天を尊重し多くの詩句を採るが、ほかに菅原道真、菅原文時など日本人の漢文学作品からも摘出し、さらに《拾遺和歌集》をはじめ、三代集その他から選んだ和歌を並列させている点が特徴的である。/日本古典文学大辞典/	在上下2巻(枝番順) 外題直書3894-01「和漢朗詠集 乾」(3894-02は「同 坤」) 古い改装跡有、(茶色の表紙で裏紙等を使用) 蔵書印「明倫堂蔵書記」「高鍋図書館蔵書印」	H27-04
明倫・3896	葦杭遊記	股野琢著	1			明治42刊	1909	和紙袋綴刊本 26.5×14.8		句 題箋有「葦杭遊記」 (印等無し)	H27-04
明倫・3897	以興吟社詩存第二集	近田弥三郎編輯 (東・近田弥三郎)	2			大正3刊	1914	和紙袋綴刊本 26.1×15.1		句 在上下2巻 題箋3897-01「以興吟社詩存第二集 乾」3897-02「同 坤」 内容 巻之上・下と附録「笠原桂舟遺稿」 (印等無し)	H27-04
明倫・3898	雲海詩鈔	長岡謹美著 (東・長岡謹美)	2			明治36刊	1903	和紙袋綴刊本 26.2×14.8		白 在上下2巻 題箋有3898-01「雲海詩鈔 上」(3898-02は下) 「田邨氏蔵書印」あり。	H27-04
明倫・3899	雲来詩鈔	石橋敬著	1					和紙袋綴刊本 25.2×13.0		白 巻之二 外題直書「雲来詩鈔 巻之二」(鉛筆) 蔵書印「秋月家蔵書印」	H27-04
明倫・3900	雲来詩鈔第二編三巻	石橋敬著	3					和紙袋綴刊本 24.3×13.6		白 在全三巻 外題直書「雲来詩鈔第二編」 蔵書印「秋月家蔵書印」	H27-04
明倫・3901	永嘉先生八面鋒一三巻	大田泰蔵開 (東・福田屋勝蔵等)	4					和紙袋綴刊本 22.8×15.4		句返 在全十三巻(4冊) 外題題箋3901-01「永嘉先生八面鋒 一」 巻頭見返「大田泰蔵開/永嘉先生八面鋒」・序・目録あり、跋(天保14年) (印等無し)	H27-04
明倫・3902	遠思樓詩鈔二巻	広瀬淡窓著 小林勝安石校 (大・群玉堂等)	3					和紙袋綴刊本 22.2×15.2		返 3902-01、02上下二巻 3902-03 下巻(上巻は3903をみよ) 題箋3902-01「遠思樓詩鈔 初編 乾」(-02が「坤」) 3902-01巻頭見返しは赤色、刊行年未記載 天保6年序あり 3902-02巻末奥付なし(出版年未記載) 3902-03は巻末奥付あり嘉永2年刊 3902-03のみ蔵書印有「白眉堂印」(3903をみよ)	H27-04
明倫・3903	遠思樓詩鈔初編	広瀬淡窓著 小林勝安石校	1			天保8刊	1837	和紙袋綴刊本 22.2×15.3		返 上巻(下巻は3902-03をみよ) 巻頭見返(青色)に刊行年記載「天保8年刻」(天保6年序あり) 蔵書印「白眉堂印」	H27-04
明倫・3904	遠思樓詩鈔	広瀬淡窓著 劉 君鳳校 (江・須原屋茂兵衛等)	2			嘉永2刊	1849	和紙袋綴刊本 22.2×15.3		句返 題箋3904-01「遠思樓詩鈔二編 乾」(-02は「坤」) 巻頭見返(青色)刊行年未記載、奥付 嘉永2年刊 蔵書印有「白眉堂印」	H27-04
明倫・3906	鴻斎文鈔	石川鴻斎著	1					和紙袋綴刊本 22.3×15.0		句返 外題直書「鴻斎文鈔」 巻之二 蔵書印「栴原蔵書」	H27-04
明倫・3907	大家文集	山崎平一良輯	1					和紙袋綴写本 21.7×14.5		句 巻之二(稿本) 外題「文集 第二・三」内題「大家文集巻之二」日本高鍋 山崎平一良輯 (蔵書印無、寄贈印:昭和31年山崎不二夫氏寄贈)	H27-04
明倫・3908	嘸鳴館百畳集	君異甫著	1			明治23刊	1890	和紙袋綴刊本 25.7×15.0		白 外題題箋「嘸鳴館百畳集」 序・目録・自序・本文 蔵書印「秋月家蔵書印」	H27-04
明倫・3909	嘸鳴館遺稿	細井平洲著 (尾張・興譲館蔵)	5					和紙袋綴刊本 26.5×17.6		句 3805・3806を見よ 在全10巻 外題題箋3909-2は「嘸鳴館遺稿 巻之二」(他は題箋下部欠損あり)枝番順に叙・巻一～十・附録・跋(文化丁卯) 蔵書印「明倫堂蔵書記」「高鍋図書館蔵書印」	H27-04
明倫・3912	敢為編	馬場不知也著 (岡山・横山治平)	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 22.5×14.6		句 外題直書「敢為篇 全」(題箋封入「敢為篇 完」)	H27-04
明倫・3913	回天詩史二巻	藤田東湖編	1					和紙袋綴刊本 26.4×18.1		句送返 1巻欠(在下巻) 蔵書印「白眉堂印」	H27-04
明倫・3914	下学選書七巻	会沢正志斎	1					和紙袋綴刊本 25.6×18.3		句返 巻三 外題直書「下学選書 巻三」(色鉛筆) 蔵書印「財津蔵書」表裏紙書入「財津」	H27-04
明倫・3915	鶴梁文鈔		1					刊本 22.5×15.0		句送返 3880・3917・3928を見よ 「秋月家蔵書印」あり。	H30-05
明倫・3916	贅牙齋存稿三巻	土居贅牙著 楓井純編輯 (三里)・土居文次	3			明治21刊	1888	和紙袋綴刊本 26.5×14.9		句 在全三巻(上・中・下) 3916-01題箋「贅牙齋存稿 巻下」(枝番の順に下・中・上) 明治21年序	H27-04
明倫・3917	鶴梁文鈔続編	鶴梁林著 林圭次編 芳村正兼校 (梅花深处)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 22.5×15.0		句送返 3880・3915・3928を見よ 巻一 蔵書印「秋月家蔵書印」	H27-04
明倫・3918	回転詩史二巻	藤田東湖著	2					和紙袋綴刊本 26.2×18.5		句返 上下二巻 題箋3918-01「回転詩史 乾」(02は「坤」) 蔵書印「日向高鍋坂田千束蔵書之章」書入「新小路坂田蔵」	H27-04
明倫・3919	花香月影	大江敬香選 牧野茂 安藤栄編 (東・花月社)	1			大正5刊	1916	和紙袋綴刊本 23.5×12.6		句	H27-04
明倫・3920	感興詩節記・沖漢無誤章解	山口景徳録	1			寛政2写	1790	和紙袋綴写本 24.6×15.5		白 外題直書「感興詩節記・沖漢無誤章解」 蔵書印「大塚」	H27-04
明倫・3921	観光紀遊	岡千仞 (東・岡千仞)	1			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 18.8×12.7		句返 (全三冊の中の下巻か) 題箋「観光紀遊 下」(内容 7～10巻) 蔵書印「堤氏文庫」(3923-02をみよ)	H27-04

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3922	観光紀道七巻	岡千仞撰衣撰著 姪濯万里校訂（東・岡千仞）	2			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 19.6×12.4		句返 3856を見よ	H27-04
明倫・3923	観光紀道一〇巻	岡千仞撰 姪濯校訂	2			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 18.7×12.5		句返 3923-02のみ蔵書印「堤氏文庫」	H27-04
明倫・3924	観光紀道	岡千仞撰著 姪濯万里校訂	1			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 18.7×12.5		句返	H27-04
明倫・3926	寒溪老樹村莊詩鈔	鹿山根本静寿卿著 男保勝校字	1			大正5刊	1916	和紙袋綴刊本 24.1×13.3		白	H27-04
明倫・3927	壺谷遺稿	岡松辰盈著 男参太郎 匡四郎輯	6			明治39刊	1906	和紙袋綴刊本 23.0×15.6		句 全8巻のうち5.6巻欠 題箋3927-01「壺谷遺稿 巻一 日字集」(枝番順に巻二 月字集、巻三 星字集、巻四 辰字集、巻七 山字集、巻八 川字集) 表紙に「贈呈 岡松参太郎」の紙が添付 蔵書印「堤氏文庫」丸印「壺」巻末書入「大正十年五月勝浦氏所贈」	H27-05
明倫・3928	鶴梁文鈔	林長濤（大・此村彦助）	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 16.8×11.2		白 3880・3915・3917を見よ 8～10巻 外題直書（ペン）「鶴梁文鈔」(題箋断片が2枚添付)	H27-05
明倫・3929	聳牙遺稿		5					和紙袋綴刊本 24.5×14.2		句 在巻6～14 外題直書・内題「聳牙遺稿」(印等無し)	H27-05
明倫・3930	皆夢文詩	川田剛 三島毅著 高木弘平輯（東・高木弘平）	1			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 21.8×14.4		句返 題箋「皆夢文詩 全」 巻末に秋月理樹の譲あり(明治12年) 蔵書印「堤氏文庫」	H27-05
明倫・3931	介寿録	柳岡良弼著（村岡良弼）	1			明治40刊	1907	和紙袋綴刊本 24.4×15.2		句 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・3932	近世禅林僧宝伝三巻	退耕庵主独園撰	3					和紙袋綴刊本 22.4×15.5		句送返 蔵書印「堤氏文庫」	H27-05
明倫・3934	近世叢語	角田簡大可撰	1					和紙袋綴刊本 25.5×17.9	近世叢語は8巻。角田九華著。慶長・天和以来の逸事異聞を集録したもの。文政5年の自序有。宋の世説新語に倣っている。/日本漢文学辞典/大辞典(平凡社)	句返 蔵書印「明倫堂蔵書印」	H27-05
明倫・3935	玉池〇社詩集	嶺田斯士徳橘姫室著編集(大・伊丹屋善兵衛等)	2					刊本 24.6×17.2		句送返 「堤氏文庫」印あり。	H30-05
明倫・3936	(鎮西)橘山遺事五巻	帆足万里鵬卿訳 岡弘道重訂（南筑紫陸堂）	5			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 25.5×17.9		句返 「税田氏蔵書印」あり。 2～5「明倫堂蔵書印」あり。	H27-05
明倫・3938	襟帯集抄	(成賀堂)	1					和紙袋綴刊本 26.9×18.8			H27-05
明倫・3939	牛渚漫録	遠田惟常撰此雨者 男惟泰松本圭多校	3					和紙袋綴刊本 27.1×18.0		句 「堤氏文庫」の印あり。 3～堤長発宛ての葉書有	H27-05
明倫・3940	寓粹初集	和田世民著(宮崎・和田世民)	1			大正5刊	1916	和紙袋綴刊本 24.8×16.5		白 堤長発氏関係の書入れ・郵便印等あり	H27-05
明倫・3941	蔵名山房文初集	岡千仞著	1					和紙袋綴刊本 23.0×14.9		白 表紙見返しに「大正十年五月 勝浦氏所贈」の朱書あり。 巻末に「堤氏文庫」の印あり。 堤長発宛勝浦新雄の葉書あり。	H27-05
明倫・3942	具呈唐商		1					和紙袋綴写本 24.6×17.0		句送返 「大塚」の印あり。	H27-05
明倫・3943	鯨海酔侯集全	弘田策馬編輯(高知・弘田策馬)	1			明治35刊	1902	和紙袋綴刊本 22.1×15.9		句 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・3944	庚寅語集三編	来安孫点君異甫編	1					和紙袋綴刊本 25.5×15.1		白 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・3945	甲越春秋	櫻園松原泰子掌撰	2					和紙袋綴刊本 26.0×17.8	春秋とは中国の古典。五経の一つ。周代の魯国の宮廷年代記に孔子が独自の理念と周到な論理をもって添削を施して成立//	句返 「昭和31年5月31日 山崎不二夫氏寄贈」の印あり。 裏表紙見返しに「四冊之内岸本姓(印)の墨書あり。	H27-05
明倫・3946	庚寅語集三編		1					和紙袋綴刊本 25.6×15.1		白	H27-05
明倫・3947	聳牙遺稿		1					和紙袋綴刊本 24.5×14.2		句	H27-05
明倫・3948	鴻斎文鈔初編二巻	石川鴻斎著	2					和紙袋綴刊本 22.3×15.0		返 「柿原蔵書」印あり。	H27-05
明倫・3949	高山環志二巻	金井之恭編集(東・和泉屋金右衛門)	2			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 22.1×15.0		句返 「堤氏文庫」の印あり。 1～表紙に「堤長発」の墨書あり。 2～表紙に「金井少史所贈」の墨書あり。	H27-05
明倫・3950	黄石斎第六集	岡本迪吉甫(東・宇津木豊吉等)	1			明治24刊	1891	和紙袋綴刊本 25.7×14.9		句 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・3951	皇朝百家論文鈔	冲冠峰編輯(東・藤井利八)	1			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 22.3×15.3		句送返	H27-05
明倫・3952	皇朝分類名家絶句	石川省斎輯(東・鳥屋〇七等)	2			明治2刊	1869	和紙袋綴刊本 22.8×15.5		句返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・3953	皇朝分類名家絶句	石川省斎編(東・万青堂)	1			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 22.8×15.4		句返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・3954	孝堂先生遺稿三巻	山田孝堂著 山田源太郎窪田脩佐校(大・窪田脩佐)	2			明治28刊	1895	和紙袋綴刊本 26.6×15.0		句(一部白) 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・3955	黄葉夕陽村舎詩	菅晋師礼卿	2					刊本 25.4×16.7	詩集。8巻。付録2巻。5冊。菅茶山撰 弘化4年刊。著者は 備後神辺の人。京都により古文辞学・医学を学び、のち朱子学に転じた。茶山が詠んだ漢詩より2413首を集めた詩集。＊黄葉夕陽村舎は 塾名//大辞典(平凡社)	送返	H30-05
明倫・3956	黄葉夕陽村舎詩(後編)	菅晋師礼卿(大・河内屋儀助等)	4			文政6刊	1823	刊本 25.5×17.4	詩集。8巻。付録2巻。5冊。菅茶山撰 弘化4年刊。著者は 備後神辺の人。京都により古文辞学・医学を学び、のち朱子学に転じた。茶山が詠んだ漢詩より2413首を集めた詩集。＊黄葉夕陽村舎は 塾名//大辞典(平凡社)	返 「堤氏文庫」の印あり。 4～「大正十年七月購之於大坂」の墨書あり。	H30-05
明倫・3957	黄葉夕陽村舎詩一〇巻	菅晋師礼卿(大・河内屋喜兵衛等)	5			弘化4刊	1847	和紙袋綴刊本 25.1×17.7	詩集。8巻。付録2巻。5冊。菅茶山撰 弘化4年刊。著者は 備後神辺の人。京都により古文辞学・医学を学び、のち朱子学に転じた。茶山が詠んだ漢詩より2413首を集めた詩集。＊黄葉夕陽村舎は 塾名//大辞典(平凡社)	返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・3958	黄葉夕陽村舎詩	菅茶山著	2					刊本 25.2×16.4	詩集。8巻。付録2巻。5冊。菅茶山撰 弘化4年刊。著者は 備後神辺の人。京都により古文辞学・医学を学び、のち朱子学に転じた。茶山が詠んだ漢詩より2413首を集めた詩集。＊黄葉夕陽村舎は 塾名//大辞典(平凡社)	送返	H30-05
明倫・3962	梧園詩話	細川潤淵叟著(東・西川忠亮)	1			明治37刊	1904	和紙袋綴刊本 22.9×14.6		句返	H27-05
明倫・3963	鼓岳遺稿	高取伊好著(佐賀・高取伊好)	1			大正4刊	1915	和紙袋綴刊本 22.0×15.0		句	H27-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・3964	鼓岳遺稿	高取伊好編 徳永絃鼎卿 谷口登季草校 (佐賀・高取伊好)	1			大正4刊	1915	和紙袋綴刊本 22.1×15.0		句表紙見返しに「丁卯之度 永笠静雄氏所贈 長友蔵」の墨書あり。	H27-05
明倫・3967	古今名詩選	潭水遊芸子六氏選 書林余明汝正梓 (京・植村藤右衛門)	1			文化14刊	1817	和紙袋綴刊本 22.5×15.3		送返	H27-05
明倫・3968	湖山消閑集二巻	小野湖山著	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 23.2×14.2		返 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・3969	湖山老後詩二巻	小野湖山著 石橋増吉編 (大・石橋増吉)	2			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 25.8×14.3		返	H27-05
明倫・3970	湖山近稿二巻	小野湖山著	1			明治10刊	1870	和紙袋綴刊本		返 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・3971	湖山近稿	小野湖山著	1			明治10刊	1870	和紙袋綴刊本 23.2×14.2		返 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・3974	古桐朗玉	福井清司編 (大・福井書肆)	1					和紙袋綴刊本 19.8×12.7			H27-05
明倫・3975	湖梅庵桃田園雑興完	西島蘭溪著	1					和紙袋綴刊本 22.6×15.1		送返 「桴水筑文庫印」あり。	H27-05
明倫・3976	湖梅庵桃田園雑興	坤斎居士著(西島蘭溪)	1					和紙袋綴刊本 22.7×15.1		送返	H27-05
明倫・3977	湖梅庵田園雑興	西島蘭溪著	1			天保2序刊	1831	和紙袋綴刊本 22.8×14.6		返	H27-05
明倫・3978	湖梅庵田園雑興	坤斎居士著(西島蘭溪)	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.2		句返 「水筑家蔵書記」「桴水筑文庫印」あり。	H27-05
明倫・3979	困記七巻	東敬治著 (東・陽明学会)	2			大正12刊	1924	和紙袋綴刊本 22.6×14.7		句返	H27-05
明倫・3980	困記続録	東敬治著 (東・陽明学会)	1			大正12刊	1924	和紙袋綴刊本 22.6×14.6		句返	H27-05
明倫・3981	坤斎詩存	西島長孫元齡著 中村益公議 足立俊君明校	1			天保11刊	1840	和紙袋綴刊本 22.7×15.0		送返 下巻(3982をみよ) 「水筑家蔵書記」の印あり。 裏表紙見返しに「桴秋月」の墨書あり。	H27-05
明倫・3982	坤斎詩存三巻	西島長孫元齡著 男周道如砥・津田致令士春校	2			天保11刊	1840	和紙袋綴刊本 22.7×14.9		返 「水筑家蔵書記」の印あり。 1～裏表紙見返しに「桴秋月」の墨書あり。 2～裏表紙見返しに「嵯峨月」の墨書あり。	H27-05
明倫・3983	今世名家文鈔八巻		5			嘉永2刊	1849	和紙袋綴刊本 22.0×15.5	8巻・僧月性著。諸家の漢文を撰集したもの。嘉永2年編者清狂の凡例あり。/国書解題/	句返 外題直書(ペン書)「今世名家文鈔」 巻一～四、六巻(3985、3986をみよ 蔵書印から一揃いと考えられる 全8巻のうち5巻のみ欠) 蔵書印「秋月家蔵書印」「小田郁印」	H27-05
明倫・3984	今世名家文鈔	(江・伊丹屋善兵衛等)	8			嘉永2序刊	1849	和紙袋綴刊本 22.4×15.2	8巻・僧月性著。諸家の漢文を撰集したもの。嘉永2年編者清狂の凡例あり。/国書解題/	句返 全8巻(巻数は枝番順) 題箋有3984-1は「今世名家文鈔 小竹 一」枝番7.8は外題無(題箋欠) 蔵書印「白眉堂印」「高鍋図書館蔵書印」	H27-05
明倫・3985	今世名家文鈔	野田笛清著 (大・河内屋吉兵衛等)	1			安政2刊	1855	和紙袋綴刊本 22.1×15.5	8巻・僧月性著。諸家の漢文を撰集したもの。嘉永2年編者清狂の凡例あり。/国書解題/	句返 八巻(3983、3986をみよ) 蔵書印「秋月家蔵書印」「小田郁印」	H27-05
明倫・3986	今世名家文鈔	野田笛清著	1					和紙袋綴刊本 22.0×15.5	4冊・僧月性の編。権崎小竹(巻1-2)、斎藤拙堂(巻3-4)、阪井虎山(巻5-6)、野田笛清(巻7-8)の文を収めている。/日本漢文学辞典/	句返 七巻(3983、3985をみよ) 蔵書印「秋月家蔵書印」「小田郁印」	H27-05
明倫・3987	斎居感興二十首	山崎柯考註	2			明暦4刊	1658	和紙袋綴刊本 27.5×19.8		送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-05
明倫・3988	雑字類編	柴貞毅小輔重修 辻言恭子礼校字 (大・河内屋卯助等)	1					和紙袋綴刊本 22.7×16.0	漢文作法書。7巻。柴野栗山(邦彦)著。7巻。明和6年刊。初学者が漢文を作る資料にするための一種の索引。天文・地理・時令等18部門に分け、国語に漢字を当てたもの/国書解題/大辞典(平凡社)	「城陰黒水蔵書」「小田郁印」あり。	H27-05
明倫・3991	雑事類編七巻	柴野栗山(汎愛堂)	1					和紙袋綴刊本 22.2×15.5	漢文作法書。7巻。柴野栗山(邦彦)著。7巻。明和6年刊。初学者が漢文を作る資料にするための一種の索引。天文・地理・時令等18部門に分け、国語に漢字を当てたもの/国書解題/大辞典(平凡社)		H27-05
明倫・3992	雑事類編七巻	柴貞毅重修 辻言恭子校字 (大・伊丹屋善兵衛等)	1					和紙袋綴刊本 22.2×15.6	漢文作法書。7巻。柴野栗山(邦彦)著。7巻。明和6年刊。初学者が漢文を作る資料にするための一種の索引。天文・地理・時令等18部門に分け、国語に漢字を当てたもの/国書解題/大辞典(平凡社)		H27-05
明倫・3993	雑事類編七巻	柴野栗山籍(東・柳原喜兵衛等)	2			明治9刊	1876	刊本 21.8×15.4	漢文作法書。7巻。柴野栗山(邦彦)著。7巻。明和6年刊。初学者が漢文を作る資料にするための一種の索引。天文・地理・時令等18部門に分け、国語に漢字を当てたもの/国書解題/大辞典(平凡社)	「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H30-05
明倫・3994	棧雲峽雨詩草	竹添進一郎著 (東・中清熊象)	1			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 23.3×15.0		句返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・3996	山陽遺稿	頼山陽著	1					刊本 25.2×17.5	江戸後期の儒学者、詩人の頼山陽(1780-1832)の詩と文を集めている。文10巻、詩7巻(596首)。拾遺1巻。頼山陽著。天保12年刊。/大辞典(平凡社)/日本漢文学大辞典	句返 「秋月家蔵書印」あり。	H30-05
明倫・3998	山陽遺稿六巻	頼山陽著 (大・山本重助)	5			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 18.9×12.5	江戸後期の儒学者、詩人の頼山陽(1780-1832)の詩と文を集めている。文10巻、詩7巻(596首)。拾遺1巻。頼山陽著。天保12年刊。/大辞典(平凡社)/日本漢文学大辞典	返 「小島文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4002	山陽遺稿七巻	頼山陽著 (大・河内屋徳兵衛等)	2			天保12刊	1841	刊本 25.1×17.1	江戸後期の儒学者、詩人の頼山陽(1780-1832)の詩と文を集めている。文10巻、詩7巻(596首)。拾遺1巻。頼山陽著。天保12年刊。/大辞典(平凡社)/日本漢文学大辞典	返 「田邨氏蔵書印」あり。	H30-05
明倫・4003	山陽詩鈔八巻	頼山陽著 後藤機校(峽・菱屋孫兵衛)	4					和紙袋綴刊本 25.4×17.6	江戸後期の儒学者、詩人の頼山陽(1780-1832)の漢詩集。8巻。頼山陽著。天保4年刊。著者の13歳から46歳まで(寛政5年～文政8年)の詩を集めたもの。/大辞典(平凡社)/日本漢文学大辞典		H27-05
明倫・4004	山陽詩鈔八巻	頼山陽著 後藤機校(大・河内屋徳兵衛等)	2			天保4刊	1833	刊本 25.5×17.9	江戸後期の儒学者、詩人の頼山陽(1780-1832)の漢詩集。8巻。頼山陽著。天保4年刊。著者の13歳から46歳まで(寛政5年～文政8年)の詩を集めたもの。/大辞典(平凡社)/日本漢文学大辞典	句返 「田邨氏蔵書印」あり。	H30-05
明倫・4006	山陽文録全	頼山陽著 鈴木重義編 (東・甘井堂)	1			明治12刊	1879	和紙袋綴刊本 22.4×15.1	*山陽は江戸後期の儒学者、詩人の頼山陽(1780-1832)のこと//日本漢文学大辞典	句返	H27-05
明倫・4007	詩韻精英七巻	池田親輔 (大・青木恒三郎)	2			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 14.7×9.3		白	H27-05
明倫・4009	詩語碎金	泉要士徳編 石作貞士幹訂正	1					刊本	詩を作るための参考書。漢詩に用いられる文字を集め四季で分けたもの。漢詩用の言葉には片仮名で読みを附す。(※安永5年、延岡藩主内藤政隆の序を有し、序などによれば政隆が泉要士徳らに編輯させたものである。)(「日向ものしり帳」(石川恒太郎著)より)		H27-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・4013	詩仙堂志	(京・北村太助等)	4			寛政9刊	1797	和紙袋綴刊本 25.9×18.2		白	H27-05
明倫・4014	紫灘遺稿	垂井重明輯 (東・集成館)	1					和紙袋綴刊本 18.4×12.2		句 裏表紙見返しに「紫灘遺稿上下二巻明治六年久留米北川氏所贈 堤長発蔵」の墨書あり。	H27-05
明倫・4015	詩伝大全		3					刊本 23.2×15.5	* 詩集伝(詩伝)は朱熹の著 それまでの古注(歐陽修「詩本義」)からの道徳的解釈に対して、人情のあるがままに基づいて詩経本来の心を探った書。//	送返 「大塚」印あり。	H30-05
明倫・4016	(近世)詩文幼学便覧上・下巻	三尾重定編 (東・松井方景)	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 10.9×15.4		送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H27-05
明倫・4017	松鶴遊齡集	谷謹一郎編輯 (東・谷謹一郎)	1			明治41刊	1908	和紙袋綴刊本 23.6×13.5		句	H27-05
明倫・4018	松鶴遊齡集二巻		1					和紙袋綴刊本 23.6×13.4		句	H27-05
明倫・4019	省軒文稿	亀谷行(東・榎原友吉)	2			明治35刊	1902	和紙袋綴刊本 24.0×15.0		句返 「堤氏文庫」の印あり。	H29-05
明倫・4020	脩斎遺稿	福島遼著(宮崎・福島遼)	2			明治32刊	1899	和紙袋綴刊本 23.0×14.6		白	H27-05
明倫・4022	小竹斎詩抄五巻	篠崎羽著 (大・河内屋新治郎等)	5			安政7刊	1860	和紙袋綴刊本 25.6×18.0		返 「白眉堂印」あり。	H27-05
明倫・4023	小品文鈔三巻	土屋栄編 (東・篠崎才助・土屋栄)	6			明治10・15刊	1877	和紙袋綴刊本 21.9×13.5		「第五大区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。 1～「高鍋学校所有」の墨書あり。 2～裏表紙見返しに「高鍋」の墨書あり。 3～表紙見返しに「高鍋学校蔵書」の朱書あり。巻末に「高鍋学校御中」の墨書あり。	H27-05
明倫・4024	正保野史		1			文久3写	1863	和紙袋綴写本 25.0×17.4		白	H27-05
明倫・4025	諸家詩文集		1					和紙袋綴写本 24.2×16.8		送返 表紙見返しに「此書家君集録シ玉フ所也 水筑勲 謹書」の墨書あり。	H27-05
明倫・4026	如不及斎文鈔三巻	藤森大雅著	2			明治3刊	1870	刊本 25.7×16.6		句返 「堤氏文庫」の印あり。	H30-05
明倫・4027	如不及斎近文録	(日高虎蔵)	1			安政7写	1860	和紙袋綴写本 25.1×17.5		白 裏表紙見返しに「安政庚申三月廿二日於麻布邸写 日高虎蔵」の墨書あり。	H27-05
明倫・4028	新選名家文集三巻	中村江洲間 根岸平引編輯 (東・江島喜兵衛)	2			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 18.2×12.2			H27-05
明倫・4029	新增愚按口訣集	土佐道寿編集 中山三柳新增	1					和紙袋綴刊本 27.3×19.2		送返	H27-05
明倫・4030	新編江湖月集略註		2			寛永9刊	1632	和紙袋綴刊本 27.5×18.7		送返	H27-05
明倫・4031	垂加草三〇巻附録	山崎間斎著	12					刊本 26.6×18.7	山崎間斎著*「垂加草全集」は33巻。山崎嘉(間斎)著。神道思想精神を基調とする著者の遺稿を集め、先著「文会筆録」と合刻して全集と名付けたもの。享保6年植田成章の跋、天明3年刊。*垂加は著者の号/國書解題/大辞典(平凡社)	送返 「城氏」の印あり。 4・5・9・12～「明倫堂蔵書記」の印あり。	H30-05
明倫・4032	垂加文集拾遺三巻	山崎間斎(山田屋三四郎)	1			享保9刊(跋)	1724	和紙袋綴刊本 28.5×18.8	13巻。。江戸の儒者、山崎嘉(間斎)著。正徳4年刊。神道に基づく著者の文集 正徳5年に続集3巻、享保9年に拾遺3巻刊行 *垂加は著者の号/國書解題/大辞典(平凡社)	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-05
明倫・4033	酔石先生遺稿		1					和紙袋綴刊本 26.2×15.2		白 「堤氏文庫」の印あり。 裏表紙見返しに「贈呈 堤長発君」	H27-05
明倫・4034	酔石先生遺稿	池辺吉太郎編 (東・池辺吉太郎)	1			明治36刊	1903	和紙袋綴刊本 26.2×15.3		白 表紙見返しに「丁未之秋於東京受領 長発」の朱書あり。 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4035	静寄軒集附録	尾藤孝肇	3					和紙袋綴写本 23.8×15.4	*「静寄軒文集」は12巻7冊。尾藤孝肇(静寄軒は別号)の著。著者の文集。/國書解題/	白	H27-05
明倫・4036	静寄軒集附録	尾藤孝肇	5					写本 23.5×16.3	*「静寄軒文集」は12巻7冊。尾藤孝肇(静寄軒は別号)の著。著者の文集。/國書解題/	白 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H30-05
明倫・4039	精里二集抄二巻	古賀精里著 (浪華修弼等)	2			文化15刊	1818	和紙袋綴刊本 25.7×17.8	著者の古賀精里は江戸時代後期の儒学者。//	句 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-05
明倫・4040	星巖丁集五巻	斎藤謙撰	2			天保5刊	1834	和紙袋綴刊本 25.9×16.0		送返	H27-05
明倫・4041	星巖戊集	梁緯公因	1					刊本 24.7×17.2		送返 「堤氏文庫」の印あり。	H30-05
明倫・4042	星巖集	梁緯公因	9					刊本 24.8×17.2		句送返	H30-05
明倫・4043	征露戦捷詩三巻	石橋教編	3					和紙袋綴刊本 23.7×13.4		白	H27-05
明倫・4044	精里初集抄三巻	古賀精里著 (燈季暁等)	3			文化14刊	1817	和紙袋綴刊本 25.7×17.1	著者の古賀精里は江戸時代後期の儒学者。//	句 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-05
明倫・4045	馨山存稿	仙石政因著 男政敬編 (東・仙石政敬)	1			大正2刊	1913	和紙袋綴刊本 22.7×15.1		白 表紙見返しに「大正乙卯口授節多田殿庵所贈殿庵者此著者之旧臣也而我旧君作之序口奇哉 堤長発謹識」の墨書あり。 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4046	精里三集文藁五巻	古賀精里著 (燈季暁等)	5			文政2刊	1819	和紙袋綴刊本 25.8×18.1	著者の古賀精里は江戸時代後期の儒学者。//	句 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-05
明倫・4047	節庵遺稿四巻	宮原潜著 山田純撰(福井・宮原六之助)	2			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 25.6×15.2		句 裏表紙見返しに秋月種樹宛宮原六之助(節庵子息)送り状あり。	H27-05
明倫・4048	絶句類選二一巻	(京・風月庄左衛門等)	1			文久2刊	1862	和紙袋綴刊本 19.6×13.5		送返	H27-05
明倫・4049	絶句類選評本	津阪君裕編輯 男達有功 平松正悠子原校 (大・寺井与三郎)	5			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 18.2×12.4		「泥谷氏印」あり。	H27-05
明倫・4050	雪鴻紀錄二巻(浮桂存稿附)	田口文之	1			安政3刊	1856	和紙袋綴刊本 25.7×16.6		白 「高月鈴木文庫之印」あり。 裏表紙見返しに「種樹公子所賜 相鼠生」の墨書あり。	H27-05
明倫・4051	攝西六家詩鈔六巻	安積良斎撰	5			嘉永2刊	1849	刊本 25.0×17.5		句返	H30-05
明倫・4052	攝東七家詩鈔七巻	篠崎羽撰 (江・須原屋茂兵衛等)	5			嘉永2刊	1849	刊本 25.0×17.7		句返	H30-05
明倫・4053	潜庵遺稿	春日仲義著 春日昇一郎編輯 (東・青木恒三郎)	1			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 20.1×13.4		句 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・4054	樺海一瀾	今北洪川著 (山口・阿部準輔)	1			明治9刊	1876	刊本 22.4×15.8	今北洪川(1816-1892)禪師が周防岩国藩主吉川侯のために信言をもって禅を説いたもの。文久3年に書かれた。(ネット)//	句返 「堤氏文庫」の印あり。	H30-05
明倫・4055	樺海一瀾二巻	今北洪川著 (山口・阿部準輔)	2			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 25.5×17.8	今北洪川(1816-1892)禪師が周防岩国藩主吉川侯のために信言をもって禅を説いたもの。文久3年に書かれた。(ネット)//	句返	H27-05
明倫・4056	樺林句集	英朝禪師編輯 (愛知・文光堂)	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.7	名句集。大徳寺の東陽英朝禪師が、禅の修行のよすがに編んだ名句集で、そのなかには禅籍から拾い集められた禅味ゆたかな名文句が四千も集められている。(ネット)//	送返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4058	樺林句集	矢野平兵衛翻刻(愛知・矢野平兵衛)	1			明治22刊	1889	和紙袋綴刊本 22.5×15.2	名句集。大徳寺の東陽英朝禪師が、禅の修行のよすがに編んだ名句集で、そのなかには禅籍から拾い集められた禅味ゆたかな名文句が四千も集められている。(ネット)//	送返	H27-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・4059	釋林句集	英朝神師編輯 (愛知・松屋書店)	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.2	名句集。大徳寺の東陽英朝神師が、禅の修行のよすがに編んだ名句集で、そのなかには禅籍から拾い集められた禅味ゆたかな文句が四千も集められている。(ネット) //	送返	H27-05
明倫・4060	仕傳堂文集	綿徳候朝宗著 (大・河内屋茂兵衛等)	11			万延2刊	1861	和紙袋綴刊本 25.1×18.0		句返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4061	宋元明鑑紀奉使抄	吉田松陰著 (長門・松下村塾蔵版)	2			慶応4刊	1868	和紙袋綴刊本 22.5×15.6		句送返	H27-05
明倫・4062	雙雀亭自著叢刻	長井行著 (東・長井早苗)	1			大正3刊	1914	和紙袋綴刊本 23.7×15.6		句	H27-05
明倫・4063	蔵名山房文初集	岡千切	1					和紙袋綴刊本 23.0×14.8		句 「勝浦氏蔵書記」の印の「蔵書記」の文字が「所贈」に訂正されている。「堤」(丸印)の訂正印あり。巻末に「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4064	息軒遺稿四卷	安井息軒著	1					和紙袋綴刊本 22.4×14.9	4巻。日向の儒者安井息軒著。著者の漢文集。のべ97編を収集。川田剛芳野世育等の序をふし、明治11年出版。//	句返	H27-05
明倫・4065	続皇朝百家論文鈔	沖冠嶺編集 (東・藤井利八)	3			明治17刊	1884	和紙袋綴刊本 22.5×15.0		句返	H27-05
明倫・4066	続皇朝百家論文鈔	沖冠嶺正脩編集	1					和紙袋綴刊本 22.4×15.0		句返	H27-05
明倫・4067	続垂加文集三卷	山崎闇斎(山田屋三四郎)	1			正徳6刊	1716	刊本 28.0×18.5	山崎闇斎著。＊垂加文集は神道に基づく著者の文集。正徳5年に続集3巻、享保9年に拾遺3巻刊行 ＊垂加は著者の号//	「明倫堂蔵書記」の印あり。	H30-05
明倫・4068	続太平楽府	猪飼五九郎著 (尾計屋方七等)	1					刊本 18.0×12.0		送返	H30-05
明倫・4069	曾史抄二卷	大槻如電編集	2			明治30刊	1897	和紙袋綴刊本 22.7×14.9		句送返 「高鍋学校印章」あり。	H27-05
明倫・4070	大統歌	(宮崎・都城県小学館)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 21.7×15.0	朝廷国家の歴史を初學者用に四字句の歌にしたもの。塩谷世弘著。神武天皇以来、後水尾天皇に至る歴代の皇統及び朝廷国家の大事績等を順次四字句に歌作して、初学の誦読に便し、歴史の大綱を教示したもの。凡て528句2112あり。嘉永4年自序あり。/国書解題/	送返 「橋河辺文庫印」あり。	H27-05
明倫・4071	大統歌		1					和紙袋綴刊本 21.7×14.9	塩谷世弘著。神武天皇以来、後水尾天皇に至る歴代の皇統及び朝廷国家の大事績等を順次四字句に歌作して、初学の誦読に便し、歴史の大綱を教示したもの。凡て528句2112あり。嘉永4年自序あり。/国書解題/	白 「橋河辺文庫印」あり。	H27-05
明倫・4072	大統歌	塩谷世弘(宮崎・都城県小学館)	17			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 21.7×14.9	塩谷世弘著。神武天皇以来、後水尾天皇に至る歴代の皇統及び朝廷国家の大事績等を順次四字句に歌作して、初学の誦読に便し、歴史の大綱を教示したもの。凡て528句2112あり。嘉永4年自序あり。/国書解題/	送返 「上江小学高鍋」の印あり。 6～裏表紙見返しに「明倫堂」の墨書あり。	H27-05
明倫・4078	譚傳四卷	依田学悔著 杉山令三校 依田貞継辨雨合評(東・前田圓)	2			明治18刊	1885	和紙袋綴刊本 23.5×15.6		句返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4079	談数	依田百川学悔著(東・吉川半七)	2			明治33刊	1900	和紙袋綴刊本 27.3×17.8		句返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4080	竹外二十八字詩	諸家合評	1					和紙袋綴刊本 22.6×13.8	2巻。藤井啓(竹外)著。著者の七絶を集めたもの。嘉永7年森田口(益?)の序あり。安政5年刊。/国書解題/	送返 「日向高鍋佚神代文印」あり。	H27-05
明倫・4081	竹外二十八字詩	藤井啓(竹外)著 江馬聖欽校	1					和紙袋綴刊本 12.4×8.7	2巻。藤井啓(竹外)著。著者の七絶を集めたもの。嘉永7年森田口(益?)の序あり。安政5年刊。/国書解題/	送返	H27-05
明倫・4084	中唐一〇家絶句	館機枢卿編録	1					刊本 22.0×14.5		送返 「田邨氏蔵書印」あり。 裏表紙見返し「田村質勝」の墨書あり。	H30-05
明倫・4085	釣詩亭百絶	山崎如山著 (東・泉屋吉兵衛)	1			文政5刊	1822	刊本 15.6×10.2	山崎闇斎著。//	白	H30-05
明倫・4086	通語一〇巻		2					和紙袋綴写本 23.3×16.0		白	H27-05
明倫・4087	讀居詩存二卷	藤田錦湖著 門生等校 (京・近江屋宇兵衛等)	2					和紙袋綴刊本 22.0×13.6		句送返 「日州高鍋藩士 黒水礼二郎所蔵」の墨書あり。	H27-05
明倫・4088	墳詩図譜	竹田主人編 亀陰老父校	1					和紙袋綴刊本 18.8×12.8	幼学作詩本。1冊。『花月朗情筆』ともいう。江戸時代後期の南画(文人画)家田能村孝憲(竹田)著。文化2年著。各題に中国の清人の例を示し、平仄字句填補を図解する。/国書解題/大辞典(平凡社)	送返 「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H27-05
明倫・4089	天保三十六家絶句	静一道人三上恒九如編録 (大・河内屋儀助等)	2			天保9刊	1838	刊本 22.3×15.3		送返 「秋月家蔵書印」あり。	H30-05
明倫・4090	宕陰存校	塩谷世弘著 (東・山城屋政吉)	4			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 24.9×17.2		句返 「宮崎県宮崎上別府若山蔵六」の印あり。	H27-05
明倫・4091	藤公詩存	末松謙澄編 (東・大橋新太郎)	1			明治43刊	1910	和紙袋綴刊本 23.4×15.8		句	H27-05
明倫・4092	唐詩解頤	淡海笠巖常著	1					刊本 22.4×15.7	* 唐詩選は中国、明代に作られた唐詩の選集。7巻。編者は李攀竜とされているが編者未詳というのが定説。初・盛・中・晩の四唐にわたり126人、400余首を収録。//	送返	H30-05
明倫・4094	唐詩選国字解絶句	(壹隠居)	1					和紙袋綴写本 24.5×15.5	唐詩選国字解は唐詩選の注釈書。7巻。服部元喬撰。林元主編。寛政3年刊。唐詩選の中より128家の作465首を抄して註解する。//	「大塚」印あり。	H27-05
明倫・4095	唐宋廿六名家文鈔四卷	寺倉梅太郎輯 (大・前川善兵衛)	4			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 22.7×15.1		句返	H27-05
明倫・4098	東遊堆字韻詩	中島高者 堤正勝等評	1			明治21刊	1888	和紙袋綴刊本 16.0×9.1		白 「堤氏」丸印あり。	H27-05
明倫・4099	読感興詩	方遼志斎	1					和紙袋綴写本 24.1×16.1		送返	H27-05
明倫・4100	読左筆記	増島固稿	3					和紙袋綴写本 23.4×15.7		白 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-05
明倫・4101	読左筆記	増島固稿	1					和紙袋綴写本 23.5×16.5		白 「財津蔵書」の印あり。	H27-05
明倫・4102	読史問話二巻	浅田東園著 (東・浅田恭間)	2			明治24刊	1891	刊本 25.7×15.0		句	H30-05
明倫・4103	得聞瑣録	憲江老漁著	1					和紙袋綴刊本 21.7×12.8		句 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4104	南郭先生文集四編	服部元喬子遺著 男雄仲英輯(江・小林新兵衛)	3			宝暦8刊	1758	和紙袋綴刊本 27.0×17.7	* 南郭とは服部元喬のこと。* 「南郭文集」は40巻服部元喬著。著者の漢文集。巻頭に著者の師牧生但徠の序巻末には源頼順の南郭墓碑(略伝)をのせる。/国書解題/大辞典(平凡社)	句 「明倫堂蔵書印」あり。 2～裏表紙見返しに「学校御用」の墨書あり。 3～裏表紙に「学校御用書物」の墨書あり。	H27-05
明倫・4106	南郭先生文集一〇巻	服部元喬子遺著 望三英君彦輯 膝元啓維通校(江・須原新兵衛)	6			享保12刊	1727	刊本 26.0×17.3	* 南郭とは服部元喬のこと。* 「南郭文集」は40巻服部元喬著。著者の漢文集。巻頭に著者の師牧生但徠の序巻末には源頼順の南郭墓碑(略伝)をのせる。/国書解題/大辞典(平凡社)	句送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H30-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・4109	二家精選湖山樓詩	小野長原○著 清愈擬曲園選 内田誠成抄録 (東・朝野新聞社)	1			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 19.8×12.4		白 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・4110	日本人勝詩選六集	行徳王江著 (東・青木恒三郎)	3			大正2刊	1913	和紙袋綴刊本 14.5×9.7		句返	H27-05
明倫・4111	錦千堆	耶岡美麻編輯 (東・耶岡美麻)	1			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 23.1×15.6		句	H27-05
明倫・4112	二十七松堂集抄	曲江廖熙著	1					和紙袋綴写本 23.8×15.8	*二十七松堂集は漢籍、廖熙著。//	白 「田邨氏蔵書印」あり。	H27-05
明倫・4113	二十七松堂集一六巻	魏和公閑・廖熙 柴舟甫著 山 田次郎八校点 (岡田屋嘉七等)	2					刊本 23.1×15.5	*二十七松堂集は漢籍、廖熙著。//	返 「堤氏文庫」の印あり。	H30-05
明倫・4115	二十七松堂集一〇巻	曲江廖熙柴舟 甫著	5					和紙袋綴刊本 23.0×15.5	*二十七松堂集は漢籍、廖熙著。//	句送返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4116	日本詠史新楽府	海峯高主人著 (京・文石堂)	1			明治		和紙袋綴刊本 18.5×12.5		句送返 「小田部印」「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・4118	日本英跡題図詩史二巻	阪谷明直閑 石井南橋評 中山政陽編輯 (東・岩崎好正)	2			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 19.1×12.6		句送返 「日向高鍋城氏図籍」「鈴木書記」の印あり。	H27-05
明倫・4119	佩弦齋外集	青野馬延光伯 卿著	1					和紙袋綴刊本 25.1×17.1	2巻。青山延光著。4巻、2冊。慶応3年刊。小早川隆景・蒲生氏郷・加藤清正・加藤嘉明の4人の伝を漢文で記す/大辞典(平凡社)/	句 「柿原蔵書」の印あり。	H27-05
明倫・4120	梅潭詩鈔上・下巻	杉浦誠求著 田辺新・岡崎杜 同選 (東・杉 浦誠三)	2			明治35刊	1902	和紙袋綴刊本 25.7×13.4		白	H27-05
明倫・4121	佩文齋詠物詩選二編四巻	館機極鈔録	1					和紙袋綴刊本 9.5×18.4	佩文齋詠物詩選は4編。清の康熙年間、陳廷敬等奉勅撰。古詩より宋・元・明に至る詩家の作品を収めている。/大辞典(平凡社)/	送返	H27-05
明倫・4122	佩文齋詠物詩選二巻	館極御鈔録 (江・英文蔵等)	1					刊本 9.5×18.4	佩文齋詠物詩選は4編。清の康熙年間、陳廷敬等奉勅撰。古詩より宋・元・明に至る詩家の作品を収めている。/大辞典(平凡社)/	送返 「田邨氏蔵書印」あり。	H30-05
明倫・4123	羽客倡和	木戸有直編 (東・木戸有直)	1			明治33刊	1900	刊本 20.0×13.1		白 「相州鎌倉郡片瀬 秋月榊樹」印あり。	H30-05
明倫・4124	泊園家言	藤沢東○(甫)	1			元治1刊	1864	和紙袋綴刊本 22.7×16.0		句 「裏表紙見返しに「梓杵月」「慶応二年藤澤恒太郎所贈也 水筑節誌」の墨書あり。	H27-05
明倫・4125	白鹿洞揭示資講	(鈴木由房写)	1			天明2写	1782	和紙袋綴写本 24.2×15.5		白 高月鈴木文庫之印」あり。	H27-05
明倫・4126	盤溪詩鈔	大槻清崇(士 広)著	1			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 22.7×15.7	大槻清崇の詩鈔。著者は幕末明治期の蘭学者・砲術家。盤溪は号で名は清崇 * 国書解題の「盤溪文鈔」の説明では、著者の文集、別に詩鈔1巻ありて本書と合刻す。安政5年菊池遼の序を載せて出版。とある (下線部が本書をさしていると思われる。)/国書解題/	句返 「白眉堂印」あり。	H27-05
明倫・4131	復堂遺稿二巻	芳野復堂著 原田紀等校	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.1		句	H27-05
明倫・4133	文海指針	川田襄江評点 小暮昌進・白下 寛編次 (東・ 和泉屋半兵衛等)	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.8×13.7		「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4136	碧堂絶句	田辺為三郎著 (東・田辺為三 郎)	1			大正3刊	1914	和紙袋綴刊本 22.7×14.2		送返	H27-05
明倫・4137	方谷遺稿	山田球著 三 島殷編 (東・ 山田準)	1			明治23刊	1890	和紙袋綴刊本 22.9×15.3		句 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4139	鳳文会萃	石川鴻編輯 (東・鳳文館)	1					和紙袋綴刊本 20.1×11.5		句返 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・4140	亦奇録	小原鉄心	1					和紙袋綴刊本 18.5×12.4		句返 紀行 「堤氏文庫」の印あり。	H27-05
明倫・4141	又桃田園雑興	坤齋居士著	1					和紙袋綴刊本 22.5×15.2		送返 「水筑氏蔵書記」「笹水筑文庫印」あり。	H27-05
明倫・4142	無声詩話	金井島洲著 金井之恭編輯 (東・金井之恭)	1			明治16刊	1883	和紙袋綴刊本 19.7×12.1		句返	H27-05
明倫・4143	明治碑文集	佐藤平次郎編 輯	1			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 22.7×15.1		句返	H27-05
明倫・4144	名節録三巻	岡田晴里著 (大・河内屋吉 兵衛等)	3			慶応2刊	1866	刊本 25.5×18.0		句返 裏表紙見返しに「黒水」の墨書あり。	H30-05
明倫・4145	野詩		1					和紙袋綴写本 26.9×19.3		白	H27-05
明倫・4146	遊鬼城山記		1			戊子		和紙袋綴刊本 21.9×12.1		句返 「秋月家蔵書印」あり。	H27-05
明倫・4147	脩斎遺稿	福島遼著 (宮 崎・福島遼)	1			明治32刊	1899	和紙袋綴刊本 23.0×14.6		白	H27-05
明倫・4148	脩斎遺稿全	鮎元家編 福 島遼(脩斎)著 (宮崎・福島遼)	1			明治32年	1899	和紙袋綴刊本 14.6×23.0		白	H27-05
明倫・4149	有真意齋詩藁六巻	龍僊著(桐蔭山 房蔵版)	2		0	同治丁卯		和紙袋綴刊本 24.7×14.5		白	H27-05
明倫・4150	友蘭詩		1					和紙袋綴刊本 23.6×13.3		句	H27-05
明倫・4151	友蘭詩	石橋増官編 (大・石橋増官)	1			明治27刊	1894	和紙袋綴刊本 23.6×13.3		白	H27-05
明倫・4152	幼学詩韻	成徳隣 増長 裕編輯 (江・ 須原屋伊八等)	1			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 21.8×14.6	*「幼学詩韻続」は国語の教科書(* 横須賀市教育研究所資料用教科書目録より) //	「綾部氏蔵書」の印あり。	H27-05
明倫・4154	楽其楽園		1			天保8刊	1837	和紙袋綴刊本 18.1×11.8		白 裏表紙見返しに「桂洲漁人」の墨書あり。	H27-05
明倫・4156	栗園先生詩存	伊藤誠得 三 浦宗春同纂	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 20.3×12.1		句	H27-05
明倫・4157	栗園先生詩存	三浦宗春 伊 藤誠得	1					和紙袋綴刊本 20.3×12.1		句	H27-05
明倫・4158	栗山文集	柴野栗山著 (江・山城屋左 兵衛)	4			天保14刊	1843	和紙袋綴刊本 25.6×17.5	柴野 栗山(しばの りつざん(邦彦)、元文元年(1736年) - 文化4年12月1日(1807年12月29日))は、江戸時代の儒学者・文人。* 栗山堂文集は写本3冊。(国書解題)//	句 「財津蔵書」印あり。	H30-05
明倫・4160	栗山文集六巻		4			天保13刊	1842	和紙袋綴刊本 26.1×18.3	柴野 栗山(しばの りつざん(邦彦)、元文元年(1736年) - 文化4年12月1日(1807年12月29日))は、江戸時代の儒学者・文人。* 栗山堂文集は写本3冊。(国書解題)//	句 「岩佐氏図書印」あり。	H27-05
明倫・4161	李忠定公集鈔二巻	賴山陽著 (大・河内屋吉 兵衛等)	2			文久3刊	1863	和紙袋綴刊本 25.6×18.0		句返 4155を見よ 「白眉堂印」あり。	H27-05
明倫・4162	朗圃文鈔三巻	阪谷素著 阪 田文平編 (東・阪谷次雄)	3			明治18刊	1885	和紙袋綴刊本 23.0×15.2		句返 「財津蔵書」の印あり。	H27-05
明倫・4163	朗圃翁上大原公文	阪谷明圃	1			慶応3写	1867	和紙袋綴写本 28.0×19.8		句 表紙に「黒水長髄蔵」の墨書あり。	H27-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・4167	和語陰陽録大意		1			天保6刊	1845	和紙袋綴刊本 22.6 × 15.8	*「和語陰陽録」は中国の「陰陽録」の和訳本。1巻＊陰陽録(いんじつろく)は中国、明末の代表的な善書(勸善の書)の一つ。/「圖書解題」		H27-05
明倫・4168	和語陰陽文絵抄	明袁了凡著 南里亭其業増補 (大・秋田 屋本右衛門等)	2			文政3刊	1820	和紙袋綴刊本 22.3 × 15.6	*「和語陰陽録」は中国の「陰陽録」の和訳本。1巻＊陰陽録(いんじつろく)は中国、明末の代表的な善書(勸善の書)の一つ。/「圖書解題」		H27-05
明倫・4170	蜚雪軒叢書	近藤元粹詳訂 (大・青木恒三郎)	1			明治25刊	1892	和紙袋綴刊本 20.0 × 13.3		句送	H27-05
明倫・4173	三家妙絶	河寛斎選 男 三亥孔陽 松 則武道侯同校	1					和紙袋綴刊本 22.1 × 15.1		送返	H27-05
明倫・4174	絶句類選	津阪孝編輯 男達 平松正 惣同校	9					和紙袋綴刊本 22.4 × 14.4		送返 「三輪氏蔵」の印あり。	H27-05
明倫・4175	宗忠簡文鈔二卷	藤原信成撰 (抱月堂)	2			安政1刊	1854	和紙袋綴刊本 25.8 × 17.5		句返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-06
明倫・4176	唐詩句解一二卷	入江南〇著	5			享保20刊	1735	和紙袋綴刊本 27.0 × 18.2	*唐詩選は中国、明代に作られた唐詩の選集。7巻。編者は李華竜とされていたが編者未詳というのが定説。初・盛・中・晩の四唐にわたり126人、400余首を収録。//	送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-06
明倫・4177	古詩韻範五卷	武元質著 (京・吉野屋基 助)	3			文化9刊	1812	和紙袋綴刊本 21.9 × 15.4		送返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-06
明倫・4505	ENGLISH GRAMMAR	(東・廣応義塾)	1			明治3刊	1870	和紙袋綴刊本 18.2 × 12.5			H27-06
明倫・4511	NATURAL PHILOSOPHY	MARY・A・SW IFT	1			明治19刊	1886	和紙袋綴刊本 15.6 × 11.2		「高鍋藩」の印、「明倫堂蔵書印」あり。	H27-06
明倫・4518	題不明		2					和紙袋綴刊本 17.5 × 12.1	題不明	27年4月 データの冊数訂正(1→2目録の通り)「明倫堂蔵書印」「第五大区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。 2→「翔鶴堂印」あり。	H27-06
明倫・4520	RUDIMENTA OF GRONDEN DER NEDERDUITSCH E TAAL(新定和蘭文範 前編)		1			安政3刊	1856	和紙袋綴刊本 25.7 × 17.8 50丁		外題直書「新定和蘭文範 前編」表紙見返「安政3年内版八月東洋/新定和蘭文範 前編/ 川越 柳下元良/金子忠範 同校」 ＊オランダ共益会(Maatschappij: tot Nut va n' t Algemeen)刊行のRudimentaの翻刻。(典)洋学史事典。(オランダ語の入門書と思われる)	H27-06
明倫・4523	理学初歩		1					和紙袋綴刊本 15.8 × 11.1 54丁	Lesson Sixteenthより始まる/前任者の備考(又は24年)/	題箋「理学初歩 坤」(乾坤の上下2巻と思われる)全て英文、Lesson Sixteenthより始まり、(第16課:なぜ煙は火から出てきたり、煙突から上がつたりするのか?なぜなら・・・)32課まである。やや挿絵も入る 「明倫堂蔵書印」、「高鍋藩」の印あり	H27-06
明倫・4601	李忠定公奏議選	頼山陽選 (江・山城屋佐 兵衛等)	1			安政4刊	1857	和紙袋綴刊本 25.7 × 17.8	「李忠定公奏議選」は江戸後期の儒学者、詩人の頼山陽の著。＊「李忠定公奏議」は69巻、附録9巻。宋の李綱(李忠定の)こと。撰・邊防・軍政に関する記述が多い。//大辞典(平凡社)	句返 漢籍補遺 「高市図書」の印あり。	H27-06
明倫・4602	陸宣公全集二四卷	唐陸贄撰 石 川安貞註 (江・山城屋佐 兵衛等)	10			寛政2刊	1790	和紙袋綴刊本 25.7 × 17.8		返送 漢籍補遺 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-06
明倫・4603	朱子語類		5					和紙袋綴 刊本 27.1 × 18.1	「朱子語類」は朱熹が門人たちと交わした座談の記録集。1270年、黎靖徳が記録者別の語録を項目別に再編成したものの。全140巻。語類とは類別された語録のこと。(理氣)〈鬼神〉(性理)〈学〉といった30に及ぶ項目の配列は、そのまま朱子学の俯瞰図になっている。//大辭典(平凡社)	句送返 漢籍補遺 「大塚」印あり。	H30-05
明倫・4604	金匱要略淺註補正	漢張仲景原文	1					和紙袋綴刊本 18.0 × 11.3		句 漢籍補遺	H27-06
明倫・4605	黄帝内経素問		3					和紙袋綴刊本 27.5 × 19.7	黄帝内経は中国最古の医学書。素問(基礎理論)と鍼経(実践的)の18巻からなるとされる。黄帝の著といわれるが不明。散逸し、762年唐の時代に王冰の表した『素問』と『靈樞』が伝えられている。//	句送返	H27-06
明倫・4606	(新刊)明医雑著	慈谿・節齋・王 綸著 (京・藤 田弥兵衛開版)	1			正保	1644 ～	和紙袋綴刊本 27.0 × 17.8		送返 「萩原氏蔵籍記」の印あり。	H27-06
明倫・4608	奇〇医述	最尚恒著	1			万治4刊	1661	和紙袋綴刊本 27.3 × 17.8		送返	H27-06
明倫・4609	新撰陶節庵家蔵傷寒	明薛秋節庵陶 華撰	5					和紙袋綴刊本 25.7 × 17.9		送返	H27-06
明倫・4610	医経名数	堀元厚編輯 宇楚貞亮校定	6			享保17写	1732	和紙袋綴写本 26.5 × 18.3		白 「萩原氏蔵書之印」「萩原氏蔵籍記」の印あり。	H27-06
明倫・4611	唐宗八大家文格五卷	明唐荆川原選 川西格輔編次 (東・長野亀七 等)	5			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 20.6 × 13.8		句 「第五大区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。 2～巻末に「日向高鍋学校蔵書」の朱書あり。	H27-06
明倫・4612	唐宗八大家文格纂評五卷	川西格輔編次 片山勲纂評校 定 (京・佐々 木惣四郎等)	4			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 22.1 × 15.3		句送 「第五大区高鍋学校第廿六中学区」の印あり。 2～裏表紙見返しに「明倫堂蔵書」の朱書あり。	H27-06
明倫・4613	東坡先生詩鈔	清周雷蒼 紫 錦川選 朝川 鼎 松井元輔 校	1					和紙袋綴刊本 26.0 × 17.8	*蘇東坡(東坡)とは宋代の士大夫であり、唐宋八大家の一人である蘇軾のこと。//	送返 「財津蔵書」の印あり。	H27-06
明倫・4614	唐韓昌黎外集一〇卷	唐韓愈	3					和紙袋綴刊本 26.1 × 17.6		送返 「明倫度蔵書記」の印あり。	H27-06
明倫・4615	唐柳河東集四五卷	唐柳宗元 明 蔣之超註 鵠 銅信之点 (京・中江文四 郎)	29			寛文4刊	1664	和紙袋綴刊本 26.1 × 17.5		送返 巻2から34欠 「明倫堂蔵書記」の印あり。 12～裏表紙見返しに「明倫堂」の墨書あり。	H27-06
明倫・4616	蘇長公小品四卷	明王納諫編 布川弦五校正 (東都・青雲堂 英文蔵)	2			弘化3刊	1846	和紙袋綴刊本 22.4 × 15.5		巻1・2欠 「白眉堂印」あり。	H27-06
明倫・4617	黄鶴樓銘	(星沙未了居士)	1			光緒2(明治9)刊	1876	和紙袋綴刊本 24.6 × 15.3		白	H27-06
明倫・4618	善惡慶殃篇	(南津田真念 寺)	1			元禄17刊	1704	刊本 22.5 × 16.5		句送返	H30-05
明倫・4619	詩經		1					和紙袋綴刊本 25.5 × 18.0	中国最古の詩歌集。五經の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//		H27-06
明倫・4620	詩經	朱熹集伝	1					和紙袋綴刊本 26.1 × 18.1	中国最古の詩歌集。五經の一つ。孔子以来、儒家の經典とされた。305篇の古詩おめられており、諸国の民謡を集めた(風)、宮廷の音楽(雅)、宗廟の祭祀の楽歌(頌)の三部分から成る。//		H27-06
明倫・4626	東坡策	宋蘇軾	3					和紙袋綴刊本 25.8 × 17.9	蘇東坡文集からその策文のみを抄出し、訓点を施したもの。3巻。藤森大雅著。成立年未詳。蘇東坡とは宋代の士大夫であり、唐宋八大家の一人である蘇軾のこと。//	白	H27-06
明倫・4627	書經	蔡沈集伝	4					和紙袋綴刊本 25.5 × 18.6		句送返 2～5巻在 「堤氏文庫」の印あり。「新井蔵書」の印が「堤氏」の丸印で消されている。	H27-06
明倫・4628	書經	雲川弘毅改訂 山崎嘉点	1					和紙袋綴刊本 25.5 × 18.2	山崎間斎 点//	送返	H27-06

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・4629	韓詩外伝一〇巻	漢韓嬰著 烏宗成校（大・青木恒三郎）	5			明治18刊	1885	和紙袋綴刊本 25.8×18.2		句送返 「高鍋学校印章」あり。	H27-06
明倫・4631	（標題徐伏元補注）蒙球校本	岡白駒箋註	1					和紙袋綴刊本 25.5×18.2		句送返 「堤氏文庫」の印あり。	H27-06
明倫・4634	通俗三国志五〇巻目録		42					和紙袋綴刊本 24.7×16.7	「三国志演義」の翻訳。江戸中期の読本。50巻（國書解題では75巻、大辞典では51巻）。湖南文山訳。元禄2～5年（1689～92）刊。後漢末の中国の大乱を舞台に、群雄蜂起のありさまを描く。中国の小説「三国志演義」を正史である「三国志」を参考にして通俗化し、片仮名交じりに書いたもの。/國書解題/大辞典	送返 小説 「明倫堂蔵書記」の印あり。 「三国志 学校御用」「学校簿用書物」「高鍋中学校御用書物」「高鍋学校 学校御用書」「明倫堂御用書物」などの墨書あり。	H27-06
明倫・4635	通俗三国志三七巻	（京・吉田善兵衛等）	17			正徳6刊	1716	和紙袋綴本 刊本 25.0×17.0	「三国志演義」の翻訳。江戸中期の読本。50巻（國書解題では75巻、大辞典では51巻）。湖南文山訳。元禄2～5年（1689～92）刊。後漢末の中国の大乱を舞台に、群雄蜂起のありさまを描く。中国の小説「三国志演義」を正史である「三国志」を参考にして通俗化し、片仮名交じりに書いたもの。/國書解題/大辞典	送返 小説 「明倫堂蔵書記」の印あり。 4～裏表紙見返し「明倫堂蔵本 宮崎縣」の墨書あり。 5～表紙見返し「学校御用書物」の墨書あり。 10～表紙見返し「日向高鍋学校 御用書物」の墨書あり。	H30-05
明倫・4636	乗槎筆記	（醉六蔵）	1			同治辛未（明治4）	1871	和紙袋綴本 17.9×12.4	播州高砂船頭町徳兵衛再度天竺記/前任者の備考（文は24年）/	白 外題直書「乗槎筆記」（巻頭見返「同治辛未鏡/乗槎筆記」） 巻上	H27-06
明倫・5028	雲上明覧大全	西本願寺光徳府編（京・竹原好兵衛等）	2			文久1刊	1861	和紙袋綴刊本 15.5×11.1	2巻。皇室・皇族・公家等の世系・士族・紋所等を記述したもの。編者不詳。天保8年 * 名産 年々改正/國書解題/	上下二巻 題籤欠 巻頭見返「雲上明覧大全」 蔵書印「福田蔵書」	H27-06
明倫・5030	日本外史三二巻	頼山陽著（京・頼又次郎）	12			明治13刊	1880	和紙袋綴刊本 18.3×12.3	歴史書。22巻。頼山陽(久太郎)著。源平両氏から徳川氏に至る歴史を、司馬遷の「史記」世家の体裁にならいう漢文体で叙述したもの。1800年(寛政12)版後の幽閑中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論贊を加えて26年(文政9)完成。《通鑑》《日本政記》とともに山陽の歴史書3部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/國書解題/大辞典	句返 全二十二巻(12冊)巻数は枝番順 題籤(5030-0のみ欠損無)「頼久太郎著/日本外史叙述したものを、1800年(寛政12)版後の幽閑中に執筆を始め、その後推敲を重ね、論贊を加えて26年(文政9)完成。《通鑑》《日本政記》とともに山陽の歴史書3部作とされる。人物中心の武家興亡史であるが、簡潔・平易な漢文、情熱あふれる名文で叙述された歴史文学ともいえる。刊行は天保7・8年頃とされ、その後弘化川越藩から校刻日本外史が刊、元年に其後頼氏蔵版として増補日本外史が刊行された/國書解題/大辞典」	H27-06
明倫・5031	熊本鎮台戦闘日誌		3					和紙袋綴刊本 22.7×15.2		巻一～三 外題題箋「熊本鎮台戦闘日誌」 明治15年擁有、5031-3に熊本城國添付	H27-06
明倫・5033	西南伝信録	斎藤弘造編輯（回陽樓梓）	1			明治10刊	1877	和紙袋綴刊本 21.5×15.0		と(1～4巻) 蔵書印「若山氏蔵書」挿絵多数有	H27-06
明倫・5035	南洲翁謠所逸話	東郷中介著（鹿・川上孝吉）	1			明治12刊	1878	和紙袋綴刊本 22.7×14.9	東郷中介著。南洲翁とは西郷隆盛のこと。『南洲翁謠所逸話』は西郷隆盛の島での生活を書いたもの。安政6年～の4年間奄美大島での滞居、文久2年～2年間徳之島・沖永良部島での流罪の様子、39話に及ぶ南洲王逸話が書かれている。//	書入「熊本県阿蘇郡古城村 井野生」(印「井野」)	H27-06
明倫・5040	礼服用用図	小杉権輔校正（東・吉川弘文館）	1			明治36刊	1903	和紙袋綴刊本 12.5×18.2	男性の礼服用用図、色刷	故実叢書第三集第六回 外題題箋「故実叢書/禮服用用圖 全」 7丁の絵図	H27-06
明倫・5041	近代女房装束抄		1					和紙袋綴刊本 25.0×18.2	女房の衣装の絵図(柄など)、色刷	外題直書「近代女房装束抄」 女房の衣装の絵図(柄など)	H27-06
明倫・5042	女官装束着用次第		1					和紙袋綴刊本 25.1×18.2	有識故実、女房の着用絵図、色刷	外題直書「故実叢書/女官装束着用次第 全」 女房の着用絵図	H27-06
明倫・5043	尚古鍍色一覽	本間百里輯（東・吉川半七）	2			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 24.8×18.3	武器、鎧の模様の絵図(色刷り)	上下二巻 外題題箋「故実叢書/尚古鍍色一覽 上」 鎧の模様の絵図(色刷り)	H27-06
明倫・5044	織文図会	本間百里撰	2			文政7・文化12刊	1823・1815	和紙袋綴刊本 24.8×18.2		在上・中二巻(下巻欠?) 外題題箋「故実叢書/織文図会 御幸部 初編」(同中編) 織物の柄の絵図(色刷)	H27-06
明倫・5045	服色図解	八幡興一（東・吉川半七）	2			文化13刊・明治35発行	1816・1902	和紙袋綴刊本 24.7×18.3	男性の装束絵図、色刷	在初編・後編 外題題箋「故実叢書/服色図解 初編」(同後編) 男性の装束絵図、色刷	H27-06
明倫・5046	はふりののりかみつまき二巻		2					和紙袋綴刊本 22.3×14.9	葬儀式、葬儀のしきたりなど	上下二巻(かみつまき・しもつまき) 外題直書「葬儀式 上巻」(同下巻)内題「はふりののり」 本文は平仮名で、漢字が小さくルビ状にふられる 蔵書印「福田蔵書」	H27-06
明倫・5048	栄木園家集一〇巻		4					和紙袋綴写本 14.7×11.2		在全10巻 外題直書「栄木園家集」 天保2年～3年写（平(小栗)廣伴）	H27-06
明倫・5049	賀茂翁家集五巻		2					和紙袋綴写本 15.0×11.2	賀茂真淵著。著者の歌文を集めたもの。村田晴海の編集で、文化3年刊。/國書解題/	1・2巻欠(在3～5巻) 外題直書「賀茂翁家集」	H27-06
明倫・5051	連歌新式抄	（長尾平兵衛開版）	1			寛文5刊	1665	和紙袋綴刊本 25.6×17.6	2巻。「連歌新式追加並今案増加」を一句一節毎に註記したもの。寛文5年出版。*「連歌新式追加並今案増加」は1巻。藤原為藤著。応安5年。連歌の式法を記した書。/國書解題/	在全1冊(上下2巻) 外題直書「連歌新式抄 全」 蔵書印「■■■」	H27-06
明倫・5054	重改大学章句僅謄鈔	毛利貞齋	1					和紙袋綴本刊本 25.8×18.5	大学章句は朱熹の「四書集註」のひとつ。大学の注釈書。//	巻之二 句送返 外題直書「大学僅謄鈔」内題「重改大学章句僅謄鈔」 蔵書印「大塚」書入「外嶋田大塚蔵本」	H27-06
明倫・5055	白鹿洞書院揭示考証	淺見綱齋（京・風月莊左衛門）	1			享保16刊	1731	和紙袋綴本 刊本 26.9×18.8		送返 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H30-05
明倫・5056	培根堂達支堂記	三宅尚斎著	1			享保17写	1732	和紙袋綴本写本 23.8×17.5	三宅尚斎著//	白 外題直書「培根堂達支堂記」 巻末に培根堂達支堂図(見取り図)有 「明倫堂蔵書記」の印あり。	H27-06
明倫・5057	古道訓蒙頌	久保幸茲	1					和紙袋綴本刊本 22.7×15.7		送返 外題直書「古道訓蒙頌」 「堺縣学館」(笛返舎塾蔵版・印「堺縣学館」) 巻末書入「明治二年九月拝領 水筑蔵」の墨書あり。水筑が消され、「改為秋月」の墨書あり。	H27-06
明倫・5059	佐倉騒動実記		1					和紙袋綴写本 23.5×16.6		外題直書「佐倉騒動実記」 巻末書入れ「嘉永五子年閏三月調之 小石川■■■町 伊東府庫」 明治十六年十二月神保町/書肆二「■■■購フ堤氏蔵」 蔵書印「堤氏文庫」	H27-06
明倫・5060	日本略史二巻	木村正辞編 那珂通高訂	2					和紙袋綴刊本 21.9×14.6	師範学校編集、文部省刊行の日本歴史教科書。木村正辞編/那珂通高訂。明治8年刊。上下2冊。「史略」の日本史部分を改めて独立し、詳述した教科書。神武天皇から始め、歴代天皇を記述。挿絵も多く取り入れられている。/日本教科書大系/	在全二巻(上下) 外題書入「師範学校編集/日本略史」巻頭見返「師範学校編集/日本略史/明治八年四月 文部省刊行」 挿絵多数	H27-06
明倫・5063	（新統）列女伝		1					和紙袋綴刊本 25.9×18.0		送返 巻之中 外題直書「列女伝 續」内題「新續列女傳」	H27-06
明倫・5064	前賢故実	菊池武保輯著	1					刊本 26.7×15.6		句送返	H30-05
明倫・5065	前賢故実私訓	菊池容斎編輯 飯部雙溪私訓（江・岡村屋庄助等）	1					刊本 26.7×18.7			H30-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫-5066	(増補)宋名臣言行録前集定訳一〇巻	米良石操著 (宇佐・風月亭等)	6			明治11刊	1878	和紙袋綴刊本 23.0×15.8	宋名臣言行録は朱熹の著作//	在全巻(巻首、巻1～10) 外題題箋「増補宋名臣言行録前集定訳」 序①明治12年、序②明治8年、序③明治9年 明治12年跋 (明治11年版権) 蔵書印「堤氏文庫」	H27-06
明倫-5070	改革軍制	山脇正準著	1					和紙袋綴写本 25.0×17.2		外題直書「軍制」内題「改革軍制」 前半10丁は「改革軍制」(山脇治右衛門著/武藤東四郎と黒水寛郎にあてた付記あり) 後半2丁は「兵制改革存意書」(山脇正準著)	H27-06
明倫-5072	人身体理学	坪井信良校閱 松山誠二纂述 (松山氏)	1			明治15刊	1882	和紙袋綴刊本 22.4×15.0		巻之上 外題無、巻頭見返「人身体理学 (掃因) 全三巻/改正再板明治十五年十一月/松山氏蔵」 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H27-06
明倫-5073	和蘭雅		1					和紙袋綴刊本 22.0×15.6	江戸前期の辞書。8巻。貝原好古著。元禄元年成、同7年(1694)刊。中国の「蘭雅」に倣って日本で用いられる漢語を意義によって24門に分類し、音訓を示し、漢文で注解を施したものの。ほかに関連を附録とする。＊蘭雅とは中国の字書で十三経の一つ。/『國書解題/大辞典(平凡社)』	句返逐 巻之五 外題無(表紙欠)、内題「和蘭雅」 蔵書印「明倫堂蔵書記」	H27-06
明倫-5074	詞八衛二巻	本居春庭 (大河内屋和助等)	1					和紙袋綴本刊本 25.0×17.7	本居春庭著。2冊。文化3年成立。文化5年刊。著者は本居宜長の長男。本書は宜長の古語動詞活用研究の集大成。活用形と活用図の形態で簡明に記している。また、それぞれの活用型に属する動詞も列挙している。その後の活用研究に多くの影響を与えた。//本居宜長事典	上巻欠 外題題箋「詞乃やちまた 下」内題「詞八衛」 本文末記載の年、文化三年 蔵書印「上江小学高鍋」	H27-06
明倫-5075	(国文)中学読本	逸見仲三郎編輯 (東・吉川半七)	2			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 23.2×15.6	＊国語の教科書＊逸見仲三郎編『国文中学読本』(明治25年/1892)は尋常中学校国語教科書//	初巻 外題直書「国文/中学読本 初巻」巻頭見返し・内題同 明治26年 1～「日向高鍋城氏因縁」の印あり。 2～「高鍋学校印章」あり。	H27-06
明倫-5078	むつのゆかり		1					刊本 22.3×15.1		「堤氏文庫」の印あり。	H30-05
明倫-5081	(高等小学)女子修身訓	(東・金港堂書籍)	1			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 22.2×14.5	＊修身とは旧制の小・中学校などの教科の一つ。教育勅語をよどころとする道徳教育を授けたもの。//	巻三 外題無、内題「高等小学/女子修身訓 児童用巻三」 明治34年刊 蔵書印「田邨氏蔵書印」	H27-06
明倫-5082	中等倫理書	井上円了編 (東・集英社)	1			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 22.6×14.9	もです。事物を検証・検索する書籍として(論詩・作詩)漢詩家・研究者//	巻四 外題題箋「中等倫理書 巻四」 明治34年刊 蔵書印「高鍋学校印章」表表紙書入「明治三十五年二月城氏寄贈」	H27-06
明倫-5083	日本小歴初歩	天野為之編 (東・小野英之助)	1					和紙袋綴刊本 22.5×14.5	の必携書とされていた。//	下巻 外題題箋「日本小歴史 初歩 下巻」 明治27年刊 巻末書入「佚萩原文蔵所有」の墨書あり(文蔵が消されて「萩原たけよ」の鉛筆書きあり。	H27-06
明倫-5085	(中等教科)東洋史	藤田豊八著 (東・小林義則)	1			明治29刊	1896	和紙袋綴刊本 22.8×14.8		巻一 外題直書「中等教科/東洋史 藤田藤八編集 巻一」 明治29年刊 巻末に「柿原得一」の墨書あり。鉛筆の書入れ多数	H27-06
明倫-5087	日本地誌要略	大堀修二編 (江・稲田佐兵衛等)	1			明治16刊	1883	和紙袋綴刊本 22.4×15.0	日本地誌教科書。大堀修二編、6冊本。明治8年刊。日本を8道84国に分けて地誌を細かく叙述したもの。地誌の叙述のさいにその歴史的成立展開を明らかにしているところに特徴がある。本書は小学校生徒には上級用参考書であり、よい指導教科書であったとみられる。/日本教科書大系/	巻之一 外題無、内題「日本地誌要略」 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H27-06
明倫-5088	日本地誌略	師範学校編輯 (文部省)	2			明治10刊	1887	和紙袋綴刊本 22.3×14.9	4巻。明治7年刊。文部省が師範学校に編纂させた小学校地理の教科書。畿内・東海・道・東山道と9地区に分けて述べる。地誌の内容としては、特に山、河川についての記述が精細である。/日本教科書大系/国史大辞典	在巻1・3 外題題箋5088-2「師範学校編輯/日本地誌略 三」 内題「日本地誌略」 挿絵多数有	H27-06
明倫-5089	日本地理撮要	(江・雁金屋清吉等)	1			明治5刊	1872	和紙袋綴刊本 22.4×15.1		巻二 外題無、内題「日本地理撮要」 明治5年刊 蔵書印「上江小学高鍋」	H27-06
明倫-5090	代数学	山本信実編 (東・出雲寺万次郎等)	4					和紙袋綴刊本 22.2×15.2		上編巻2～4、中編巻1 外題題箋「代数学」(5090-2・3のみ)内題同 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」 「文量師範学校書籍印」(5090-1～3) 5090-4巻末書入「takanabe school book」	H27-06
明倫-5091	小学高等科筆算書	中条澄清著 (寛裕舎)	2			明治20刊	1887	和紙袋綴刊本 18.2×12.2	「小学高等科筆算書」は小学校の筆算教科書。5巻。明治20年出版され、21年3月に訂正再版されている。(M21年4年に文部省検定済)(明倫3098のM21年刊もみよ)	巻4・5 巻頭見返「小学高等科筆算書」 印「柿原」書入「児湯郡新村村/柿原政一郎」など 計算用紙添付	H27-06
明倫-5092	士氏物理小学	士都華氏著 小林六郎訳	1					和紙袋綴刊本 22.7×15.0	士氏物理小学は明治初期の物理の教科書(資料用教科書目録より)＊ステュワート氏原著、小林六郎訳、1887(明治20年)/イギリス、マクミラン社のサイエンス・プライマーズ(Science Primers)シリーズの教科書の1冊、Balfour Stewart、Physics の翻訳/宮城教育大学図書館/資料用教科書目録	巻之二 外題無、内題「改正増補/士氏物理小学」 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」 表表紙見返しに「高鍋学校蔵書」の墨書あり。	H27-06
明倫-5093	学校用物理書	山岡謙介訳 (東・丸屋善七)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 22.4×15.2	学校用物理書は明治初期の物理の教科書。(資料用教科書目録より)山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。＊ロンドンのマクラン社から発刊された「サイエンス・プライマーズ」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜粋したもので、和綴全四冊。//資料用教科書目録	巻之三 外題無、内題「学校用物理書」 巻末刊年、明治14年 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」 書入「高鍋中学校」	H27-06
明倫-5094	学校用物理書附録	山岡謙介訳 小林義直校 (東・丸屋善七)	1			明治14刊	1881	和紙袋綴刊本 22.3×14.9	学校用物理書附録は明治初期の物理の教科書。(資料用教科書目録より)＊学校用物理書は物理の教科書、山岡謙介が翻訳して小林義直が校閲。ロンドンのマクミラン社から発刊された「サイエンス・プライマーズ」(科学初歩)の中から物理学の部分を抜粋したもので、和綴全四冊。//資料用教科書目録	外題無、内題「学校用物理書附録」 巻末刊年、明治14年 蔵書印なし	H27-06
明倫-5095	物理全志	宇田川準一訳 (煙雨樓蔵)	1			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.7×14.9	物理学の教科書。宇田川準一訳。全10冊。外国の物理学書を土台とする本書は参考書としてひろくつかわれた。1878年、文部省はこの本で学ぶための実験機器一式を各師範学校へ下付した。//宮城教育大学図書館	巻1 外題無、巻頭見返「物理全志」(明治8年刊) 明治7年訳者識有り 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H27-06
明倫-5096	化学通	川本幸氏訳述 (静脩堂)	1					和紙袋綴刊本 22.7×15.4		巻一 外題無「化学通」 蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」	H27-06
明倫-5098	百科全書	牧山耕平訳 (文部省)	3			明治6刊	1873	和紙袋綴刊本 22.5×15.1		上下二巻(上巻二冊*同じ本) 外題無、巻頭見返「百科全書/百工応用化学篇/上下」 明治六年刊行 蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」	H27-06
明倫-5099	登高自卑	村松良肅抄輯 (静岡・浪花屋市蔵等)	1					刊本 22.4×15.0		「第五大学区宮崎学校第二十五中学区」の印あり。	H30-05

資料番号	文書名	著者名等	冊数	記載年	記載年西暦	成立年	立年西	形態	備考1	備考2	No.
明倫・5100	(増訂)化学訓蒙	石黒忠眞訳纂 (東・島村利○)	1					和紙袋綴刊本 17.9×12.1		巻之七 外題無、巻頭見返「増訂化学訓蒙」内題同 蔵書印「上江小学高綱」	H27-06
明倫・5101	啓蒙地文学二巻	山田堯扶著 (東・弘文社)	2			明治14刊	1908	和紙袋綴刊本 22.3×15.0		上下二巻 外題無、内題「啓蒙地文学」 世界地図等添付有 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H27-06
明倫・5102	博物新編訳解	(東・雁金屋清吉等)	1					和紙袋綴刊本 18.0×12.4	「博物新編」を日本語に訳編した科学書。大森秀三訳、1869刊。1872年の「小学教則」で窮理(物理)の教科書として示されている。//	巻二之下 外題題箋「博物新編訳解 二下」 蔵書印「明倫堂蔵書印」	H27-06
明倫・5104	人身窮理	松山棟庵 森下岩楠訳 (東・森下岩楠等)	1			明治9刊	1876	和紙袋綴刊本 22.4×15.0	*「初学人身窮理」は医学の教科書。2冊、明治9年刊。小学校の教科書。カットル著の節訳で、松本棟庵、森下岩楠合訳。小学の「養生口授」科の授業の参考書。「生理」科の授業の教科書として用いられた。慶応義塾医学所用の教科書として出版されたが、小学、師範学校でも使われた。//	巻之下 内題「初学人身窮理」 巻末に人体図添付 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H27-06
明倫・5105	生理発蒙	李○氏撰 島村鼎延仲訳 (江・須原屋伊八等)	1					和紙袋綴刊本 22.3×15.1		巻之10・11 外題題箋「生理発蒙」 蔵書印「第五大学区/宮崎学校/第二十五中学区」	H27-06
明倫・5106	泰西農学	緒方懺一訳 (江・紀伊伊屋源兵衛等)	2					和紙袋綴刊本 22.3×15.1	ゾーマス・シ・フレッチャル著 緒方懺一(訳) 原著者はゾーマス・シ・フレッチャル。1867年刊行の翻訳書 (西洋の農業の翻訳紹介?)//	上下二巻 外題題箋「官板/泰西農学 初篇 上」(二篇 下) 「上江小学高綱」の印あり。	H27-06
明倫・5107	小学画学書	文部省編集 (文書局)	1					和紙袋綴刊本 20.0×13.8		全1巻 外題題箋「翻■/小学 画学書 全」内題「小学画学書」 西洋の画法の指導書、絵図見本が多数掲載 蔵書印「第五大学区/高鍋学校/第廿六中学区」	H27-06
明倫・5111	(女子)国語読本	吉田弥平等著 (東・金港堂書籍)	1			明治35刊	1902	和紙袋綴刊本 22.8×14.7	高等女学校の国語課の読本。明治35年文部省検定済み	巻一 外題題箋「女子/国語読本 巻一」内題同 明治35 蔵書印「宮崎県児湯郡高鍋尋常高等小学校印」	H27-06
明倫・5112	小学読本	田中芳男撰 田中胤康編輯 (東・田中胤康)	1			明治8刊	1875	和紙袋綴刊本 22.3×14.8	文部省刊行の児童用の読み物教材(国語)。4巻。明治6年に師範学校から刊されたものを明治7年改正したもの。内容の多くは外国の文章を翻訳したものからなる。1〜3は種々の読み物教材を組み合わせて編集され、4巻は天体・空気・水など理科読本のようになっている。/日本教科書大系/	巻之五 外題直書「小学読本」 表紙書入「島田小学女学有」「明治九年買入」 裏表紙見返しに「明治九年九月買入 代価拾四銭」の墨書あり。	H27-06
明倫・5113	(小学)女子国語読本		2			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 22.6×14.5	国語教科書。明治34年文部省検定済、高等小学校国語科女子児童用。	高等科巻5・7 外題題箋「小学/女子国語読本 高等科」 蔵書印「田邨氏蔵書印」(5113-1のみ)	H27-06
明倫・5114	(国文)中学読本	逸見仲三郎編集 (東・吉川岸七)	1			明治26刊	1893	和紙袋綴刊本 23.2×15.7	* 国語の教科書*逸見仲三郎編『国文中学読本』(明治25年/1892)は尋常中学校国語科教科書//	五の巻上 外題題箋「国文/中学読本 五の巻上」内題同 「日向高鍋城氏図籍」の印あり。	H27-06
明倫・5115	中等国文読本	西田敬止編集 (東・集英堂)	1			明治34刊	1901	和紙袋綴刊本 22.7×15.2	中学校国語の教科書。明治34年文部省検定済み。	巻一 巻頭見返「新撰/中等国文読本」 明治34年刊 蔵書印「高鍋学校印章」書入「明治三十五年二月城氏寄贈」	H27-06
明倫・5118	雑記		1					和紙袋綴写本 24.7×16.0		12丁、題不明 蔵書印無 巻末書入「大塚」など	H27-06
明倫・5124	坤	(大塚氏)	1					和紙袋綴写本 24.9×17.2		外題無(表紙、裏表紙無) 1丁目に「坤」と記載 「字井云・・・」で始まる文章が多く見受けられる。(字井氏講説に關係) 蔵書印「大塚」	H27-06
明倫・5125	文藁	牧山生	1					和紙袋綴写本 25.3×16.4		外題直書「文藁」表紙に著者名「牧山生」 裏表紙欠 書入れ有(朱や墨で推敲か?)	H27-06
明倫・5126	不明		1					写本 24.7×16.1			H30-05
明倫・5128	啓蒙知恵の環	於菟子訳述 (東・和泉屋吉兵衛)	1			明治7刊	1874	和紙袋綴刊本	『啓蒙智恵之環』は明治初期に教科書として用いられた書。爪生寅訳述。全3冊。(明治5刊?)。「小学教則」の「読本読方」科に示された科学読みものの一つ。当時は読み方の授業でも、科学の本が多く使われていた。//宮城教育大学図書館	全三巻 外題直書「啓蒙知恵之環」 明治7年刊 明倫・0797、明倫・0796の英文・漢文の「智環啓蒙」が邦訳されたもの。挿絵入り。	H27-06